

——農業開発総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ——

農業開発総合センター遺跡群Ⅳ

SU WA MU TA
諏訪牟田遺跡

SU WA MAE
諏訪前遺跡

NAN BARA UCHI BORI
南原内堀遺跡

KA ZI YA BORI
加治屋堀遺跡

2007年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



諏訪牟田遺跡縄文時代早期Ⅲ類土器出土状況



諏訪牟田遺跡縄文時代早期Ⅲ類土器 (264)



諏訪牟田遺跡縄文時代早期Ⅲ類土器 (264)



諏訪牟田遺跡埋設土器 (835)



諏訪牟田遺跡埋設土器 (836)



諏訪前遺跡埋設土器 (381)



南原内堀遺跡埋設土器 (65)



埋設土器集合



諏訪前遺跡 1号住居跡



諏訪前遺跡 1号住居跡出土遺物



諏訪前遺跡 1号住居跡出土遺物（線刻土器）

序 文

この報告書は、鹿児島県農業開発総合センター建設に伴って、平成8年度から平成15年度にかけて実施した南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する諏訪牟田遺跡、諏訪前遺跡、南原内堀遺跡及び加治屋堀遺跡の発掘調査の記録です。

諏訪牟田遺跡では、旧石器時代、縄文時代草創期・早期・晩期、弥生時代、古墳時代、古代・中世の遺構・遺物が、諏訪前遺跡では、縄文時代早期・晩期、弥生時代、古墳時代、中世の遺構・遺物が発見されました。

また、南原内堀遺跡・加治屋堀遺跡では、遺構・遺物は少なかったものの、農業開発総合センター遺跡群の中では出土例の少ない縄文時代中期・後期の遺物がまとまって出土しました。

特筆すべきものとしては、諏訪牟田遺跡では、縄文時代草創期の集石遺構や縄文時代晩期の埋設土器、柱穴列、古代・中世の掘立柱建物跡群が発見されています。また、諏訪前遺跡では、縄文時代晩期の土坑群、弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡3軒が発見され、住居内から龍「ドラゴン」を描いた土器片も出土しています。南原内堀遺跡では、ヒスイに似た緑色の石で作られた小玉が出土しています。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査に当たりご協力いただいた県農政部農業開発総合センター整備事務局、南さつま市の関係部局並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 宮 原 景 信



農業センター遺跡群 位置図 (1/5,000)

例 言

- 1 本書は、鹿児島県農業開発総合センター建設に伴う諏訪牟田遺跡、諏訪前遺跡、南原内堀遺跡、加治屋堀遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は鹿児島県南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する。
- 3 発掘調査及び報告書作成は、鹿児島県農政部経営技術課から鹿児島県教育委員会が依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、諏訪牟田遺跡を平成9・10・15年度に、諏訪前遺跡を平成10・11年度に、加治屋堀遺跡を平成15年度に、南原内堀遺跡を平成13・15年度に実施した。
整理作業・報告書作成は平成17・18年度に実施した。
- 5 遺物番号は、通し番号とし、本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
- 6 挿図の縮尺は、基本的に土器は3分の1、大型石器は3分の1、小型石器は原寸とするが、遺物によっては2分の1、4分の1としたものがある。
また、各挿図毎に縮尺を示している。
- 7 本書で用いたレベル数値は、農業開発総合センター整備事務局が提示した工事計画図面に基づく海拔絶対高である。
- 8 発掘調査における図面の作成、写真の撮影は調査担当者が行ったが、一部は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。空中写真撮影は、有限会社ふじたに委託した。
- 9 遺構実測図のトレースは、整理担当者が行った。
- 10 土器の実測・トレースは、整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。
- 11 石器の実測・トレースは、整理作業員の協力を得て整理担当者が行ったが、一部は国際鋳業株式会社、株式会社パスコ、株式会社九州文化財研究所、株式会社埋蔵文化財サポートシステム、大成エンジニアリング株式会社に委託した。
- 12 遺構内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定、樹種同定、火山灰の分析、埋設土器のリン・カルシウムの分析等は、株式会社古環境研究所とバリノサーベイ株式会社に委託した。
- 13 遺物の写真撮影は、鶴田静彦が行った。
- 14 本書の執筆・編集は、中村耕治・鶴田静彦・遠矢勝幸・関明恵・石原田高広・川元禎久・福蘭慶明・湯ノ前尚・藤崎光洋が担当し、執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	中村耕治
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	中村耕治
第Ⅲ章 層位	中村耕治
第Ⅳ章 諏訪牟田遺跡の発掘調査成果	関明恵・川元禎久・福蘭慶明
第Ⅴ章 諏訪前遺跡の発掘調査成果	中村耕治・鶴田静彦・遠矢勝幸・石原田高広
第Ⅵ章 南原内堀遺跡の発掘調査成果	藤崎光洋・石原田高広
第Ⅶ章 加治屋堀遺跡の発掘調査成果	湯ノ前尚・鶴田静彦
- 15 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示活用する予定である。なお、各遺跡の遺物注記の略号は次のとおりである。諏訪牟田遺跡（ノセスム）、諏訪前遺跡（ノセスマ）、南原内堀遺跡（ノセナン）、加治屋堀遺跡（ノセカジ）。

凡 例

	: 煤付着範囲
	: 丹塗り範囲
	: 黒色範囲

目

次

序 文	
報告書抄録	
例 言	
凡 例	
第Ⅰ章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置	2
第2節 周辺遺跡	2
第Ⅲ章 層位	6
第Ⅳ章 諏訪牟田遺跡の発掘調査成果	7
第1節 調査の経過と層位	7
第2節 発掘調査の方法及び概要	10
第3節 旧石器時代の調査	10
(1) 遺物	10
第4節 縄文時代の調査	17
1 縄文時代草創期の調査	17
(1) 遺構	17
(2) 遺物	18
2 縄文時代早期の調査	22
(1) 遺構	22
(2) 遺物	29
3 縄文時代前期・中期・後期の調査	103
(1) 土器	103
4 縄文時代晩期の調査	107
(1) 遺構	107
(2) 遺物	119
第5節 弥生時代・古墳時代の調査	148
(1) 弥生時代	148
(2) 古墳時代	148
第6節 古代・中世の調査	153
(1) 遺構	153
(2) 遺物	179
第7節 小結	184
第Ⅴ章 諏訪前遺跡の発掘調査成果	195
第1節 調査の経過	195
第2節 遺跡の層序	196
第3節 発掘調査の方法及び概要	196
第4節 旧石器時代の調査	196
第5節 縄文時代の調査	200
1 縄文時代早期の調査	200

(1) 遺構	200
(2) 遺物	200
2 縄文時代中・後期の調査	223
(1) 遺物	223
3 縄文時代晩期の調査	227
(1) 遺構	227
(2) 遺物	255
第6節 弥生時代の調査	308
(1) 遺構	308
(2) 遺物	309
第7節 古墳時代の調査	309
(1) 遺物	309
第8節 中世の調査	320
(1) 遺構	320
(2) 遺物	322
第9節 小結	324
第Ⅵ章 南原内堀遺跡の発掘調査成果	329
第1節 調査の経過	329
第2節 調査の方法及び概要と層位	329
第3節 旧石器時代の調査	332
第4節 縄文時代の調査	332
1 縄文時代草創期の調査	332
(1) 遺物	332
2 縄文時代早期の調査	332
(1) 遺物	332
3 縄文時代中期の調査	334
(1) 遺物	334
4 縄文時代晩期の調査	334
(1) 遺物	334
5 縄文時代晩期の調査	344
(1) 遺構	344
(2) 遺物	347
第5節 中世の調査	356
第6節 小結	358
第Ⅶ章 加治屋堀遺跡の発掘調査成果	359
第1節 調査の経過	359
第2節 調査の方法及び概要	359
第3節 縄文時代の調査	363
1 縄文時代の調査	363
(1) 遺構	363
(2) 遺物	363
第4節 小結	366
写真図版	367
あとがき	

第1図	周辺遺跡地図	3
第2図	周辺遺跡資料	4
第3図	周辺遺跡資料	5
第4図	模式柱状図	6

第34図	縄文時代早期土器(12)	42
第35図	縄文時代早期土器(13)	43
第36図	縄文時代早期土器(14)	44
第37図	縄文時代早期土器(15)	45
第38図	縄文時代早期土器(16)	48

諏訪牟田遺跡挿図目次

第1図	諏訪牟田遺跡位置図	7
第2図	地形図及びグリッド配置図	8
第3図	土層図	9
第4図	旧石器時代遺物出土状況図	11
第5図	旧石器時代石器(1)	12
第6図	旧石器時代石器(2)	13
第7図	旧石器時代石器(3)	14
第8図	旧石器時代石器(4)	15
第9図	旧石器時代石器(5)	16
第10図	縄文時代草創期集石遺構	18
第11図	縄文時代草創期遺構配置図及び 遺物出土状況図	18
第12図	縄文時代草創期土器	19
第13図	縄文時代草創期石器(1)	20
第14図	縄文時代草創期石器(2)	21
第15図	縄文時代早期遺構配置図	22
第16図	縄文時代早期土器出土状況図	23
第17図	縄文時代早期石器出土状況図	24
第18図	集石遺構1～6号	25
第19図	集石遺構7・8号	26
第20図	集石遺構9・10号	27
第21図	集石遺構11号	28
第22図	集石遺構内出土遺物	29
第23図	縄文時代早期土器(1)	30
第24図	縄文時代早期土器(2)	31
第25図	縄文時代早期土器(3)	32
第26図	縄文時代早期土器(4)	34
第27図	縄文時代早期土器(5)	35
第28図	縄文時代早期土器(6)	36
第29図	縄文時代早期土器(7)	37
第30図	縄文時代早期土器(8)	38
第31図	縄文時代早期土器(9)	39
第32図	縄文時代早期土器(10)	40
第33図	縄文時代早期土器(11)	41

第39図	縄文時代早期Ⅲ類土器出土状況図	49
第40図	縄文時代早期土器(17)	50
第41図	縄文時代早期土器(18)	51
第42図	縄文時代早期土器(19)	52
第43図	縄文時代早期土器(20)	54
第44図	縄文時代早期土器(21)	55
第45図	縄文時代早期土器(22)	56
第46図	縄文時代早期土器(23)	57
第47図	縄文時代早期土器(24)	58
第48図	縄文時代早期土器(25)	59
第49図	縄文時代早期土器(26)	60
第50図	縄文時代早期土器(27)	64
第51図	縄文時代早期土器(28)	65
第52図	縄文時代早期土器(29)	66
第53図	縄文時代早期土器(30)	67
第54図	縄文時代早期土器(31)	68
第55図	縄文時代早期土器(32)	69
第56図	縄文時代早期土器(33)	70
第57図	縄文時代早期土器(34)	71
第58図	縄文時代早期土器(35)	72
第59図	縄文時代早期土器(36)	73
第60図	縄文時代早期土器(37)	74
第61図	縄文時代早期土器(38)	75
第62図	縄文時代早期土器(39)	76
第63図	縄文時代早期土器(40)	77
第64図	縄文時代早期土器(41)	78
第65図	縄文時代早期土器(42)	79
第66図	縄文時代早期土器(43)	80
第67図	縄文時代早期石器(1)	84
第68図	縄文時代早期石器(2)	85
第69図	縄文時代早期石器(3)	86
第70図	縄文時代早期石器(4)	87
第71図	縄文時代早期石器(5)	88
第72図	縄文時代早期石器(6)	89
第73図	縄文時代早期石器(7)	90
第74図	縄文時代早期石器(8)	91

第75図	縄文時代早期石器(9) ……………	92	第115図	縄文時代晚期石器(7) ……………	137
第76図	縄文時代早期石器(10)……………	93	第116図	縄文時代晚期石器(8) ……………	138
第77図	縄文時代早期石器(11) ……………	94	第117図	縄文時代晚期石器(9) ……………	139
第78図	縄文時代早期石器(12) ……………	95	第118図	縄文時代晚期石器(10) ……………	140
第79図	縄文時代早期石器(13) ……………	96	第119図	縄文時代晚期石器(11) ……………	141
第80図	縄文時代早期石器(14) ……………	97	第120図	縄文時代晚期石器(12) ……………	142
第81図	縄文時代早期石器(15) ……………	98	第121図	縄文時代晚期石器(13) ……………	143
第82図	縄文時代早期石器(16) ……………	99	第122図	縄文時代晚期石器(14) ……………	144
第83図	縄文時代前期～後期土器(1) ……	104	第123図	縄文時代晚期石器(15) ……………	145
第84図	縄文時代前期～後期土器(2) ……	105	第124図	弥生時代出土遺物及び古墳時代 竪穴住居跡内出土遺物 ……………	148
第85図	縄文時代晚期遺構配置図及び 遺物出土状況図 ……………	106	第125図	竪穴住居跡 ……………	149
第86図	埋設土器1号出土状況図 ……………	107	第126図	土坑及び出土遺物 ……………	150
第87図	埋設土器2号出土状況図 ……………	108	第127図	古代・中世遺物出土状況図 ……	151
第88図	埋設土器3号出土状況図 ……………	109	第128図	古代・中世遺構配置図 ……………	152
第89図	埋設土器1・2号実測図 ……………	110	第129図	土坑1～5号検出状況 ……………	153
第90図	埋設土器3号実測図 ……………	111	第130図	土坑6号検出状況 ……………	154
第91図	土坑1～5号検出状況図 ……………	112	第131図	土坑内出土遺物(1) ……………	155
第92図	土坑内出土遺物 ……………	113	第132図	土坑内出土遺物(2) ……………	156
第93図	掘立柱建物跡1・2号 ……………	114	第133図	土坑内出土遺物(3) ……………	157
第94図	柱穴列1～6号 ……………	115	第134図	焼土遺構検出状況 ……………	158
第95図	柱穴列7～14号 ……………	116	第135図	焼土遺構内出土遺物 ……………	158
第96図	縄文時代晚期土器(1) ……………	117	第136図	掘立柱建物跡1・2号 ……………	159
第97図	縄文時代晚期土器(2) ……………	119	第137図	掘立柱建物跡3号 ……………	160
第98図	縄文時代晚期土器(3) ……………	120	第138図	掘立柱建物跡4・5号 ……………	161
第99図	縄文時代晚期土器(4) ……………	121	第139図	掘立柱建物跡6号 ……………	162
第100図	縄文時代晚期土器(5) ……………	122	第140図	掘立柱建物跡7号 ……………	163
第101図	縄文時代晚期土器(6) ……………	123	第141図	掘立柱建物跡8号 ……………	164
第102図	縄文時代晚期土器(7) ……………	124	第142図	掘立柱建物跡9・10号 ……………	165
第103図	縄文時代晚期土器出土状況図 ……	125	第143図	掘立柱建物跡11号 ……………	166
第104図	縄文時代晚期土器(8) ……………	125	第144図	掘立柱建物跡内出土遺物 ……	167
第105図	縄文時代晚期土器(9) ……………	126	第145図	ピット内出土遺物 ……………	168
第106図	縄文時代晚期土器(10) ……………	127	第146図	溝遺構配置図 ……………	174
第107図	縄文時代晚期土器(11) ……………	128	第147図	溝遺構(1) ……………	175
第108図	垂飾 ……………	128	第148図	溝遺構(2) ……………	176
第109図	縄文時代晚期石器(1) ……………	131	第149図	溝遺構(3) ……………	177
第110図	縄文時代晚期石器(2) ……………	132	第150図	溝内出土遺物 ……………	178
第111図	縄文時代晚期石器(3) ……………	133	第151図	古代・中世出土遺物(1) ……………	179
第112図	縄文時代晚期石器(4) ……………	134	第152図	古代・中世出土遺物(2) ……………	180
第113図	縄文時代晚期石器(5) ……………	135	第153図	古代・中世出土遺物(3) ……………	181
第114図	縄文時代晚期石器(6) ……………	136	第154図	古代・中世出土遺物(4) ……………	182

諏訪前遺跡挿図目次

第1図	諏訪前遺跡位置図	195
第2図	地形図及びグリッド配置図	197
第3図	諏訪前遺跡土層図(1)	198
第4図	諏訪前遺跡土層図(2)	199
第5図	1～3号集石遺構	201
第6図	縄文時代早期遺物出土状況	202
第7図	縄文時代早期土器(1)	203
第8図	縄文時代早期土器(2)	205
第9図	縄文時代早期土器(3)	206
第10図	縄文時代早期土器(4)	207
第11図	縄文時代早期土器(5)	208
第12図	縄文時代早期土器(6)	209
第13図	縄文時代早期土器(7)	210
第14図	縄文時代早期土器(8)	211
第15図	縄文時代早期土器(9)	214
第16図	縄文時代早期土器(10)・土製品	215
第17図	縄文時代早期石器(1)	216
第18図	縄文時代早期石器(2)	217
第19図	縄文時代早期石器(3)	218
第20図	縄文時代早期石器(4)	219
第21図	縄文時代早期石器(5)	220
第22図	縄文時代早期石器(6)	221
第23図	縄文時代中期土器(1)	224
第24図	縄文時代中期(2)・後期土器(1)	225
第25図	縄文時代後期土器(2)	226
第26図	縄文時代晩期遺構配置図	227
第27図	1・2・3・4号土坑	229
第28図	2・3号土坑出土遺物	230
第29図	4号土坑出土遺物	231
第30図	5・6・7号土坑及び出土遺物	232
第31図	8・9・10号土坑及び出土遺物	233
第32図	11号土坑及び出土遺物	234
第33図	12号土坑及び出土遺物	235
第34図	13号土坑及び出土遺物	236
第35図	13号土坑出土遺物	237
第36図	14号土坑及び出土遺物	238
第37図	15・16・17号土坑及び出土遺物	239
第38図	18・19号土坑及び出土遺物	240

第39図	20・21・22号土坑・焼土2及び出土遺物	241
第40図	23号土坑及び出土遺物	242
第41図	24・25号土坑及び出土遺物	243
第42図	26号土坑及び出土遺物	244
第43図	27・28号土坑・焼土1・3・4及び出土遺物	245
第44図	土坑内出土石鏃	246
第45図	埋設土器出土状況及び出土状況	250
第46図	掘立柱建物跡1～3号	251
第47図	柱穴列1～8号	252
第48図	縄文時代晩期土器出土状況図	254
第49図	縄文時代晩期土器(1)	255
第50図	縄文時代晩期土器(2)	256
第51図	縄文時代晩期土器(3)	257
第52図	縄文時代晩期土器(4)	258
第53図	縄文時代晩期土器(5)	259
第54図	縄文時代晩期土器(6)	260
第55図	縄文時代晩期土器(7)	261
第56図	縄文時代晩期土器(8)	262
第57図	縄文時代晩期土器(9)	263
第58図	縄文時代晩期土器(10)	264
第59図	縄文時代晩期土器(11)	265
第60図	縄文時代晩期土器(12)	266
第61図	縄文時代晩期土器(13)	267
第62図	縄文時代晩期土器(14)	268
第63図	縄文時代晩期土器(15)	272
第64図	縄文時代晩期土器(16)	273
第65図	縄文時代晩期土器(17)	274
第66図	縄文時代晩期土器(18)	275
第67図	縄文時代晩期土器(19)	276
第68図	縄文時代晩期土器(20)	277
第69図	縄文時代晩期土器(21)	278
第70図	縄文時代晩期土器(22)	279
第71図	縄文時代晩期石器出土状況図	283
第72図	縄文時代晩期石器(1)	284
第73図	縄文時代晩期石器(2)	285
第74図	縄文時代晩期石器(3)	286
第75図	縄文時代晩期石器(4)	287
第76図	縄文時代晩期石器(5)	288
第77図	縄文時代晩期石器(6)	289

第78図	縄文時代晩期石器(7) ……………	290
第79図	縄文時代晩期石器(8) ……………	291
第80図	縄文時代晩期石器(9) ……………	292
第81図	縄文時代晩期石器(10) ……………	293
第82図	縄文時代晩期石器(11) ……………	294
第83図	縄文時代晩期石器(12) ……………	295
第84図	縄文時代晩期石器(13) ……………	296
第85図	縄文時代晩期石器(14) ……………	297
第86図	縄文時代晩期石器(15) ……………	298
第87図	縄文時代晩期石器(16) ……………	299
第88図	縄文時代晩期石器(17) ……………	300
第89図	縄文時代晩期石器(18) ……………	301
第90図	縄文時代晩期石器(19) ……………	302
第91図	縄文時代晩期石器(20) ……………	303
第92図	縄文時代晩期石器(21) ……………	304
第93図	縄文時代晩期石器(22) ……………	305
第94図	縄文時代晩期石器(23) ……………	306
第95図	縄文時代晩期石器(24) ……………	307
第96図	弥生時代竪穴住居跡配置図 ……	308
第97図	1号竪穴住居跡 ……………	309
第98図	1号竪穴住居跡出土遺物(1) ……	310
第99図	1号竪穴住居跡出土遺物(2) ……	311
第100図	1号竪穴住居跡出土遺物(3) ……	312
第101図	1号竪穴住居跡出土遺物(4) ……	313
第102図	1号竪穴住居跡出土遺物(5) ……	314
第103図	2号竪穴住居跡出土遺物 ……	315
第104図	2号竪穴住居跡 ……………	316
第105図	2号竪穴住居跡断面図 ……………	317
第106図	3号竪穴住居跡・出土遺物 ……	318
第107図	弥生時代出土遺物 ……………	319
第108図	古墳時代遺物 ……………	319
第109図	中世遺構配置図 ……………	321
第110図	中世溝状遺構・出土遺物 ……	322
第111図	中世遺物 ……………	323

南原内堀遺跡挿図目次

第1図	南原内堀遺跡位置図 ……………	329
第2図	地形図及びグリッド配置図 ……	330
第3図	土層断面図 ……………	331
第4図	旧石器時代の遺物 ……………	332
第5図	I類土器・II類土器 ……………	332
第6図	縄文早期・中期土器出土状況 ……	333
第7図	III類土器1-1 ……………	336
第8図	III類土器1-2 ……………	337
第9図	III類土器2・IV類土器・V類 土器 ……………	338
第10図	VI類土器・VII類土器1 ……	339
第11図	VII類土器2 ……………	340
第12図	VII類土器3・VIII類土器 IX類土器・X類土器 ……	341
第13図	縄文後期土器出土状況 ……	342
第14図	縄文晩期遺構配置図 ……………	343
第15図	柱穴列 ……………	344
第16図	埋設土器 ……………	345
第17図	XI類土器 ……………	346
第18図	二次加工土製品 ……………	347
第19図	縄文晩期土器出土状況 ……	348
第20図	縄文時代石器Ⅲ層出土状況 ……	349
第21図	縄文時代石器1 ……………	350
第22図	縄文時代石器2 ……………	351
第23図	縄文時代石器3 ……………	352
第24図	縄文時代石器4 ……………	353
第25図	縄文時代石器5 ……………	354
第26図	溝状遺構 ……………	356
第27図	遺跡全体遺物出土状況 ……	357

加治屋堀遺跡挿図目次

第1図	加治屋堀遺跡位置図 ……………	359
第2図	地形図及びグリッド配置図 ……	360
第3図	土層断面図 ……………	361
第4図	遺構検出状況及び遺物出土状況…	362
第5図	掘立柱建物跡・柱穴列 ……	363
第6図	縄文時代の遺物(土器) ……	364
第7図	縄文時代の遺物(石器) ……	365

図 版 目 次

- 巻頭カラー 1
諏訪牟田遺跡・諏訪前遺跡空中写真
巻頭カラー 2
諏訪牟田遺跡 III類土器(レモン形)
巻頭カラー 3
諏訪牟田遺跡・諏訪前遺跡・南原内堀遺跡
埋設土器
巻頭カラー 4
諏訪前遺跡 1 号竪穴住居跡・絵画土器

諏訪牟田遺跡

- 図版 1 遺跡遠景(空中写真) …… 367
図版 2 調査風景他 …… 368
図版 3 埋設土器 1 号 …… 369
図版 4 埋設土器 2 号 …… 370
図版 5 埋設土器 3 号 …… 371
図版 6 縄文時代晩期 掘立柱建物跡・
土坑 …… 372
図版 7 縄文時代晩期 柱穴列 …… 373
図版 8 古墳時代 竪穴住居跡 …… 374
図版 9 古代・中世 掘立柱建物跡 …… 375
図版10 中世 柱穴内遺物 …… 376
図版11 中世 溝状遺構 1～3・5 …… 377
図版12 中世 溝状遺構 4 …… 378
図版13 遺物出土状況 …… 379
図版14 遺構完掘状況 …… 380
図版15 縄文時代早期Ⅱ～Ⅳ類土器 …… 381
図版16 縄文時代早期Ⅲ類土器 …… 382
図版17 縄文時代早期Ⅳ・Ⅴ類土器 …… 383
図版18 縄文時代早期Ⅶ類土器 1 …… 384
図版19 縄文時代早期Ⅶ類土器 2 …… 385
図版20 縄文時代早期Ⅶ類土器 3 …… 386
図版21 縄文時代早期Ⅶ～Ⅺ 類土器 …… 387
図版22 I 類・Ⅲ～Ⅴ・Ⅸ～Ⅺ 類土器 …… 388
図版23 縄文時代晩期土器 XX 類 …… 389
図版24 縄文時代晩期土器 XX・ⅩⅠ 類 …… 390
図版25 縄文時代晩期土器 ⅩⅠ 類他,
古代・中世土師器 …… 391
図版26 古代・中世土師器 …… 392
図版27 旧石器時代石器 …… 393
図版28 縄文時代草創期石器, Ⅲ・Ⅳ層出土
剥片 …… 394
図版29 縄文時代早期・晩期石器
(石鏃・異形石器) …… 395
図版30 縄文時代早期・晩期石器 …… 396
図版31 縄文時代早期・晩期石器(石斧) …… 397
図版32 縄文時代早期・晩期石器
(磨石・敲石・凹石・石皿) …… 398

諏訪前遺跡

- 図版 1 遺構検出状況(空中写真) …… 399
図版 2 縄文時代遺物出土状況等 …… 400
図版 3 縄文時代晩期土坑 …… 401
図版 4 縄文時代晩期埋設土器 …… 402
図版 5 縄文時代晩期掘立柱建物跡 …… 403
図版 6 縄文時代晩期柱穴列 …… 404
図版 7 弥生時代 1 号竪穴住居跡 …… 405
図版 8 弥生時代 2 号竪穴住居跡 …… 406
図版 9 中世溝状遺構 …… 407
図版10 I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類土器 …… 408
図版11 Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ類土器 …… 409
図版12 Ⅳ・Ⅷ類土器 …… 410
図版13 縄文時代早期石器 …… 411
図版14 Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ・Ⅼ類土器 …… 412
図版15 縄文時代晩期土坑内出土遺物 …… 413
図版16 縄文時代晩期土坑内出土遺物
・及び埋設 …… 414
図版17 ⅩⅤ類土器(深鉢形土器 1) …… 415
図版18 ⅩⅤ類土器(深鉢形土器 2) …… 416
図版19 ⅩⅤ類土器(浅鉢形土器 1) …… 417
図版20 ⅩⅤ類土器(浅鉢形土器 2) …… 418
図版21 縄文時代晩期石器 1 …… 419
図版22 縄文時代晩期石器 2 …… 420
図版23 縄文時代晩期石器 3 …… 421
図版24 弥生時代 1 号・2 号住居跡出土
遺物 …… 422
図版25 1 号住居跡出土遺物 …… 423
図版26 1・2 号住居跡出土遺物及び遺物
包含層出土遺物 …… 424

南原内堀遺跡

- 図版 1 土層断面・溝状遺構 …… 425
図版 2 遺物出土状況 …… 426
図版 3 Ⅲ類土器 …… 427
図版 4 Ⅵ・Ⅶ類土器 …… 428
図版 5 Ⅶ類土器 …… 429
図版 6 Ⅶ～Ⅹ類土器 …… 430
図版 7 Ⅶ・Ⅺ 類土器 …… 431
図版 8 Ⅺ 類土器 …… 432
図版 9 旧石器・縄文時代石器 …… 433
図版10 縄文時代石器 …… 434

加治屋堀遺跡

- 図版 1 土層断面・掘立柱建物跡 …… 435
図版 2 縄文時代出土遺物 …… 436

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に到るまでの経過

県農政部農業開発総合センター整備事務局（以下農開総センター整備事務局）は、「鹿児島県総合基本計画」（平成6年）に基づく戦略プロジェクト「食の創造拠点鹿児島の形成」の一環として、鹿児島県農業開発総合センター建設事業を日置市吹上町（大字入来・中之里・湯之浦・和田）南さつま市金峰町（大字大野・代表地番南さつま市金峰町大野諏訪前2935-1番地）内において計画した。このため農開総センター整備事務局は、本事業に先立って、対象地内における埋蔵文化財の有無について県教育庁文化課（平成8年から文化財課以下文化財課）に照会を行なった。これを受けた文化課は平成6年11月に分布調査を実施した。その結果、事業区域内の対象面積1,347,900㎡に10遺跡が存在することが判明した。

分布調査の結果を受けて、県農政部・文化財課・県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）の三者で協議した結果、対象地内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において確認調査を実施することとし、調査は埋文センターが担当した。

確認調査は、平成8・9年度に実施した。確認調査の結果、24遺跡（約10,000㎡）が存在することが明らかになり、建築物予定地及び圃場整備により削除される部分等について記録保存のための本調査を平成15年度まで実施した。

報告書作成のための整理作業は平成15年度からはじめて、平成16年度に日置市（旧日置郡吹上町）に所在する7遺跡の報告書を刊行した。平成17年度に南さつま市（旧日置郡金峰町）に所在する4遺跡について報告書を刊行した。平成18年度は南さつま市金峰町における諏訪牟田遺跡・諏訪前遺跡・南原内堀遺跡・加治屋堀遺跡の報告書刊行をすることとした。

また、平成18年度からは、事業主体者が農開総センター整備事務局から、経営技術課技術管理課に移管された。

第2節 調査の組織

平成18年度	
事業主体者	鹿児島県経営技術課技術管理係
整理主体者	鹿児島県教育委員会
整理責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	所長 上今 常雄 (4～7月)
	所長 宮原 景信 (8～H19・3)
整理企画者	〃 次長兼総務課長 有川 昭人 〃 次長兼 南の縄文調査室長 新東 晃一 〃 調査第一課長 池畑 耕一 〃 主任文化財主事兼調査第一課 第二調査係長 中村 耕治
整理担当者	〃 第二調査係長 中村 耕治 〃 文化財主事 鶴田 静彦 〃 文化財主事 遠矢 勝幸 〃 文化財主事 関 明恵 〃 文化財主事 石原田高広 〃 文化財主事 川元 禎久 〃 文化財主事 福蘭 慶明
事務担当者	〃 総務係長 寄井田正秀 〃 主 事 田之畑美幸
整理指導	鹿児島大学助教授 本田 道輝
報告書作成検討委員会	平成18年12月15日(金) 宮原所長他12名
報告書作成指導委員会	平成18年12月12日(火) 新東次長他9名
企画担当	井ノ上秀文・黒川忠広・横手浩二郎

第3節 調査の経過

諏訪牟田遺跡・諏訪前遺跡・南原内堀遺跡・加治屋堀遺跡は、平成6年度の分布調査により確認されたもので、平成8・9年度の確認調査で旧石器時代から中世までの遺物が出土することが判明した。

本調査は、平成10年度から平成15年度まで、農業大学校用地及び耕種試験場用地の建築物予定地、幹線道路、研究畑で削平される範囲、深さについて実施した。詳細については各遺跡の概要で記す。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

農業開発総合センター建設予定地は南さつま市金峰町大野と日置市吹上町和田・中之里・入来に計画され敷地面積 180㌔と広範囲に及ぶものである。

南さつま市は、平成17年度に加世田市・笠沙町・大浦町・金峰町の1市3町が合併してできたもので、人口約42,000人の市となったものである。

南さつま市金峰町は、西側は東シナ海に面し、中央に金峰山がそびえ、東から西へ山地・シラス台地・低地・海岸砂丘へと続く地勢を示す。また、万之瀬川の支流堀川・境川・岩元川・長谷川が山地や台地を縫うように西流している。これらの河川に開析された谷が発達し、谷に面した台地上に多くの遺跡が存在する。代表的な遺跡としては、縄文時代の阿多貝塚、弥生時代の高橋貝塚・松木藺遺跡、古墳時代の中津野遺跡が知られているが、近年万之瀬川の河川改修に伴う調査で、持鉢松遺跡・芝原遺跡など古代から中世の重要な遺跡も発見されている。

第2節 周辺遺跡

金峰町側は主に耕種試験場関連の計画地であるが、大字は大野で大野原と呼ばれている広大な台地である。遺跡は、大門口遺跡・諏訪前遺跡・諏訪牟田遺跡・尾ヶ原遺跡・馬塚松遺跡・諏訪脇遺跡・宗円堀遺跡・神原遺跡・桜谷遺跡・荒田遺跡・頭無遺跡・頭無迫田遺跡・市堀遺跡・中尾遺跡・南原内堀遺跡・加治屋堀遺跡とほぼ全域にわたって存在し、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世と各時期の遺構・遺物が出土している。

金峰町は古くより発掘調査が行なわれ、県内外で著名な遺跡が多い。阿多貝塚は縄文時代前期を中心とした遺跡で、人骨の出土した上焼田遺跡と共に貝塚を形成する希少な遺跡である。小中原遺跡は旧石器時代・縄文時代早期・古代の遺構・遺物が多く出土した遺跡であるが、現在残っている阿多という地名と同じ「阿多」という文字が刻まれた土師器・須恵器が出土したことで注目された。上水流遺跡では縄文時代中期・後期・晩期の夥しい遺物が出土して

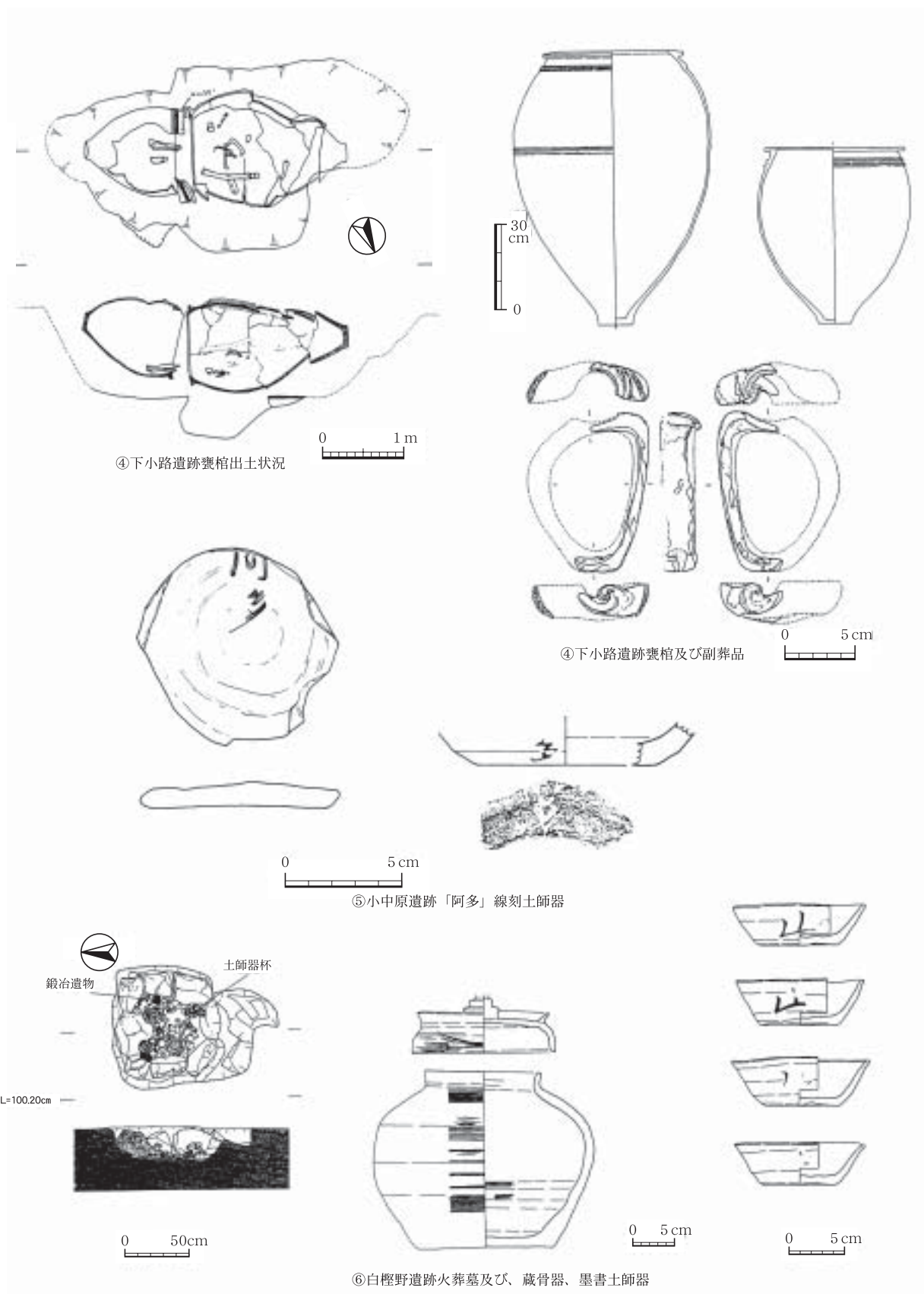
いる。その中には、南島との交流を窺わせる遺物（南島系の土器）も見られる。弥生時代になると遺跡数も増加し内容も豊富になる。下原遺跡は縄文時代から弥生時代への移行期にあたる遺跡で、粃痕の認められる土器片が出土し、早くから稲作が行なわれていたことが窺えるものである。高橋貝塚は下原遺跡に後続するものであるが、弥生時代前期の土器（高橋式）と共に粃痕のある土器片・柱状挟入石器・ノミ形石器・磨製石鎌・磨製石剣・石鎌・石包丁等が出土しており、稲作農耕がいち早く伝わってきたことを物語る遺跡である。また、貝塚を形成することや南海産のゴホウラ貝が出土することから、海洋性に富んでおり南島と北部九州などとの中継地としての位置付けも重要視されている。下小路遺跡では、鹿児島県では数少ない合口甕棺が発見され、弥生時代中期に北部九州との交流があったことが知られる。近年調査された下堀遺跡では、弥生時代中期の集落が確認され、大隅半島から西海岸に分布する間仕切りをもつ竪穴住居跡が当地方にも存在することが知られた。また、中九州や北部九州系の土器が多く出土している点も注目される。松木藺遺跡は、限られた範囲の調査であるが、弥生時代後期の大溝（幅4～5m・深さ3mのV字状）が発見され環状集落の可能性を想定させられる。また、溝中より出土した多量の土器はそれまで希薄だった弥生時代後期の土器編年に欠かせないものである。中津野遺跡からは、弥生時代から古墳時代への移行期にあたる土器群が出土している。万之瀬川改修工事に伴う近年の調査では、持鉢松遺跡・芝原遺跡・渡畑遺跡などから古代・中世の遺構・遺物が数多く発見されている。特に中世の中国製陶磁器が大量に出土しており、南島・中国との交流が大きく取り沙汰されてきている。平成16・17年度の調査では縄文時代後期の足形土製品が渡畑遺跡と芝原遺跡から出土し接合している。荒平古窯跡群は県内でも数少ない古代の須恵器窯で、生産遺跡の研究上欠かせないものである。白樫野遺跡では、石組を伴った墓壇が発見され、その中から土師器の蔵骨器（短頸壺・蓋）と4隅に「山」と墨書された土師器坏と鍛冶滓・轆の羽口2点が出土している。

遺跡地名表（金峰町）

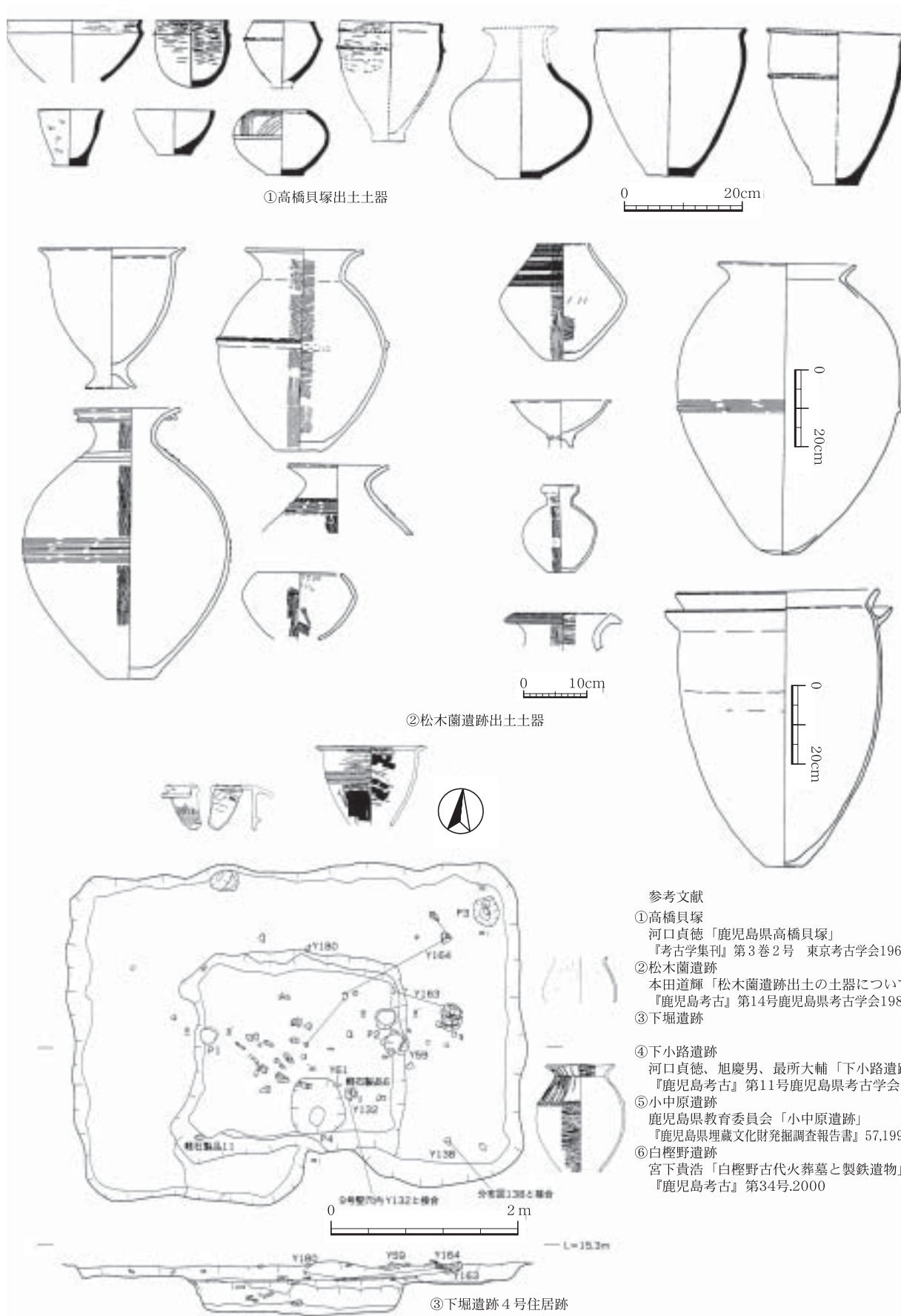
番号	遺跡名	所在地	時代	番号	遺跡名	所在地	時代
1	塚山	大野	古墳	22	寺下	大野	中世
2	大塚	〃	古墳	23	京田	〃	縄文・古墳・中世
3	尾ヶ原	〃	縄文早～晩期・弥生・古墳	24	京田原	〃	古墳
4	諏訪牟田	〃	縄文・古墳・古代・中世	25	鎮守尾	〃	古墳・中世
5	諏訪前	〃	縄文早期・晩期	26	南原 A	〃	縄文中期・後期
6	馬塚松	〃	縄文晩期・中世・近世	27	砂漠	池辺	古墳
7	諏訪脇	〃	縄文早期・晩期・中世	28	小堀	〃	古墳・古代
8	大門口	〃	縄文早期・晩期	29	萩ノ上	〃	古墳
9	宗円堀	〃	旧石器・縄文早期・中世	30	地頭堀	〃	古墳・古代
10	荒田	〃	旧石器・縄文早期	31	塩屋堀	〃	古墳
11	秋場	〃	旧石器	32	玄同堀	〃	古墳・中世
12	桜谷	〃	旧石器・縄文早期・弥生	33	主水堀	〃	弥生・古墳
13	神原	〃	旧石器・縄文早期・古代	34	秋葉下	〃	古墳
14	頭無	〃	縄文早期・古代	35	島田	〃	古墳
15	市堀	〃	縄文早期・中世	36	宮園	〃	古墳・古代
16	頭無迫田	〃	旧石器・縄文早期・中世	37	牟礼ヶ城跡	〃	中世
17	加治屋堀	〃	縄文	38	小城田	〃	縄文
18	中尾	〃	旧石器・縄文草創期・早期	39	本寺	〃	古墳
19	南原内堀	〃	縄文後期・晩期	40	前平	〃	縄文・古墳
20	南原外堀	〃	古墳・古代	41	宮の前	〃	縄文・古代
21	原口	〃	古墳・古代				



第1図 周辺遺跡（吹上町）



第2図 周辺遺跡資料（1）



第3図 周辺遺跡資料(2)

第Ⅲ章 層位

I 層 灰 黒 色	農業開発総合センター予定地は、日置郡金峰町と吹上町にまたがる南北2km、東西1.5kmの広大な範囲に及ぶ。地形も標高86mから13mと高低差があり、山・台地・沖積地・開析谷と変化に富んでいる。そのために、それぞれの地点で層位が異なっている。第4図は台地部分の標準的な地層の模式図である。
II 層 黒 色	
III 層 黄橙色火山灰	
IV 層 黄 褐 色	また、以下の各層の説明も標準的なものである。
V 層 黒 褐 色	I 層 灰黒色土 現在の耕作土。白色の小軽石を含むことによってII層との区別が可能である。地点によってはa・b・cの3層に細分できる。I c層は黒色に近い色調であるが、3mm大の白色軽石が混在している。中世末から近世初めの層である。
VI 層 暗黄褐色火山灰	I 層の平均的な厚さは20cm程度であるが、圃場整備により削除されたり、盛り土されたりしており一定ではない。
VII 層 明茶褐色	II 層 黒色土 弥生時代・古墳時代・奈良時代～鎌倉時代の遺物包含層である。圃場整備により削除されている部分が多いが、谷の部分などを中心に良好に残存している。層厚10～30cm。
VIII 層 茶褐色粘質	III 層 黄橙色火山灰土 鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰（B P 6400年）とその腐植土である。上位（III a層）はII層との漸位層であり、やや黒色を帯びる。縄文時代晩期及び弥生時代前期の遺物包含層である。中位（III
IX 層 暗茶褐色粘質	
X 層 黄 橙 色 シルト質	
XI 層 白色シラス	

第4図 模式柱状図

b層）は縄文時代前期から後期の遺物包含層である。下位（III c層）はアカホヤ火山灰の一次堆積と考えられるが残存状況は悪く、IV層との境目が明瞭ではない。層厚30～40cm。

IV層 黄褐色土

III層と類似するが、より褐色味を帯び粘質である。縄文時代早期の遺物包含層で層厚20～30cm。

V層 黒褐色土

硬質でよくしまる。2～3cm大の黄橙色のパミスが混入する。縄文時代早期の遺物包含層で層厚30cm。

VI層 暗黄橙色火山灰土

桜島起源の薩摩火山灰（B P 11,500年）である。非常に薄くブロック状に堆積している。層厚は厚い所で15cm程度堆積している。

VII層 明茶褐色土

粘質土であるが、火山灰の混入によるザラついた感触をもつ。縄文時代草創期の遺物包含層で層厚10cm。

VIII層 茶褐色粘質土

いわゆるチョコ層である。粘質が強く含水率が高い。旧石器時代から縄文時代草創期の遺物包含層である。層厚10cm。

IX層 暗茶褐色粘質土

VIII層とほとんど同じ土質であるが、VIII層に比べてやや褐色土味を帯び、シルト質化している。旧石器時代の遺物包含層である。層厚30cm。

X層 黄橙色シルト質（シラス質）

シラスの腐食したもので、5cm大の黄色軽石を含む。上位は旧石器時代（ナイフ形石器文化）の遺物包含層である。層厚80cm。

XI層 白色シラス

始良カルデラ起源のシラス（B P 24,500年）である。近辺の露頭では十数mの堆積が見られる。

尾ヶ原遺跡も標準的な地層であるが、傾斜地及び丘陵の裾部においてはII層・III層等の上層部が消失しており、表土を剥ぐと縄文時代早期の遺物包含層になる傾向がみられた。下方の平坦面においては上層からよく残り古代・古墳時代・縄文時代晩期の遺構・遺物がよく残っている。

第Ⅳ章 諏訪牟田遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の経過と層位

諏訪牟田遺跡は、平成9～11年度、13年度に本調査を実施した。本調査は耕種試験場本館及び付帯施設建設地、幹線道路、園池部分に相当する範囲を対象とした。

1 平成11年度日誌抄

4月 調査開始。環境整備。

H～I-1～2区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ縄文晩期埋設土器出土。中世溝状遺構検出。

5月 H～I-1～2区Ⅲ～Ⅳ層平板遺物取り上げ。X・Y-22・23・24区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ。平板遺物取り上げ。埋設土器撮影・断面実測。浅鉢土器出土、断面実測。

Ⅳ層掘り下げ。縄文時代早期遺物出土。柱穴列・土坑検出、写真撮影、実測。

6月 Y-22～24区掘り下げ、遺物取り上げ、遺構実測。

7月 Y-22～24区、Z-24区Ⅳ層検出、遺構実測（土坑・集石）。

8月 X～Y-21～22区・V～W-20～25区表土剥ぎ、掘り下げ、遺物取り上げ。縄文時代早期・縄文晩期土器出土。溝状遺構検出（古代～中世）。

9月 掘立柱建物跡（三面庇）、土坑、古墳時代住居検出。

10月 縄文時代晩期埋設土器、前平式土器出土。

竪穴住居跡実測。X～Z-19・20区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ。掘立柱建物跡4棟（中世・古代うち1棟三面庇）検出、実測。

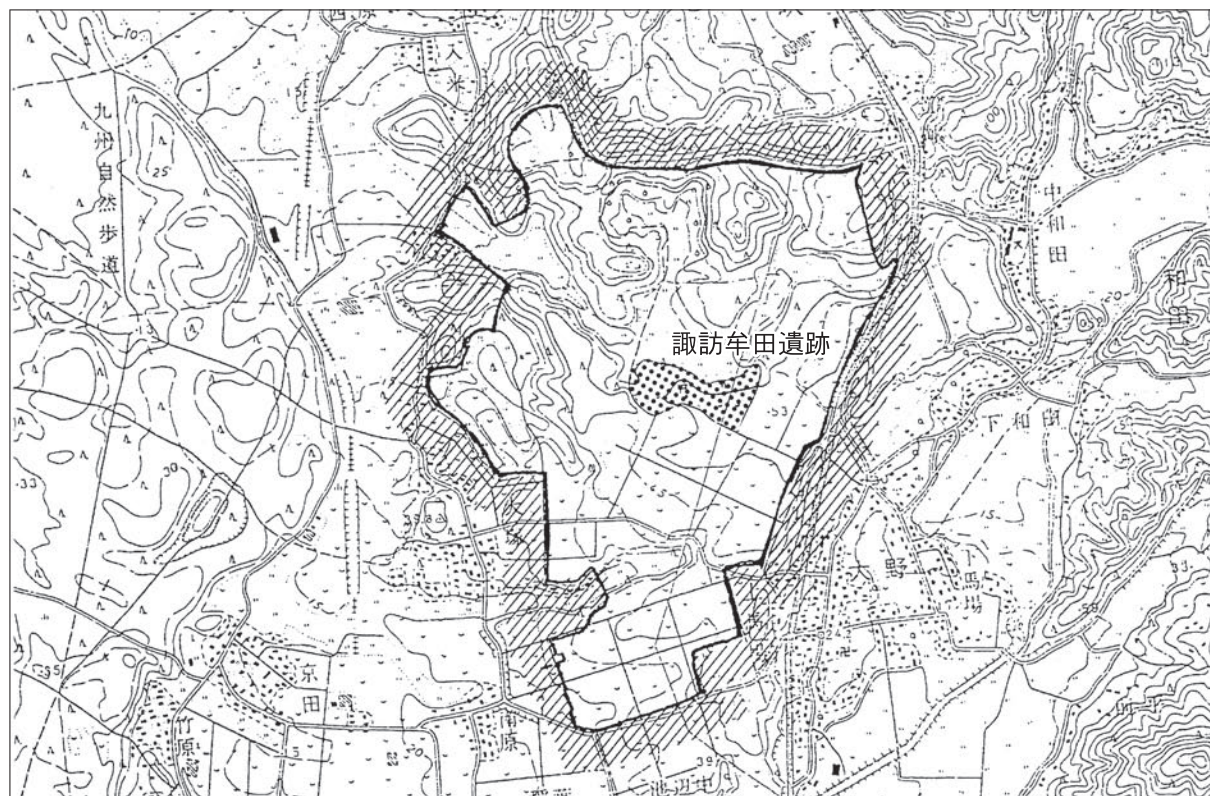
11月 X～Y-21～22区Ⅳ層掘り下げ、平板実測、遺物取り上げ。

W-20区Ⅵ～Ⅶ層掘り下げ。縄文時代草創期の遺物・遺構が出土。（隆帯文土器・無文土器・集石検出）。土田先生現地指導。

12月 W-19区柱穴内より青磁器（鎬蓮弁文「王」もしくは「玉」の文字が読める）出土。写真撮影、遺物取り上げ。幹線道路建設予定部分のⅣ～Ⅴ層掘り下げ。

1月 埋設土器取り上げ、柱列完掘。

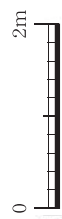
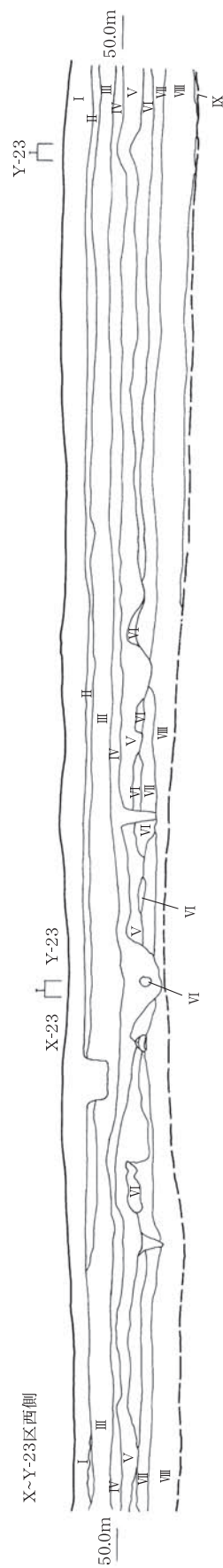
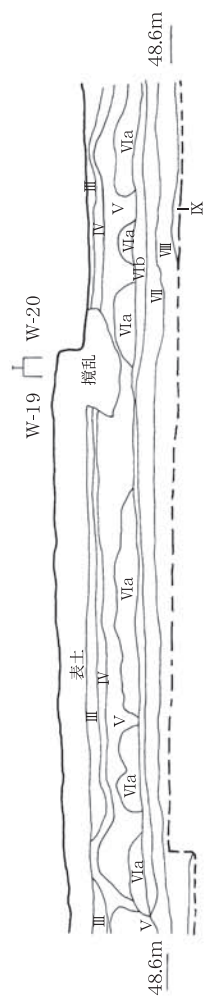
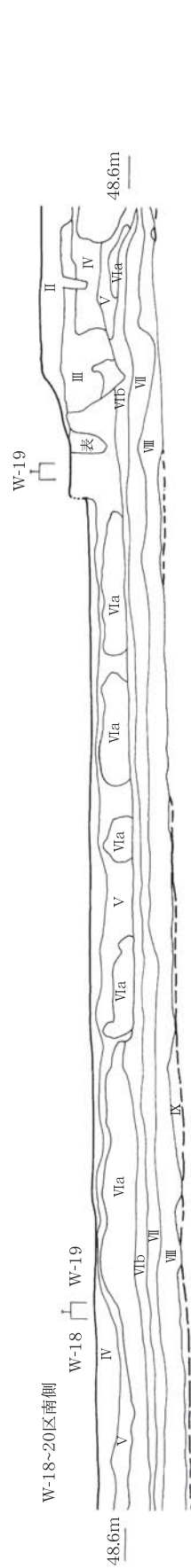
2月 焼土3基掘り下げ、実測。Ⅲ～Ⅳ層遺物取り上げ、縄文時代草創期遺物取り上げ。



第1図 位置図（1/25,000）



第2図 地形図及びグリッド配置図（1グリッド：20m）



第3図 土層図

- 3月 X-20区先行トレンチ掘り下げ，下層確認。
X～Y-17～18区Ⅱ～Ⅲ層遺物取り上げ。航空写真。
平成12年度日誌抄
- 4月 X～Y-23～24区Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ，表土剥ぎ。
- 5月 Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ。集石写真撮影・実測。
- 6月 Ⅴ層集石検出・実測。掘り下げ，遺物取り上げ。
- 7月 排水路内掘り下げ作業。土坑検出・実測・写真撮影。引き渡し。

2 層序

主な時代と包含層，遺構・遺物は以下の通りである。

- ・平安時代～中世（Ⅱ層）
 - 掘立柱建物跡・溝・土坑・焼土
 - 土師器・須恵器・陶磁器類
- ・弥生時代～古墳時代初期（Ⅱ層）
 - 竪穴住居
 - 土器・石器
- ・縄文時代晩期（Ⅱ～Ⅲ層）
 - 掘立柱建物跡・柱列・土坑
 - 土器・石器・装飾品
- ・縄文時代早期（Ⅳ～Ⅴ層）
 - 集石
 - 土器・石器
- ・縄文時代草創期（Ⅶ層）
 - 集石
 - 土器・石器
- ・旧石器（Ⅶ層）
 - 石器・剥片

第2節 発掘調査の方法及び概要

諏訪牟田遺跡は大野原台地の中央部北側に位置し，標高49mを測る。北側は約20mの比高差で谷に落ち込み，南側は大野原台地が大きく開ける。西側は小高い丘になっており，それを背景に諏訪神社（南方神社）が建っている。諏訪前・諏訪脇・馬塚松遺跡が隣接する。

調査はⅠ層を重機により除去し，Ⅱ～Ⅹ層上面（Ⅹ層は下層確認の為）までを人力で行った。

Ⅱ層からは平安時代～中世の溝・掘立柱建物跡・土坑・焼土が検出され，土師器・須恵器・青磁などが出土した。また，弥生時代末～古墳時代初期の竪穴住居跡も検出され，それに伴い，土器・石器類が出土している。Ⅲ層上面からは，中世の掘立柱建物跡が溝状遺構と平行する形で検出されており，周囲から「王」または「玉」の字のある青磁（宋?）も出土している。このような遺構は農業センター遺跡群の他遺跡との関連が注目される。同じくⅢ層からは縄文時代晩期の土坑・柱列・掘立柱建物跡（1間×1間）・埋設土器など，豊富な遺構が検出され，大量の土器や石器類が出土している。Ⅳ層上面からは縄文早期の集石が11基検出され，大量の土器や石器が出土している。Ⅶ層からは縄文時代草創期の土器や集石，旧石器時代の石器類がまとまった形で出土している。

第3節 旧石器時代の調査

旧石器時代の遺物の総数はホルンフェルス，黒曜石，鉄石英，頁岩等を中心に約200点を超えた。W～X-19～20区に遺物が集中しているが，ブロックを形成しない。数は少ないが，接合資料においてホルンフェルスの石材選択が顕著であった事に注目したい。この傾向は農業センター遺跡群頭無迫田遺跡（2007年度刊行予定）と同様であり，両遺跡の関連について今後の検討が待たれる。なお，本遺跡におけるホルンフェルスは以下の4つに分類できる。

ホルンフェルスⅠ－黄褐色で精製が緻密である。

ホルンフェルスⅡ－やや灰褐色を含む黄褐色で砂粒質である。

ホルンフェルスⅢ－灰褐色で白色の縞模様を含む。

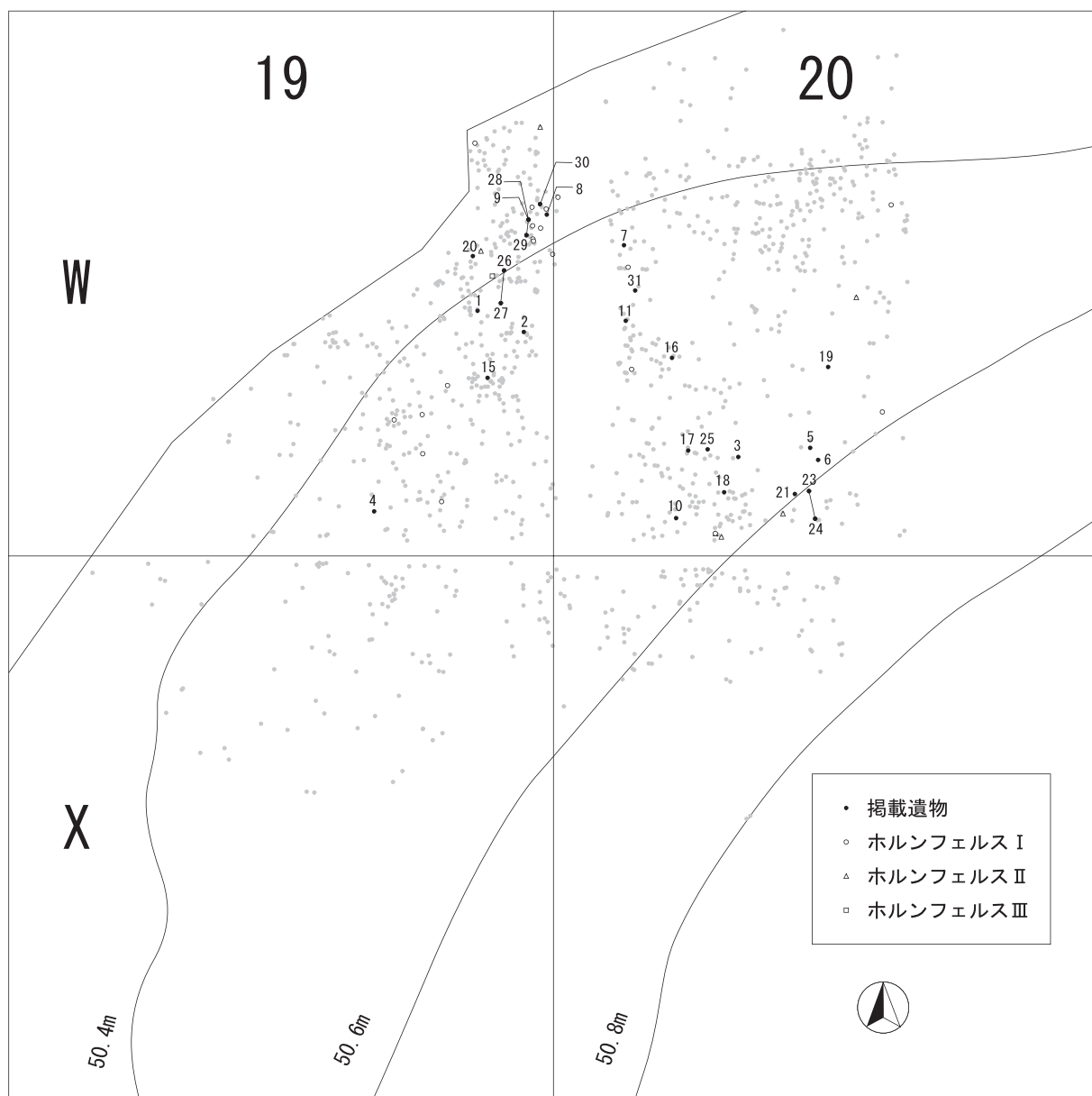
ホルンフェルスⅣ－灰褐色で白色の縞模様を含む。風化が進行しており，もろい。

(1) 遺物

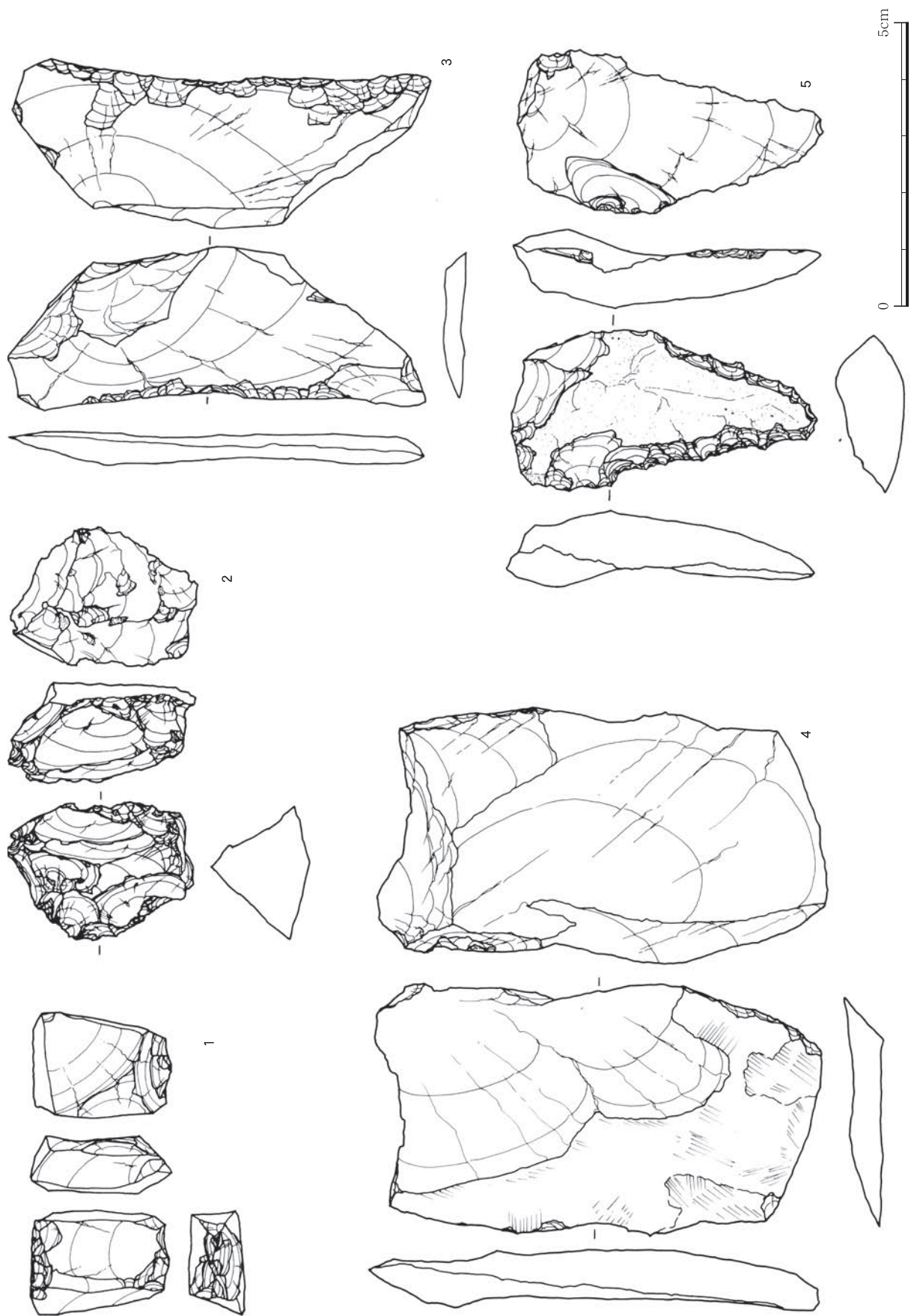
石器（第5図～9図 1～31）

楔形石器・削器（第5図・6図 1～11）

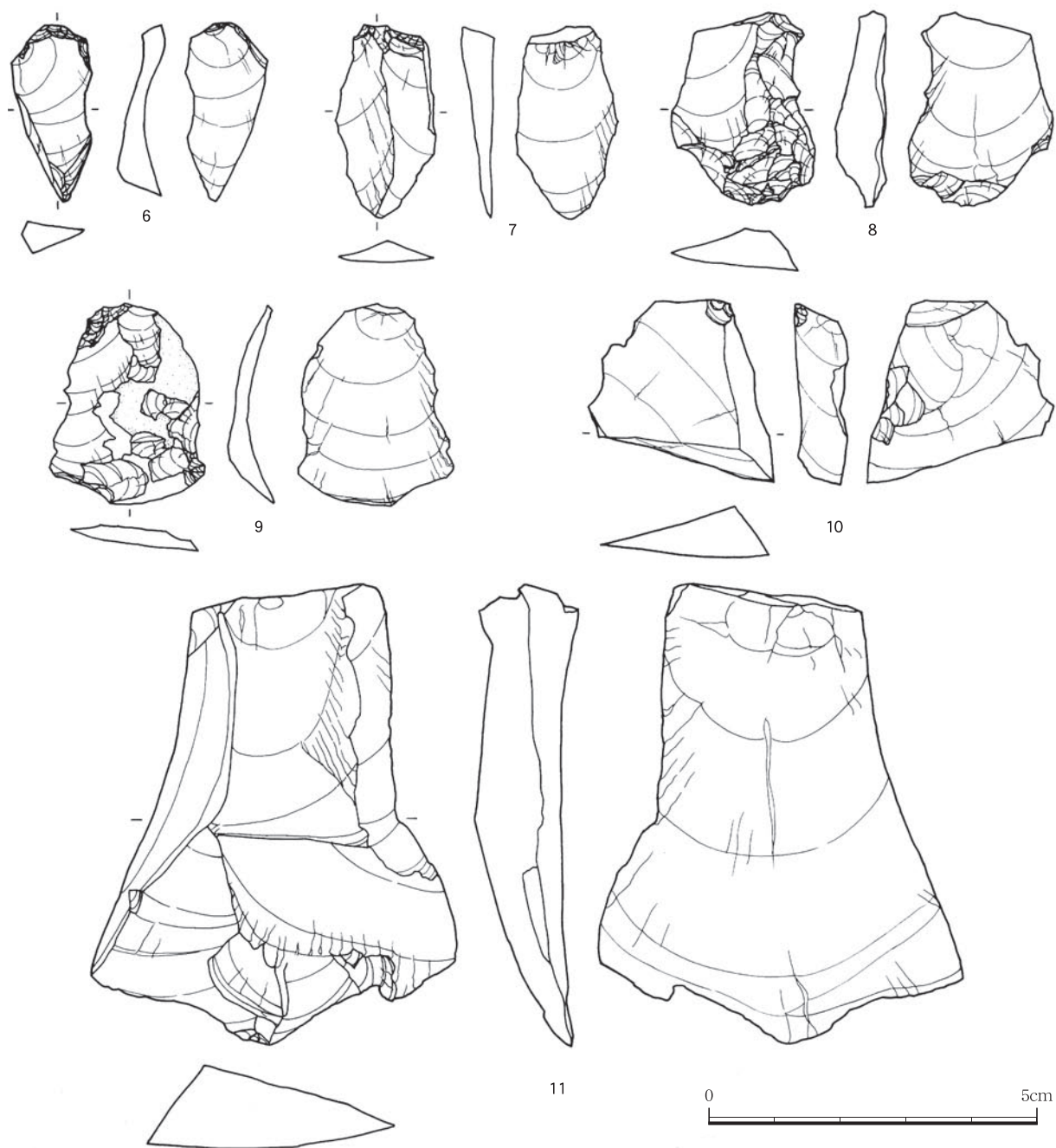
1は本報告書において分類したホルンフェルスⅠ製の楔形石器である。2～5は縦長の剥片を利用し



第4図 旧石器時代出土状況（1グリッド：20m）



第5図 旧石器時代石器（1）



第6図 旧石器時代石器（2）

た削器である。2は三稜尖頭器の欠損後、再利用されたものと考えられる。3・4はやや風化したホルンフェルスIV製の片刃の削器である。3は大剥離面を利用し頭部調整が見られる。左側縁部に丁寧な二次加工が施され、刃部を形成している。

5は鉄石英製で、打面は大剥離面を利用し、正面に自然面を残したまま、剥離された先細りの剥片を利用している。頭部調整が観察され、両側縁部に鋸

歯状の二次加工が施されている。

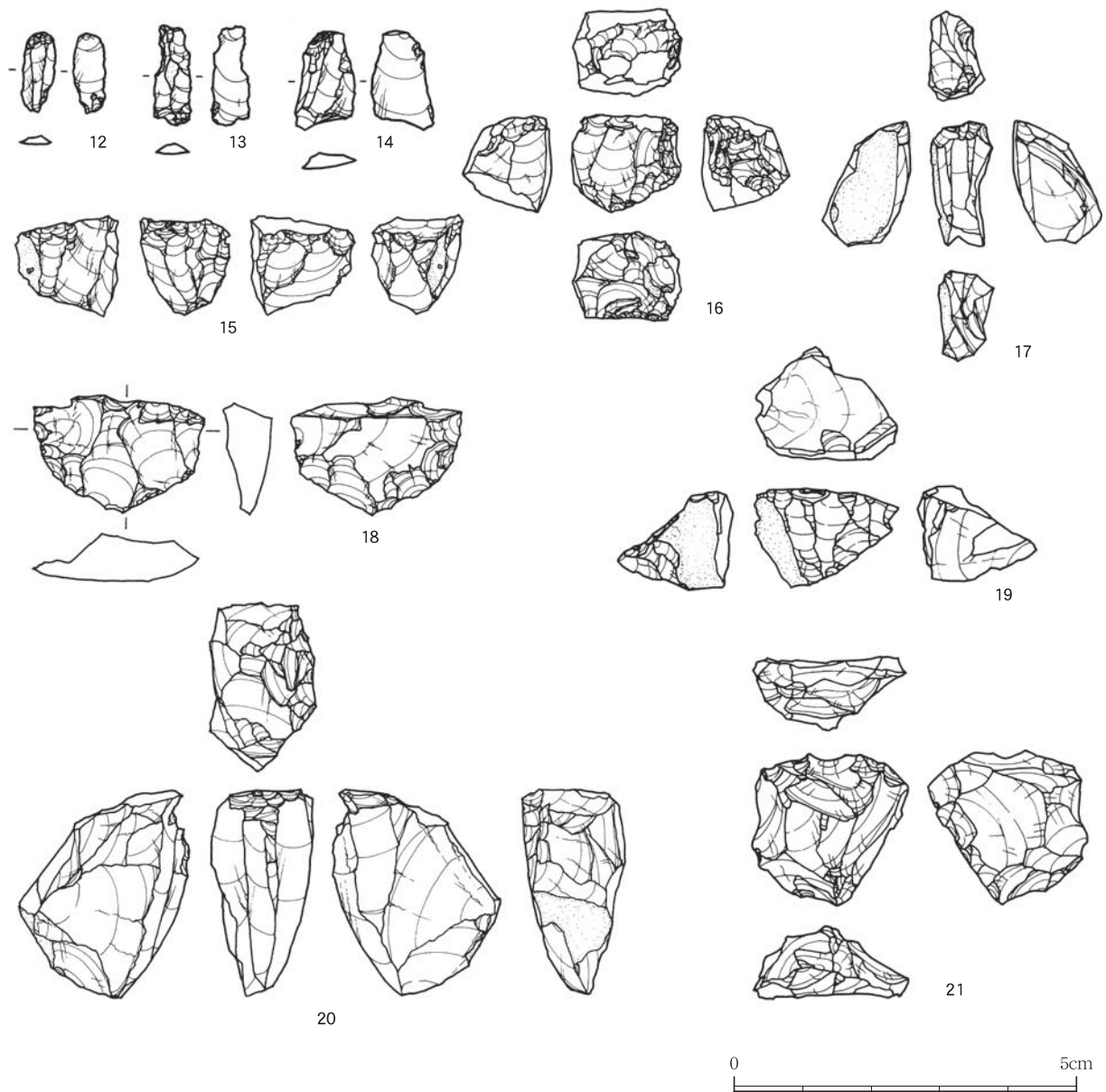
6～11は剥片である。6は頁岩4製である。

ホルンフェルスⅠ－7～10

ホルンフェルスⅢ－11

細石刃（第7図 12～14）

12～14は細石刃である。点数はわずかだが、細石刃核との共伴が確認できた。13は樋脇町上牛鼻産に類似（黒曜石C）し、風化が激しい。



第7図 旧石器時代石器（3）

細石刃核（第7図 15～21）

15～21は細石刃核である。石材は黒曜石C・J・Kや頁岩を選択している。（参照：P 83・87）

検出された細石刃核は以下の4つに分類できる。

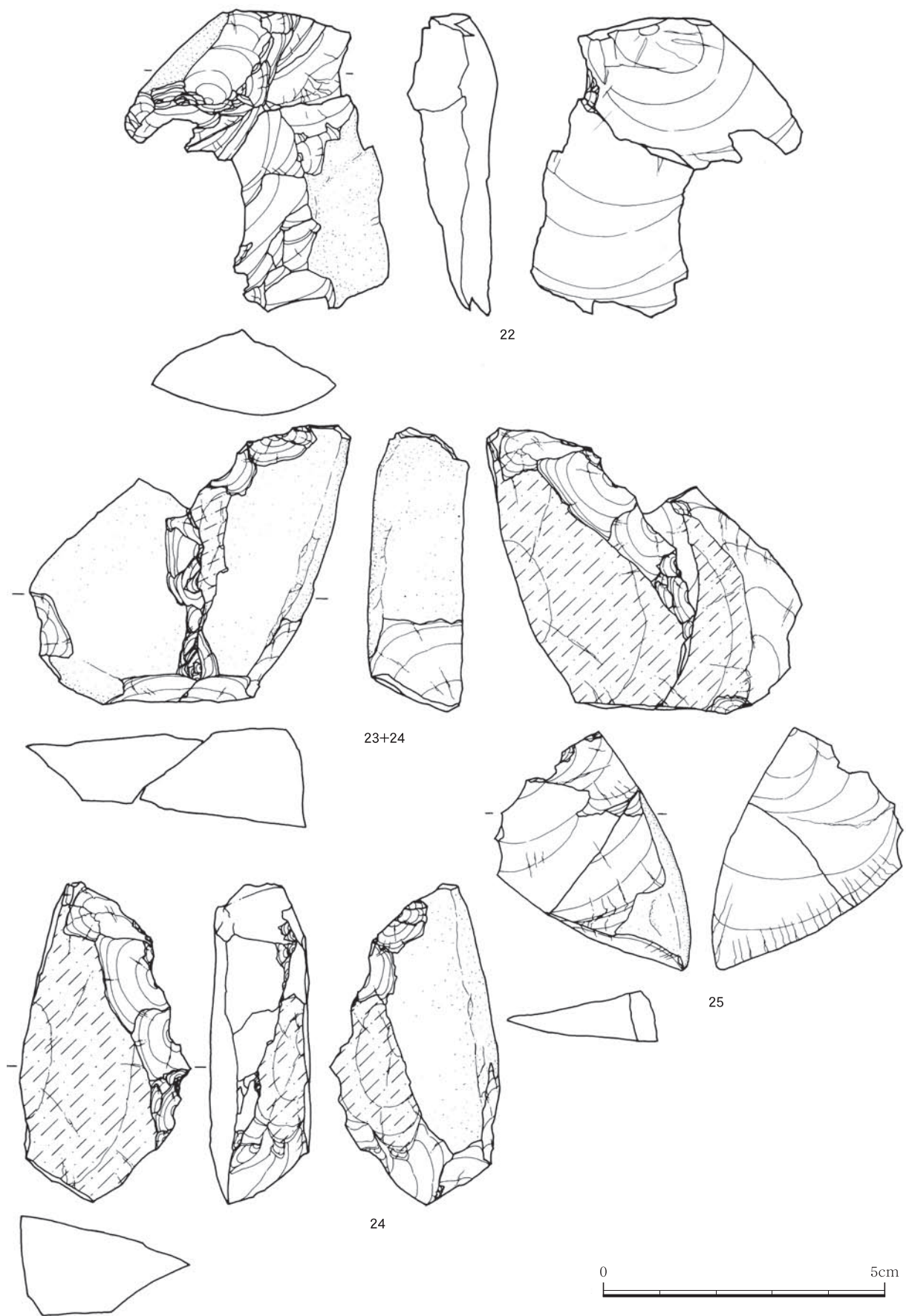
I類—分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら細石刃剥離作業を行う。作業面は1面で進行する。作業面の長さが幅よりも小さくなり、結果作業面が横長となる。打面はあまり傾斜せず、水平に近い。15・16が該当。

II類—分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら

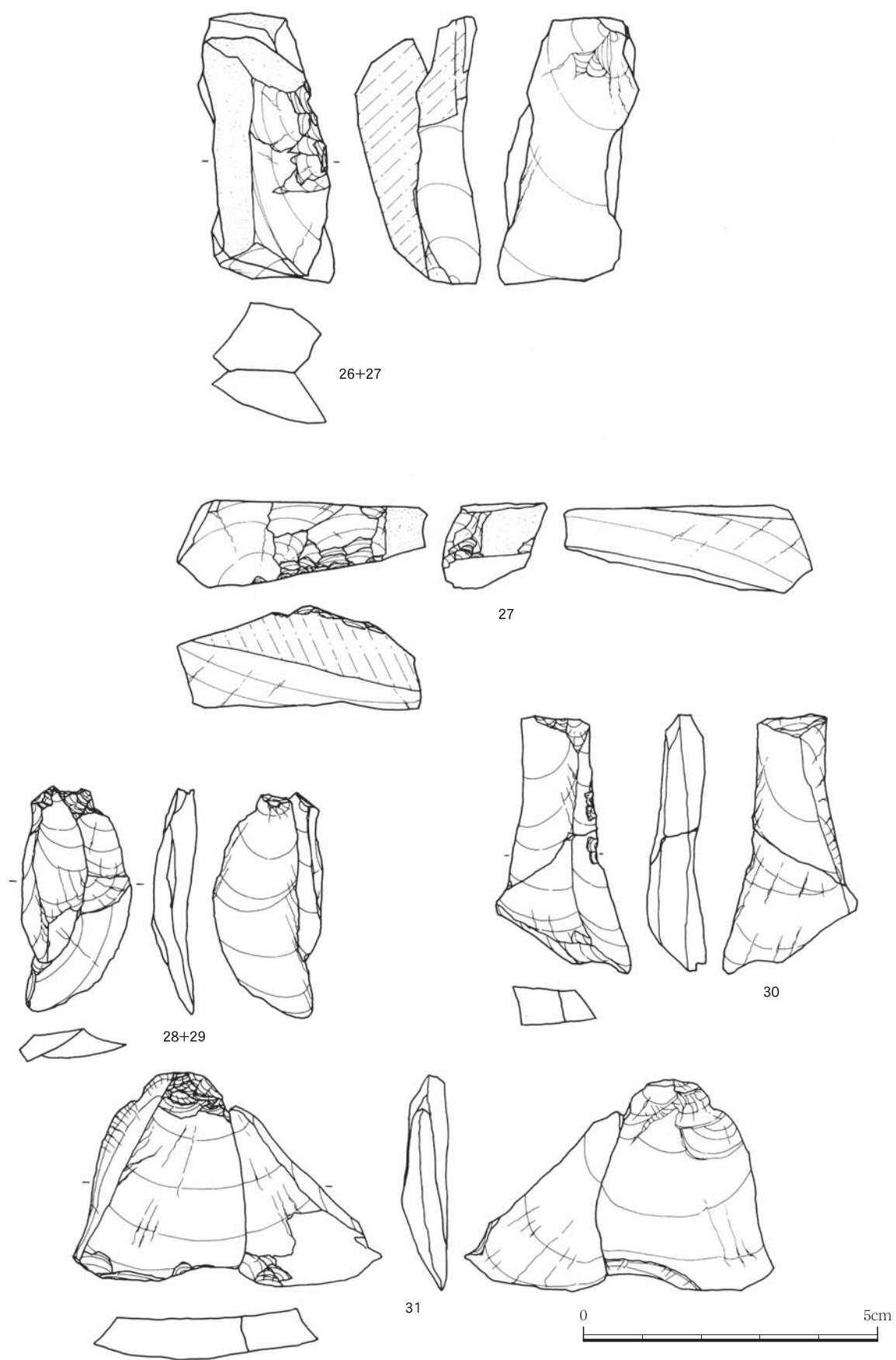
ら細石刃剥離作業を行う。作業面は1面で進行する。作業面の長さと幅はほぼ同じである。打面がやや傾斜し、やや扁平となる。18が該当。

III類—分割面を打面に設定し、打面調整を施しながら、細石刃剥離作業を行う。作業面が周囲に廻るため、正面観が逆三角形を呈し、全体が円錐形を呈する。19が該当。

IV類—分割面を打面とし、打面調整を施しながら、細石刃剥離作業を行う。打面が長いため、船



第8図 旧石器時代石器（4）



第9図 旧石器時代石器（5）

底状を呈する。17・20が該当。

接合資料・削器（第8図・9図 22～31）

ホルンフェルスⅠ：22～24・26～30

ホルンフェルスⅡ：25

ホルンフェルスⅢ：31

23+24は節理面と自然面を大きく残す。24は削器で正面・背面に節理面を残し、右側縁部に刃部形成のための剥離を施している。27も削器で下部に刃部形成のための微細な剥離を施している。

22・25・30・31は作業中の剥落時に破損したものと思われる。

第4節 縄文時代の調査

1 縄文時代草創期の調査

縄文時代草創期はⅥ～Ⅶ層に該当し、Ⅴ～Ⅹ－19～20区に集中する。台地の平坦部に礫群1基、遺物が多数出土した。

(1) 遺構

礫群1（第10図）

ほぼ平らな面に設置されている。礫群の中心主体部が残存したと思われる、比較的小さい礫を使用しているのが特徴。中心部に礫がなく、周辺の礫が中心に向かって長軸をのばしている。10～20cmの凝灰岩を基礎部分とし、上部に3～7・8cmの砂岩・頁岩をのせている。基礎部分の凝灰岩の焼成が著しい。砂岩製の円礫は磨面と敲打痕が観察できるため、磨石・敲石と思われる。頁岩は焼成のため破碎したと思われる、鋭利な側縁部を形成している。保存処理を行い、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管しているため、観察が可能である。

旧石器時代 石器観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
						cm	cm	cm	g	
第5図	1	W-19	Ⅶ	ピエスエスキュー	ホルンフェルスⅠ	2.5	1.8	1.0	6.2	
	2	W-19	Ⅶ	スクレイパー	黒曜石A	3.2	2.3	1.7	10.8	
	3	W-20	Ⅶ	スクレイパー	ホルンフェルスⅣ	7.2	2.5	0.6	9.3	
	4	W-19	Ⅶ	スクレイパー	ホルンフェルスⅣ	8.0	4.4	0.8	28.6	
	5	W-20	Ⅶ	スクレイパー	鉄石英	5.3	2.5	1.0	15.9	
第6図	6	W-20	Ⅶ	剥片	頁岩4	2.8	1.2	0.6	1.3	
	7	W-20	Ⅶ	剥片	ホルンフェルスⅠ	3.0	1.5	0.5	1.7	
	8	W-19	Ⅶ	剥片	ホルンフェルスⅠ	2.8	2.2	0.7	3.2	
	9	W-19	Ⅶ	剥片	ホルンフェルスⅠ	3.1	2.2	0.4	2.9	
	10	W-20	Ⅶ	二次加工剥片	ホルンフェルスⅠ	2.6	2.6	0.8	5.2	
第7図	11	W-20	Ⅶ	剥片	ホルンフェルスⅢ	7.0	5.6	1.3	38.1	
	12	X-20	Ⅶ	細石刃	黒曜石E	1.1	0.5	0.1	0.06	
	13	X-20	Ⅶ	細石刃	黒曜石C	1.4	0.54	0.29	0.14	
	14	X-19	Ⅶ	細石刃	玉髓1	1.4	0.88	0.29	0.27	
	15	W-19	Ⅶ	細石刃核	黒曜石K	1.4	1.3	1.4	2.4	
	16	W-20	Ⅶ	細石刃核	黒曜石C	1.4	1.6	1.3	3.3	
	17	W-20	Ⅶ	細石刃核	黒曜石J	1.9	0.9	1.0	1.7	
	18	W-20	Ⅶ	細石刃核	玉髓	2.2	2.2	1.0	4.1	
	19	W-20	Ⅶ	細石刃核	頁岩3	1.6	2.4	0.6	2.3	
	20	W-20	Ⅶ	細石刃核	頁岩3	1.4	2.1	1.7	3.0	
第8図	21	W-20	Ⅶ	細石刃核	頁岩1	2.9	1.4	2.3	10.2	
	22	—	—	接合試料	ホルンフェルスⅠ	5.4	4.8	1.6	23.1	
	23+24	W-20	Ⅶ	接合試料	ホルンフェルスⅠ	4.7	5.3	1.7	52.4	剥片+スクレイパー
	24	W-20	Ⅶ	スクレイパー	ホルンフェルスⅠ	5.6	3.0	1.8	34.7	
第9図	25	W-20	Ⅶ	接合試料	ホルンフェルスⅡ	3.9	3.3	0.9	12.8	
	26+27	W-19	Ⅶ	接合試料	ホルンフェルスⅠ	4.6	1.9	2.0	19.1	剥片+スクレイパー
	27	W-19	Ⅶ	スクレイパー	ホルンフェルスⅠ	1.5	4.1	1.5	9.9	
	28+29	W-19	Ⅶ	接合試料	ホルンフェルスⅠ	3.8	1.8	0.6	3.2	剥片+剥片
	30	W-19	Ⅶ	接合試料	ホルンフェルスⅠ	4.3	2.1	0.7	6.5	
	31	W-20	Ⅶ	接合試料	ホルンフェルスⅢ	3.4	5.2	0.8	9.9	
平均						3.4	2.5	1.0	10.7	

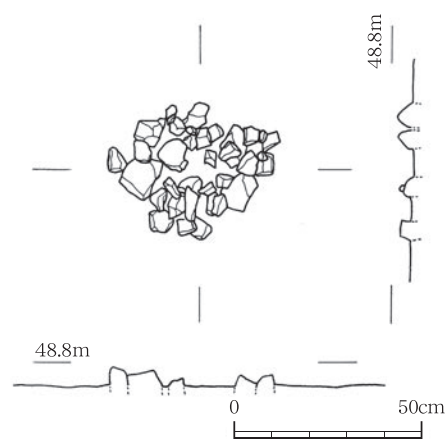
(2) 遺物

①土器（第12図 32～48）

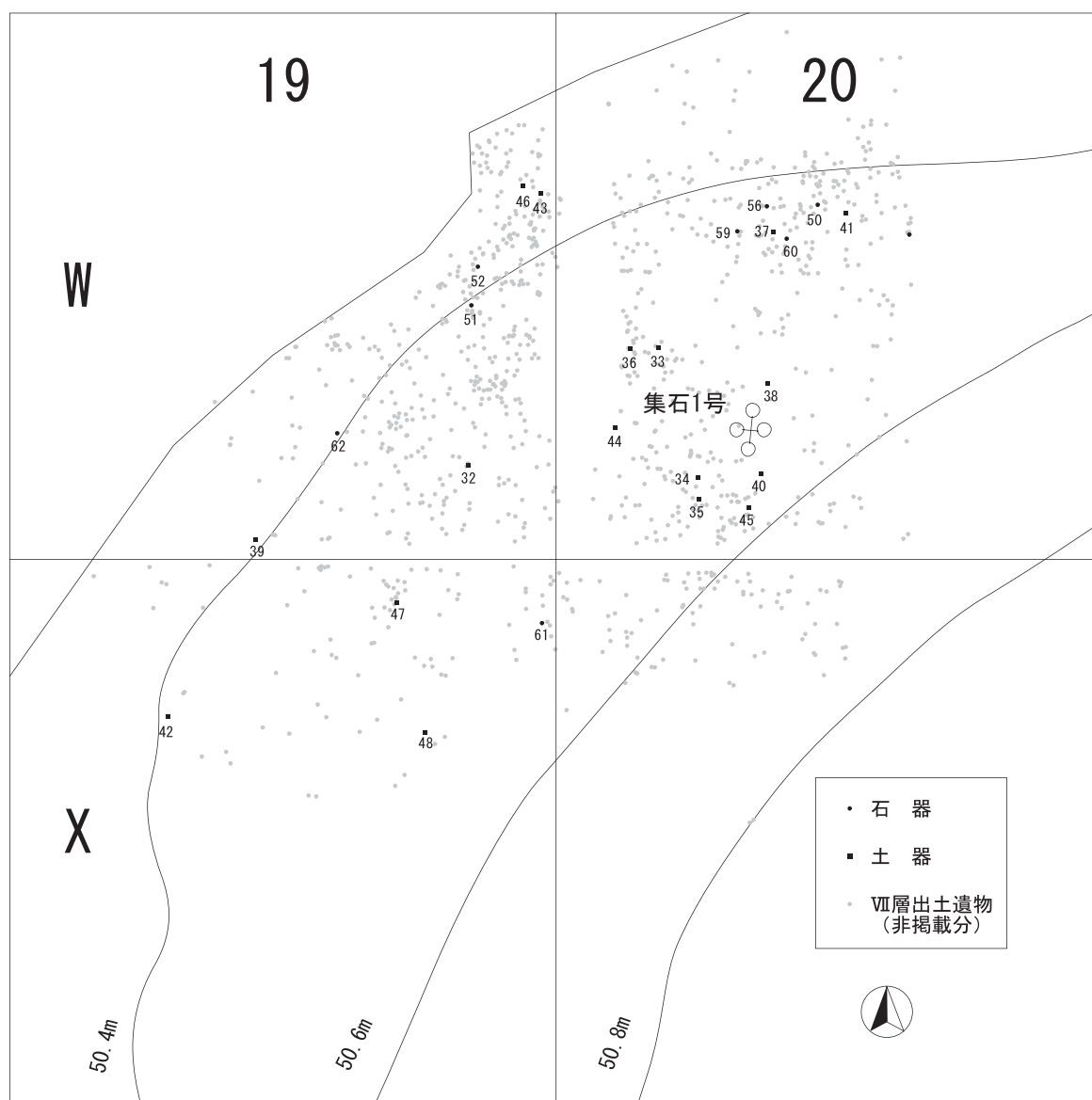
I 類土器

縄文時代草創期の土器は192点である。いずれも小片のため、選別し17点を掲載した。

39の沈線, 32・44の爪形文（風化が激しい）以外は、ほとんどが無文である。口縁部は、鋭角のもの（タイプA:33・34）、やや丸みを呈するもの（タイプB:35）平坦なもの（タイプC:32・36～39）に分類できた。ナデ整形のみで指頭痕がわずかながら観察できる。いずれも風化が激しく胎土の状態も悪い。32は爪もしくは楊枝状施工具によるV字文が施されている。表裏に丁寧なナデが施され胎土の状態は最も



第10図 縄文時代草創期礫群 1



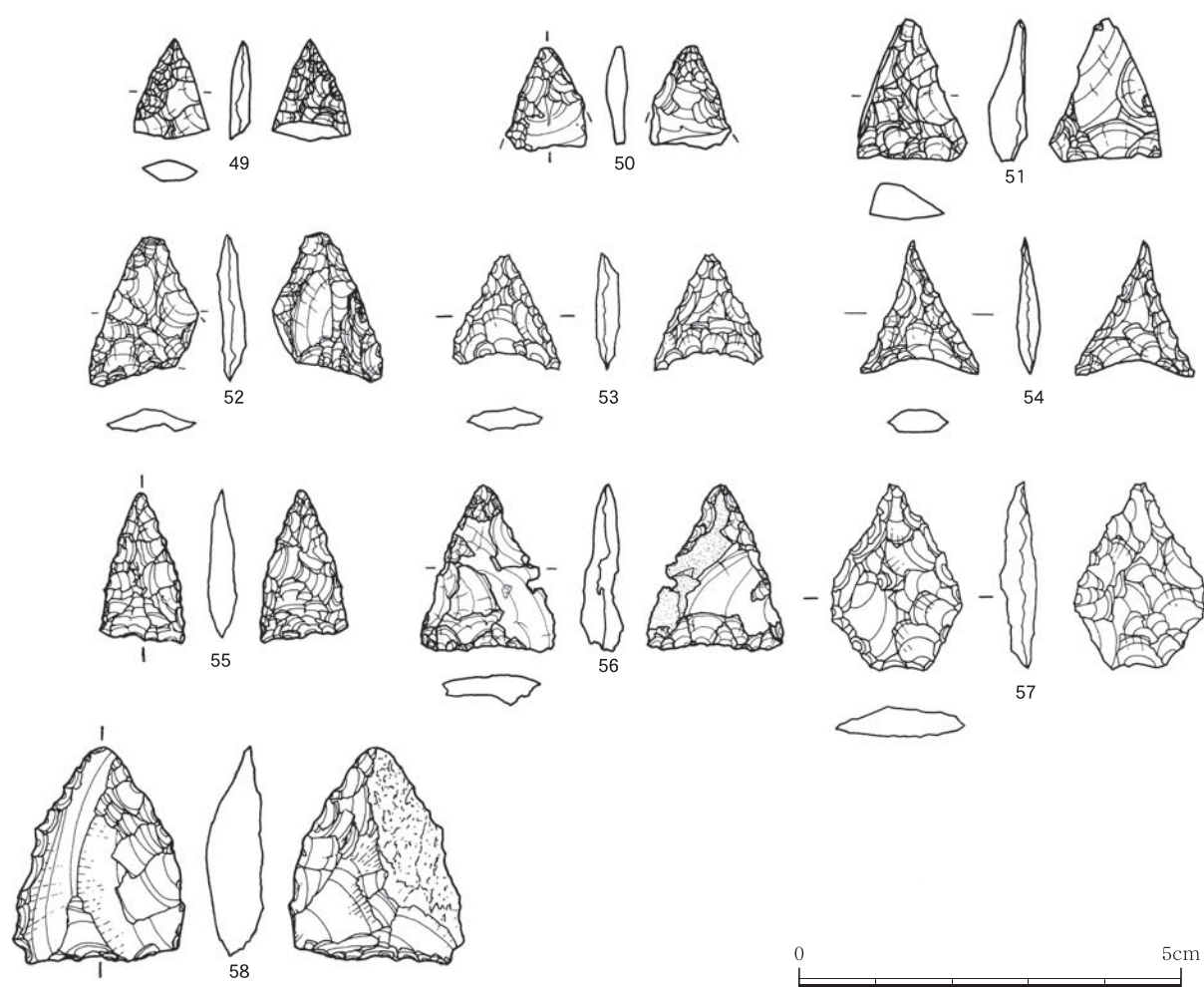
第11図 縄文時代草創期遺構配置図及び出土状況図（1グリッド：20m）



第12図 縄文時代草創期土器

縄文時代草創期土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第12図	32	W-19	VII	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙					やや良	ナデ	ナデ	
	33	W-20	VII	口縁部	5YR4/8赤褐	5YR5/6明赤褐		○			やや良	—	—	
	34	W-20	VII	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/3にぶい赤褐					やや良	ナデ	ケズリ	
	35	W-20	VII	口縁部	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	○				やや良	ナデ	ケズリ	
	36	W-20	VII	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙					やや良	—	ナデ	
	37	W-20	VII	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙					やや良	ヘラナデ	ナデ	
	38	W-20	VII	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			やや良	ナデ	ナデ	
	39	W-19	VII	口縁部	7. 5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			やや良	ヘラナデ	ナデ	
	40	W-20	VII	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		○			やや良	ナデ	ナデ	
	41	W-20	VII	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙					やや良	ナデ	ナデ	
	42	X-19	VII	胴部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○				やや良	—	—	
	43	W-19	VII	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			やや良	ナデ	ナデ	
	44	W-20	VII	胴部	10YR3/2黒褐	7. 5YR6/4にぶい橙	○	○			やや良	—	—	
	45	W-20	VII	胴部	7. 5YR5/3にぶい褐	7. 5YR6/4にぶい橙					やや良	ナデ	ケズリ	
	46	W-19	VII	胴部	10YR4/2灰黄褐	7. 5YR5/4にぶい褐	○				やや良	ナデ	ナデ	
	47	X-19	VII	胴部	7. 5YR6/6橙	10YR5/4にぶい黄褐	○				やや良	ナデ	ナデ	
	48	X-19	VII	底部	10YR4/2灰黄褐	5YR6/6橙		○			やや良	ナデ	ナデ	



第13図 縄文時代草創期石器（1）

良い。34はタイプAの中でも口唇部が最も鋭利である。はっきりとした指頭痕が確認できる。隆帯上の爪痕文はやや判別しにくい。35は全体に指頭押圧痕が顕著である。風化が著しいが、丁寧なナデ整形を観察できる。口縁部から胴部にかけて徐々に器壁が厚くなると思われ、内面はなだらかな曲線を描く。

40～47は胴部である。ナデ調整と指頭押圧痕が顕著である。44は隆帯文上にやや判別しにくい爪痕文が観察できる。48は底部と思われる。

②石器（第13図・14図 49～62）

石鏃（第13図 49～58）

本報告書では、既刊行農業センター遺跡群報告書Ⅰ～Ⅲを踏まえ、新たに本遺跡の現況に即した石鏃分類表（註P187）を作成した。本報告書掲載の石鏃は、この石鏃分類表に準ずる。全体的に側縁部の

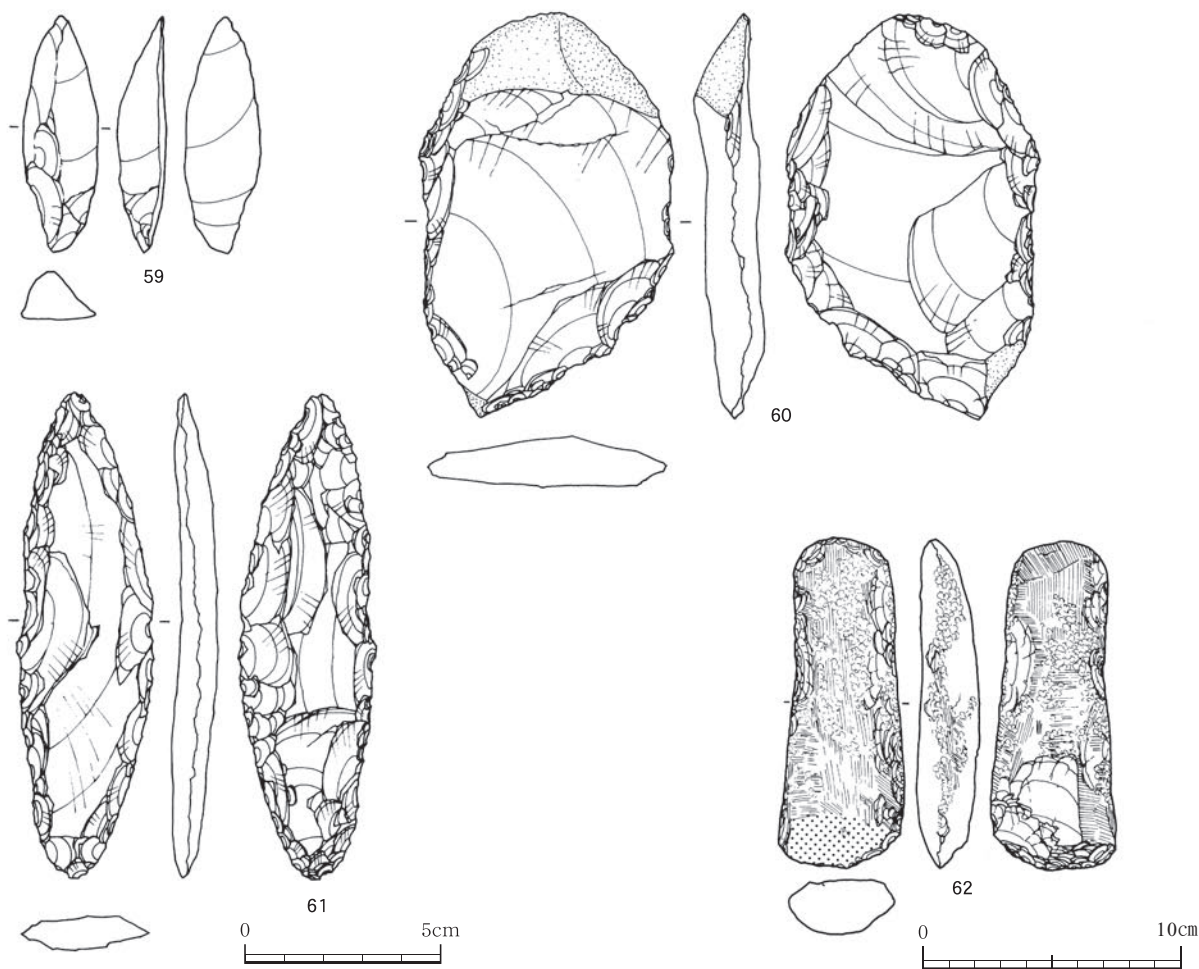
剥離がやや浅く、中央部の稜を形成するに至っていない。技術的未成熟さが見られ、次期縄文時代早期における剥離技術進歩への推移を垣間見るためにも良好な資料といえる。基部形成もやや粗雑である。

尖頭器（第14図 59～61）

59は大剥離によって三つの稜を形成し、その後微細な剥離を施していない。60・61は共に頁岩製で側縁部に微細な剥離が施され刃部を形成している。

磨製石斧（第14図 62）

上部に基部形成の剥離を施した短冊形の石斧で、全面に器面調整のための擦痕、敲打痕が顕著に観察できる。表面刃部の擦痕が顕著で、特に正面左部分に擦面もしくは、使用痕が集中している。破損後、裏面を剥離し再利用したと思われる。



第14図 縄文時代草創期石器（2）

縄文時代草創期 石鏃観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	長幅比	形状	長幅比	基部	備考
						cm	cm	cm	g					
第 13 図	49	W-20	VII	打製石鏃	チャート	1.3	1.0	0.3	0.3	1.3	A	a	a	
	50	W-20	VII	打製石鏃	黒曜石E	1.4	1.1	0.3	0.4	1.3	A	a	a	
	51	W-19	VII	打製石鏃	頁岩3	1.9	1.5	0.5	1.0	1.3	A	a	a	
	52	W-19	VII	打製石鏃	頁岩	2.0	1.4	0.3	0.7	1.4	A	a	b	
	53	W-19	VII	打製石鏃	頁岩2	1.5	1.4	0.3	0.5	1.1	A	a	b	
	54	X-20	VII	打製石鏃	頁岩3	1.8	1.6	0.3	0.4	1.1	A	a	b	
	55	—	VII	打製石鏃	頁岩3	2.0	1.2	0.4	0.7	1.7	A	b	a	
	56	W-20	VII	打製石鏃	黒曜石B	2.2	1.8	0.5	1.5	1.2	A	a	a	風化激しい
	57	—	VII	打製石鏃	頁岩2	2.5	1.7	0.5	1.5	1.4	B	a	a	
	58	W-19	VII	打製石鏃	玉随4	2.9	2.4	0.8	4.4	1.2	A	a	a	
平均						1.9	1.5	0.4	1.1	1.3		a		

縄文時代草創期 石器観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
						cm	cm	cm	g	
第 14 図	59	W-20	VII	三稜尖頭器	頁岩	6.3	2.0	1.3	15.1	
	60	W-20	VII	尖頭状石器	頁岩	10.7	6.8	1.5	130.5	
	61	X-19	VII	尖頭器	頁岩	12.8	3.6	1.0	51.6	
	62	W-19	VII	打製石斧	頁岩	13.1	4.9	2.5	221.6	
平均						10.7	4.3	1.6	104.7	

2 縄文時代早期（VI層上面）の調査

集石が11基検出された。土器は早期前葉から後葉のものが大量に検出された。石器は石鏃・剥片・石皿等が大量に出土している。

土器は、遺跡全面にわたって検出された。総数約10,000個を数え、類も多種にわたり、10種に及んだ。

Ⅲ類土器はバリエーションに富んでいる。

Ⅷ類土器は出土量が豊富で、特にX-21～22区において集中部が見られた。中でも、新旧の2タイプがあり、本遺跡では旧タイプが優勢である。

石器は石鏃の豊富な検出が特徴である。これは縄

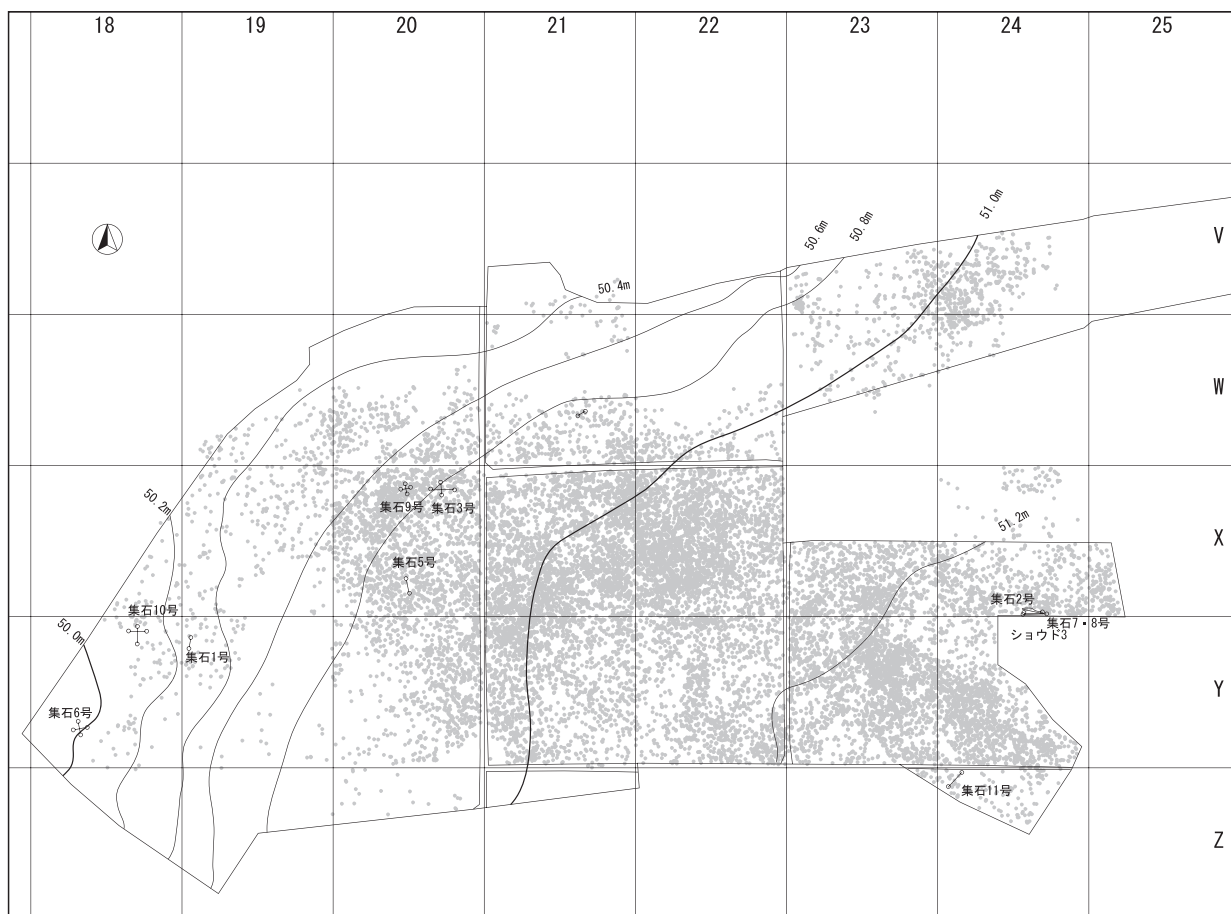
文時代晩期も同様の傾向であり、比較材料として興味深い出土状況となっている。石材もバリエーションに富んでいる。また、石斧整形剥片と思われる頁岩系の剥片が多数検出された。検出状況を検討した結果、散布状態であったため、今回は写真及び、出土状況などを非掲載とした。

(1) 遺構

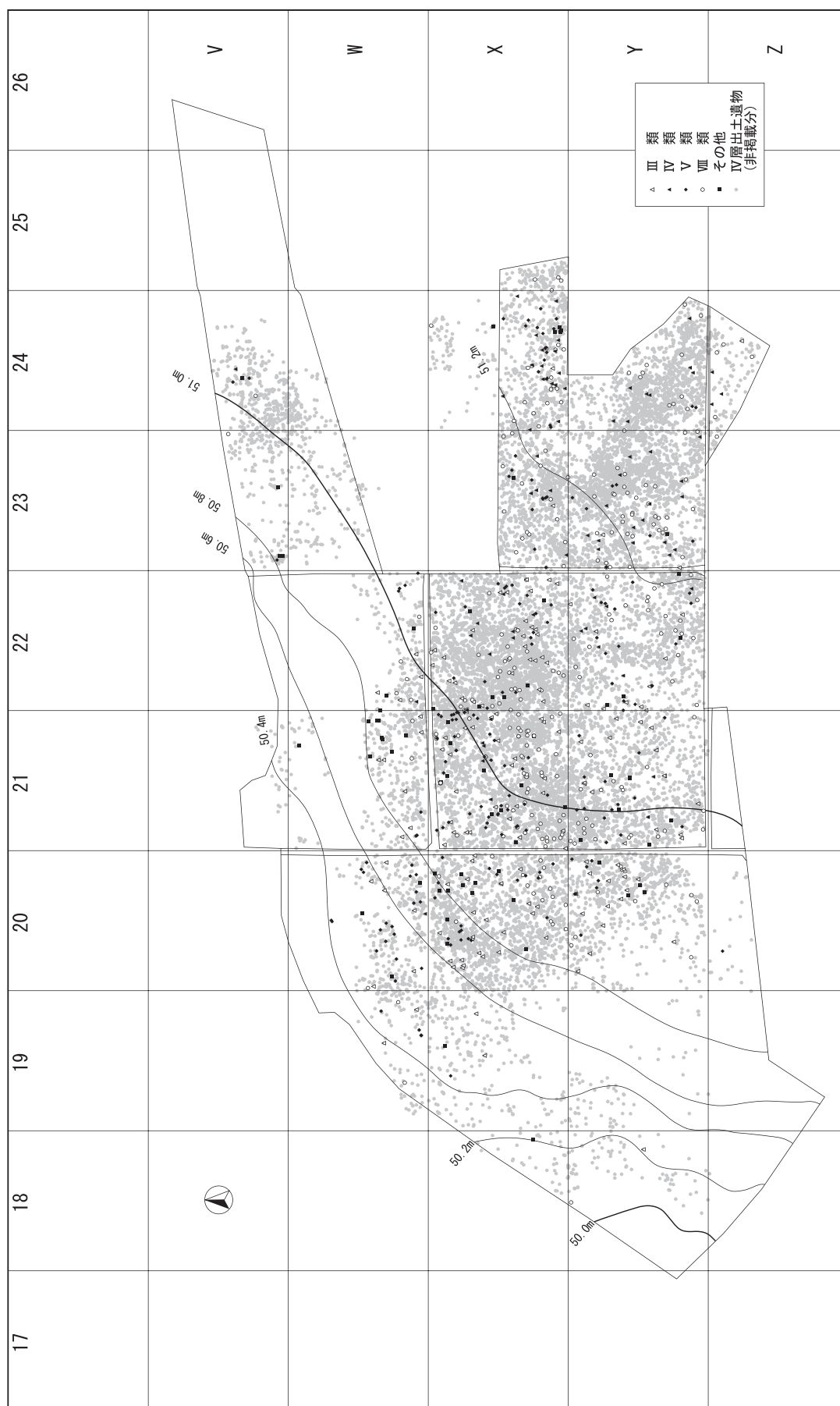
集石（集石1～11 第18～21図）

検出地点はX～Y-18～20区に集中している。

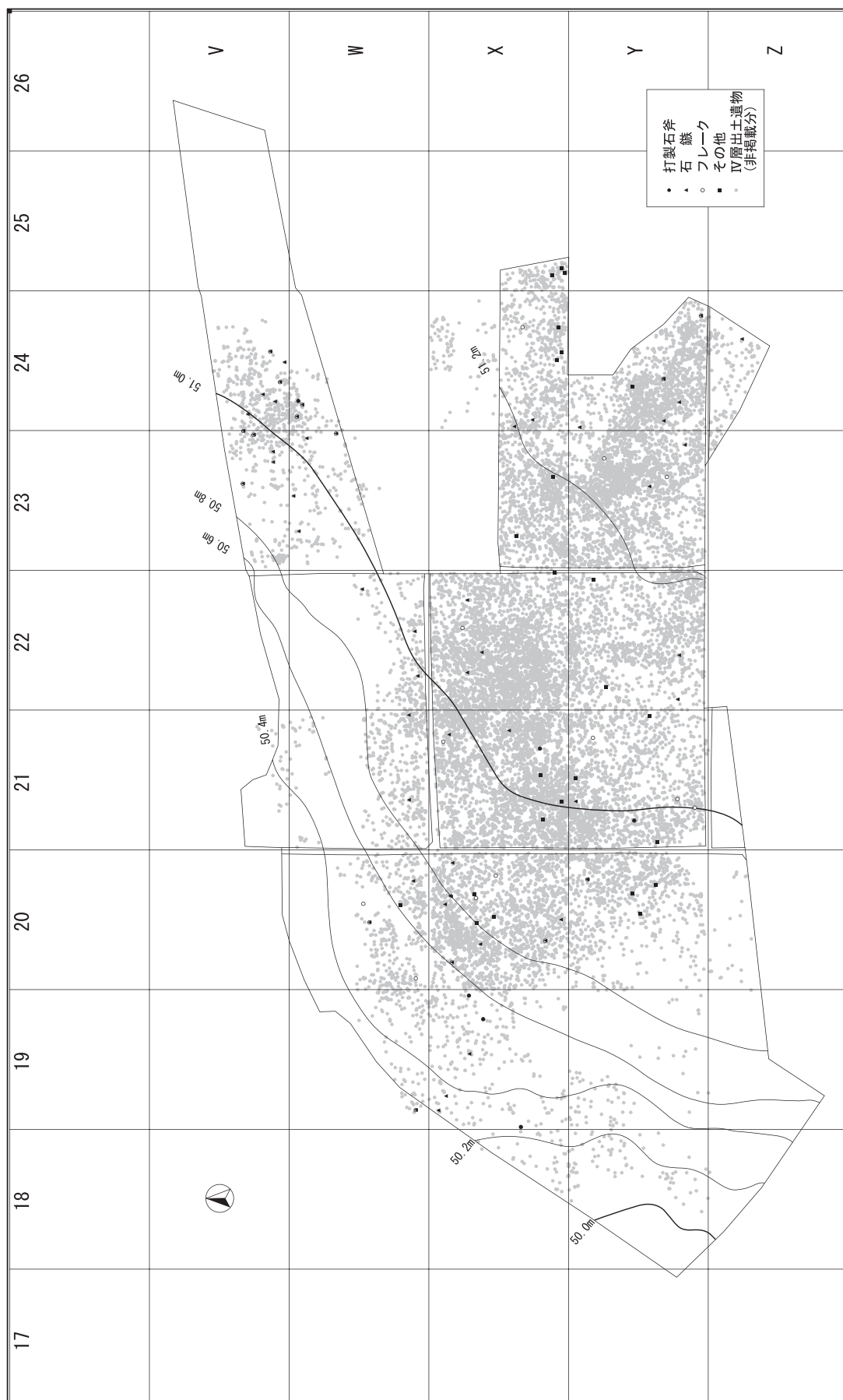
形状は、礫のまとまりがあるもの、まとまりに欠け散布状態のものなど様々である。長径の平均104.4



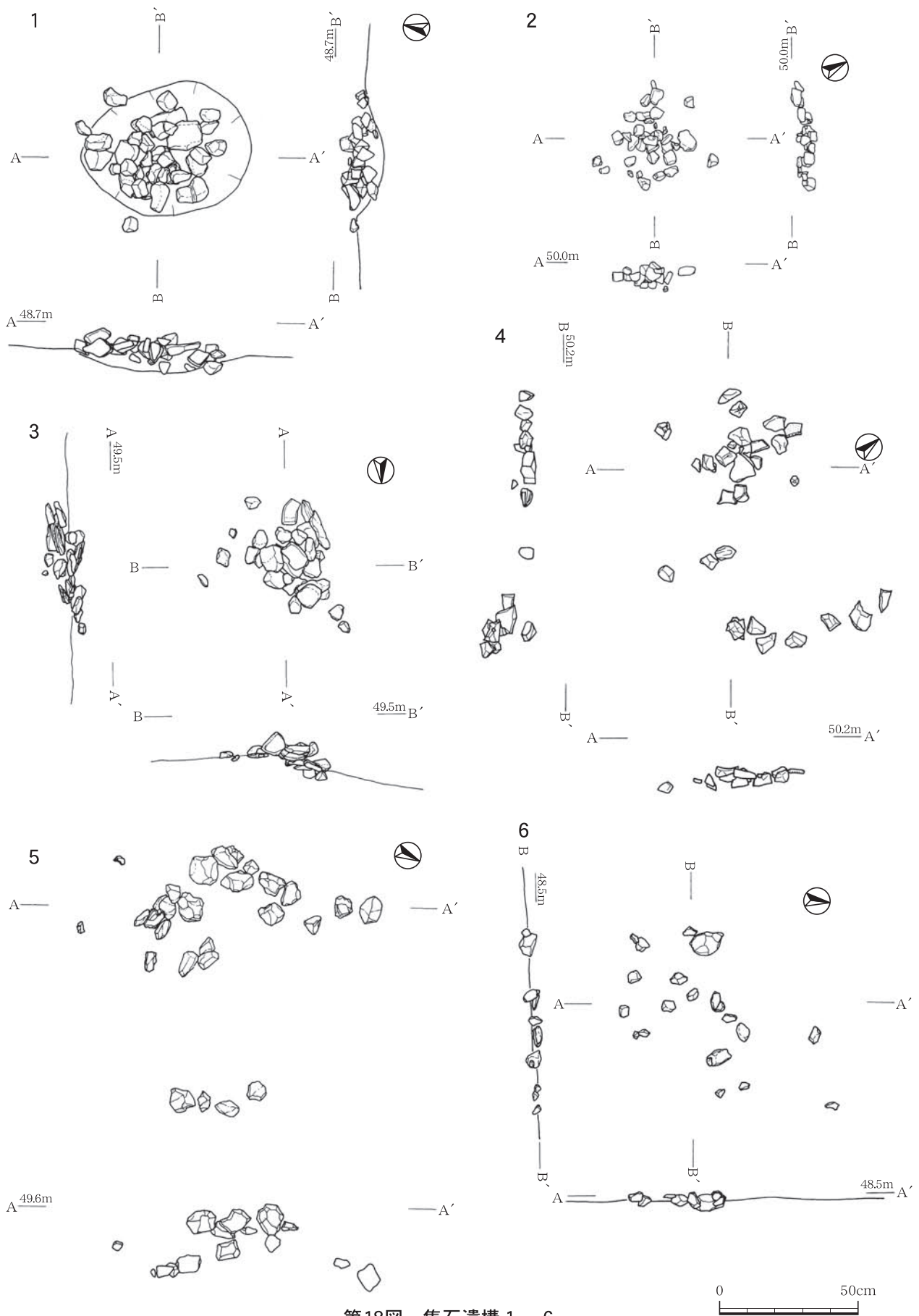
第15図 縄文時代早期遺構配置図（1グリッド：20m）



第16図 縄文時代早期土器出土状況図（1グリッド：20m）

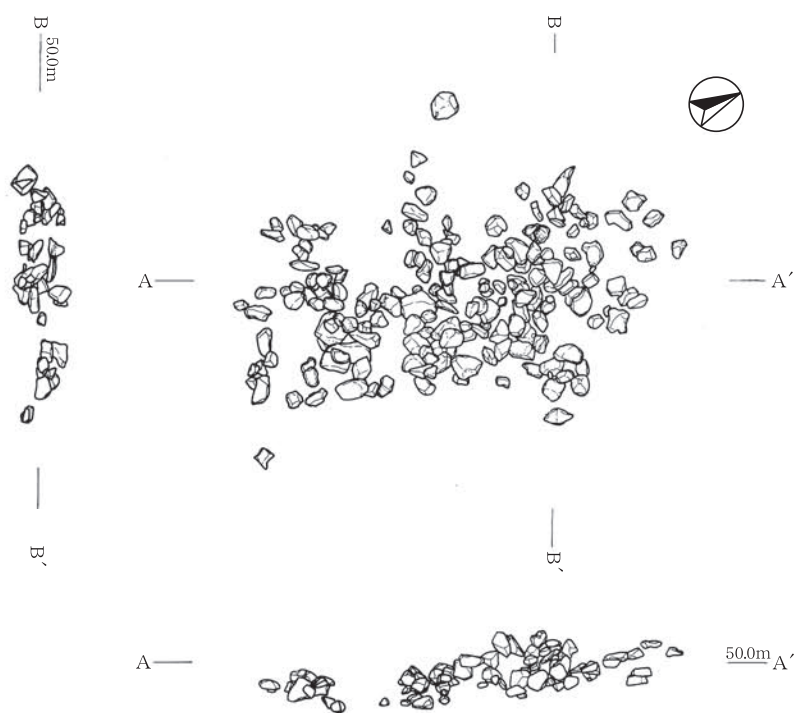


第17図 縄文時代早期石器出土状況図（1グリッド：20m）

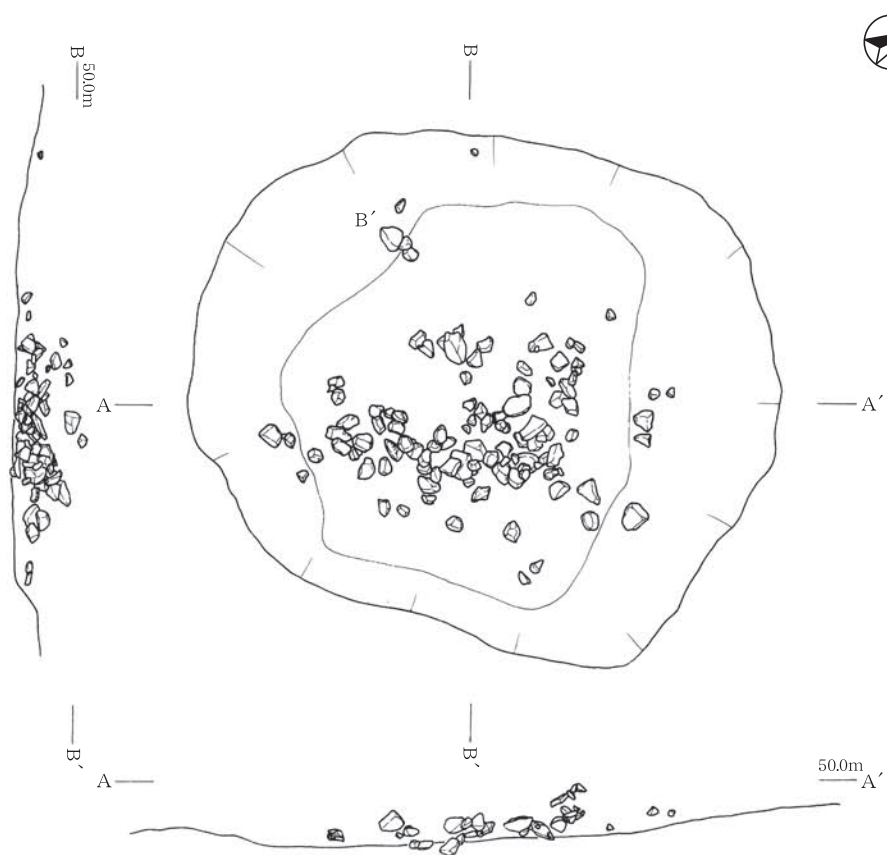


第18図 集石遺構 1～6

7



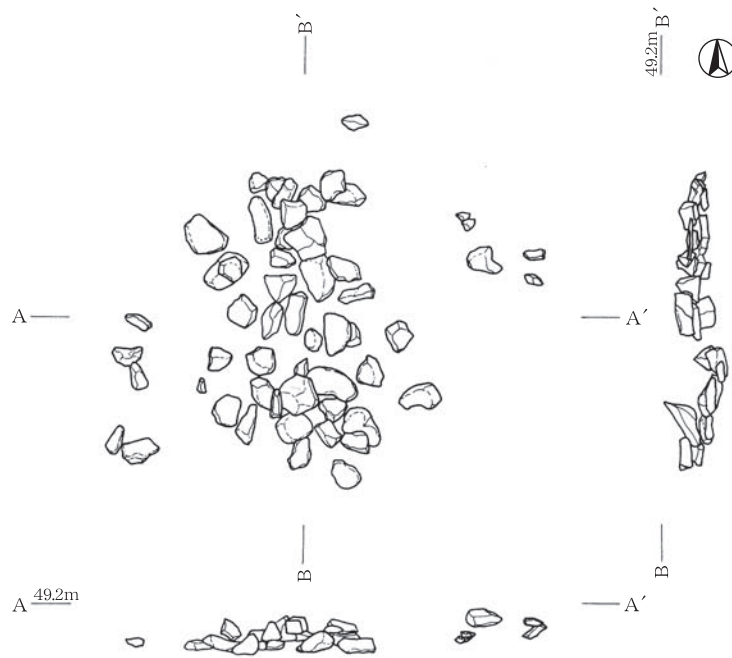
8



0 50cm

第19図 集石遺構 7・8

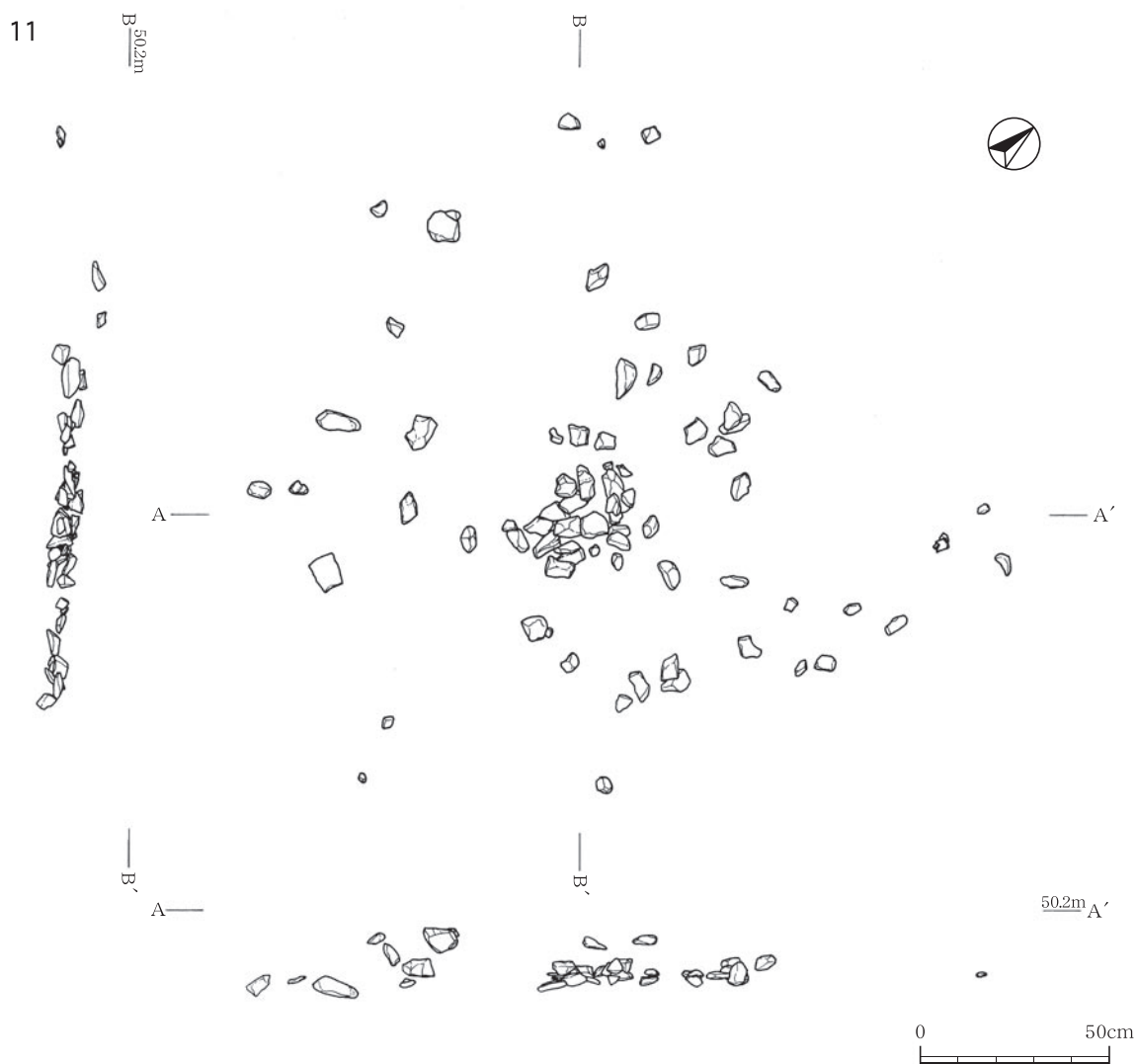
9



10



第20図 集石遺構 9・10



第21図 集石遺構11

cm, 短径の平均88.1cmである。

集石1 (第18図)

Y-19区で検出された。礫数38, 平均重量241gである。礫は少量であるが密集しており, 掘り込みも確認された。

集石2 (第18図)

X-24区で検出された。礫数36, 平均重量85gである。10cm以内の少量の礫で構成されている。比較的密集している。

集石3 (第18図)

X-20区で検出された。礫数32, 平均重量111gである。礫は少量であるが密集している。

集石4 (第18図)

Y-23区で検出され, 礫数23, 平均重量194gで

ある。残存する礫も少量で, まとまりに欠ける。土器片が7点共伴している。

集石5 (第18図)

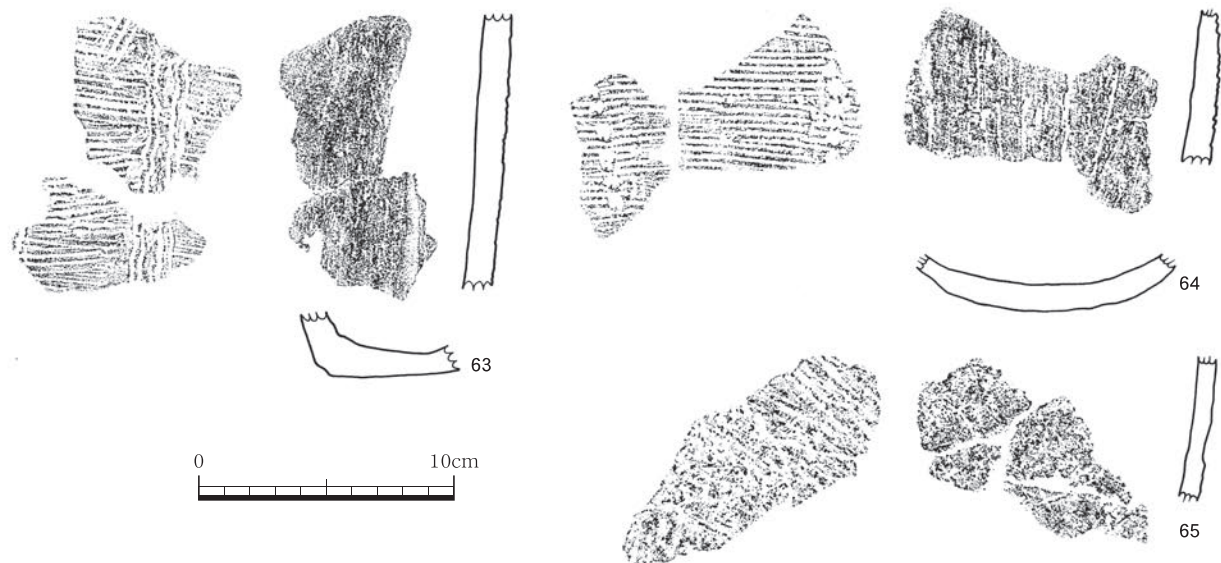
X-20区で検出された。礫数28, 平均重量339gである。10cmを超える礫を多用しているが少量でまとまりに欠ける。

集石6 (第18図)

Y-18区で検出された。礫数21である。残存する礫も少量で, まとまりに欠ける。

集石7・8 (第19図)

X-24区で検出された。礫数296, 平均重量74gである。11基中最も礫の密集度が高い。10cm以内の小礫を多用している。掘り込みが確認でき, 下部にも礫が密集し上・下にわけて図化した。



第22図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物

集石9 (第20図)

X-20区で検出された。礫数54, 平均重量249gである。礫数は多くはないが, 10cmを越える礫を多用しており比較的密集度は高い。

集石10 (第20図)

Y-18区で検出された。礫数88, 平均重量110gである。10cm以内の礫を多用している。中心部が崩れ広範囲にわたり礫が散在している。土器片が3点共伴している。

遺構内遺物 (第22図 63~65)

63・64はⅢ類土器である。いずれも角筒で, 表面は横位の貝殻条痕文上に, 63は流線文, 64は刺突文が施されている。また, 64は内面のケズリによる調整が入念である。65はⅪ類土器で, 小石の混ざる粗い胎土にやや粗雑な貝殻条痕文が斜位に施されている。

集石11 (第21図)

Z-24区で検出された。礫数63, 平均重量113gである。中心部は少量の礫による密集がみられるが, 全体に散石した状態である。

以上, 集石1~11を概観すると散布状態のものがほとんどで, 掘り込みを確認できたのは集石1・7・8のみであった。遺構内遺物もわずかで時期特定には至らなかった。土器・石器の出土状況も散布状態でまとまりに欠けるため遺跡内が集落域であったかの特定はできなかった。

(2) 遺物

①土器

Ⅱ類土器 (第23図~第25図)

Ⅱ類土器は, 口縁部に縦位の連続する貝殻刺突文が施され, 胴部には横位の貝殻条痕文が施されているものである。口唇部には, 刻目があるものと無文のものがある。器形は, 円筒形と角筒形がある。

66~106は円筒である。66~81は口縁部である。69は口縁部の貝殻刺突文の下に, 斜位と横位の刺突文が施されている。また, 長さ2.8cmの補修孔もある。72は口縁部から胴部まで接合した。73は口縁部の貝殻刺突文を条痕文で区切っている。

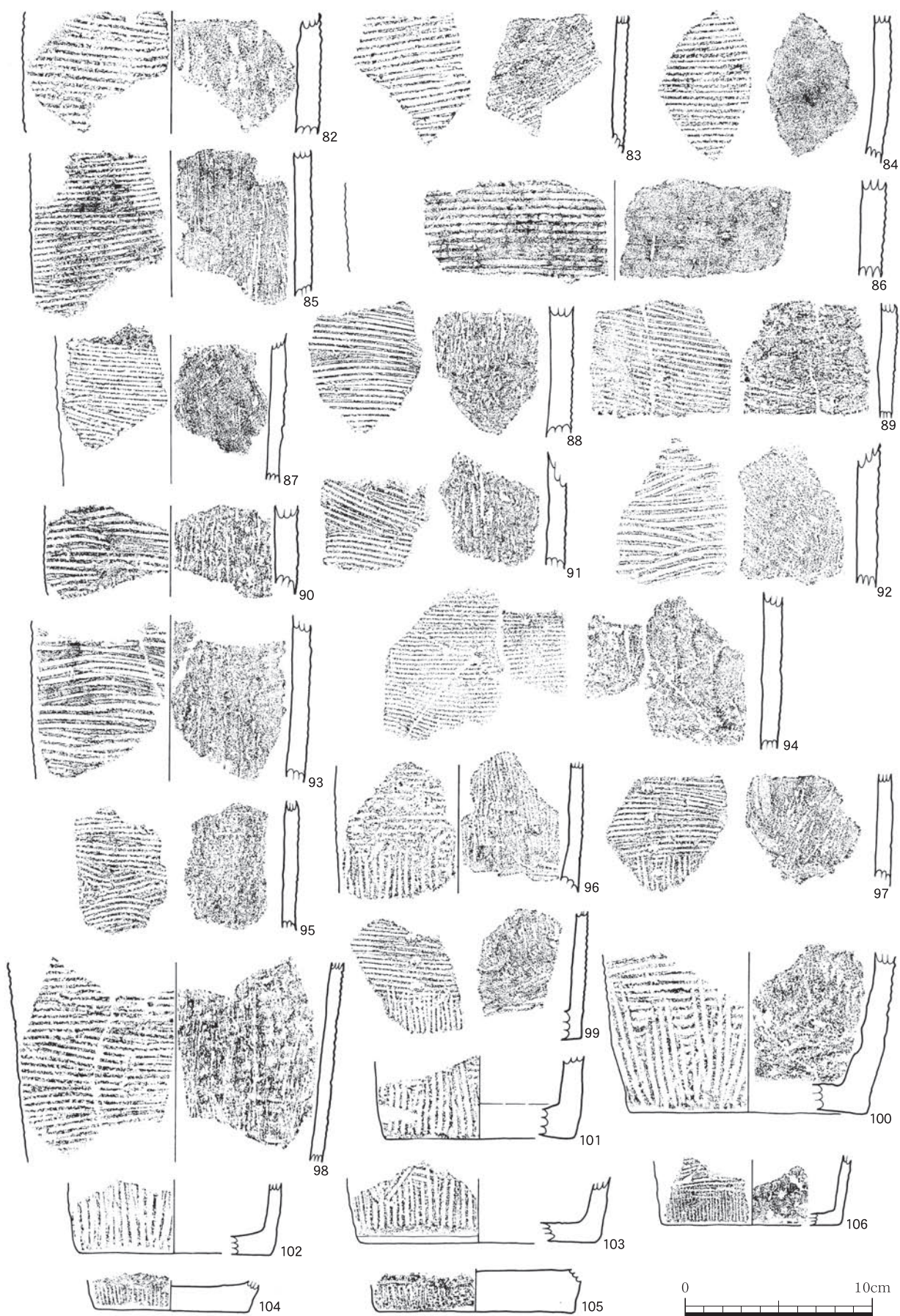
82~98は円筒の胴部で, 横位及び斜位に貝殻条痕文が施されている。96・97は下部に縦位の貝殻条痕文が施されており, 底部付近であると考えられる。97は縦方向に2条の肋による刺突文が等間隔に施されている。

99~106は円筒の底部である。いずれも底部から胴部に向け縦位の貝殻条痕文が施されている。99は胴部の貝殻条痕文の上から, 縦方向に貝殻刺突文が施されている。105は底部だけであるが, 上面に調整のナデあとが同心円状に残っている。

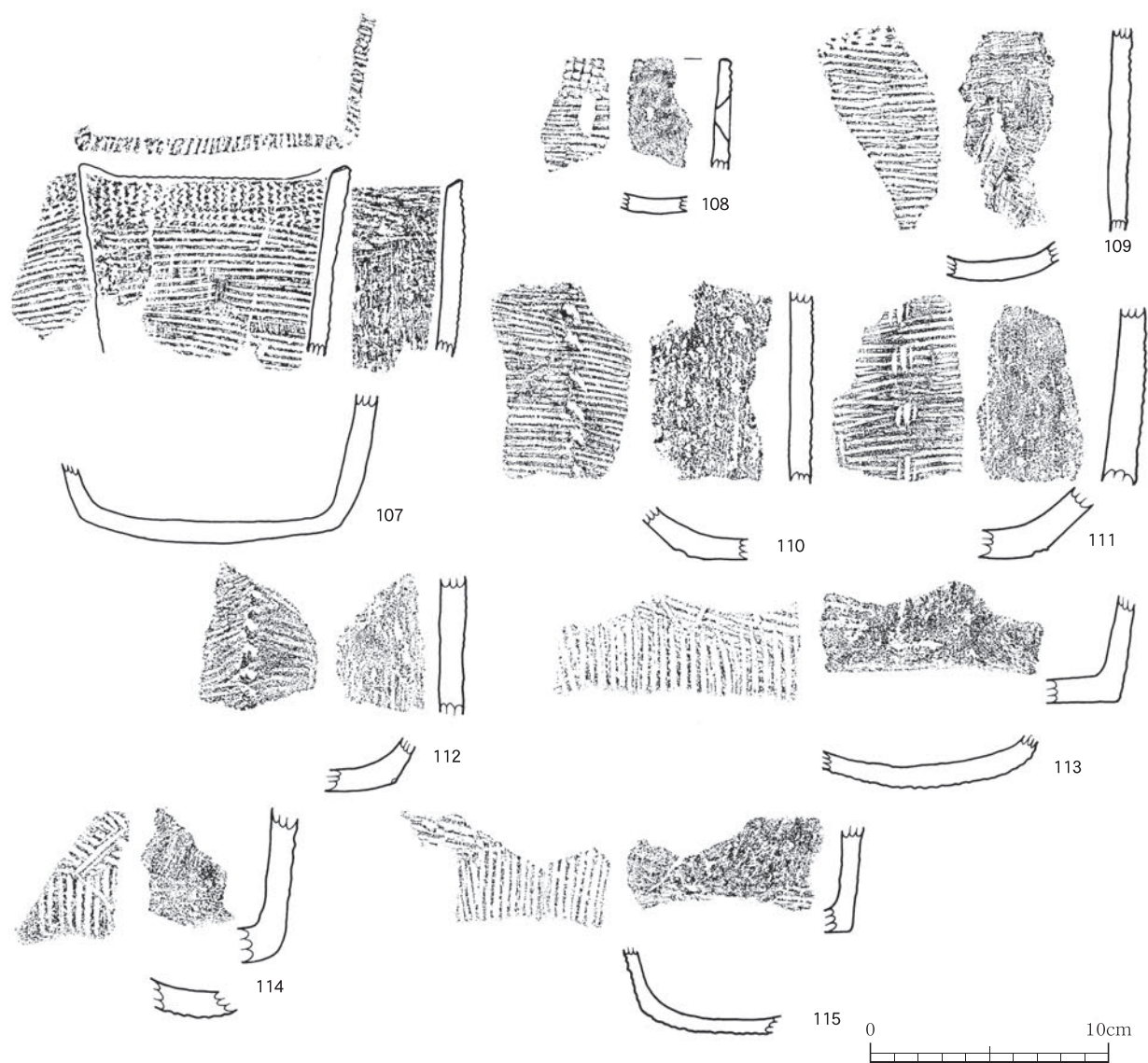
107~115は角筒である。107は口縁部が角部に向かって上がっている。外面調整は, 縦位の貝殻刺突文と貝殻条痕文, 角部に横位の貝殻刺突文が施されている。内面調整は, 口縁部では横方向に, 胴部で



第23図 縄文時代早期土器 (1)



第24図 縄文時代早期土器（2）



第25図 縄文時代早期土器（3）

は縦方向のヘラケズリである。器形は角筒であるが、壁面がやや湾曲している。108も口縁部で、補修孔がある。

109～112は貝殻条痕文が横位に施された胴部である。109は口縁部に近い部分である。110・112は斜

位の、111は横位の貝殻刺突文が角部に縦方向に施されている。

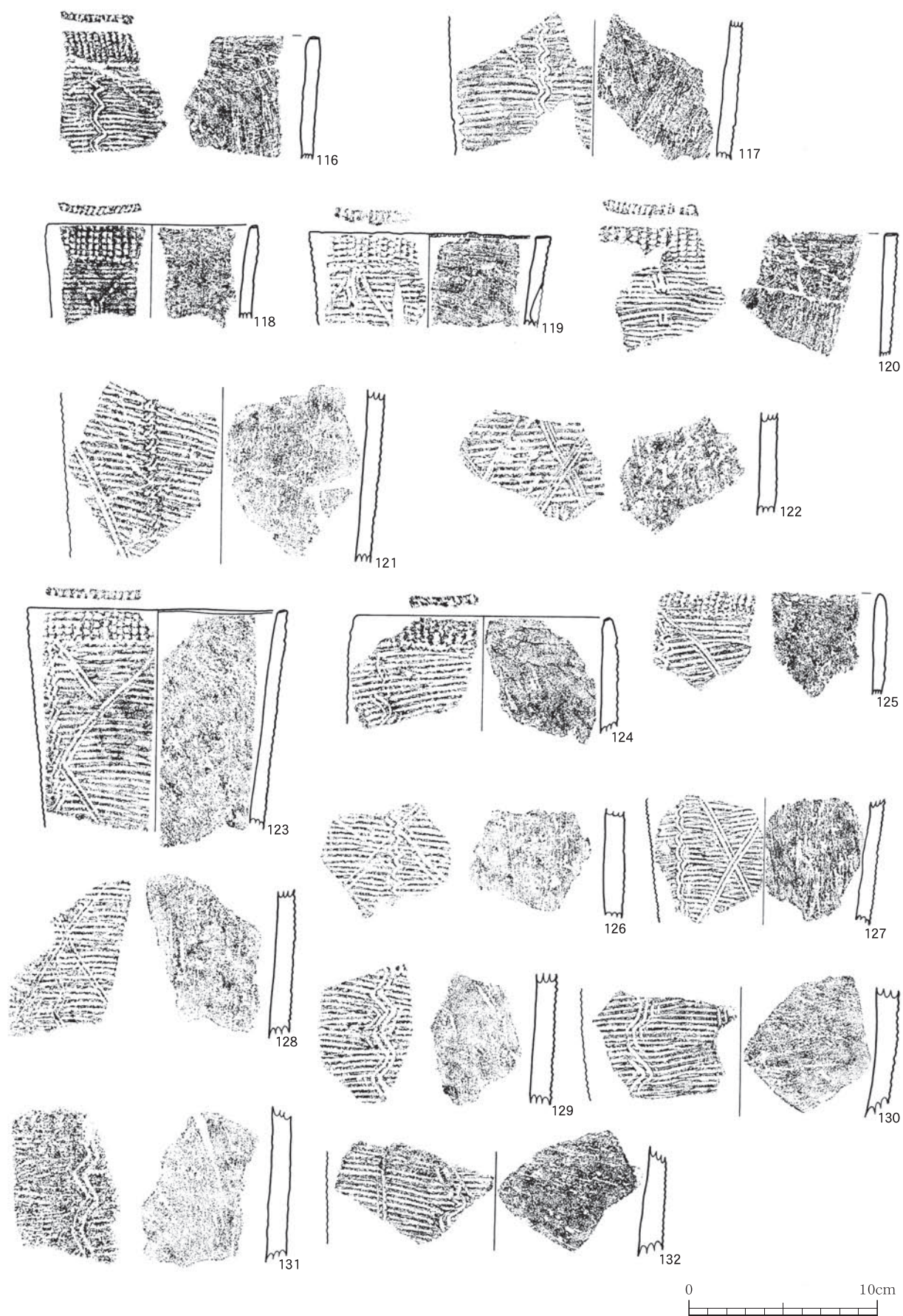
113～115は底部である。底部から胴部に向けて縦位の貝殻条痕文が施されている。114は胴部から底部にかけて、斜位の条痕文が施されている。

縄文時代早期 集石遺構内土器観察表 III・XI 類

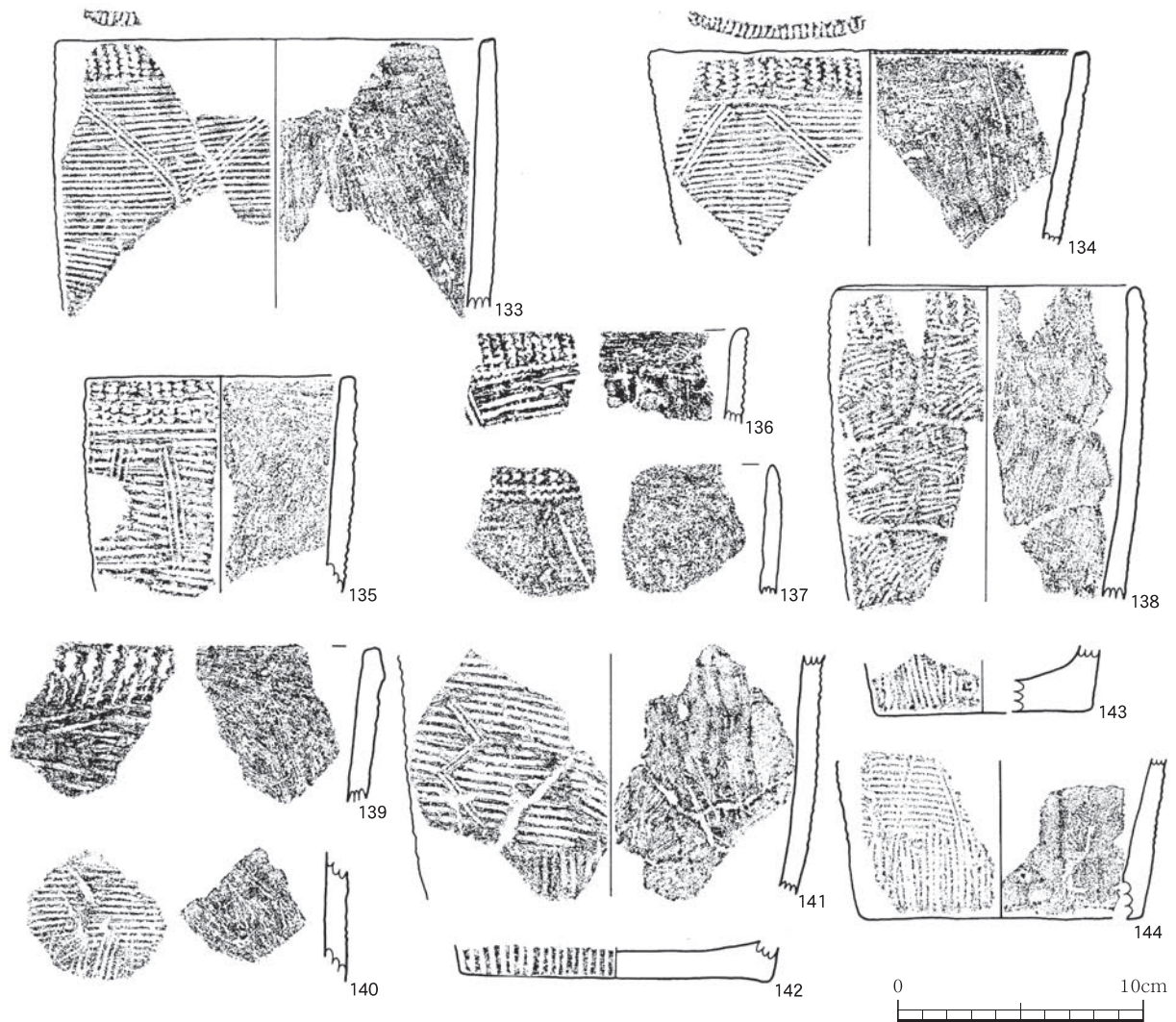
挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 22 図	63	Y-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐			○		良	貝殻条痕文・流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	64	Y-18	IV	胴部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		○	○		良	貝殻条痕文・刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	65	Y-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	

縄文時代早期 土器観察表 II 類

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 23 図	66	Z-19	IV	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	67	Y-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	68	Z-19,Y-19	IV	口縁部	2.5Y7/4浅黄	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	69	Y-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	補修孔
	70	Y-19	IV	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/2黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	71	Z-19	IV	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y3/1黒褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	72	Y-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	73	Y-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	74	Y-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	75	Y-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	76	Y-19	IV	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	77	I-4	IV	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	78	Z-19	IV	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	79	Y-19	IV	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	80	Y-19	IV	口縁部	2.5Y4/1黄灰	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	81	Y-19	IV	口縁部	7.5YR5/3にぶい褐	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
第 24 図	82	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	83	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	84	Y-19	III	胴部	10YR4/1褐灰	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	85	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR7/6橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	86	Y-19	IV	胴部	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	87	Y-19	IV	胴部	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	88	Y-19	IV	胴部	10YR4/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	89	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	90	Y-19	IV	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	91	Y-19	IV	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	92	Y-19	IV	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	93	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	94	Y-19	IV	胴部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	95	Y-19	IV	胴部	7.5YR3/1黒褐	7.5YR4/3褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	96	Y-19	III	胴部	10YR3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	97	Y-19	IV	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	98	Y-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	99	Y-19	IV	底部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	100	Y-19	IV	底部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	101	SS1102	IV	底部	2.5Y5/3黄褐	2.5Y7/3浅黄	○				良	貝殻条痕文	ナデ	
	102	Y-19	III	底部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/3にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	103	Y-19	IV	底部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/6橙	○				良	貝殻条痕文	ナデ	
	104	Y-19	IV	底部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/2灰褐		○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	105	SS1102	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y5/3黄褐		○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	106	Y-19	IV	底部	5YR6/6橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文	ナデ	
第 25 図	107	Y-19	IV	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	108	Y-19	III	口縁部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ナデ	補修孔
	109	Y-19	IV	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	110	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	111	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		○	○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	112	Y-19	IV	胴部	2.5Y6/3にぶい黄	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	113	Y-19	IV	底部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	114	Y-19	IV	底部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y6/3にぶい黄	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	115	Y-19	IV	底部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	



第26図 縄文時代早期土器（4）



第27図 縄文時代早期土器（5）

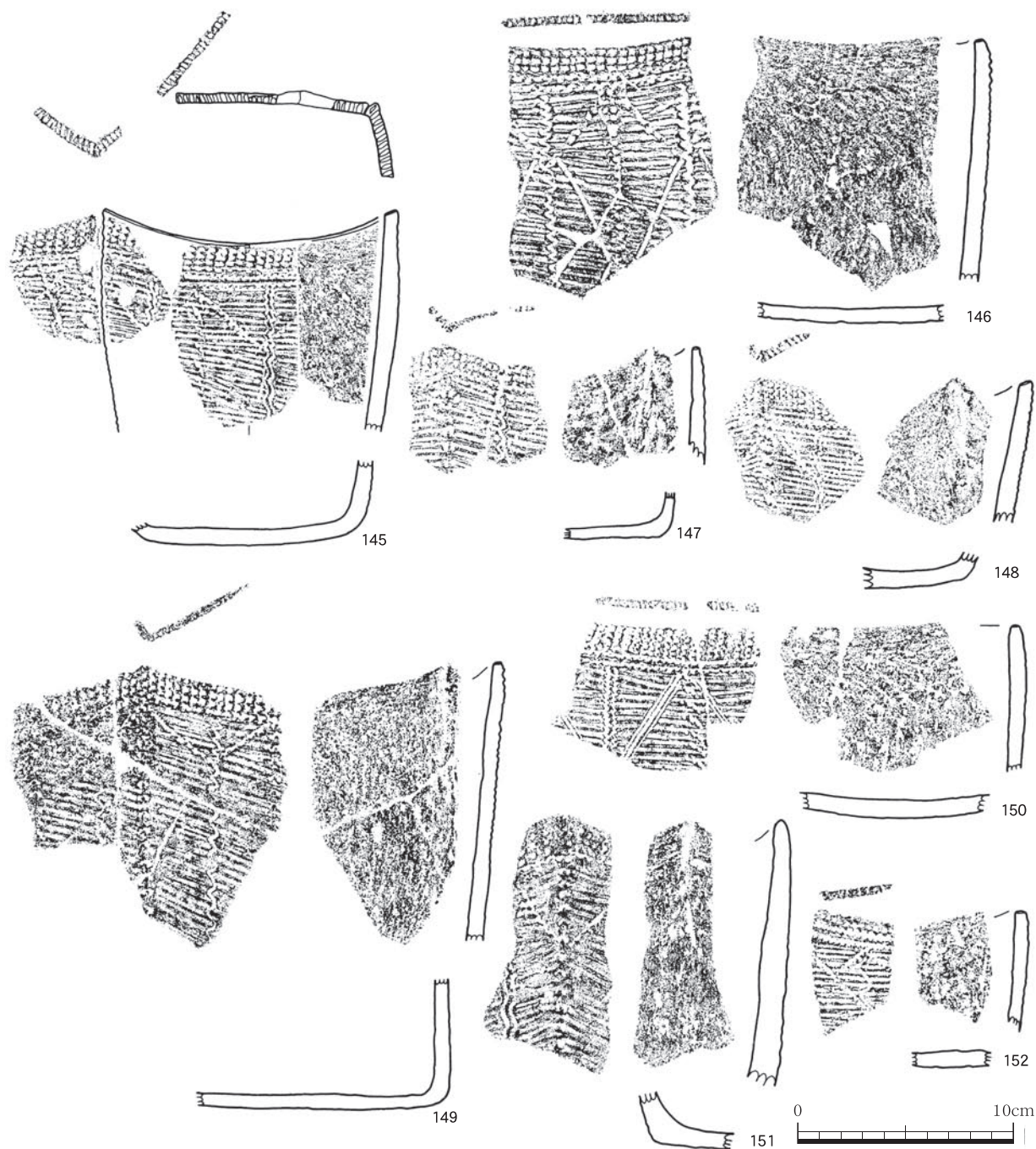
Ⅲ類（第26図～第29図）

Ⅲ類土器は、口縁部に貝殻刺突文を廻らし、胴部は地文の横位の貝殻条痕文を施した上に、貝殻刺突文や流水文・直線文等を施す、二重施文を特徴としたものである。Ⅲ類土器には、円筒・角筒・レモン形の器形があり、角筒とレモン形は波状口縁である。二重施文には、縦位や斜位の貝殻刺突文と2条の肋を利用した流水文の両方が施されるもの（116・117, 145～175）、どちらかのみが施されるもの（118～132, 176～238）、直線文のみを施すもの（133～141, 239～253）がある。

116～144は円筒である。116は口縁部で、胴部は地文の貝殻条痕文の上から、斜位の貝殻刺突文と流水文が施されている。117は胴部で、同じく斜位の貝殻刺突文と流水文が施されている。

118～122は胴部の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文が施されている口縁部及び胴部である。118は斜位の、119・120は横位の貝殻刺突文が胴部に施されている。119は未貫通の補修孔が残っている。121・122は斜位の貝殻刺突文が縦方向に連続して施されている胴部である。

123～132は胴部の貝殻条痕文の上に、2条の肋を利用した流水文と直線文が施されている口縁部及び胴部である。123・125は胴部に流水文と直線文が施されている。125は口唇部に刻目がない。126～128は交差する直線文が施されている。128は流水文と斜位の直線文が施されるが、直線文の条痕間に横位の条痕文が残っていることから、工具で等間隔に沈線を施文したと考えられる。132は流水文と縦位の直線文が施されている。



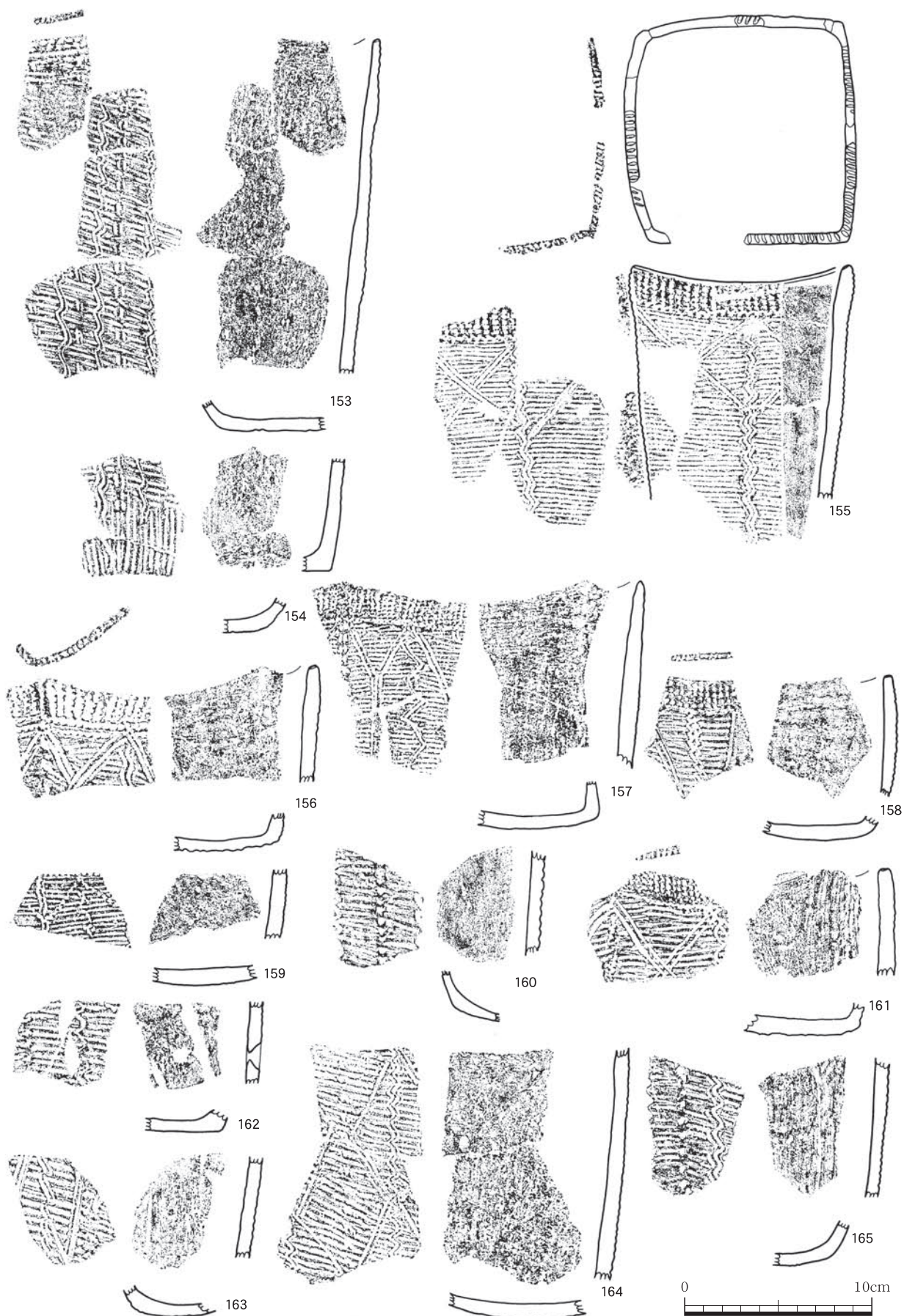
第28図 縄文時代早期土器（6）

133～141は胴部に貝殻条痕による直線文が施される円筒の口縁部及び胴部である。133・134は口唇部に刻目があるが、135～139は刻目がない。136は口縁下部より斜位の直線文が施されている。137は外面が風化しており、施文がはっきり確認できない。138は胴部の貝殻条痕が斜位に施されている。140・141は下部に縦位の条痕文が刻まれており、底部に近い部分であると考えられる。141は直線文が鋸歯

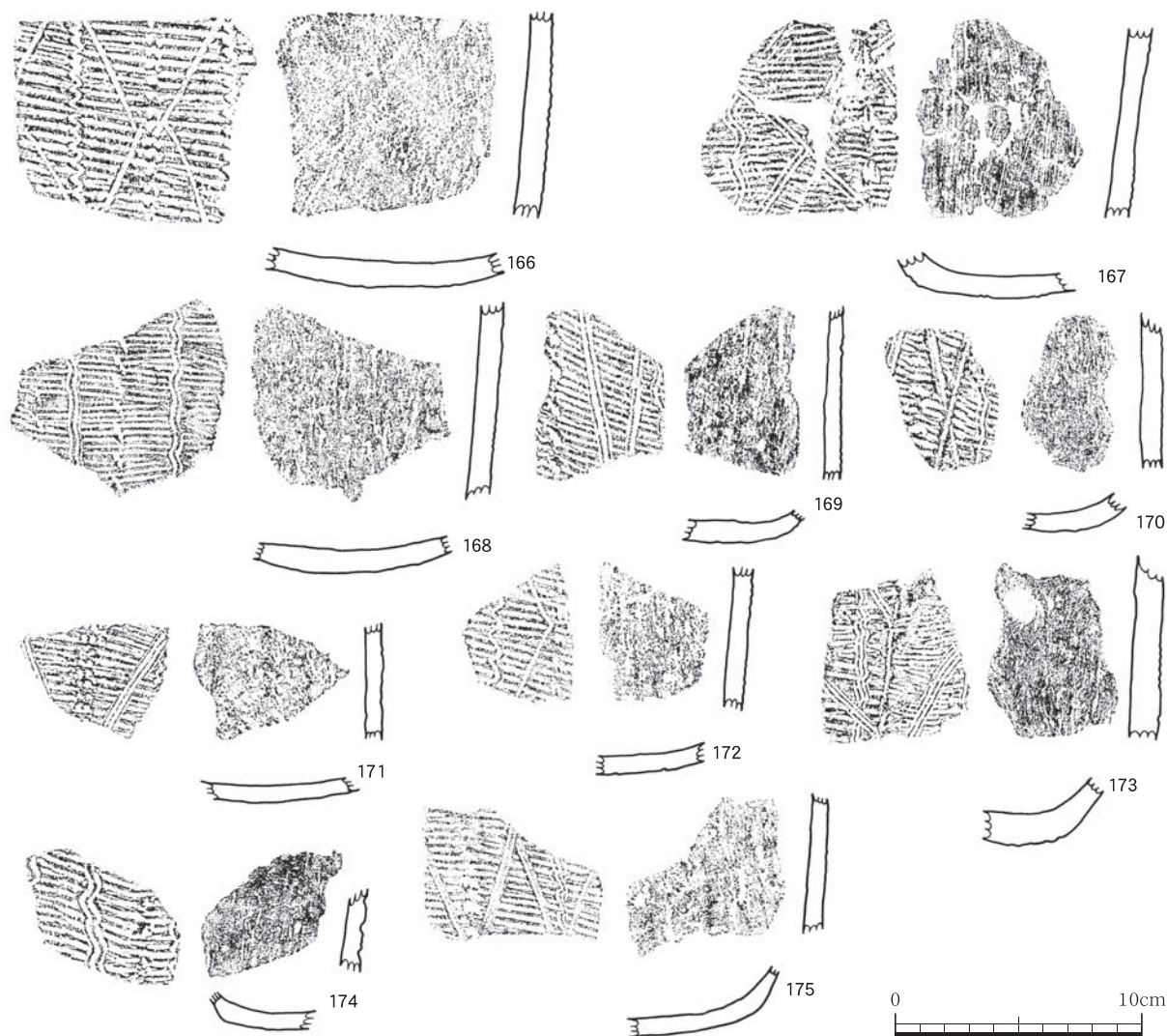
状に施されている。

142～144は円筒の底部である。器壁は厚く、下部に縦位の条痕文を施している。144は胴部下部に流水文と直線文が施されている。

145～153、155～175は胴部の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文と流水文・直線文を施す角筒の口縁部及び胴部である。角部に貝殻刺突文を施しているものがほとんどである。145は口縁下部から縦方向に流水



第29図 縄文時代早期土器 (7)



第30図 縄文時代早期土器（8）

文が施されている。153・154は胴部にほぼ等間隔の流水文と貝殻刺突文が交互に施文されており、同一個体であると考えられる。155は口縁部及び胴部をほぼ復元できたもので、3つの角部に刺突が施されているが、残り1つの角部には刺突が確認できない。157は胴部に鋸歯状の直線文が施されている。173は角部に縦位の貝殻刺突文を直線状に施している。また、流水文の上から直線文を施している。

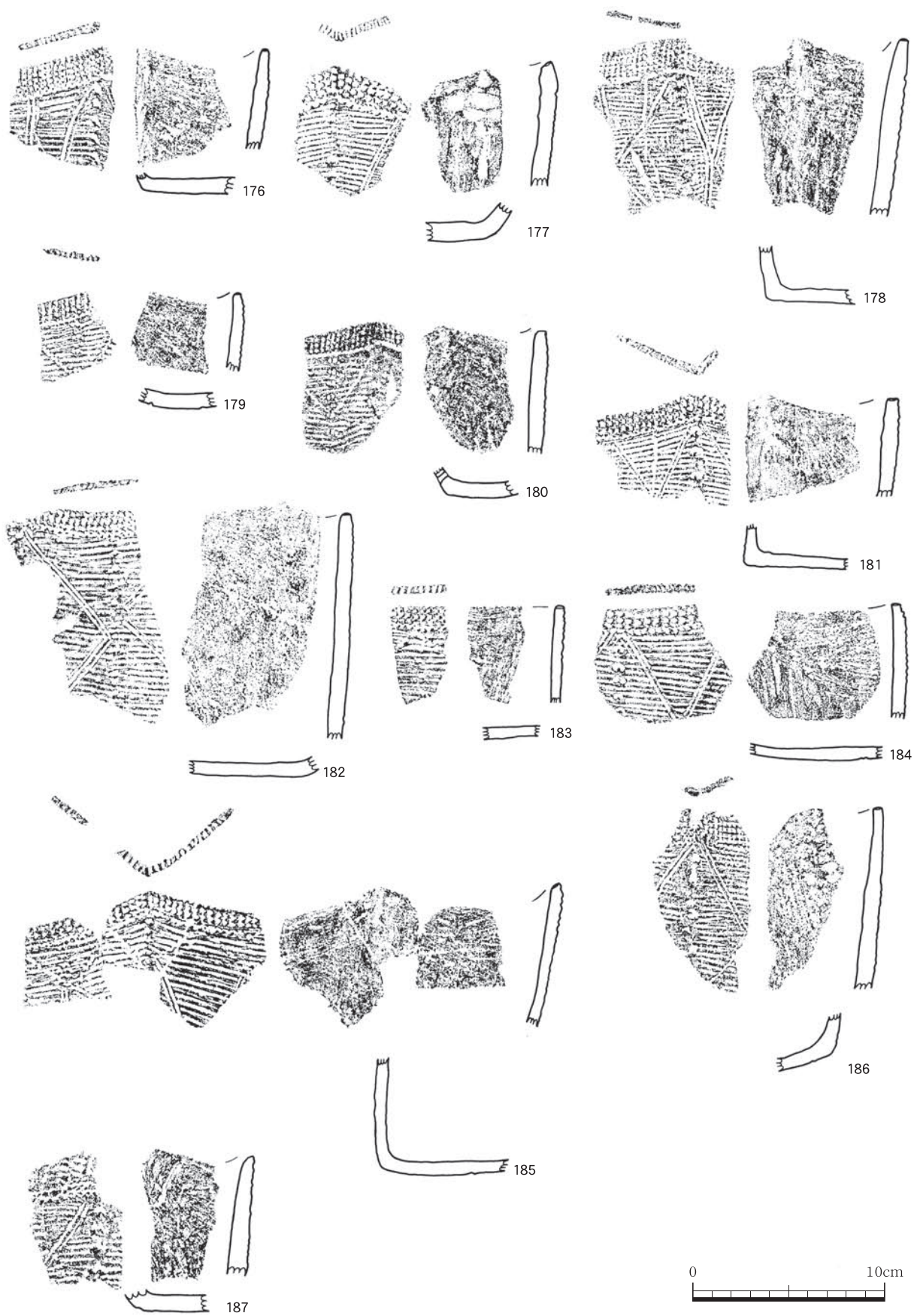
176～211は胴部の貝殻条痕文の上に、貝の肋を利用した2条の貝殻刺突文を施す角筒の口縁部及び胴部である。また、斜位の直線文が施されるものがほとんどである。179・180・185は口縁下位に刺突文が直線で鋸歯状に施されている。209は長さ4cmの補修孔がある。

212～238は胴部の貝殻条痕文の上に流水文・直線文を施す角筒の口縁部及び胴部である。口縁部の縦位の貝殻刺突文下部から、流水文が縦方向に、直線文が斜位に施されている。219は流水文が3条で施されている。234は胴部に縦位と横位の貝殻条痕文が交差するように施されている。

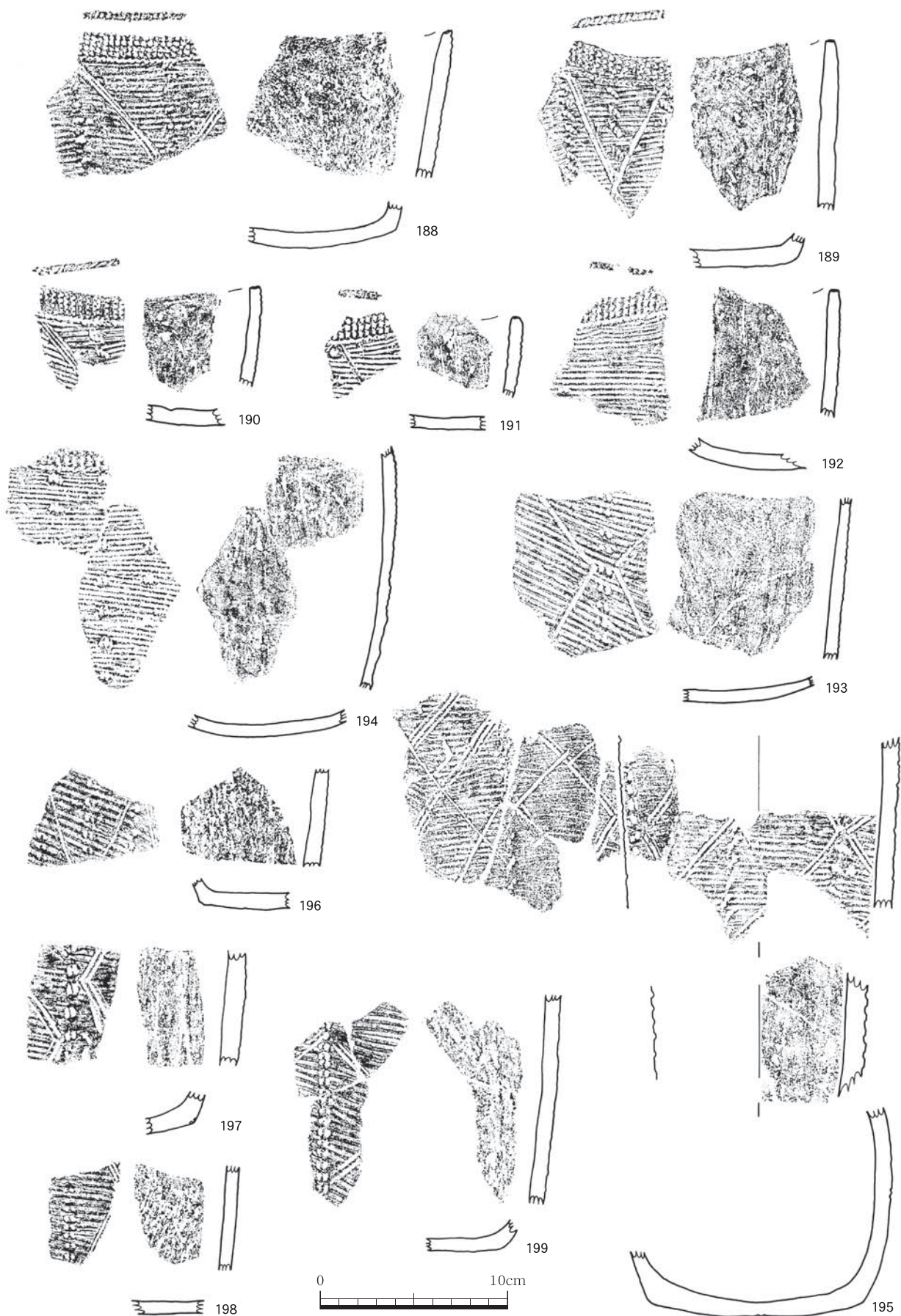
239～253は胴部の貝殻条痕文の上に直線文を施す角筒の口縁部及び胴部である。239は長さ1.5cmの補修孔がある。245～246は直線文が交差する。251は直線文が鋸歯状に施されている。

254～262は角筒の底部である。下部には縦位の条痕文が施されている。254は胴部に貝殻刺突文・流水文等が施されている。

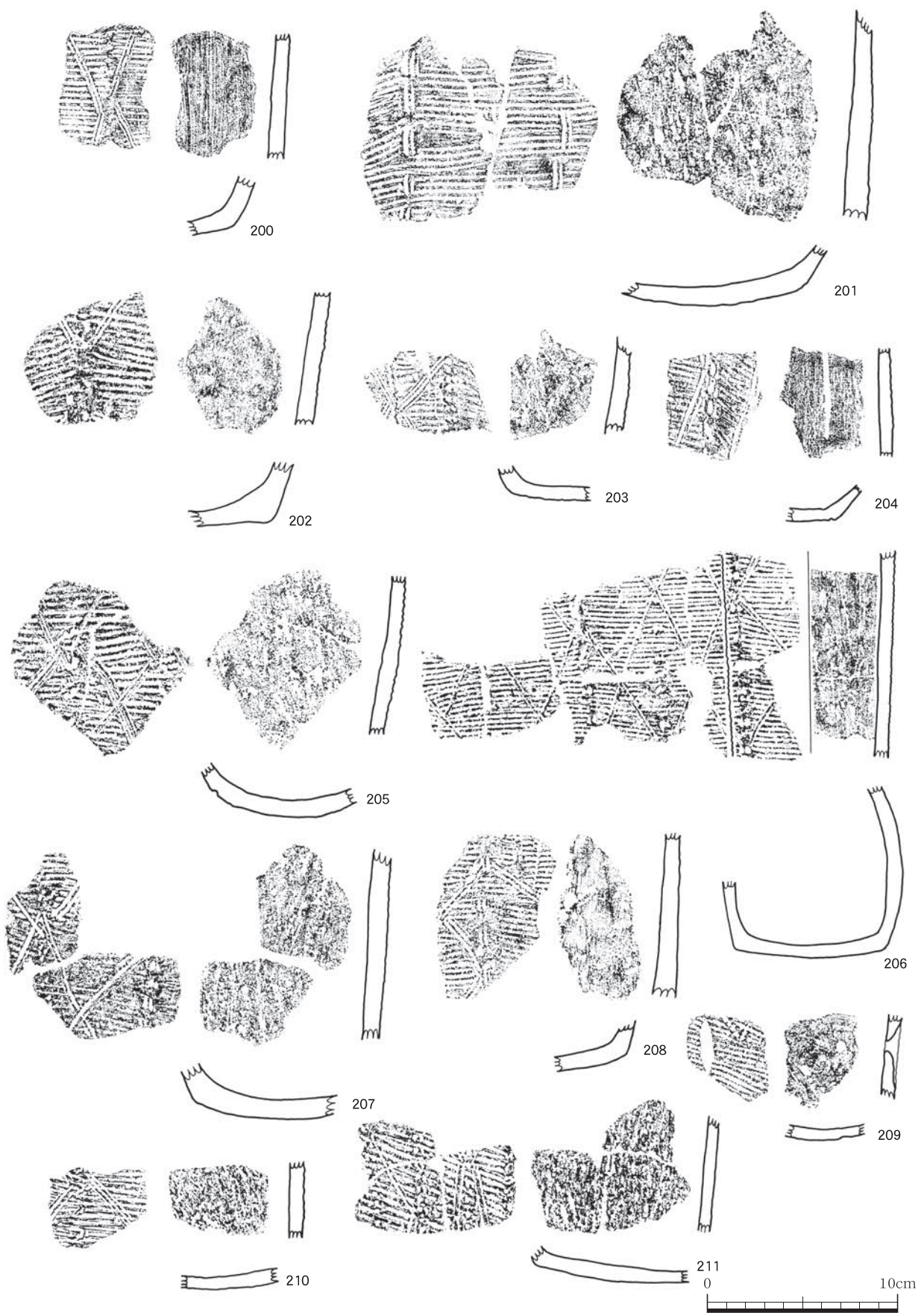
263・264はレモン形である。263は口縁部である。



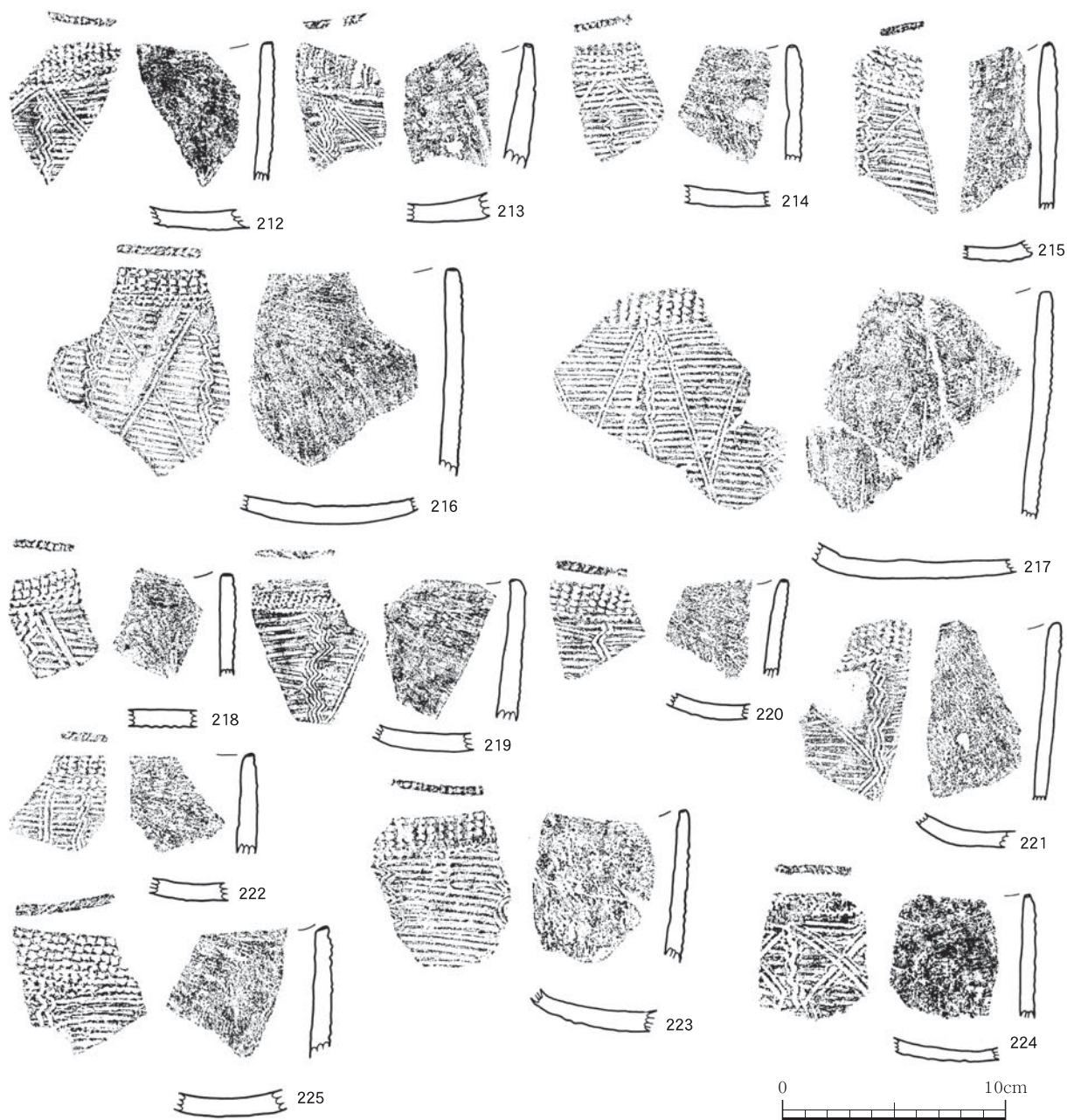
第31図 縄文時代早期土器(9)



第32図 縄文時代早期土器 (10)



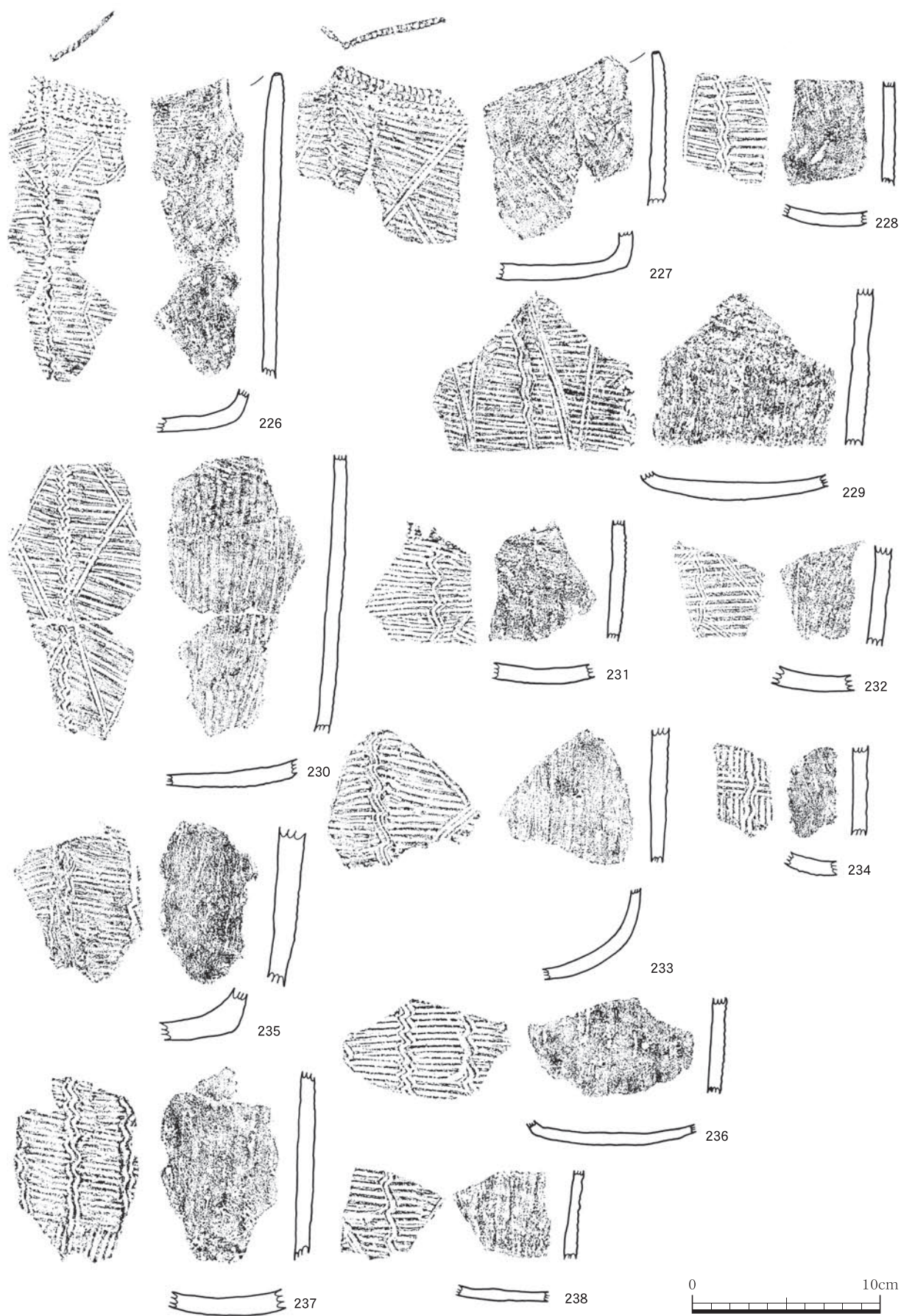
第33図 縄文時代早期土器 (11)



第34図 縄文時代早期土器(12)

口縁部には縦位の貝殻刺突文が廻り、地文は横位の貝殻条痕文で、胴部に流水文と直線文が施される。横断面では器壁が緩やかに弧状になるのが確認できる。264は口縁部から胴部である。底部は欠損しているもののほぼ完形で、横位の状態でW-21区から出土した。(第39図) 外面は、口縁部に縦位の貝殻刺突文が廻り、その下位に胴部との区切りに横位の

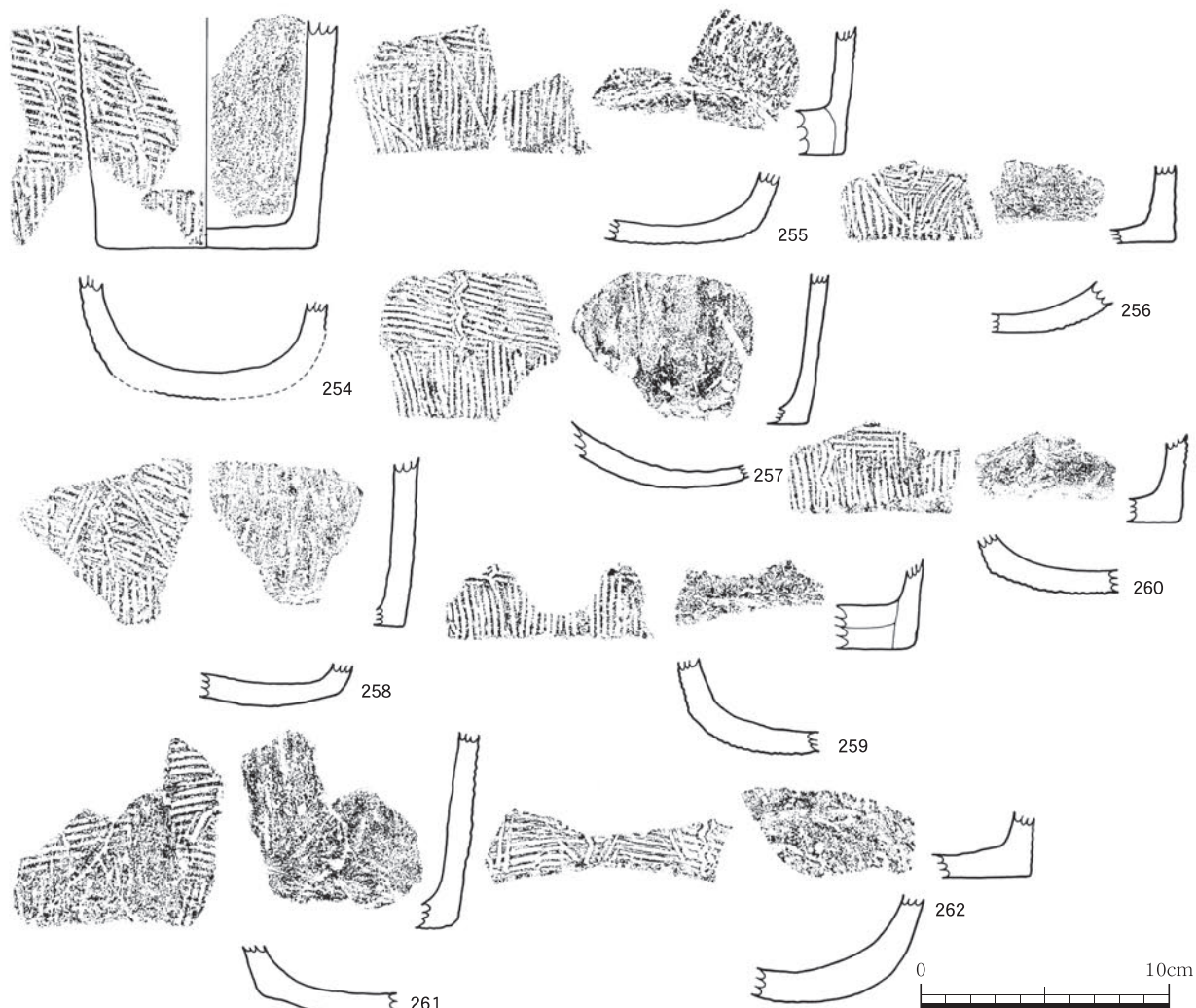
貝殻刺突文が1条施されている。地文は横位の貝殻条痕文で、口縁部下位に鋸歯状の直線文と等間隔に縦位の流水文が施されている。口縁部付近の隣り合う接合部分に外側から穿った円形の補修孔が認められた。破損部をつなぎ合わせたと考えられる。内面は、口縁部付近は横方向に、胴部では斜め方向にヘラケズリで調整されている。



第35図 縄文時代早期土器 (13)



第36図 縄文時代早期土器 (14)



第37図 縄文時代早期土器 (15)

縄文時代早期 土器観察表 Ⅲ類 (1)

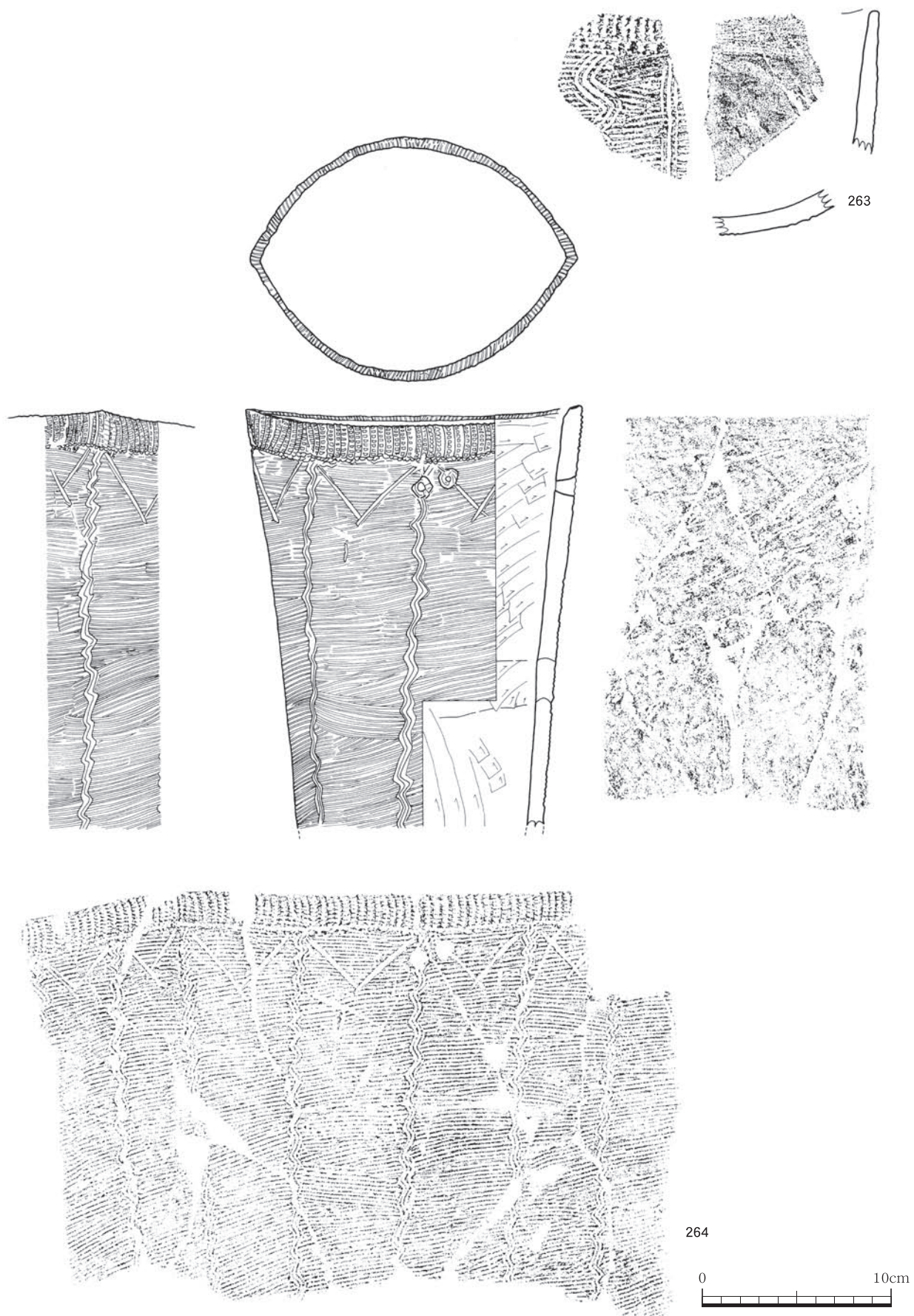
挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 26 図	116	Y-19	IV	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文, 流水文	ヘラケズリ	
	117	Y-19	IV	胴部	2.5Y7/4浅黄	10YR5/2灰黄褐	○				良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	118	Y-19	IV	口縁部	10YR3/2黒褐	7.5YR3/2黒褐		○			良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	119	Y-19	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/4浅黄	2.5Y5/3黄褐		○			良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	補修孔 (未貫通)
	120	Y-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	121	Y-19	IV	胴部	7.5YR5/3にぶい褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	122	Y-19	IV	胴部	10YR5/3にぶい黄褐	2.5Y5/3黄褐		○			良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	123	I-2	IV	口縁～ 胴部	5YR6/6橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	煤付着
	124	Y-19	IV	口縁部	7.5YR5/3にぶい褐	10YR3/3暗褐	○				良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	125	Y-19	IV	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐					良	貝殻条痕文, 貝殻刺突文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	126	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ	
	127	Y-19	IV	胴部	10YR4/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ	
	128	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	129	Y-19	IV	胴部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4黄橙	○				良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	130	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	131	Y-19	IV	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ	
	132	Y-19	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y7/4浅黄	○				良	貝殻条痕文, 流水文	ヘラケズリ後ナデ	

縄文時代早期 土器観察表 Ⅲ類（２）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第27図	133	Y-19	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	134	Y-19	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	135	Y-19	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	136	Y-18	Ⅲ	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	137	Y-19	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	138	Y-19	Ⅳ	口縁部	2.5Y5/2暗灰黄	2.5Y5/2暗灰黄		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	139	Y-19	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	140	Y-19	Ⅳ	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	141	Y-19	Ⅳ	胴部	2.5Y6/3にぶい黄	10YR6/6明黄褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	142	I-1	Ⅲ	底部	10YR6/3にぶい黄橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第28図	143	I-1	Ⅲ	底部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	144	Y-19	Ⅳ	底部	2.5Y5/3黄褐	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、流水文	ナデ	
	145	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR4/2灰褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	146	I-1	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	147	I-2	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	148	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	149	J-1	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	150	I-1	Ⅳ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/3にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	151	I-1	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	152	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
第29図	153	J-2	Ⅳ	口縁~胴部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	154	J-2	Ⅲ	底部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	155	I-2	Ⅳ	口縁~胴部	2.5Y7/4浅黄	2.5Y6/3にぶい黄					良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	156	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	157	I-1	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR4/1褐灰		○	○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	158	I-1	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰					良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	159	I-2	Ⅲ	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/3にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	160	I-2	Ⅳ	胴部	2.5Y5/3黄褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	161	J-2	Ⅳ	口縁部	2.5Y5/3黄褐	10YR5/3にぶい黄褐					良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	162	I-1	Ⅳ	胴部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	補修孔
	163	I-1	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	164	I-2	Ⅳ	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	165	I-1	Ⅳ	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
第30図	166	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐		○	○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	167	I-2	Ⅳ	胴部	10YR4/2灰黄褐	7.5YR5/4にぶい褐					良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	168	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	169	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	170	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR4/3褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	171	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙		○	○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	172	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	173	I-1	Ⅳ	胴部	2.5Y6/4にぶい黄	2.5Y4/1黄灰		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	174	I-1	Ⅳ	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	175	I-1	Ⅳ	胴部	2.5YR5/6明赤褐	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
第31図	176	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	177	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	178	I-2	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	179	I-1	Ⅳ	口縁部	5YR5/6明赤褐	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	180	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	補修孔
	181	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR3/1黒褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	182	I-1	Ⅳ	口縁部	2.5YR4/6赤褐	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	183	I-2	Ⅳ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	184	I-2	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	185	I-2	Ⅳ	口縁部	10YR3/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	186	I-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/6明赤褐	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	187	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR6/6明黄褐	10YR3/2黒褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
第32図	188	I-1	Ⅳ	口縁部	2.5YR4/6赤褐	2.5YR4/6赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	189	I-1	Ⅴ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	190	J-2	Ⅳ	口縁部	7.5YR8/6浅黄橙	10YR6/6明黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	191	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	192	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	193	I-1	Ⅳ	胴部	5YR5/6明赤褐	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	194	I-2	Ⅳ	口縁~胴部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	195	I-2	Ⅳ	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	196	I-2	Ⅲ	胴部	5YR6/6橙	5YR6/8橙	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	197	I-2	Ⅲ	胴部	5YR4/6赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	198	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	199	I-2	Ⅳ	胴部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
第33図	200	I-1	Ⅳ	胴部	10YR4/2灰黄褐	2.5YR4/4にぶい赤褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	201	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		○	○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	202	I-2	Ⅳ	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	203	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	204	I-1	Ⅳ	胴部	2.5Y6/3にぶい黄	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	

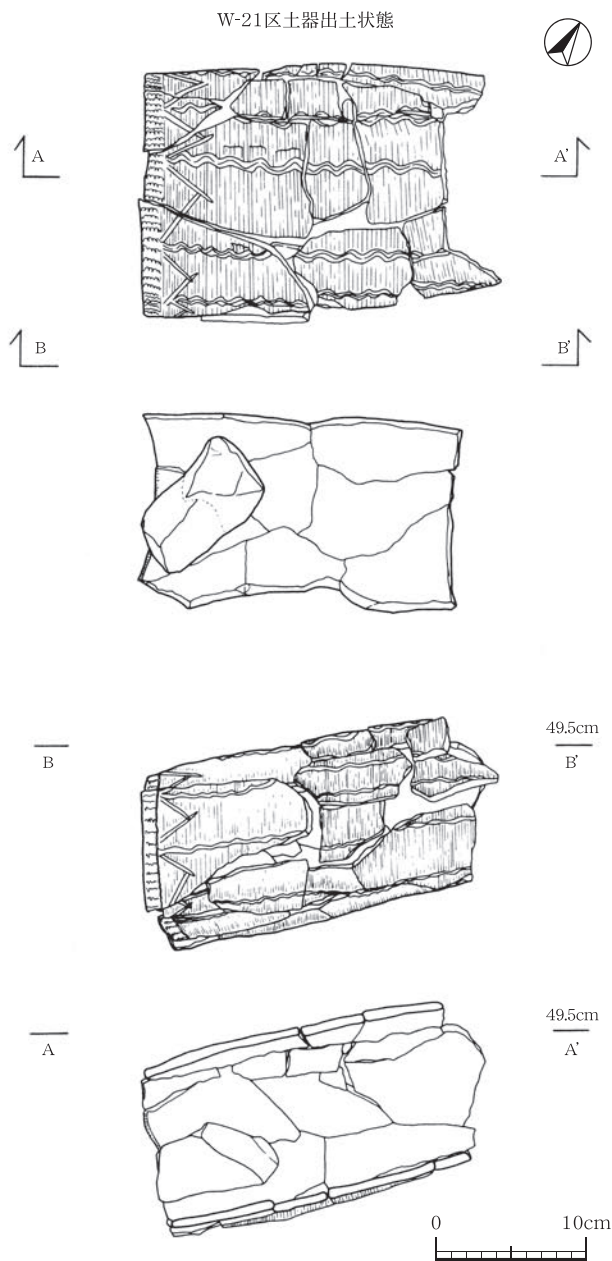
縄文時代早期 土器観察表 Ⅲ類(3)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第33図	205	Y-19	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	206	I-2	Ⅳ	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	207	I-2	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	5YR7/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	208	I-2	Ⅳ	胴部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	209	I-2	Ⅳ	胴部	10YR4/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	補修孔
	210	I-1	Ⅳ	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
第34図	211	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	212	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	213	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y7/4浅黄		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	214	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/3にぶい赤褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	215	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR4/4にぶい赤褐	10YR3/2黒褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	216	J-2	Ⅴ	口縁部	2.5YR6/6橙	2.5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	217	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	218	J-1	Ⅳ	口縁部	5YR4/4にぶい赤褐	5YR3/1黒褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	219	I-1	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR3/1黒褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	220	J-2	Ⅳ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y5/3黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	221	J-2	Ⅲ	口縁部	7.5YR7/6橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	222	J-2	Ⅲ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	223	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	224	I-1	Ⅲ	口縁部	5YR4/3にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
第35図	225	I-1	Ⅳ	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR3/2暗赤褐	○		○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	226	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	227	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	228	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR3/2黒褐		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	229	I-2	Ⅳ	胴部	2.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	230	I-2	Ⅳ	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	231	I-2	Ⅰ	胴部	2.5Y7/4浅黄	5Y2/1黒		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	232	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	○				良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	233	I-1	Ⅲ	胴部	7.5YR4/1褐灰	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	234	I-1	Ⅳ	胴部	7.5YR7/6橙	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	235	I-2	Ⅳ	胴部	2.5Y7/4浅黄	2.5Y6/4にぶい黄	○				良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	236	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐					良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	237	I-2	Ⅳ	胴部	7.5YR5/2灰褐	5YR6/6橙					良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ後ナデ	
	238	I-2	Ⅳ	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4黄橙		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ	
第36図	239	I-1	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	補修孔
	240	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR4/4褐	5YR3/4暗赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	241	J-2	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	242	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	243	Y-19	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/4にぶい赤褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	244	J-2	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR4/4褐			○		良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	245	J-2	Ⅳ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	246	J-2	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR3/3暗褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	247	J-2	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	248	J-2	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	249	I-1	Ⅳ	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	250	J-2	Ⅳ	口縁部	2.5Y6/4にぶい黄	2.5Y5/3黄褐	○				良	貝殻条痕文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	251	I-2	Ⅳ	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	252	Y-19	Ⅳ	胴部	5YR4/4にぶい赤褐	2.5YR5/8明赤褐	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	253	SS1102	Ⅰ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第37図	254	I-2	Ⅳ	底部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	255	I-2	Ⅳ	底部	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	256	I-2	Ⅳ	底部	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR4/4にぶい赤褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	257	J-2	Ⅳ	底部	10YR4/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○				良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ	
	258	I-2	Ⅳ	底部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、貝殻刺突文、流水文	ヘラケズリ	
	259	I-1	Ⅲ	底部	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	260	I-2	Ⅳ	底部	10YR4/1褐灰	10YR6/6明黄褐	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	261	I-1	Ⅳ	底部	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR4/6赤褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	262	I-2	Ⅳ	底部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR6/6橙		○			良	貝殻条痕文、流水文	ヘラケズリ	
第38図	263	Y-19	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4黄橙	○				良	貝殻条痕文、流水文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	264	W-21	Ⅳ	口縁~胴部	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	貝殻条痕文、流水文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	補修孔



第38図 縄文時代早期土器 (16)

W-21区土器出土状況



第39図 縄文時代早期土器出土状況図

IV類土器（第40図～第42図）

IV類土器は、口縁部に横位の貝殻刺突文、胴部に横位あるいは斜位の貝殻押引文を施し、その上から貝殻刺突文を重ねているものである。また、クサビ形貼付文を有するものもある。器形は円筒と角筒がある。

265～271はクサビ形貼付文を有する円筒の口縁部で、口縁部は直行する。266はクサビ形貼付文間に1.8cmの補修孔が外面より穿たれている。265・269・270はクサビ形貼付文間に縦位や斜位の貝殻刺突文を直線状に施している。267・268・271は口縁がやや外反し、クサビ形貼付文間に横位の貝殻押引文が施されている。

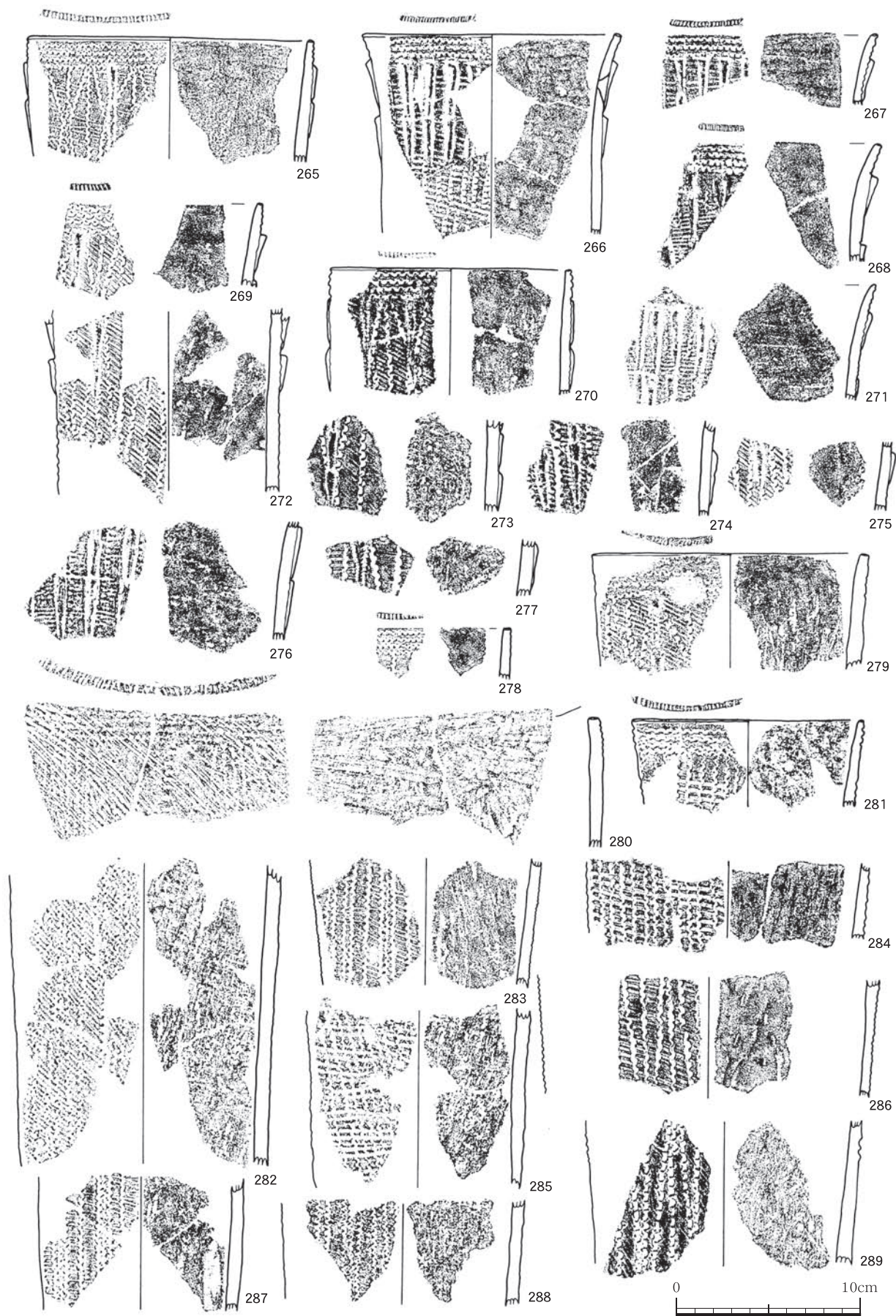
272～277はクサビ形貼付文がある円筒の胴部である。272・273・275は斜位の貝殻押引文を施し、その上から貝殻刺突文を重ねている。274・276はクサビ形貼付文間に横位の貝殻押引文のみ施されている。

278～281はクサビ形貼付文のない円筒の口縁部である。280は口唇部が波状で、外面は口縁部から胴部まで斜位の貝殻押引文を施している。その上から口縁部に横位の貝殻刺突文を3条廻らし、胴部には縦位の刺突文が施されている。281は口縁部に横位の貝殻刺突文、胴部は縦位の貝殻刺突文と横位の貝殻押引文を施す。

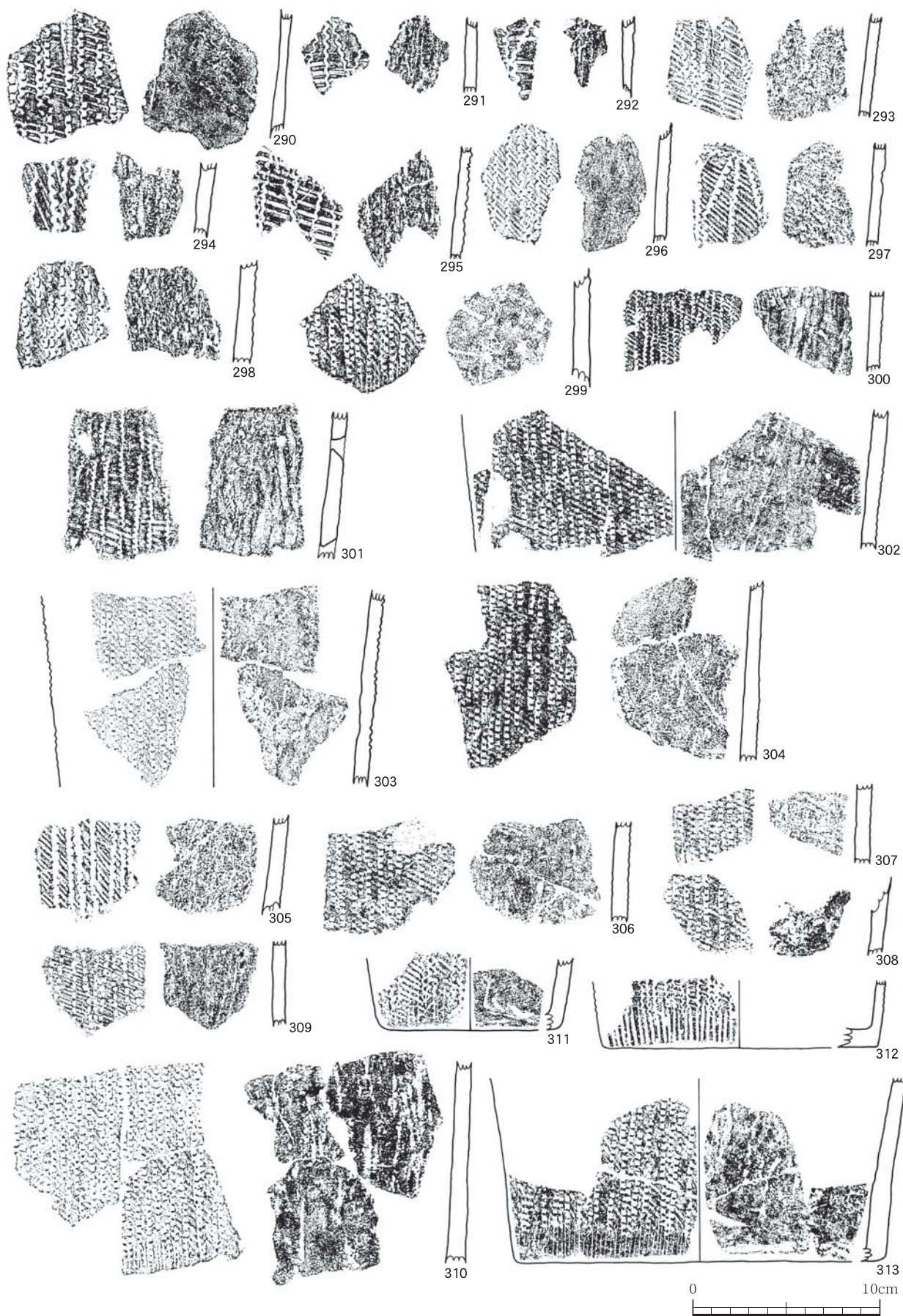
282～310は円筒の胴部である。横位または斜位の貝殻押引文の上に貝殻刺突文を重ねている。301は補修孔が上下に2つ、4cm間隔で穿たれており、下部は補修孔部分で破損している。

311～313は円筒の底部である。底部から胴部に向けて、縦位の沈線文が廻る。311は斜位の貝殻押引文の上から、3条ずつをひとまとまりとして縦位の貝殻刺突文が等間隔で施されている。

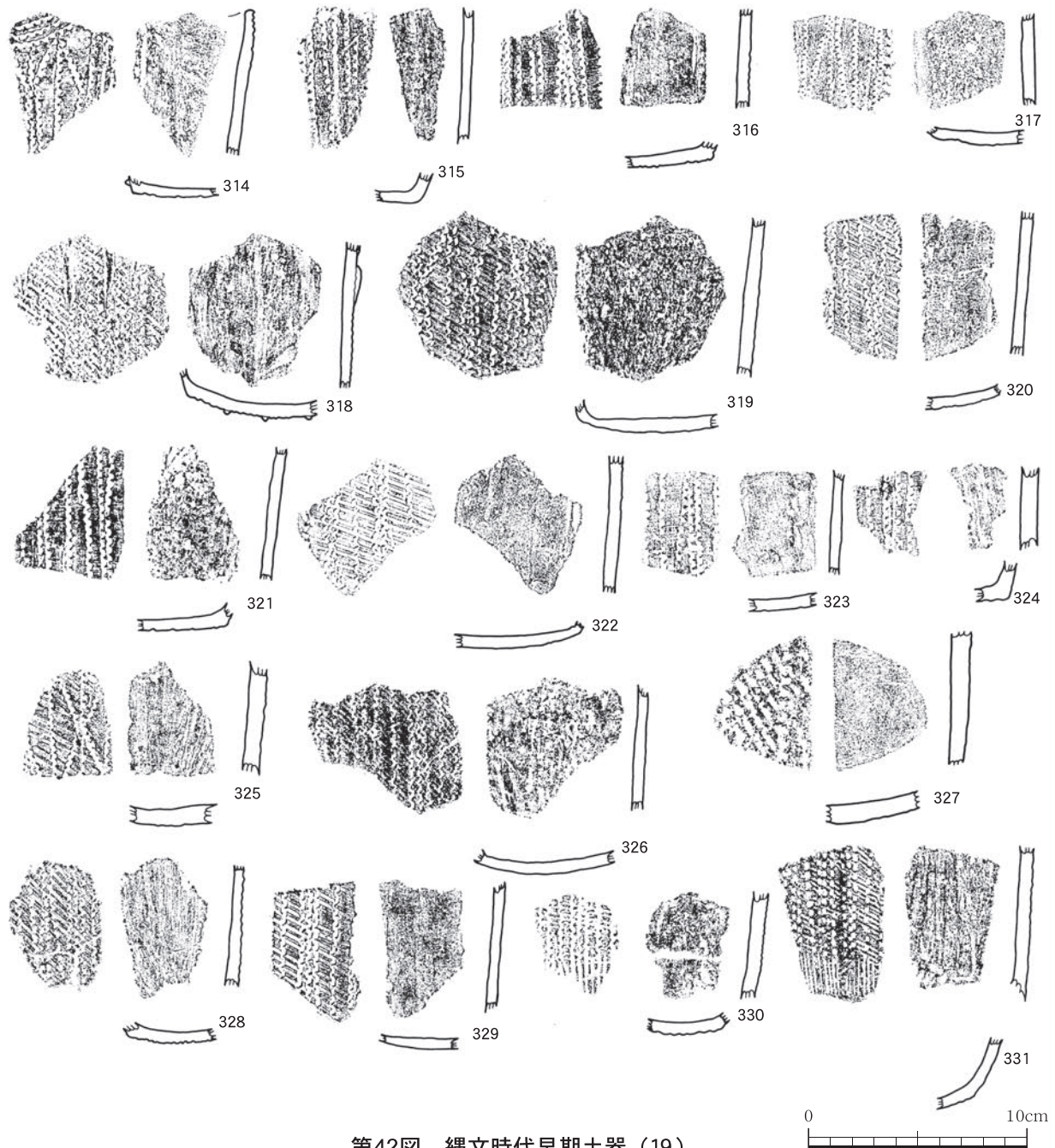
314～331は角筒である。314は口縁部で、角部に向かって波状になり、クサビ形貼付文を有する。315～329は胴部である。318はクサビ形貼付文を有し、縦位の貝殻刺突文が密に施されている。319・325は斜位の貝殻刺突文が交差する。330・331は底部である。胴部には斜位の貝殻押引文と縦位の貝殻刺突文、底部から胴部にかけては縦位の沈線が施されている。



第40図 縄文時代早期土器 (17)



第41図 縄文時代早期土器 (18)



第42図 縄文時代早期土器 (19)

V類土器 (第43図～第49図)

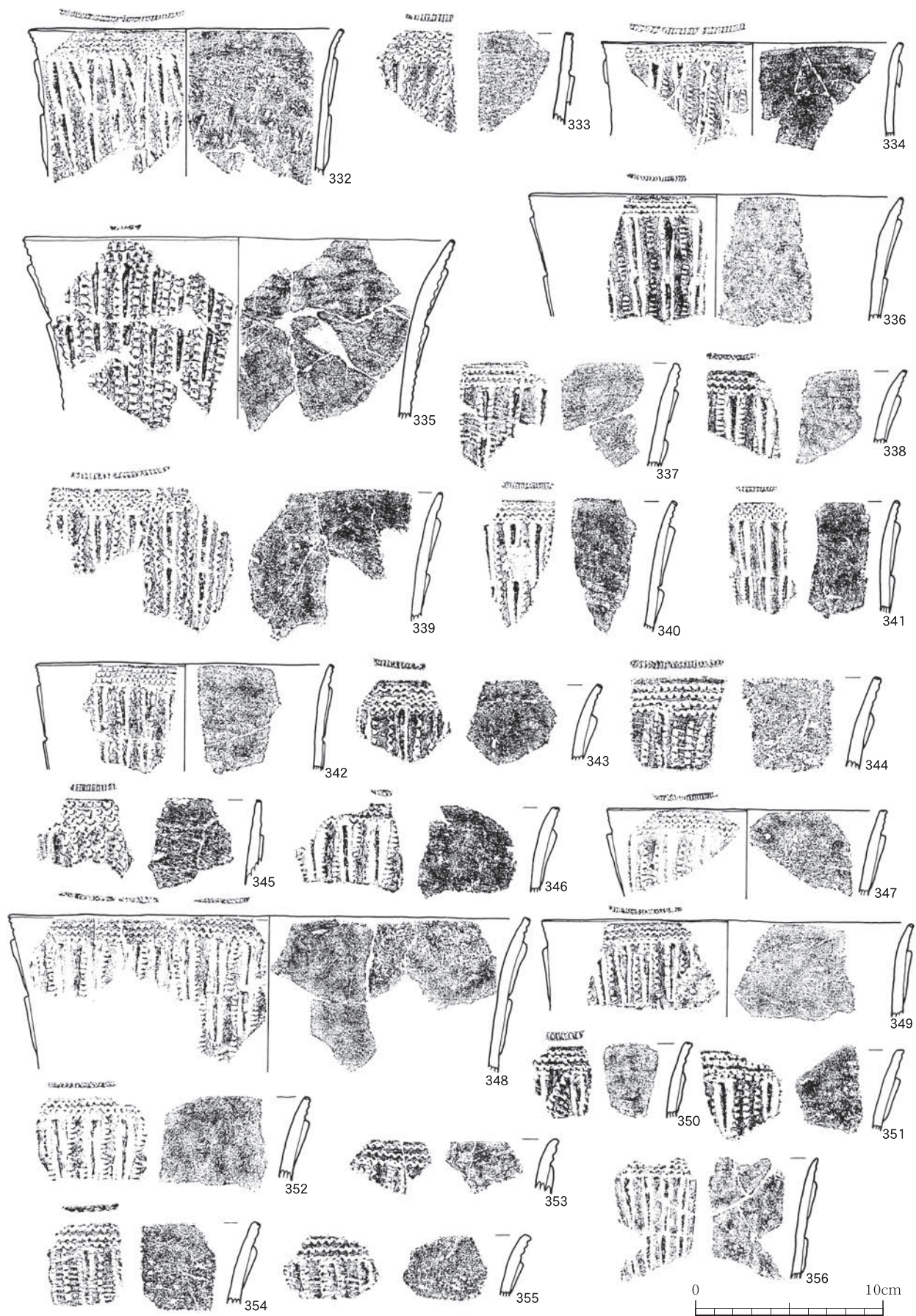
V類土器は、口縁部には横位の刺突文を数条廻らし、胴部には縦位または斜位の貝殻刺突文・貝殻押圧文を施すものである。また、胴部にクサビ形貼付文を有するものもある。器形は、口縁部が外反する円筒になる。

332～376はクサビ形貼付文のある口縁部である。口唇部に刻目を施し、口縁部には横位の貝殻刺突文を数条廻らしている。胴部には断面が三角形のクサビ形貼付文を2列に施し、クサビ形貼付文間や胴部

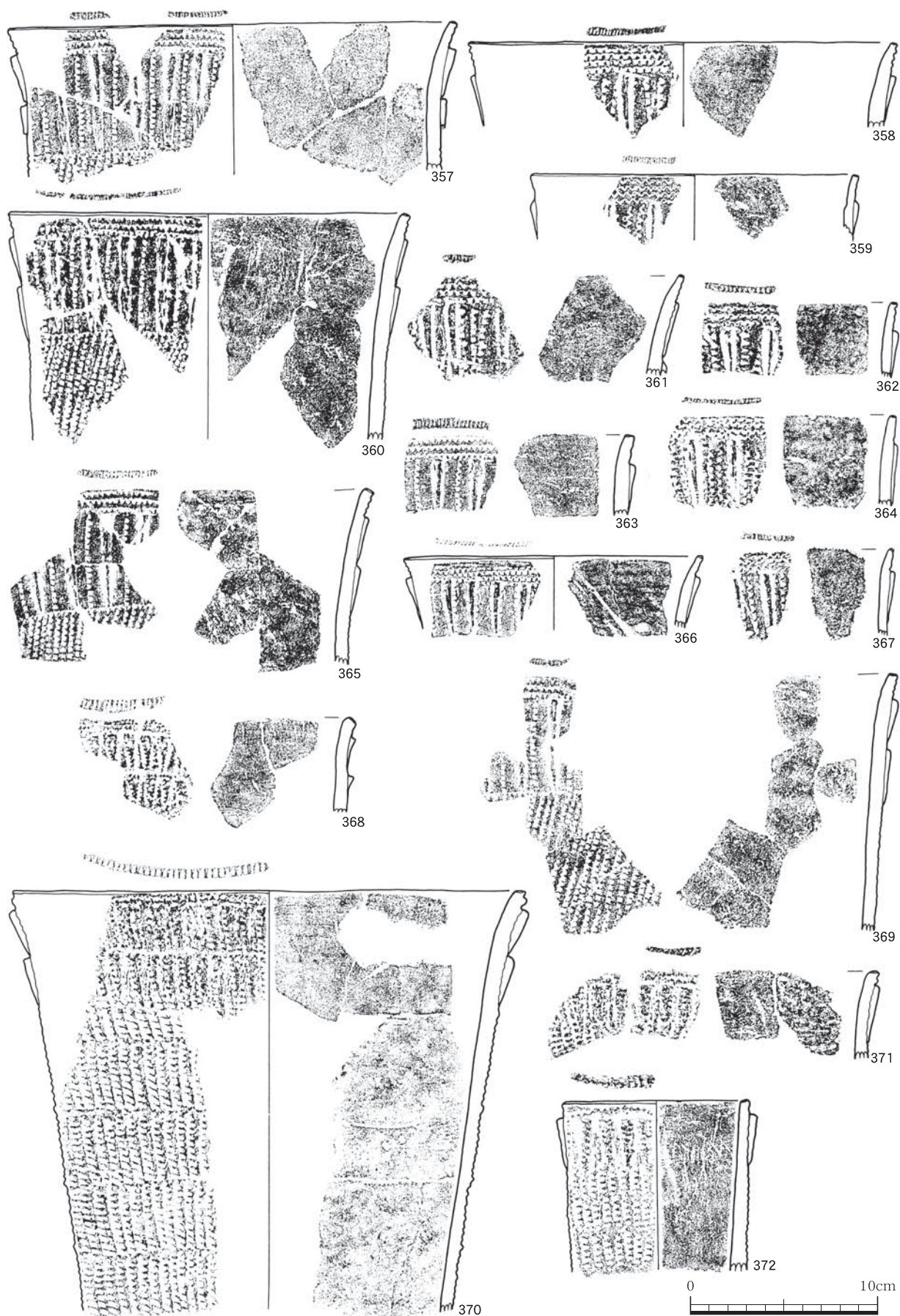
に縦位の貝殻刺突文・貝殻押圧文を施す。332は上下2段のクサビ形貼付文のうち、上段がN字状に取り付けられている。334はクサビ形貼付文左側に貝殻刺突文、右側に沈線文が施されている。345はクサビ形貼付文の間隔が広く、刺突文が縦位と斜位で4～5条ほど施されている。339・342・347はクサビ形貼付文上部に爪状の刺突文が施されている。350はクサビ形貼付文間に斜位の刺突文が施されている。353～355は胴部とクサビ形貼付文で土の色調が異なり、故意に別々の土を用いている可能性がある。

縄文時代早期 土器観察表 IV類

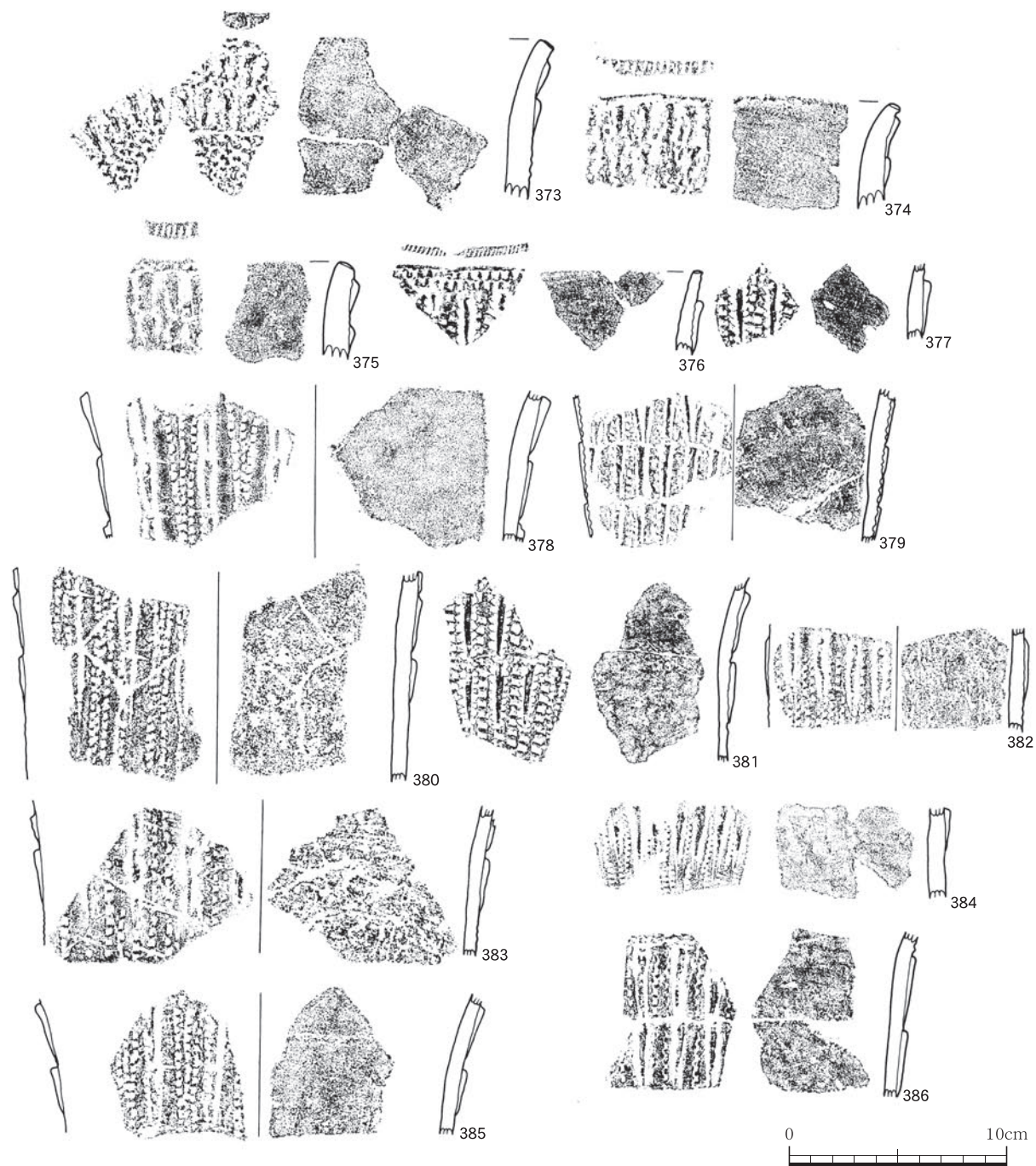
挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 40 図	265	Z-18	IV	口縁部	7. 5YR5/4にぶい褐	10YR7/4にぶい黄橙		○	○		良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	266	Y-17	IV	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	7. 5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	補修孔
	267	Z-18	IV	口縁部	10YR3/2黒褐	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	268	Y-18	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	7. 5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	269	Z-19	V	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	270	Z-18	IV	口縁部	7. 5YR7/6橙	7. 5YR7/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	271	Z-19	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR7/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	272	Y-18	IV	胴部	10YR4/3にぶい黄褐	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	273	Y-17	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	274	Y-18	IV	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	275	Z-19	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	276	Y-18, SUT-3	IV	胴部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	277	Y-17	IV	胴部	7. 5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	278	Z-19	IV	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR3/1黒褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	279	Y-17	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	2. 5YR5/4にぶい赤褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	280	Y-17	IV	口縁部	2. 5Y6/3にぶい黄	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	281	I-1	IV	口縁部	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	282	Y-18	IV	胴部	7. 5YR3/3暗褐	5YR5/4にぶい赤褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	283	Y-18	IV	胴部	7. 5YR6/3にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	284	Y-18	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	7. 5YR6/6橙	○				良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	285	Y-18	III	胴部	10YR3/2黒褐	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	286	Y-18	V	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	287	Y-18	IV	胴部	10YR6/6明黄褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	288	Y-18	IV	胴部	10YR4/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	289	Y-18	V	胴部	7. 5YR7/6橙	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
第 41 図	290	Y-18	IV	胴部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	291	Y-18, SUT-3	IV	胴部	10YR5/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	292	Y-18	III	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	293	Y-18	IV	胴部	7. 5YR6/4にぶい橙	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	294	Y-18	IV	胴部	7. 5YR6/4にぶい橙	7. 5YR6/6橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	295	Y-18	IV	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	296	Y-18	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	2. 5YR6/6橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	297	Y-18	IV	胴部	7. 5YR7/6橙	7. 5YR6/6橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	298	Z-18	IV	胴部	7. 5YR6/4にぶい橙	7. 5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	299	Z-19	IV	胴部	7. 5YR5/3にぶい褐	5YR5/4にぶい赤褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	300	Y-18	IV	胴部	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	301	Y-18	IV	胴部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	補修孔
	302	Y-18	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	7. 5YR5/3にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	303	Z-19	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	304	Y-18	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	7. 5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	305	Y-18	III	胴部	7. 5YR7/6橙	7. 5YR6/6橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	306	Z-18	V	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	307	Z-18	IV	胴部	10YR5/3にぶい黄褐	7. 5YR5/3にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	308	Z-18	III	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/3にぶい橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	309	Y-18	IV	胴部	7. 5YR7/6橙	10YR3/1黒褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	310	Z-18	IV	胴部	7. 5YR6/4にぶい橙	7. 5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	311	Y-18	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	312	Y-18	IV	底部	10YR3/1黒褐	2. 5Y6/3にぶい黄		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	313	Z-18	IV	胴～底部	7. 5YR5/4にぶい褐	5YR6/6橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
第 42 図	314	Y-18	IV	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	315	Y-18	IV	胴部	2. 5Y7/4浅黄	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	316	Y-18	IV	胴部	7. 5YR6/4にぶい橙	10YR5/2灰黄褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	317	Z-19	IV	胴部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR3/2黒褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	318	Y-18	V	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	319	Y-18	IV	胴部	2. 5Y3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	320	Y-18	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	7. 5YR4/2灰褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	321	Y-18	IV	胴部	2. 5Y3/2黒褐	7. 5YR6/4にぶい橙	○				良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	322	Y-18	IV	胴部	5YR6/6橙	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	323	Y-18	IV	胴部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	324	Y-18	IV	胴部	10YR3/1黒褐	7. 5YR6/6橙	○				良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	325	Y-18	IV	胴部	10YR3/2黒褐	7. 5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	326	Y-18	IV	胴部	10YR4/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	327	Y-18	II	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	7. 5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	328	Y-18	IV	胴部	2. 5Y2/1黒	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	329	Y-18	IV	胴部	7. 5YR5/4にぶい褐	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	330	Z-18	IV	底部	10YR5/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	331	Y-18	IV	底部	7. 5YR2/1黒	7. 5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻押引文、貝殻刺突文	ヘラケズリ	



第43図 縄文時代早期土器 (20)



第44図 縄文時代早期土器 (21)

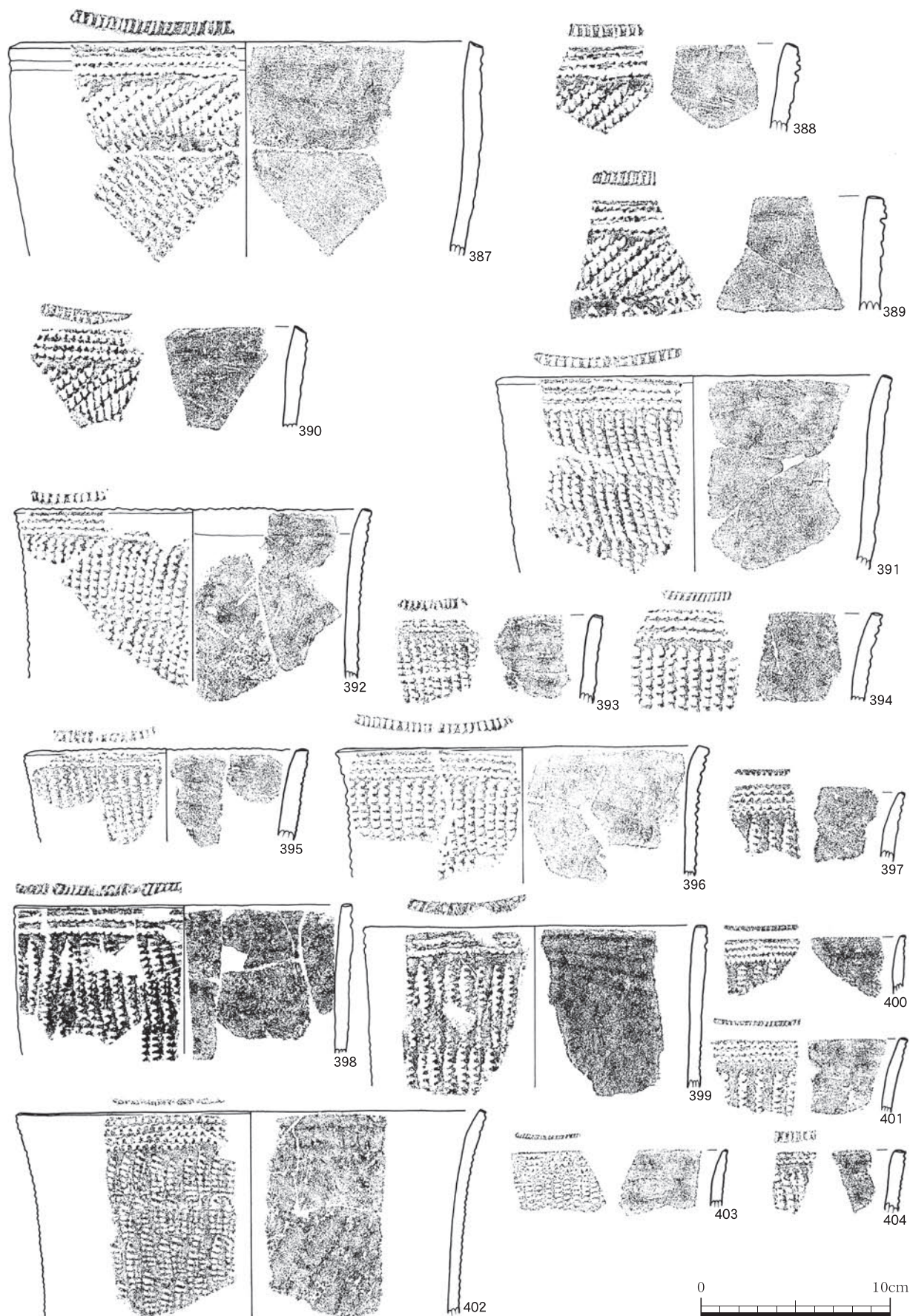


第45図 縄文時代早期土器 (22)

る。357・360・365はいずれもクサビ形貼付文側に沈線，クサビ形貼付文間に貝殻押圧文，胴部に斜位の貝殻刺突文が施されており，同一個体の可能性がある。368はクサビ形貼付文の長さが約1.5cmと小形で，密に施されている。370は胴部まで接合したもので，クサビ形貼付文の上部に刺突文，側面に貝殻押圧文が施されている。胴部には縦位の貝殻押圧文が段状に廻り，境目が明確に残る。372はクサビ形

貼付文が一行のみで作りが円錐状である。373～375はクサビ形貼付文が丸みを帯び，大きさがふぞろいで作りも粗い。クサビ形貼付文間及び胴部に縦位の貝殻刺突文を施し，同一個体の可能性がある。

377～386はクサビ形貼付文のある胴部である。377はクサビ形貼付文間に貝殻押圧文を施し，内面調整をヘラミガキで仕上げている。378～380はクサビ形貼付文が3段に貼り付けられている。379は



第46図 縄文時代早期土器 (23)

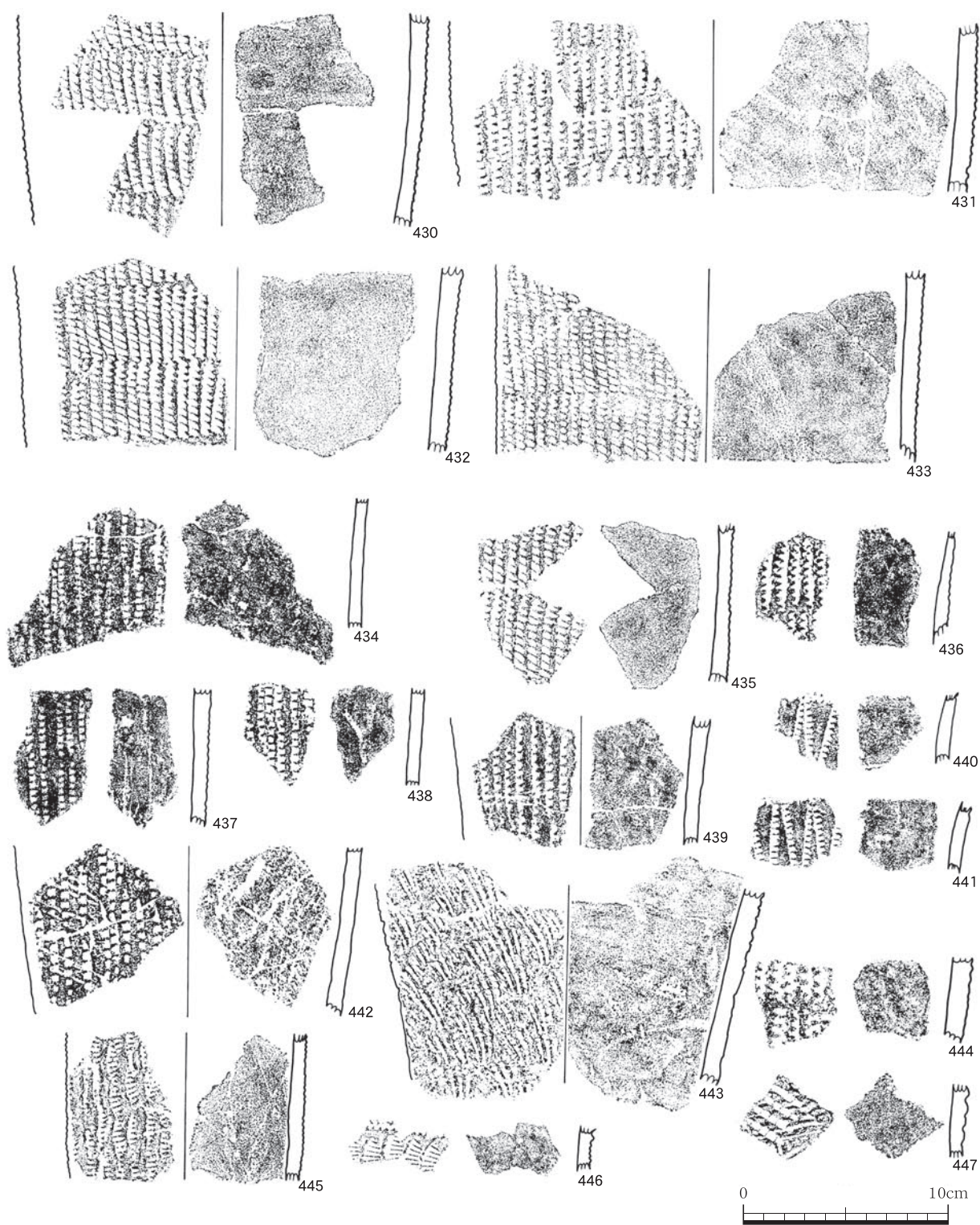


第47図 縄文時代早期土器 (24)

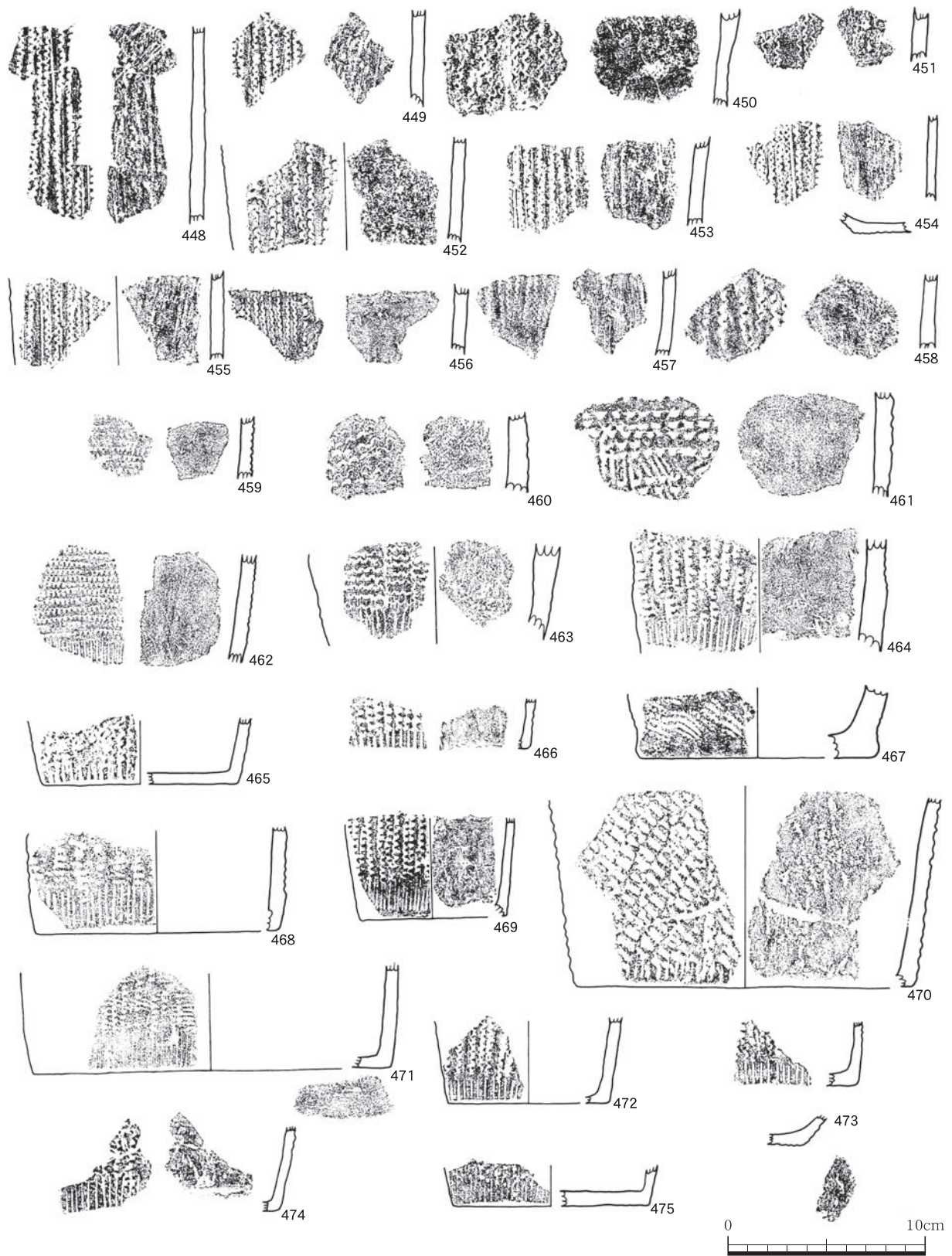
クサビ形貼付文の上部1段目がN字状に配されている。381はクサビ形貼付文間に縦位の貝殻押圧文が、382～386はクサビ形貼付文間に縦位の貝殻刺突文が施される。

387～429はクサビ形貼付文のない口縁部である。387～390は口縁部に横位の貝殻刺突文を、胴部に斜

位の貝殻押圧文を施す。391～423は口縁部に横位の貝殻刺突文を、胴部に縦位の貝殻刺突文や貝殻押圧文を施す。411は外面から未貫通の補修孔がある。418は口縁部に横位の刺突文と押圧文を廻らし、胴部は縦位の刺突文と押圧文が交互に施されている。421は胴部に斜位の貝殻刺突文を4条ひとまとまり



第48図 縄文時代早期土器 (25)



第49図 縄文時代早期土器 (26)

縄文時代早期 土器観察表 V類(1)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第43図	332	Y-18	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR3/2暗赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	333	Y-18	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	334	Y-18	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	335	Y-17	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	336	Y-18	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	337	Y-18	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	338	Y-18	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	339	Y-18	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	340	Z-19	IV	口縁部	7.5YR4/3褐	7.5YR4/2灰褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	341	Z-18	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/3にぶい褐	○				良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	342	Y-18	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	343	Y-18	IV	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	344	Y-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	345	Y-18	V	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR3/1黒褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	346	Z-18	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	347	Y-18	IV	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR4/2灰褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	348	Y-18	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	349	Y-18	IV	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	350	Y-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
第44図	351	Y-18	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	352	Y-18	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/3褐	○				良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	353	Y-18	IV	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	354	Y-18	III	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	355	Y-18	IV	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	356	Z-18	III	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	357	Y-18	III、IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	358	Y-18	III	口縁部	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	359	Z-19	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	360	Y-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	361	Y-18	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/2灰褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	362	Z-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	363	Y-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	364	Y-18, SUT-3	IV	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	365	Z-18	IV	口縁部	2.5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
第45図	366	Z-18	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	367	Y-18	V	口縁部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	368	SS1102	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	369	Y-18, Z-18	IV	口縁部	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	370	Z-18	口縁～胴部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文、貝殻押圧文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	371	Y-18	III	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	372	Z-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR3/1黒褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	373	Y-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	374	Y-18	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	375	SS1102	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	376	Z-19	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	2.5Y5/3黄褐					良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	377	Z-19	IV	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/2灰褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	378	Y-17	IV	胴部	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	379	Y-17	IV	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	10YR4/3にぶい黄褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	380	Y-18	IV	胴部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
第46図	381	Y-17	IV	胴部	5YR6/6橙	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文、クサビ形貼付文	ヘラミガキ	
	382	Y-17	III	胴部	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	383	Y-18	IV	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	384	Y-17	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	385	Y-17	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ	
	386	X-21	IV	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/3にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、クサビ形貼付文	ヘラケズリ後ナデ	
	387	SUT-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/2灰褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	388	Z-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	389	Z-19	IV	口縁部	2.5YR5/3黄褐	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	390	Y-18	IV	口縁部	2.5YR4/2暗灰黄	10YR3/1黒褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	391	Y-18	III、IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	392	Y-18	IV	口縁部	2.5Y4/2暗灰黄	2.5Y3/1黒褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	393	Z-19	IV	口縁部	2.5Y4/2暗灰黄	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	394	Z-19	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	395	Z-19	IV	口縁部	2.5Y5/3黄褐	2.5Y4/1黄灰	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
第47図	396	Z-19	IV	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR3/1黒褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	397	Z-19	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	398	Y-18	IV、V	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	399	Y-18	IV	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	400	Z-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	401	Z-19	IV	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	402	Y-18	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	403	Z-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	
	404	Z-19	III	口縁部	2.5YR5/3黄褐	2.5YR5/3黄褐	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラケズリ	

縄文時代早期 土器観察表 V 類 (2)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 47 図	405	Z-19	V	口縁部	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	煤付着
	406	Y-18	V	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/5にぶい橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	407	Z-19	IV	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	408	Z-19	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	409	Z-19	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラミガキ	
	410	Z-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/1褐灰		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	411	Z-19	IV	口縁部	2.5YR4/2暗灰黄	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	補修孔(未貫通)
	412	Z-19	IV	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	○	○			良	具殻押圧文	ヘラミガキ	
	413	Y-18	III	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	414	Z-19	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ	
	415	Y-18	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	416	Z-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	417	Z-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	418	Z-19	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	419	Z-19	—	口縁部	10YR5/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラミガキ	
	420	Z-19	—	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラミガキ	
	421	Z-19	III	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	422	Y-17	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐					良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	423	Y-18	III	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	424	Y-18	IV	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	425	Z-19	III	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR3/2黒褐		○			良	具殻刺突文	ヘラミガキ	
	426	Z-19	III	口縁部	10YR4/3にぶい黄褐	2.5Y3/1黒褐		○			良	具殻刺突文	ヘラミガキ	
	427	Z-19	III, IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラミガキ	
	428	Z-19	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	具殻刺突文	ヘラミガキ	
	429	Z-18	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐					良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
第 48 図	430	Z-18	IV	胴部	5YR5/6明赤褐	7.5YR3/1黒褐		○			良	具殻押圧文	ヘラケズリ	
	431	Z-18	IV	胴部	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻押圧文	ヘラケズリ	
	432	Z-18	IV	胴部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	具殻押圧文	ヘラケズリ	
	433	Z-18	III, IV	胴部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	○				良	具殻押圧文	ヘラケズリ後ナデ	
	434	Z-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	435	Z-18	IV	胴部	2.5YR6/6橙	2.5YR5/6明赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	436	Y-18	IV	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR4/3にぶい黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	437	Z-18	IV	胴部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	438	Z-18	IV	胴部	7.5YR7/6橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	439	Y-18	IV	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	440	Y-18	IV	胴部	2.5YR4/6赤褐	2.5YR4/6赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	441	Y-18	III	胴部	2.5YR4/6赤褐	2.5YR4/6赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	442	Y-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	443	Z-19	IV	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	444	SS1102	IV	胴部	5YR4/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	445	Z-18	IV	胴部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	具殻押圧文	ヘラケズリ	
	446	Z-19	IV	胴部	5YR6/6橙	10YR4/2灰黄褐		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ	
	447	Z-18	III	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
第 49 図	448	Y-18	III, IV	胴部	10YR7/6明黄褐	7.5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	449	Y-18	IV	胴部	2.5Y4/2暗灰黄	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	450	Z-18	IV	胴部	10YR4/2灰黄褐	10YR3/1黒褐	○				良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	451	Y-18	IV	胴部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	452	Y-18	IV	胴部	2.5Y6/4にぶい黄	10YR4/1褐灰		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	453	Z-18	IV	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	454	Y-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	455	Y-18	IV	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	2.5Y3/1黒褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	456	Y-18	III	胴部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/1褐灰		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	457	Y-18	IV	胴部	7.5YR4/2灰褐	5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	458	Y-18	IV	胴部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/3にぶい褐					良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	459	Z-19	IV	胴部	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	460	Z-18	IV	胴部	10YR3/1黒褐	5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	461	Z-18	IV	胴部	2.5YR4/3にぶい赤褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	462	Z-19	III	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	463	Y-18	IV	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	464	Z-19	IV	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	465	Z-18	IV	底部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	466	Y-18	IV	底部	2.5Y4/2暗灰黄	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	467	Y-23	IV	底部	10YR5/3にぶい黄褐	2.5Y5/3黄褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	468	Z-19	IV	底部	5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	469	Z-18	IV	底部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	470	Z-19	III	底部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文、具殻押圧文	ヘラケズリ	
	471	Z-19	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	472	Y-18	V	底部	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	473	Y-18	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	474	Z-18	IV	底部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	○				良	具殻刺突文	ヘラケズリ	
	475	Z-18	IV	底部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	具殻刺突文	ヘラケズリ	

とし、ブロック状に施文している。424～426は口縁部から胴部まで縦位の貝殻刺突文のみ施している。424は口唇部が平坦であるが内傾している。工具等で削ったと考えられる。427～429は口縁部から胴部にかけて、横位の貝殻刺突文のみ施される。

430～464は胴部で、縦位や斜位の貝殻刺突文・貝殻押圧文を廻らす。443は斜位の貝殻刺突文を数条ずつ、等間隔に施している。459～463は横位の貝殻刺突文を廻らす。459・462は刺突の大きさから同一個体の可能性がある。462～464は底部に近い部分で、下部に縦位の沈線を施されている。

465～475は底部である。下部に縦位の沈線を施す。467は斜位の貝殻刺突文をブロック状に施している。470は胴部に斜位の貝殻押圧文と縦位の貝殻刺突文、下部に刻目が施されている。

VI類土器（第50図）

476の1点だけの掲載である。口縁部が円筒形でやや外反するバケツ状の器形になる。口唇部は刻目がある。口縁部は太めの貝殻刺突文を横位に廻らし、胴部は貝殻押圧文・貝殻押引文が施されている。底部は縦位の沈線文が施されている。

VII類土器（第50図）

477の1点だけの掲載である。浅い貝殻条痕文が横位に施された円筒の胴部で、器壁は厚い。内面はヘラケズリで調整されている。

VIII類土器（第50図～第66図）

VIII類土器は、口縁部に貝殻刺突文が廻り、胴部には貝殻条痕文が施されている円筒形の土器である。貝殻条痕文は綾杉状のものがほとんどであるが、縦位、横位のものもある。口縁部には刻目を施すものが大半である。口縁部が肥厚し外反するものと、ほぼ直行するものがある。また、胴部に貝殻刺突文を施すものもある。本遺跡では、胴部に条痕文を施すものをVIII a 類（478～674）、胴部に貝殻刺突文を施すものをVIII b 類（675）と細分した。

478～609は口縁部が外反するタイプである。478～568は口縁部に横位の貝殻刺突文を2～4条ほど廻らすものである。さらに、その下に斜位の貝殻刺突文を廻らすものもある。490は胴部の条痕文が縦位と横位に施されている。519・520は口唇部の刻目が羽状で、523～525は口唇部の刻目が鋸歯状である。525の胴部は縦位の条痕文の上から斜位の条痕文が施されている。540は口唇部の刻目が羽状で、口縁部に横位の刺突文を廻らし、その下位に羽状の刺突文が施されている。541は円形の補修孔が外面から穿たれている。

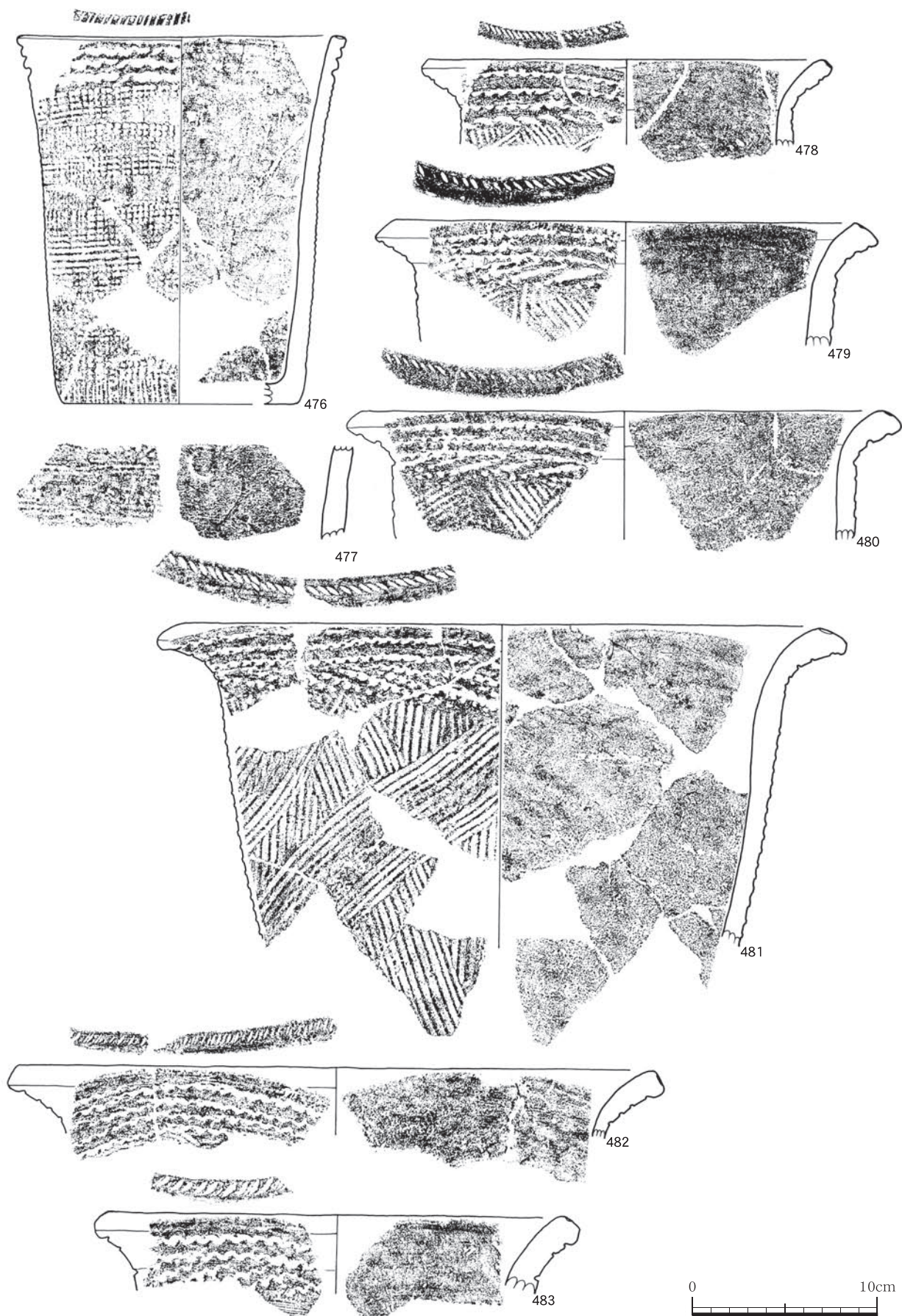
569～591は口縁部に斜位の貝殻刺突文を施すものである。569は斜位の貝殻刺突文の下位に横位の貝殻刺突文を廻らす。570は外面より穿孔途中の補修孔がある。573は口唇部の刻目が貝殻刺突文で施されている。580は斜位の貝殻刺突文の下に刺突連点文を廻らす。582は内面に横位の貝殻条痕文が施されている。

592～609は口縁部に羽状の貝殻刺突文を施すものである。592は羽状の貝殻刺突文を3段に廻らす。600・601・605は羽状の貝殻刺突文の下位に刺突連点文が施されている。604・605は同一固体と思われる。口縁部の貝殻刺突文の施文具は、貝の肋4ヶ所を残した短いものである。また、口唇部の刻目が鋸歯状である。

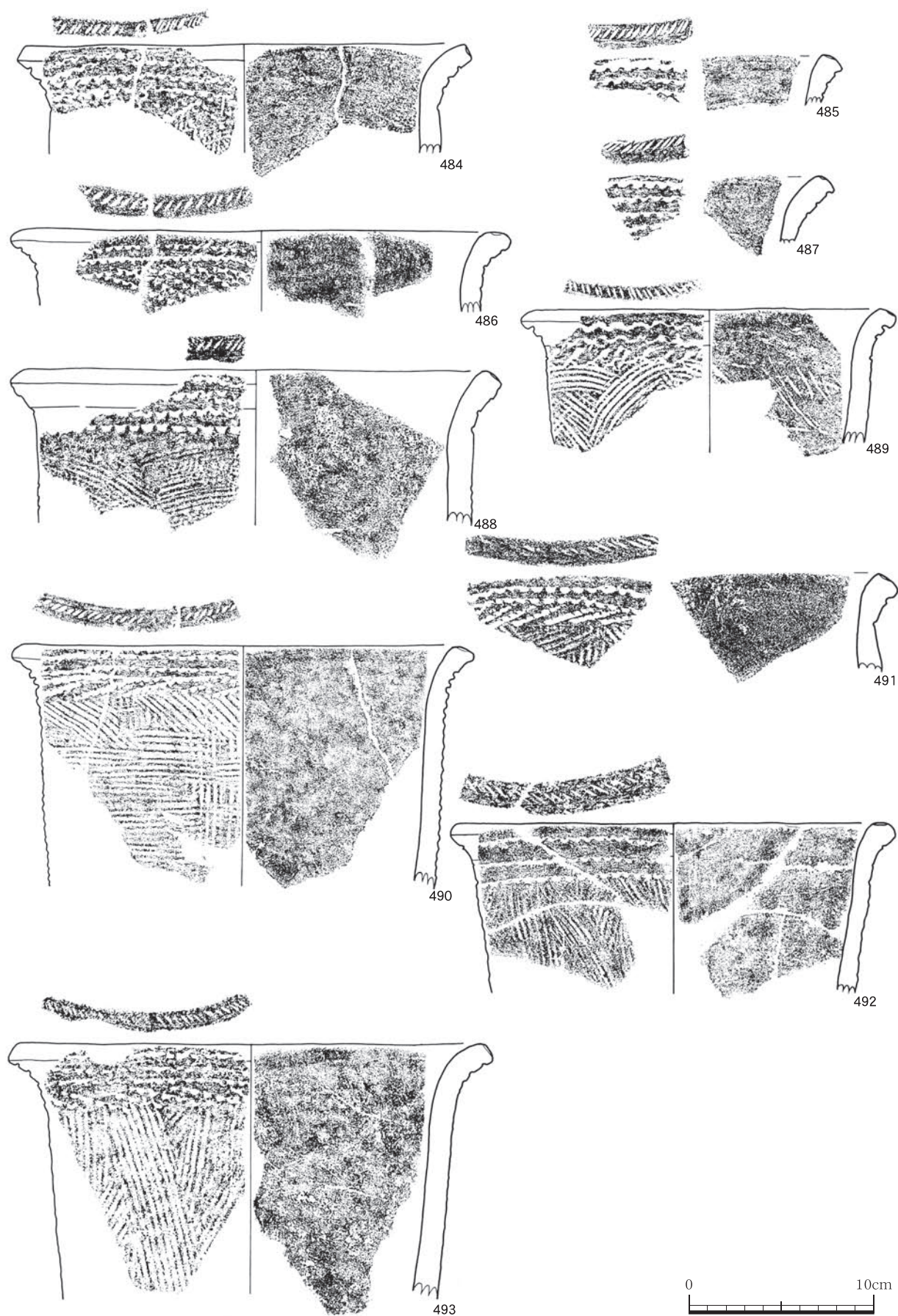
610～622は口縁が直行するタイプである。610は口唇部すぐ下に横位の貝殻刺突文を1条、その下位に縦位の貝殻刺突文を廻らしている。614は口唇部に鋸歯状の刻目がある。616は口縁部が無文で頸部に横位の貝殻刺突文が2条施されている。618は口縁部に殻長1cmの貝殻の腹部を利用した押圧文を廻らしており、放射肋の形が明確に残る。619は口唇部に貝殻刺突文を羽状に廻らしている。620は口唇部から胴部まで斜位の貝殻条痕文を施し、その上から横位の貝殻刺突文を口縁部に2条廻らしている。

縄文時代早期 土器観察表 VI・VII類

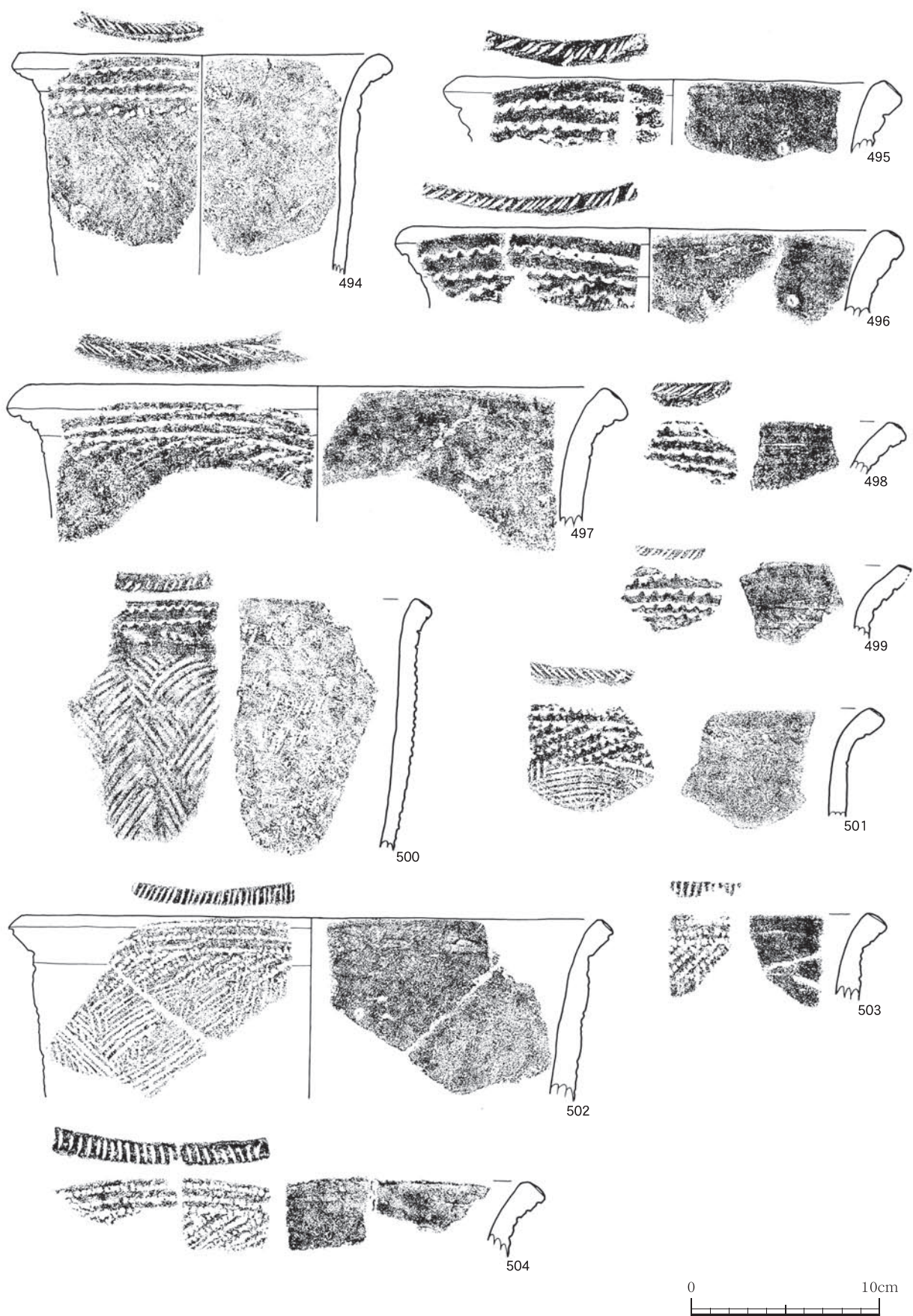
挿図番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第50図	476	Y-18	IV	完形	2.5Y 5/2暗灰黄	10YR 6/3にぶい黄橙	○		○		良	貝殻刺突文、貝殻押圧文	ヘラミガキ	
	477	SS1101	IV	胴部	7.5YR 6/6橙	5YR 5/6明赤褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	



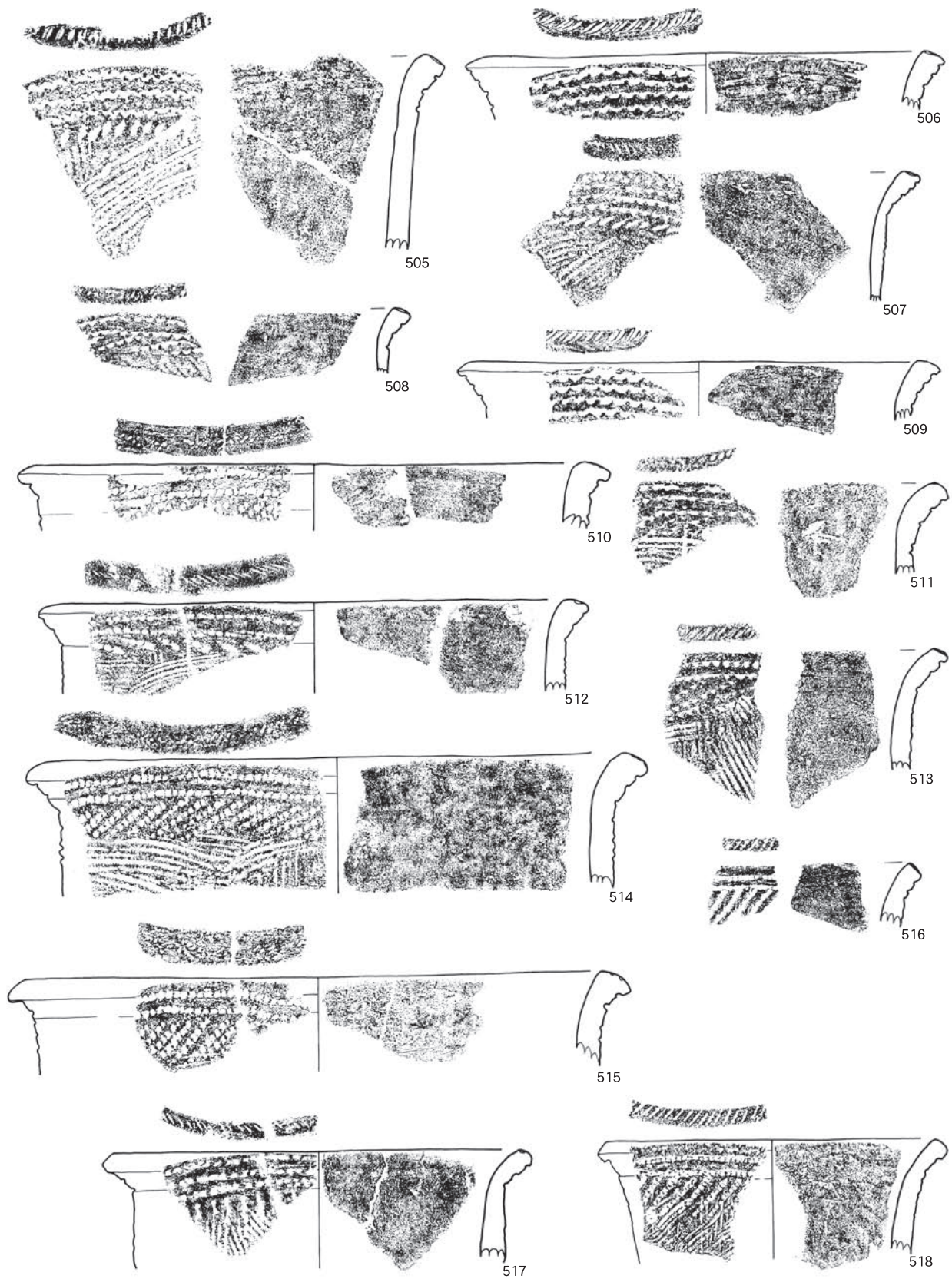
第50図 縄文時代早期土器 (27)



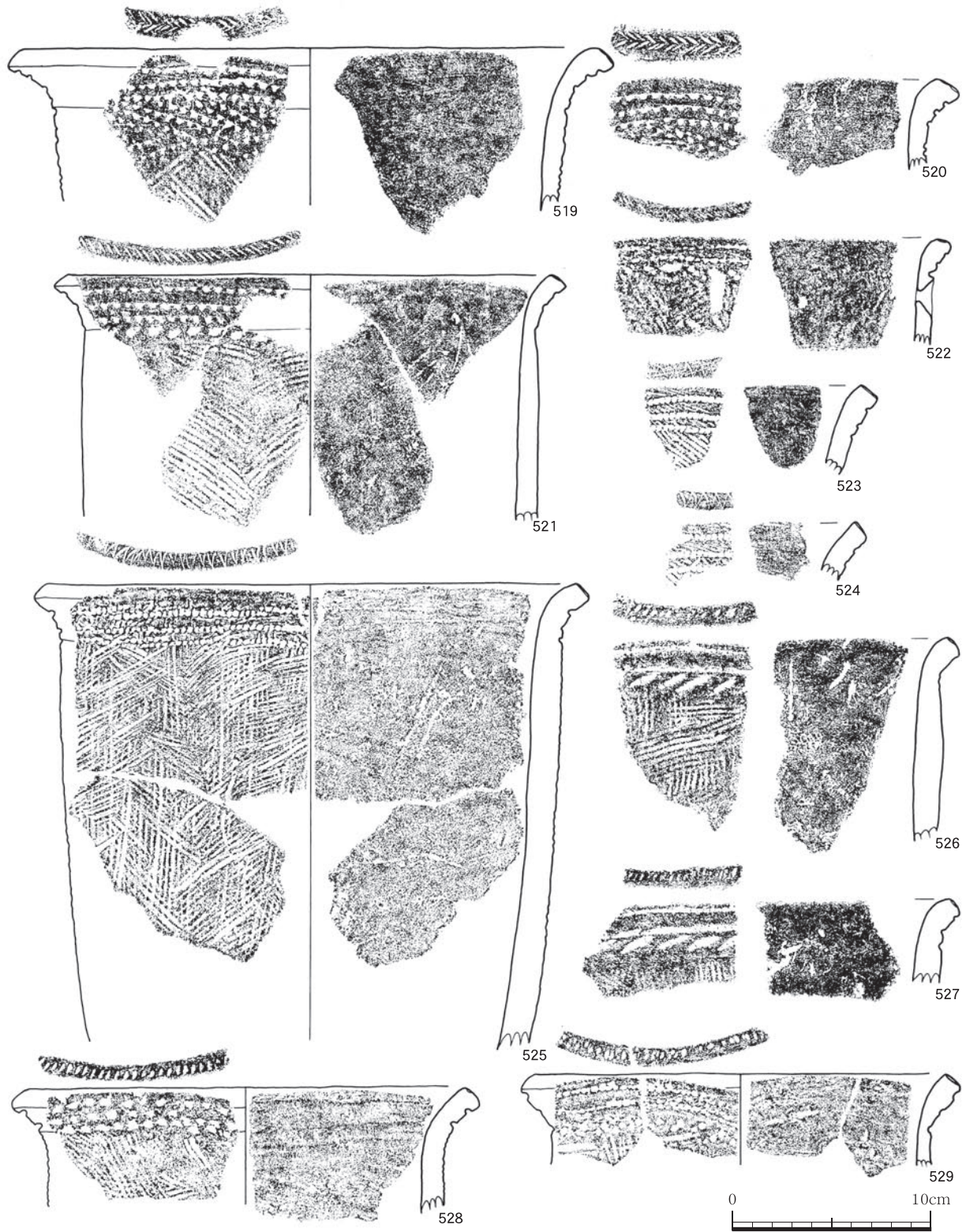
第51図 縄文時代早期土器 (28)



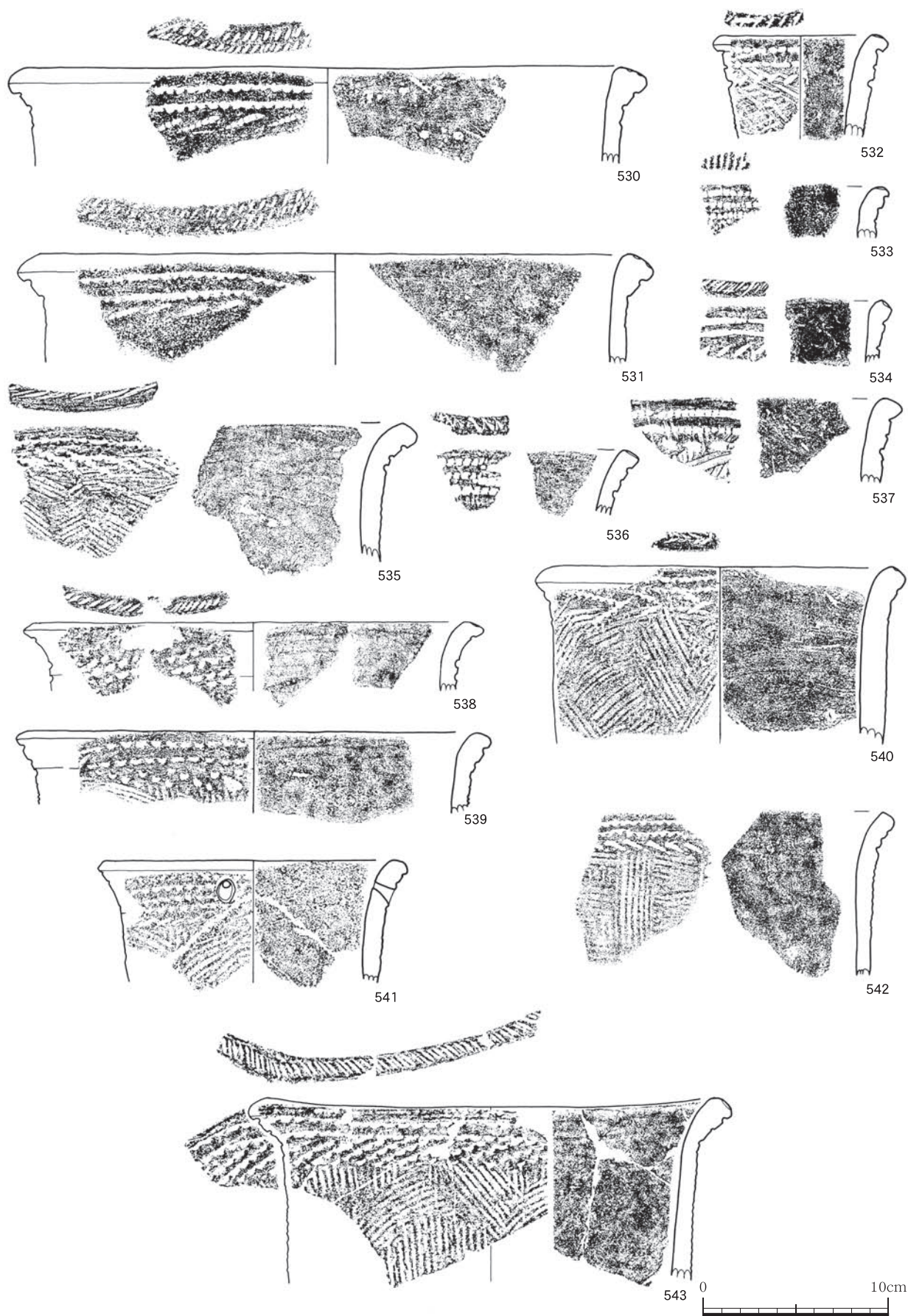
第52図 縄文時代早期土器 (29)



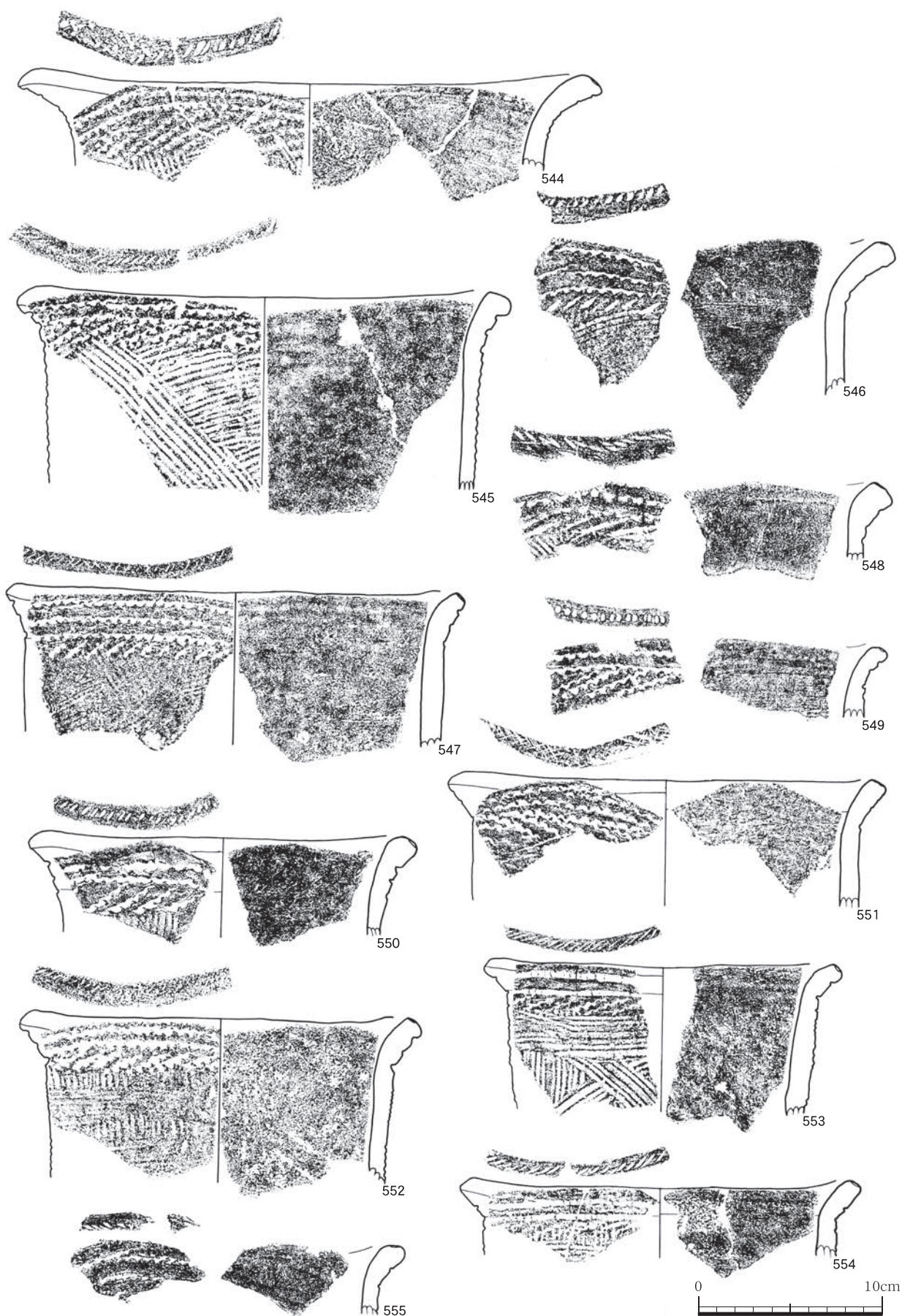
第53図 縄文時代早期土器 (30)



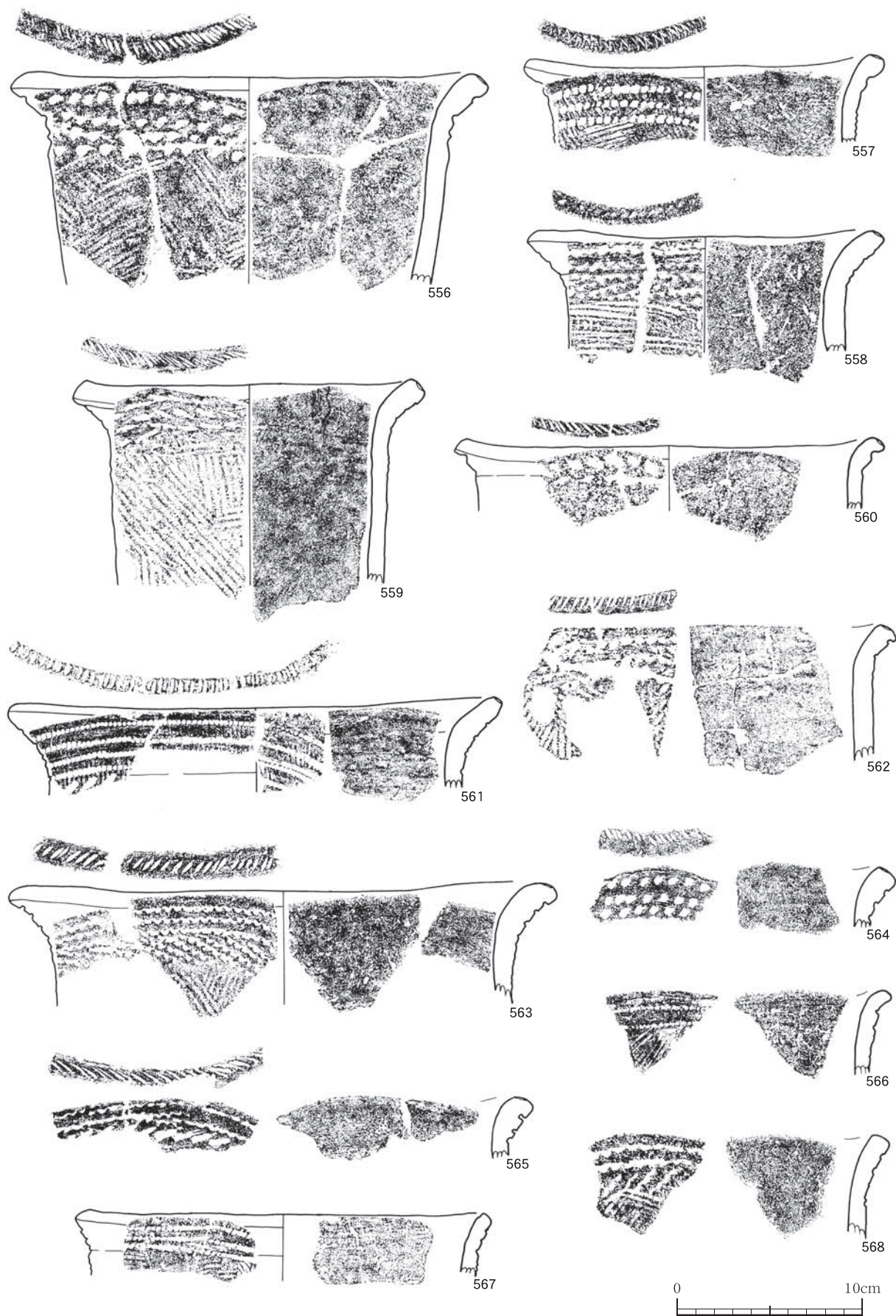
第54図 縄文時代早期土器 (31)



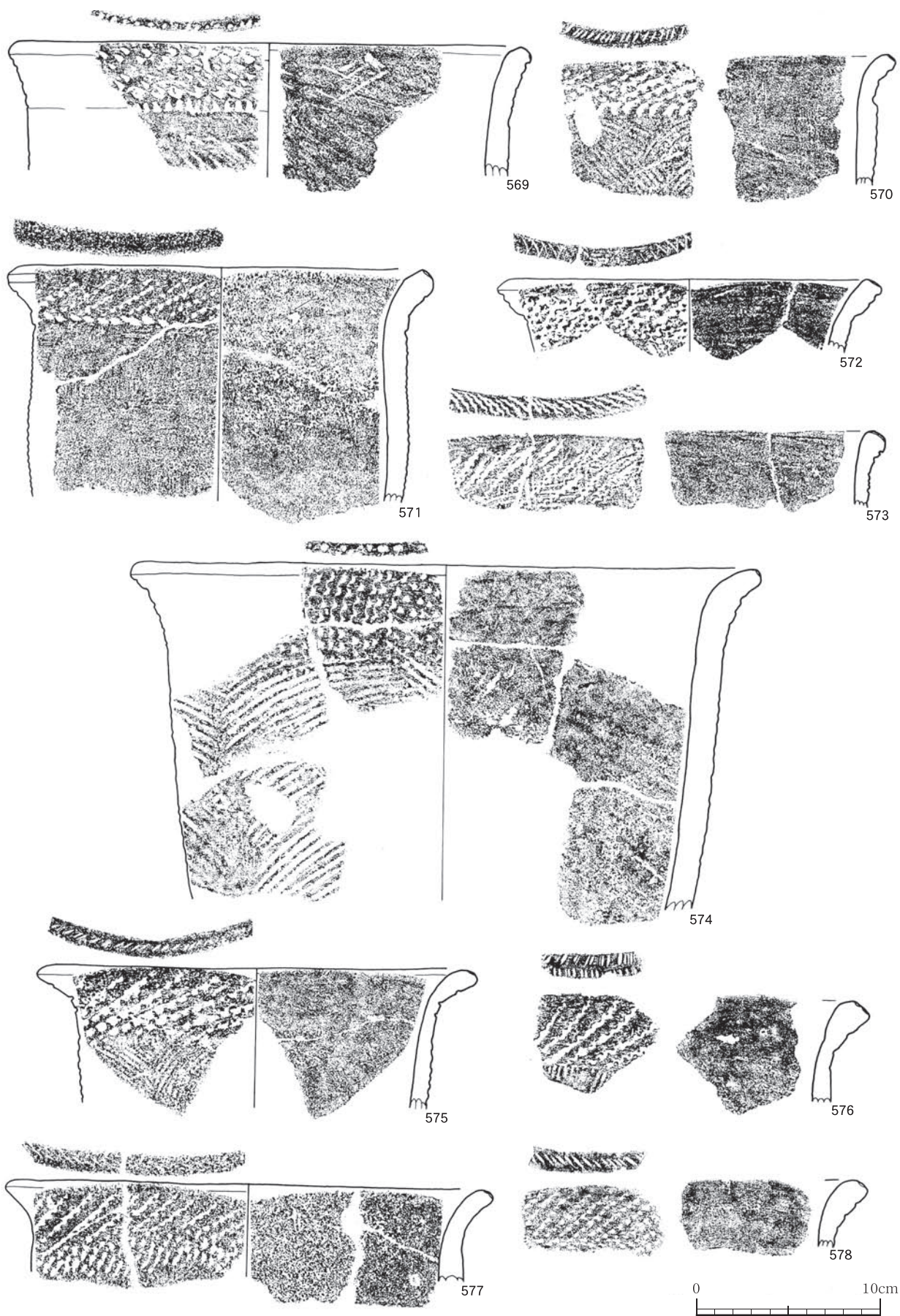
第55図 縄文時代早期土器 (32)



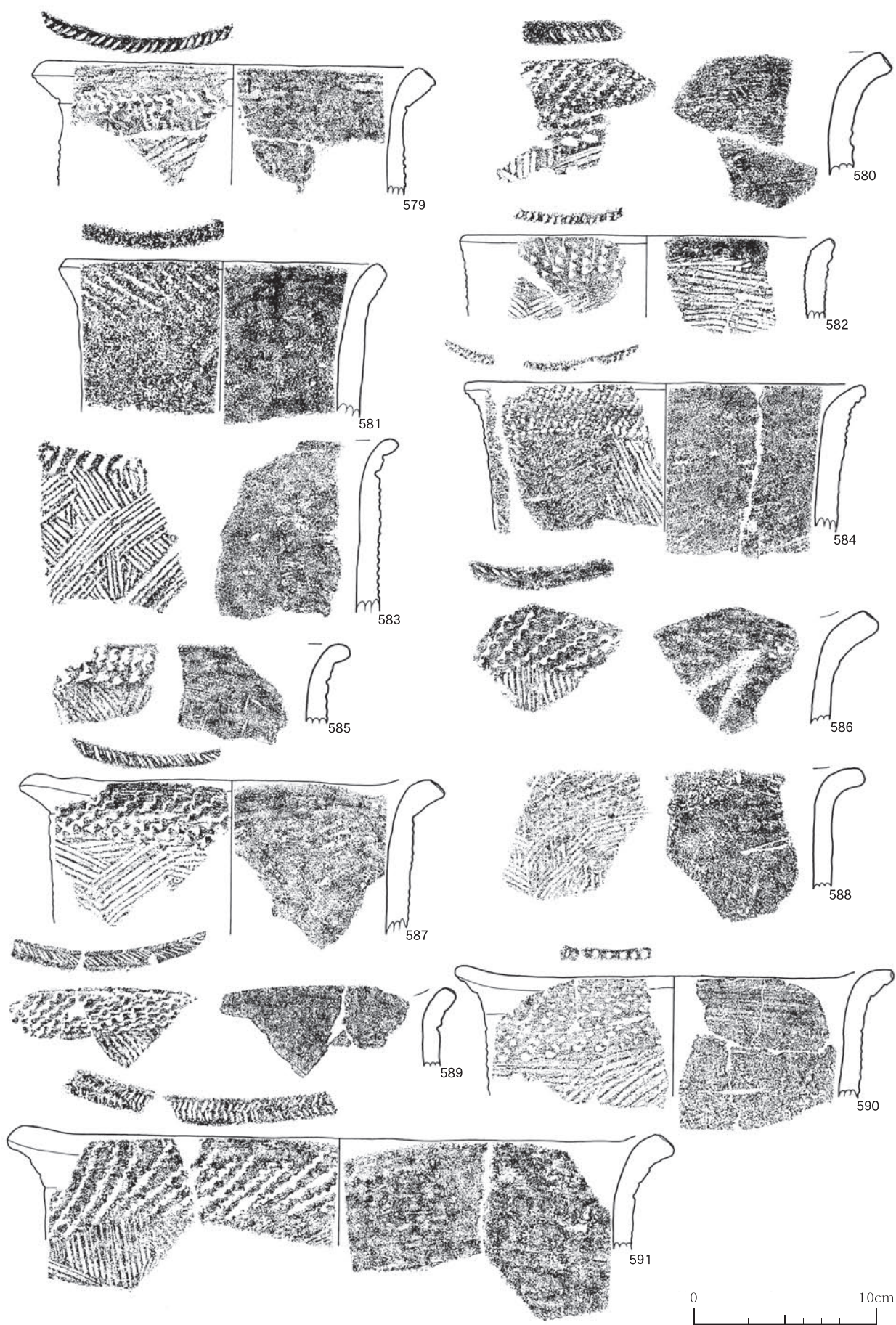
第56図 縄文時代早期土器 (33)



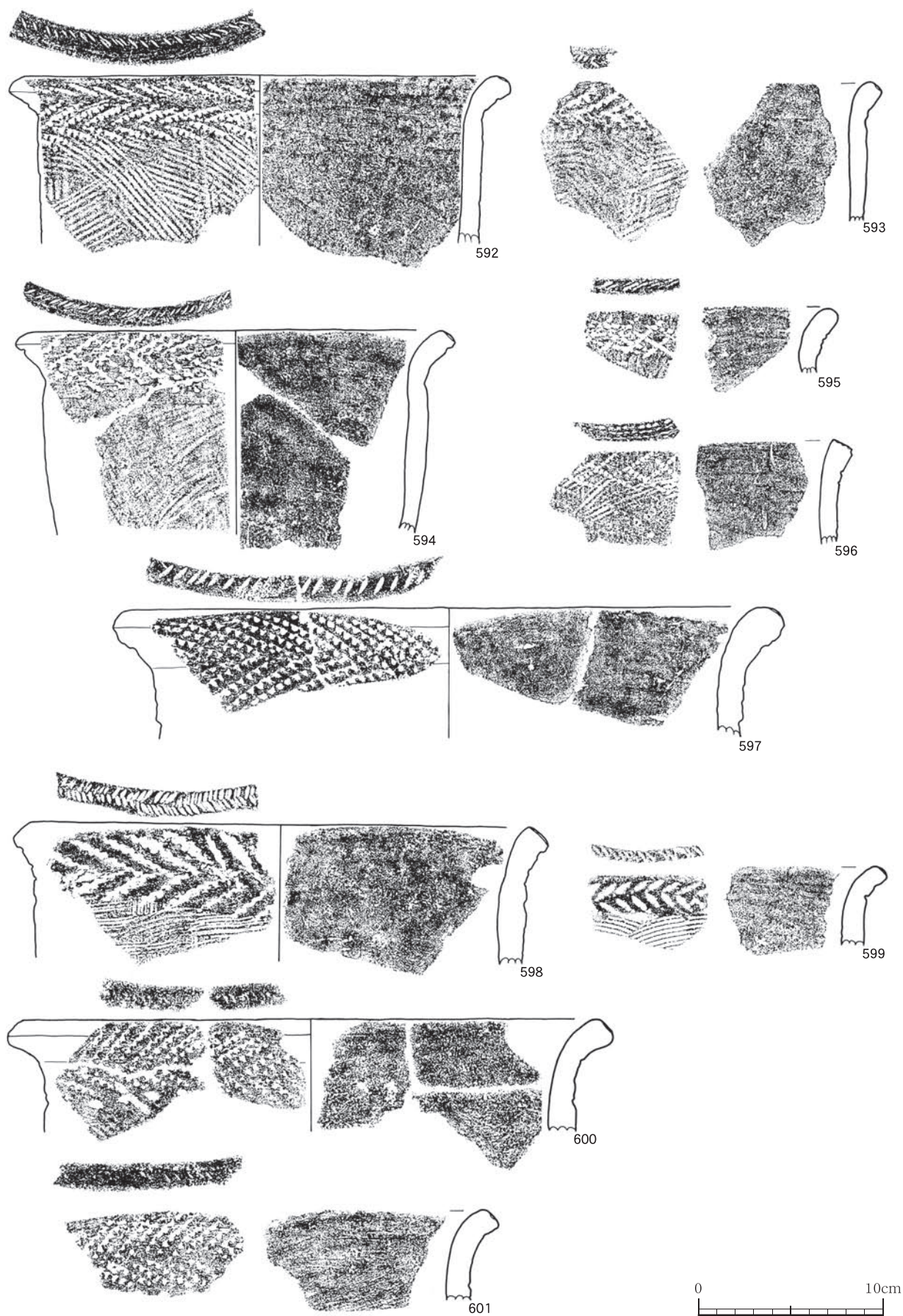
第57図 縄文時代早期土器 (34)



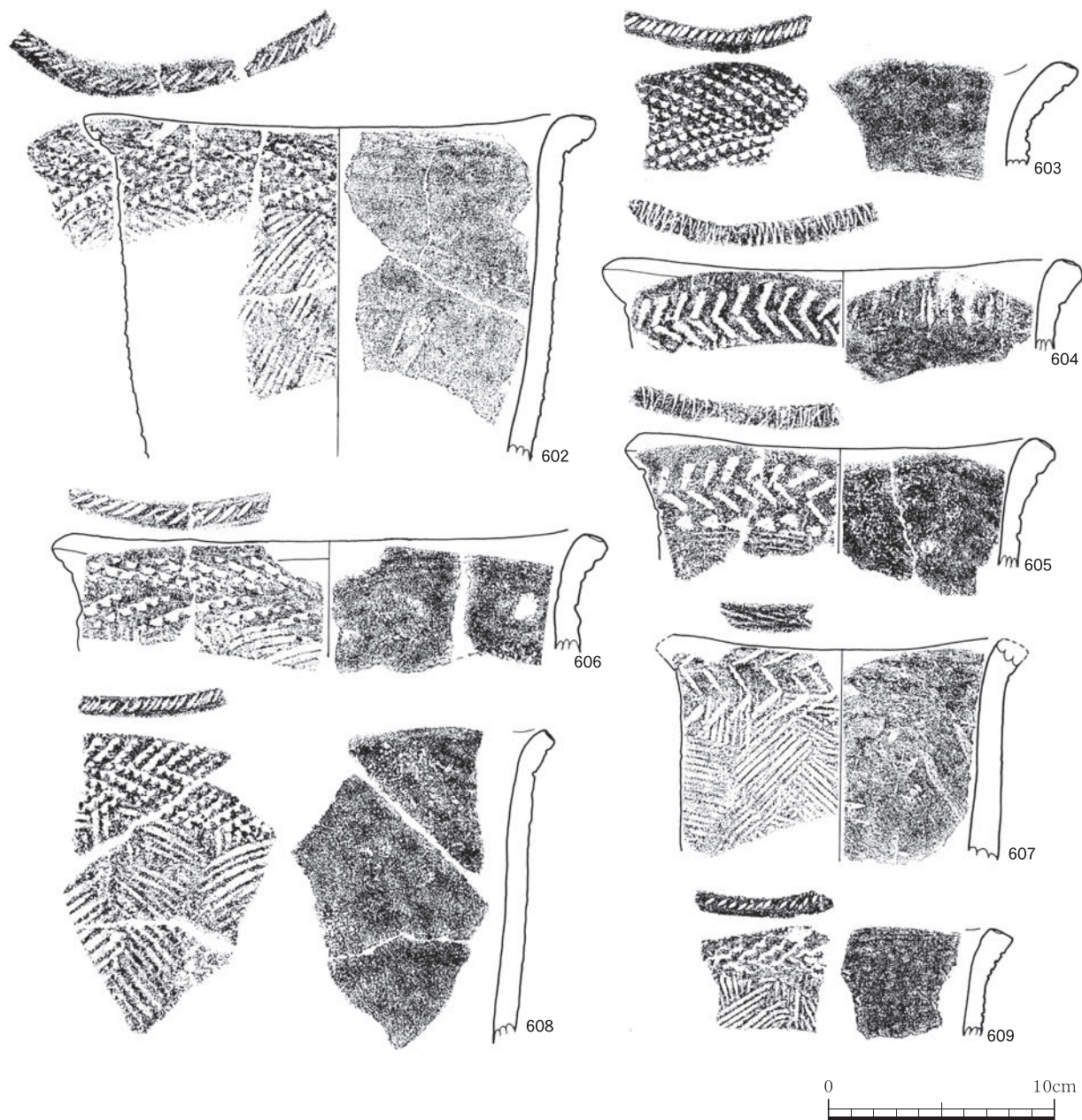
第58図 縄文時代早期土器 (35)



第59図 縄文時代早期土器 (36)



第60図 縄文時代早期土器 (37)



第61図 縄文時代早期土器 (38)

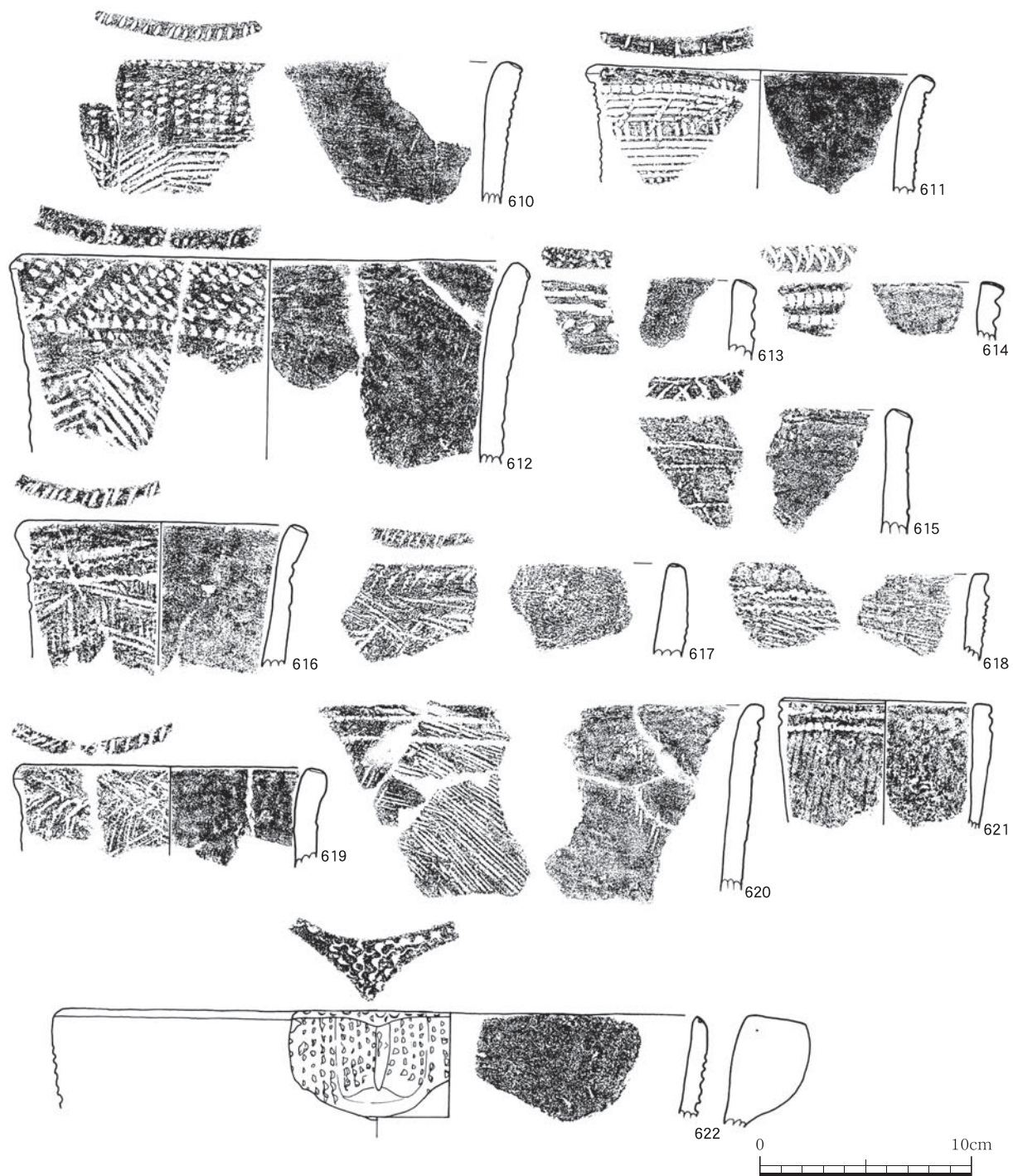
622は口縁部に瘤状突起をはり付けている。突起の上面に貝殻刺突文、側面には縦位の貝殻刺突文を施している。胴部の文様は確認できない。内面調整は、ヘラケズリ後丁寧なナデで仕上げられている。

623～653は胴部である。ほとんどが綾杉状の条痕文を施すものである。623～626は口縁部に近い部位で、横位や斜位の貝殻刺突文が施されている。628・630は綾杉状の条痕文の上から貝殻刺突文が矢印状に施されている。644は長さ2cmの補修孔があるが、その下部にも内面より穿孔途中の補修孔がある。

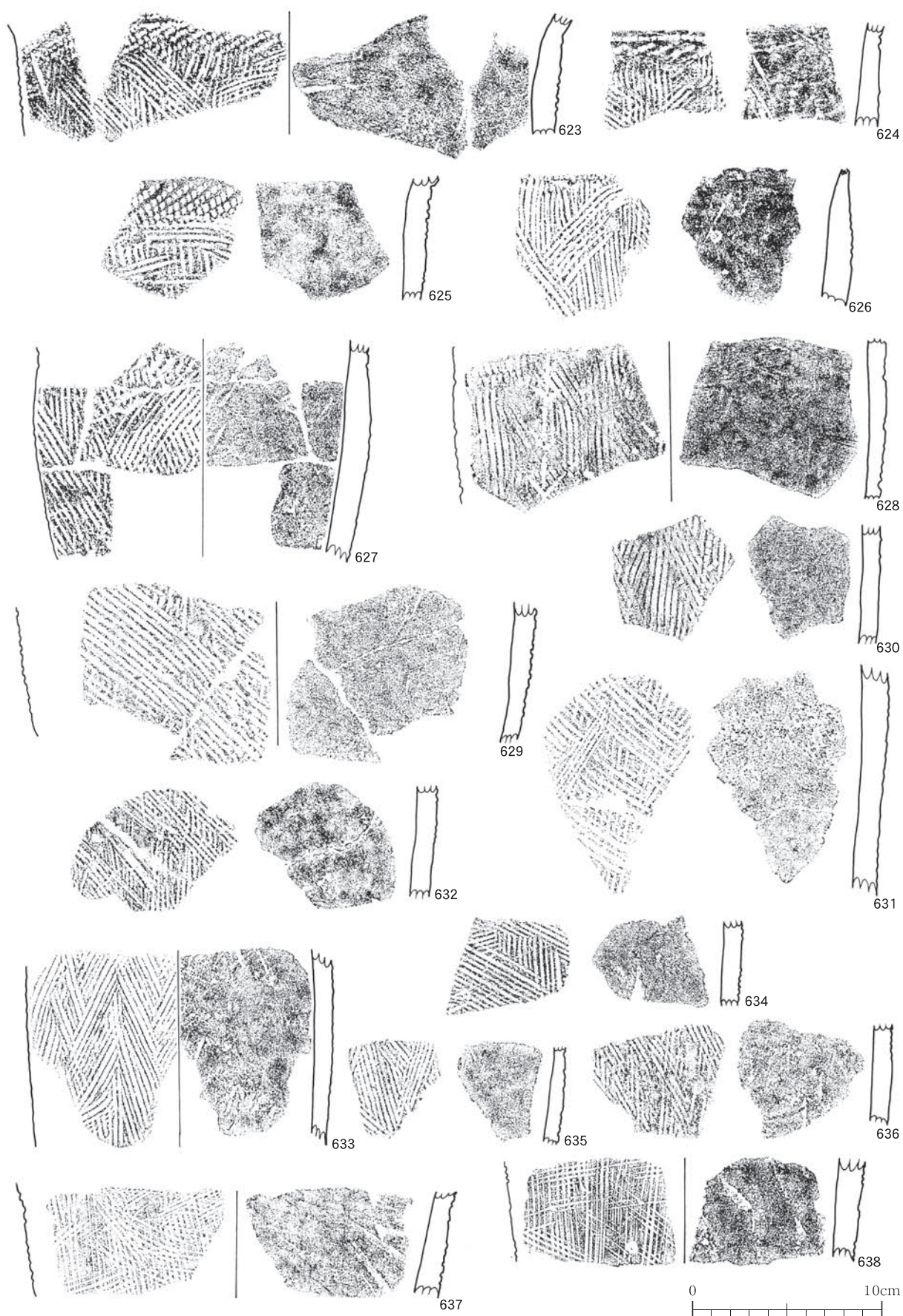
る。

654～674は底部である。底部から胴部に向けて短い沈線文が施されているものが多い。655～657は底部付近で条痕文が横位になる。665は底部下面の外周に刻目がある。673は外面調整をナデで仕上げしており、条痕文等は確認できず、器壁は薄い。

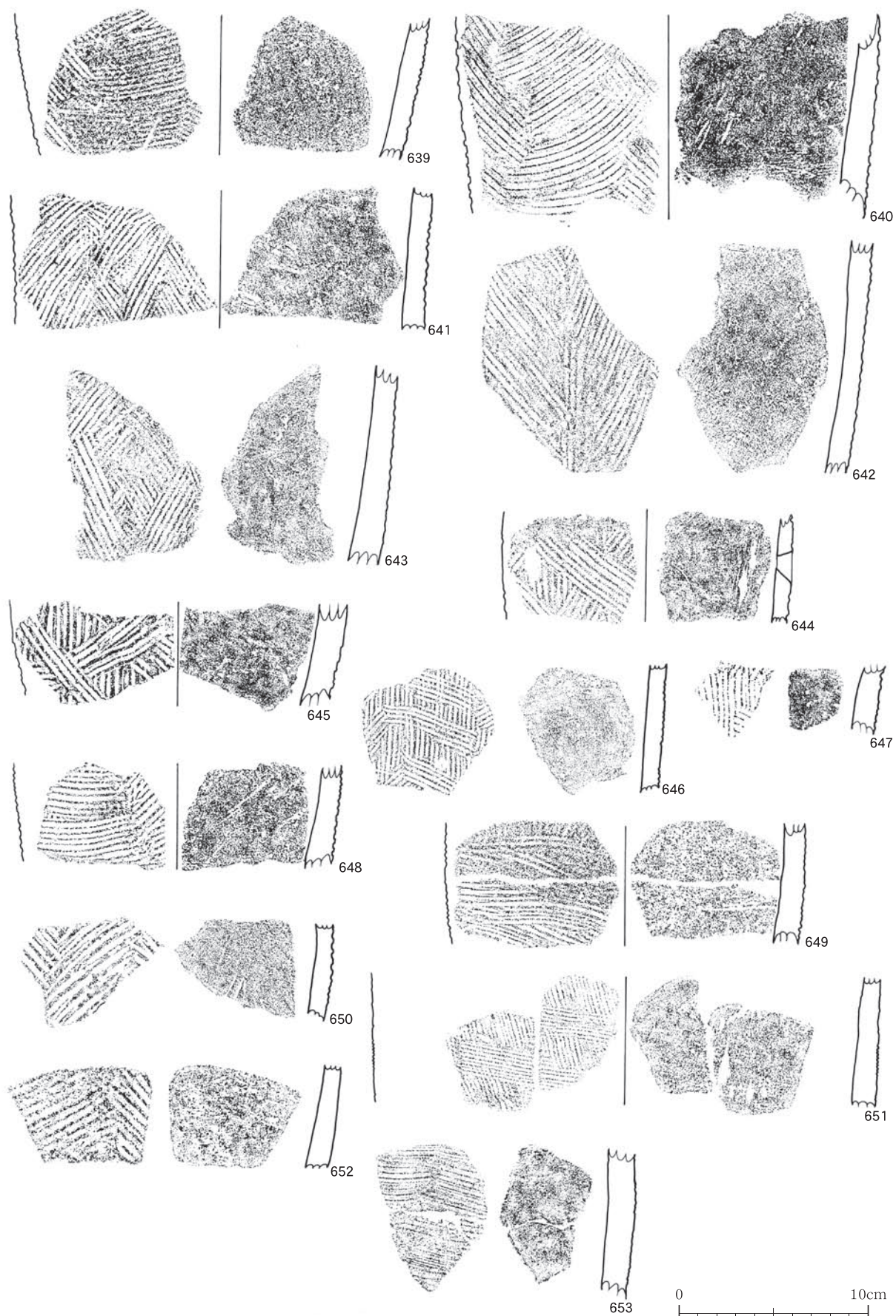
VIII b類は、675の1点だけの掲載である。円筒の胴部で、外面調整は横位と縦位の貝殻刺突文が交差し、内面調整はヘラケズリで仕上げられている。器壁は厚い。



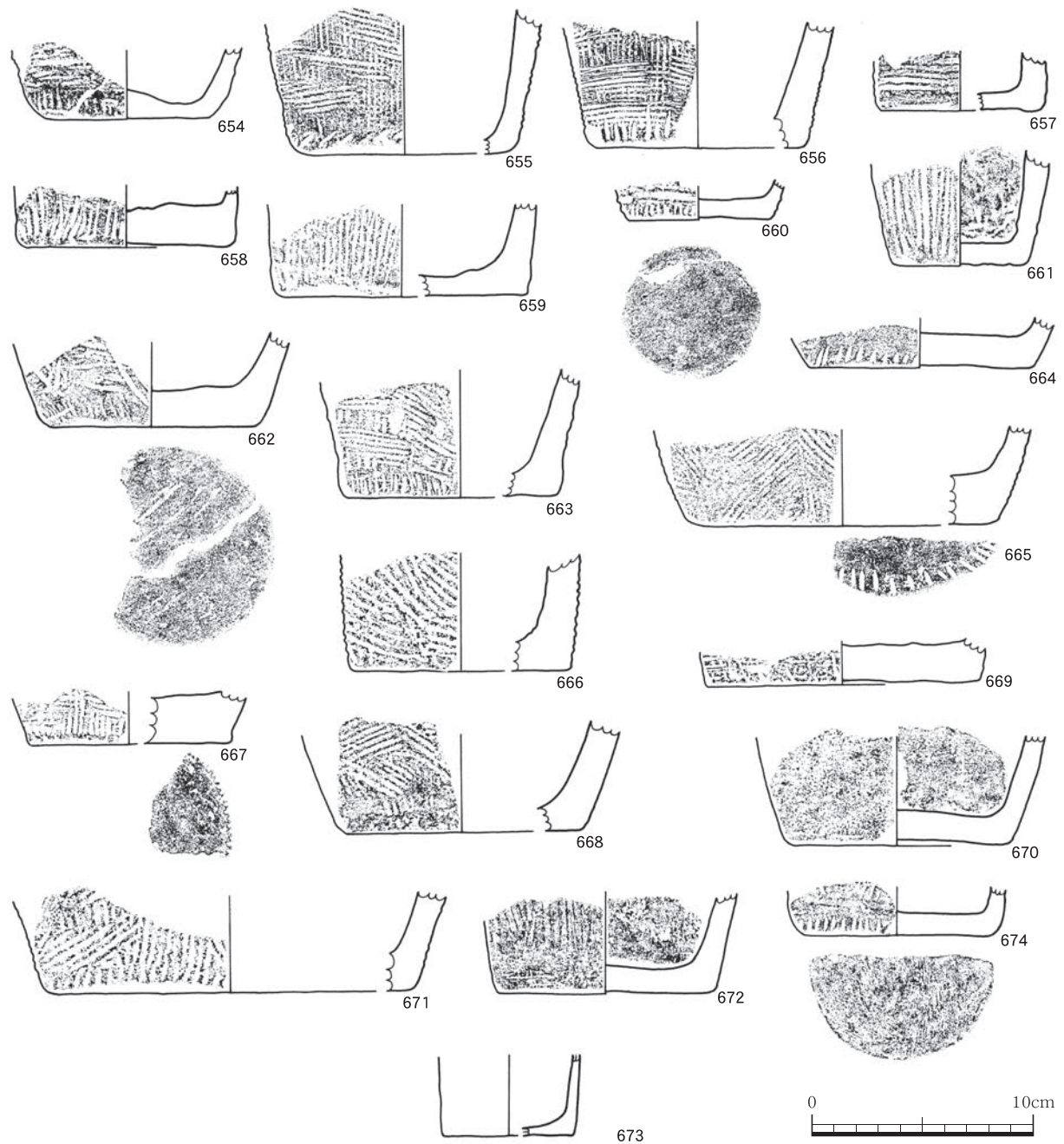
第62図 縄文時代早期土器 (39)



第63図 縄文時代早期土器 (40)



第64図 縄文時代早期土器 (41)



第65図 縄文時代早期土器 (42)

IX類土器 (第66図)

676の1点だけである。器形は円筒で、口縁は直行する。口唇部は無文で、口縁部から貝殻条痕文が横位に施されている。

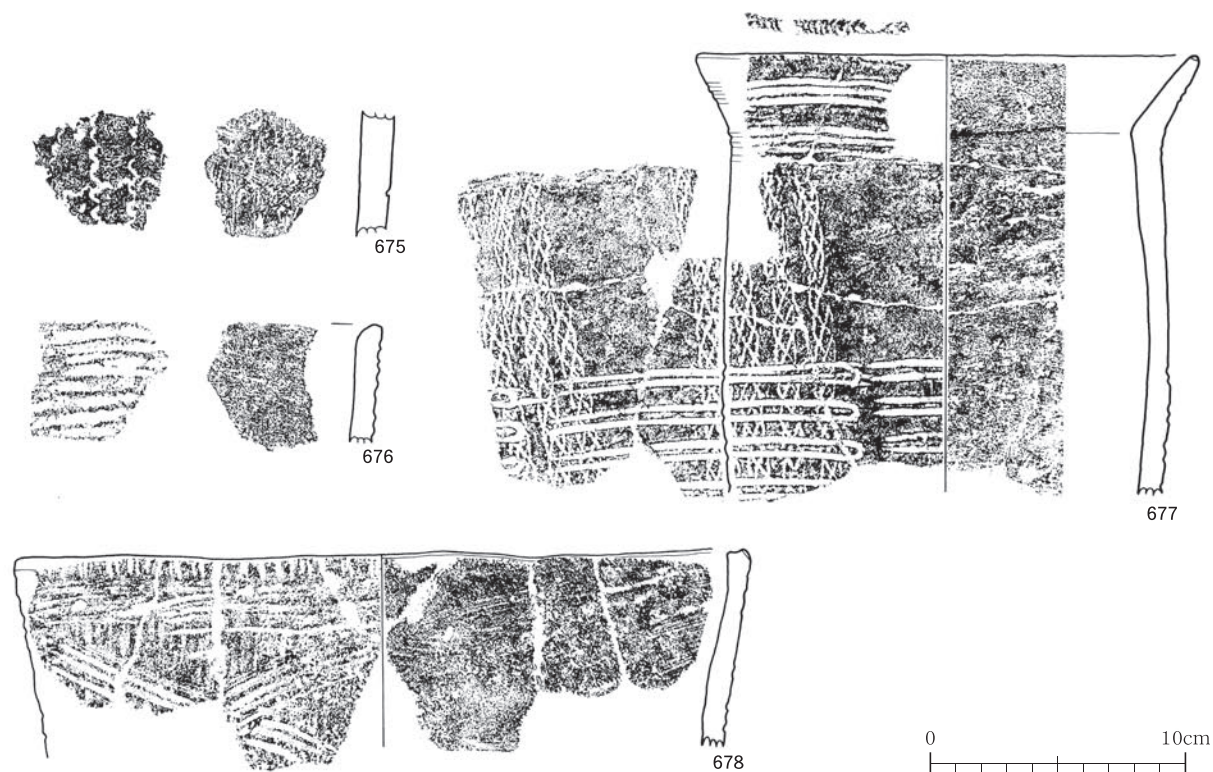
X類土器 (第66図)

677の1点だけである。口縁部がラッパ状に開き、胴部がわずかに張る器形をもつ円筒の、口縁部及び胴部である。口唇部は刻目を施す。口縁部と頸部に横位の沈線を3条ずつ施している。胴部の外面は、

頸部から底部に向けて網目撚糸文を4条ひとまとまりとして施し、その上から、横位の平行沈線文を数条施している。平行沈線文は2条一組で、右端が半円を描き閉じているが、左端は閉じていない。

XI類土器 (第66図)

678の1点だけである。外側に開く器形をもつ円筒の口縁部で、外面調整は口縁部に縦位の刻目を施し、下位に横位の貝殻条痕文を廻らしている。胴部には貝殻条痕文が斜位に施されている。



第66図 縄文時代早期土器 (43)

縄文時代早期 土器観察表 VIII類 (1)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第50図	478	X-21	IV	口縁部	10R6/6赤橙	2. 5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	479	X-20	IV	口縁部	7. 5YR6/6橙	7. 5YR6/4にふい橙		○			良	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	480	X-21	IV	口縁部	7. 5YR6/4にふい橙	7. 5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	481	X-20, Y-20	IV	口縁部	5YR4/6赤褐	2. 5YR5/6明褐色	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	482	Y-23	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	483	X-22	IV	口縁部	2. 5YR5/6明赤褐	5YR5/4にふい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
第51図	484	X-21, Y-21	IV	口縁部	10YR3/2黒褐	7. 5YR5/6明褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	485	X-24	IV	口縁部	7. 5YR5/6明褐	10YR6/3にふい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	486	X-24, Y-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	7. 5YR5/6明褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	487	X-22	IV	口縁部	10YR6/6明黄褐	10YR5/3にふい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	488	I-1	IV	口縁部	7. 5Y6/6橙	7. 5Y6/7橙	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	489	X-21	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	490	X-22, Y-23	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文、貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	491	W-19	IV	口縁部	7. 5YR6/4にふい橙	7. 5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	492	X-23	IV	口縁部	7. 5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	493	X-22	IV	口縁部	10YR6/6明黄褐	7. 5YR5/6明褐	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第52図	494	Y-20, W-20	IV	口縁部	7. 5YR6/5にふい橙	7. 5YR6/4にふい橙	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	495	X-22	IV	口縁部	5YR6/4にふい橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
	496	X-22, Y-21	IV	口縁部	5YR6/4にふい橙	5YR6/4にふい橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	497	X-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	498	X-23	IV	口縁部	7. 5YR6/6橙	5YR6/4にふい橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	499	X-22	IV	口縁部	7. 5YR6/4にふい橙	7. 5YR5/3にふい褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	500	X-24	IV	口縁部	7. 5YR6/4にふい橙	7. 5YR6/4にふい橙	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	501	X-21	IV	口縁部	7. 5YR6/4にふい橙	7. 5YR6/4にふい橙		○			良	貝殻刺突文、貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	502	X-20, Y-20	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	7. 5YR5/6明褐	○	○			良	貝殻刺突文、綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	503	X-20	IV	口縁部	5YR6/6橙	7. 5YR4/3褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	504	X-21, Y-22	IV	口縁部	5YR6/6橙	7. 5YR5/6明褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	505	X-20	IV	口縁部	5YR6/6橙	7. 5YR5/4にふい褐		○			良	貝殻刺突文、貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
第53図	506	X-22	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
	507	—	IV	口縁部	7. 5YR6/4にふい橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文、貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	508	X-23	IV	口縁部	10YR6/4にふい黄橙	7. 5YR6/4にふい橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
	509	W-22	III	口縁部	5YR6/4にふい橙	5YR5/3にふい赤褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	

縄文時代早期 土器観察表 VIII類 (2)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第53図	510	Z-24, Y-24	IV	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/4にぶい褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
	511	X-22	IV	口縁部	5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	512	X-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	513	W-22	IV	口縁部	5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	514	X-21	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	7.5YR4/3褐		○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	515	X-21	IV	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR4/3褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	516	Y-21	IV	口縁部	2.5Y5/2暗灰黄	2.5Y3/1黒褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	517	Y-21	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第54図	518	X-21	IV	口縁部	2.5Y5/2暗灰黄	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	519	Y-23	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	520	—	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	521	Y-22	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	522	X-23	V	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄褐		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	補修孔
	523	X-24	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR5/3にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	524	X-24	IV	口縁部	7.5Y5/4にぶい褐	10YR3/2黒褐		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	525	W-22, X-22, H-2	Ⅲ, IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/2灰黄褐	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	526	X-24	V	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	527	X-24	V	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第55図	528	—	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	529	X-23, Y-23	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	530	X-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	531	X-24	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	532	X-24	IV	口縁部	10YR3/2黒褐	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	533	Y-22	IV	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	534	X-23	IV	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	535	X-24	V	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/3にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	536	X-23	IV	口縁部	10YR4/4褐	7.5YR4/3褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	537	Z-24	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文 刺突文	ヘラケズリ	
	538	X-24	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	539	X-22	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR4/6赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	540	I-(-1)	IV	口縁部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	541	X-22	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR4/6赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	補修孔
第56図	542	Y-23	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	543	Y-23	IV	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラミガキ	
	544	W-22, X-22	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐		○	○		良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	545	Y-21	IV	口縁部	10YR6/6明黄褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	546	X-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	547	X-22, X-21	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR4/6赤褐		○	○		良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	548	X-25	V	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	549	Y-24	IV	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/3にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	550	W-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	551	Y-20, Y-21, X-21, X-22	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	552	X-23	IV	口縁部	10YR6/6明黄褐	5YR4/6赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	553	Y-23	IV	口縁部	2.5YR5/3黄褐	5YR4/6赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	554	Y-23, Y-24	IV	口縁部	10YR3/2黒褐	5YR4/4にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	555	X-21	IV	口縁部	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
第57図	556	Y-22, X-21	IV	口縁部	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	557	Y-23	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	558	X-21, X-22	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	559	Y-24	IV	口縁部	5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラミガキ	
	560	Y-23	IV	口縁部	7.5YR7/6橙	5YR6/6橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	561	X-22, Y-22	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラミガキ	
	562	X-24	IV	口縁部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	563	Y-21, X-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	564	X-21	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	565	X-21	IV	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	566	Y-23	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	567	Y-21, I-(-1)	IV	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR3/2黒褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	568	I-1	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第58図	569	Y-23	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	570	X-20	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	補修孔(未貫通)
	571	Y-21	IV	口縁部	7.5YR7/6橙	10YR6/6明黄褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文 刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	572	X-21	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/2灰褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
	573	Y-24	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	口唇貝殻刺突
	574	Y-22, Y-23, W-19	IV	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	575	X-21	IV	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻刺突文 線杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	576	X-20	IV	口縁部	10YR3/1黒褐	2.5Y5/3黄褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	577	Y-21	IV	口縁部	2.5YR4/6赤褐	2.5YR4/6赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	
	578	X-22	IV	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	
第59図	579	Y-23	IV	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/3褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	580	X-21	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	10YR3/3暗褐	○	○			良	貝殻刺突文 貝殻条痕文 刺突文	ヘラケズリ	
第59図	581	SUT-3	IV	口縁部	10YR7/6明黄褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	

縄文時代早期 土器観察表 VIII類 (3)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第59図	582	Y-23	Ⅲ	口縁部	2.5YR3/3明赤褐	2.5YR4/4にぶい赤褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	具股条痕文	
	583	Y-21	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	584	Z-24	Ⅳ	口縁部	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	585	X-21	Ⅳ	口縁部	2.5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	586	H-(-1)	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	587	Y-21	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	588	X-24	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR5/3にぶい褐		○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻、ナデ	ヘラケズリ	
	589	Z-23, Z-24	Ⅳ	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	590	H-(-1)	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
第60図	591	X-21	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙		○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	592	X-21	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	593	Y-22	Ⅳ	口縁部	10YR5/2灰黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	594	X-23, H-(-1)	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	595	X-21	Ⅳ	口縁部	7.5YR4/6褐	7.5YR4/6褐	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ後ナデ	
	596	SUT-3	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	597	Y-23, X-22	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ後ナデ	
	598	X-20	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙		○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ	
	599	Z-18	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR4/4褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	600	Y-20	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	10YR4/3にぶい黄褐		○			良	具股刻突文、刺突文	ヘラケズリ	
	601	X-21	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	5YR3/1黒褐	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ後ナデ	
第61図	602	X-20, Y-20	Ⅳ	口縁部	5YR6/3にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	603	X-21	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ後ナデ	
	604	X-21	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	10YR4/3にぶい黄褐	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ後ナデ	
	605	Y-21	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6明褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	606	Y-22	Ⅳ	口縁部	10YR6/6明黄褐	5YR6/6橙		○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	607	X-21	Ⅳ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	2.5YR4/6赤褐		○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	608	Y-21	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	609	X-24	Ⅳ	口縁部	7.5YR4/6褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
第62図	610	Y-23	Ⅳ	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ	
	611	Y-23	Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR3/2黒褐	○	○	○		良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ	
	612	Z-24, Y-23, V-10	Ⅳ	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	613	W-20	Ⅳ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	具股刻突文	ヘラケズリ	
	614	X-22	Ⅳ	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ	
	615	Y-24	Ⅳ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文	ヘラケズリ	
	616	Y-21	Ⅳ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	617	Y-22	Ⅳ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ	
	618	V-24	Ⅳ	口縁部	2.5YR4/3オリーブ褐	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文、具股刺突文	ヘラケズリ	
	619	Y-23, X-23	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	620	Y-24	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR3/1黒褐		○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	煤付着
	621	I-1	Ⅳ	口縁部	10YR7/6明黄褐	7.5YR4/3褐	○	○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	622	Y-23	Ⅳ	口縁部	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	具股刻突文	ヘラケズリ後ナデ	
第63図	623	X-21, Y-21	Ⅳ	胴部	10YR7/6明黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	○	○	○		良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	624	H-(-1)	Ⅳ	胴部	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	625	X-21	Ⅳ	胴部	2.5YR6/6橙	2.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	626	W-22	Ⅲ	胴部	7.5YR4/2灰褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	627	Y-23	Ⅳ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	628	X-22	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	629	Y-21	Ⅳ	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR4/6赤褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	630	Y-22	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	631	X-24	Ⅱ, Ⅴ	胴部	10YR3/2黒褐	2.5YR6/8橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	632	X-20	Ⅳ	胴部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	633	X-21	Ⅳ	胴部	7.5YR5/3にぶい褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	634	Y-23	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	635	X-22	Ⅳ	胴部	10YR7/6明黄褐	7.5YR7/6橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	636	Y-21	Ⅳ	胴部	2.5Y3/3オリーブ褐	2.5Y5/4黄褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	637	Y-24	Ⅳ	胴部	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	○	○	○		良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	638	I-1	Ⅲ	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
第64図	639	X-21	Ⅳ	胴部	10YR1.7/1黒	2.5YR5/8明赤褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	640	Y-23	Ⅳ	胴部	5YR5/6明赤褐	5YR6/8橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	641	X-21	Ⅳ	胴部	7.5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	642	Y-20	Ⅳ	胴部	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	643	X-24	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	644	X-25	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	縹杉1, 未見通し
	645	Y-23	Ⅳ	胴部	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	646	W-22	Ⅳ	胴部	7.5YR5/6明褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	647	Y-22	Ⅳ	胴部	5YR4/6赤褐	7.5YR4/6褐	○	○			良	具股刻突文、縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	648	X-21	Ⅳ	胴部	7.5YR6/6橙	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	具股条痕文	ヘラケズリ	
	649	X-22	Ⅳ	胴部	10YR6/6明黄褐	2.5YR5/8明赤褐	○	○			良	具股条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	650	Y-23	Ⅳ	胴部	10YR6/6明黄褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	651	Y-23, Y-20	Ⅳ	胴部	10YR7/6明黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	具股刻突文、具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	652	S S1102	Ⅲ	胴部	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	○	○			良	縹杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	653	Y-22	Ⅳ	胴部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	○	○			良	具股条痕文	ヘラケズリ後ナデ	煤付着

②石器（第67図～82図 679～822）

諏訪牟田遺跡の縄文時代早期の石器では特に石鏃と磨石・石皿が豊富であった。その他石斧・石匙・礫器等が出土した。

石鏃（第67図～70図 679～755）

石鏃分類表に従い最大長2cm未満、2cm以上3cm未満、3cm以上4cm未満、4cm以上、欠損品の順に分類、掲載した。特に2cm以上3cm未満に集中した。

分類の結果石材は黒曜石・チャート・玉随などが使用されている。縄文時代晩期と比較すると、黒曜石以外の石材の使用が目立ち、チャート・玉随等の石材選択にバリエーションがある。また、石材選択と基部形態に下記のような傾向が認められた。

①頁岩・玉随・石英～基部：平坦

②黒曜石・チャート・安山岩～基部：弓なり・U字・V字

本遺跡において使用されている石材の分類名称については下記の通りである。

黒曜石A－黒色・ガラス質で小粒の不純物が多く含まれる。大口市日東産に類似する。

黒曜石B－青灰色、不純物の少ない良質の黒曜石。針尾、淀姫産等西北九州系に類似。

黒曜石C－黒色で炭状。光を通さず不純物が少ない。

樋脇町上牛鼻、串木野市平木場産に類似。

黒曜石D－黒色、アメ色で不純物を含む。鹿児島市御船産に類似。

黒曜石E－灰色がかった半透明でガラス質である。

縞状に黒い筋が入る。不純物は少ない。

宮崎県えびの市桑ノ木津留に類似。

黒曜石F－やや青みがかった黒色。不純物を含み、光を通さない。

黒曜石G－やや灰色がかった黒色でガラス質。不純物あり。光にかざすと縞状の灰色の筋が観察できる。

黒曜石H－灰色でガラス質。純度が高く不純物を含まない。大分県姫島産に類似。

黒曜石I－黒色でアメ色。不純物を含まず、光にかざすと縞状の黒い筋が観察できる。

頁岩1－外側が漆黒の炭色で、緻密。

頁岩2－風化が進み黄白色で、中は黒色。

頁岩3－縞模様があり緻密。

頁岩4－灰褐色・赤色で緻密。

安山岩A－外側が灰色で中は漆黒。

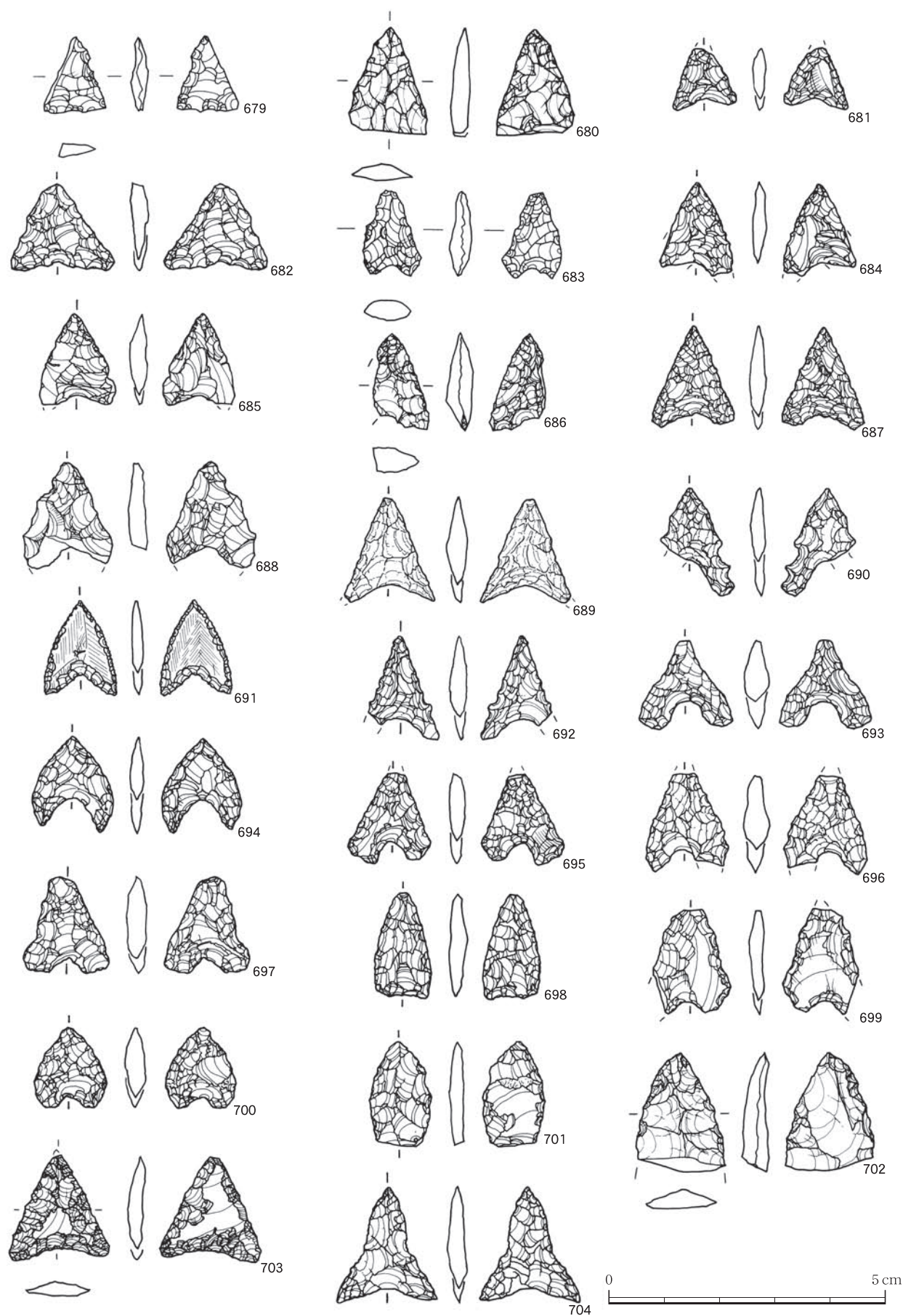
安山岩B－外側が黄灰色で中は黒色。

縄文時代早期 土器観察表 VIII類（4）

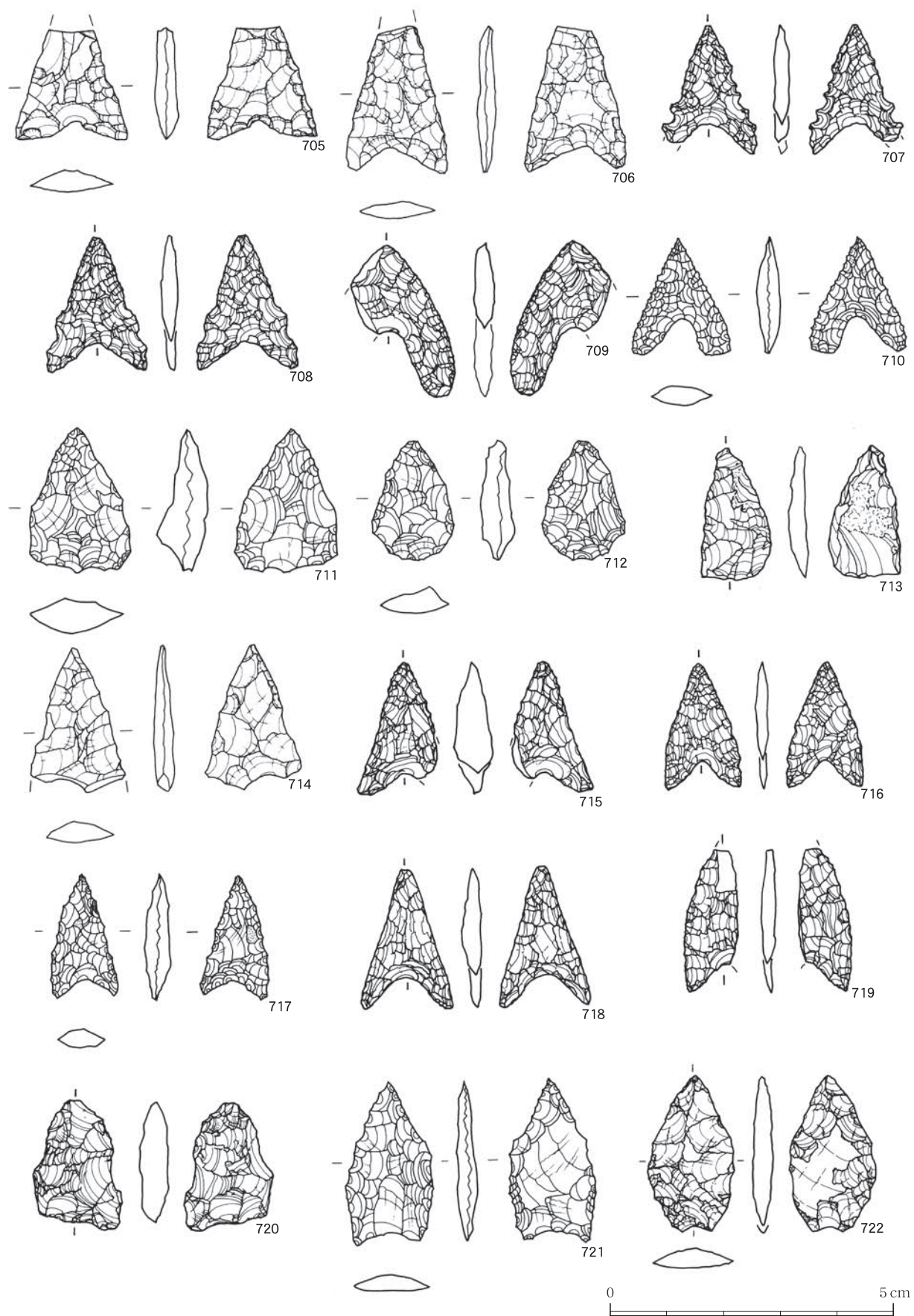
挿図番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第65図	654	X-23	IV	底部	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	655	Y-22	IV	底部	7.5YR6/4にぶい橙	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	656	X-22	IV	底部	10YR6/6明黄褐	2.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	657	X-25	IV	底部	10YR4/2灰黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	658	X-22	IV	底部	2.5YR6/4にぶい黄	2.5Y6/3にぶい黄		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	659	X-21	IV	底部	2.5YR6/4にぶい黄	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	660	X-23	IV	底部	10YR1.7/1黒	2.5Y6/4にぶい黄	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	661	X-22	IV	底部	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	662	X-23	IV	底部	7.5YR6/6橙	10R5/6赤	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	663	Y-23	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	
	664	H-（-1）	IV	底部	5YR6/6橙	5YR6/8橙	○	○	○		良	刻目	ヘラケズリ後ナデ	
	665	Y-24	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR7/6橙		○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	底に刻目
	666	V-23	IV	底部	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	667	Y-22	IV	底部	5YR6/6橙	7.5YR4/4褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	668	X-21	IV	底部	5YR6/6橙	10YR6/6明黄褐	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	669	Y-23	IV	底部	7.5YR6/6橙	10YR6/6明黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	670	W-22, X-21, Y-20	IV	底部	5YR6/6橙	5YR6/6橙		○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	671	H-（-1）	IV	底部	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR5/8明赤褐	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	672	Y-23, X-23	IV	底部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/6明黄褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
	673	X-22	IV	底部	2.5YR6/4にぶい黄	10YR7/6明黄褐		○			良	ナデ	ヘラケズリ	
	674	X-20	IV	底部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	
第66図	675	X-24	IV	胴部	2.5Y3/2黒褐	2.5YR5/6明赤褐	○	○			良	貝殻刻突文	ヘラケズリ	

縄文時代早期 土器観察表 IX～XI類

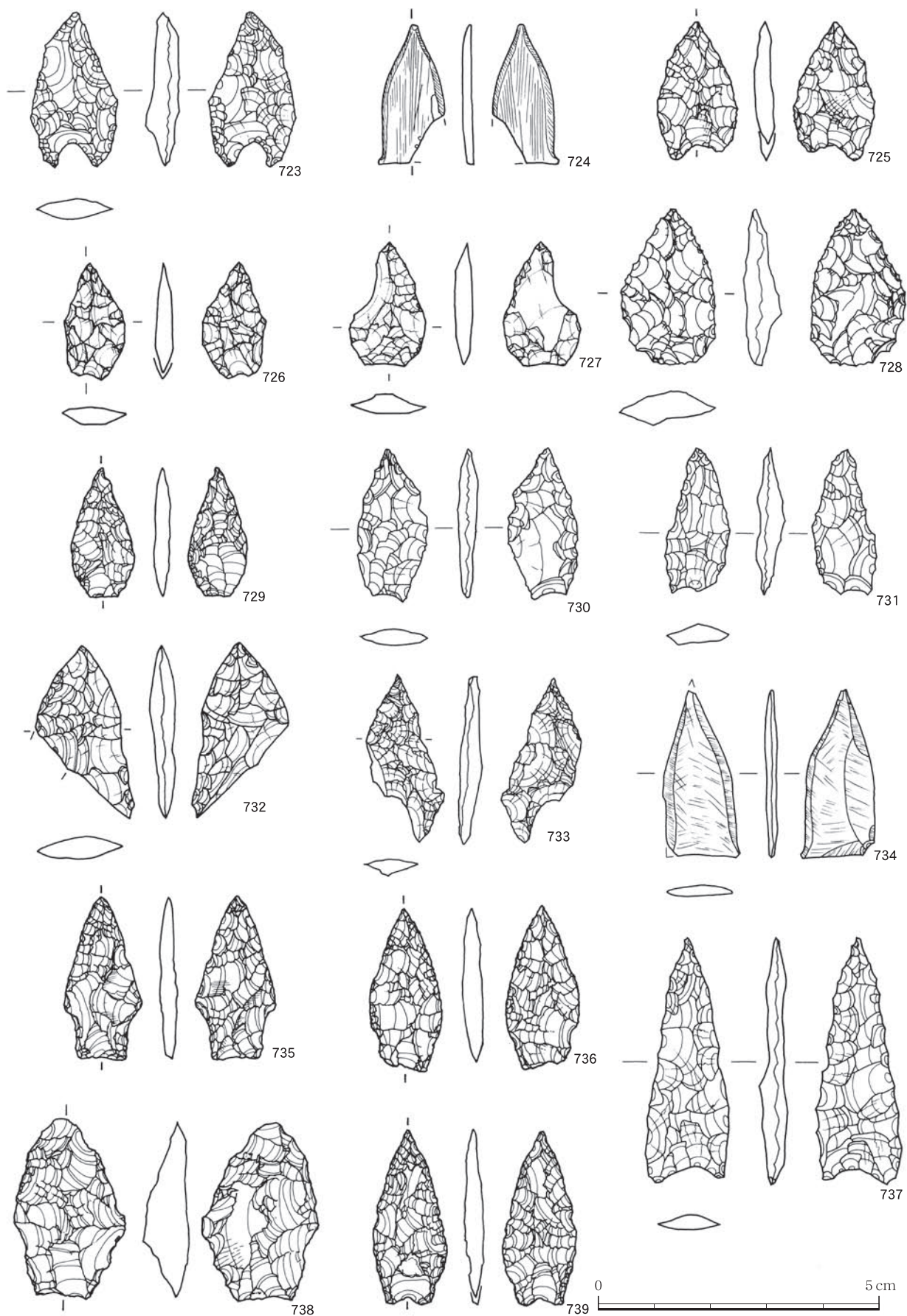
挿図番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第66図	676	Y-22	IV	口縁部	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐		○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	煤付着
	677	X-24	IV	口縁部	7.5YR6/6橙	10YR5/4にぶい黄褐	○	○			良	網目縞系文、沈線文	ヘラケズリ	
	678	V-23	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	



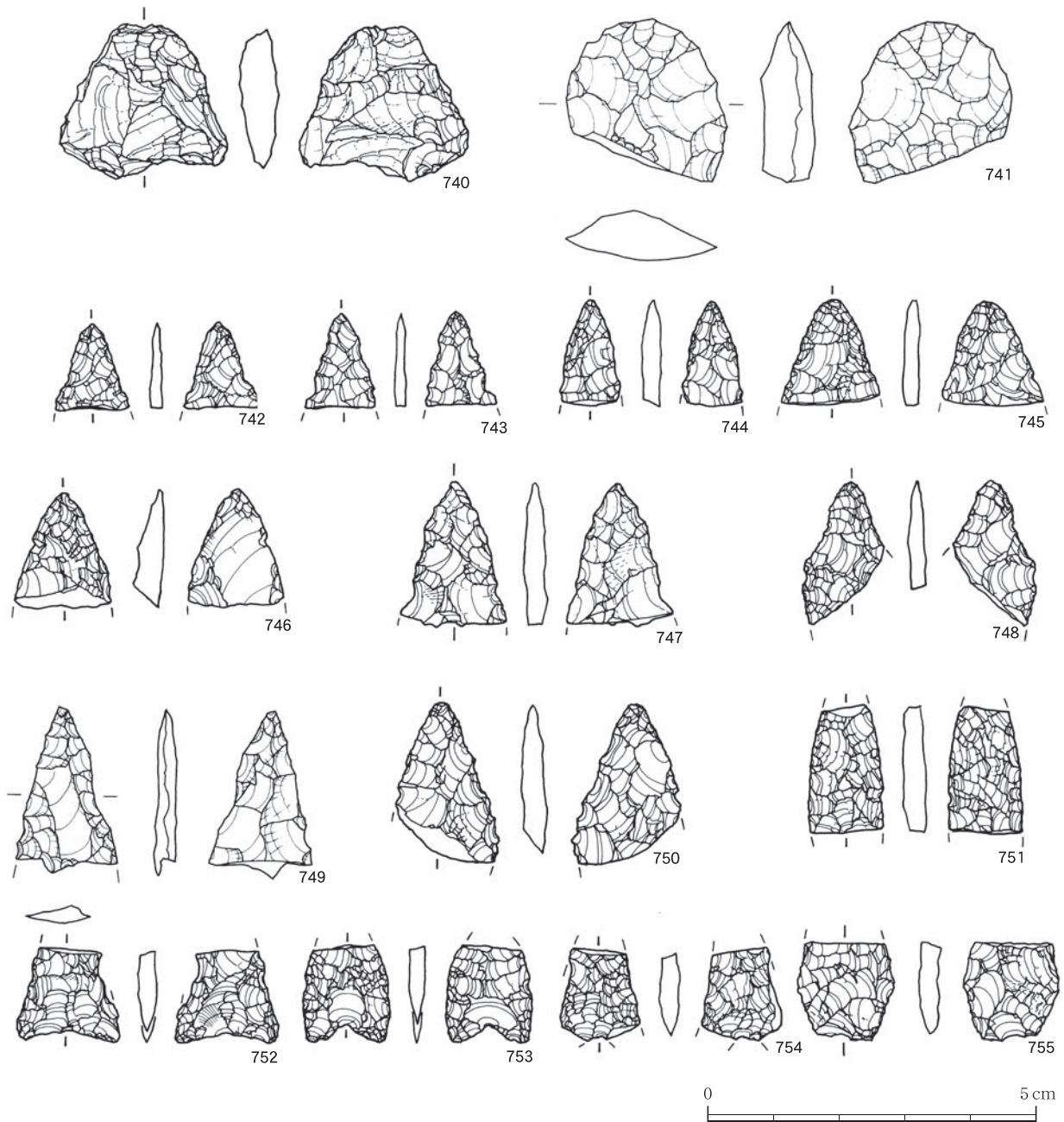
第67図 縄文時代早期石器（1）



第68図 縄文時代早期石器（2）



第69図 縄文時代早期石器（3）



第70図 縄文時代早期石器（4）

玉随1－白色。不純物を含まない。光を通さない。

玉随2－乳白色と青灰色が混ざる。光を通さない。

玉随3－乳白色にやや赤みがかった色が混じる。
光を通す。

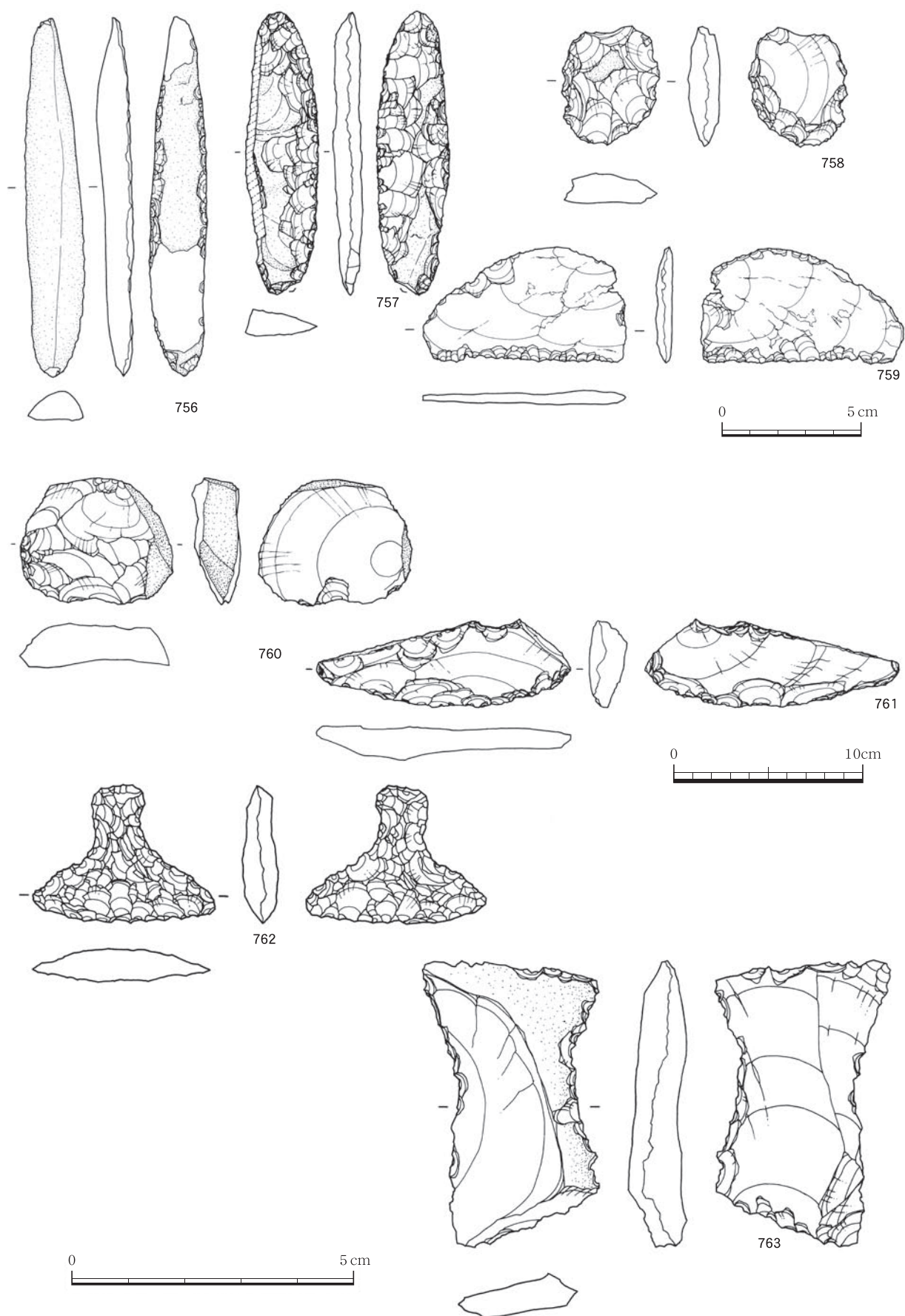
玉随4－青灰色が大部分を占める。縁が光を通すものと、光を通し青灰色の縞模様が観察できるものがある。

玉随5－青灰色、赤色が縞状もしくはまだら状に入り、光を通さない。

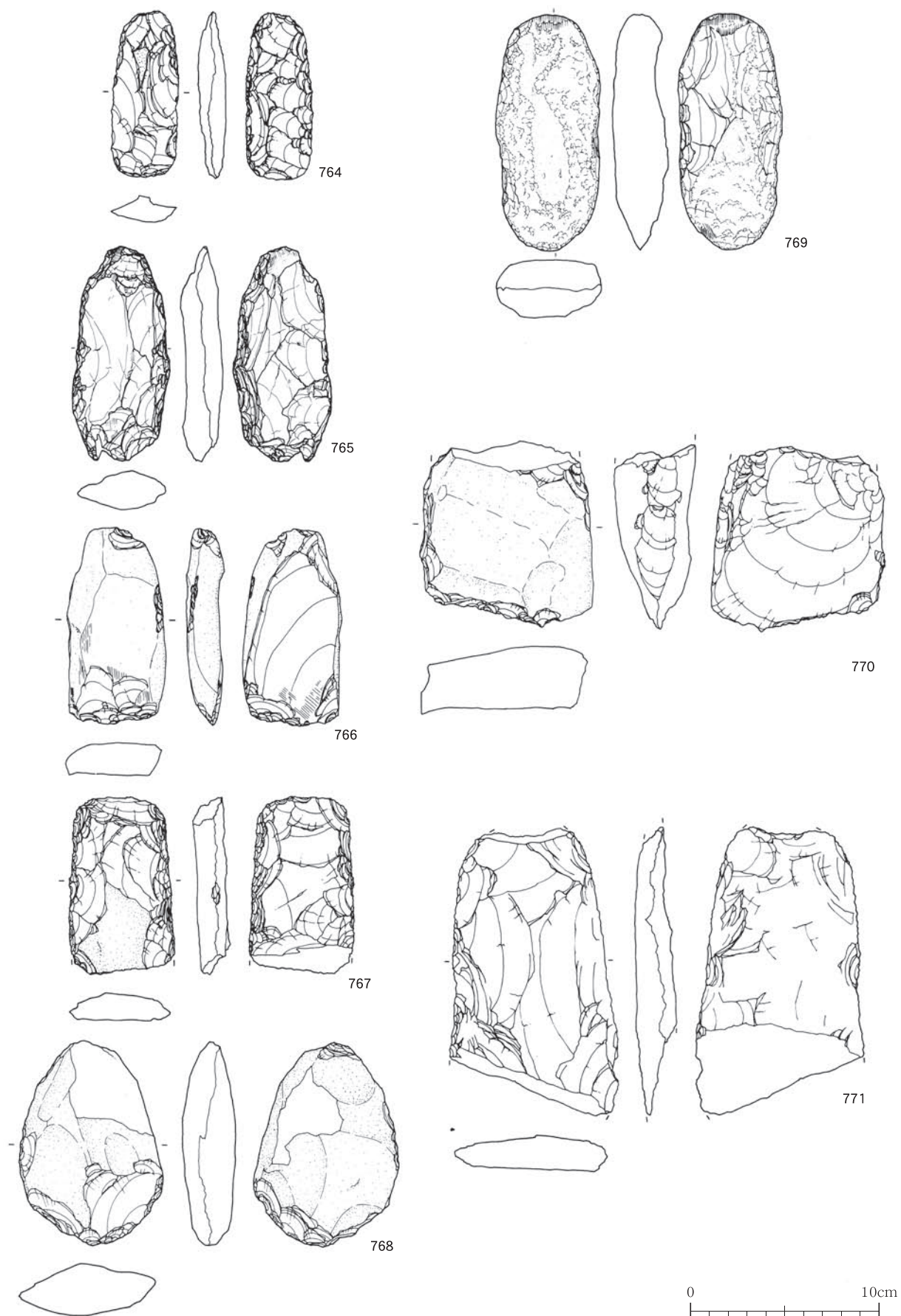
玉随6－赤色。光を通すものと、通さないものがある。

チャート：緑色、青灰色等がある。まとまりに欠けるため、細分化は試みなかった。

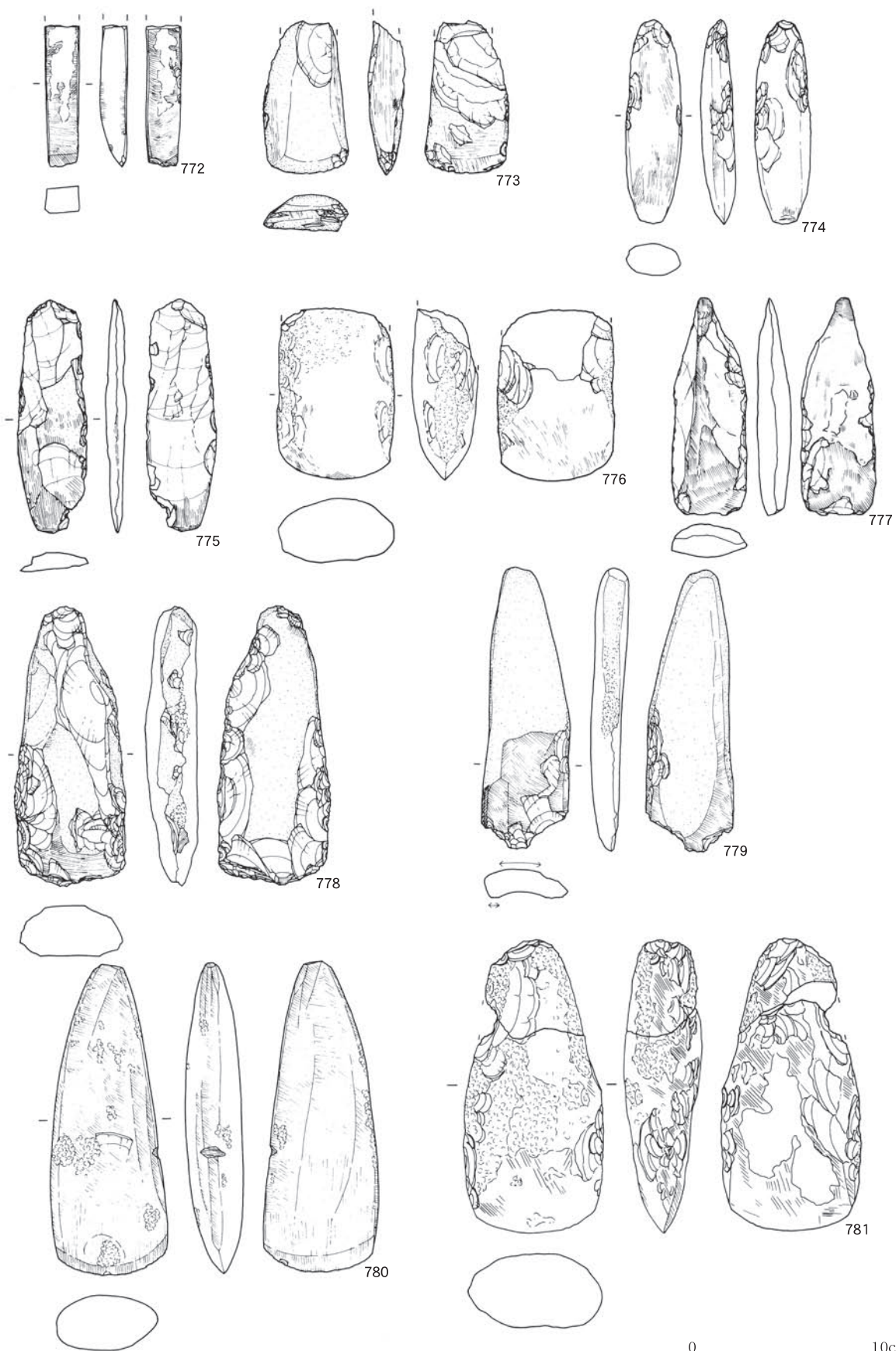
三角形を呈するものが大半を占めるが、735・736・738のように「矢印」状を呈するものや、737のような大形の石鏃も含まれる。また、691・724・734は磨製石鏃で、特に、724・734は同様の形状で酷似している。690・692・707・708はやや深めの抉



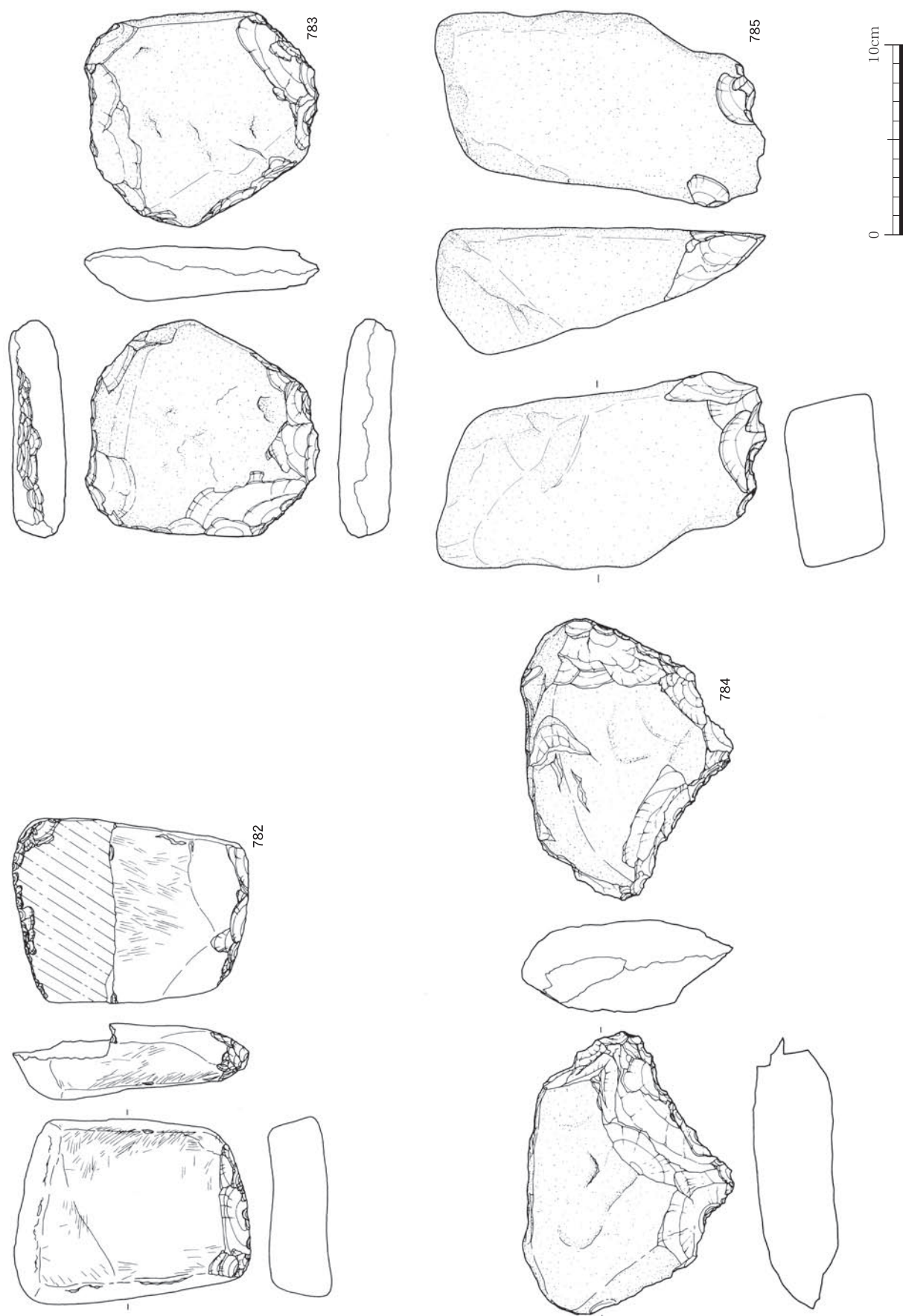
第71図 縄文時代早期石器（5）



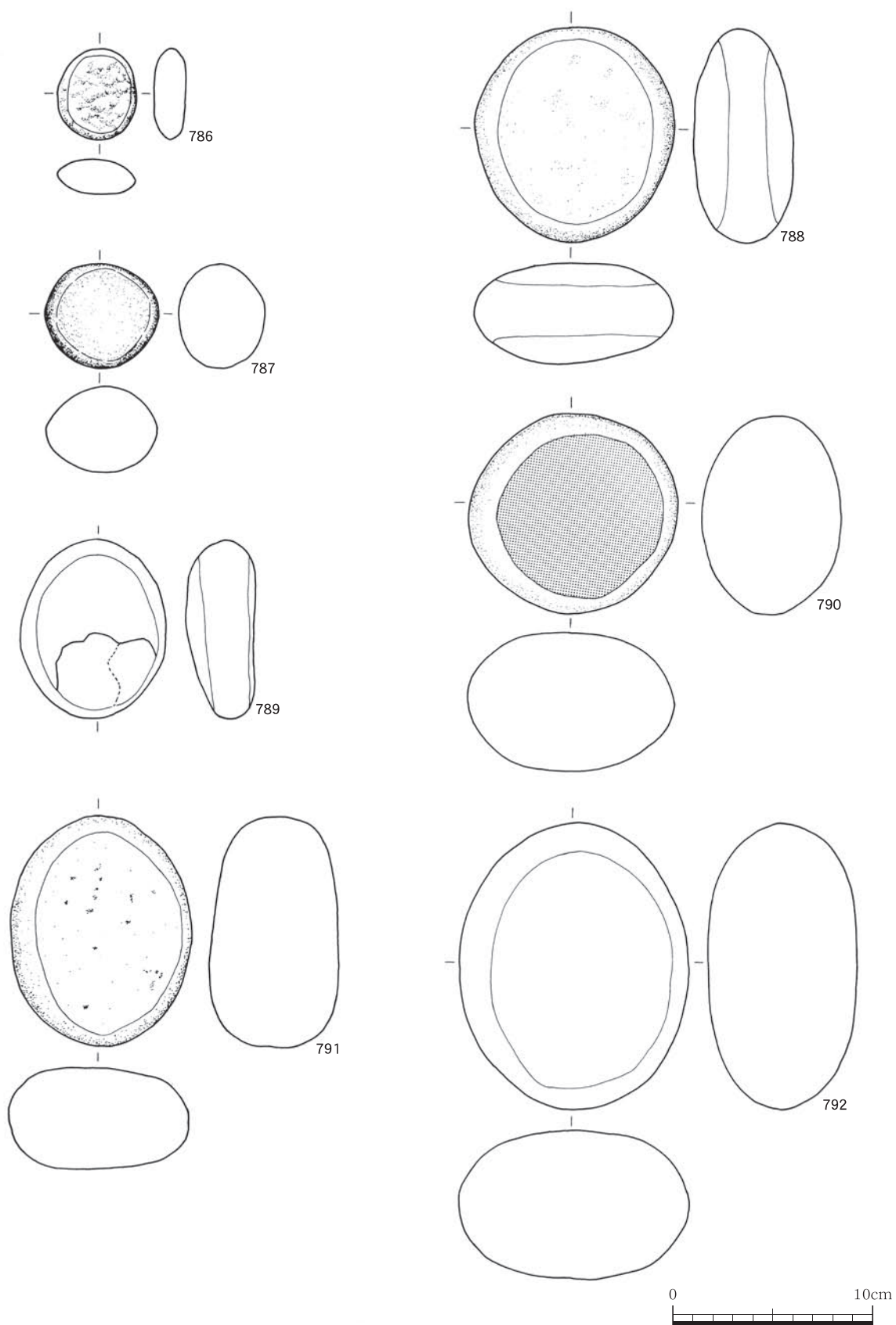
第72図 縄文時代早期石器（6）



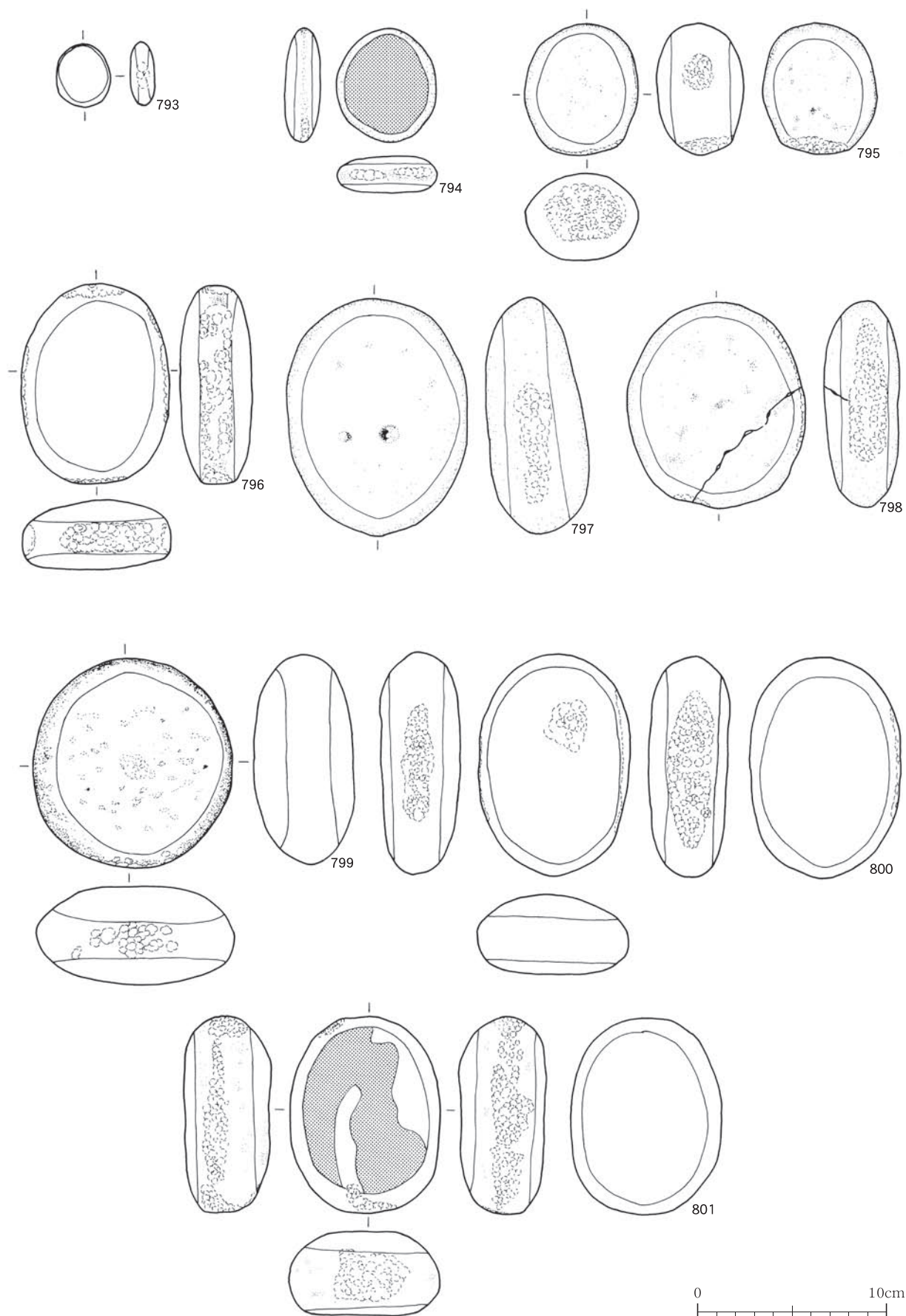
第73図 縄文時代早期石器（7）



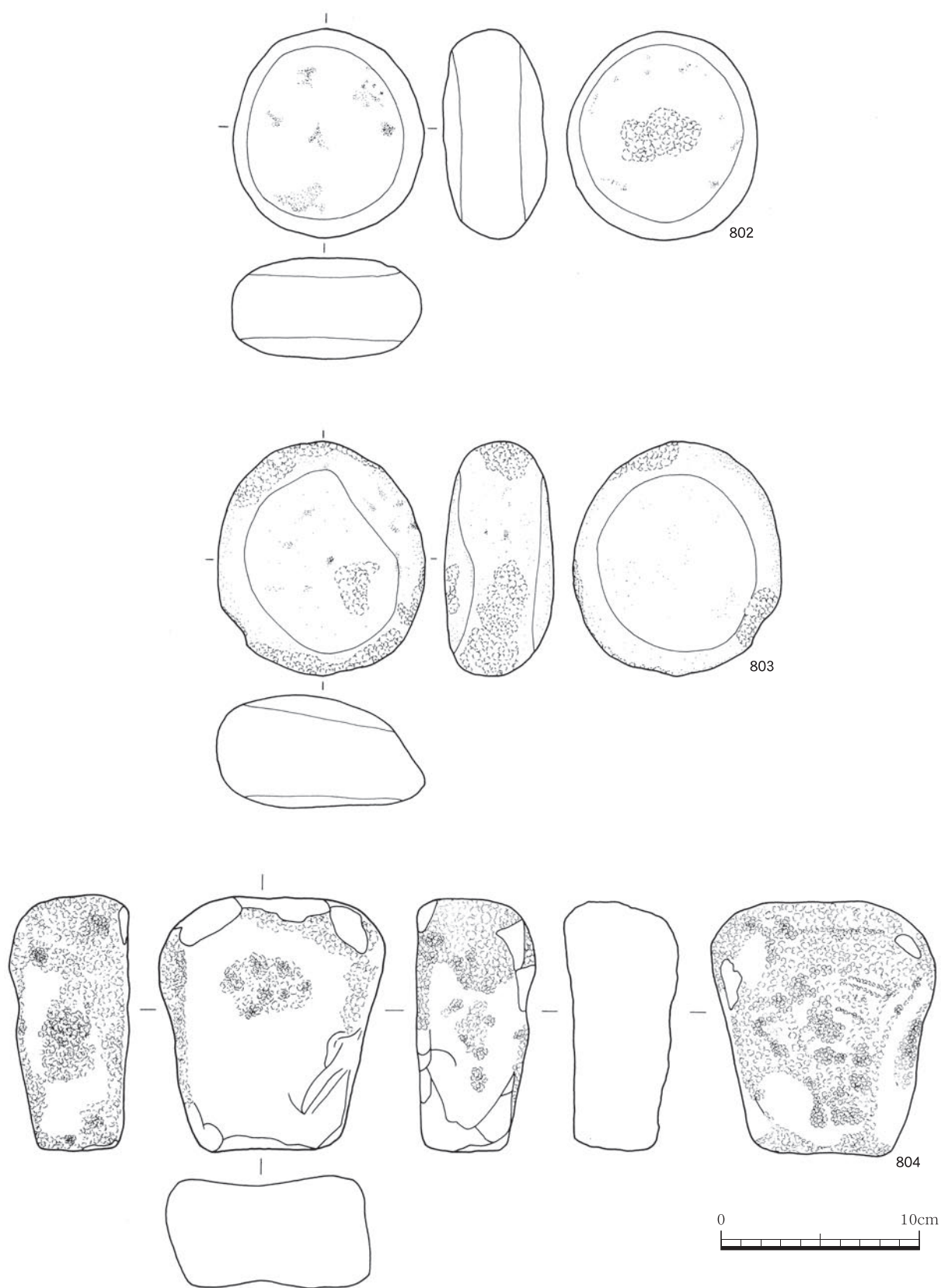
第74図 縄文時代早期石器（8）



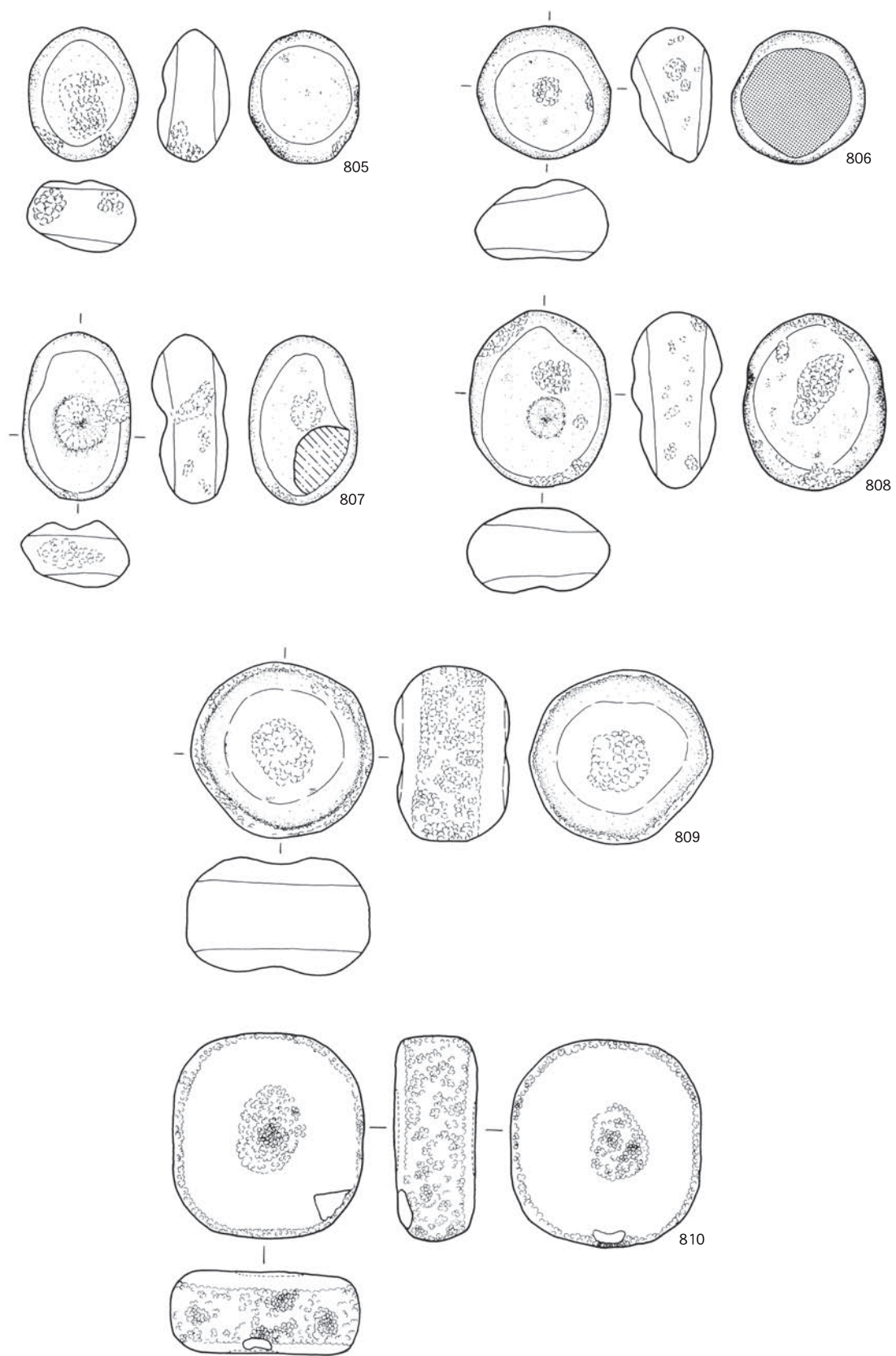
第75図 縄文時代早期石器（9）



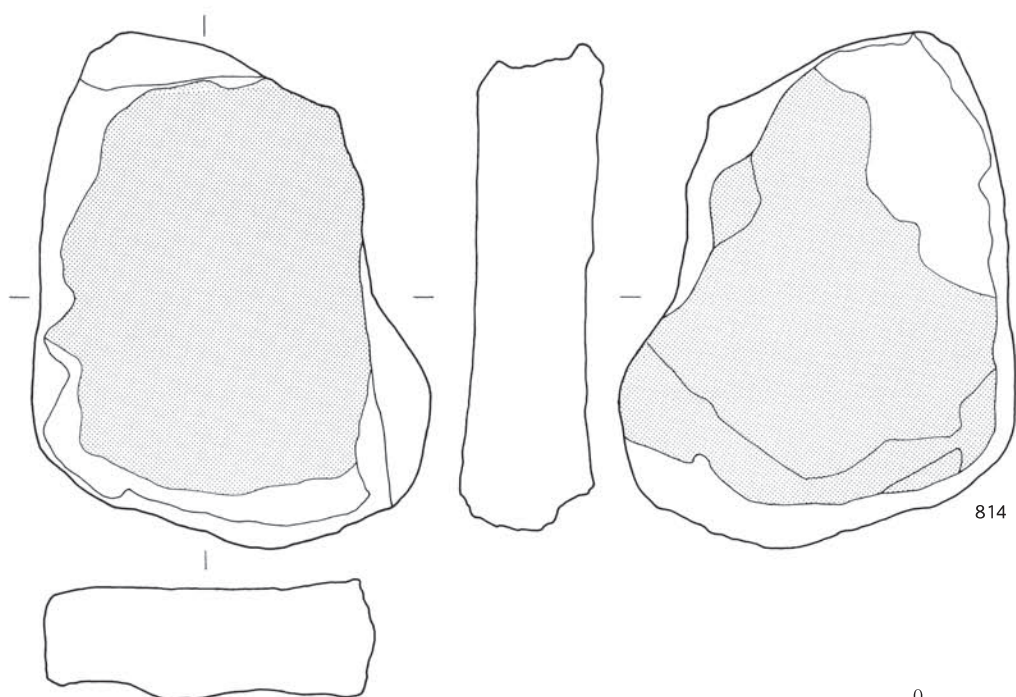
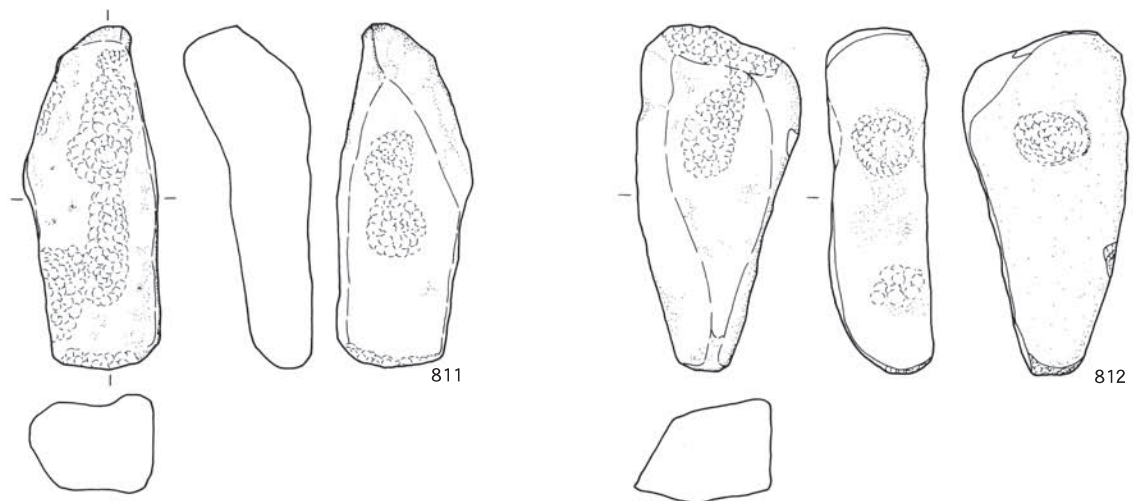
第76図 縄文時代早期石器 (10)



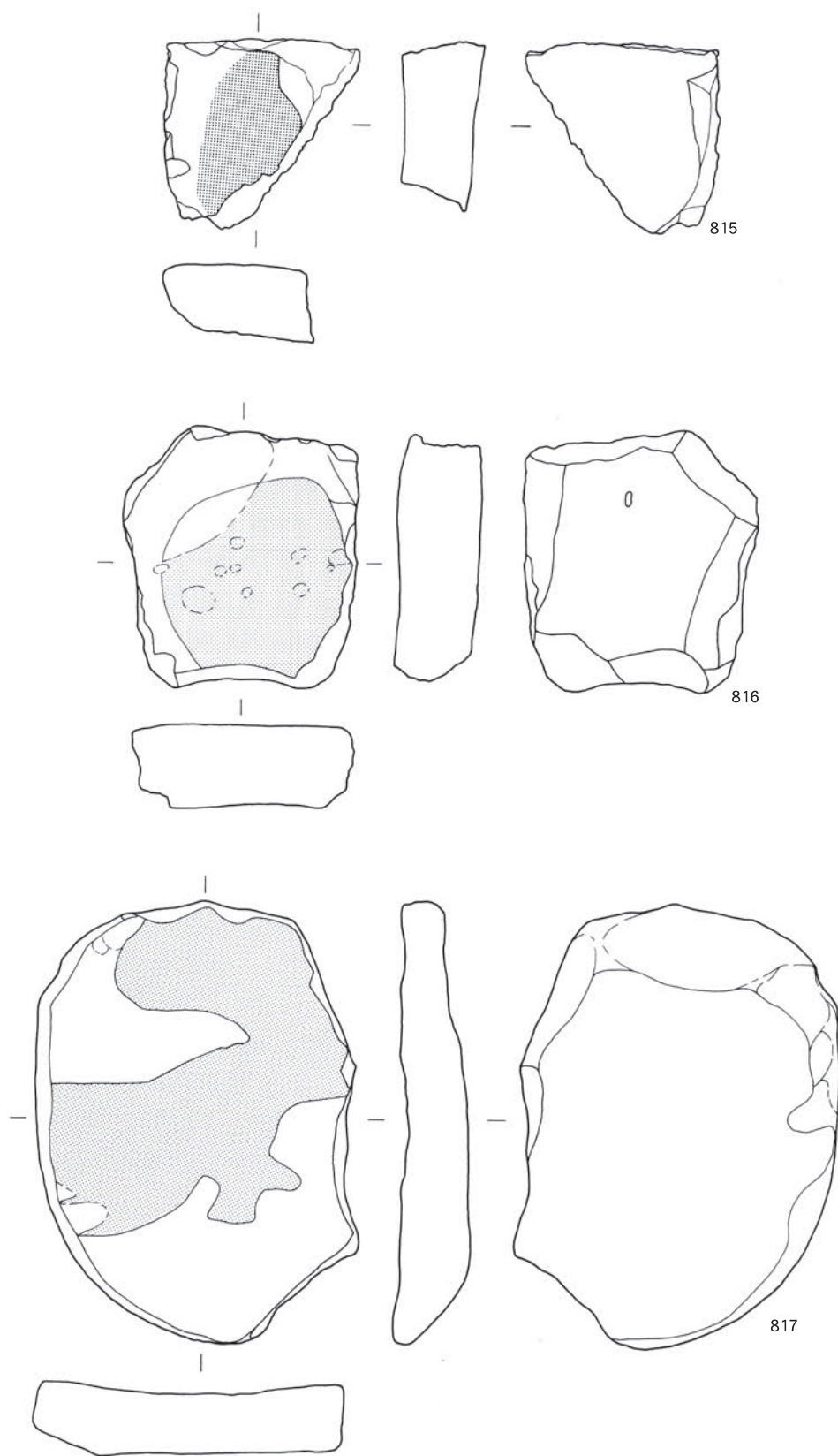
第77図 縄文時代早期石器 (11)



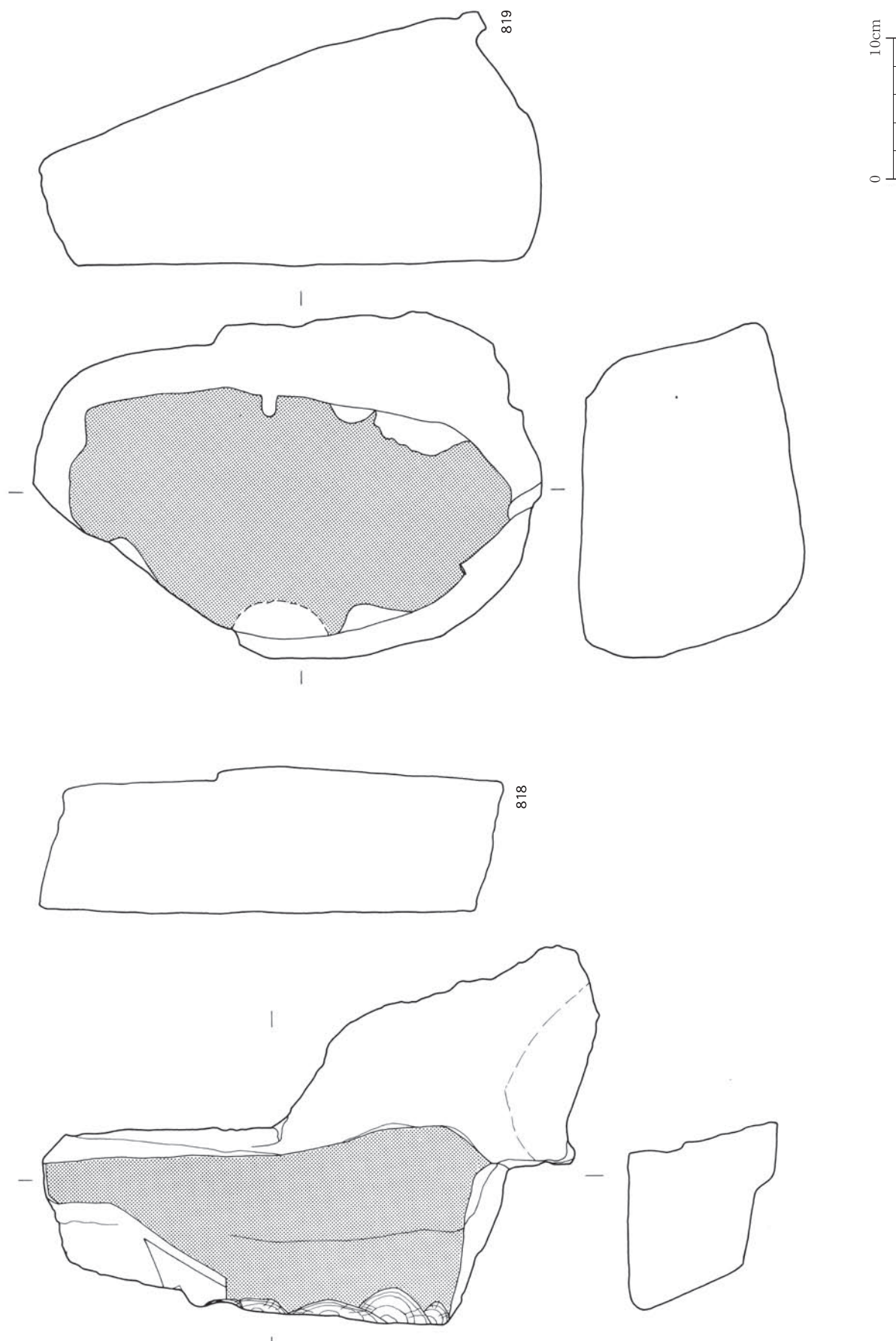
第78図 縄文時代早期石器（12）



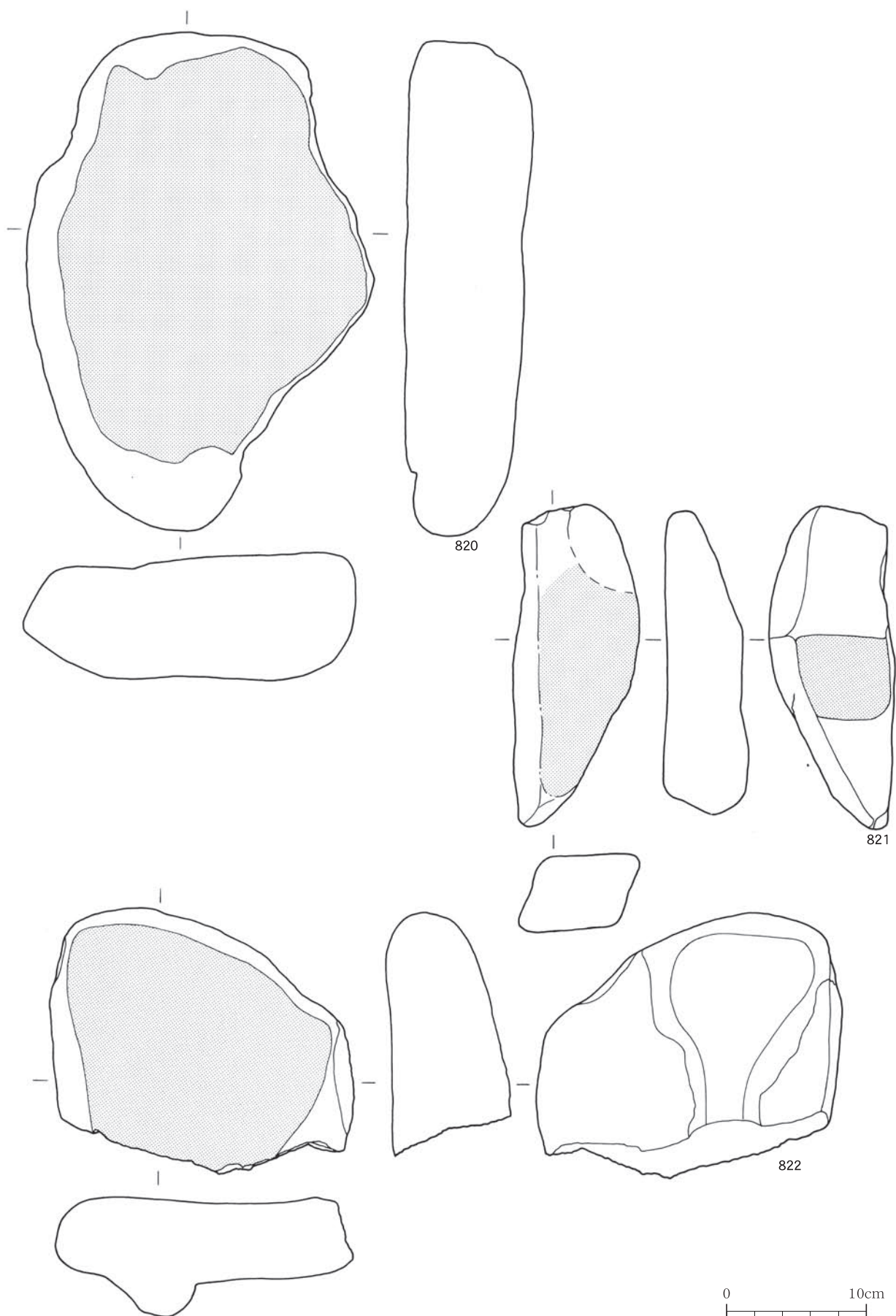
第79図 縄文時代早期石器 (13)



第80図 縄文時代早期石器 (14)



第81図 縄文時代早期石器 (15)



第82図 縄文時代早期石器 (16)

縄文時代早期 石器観察表（１）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	長幅比	形状	長幅比	基部	備考
						cm	cm	cm	g					
第 67 図	679	V-23	IV	打製石鏃	黒曜石E	1.4	1.1	0.3	0.3	1.2	A	a	a	
	680	U-9	IV	打製石鏃	玉随5	1.9	1.4	0.3	0.8	1.4	A	a	a	
	681	Z-24	IV	打製石鏃	黒曜石B	1.1	1.2	0.2	0.3	1.0	A	a	b	
	682	W-23	IV	打製石鏃	玉随1	1.5	1.9	0.3	0.8	0.8	A	a	b	
	683	Y-20	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.6	1.1	0.4	0.5	1.4	A	a	b	
	684	X-22	IV	打製石鏃	黒曜石E	1.7	1.3	0.2	0.5	1.3	A	a	b	
	685	X-24	IV	打製石鏃	玉随4	1.7	1.3	0.3	0.5	1.3	A	a	b	
	686	Y-24	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.8	1.2	0.5	0.7	1.5	A	a	b	欠損
	687	Y-24	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.9	1.5	0.3	0.5	1.2	A	a	b	
	688	W-22	IV	打製石鏃	チャート	1.9	1.6	0.3	0.9	1.2	A	a	b	
	689	V-24	IV	打製石鏃	頁岩2	1.9	2.2	0.4	0.7	0.9	A	a	b	
	690	Z-18	IV	打製石鏃	安山岩A	1.9	1.4	0.3	0.4	1.4	A	a	c	
	691	X-24	IV	磨製石鏃	黒曜石E	1.8	1.3	0.2	0.4	1.3	A	a	c	
	692	X-20	IV	打製石鏃	安山岩A	1.9	1.3	0.3	0.4	1.4	A	a	c	
	693	W-19	IV	打製石鏃	頁岩2	1.6	1.7	0.5	0.7	1.0	A	a	d	
	694	Y-23	IV	打製石鏃	安山岩A	1.7	1.5	0.2	0.5	1.1	A	a	d	
	695	—	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.7	1.5	0.3	0.6	1.1	A	a	d	
	696	Y-22	IV	打製石鏃	安山岩A	1.8	1.5	0.5	1.0	1.2	A	a	d	
	697	X-24	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.8	1.6	0.4	0.8	1.1	A	a	d	
	698	V-23	IV	打製石鏃	頁岩3	1.9	1.1	0.3	0.6	1.8	A	b	b	
第 68 図	699	Y-24	IV	打製石鏃	頁岩1	1.9	1.4	0.3	0.6	1.4	B	a	d	
	700	X-22	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.5	1.3	0.4	0.6	1.2	C	a	d	
	701	X-20	IV	打製石鏃	玉随5	1.9	1.2	0.3	0.6	1.6	C	b	a	
	702	W-23	IV	打製石鏃	玉随7	2.2	1.6	0.4	1.2	1.4	A	a	a	
	703	I-1	IV	打製石鏃	黒曜石A	2.0	1.9	0.3	0.7	1.0	A	a	b	
	704	X-24	IV	打製石鏃	頁岩2	2.1	1.9	0.3	0.7	1.1	A	a	b	
	705	V-24	IV	打製石鏃	黒曜石B	2.1	2.0	0.4	1.3	1.0	A	a	b	欠損（推定）
	706	Y-24	IV	打製石鏃	頁岩1	2.6	1.8	0.3	1.4	1.4	A	a	b	欠損（推定）
	707	X-19	IV	打製石鏃	黒曜石H	2.3	1.7	0.3	0.7	1.3	A	a	c	
	708	X-22	IV	打製石鏃	黒曜石A	2.4	1.8	0.3	0.8	1.3	A	a	c	
	709	X-19	IV	打製石鏃	黒曜石B	2.7	1.9	0.4	1.2	1.4	A	a	c	
	710	—	IV	打製石鏃	黒曜石B	2.1	1.8	0.4	0.9	1.2	A	a	d	
	711	V-11	IV	打製石鏃	玉随3	2.5	1.9	0.9	2.9	1.4	A	a	e	
	712	Y-22	IV	打製石鏃	玉随6	2.1	1.5	0.6	1.5	1.4	A	a	e	
第 69 図	713	X-20	IV	打製石鏃	玉随3	2.4	1.3	0.3	1.1	1.8	A	b	a	
	714	V-23	IV	打製石鏃	頁岩3	2.6	1.7	0.3	1.2	1.5	A	b	b	
	715	X-20	IV	打製石鏃	黒曜石F	2.3	1.5	0.7	1.5	1.6	A	b	c	
	716	V-24	IV	打製石鏃	チャート	2.2	1.4	0.2	0.5	1.6	A	b	c	
	717	X-24	IV	打製石鏃	黒曜石C	2.2	1.2	0.5	0.9	1.8	A	b	c	
	718	Y-20	IV	打製石鏃	安山岩A	2.5	1.7	0.4	0.9	1.5	A	b	c	
	719	W-23	IV	打製石鏃	チャート	2.6	0.9	0.3	0.7	2.7	A	c	c	
	720	Y-24	IV	打製石鏃	黒曜石C	2.3	1.6	0.5	1.8	1.4	B	a	b	
	721	X-22	IV	打製石鏃	玉随3	2.9	1.7	0.4	1.2	1.8	B	b	b	
	722	H-(-1)	IV	打製石鏃	頁岩3	2.8	1.6	0.4	1.3	1.8	D	b	b	
	723	V-24	IV	打製石鏃	頁岩2	2.7	1.6	0.6	1.7	1.7	B	b	d	
	724	X-20	IV	磨製石鏃	頁岩4	2.5	1.2	0.2	0.5	2.1	B	c	c	
	725	W-20	IV	打製石鏃	玉随5	2.5	1.5	0.3	1.1	1.7	C	b	d	
	726	U-9	IV	打製石鏃	チャート	2.1	1.1	0.3	0.7	1.9	C	b	b	
	727	U-9	IV	打製石鏃	玉随5	2.2	1.4	0.3	0.8	1.6	C	b	b	
	728	X-20	IV	打製石鏃	玉随6	2.8	1.7	0.6	2.3	1.6	C	b	e	
	729	W-22	IV	打製石鏃	チャート	2.3	1.1	0.3	0.7	2.1	D	c	a	
	730	V-11	IV	打製石鏃	玉随5	2.7	1.3	0.4	1.1	2.2	C	c	b	
第 70 図	731	U-9	IV	打製石鏃	玉随4	2.6	1.2	0.5	1.0	2.2	C	c	b	
	732	W-24	IV	打製石鏃	頁岩3	3.1	1.8	0.5	1.5	1.8	A	b	c	
	733	W-24	IV	打製石鏃	頁岩2	3.0	1.4	0.4	0.9	2.1	A	c	d	欠損
	734	Y-20	IV	磨製石鏃	頁岩4	3.0	1.5	0.2	1.0	2.1	B	c	a	赤色
	735	W-24	IV	打製石鏃	頁岩1	3.0	1.4	0.3	1.1	2.1	B	c	a	
	736	X-20	V	打製石鏃	頁岩3	3.0	1.3	0.4	1.2	2.2	D	c	a	
	737	U-9	IV	打製石鏃	頁岩3	4.4	1.6	0.4	2.4	2.8	A	c	b	
	738	Y-21	IV	打製石鏃	玉随2	3.2	2.1	0.8	4.0	1.5	C	b	a	
	739	W-21	IV	打製石鏃	玉随3	3.2	1.3	0.3	1.2	2.4	D	c	b	
	740	Y-23	IV	打製石鏃	チャート	2.4	2.6	0.6	4.7	0.9	A	a	b	
	741	V-11	IV	打製石鏃	チャート	2.4	2.5	0.8	4.7	1.0	C	a	—	欠損
	742	V-24	IV	打製石鏃	玉随4	1.3	1.2	0.2	0.2	1.1	A	a	—	欠損
	743	V-24	IV	打製石鏃	チャート	1.5	1.1	0.2	0.2	1.3	A	a	—	欠損
	744	V-23	IV	打製石鏃	玉随3	1.6	1.0	0.3	0.4	1.7	A	b	—	欠損
	745	X-21	IV	打製石鏃	チャート	1.6	1.6	0.2	0.7	1.0	A	a	—	欠損
	746	W-22	IV	打製石鏃	玉随3	1.8	1.5	0.4	1.0	1.2	A	a	—	欠損
	747	W-20	IV	打製石鏃	頁岩3	2.2	1.7	0.3	1.0	1.3	A	a	—	欠損
	748	V-24	IV	打製石鏃	チャート	2.2	1.3	0.2	0.6	1.7	B	b	—	欠損
	749	V-23	IV	打製石鏃	頁岩3	2.3	1.5	0.4	1.1	1.5	A	b	—	

縄文時代早期 石器観察表（2）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	長幅比	形状	長幅比	基部	備考
						cm	cm	cm	g					
第70図	750	W-21	IV	打製石鏃	チャート	2.5	1.7	0.4	1.3	1.5	A	b	—	欠損
	751	W-23	IV	打製石鏃	黒曜石G	2.0	1.2	0.4	1.1	1.7	C	b	—	欠損
	752	X-23	IV	打製石鏃	頁岩1	1.4	1.6	0.3	0.9	0.9	A	a	—	欠損
	753	X-19	V	打製石鏃	黒曜石B	1.5	1.3	0.2	0.7	1.1	A	a	b	欠損
	754	Y-23	IV	打製石鏃	黒曜石A	1.4	1.3	0.3	0.6	1.1	—	a	e	欠損
	755	X-20	IV	打製石鏃	玉随3	1.5	1.5	0.3	0.9	1.0	B	a	—	欠損
平均						2.2	1.5	0.4	1.1	1.5	—	a	—	

縄文時代早期 石器観察表（3）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
						cm	cm	cm	g	
第71図	756	Y-22	IV	石槍	安山岩	12.8	2.2	1.2	31.1	
	757	Y-23	IV	石槍	頁岩	10.1	2.6	1.0	29.9	
	758	V-11	IV	スクレイパー	頁岩	4.3	3.5	1.1	18.9	
	759	Y-21	IV	スクレイパー	玉随	4.2	7.3	0.6	16.4	
	760	Y-21	IV	削器	頁岩	6.7	8.2	2.4	162.2	
	761	Y-22	IV	削器	頁岩	6.5	10.9	1.3	115.2	
	762	H-(-1)	SR	石ヒ	黒曜石	2.5	3.2	1.1	3.3	
	763	Y-21	IV	石ヒ	頁岩	9.4	5.6	1.6	135.8	
第72図	764	W-22	IV	打製石斧	頁岩	8.8	3.7	1.5	51.2	
	765	Y-23	IV	打製石斧	頁岩	11.4	5.2	2.1	128.0	
	766	X-19	IV	打製石斧	頁岩	5.1	3.1	0.8	12.3	
	767	X-21	IV	打製石斧	頁岩	9.9	9.3	4.3	450.0	
	768	X-19	IV	打製石斧	頁岩	10.6	5.4	2.1	146.5	
	769	Y-19	IV	打製石斧	凝灰岩	12.5	5.5	3.0	286.7	
	770	X-21	IV	打製石斧	頁岩	9.9	9.3	4.3	450.0	
	771	SK1108	IV	打製石斧	頁岩	10.8	7.7	2.9	265.6	
第73図	772	Y-21	IV	ノミ形石斧	頁岩	7.2	1.8	1.4	34.2	
	773	X-22	IV	磨製石斧	頁岩	7.8	4.3	1.9	75.5	
	774	Y-22	IV	磨製石斧	頁岩	10.4	2.9	1.6	71.2	
	775	X-21	IV	局部磨製石斧	頁岩	11.8	3.6	1.1	42.1	
	776	Y-20	IV	磨製石斧	安山岩	8.7	6.0	3.4	274.2	
	777	X-22	IV	局部磨製石斧	頁岩	11.0	3.8	1.7	78.1	
	778	X-20	IV	局部磨製石斧	頁岩	14.3	5.7	2.6	284.9	
	779	X-20	IV	磨製石斧	頁岩	14.3	4.5	1.7	139.8	
	780	Y-21	IV	磨製石斧	安山岩	15.9	5.9	2.9	373.0	
	781	Y-23	IV	磨製石斧	頁岩	14.9	7.2	4.0	520.0	
第74図	782	W-20	V	礫器	頁岩	12.5	10.0	3.6	640.0	
	783	Y-21	IV	礫器	頁岩	12.3	11.6	3.1	550.0	
	784	X-24	IV	礫器	頁岩	11.2	15.1	4.5	810.0	
	785	Y-21	IV	礫器	頁岩	17.4	7.2	4.0	53.0	
第75図	786	X-25	IV	磨石	安山岩	4.5	4.0	1.7	50.1	A-b-iii
	787	X-21	IV	磨石	砂岩	5.2	5.7	4.3	165.3	A-a-iii
	788	—	—	磨石	安山岩	10.8	10.0	5.0	770.0	A-b-iii
	789	X-20	IV	磨石	安山岩	9.9	7.4	3.5	128.2	A-b-iii
	790	X-24	V	磨石	安山岩	10.0	10.4	7.0	990.0	A-a-iii
	791	Y-21	IV	磨石	安山岩	11.6	9.0	6.4	775.0	A-b-iii
	792	—	—	磨石	安山岩	14.4	11.5	7.4	1820.0	A-b-iii
第76図	793	X-24	IV	磨石	砂岩	3.4	2.9	1.3	18.7	B-b-iii
	794	X-25	IV	磨石	砂岩	6.0	5.3	1.8	87.7	B-b-iii
	795	X-20	IV	磨石	安山岩	7.0	6.1	4.6	279.1	B-a-iii
	796	X-24	IV	磨石	砂岩	10.6	7.9	3.7	490.0	B-b-iii
	797	X-21	IV	磨石	安山岩	12.6	9.6	5.2	940.0	B-b-iii
	798	W-20	IV	磨石	安山岩	11.0	9.5	4.0	700.0	B-b-iii
	799	—	—	磨石	安山岩	11.1	10.6	5.7	960.0	B-b-iii
	800	X-24	V	磨石	安山岩	11.8	8.0	4.3	640.0	B-b-iii
第77図	801	—	—	磨石	砂岩	10.5	8.0	4.6	630.0	B-b-iii
	802	X-20	IV	磨石	安山岩	9.7	9.7	5.1	830.0	B-b-iii
第78図	803	Y-24	IV	磨石	砂岩	12.0	10.5	5.6	940.0	C-b-iii
	804	SK1104	—	磨石	安山岩	12.7	11.4	6.0	1230.0	C-c-iii
	805	X-24	V	磨石・凹石	砂岩	6.4	5.3	3.4	157.5	C-b-i
第79図	806	X-21	IV	磨石・凹石	砂岩	6.5	6.4	3.9	221.0	B-b-i
	807	X-21	IV	磨石・凹石	砂岩	8.2	5.2	3.5	192.9	C-b-i
	808	Y-20	IV	磨石・凹石	砂岩	6.9	6.9	4.3	308.8	C-b-i
	809	Y-18	II	磨石・凹石	安山岩	8.8	8.8	5.6	700.0	C-b-i
	810	SK1104	—	磨石・凹石	安山岩	10.0	9.2	4.0	730.0	C-b-i
第79図	811	X-24	V	磨石・敲石・凹石	砂岩	13.6	5.3	4.3	400.0	C-c-ii
	812	X-23	IV	磨石・敲石・凹石	砂岩	13.6	6.4	3.9	410.0	C-c-ii
	813	Y-20	IV	磨石・敲石・凹石	砂岩	8.4	5.7	5.3	340.0	C-c-ii
	814	X-24	III	石皿	砂岩	24.8	21.0	7.0	4200.0	

縄文時代早期 石器観察表 (4)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
						cm	cm	cm	g	
第 80 図	815	—	IV	石皿	安山岩	10.1	8.1	4.8	700	
	816	—	IV	石皿	凝灰岩	14.8	13.2	5.0	1600	
	817	—	IV	石皿	砂岩	26.4	19.0	4.2	3400	
第 81 図	818	SK1103	IV	石皿	凝灰岩	37.8	23.6	10.2	9100	
	819	W- 22	—	石皿	砂岩	35.9	23.6	15.1	20300	
第 82 図	820	X- 20	IV	石皿	砂岩	35.8	26.0	8.9	11300	
	821	X- 21	IV	石皿	砂岩	22.0	8.8	6.1	1500	
	822	X- 23	IV	石皿	砂岩	17.7	21.5	8.5	11300	

りと、側縁部から基部にかけて突起状に剥離が施される。これが強調されると、本遺跡の縄文時代晩期石鏃1038・1043のような形状に発展すると思われる。

石槍 (第71図 756～757)

757の左側面は欠損しており両側面とも入念な剥離が施されていたものと思われる。756は剥離によって得られた形を利用し、裏面にはやや粗雑な剥離が見られる。

スクレイパー・石ヒ・削器 (第71図 758～763)

本遺跡における石ヒ類は石鏃などの出土数と比較して点数は少ない。762・763は挟りが施されているがその他は挟りをもたず、大剥離に刃部調整を入念に施している。

石斧 (第72図～73図 764～781)

概観すると打製石斧に短冊型が多く、磨製石斧には紡錘形が集中している。また、打製石斧に頁岩、磨製石斧には安山岩もしくは密度の高い頁岩といった明確な石材選択の相違点が見られる。これは剥離・研磨の両作業工程の性質上、明快な石材選択が行われていたことを示唆するものと思われる。

打製石斧 (第72図 764～771)

頁岩系の石材選択が中心である。本遺跡で検出された多数の頁岩製剥片と共伴するが、散布状態であったため、今回出土状況のみの復元を試みた。刃部形成は、側縁部の調整剥離も顕著である。764・765・767・771ともに側縁部の調整剥離が石器の中央部に向かって規則的に施され、入念な製作過程が想像できる。一方、自然面を大きく残した766・768・770は、側縁部の剥離がほとんど見られず、刃部形成がやや粗雑に施されているのが特徴的である。769は凝灰岩製でやや風化が激しいものの、全面に敲打調整痕が顕著である。

磨製石斧 (第73図 772～781)

点数は少ないが、ノミ形石斧のような比較的小形のものから最大長15.9cmに至るものまで、バリエーションがある。石材も密度の高い頁岩系・安山岩系等である。772・780はほぼ全面にわたって丁寧な研磨が施されている。773・779は自然面を大きく残すが、刃部と側縁部に研磨が施されている。774はやや風化しており、剥離も不明瞭な部分もあるが、刃部は鋭利に整えられている。775はやや薄手の頁岩で、刃部に入念に研磨が施されている。777は刃部と頭頂部に研磨が施され、頭部が突起状を呈する。778は側縁部に剥離が施されるが、丁寧な刃部形成の研磨が施されている。779は薄手の自然礫を使用している。側縁部に敲打痕を残し、裏面にへこみをもつ。776・781は剥離・研磨・敲打の作業を複合的に施し全体の形を整えている。

礫器 (第74図 782～785)

いずれも頁岩系で500～800gの石材を使用している。全体的に自然面を大きく残し、比較的粗雑な刃部形成が特徴的であるが、784は鋭利な刃部形成が入念に施されている。782は下部の刃部形成に加え、裏面上部に剥離が見られ、一部に擦痕が観察できる。

磨石・敲石・凹石 (第75図～79図 786～813)

出土点数は、ほぼ完形をとどめるもので78点である。その中で代表的な磨石・敲石・凹石を28点選別・分類し掲載した。更にその使用方法及び使用痕に注目し以下のタイプに分別した。これらは、縄文時代晩期磨石の分類にも該当する。

A：敲打痕がない。全体的に研磨が見られる。

B：側面のみ、もしくは表裏のみに敲打痕が観察できる。

C：全面に敲打痕が観察できる。

また、各種の中でも

a：球形を呈する

b：扁平を呈する

c：直方体（棒状を呈する）

に分類し、更に

i：正面・裏面に凹面をもつ

ii：全面に凹面をもつ

iii：凹面なし

に分類した。

概観すると、複数の面に敲打痕を多く残し、摩滅の激しい凹面を有するものが比較的多く、外形が棒状を呈するものが目立つ。本遺跡において、凹石は縄文時代早期に集中する傾向にあり、非掲載凹石12点も含めて豊富な資料を得ることができた。本報告書では、これら磨石・敲石・凹石の使用方法を検討するため、凹面を詳細に観察し、敲打痕集中部及び凹部の最大径と深さを測定、結果を分析した。

(p.188参照)

石皿（第79図～82図 814～822）

安山岩・凝灰岩・砂岩系の石材を選択し、中央部の凹みが顕著である。自然石の形態をそのまま利用して使っており、加工はあまりみられない。本遺跡出土の縄文時代晩期の石皿と比較すると、使用可能面積が比較的狭小・不定形で、設置時の安定感にかけるものが多い。欠損品で比較的大形の818は側縁部の調整が入念で、使用頻度も顕著である。（使用頻度＝スクリーントーンの濃淡）

3 縄文時代前期・中期・後期の調査

縄文時代前期・中期・後期については、遺構が検出されておらず、遺物は各時期の土器が数点ずつ出土している程度である。石器は出土しなかった。

土器（第83図・84図）

XII類～XVIII類に分類したが、いずれも1点または数点の出土である。

823はXII類土器に分類したもので、1点の出土である。胴部に補修孔が空けられる。内面には横位の条痕文が施され、外面は横位と斜位に施される。前期末頃の条痕文土器に相当するものではなかろうか。824～827はXIII類土器に分類したもので、4点とも同一個体と考えられる。前期の深浦式土器に相当するものと思われる。828はXIV類土器に分類したものである。口縁部は波状につくり、外面には凹線を廻らす。口唇部には刻みも施される。中期の南福寺式土器系と思われる。829はXV類土器に分類したものである。口縁部外面には凹線が廻り、口唇部には連点刺突文が施される。中期の岩崎上層式土器に相当すると思われる。830～832はXVI類土器に分類したものである。やや外反した口縁部の外面に、凹線が施される。中期の指宿式土器に相当する。833はXVII類に分類したものである。やや肥厚した口縁部の形状から市来式土器としたいが、外面が無文であることから、後期初頭の南福寺式土器で無文のタイプに相当する可能性も考えられる。834は、XVIII類土器に分類したものである。外面に橋状の把手が付き、その下位には連点状の刻みを施した突帯が貼り付けられる。突帯は橋状把手部分を中心に貼り付けられ一周はしない。また胎土中には滑石が観察される。中期後葉～後期前葉の阿高式土器に比定される。

縄文時代前期・中期・後期 土器観察表

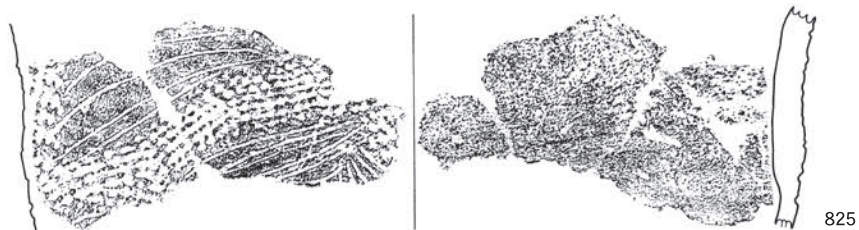
挿図番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第83図	823	V-10	Ⅲ	胴部	10 YR4/2灰黄褐	10 YR5/2灰黄褐		○			良	貝殻条痕文	貝殻条痕文	補修孔
	824	Y-24	Ⅳ	口縁部	5 YR4/3にぶい赤褐	7. 5 YR3/1黒褐		○		チリ	良	貝殻連点文 沈線文	貝殻押引文 ナデ	
	825	Y-24	Ⅲ、Ⅳ	胴部	10 YR3/2黒褐	5 YR4/4にぶい赤褐		○			良	貝殻連点文 沈線文	ヘラケズリ後ナデ	
	826	Y-24	Ⅳ	胴部	7. 5 YR4/3褐	2. 5 YR5/6明赤褐		○			良	貝殻連点文 沈線文	ヘラケズリ後ナデ	
	827	Y-24	Ⅳ	胴部	10 YR3/2黒褐	5 YR4/6赤褐		○			良	貝殻連点文 沈線文	ヘラケズリ後ナデ	
第84図	828	Y-18	Ⅲ	口縁部	10 YR4/3にぶい黄褐	7. 5 YR6/4にぶい橙		○			良	沈線文	ヘラケズリ後ナデ	
	829	Y-22	Ⅳ	口縁部	10 YR4/2灰黄褐	10 YR4/3にぶい黄褐		○			良	凹線文	ナデ	
	830	—	—	胴部	5 YR5/6明赤褐	2. 5 YR5/6明赤褐		○			良	凹線文	貝殻条痕文 ナデ	
	831	X-20	Ⅳ	口縁部	7. 5 YR5/4にぶい褐	7. 5 YR4/3褐		○			良	凹線文	ナデ	
	832	X-20	Ⅳ	口縁部	10 YR3/1黒褐	7. 5 YR4/2灰褐	○				良	凹線文	ナデ	
	833	SUT2	Ⅲ	口縁部	7. 5 YR6/4にぶい橙	7. 5 YR5/4にぶい褐	○				良	ナデ	ナデ	
	834	H-8	Ⅲ	胴部	10 YR4/1褐灰	2. 5 YR4/1灰黄	○	○		滑石	良	刻目突帯 橋条取手	ナデ	



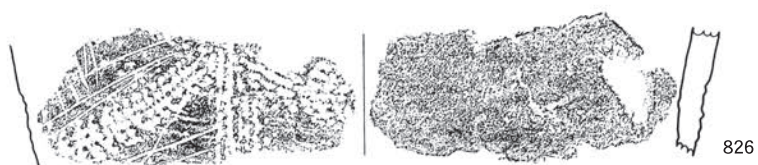
823



824



825



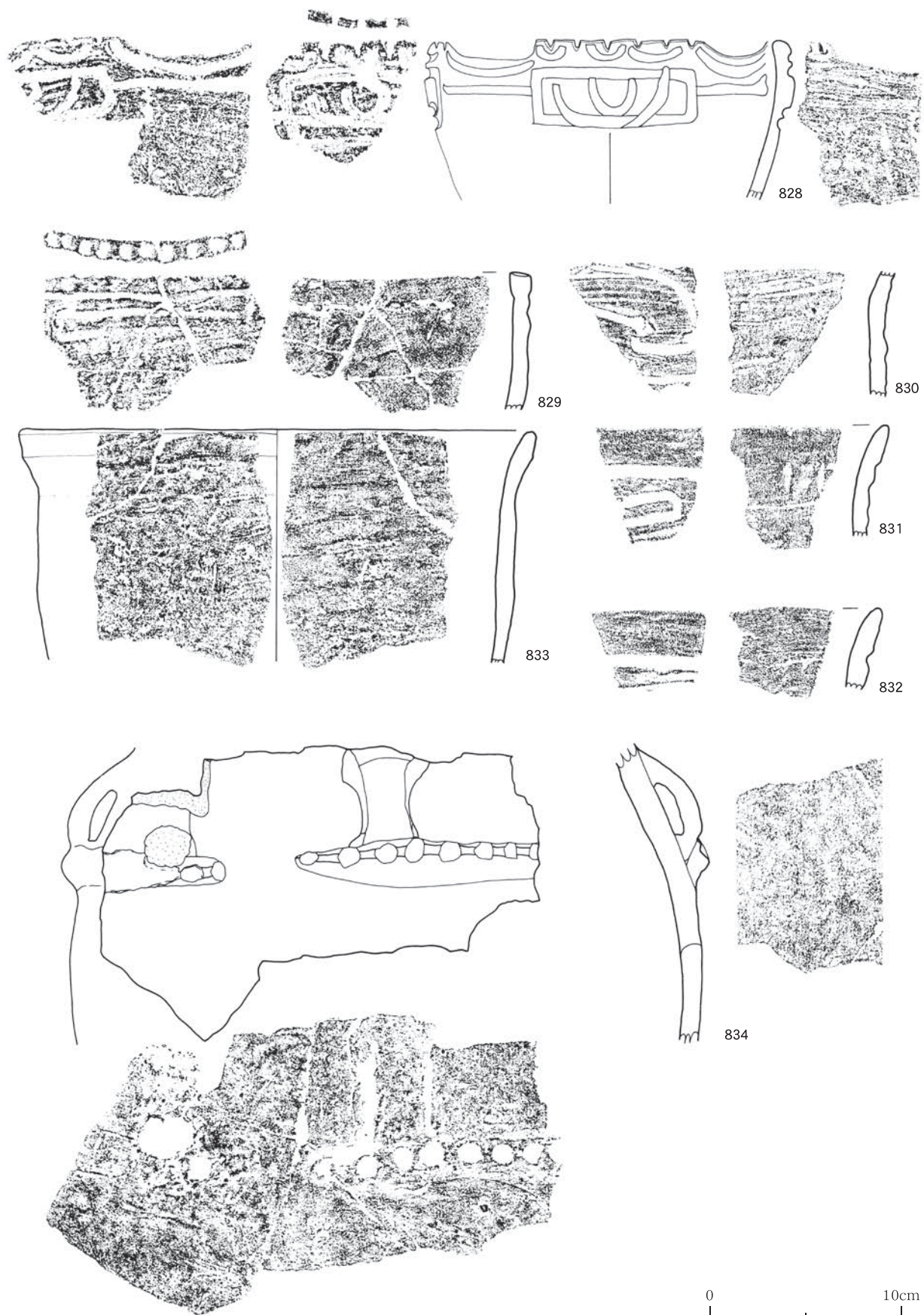
826



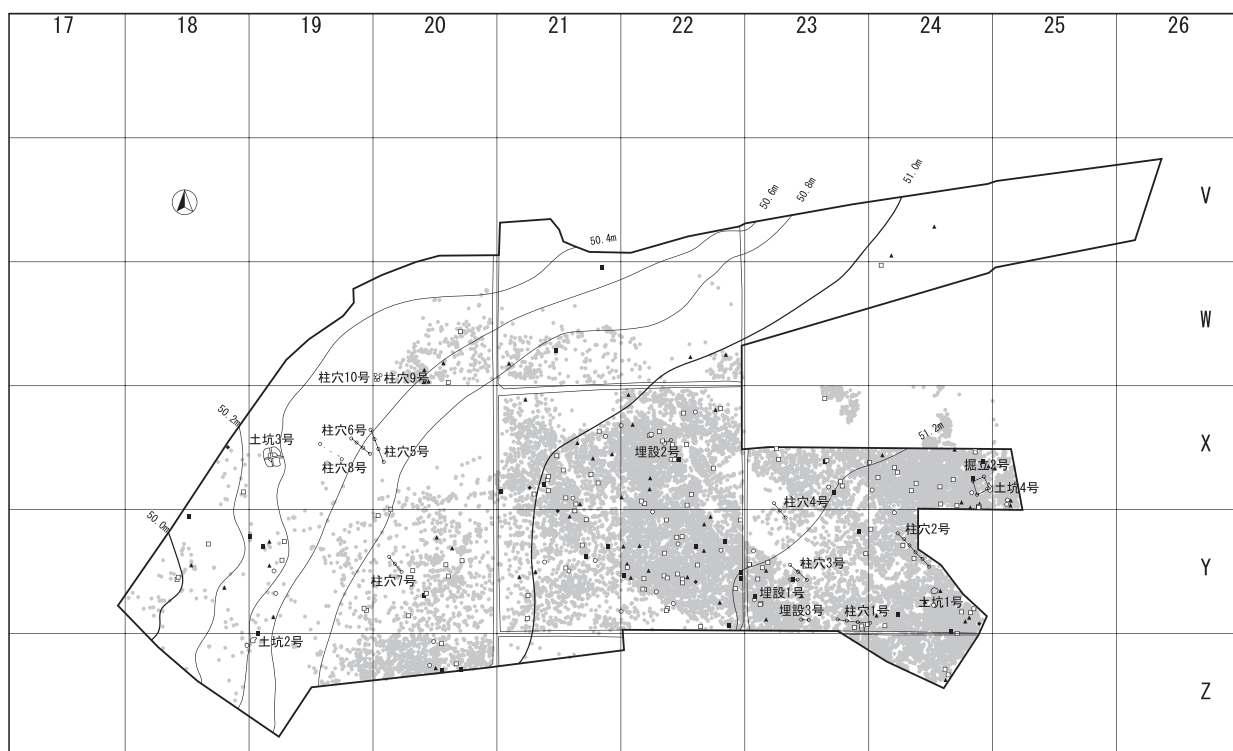
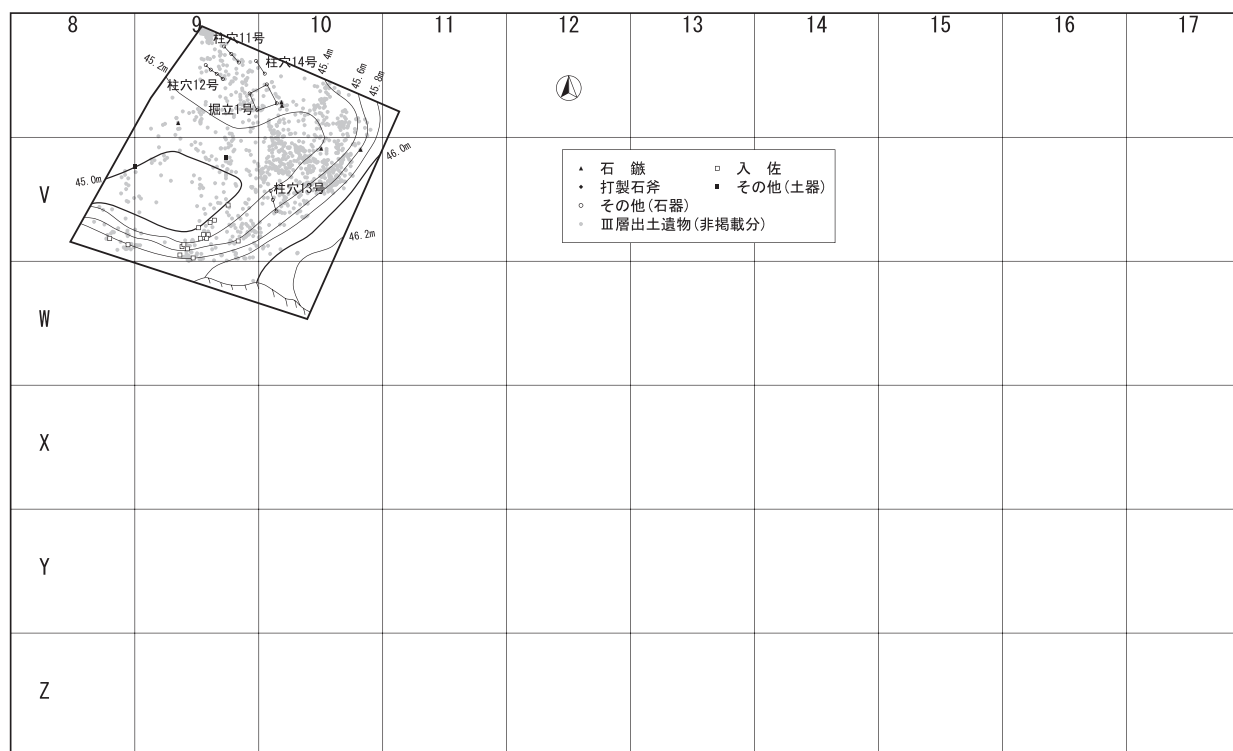
827



第83図 縄文時代前期～後期土器（1）



第84図 縄文時代前期～後期土器（2）



第85図 縄文時代晩期遺構配置図及び出土状況図（1グリッド：20m）

4 縄文時代晩期の調査

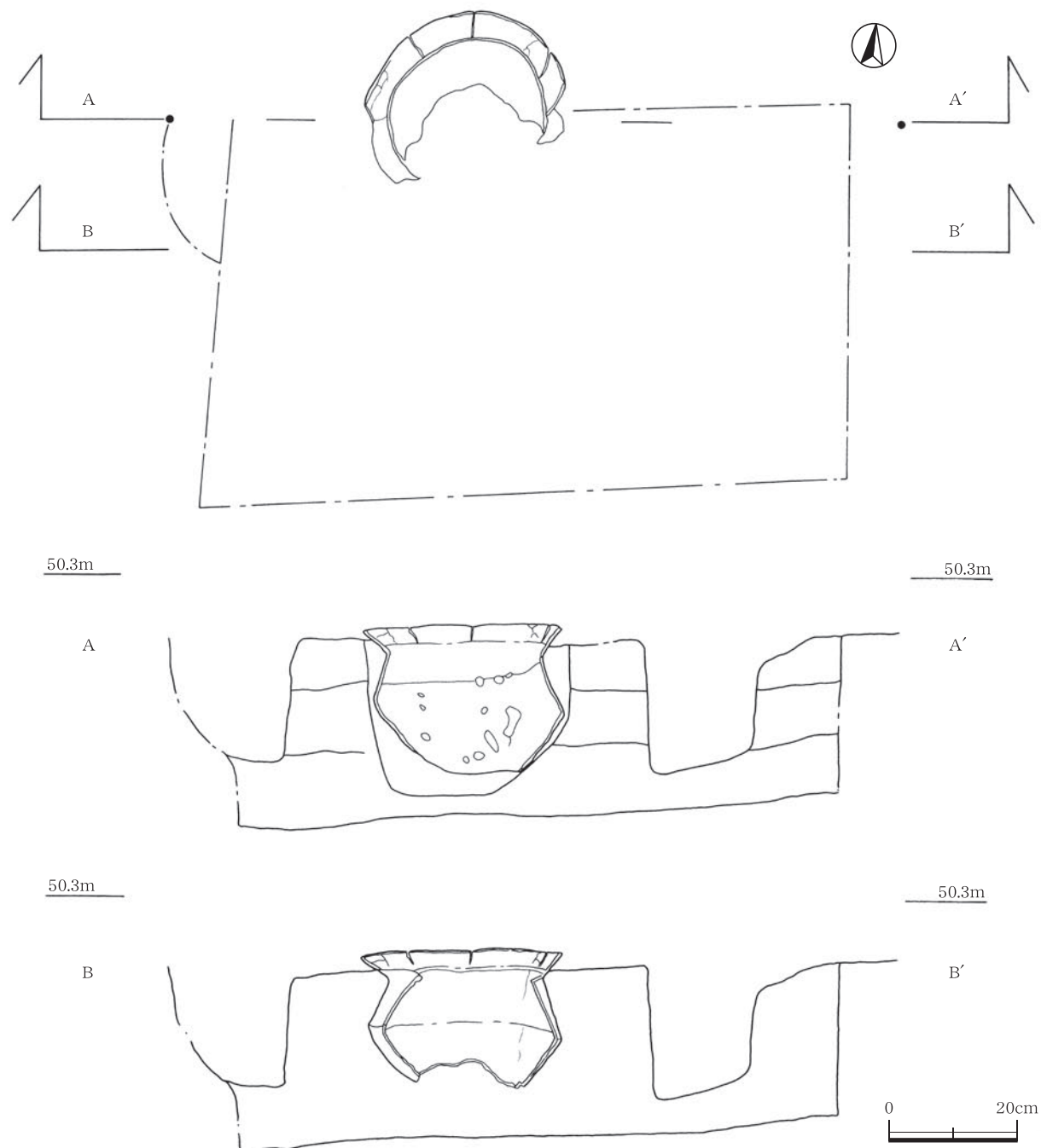
縄文時代晩期の調査では、埋設土器3基、土坑5基、掘立柱建物跡2棟、柱穴列14列が検出された。

土器はXIX類～XXI類の3類に分類されるものが出土しているが、そのほとんどはXX類土器で、XIX類・XXI類はわずかの出土量である。石器は石鏃・石斧・磨石・石皿等が出土しているが、中でも石鏃の出土量が多い。

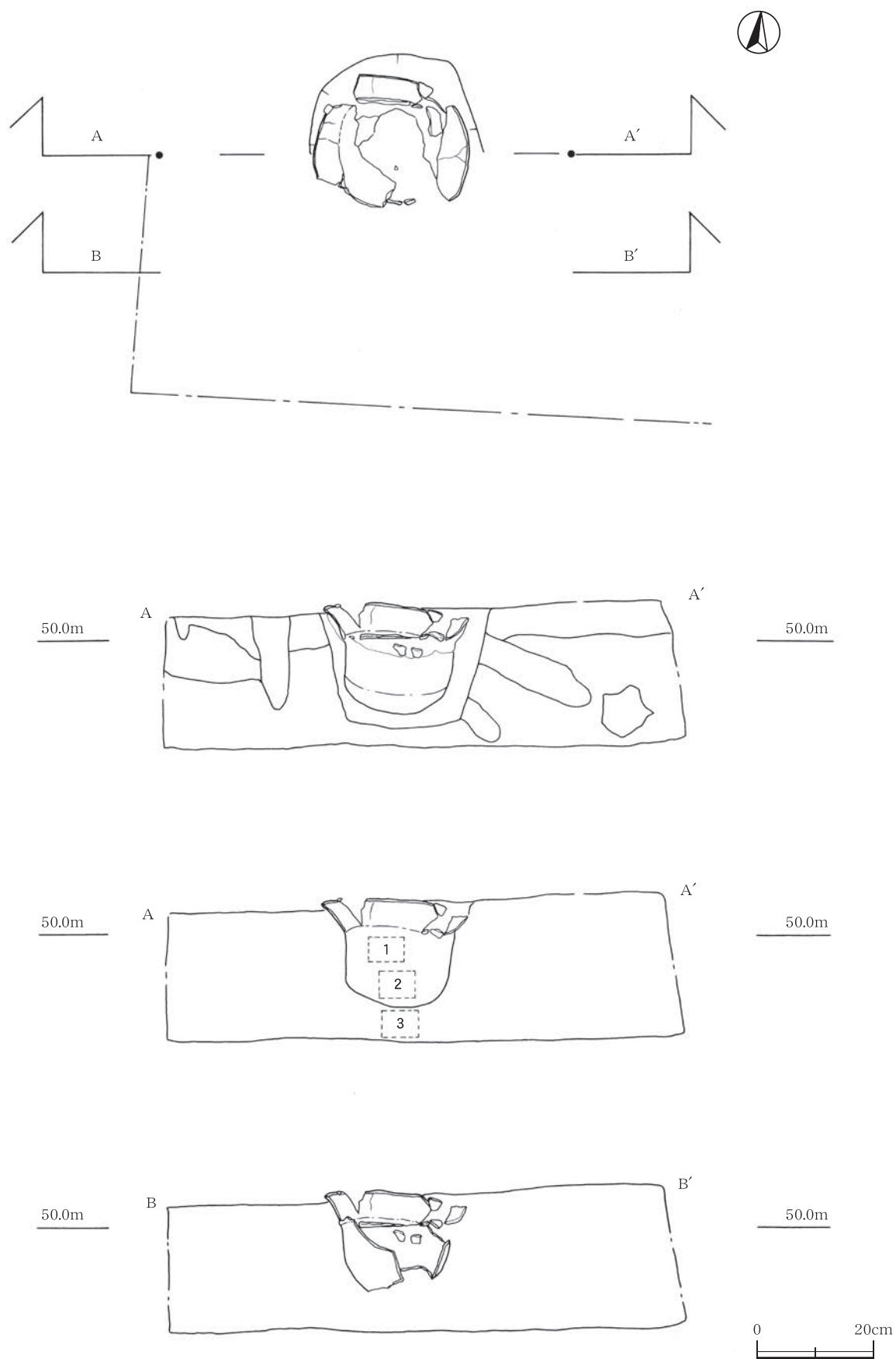
(1) 遺構（第86図～95図）

①埋設土器（第86図～90図）

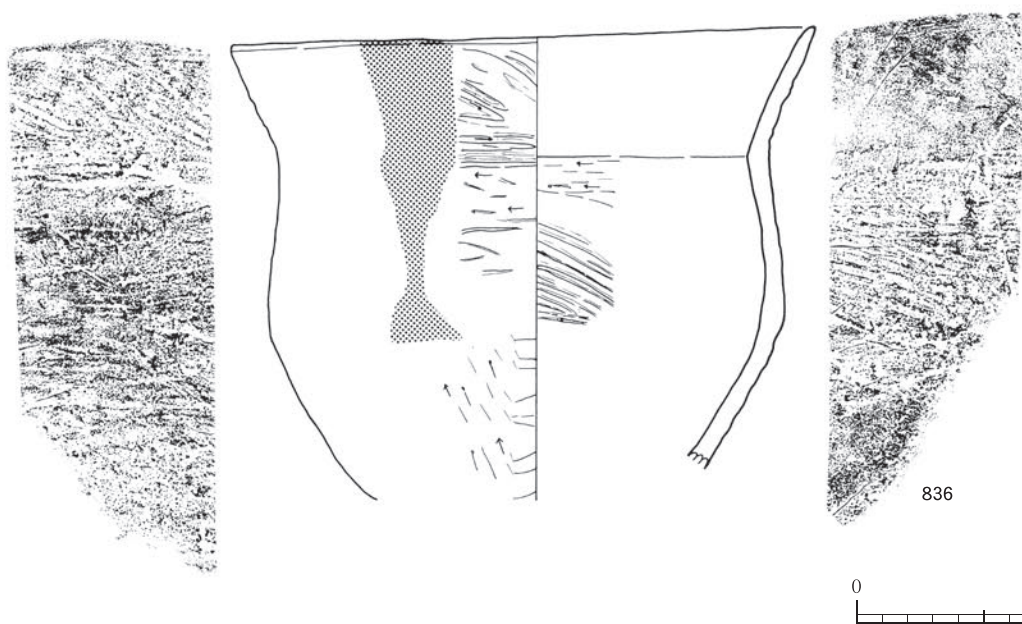
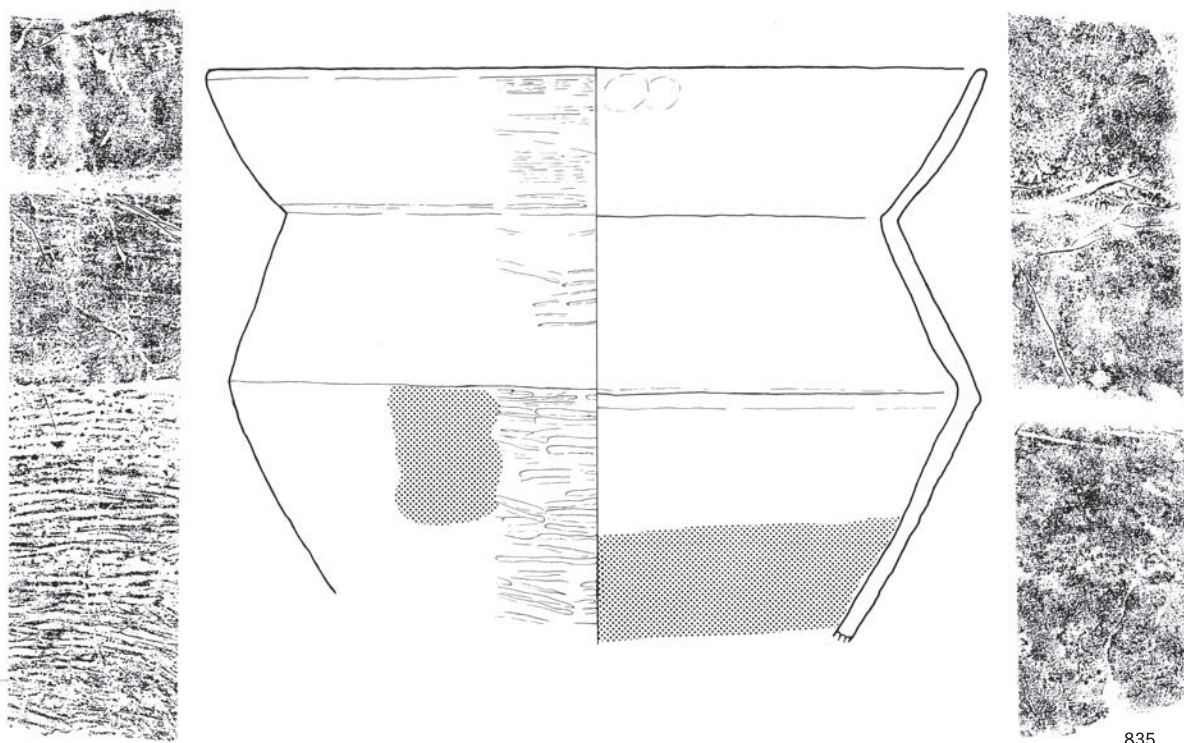
3基の埋設土器が検出された。出土した土器はいずれもXX類（入佐式土器）に相当するものである。外面に煤が付着していることから埋設用に再利用したものと考えられるも、ほぼ同一時期のものと思われる。



第86図 埋設土器1号出土状況図



第87図 埋設土器 2 号出土状況図



第89図 埋設土器 1号・2号実測図

埋設土器 1号

Y-23区で検出した。土器はほぼ正位置に埋設されており、上蓋は確認されなかった。また、底部も欠損していた。掘り込みも存在するが、掘り込みの径が土器の口縁径とほぼ同じであったため、上面からは確認できなかった。

埋設土器835は、口縁径31.0cm、胴部最大径30.0cmを測る。器形は胴部中位で「逆く」の字に強く屈曲し、頸部からやや内湾気味に口縁部が伸びる。器面調整は、外面胴部の屈曲部以下は貝殻条痕が横位に施され、その他はナデ調整である。内面は全面ナデ調整が施される。



第90図 埋設土器 3号実測図

埋設土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第89図	835	Y-23 SJ1101	Ⅲ	口縁部~胴部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい褐	○	○			良	条痕 ナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	
	836	Y-23 SJ1101	Ⅲ	口縁部~胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/6橙	○	○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	
第90図	837	Y-23 SJ1103	Ⅲ	完形	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ	

埋設土器 2号

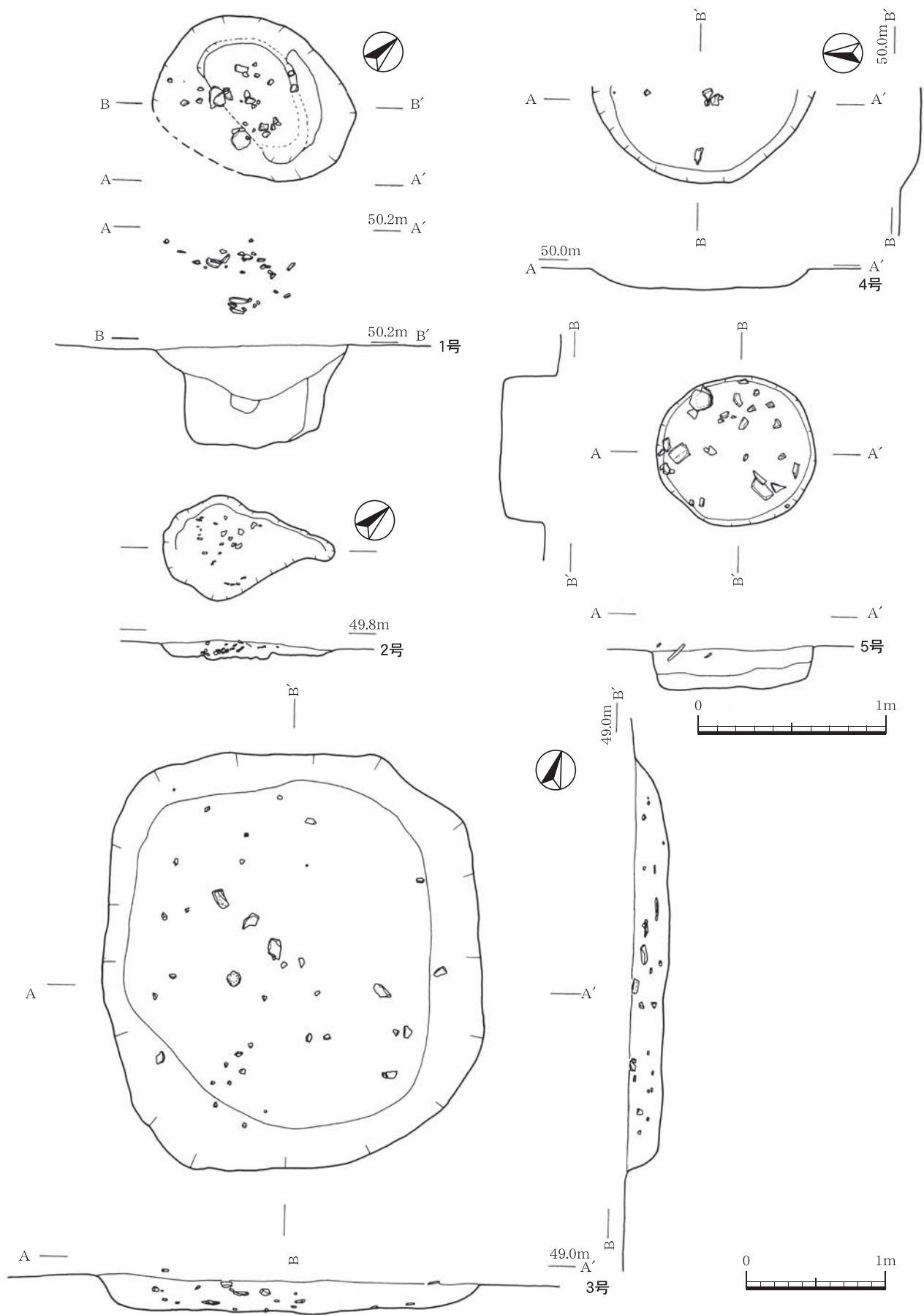
X-22区で検出した。掘り込みは暗黄褐色の埋土であったが、掘り込みの径が土器の口縁径とほぼ同じであったため、上面からは確認できなかった。土器はほぼ正位置に埋設されており、上蓋は確認されなかった。また、底部も欠損していた。

836は、口径は23.1cm、胴部最大径23.0cmを測る。器形は胴部中位で「逆く」の字状に屈曲し、頸部からやや内湾気味に口縁部が伸びる。器面調整は外面全体に貝殻条痕を施し、胴部下位にはさらにヘラ状工具によるナデ調整が施される。内面の調整はナデ調整である。

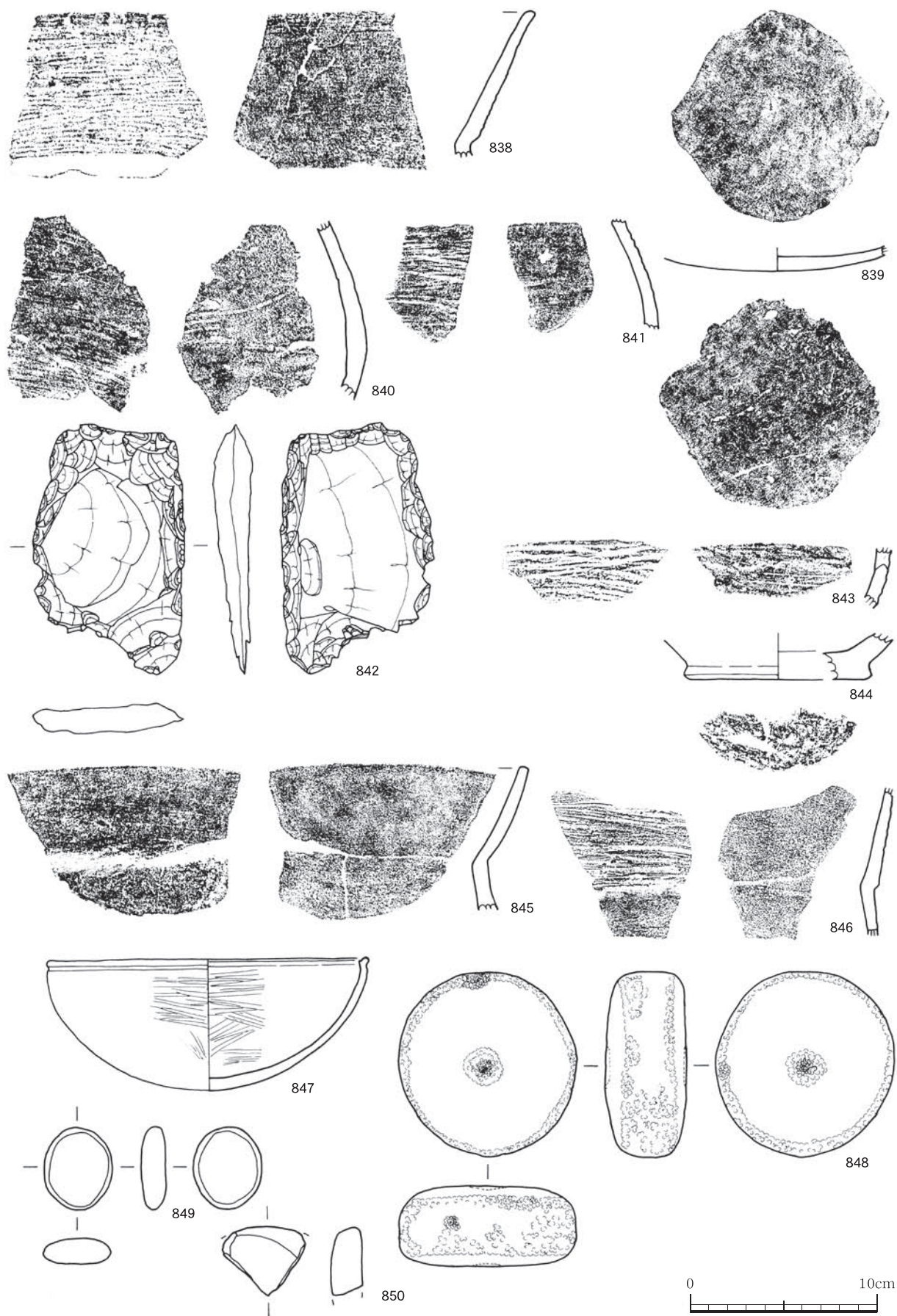
埋設土器 3号

Y-23区で検出された。掘り込みは存在するが、掘り込みの径が土器の口縁径とほぼ同じであったため、上面では確認できなかった。

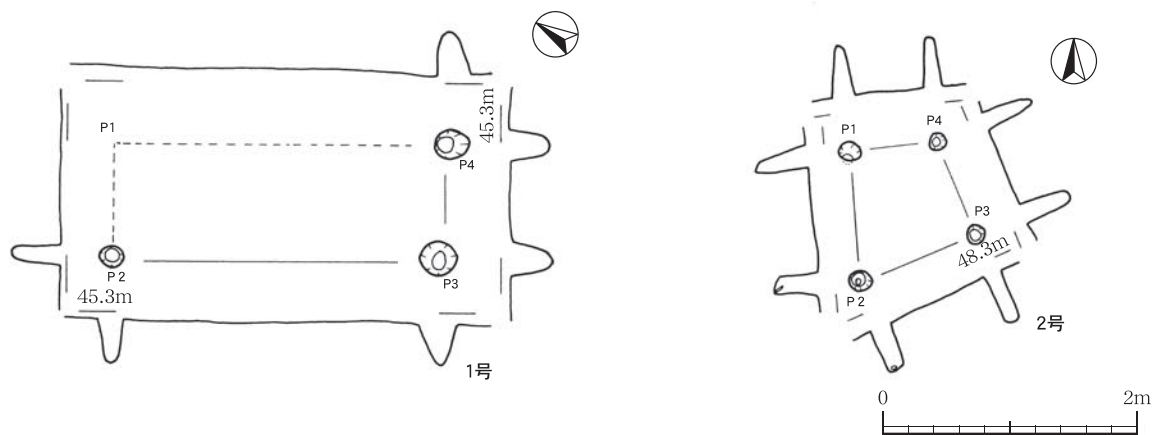
埋設土器837は、口縁部から底部までほぼ完形な状態で出土した。口縁径36.6cm、胴部最大径34.0cm、底径10.1cm、器高37cmを測る大形の深鉢形土器である。器形は、胴部中位で「逆く」の字に弱く屈曲し、頸部には沈線状の段が入る。口縁部は頸部からやや内湾気味に伸びる。胴部と底部の境には縊れを有する。器面調整は、内外面ともナデ調整が施される。



第91図 土坑 1～5号検出状況図



第92図 土坑内出土遺物



第93図 掘立柱建物跡 1・2号

②土坑（第91図）

土坑は5基検出された。形状は円形・楕円形・隅丸方形、その他不定形なものも見られる。遺物はすべての土坑から出土しているが、土坑2号については小片であったため掲載しなかった。いずれの土坑も用途等詳細については不明である。

土坑1号

Y-24区で検出した。長径106cm、短径80cm、深さ57cmを測り、形状は楕円形である。図化した出土遺物は2点で、838はXX a類に相当する土器の口縁部である。外面口縁部文様帯には条痕が施される。

839は、XX b類に相当する浅鉢の底部である。

土坑2号

Z-19区、IV層上面で検出した。不定形な形状を呈し、内部からは炭化材が出土した。分析の結果、クヌギ節、スダジイの2種類が確認された。

土坑3号

X-19区で検出した。形状は隅丸方形で、長径300cm、短径275cm、深さ25cmと大形である。出土遺物のうち3点を図化した。840・841はXX a類に相当する土器の胴部である。842は頁岩製の打製石斧の一部である。

土坑内出土遺物観察表

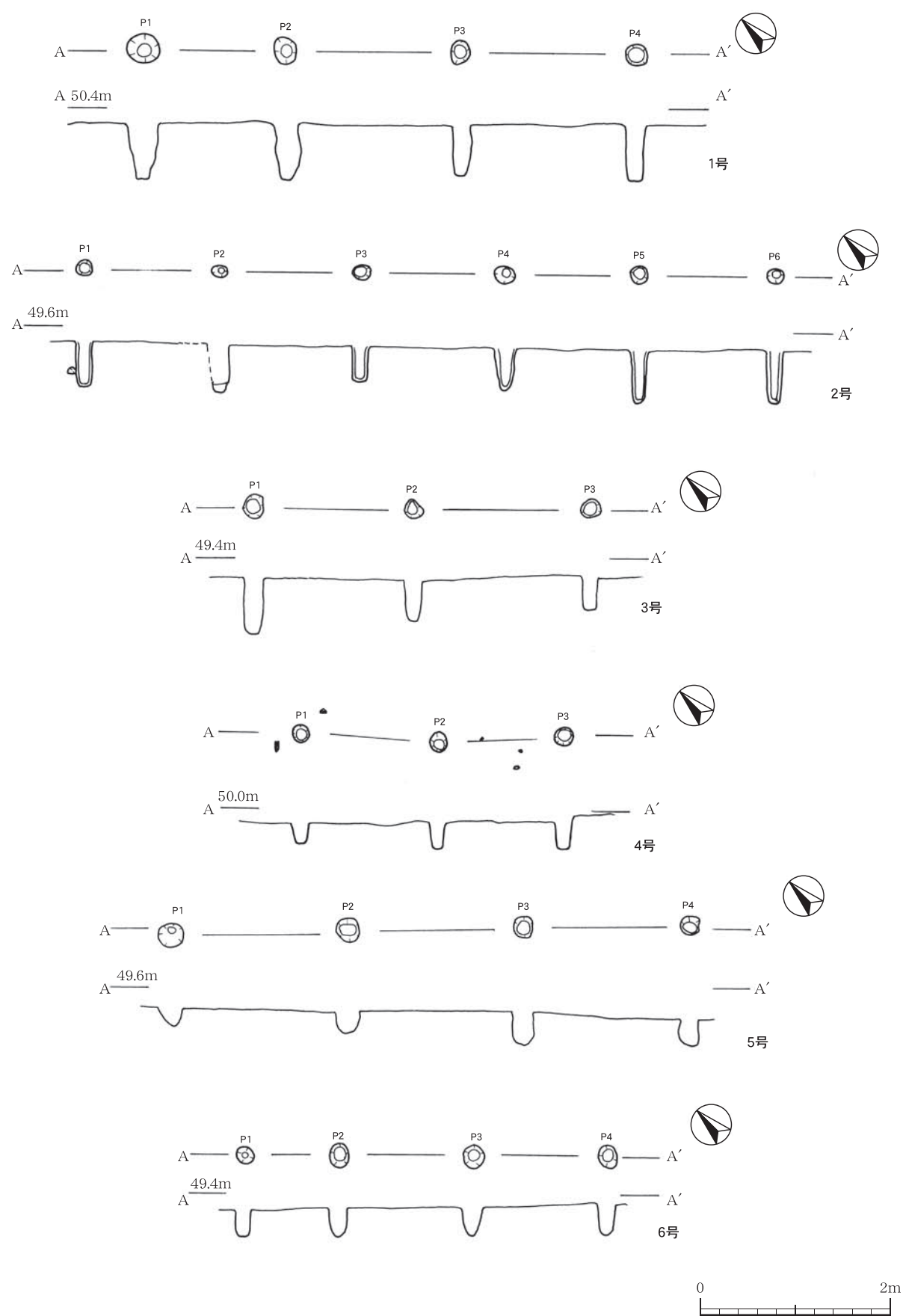
挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 92 図	838	Y-24 SK1101	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ミガキ	
	839	Y-24 SK1101	Ⅲ	底部	10YR1.7/1黒	10YR7/4にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	840	X-19 SK1108	Ⅳ	胴部	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	条痕	ミガキ	
	841	X-19 SK1108	Ⅳ	胴部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/6明褐	○	○			良	ナデ	条痕	
	842	X-19 SK1108	Ⅳ	打製石斧	—	—					—	—	—	頁岩 215g
	843	X-24 SK1201	Ⅲ	胴部	10YR6/3にぶい黄橙	5YR3/6暗赤褐	○	○			良	条痕	ミガキ	
	844	X-25 SK1202	Ⅲ	底部	10YR3/2黒褐	7.5YR6/6橙	○	○			良	ナデ	—	
	845	X-25 SK1202	Ⅲ	口縁部	10YR5/6黄褐	7.2Y4/6褐	○	○			良	ナデ	—	
	846	X-25 SK1202	Ⅲ	口縁部	10YR6/6明黄褐	10YR3/2黒褐	○	○			良	ナデ	条痕	
	847	X-25 SK1202	Ⅲ	完形	10YR3/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	—	
	848	X-25 SK28	Ⅲ	磨石	—	—					—	—	—	安山岩 610g
	849	X-25 SK1202	Ⅲ	磨石	—	—					—	—	—	安山岩 35g
	850	X-25 SK1202	Ⅲ	磨石	—	—					—	—	—	砂岩 30g

縄文時代晩期掘立柱建物跡1 観察表 1間×1間 方位 南北

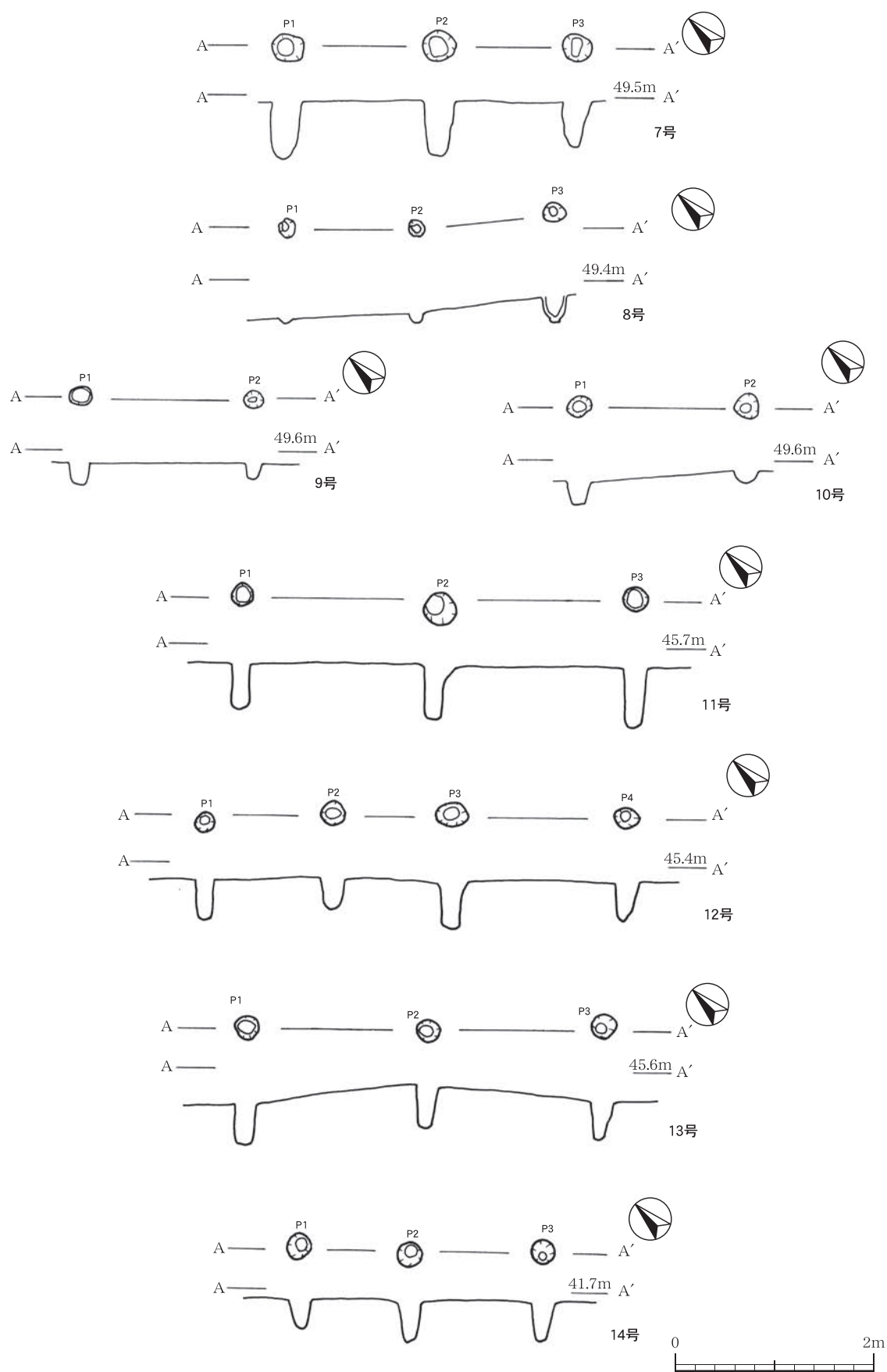
棟部	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
	P1-P2	91	P1-P4	269		1	—	—	—	—	2.6	
	P4-P3	90	P2-P3	257		2	34	19	16	楕円		
						3	34	29	27	円		
					4	30	26	22	楕円			
	平 均	90.5		263		—	—	—				

縄文時代晩期掘立柱建物跡2 観察表 1間×1間 方位 南北

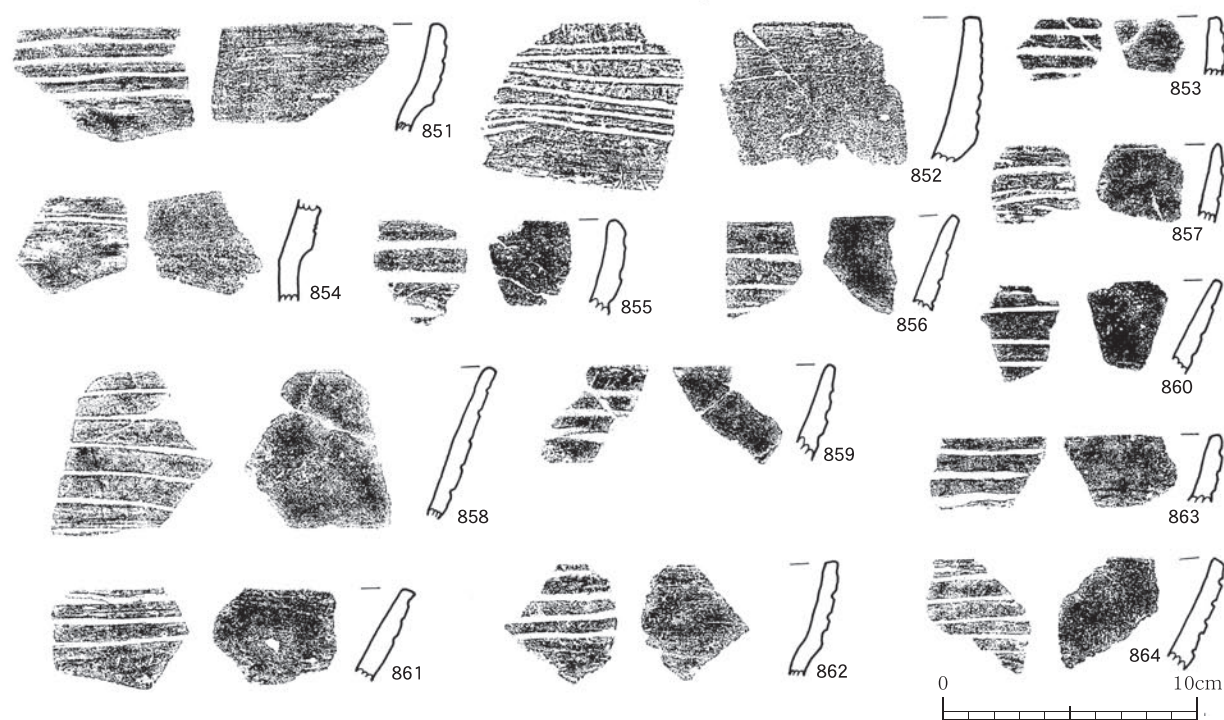
棟部	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
	P1-P2	102	P2-P3	98		1	43	18	15	楕円	0.87	
	P4-P3	80	P1-P4	70		2	35	17	16	円		
					3	—	15	14	円			
					4	—	15	14	円			
平 均	91		84		—	16.3	14.8					



第94図 柱穴列 1～6号



第95図 柱穴列 7 ~ 14 号



第96図 縄文時代晩期土器（1）

土坑4号

X-24区で検出した。土坑の半分は調査区外に広がるため、全容は不明である。出土遺物のうち図化したものは1点である。843はXX a類に相当する土器の胴部である。

土坑5号

X-25区で検出した。形状は長径86cm、短径80cm、深さ20cmのほぼ円形である。出土した遺物は比較的多く、ほぼ一個体分のマリ形土器も出土した。844は、XX類に相当する土器の底部である。845・846はXX a類に相当する土器の口縁部である。846は外面口縁部文様帯に貝殻条痕を施し、段を有する。

847はXX b類に相当する土器で、底部が丸底を呈するマリ形土器と呼ばれるものである。口縁部は内外面に沈線を有する。848は安山岩製磨石としたが、凹石、敲石の用途も兼ね備えるものである。849は安山岩製の小形の磨石である。850は砂岩製の磨石の一部である。

③掘立柱建物跡（第93図）

掘立柱建物跡と考えられる遺構は2棟で、掘立柱建物跡1号はU-10区、掘立柱建物跡2号はX-24区で検出された。いずれも柱は4か所で、簡易な建物であったものと思われる。柱穴等からの遺物は出土していない。

縄文時代晩期土器観察表XX・XX類

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 96 図	851	I-(-1)	Ⅲ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	○				良	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	
	852	Y-19	Ⅲ	口縁部	5YR6/4にぶい橙	5YR4/2灰褐	○	○			良	沈線	ミガキ ナデ	
	853	Y-22	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/3浅黄	10YR7/3にぶい黄橙	○				良	沈線	ナデ	
	854	Z-20	Ⅲ	口縁部	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	沈線	ナデ	
	855	Z-20	Ⅲ	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR3/2黒褐	○				良	条痕	ナデ	煤付着
	856	X-22	Ⅲ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR3/2黒褐	○				良	沈線	ミガキ ナデ	
	857	Y-23	Ⅲ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	条痕	ナデ	煤付着
	858	X-22	Ⅲ	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR5/2灰黄褐	○				良	沈線	ミガキ ナデ	
	859	I-1	Ⅲ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR3/2黒褐	○				良	沈線	ナデ	
	860	H-(-1)	Ⅲ	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	沈線	ミガキ ナデ	
	861	Y-22	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい黄橙	○				良	沈線	ナデ	
	862	H-(-1)	Ⅲ	口縁部	2.5Y5/2暗灰黄	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	沈線	ナデ	
	863	Y-22	Ⅲ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	沈線	ナデ	
	864	Z-20	Ⅲ	口縁部	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	沈線	ミガキ ナデ	

柱穴列 1 ～14号観察表

柱穴列1号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	59	35	31	楕円	
2	61	31	23	楕円	
3	53	27	21	楕円	
4	58	25	24	円	
平均	57.8	29.5	24.8		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	155	175.7	527		
P2-P3	184				
P3-P4	188				

柱穴列2号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	49	17	17	円	
2	51	18	13	楕円	
3	37	21	17	楕円	
4	45	23	19	楕円	
5	57	19	17	楕円	
6	55	19	15	楕円	
平均	49	19.5	16.3		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	145	147.8	739		
P2-P3	150				
P3-P4	155				
P4-P5	142				
P5-P6	147				

柱穴列3号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	59	27	23	楕円	
2	43	19	17	円	
3	34	20	19	円	
平均	45.3	22	19.7		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	170	180	360		
P2-P3	190				

柱穴列4号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	22	20	19	円	
2	28	20	19	円	
3	29	21	19	円	
平均	26.3	20.3	19		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	145	140	280		
P2-P3	135				

柱穴列5号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	20	19	17	円	
2	24	22	19	円	
3	35	23	20	円	
4	29	21	19	円	
平均	27	24.3	22.3		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	190	185	555		
P2-P3	187				
P3-P4	178				

柱穴列6号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	29	19	18	円	
2	31	25	21	楕円	
3	31	24	22	楕円	
4	33	23	20	楕円	
平均	31	22.8	20.3		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	102	129	387		
P2-P3	143				
P3-P4	142				

柱穴列7号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	58	31	27	楕円	
2	56	33	30	楕円	
3	47	30	26	楕円	
平均	53.7	31.3	27.7		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	154	147	294		
P2-P3	140				

柱穴列8号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	5	19	16	楕円	
2	12	18	15	楕円	
3	27	23	19	楕円	
平均	14.7	20	16.7		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	135	139	278		
P2-P3	143				

柱穴列9号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	22	23	19	楕円	SA10と平行
2	16	18	17	円	
平均	19	20.5	18		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	177		177		

柱穴列10号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	23	23	20	楕円	SA9と平行
2	12	26	24	楕円	
平均	17.5	24.5	14.7		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	195		195		

柱穴列11号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	45	20	19	円	
2	52	33	32	円	
3	59	23	23	円	
平均	52	25.3	24.7		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	199	196.5	393		
P2-P3	194				

柱穴列12号

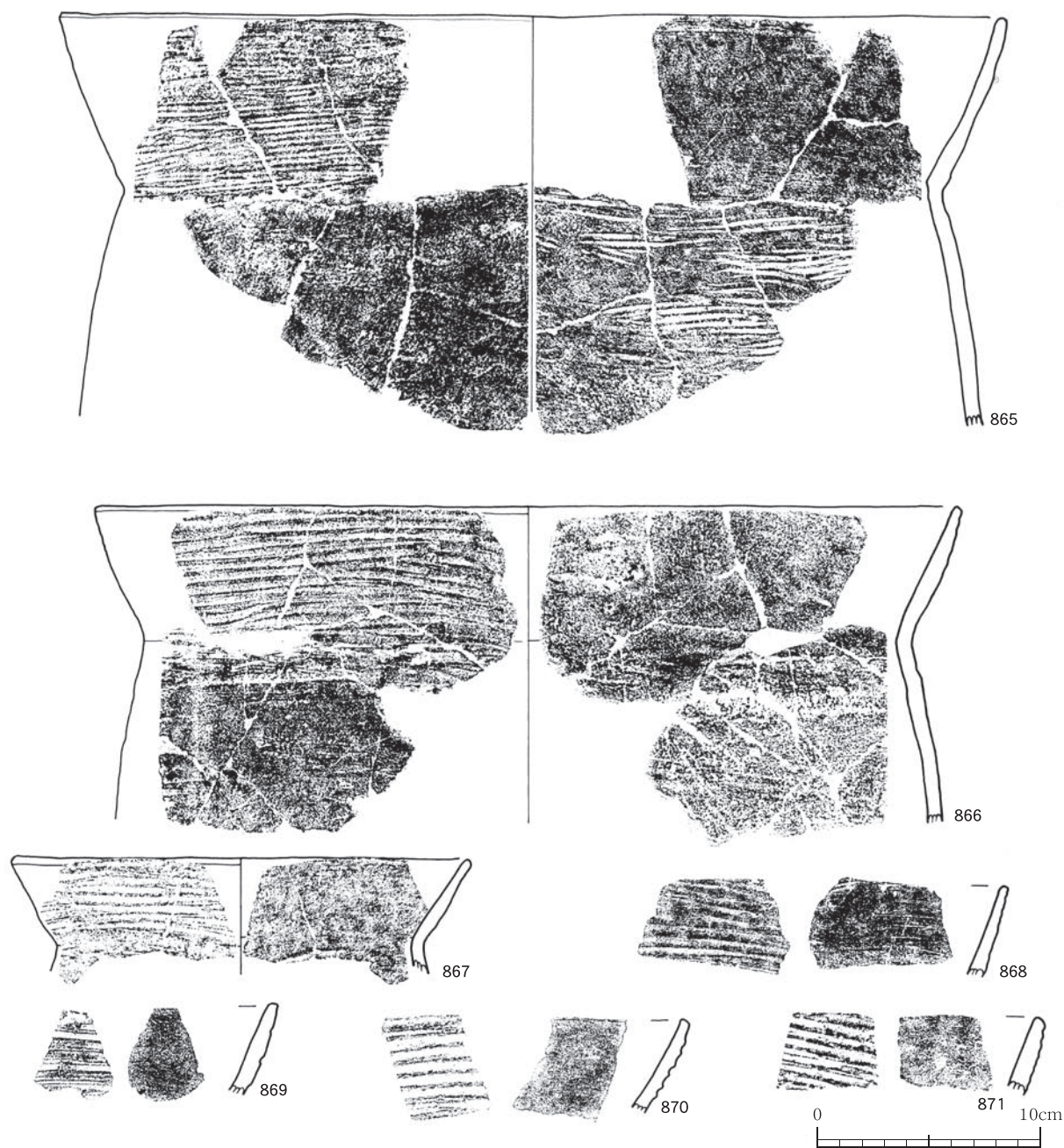
Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	41	20	18	円	
2	34	25	24	円	
3	45	33	23	楕円	
4	33	23	19	楕円	
平均	38.3	25.3	21		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	128	139.7	419		
P2-P3	118				
P3-P4	173				

柱穴列13号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	39	23	22	円	
2	42	24	22	円	
3	38	25	23	円	
平均	39.7	24	22.3		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	182	178	356		
P2-P3	174				

柱穴列14号

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	備考
1	32	27	23	円	
2	40	25	23	円	
3	37	25	23	円	
平均	36.3	25.7	23		
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)		
P1-P2	110	121	242		
P2-P3	132				



第97図 縄文時代晩期土器（2）

④柱穴列（第94図～95図）

W-20区, X-19・20区, Y-20・23・24区で14列検出された。列は柱穴2～6基で構成される。柱並びは良好で、概ね北西に軸をとっている。

柱穴の規格の平均は、深さが34.28cm、長径が24.03cm、短径が20.75cmである。掘り方の形状は平面が楕円・円、断面が矩形状である。大きさや深さには特別規格性は見られないが、方位についてはグ

ルーピングが可能である。簡易な建物の片底部分が想定されるが詳細は不明である。

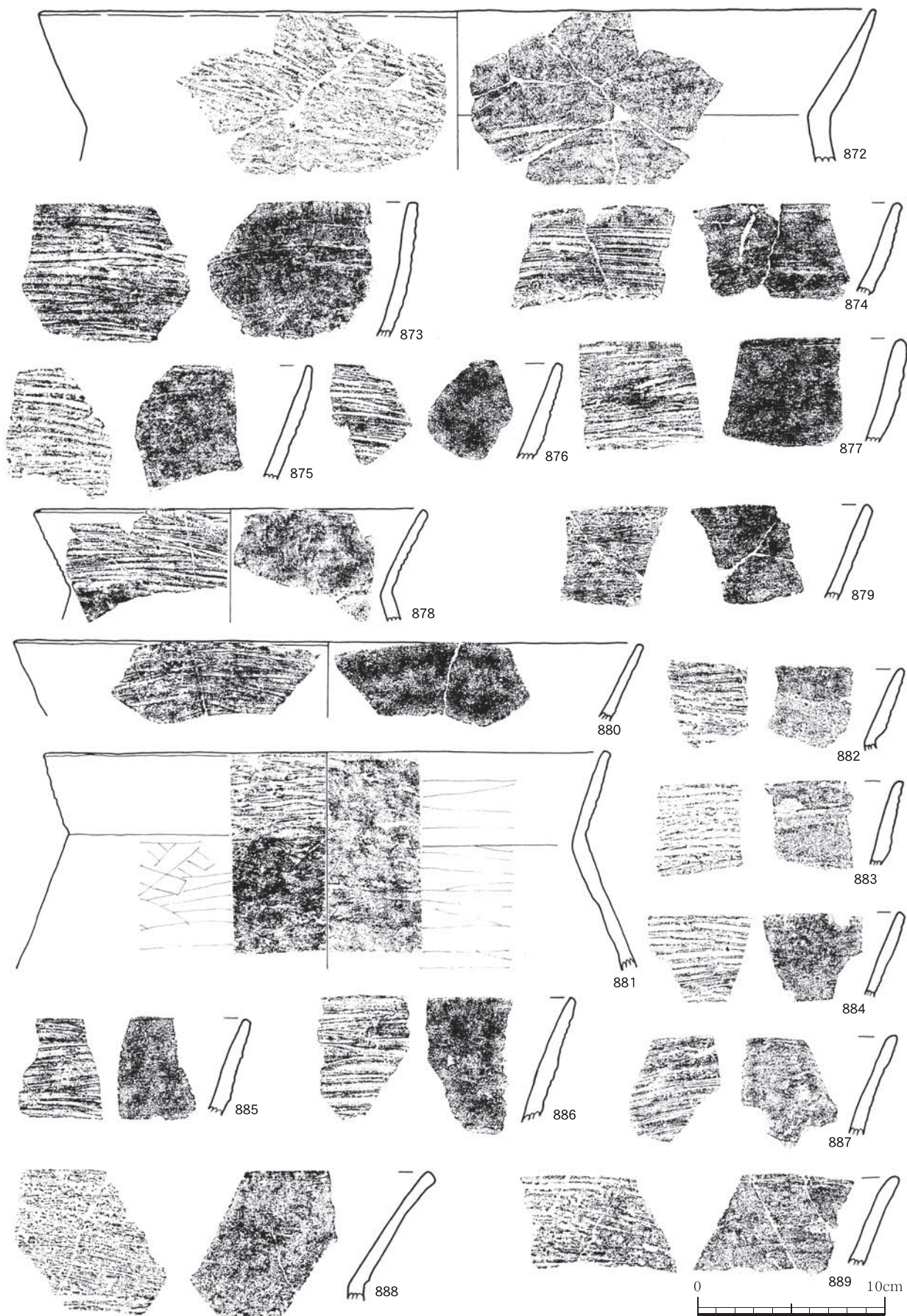
(2) 遺物（第96図～123図）

①土器（第96図～108図）

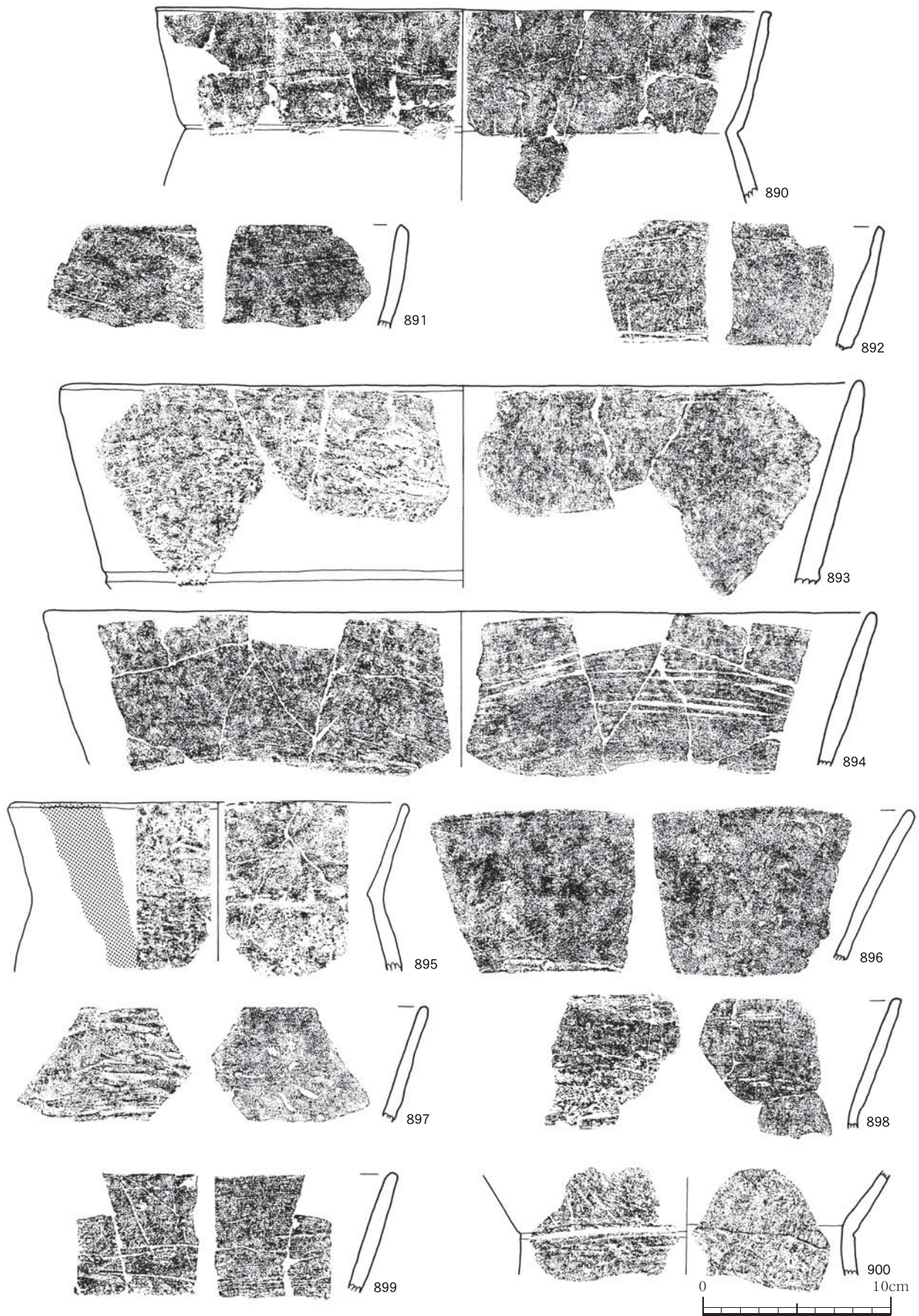
土器はXIX類～XXI類の3類に分類される。

XX類土器（第96図）

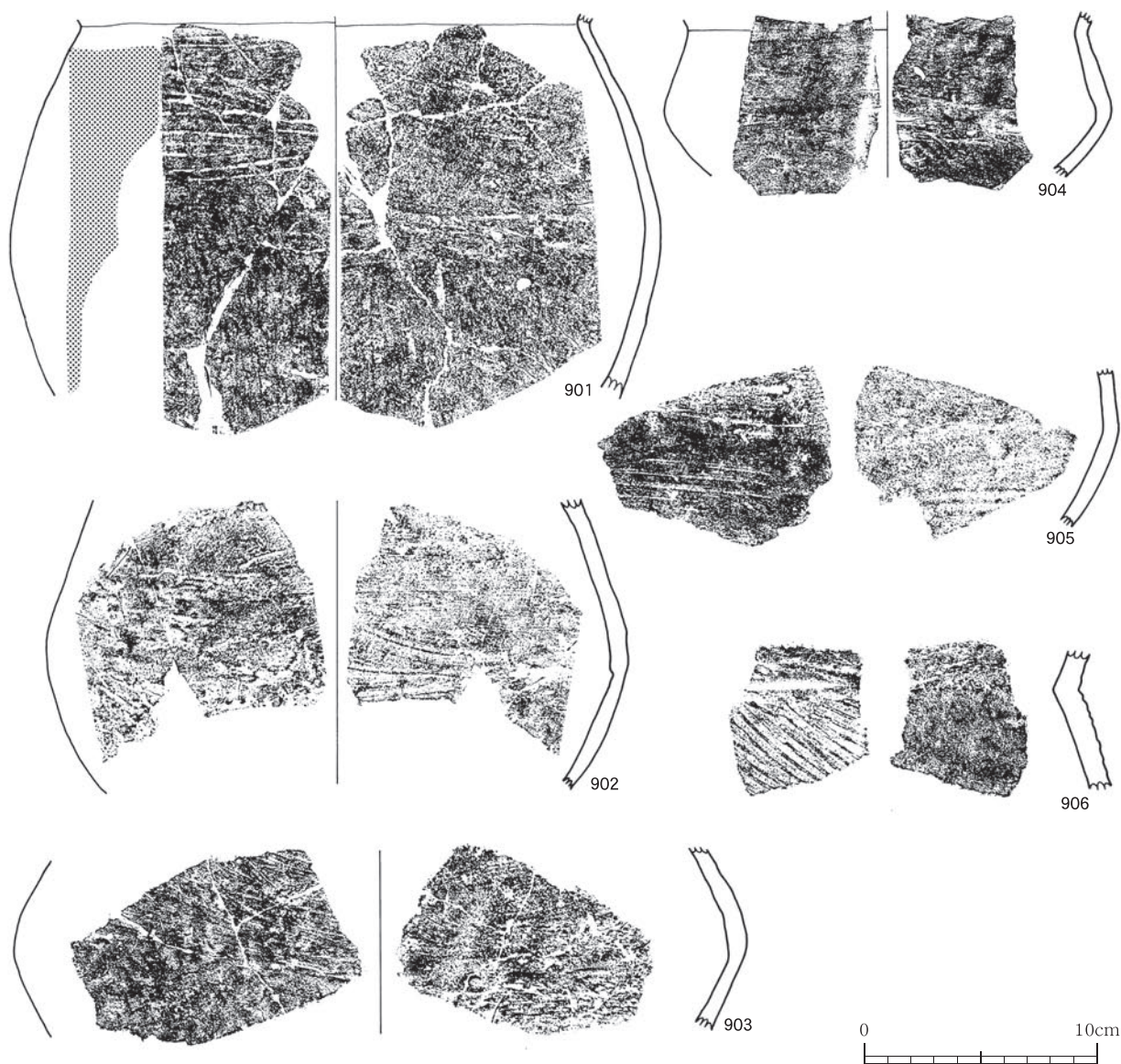
XIX類土器は出土量も少なく、掲載した点数は5点ですべて口縁部である。851～855は口縁部の形状



第98図 縄文時代晩期土器（3）



第99図 縄文時代晩期土器（4）



第100図 縄文時代晩期土器（5）

がやや内湾し肥厚するもので、外面の文様帯には沈線が廻り段も明瞭である。上加世田式土器に相当する資料と考えられる。

XX類土器（第96図～105図）

XX類土器は縄文時代晩期に相当する土器の中で主体を占めるものである。器形によりさらに細分化し、深鉢形をXX a類、浅鉢形をXX b類とした。

XX a類土器（第96図～102図）

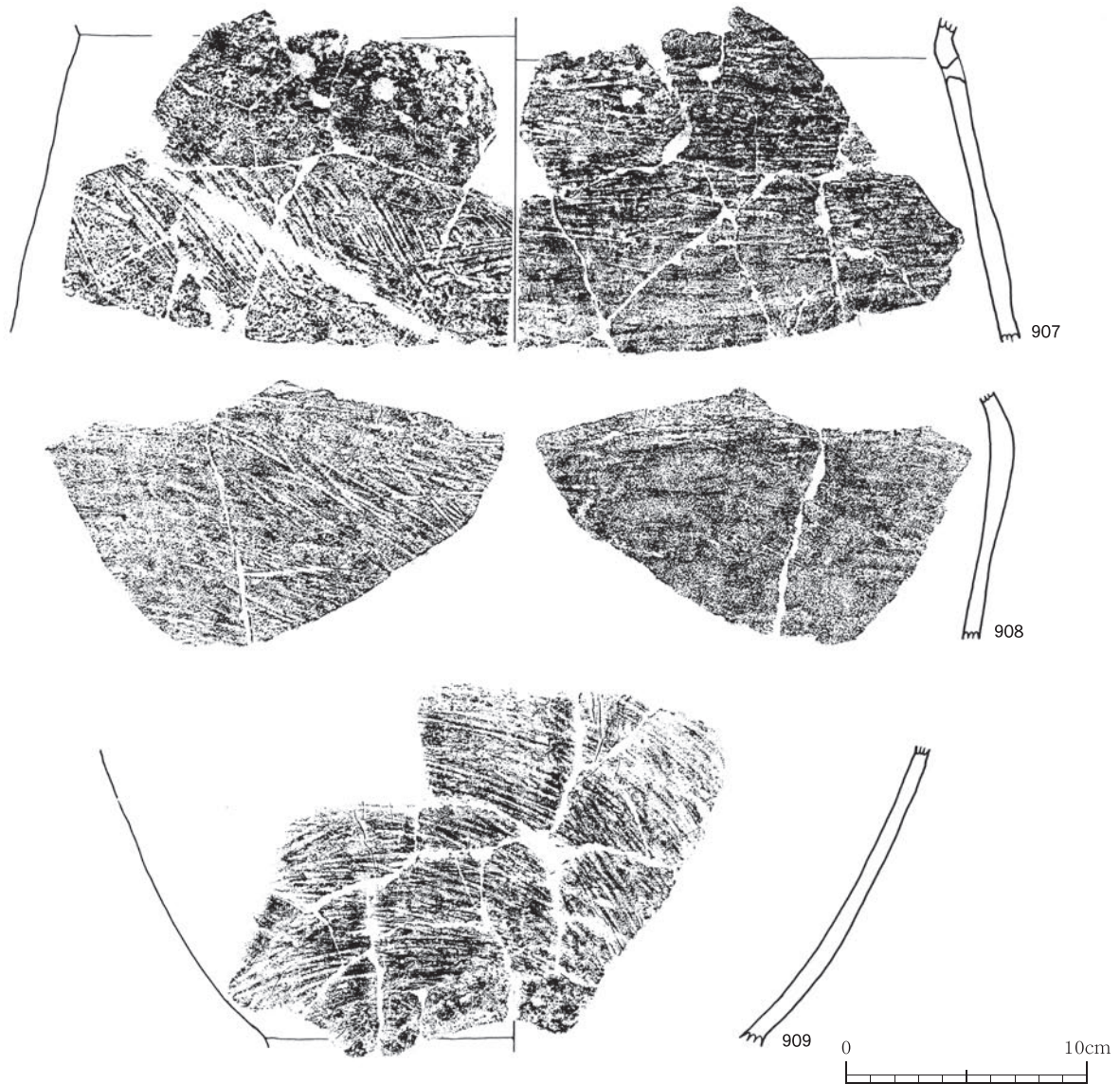
856～864は、外面口縁部の文様帯に沈線が廻るが、XIX類土器のような段は見られず、口縁部も肥厚しないものである。このタイプは出土量も少ない。入佐式土器の古段階に相当すると考えられる。

865～889は口縁部または、口縁部から胴部にか

ける資料である。口縁部の形状よりさらに3つに細分化した。

865～877は、口縁部がやや内湾気味に開くタイプの資料である。そのうち865～871は、外面口縁部文様帯に沈線を意識したと思われる丁寧な貝殻条痕を施すものである。865は内面にも明瞭な貝殻条痕が施される。

872～877は外面口縁部文様帯に貝殻条痕を雑に施すものである。878～887は、口縁部がほぼまっすぐに開くもの、888・889は、口縁部がわずかに外反しながら開くものである。いずれも外面口縁部文様帯には貝殻条痕を雑に施す。



第101図 縄文時代晩期土器（6）

890～900は、外面口縁部文様帯に沈線や条痕が施されないタイプの資料である。器面調整は基本的に内外面ともヘラケズリの後ナデ調整を施す。口縁部の形状からさらに3つに細分化した。890～892は口縁部がやや内湾しながら伸びるものである。890は口縁部文様帯に明瞭な段をもつ。893～898の口縁部がほぼまっすぐに開くものである。892は器壁が厚く、口縁部文様帯の端が明瞭である。894は内面に一部条痕が見られる。896は口縁部がわずかに外反しながら開くものである。900は口縁部先端が欠損しているため形状ははっきりしないが、文様帯の段は明瞭である。

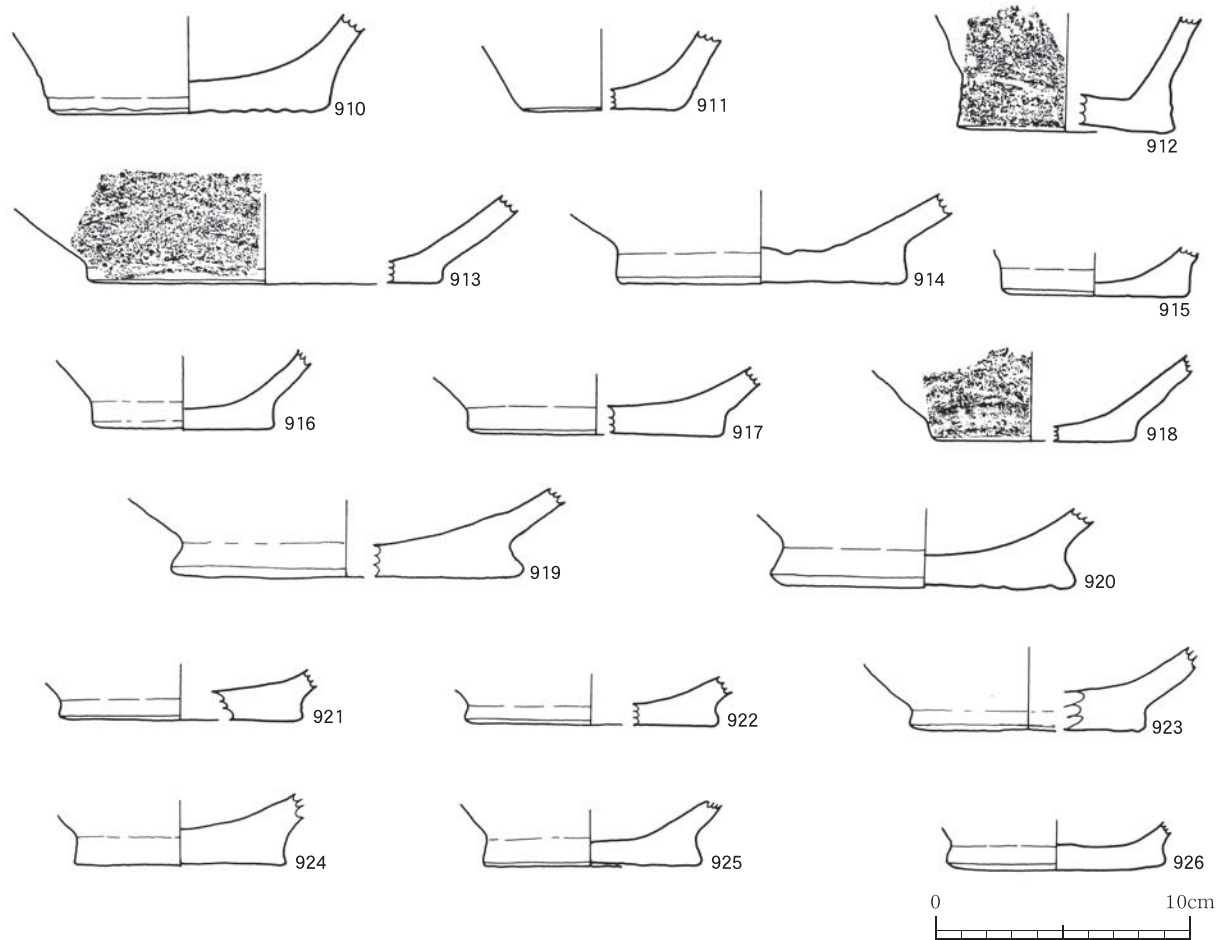
胴部（第100図・101図）

901～909は胴部である。口縁部及び底部は欠損しているため全体的な形状は不明である。907は頸部付近に補修孔が穿孔されている。器面調整は内外面とも条痕である。909は胴部下位が、やや丸みを帯びながら窄まる形状である。

底部（第102図）

910～926は深鉢形土器の底部である。形状から3つに分けることができる。

910・911は胴下半部と底部の境が明瞭でなく、やや窄まる形状の底部である。どちらも平底である。



第102図 縄文時代晩期土器（7）

912～918は、胴下半部と底部の境が比較的明瞭で、胴部と底部の境部分と底部の接地部の径の差が小さいものである。すべて平底である。

919～926は、胴下半部と底部の境が明瞭で、台形状に大きく張り出し厚みのあるものである。すべて平底である。

XX b 類土器（第103図～105図）

XX 類の土器のうち、浅鉢形のものを類とした。形状から大きく3つに分けることができる。

927～933は、浅鉢形の中でも深さが浅く皿状になるものである。口縁部はわずかに内湾し、胴部との境がないタイプのものである。内外面の器面調整はミガキで、ほぼ横位に施される。口縁部先端には変化をもたせ、内側と外側に太さはそれぞれ異なるが沈線を廻らす。

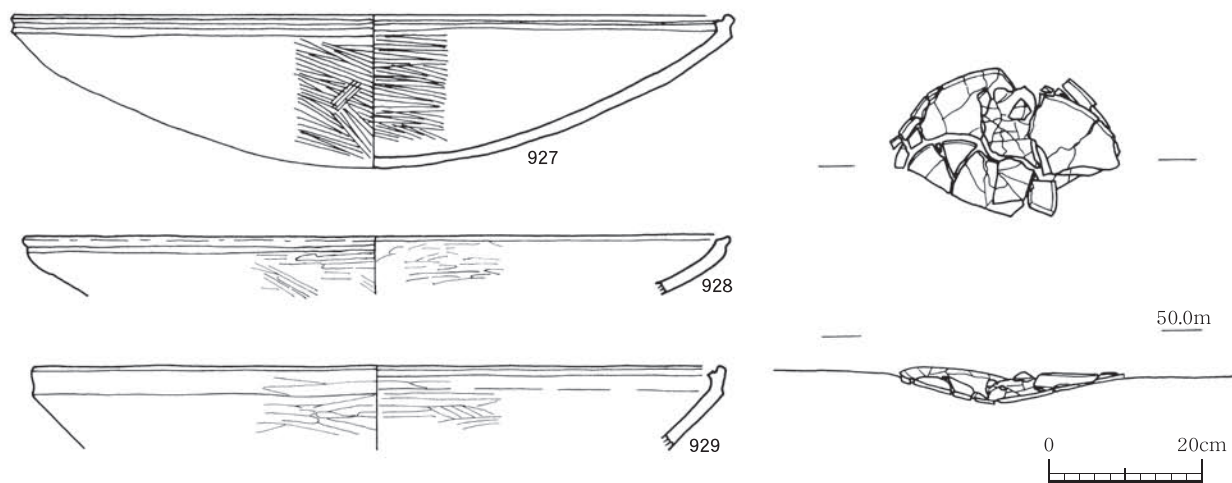
927は土器片が1か所に集中して出土したものである。（第103図）掘り込みははっきりと確認されて

いない。ほぼ一個体に復元することができた。内外面の器面調整は丁寧なミガキが施され、口縁部先端には内外面に沈線が廻る。

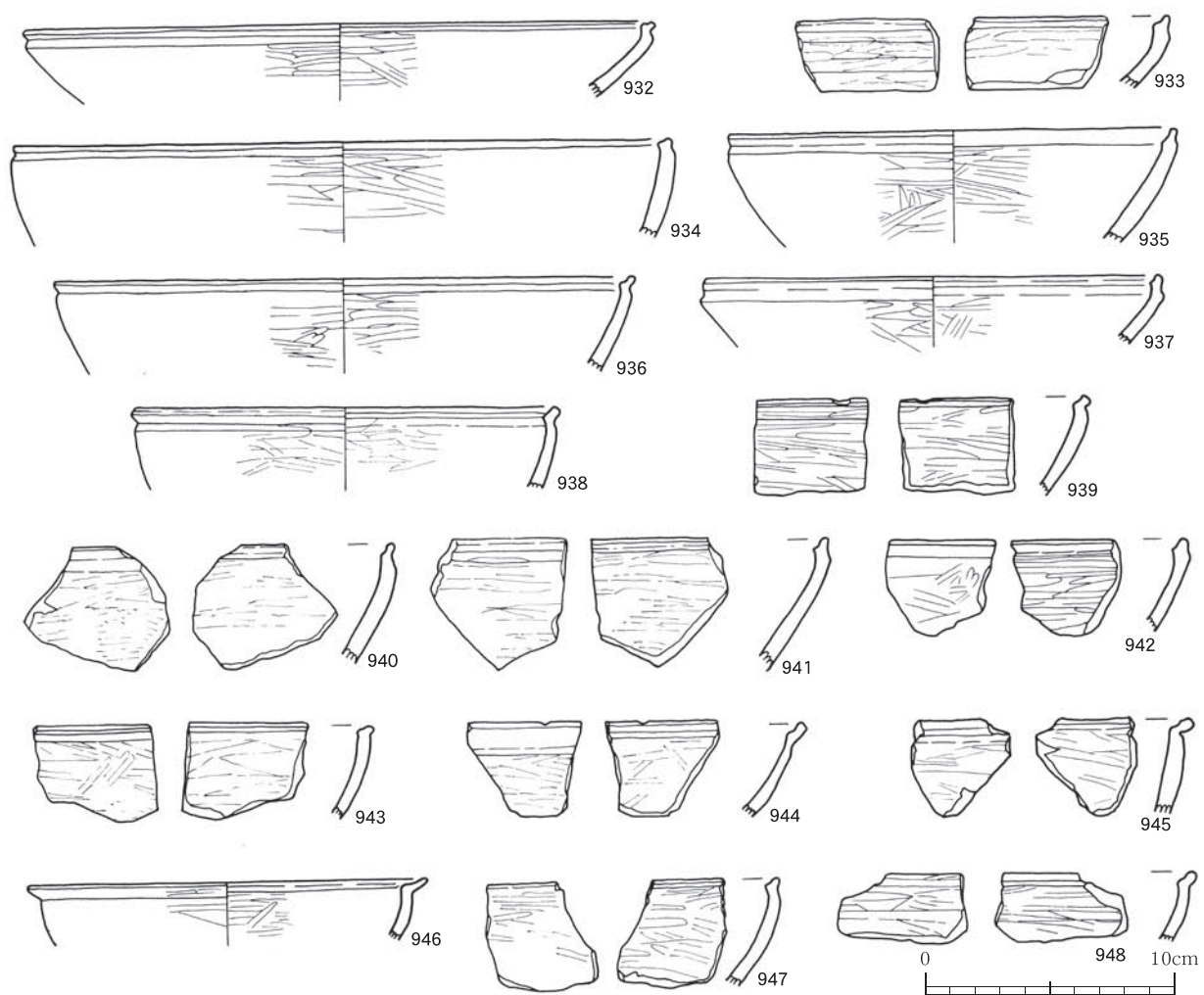
934～948は、前述のタイプに比べてやや深いタイプのものである。口縁部はやや内湾気味である。口縁部先端は変化をもたせ、内外面に沈線を廻らせる。器面調整は内外面ともミガキ調整が施される。946は口縁部外面の沈線が明瞭でないものである。

949～967は胴部と口縁部の境が明瞭で、口縁部が長いものである。口唇部は粘土紐を1条重ねることにより、二重口縁状となる。また口縁部外側には凹線を廻らせる。器面調整は内外面とも丁寧なミガキが施される。口縁部の形状よりさらに3つに細分化することができる。

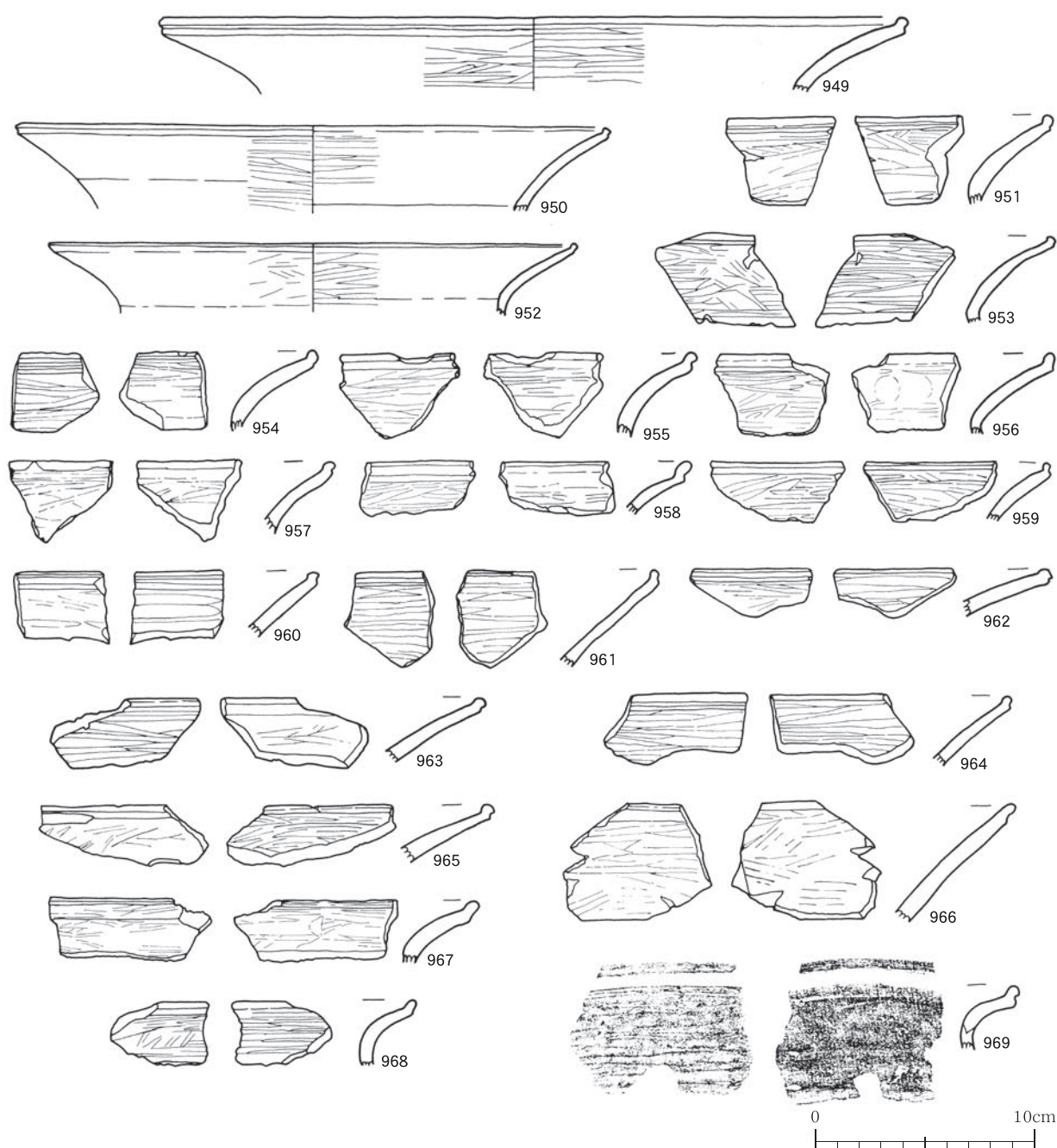
949～959は口縁部が緩やかに外反しながら開くものである。



第103図 縄文時代晩期土器出土状況図



第104図 縄文時代晩期土器 (8)



第105図 縄文時代晩期土器（9）

960～968は、口縁部が頸部からほぼ直線的に開くものである。

965～967は、口縁部が頸部から強く屈曲しながら開くものである。口縁部はやや短めである。口唇部に重ねた1条の粘土紐も、やや外反気味に廻らす。

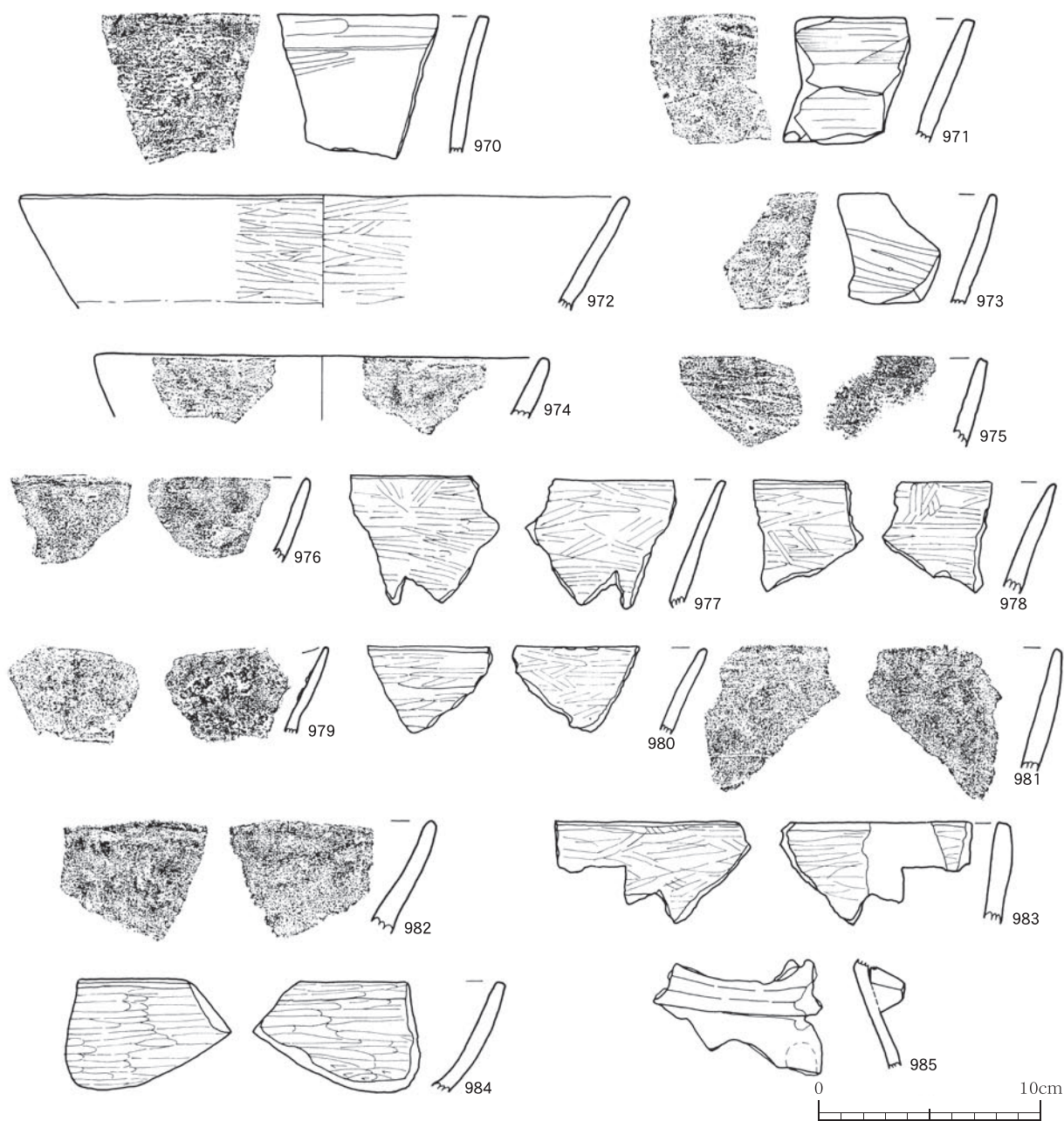
XXI 類土器（第106図・107図）

XXI 類は、出土量は多くない。黒川式土器に相当するものと考えられる。深鉢形のもの、浅鉢形のもの

のが見られ、深鉢形をXXIa類、浅鉢形をXXIb類とした。

XXIa 類土器（第106図）

970～984は、深鉢形土器の口縁部である。口縁部の幅は広く、外面には貝殻条痕が文様効果を出している。器面調整は内外面とも、横方向の貝殻条痕が施される。口縁部先端は段をもたず、丸くおさめる。形状からさらに3つに分けることができる。



第106図 縄文時代晩期土器 (10)

970は、口縁部が外反しながらわずかに開き、口縁部径と頸部径の差があまりないタイプのものである。

971・973・981～984は、口縁部がやや内湾気味に伸びるものである。

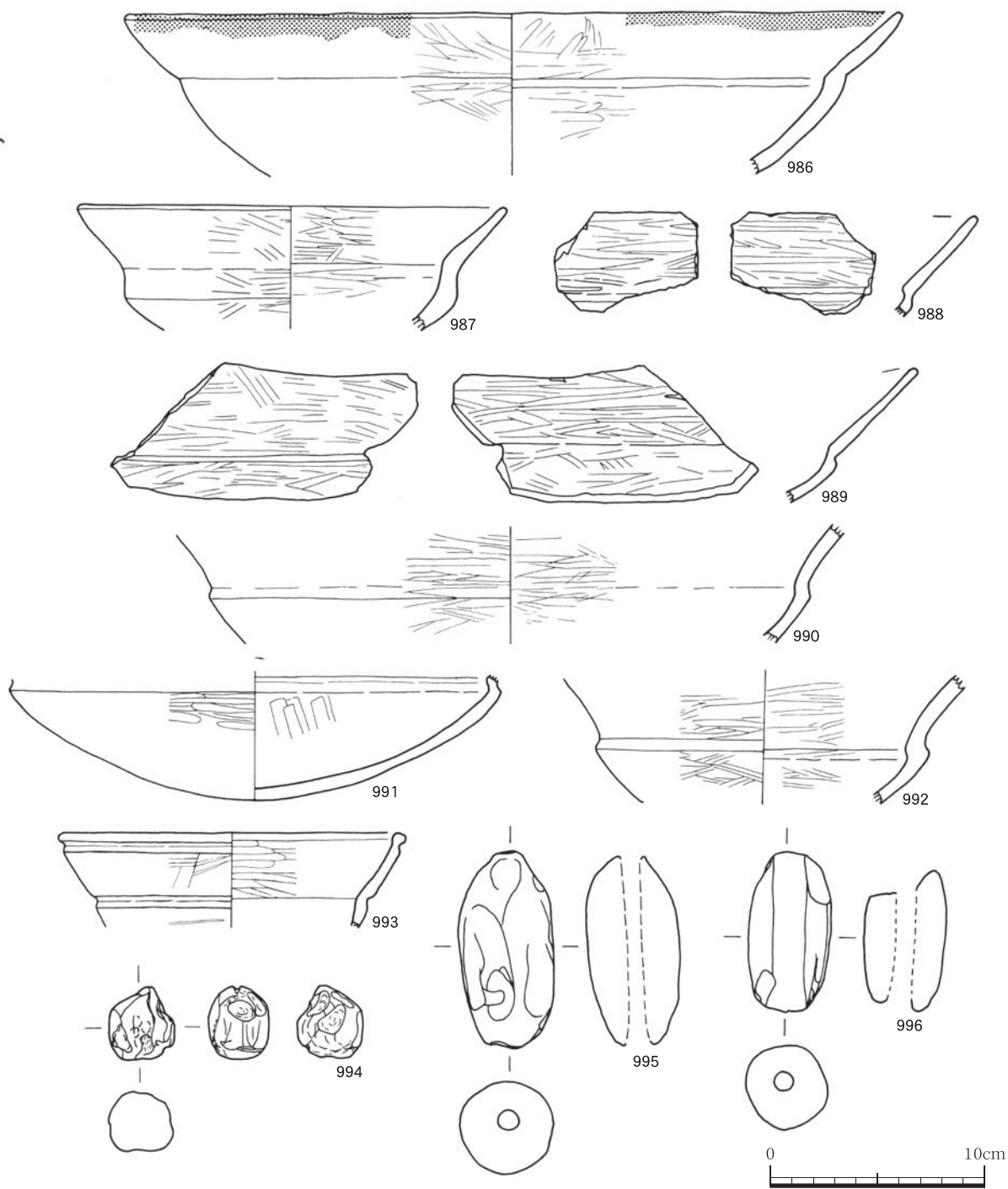
972・974～980は、口縁部がほぼ直線的に開くタイプのものである。

985は、肩部に付けられたリボン状の突起部分である。上方向に反るように貼り付けられる。

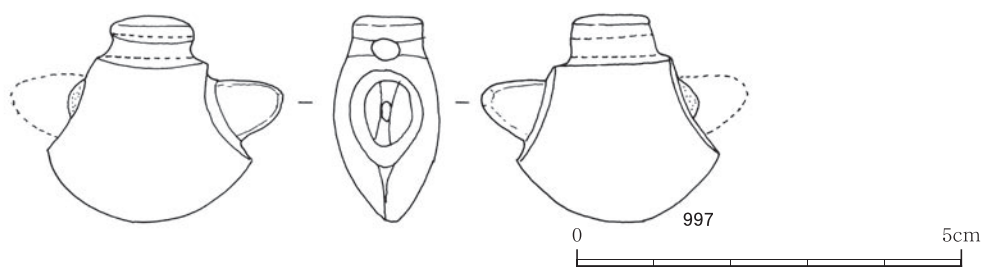
XXI b 類土器 (第107図)

986～993は、浅鉢形土器である。993を除き、肩部で「く」の字状に屈曲するが、肩部は非常に短く、頸部からやや内湾気味に口縁部が開く。口縁部先端は、丸くおさめる。器面調整は、内外面ともミガキ調整が施される。

993は、口縁部先端が玉縁状になるもので、外面に段を有する。器面調整は内外面ともに丁寧なミガキ調整が施される。



第107図 縄文時代晩期土器 (11)



第108図 垂飾

土製品（第107図・108図）

994は用途不明の土製品である。粘土紐を円形にちぎり、若干の成形を加えた程度のつくりである。995・996は土錘である。比較的大形のものである。

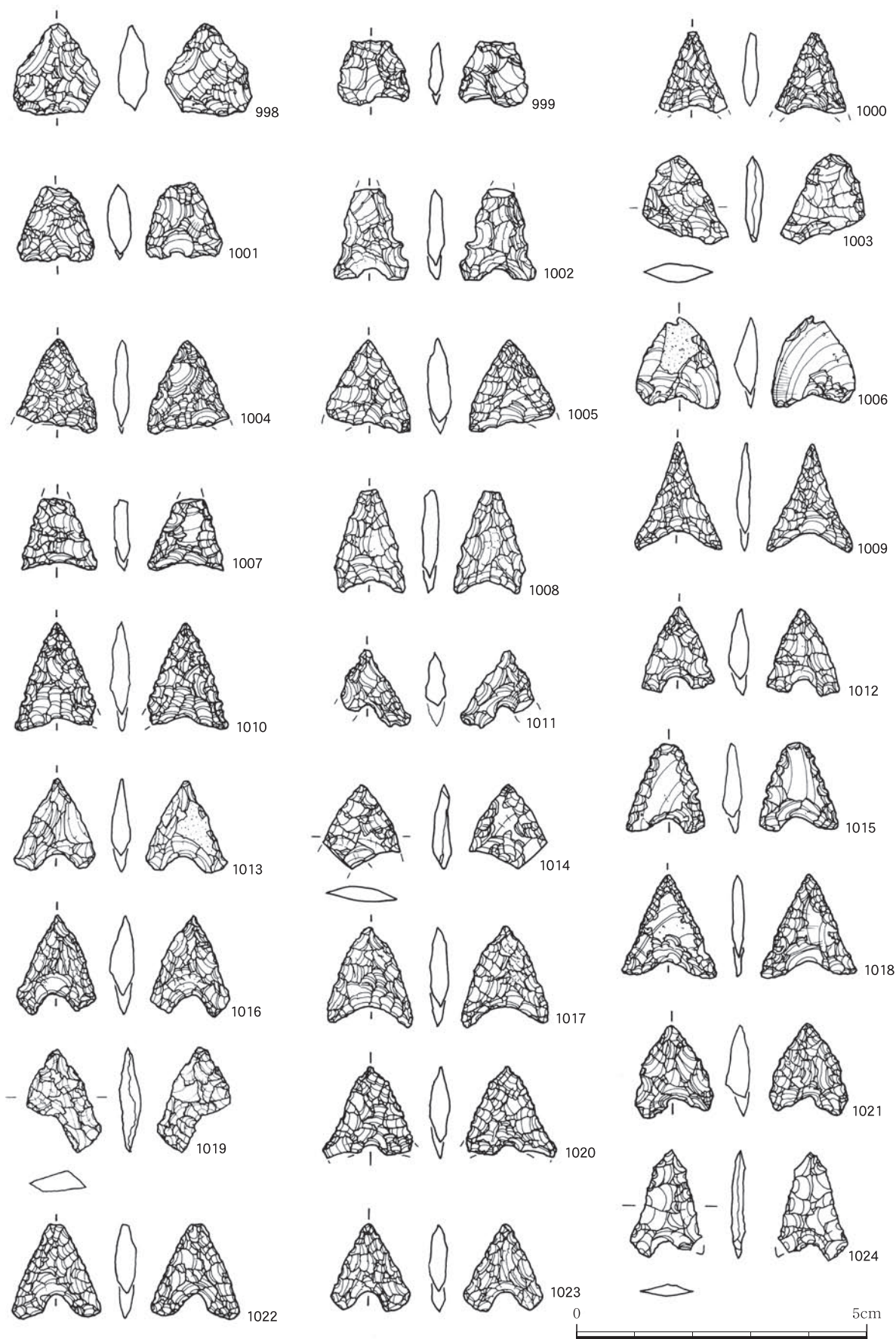
表面はナデ調整が施される。997は土製の垂飾と思われる。上部には横方向の穿孔が施されており、紐等を通したものと思われる。今までに報告されていない形状の資料である。

縄文時代晩期土器観察表 XX類

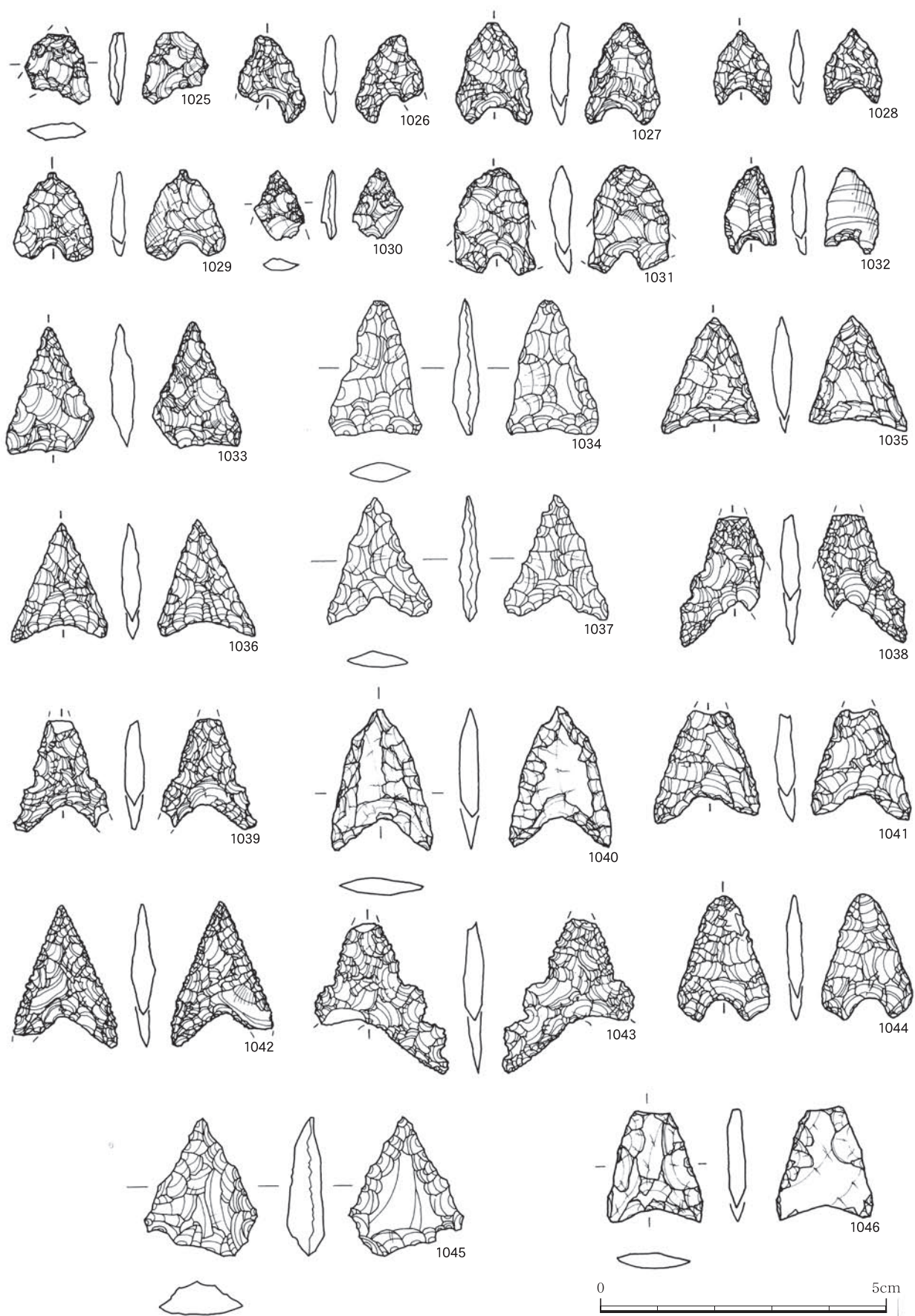
挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第97図	865	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/4浅黄	2.5Y7/3浅黄	○				良	条痕	条痕	
	866	Y-23	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/2灰黄	10YR7/3にぶい黄褐	○				良	条痕 ヘラケズリ	ヘラケズリ	
	867	Y-23	Ⅲ	口縁部	7.5YR6/1褐灰	10YR6/1褐灰	○	○			良	条痕	ナデ	
	868	I-1	Ⅲ	口縁部	2.5Y8/4浅黄	10YR8/4浅黄橙		○			良	条痕	ナデ	
	869	X-24	Ⅲ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	条痕	ナデ	
	870	Y-20	Ⅲ	口縁部	7.5YR4/3褐	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	条痕	ミガキ ナデ	
	871	I-1 SUT3	Ⅲ	口縁部	2.5Y4/2暗灰黄	10YR5/2灰黄褐	○				良	条痕	ヘラケズリ	
第98図	872	X-22	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	条痕	ヘラケズリ後ナデ	
	873	Y-23	Ⅲ	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	条痕	ヘラケズリ	
	874	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y6/3にぶい黄	○				良	条痕	ヘラケズリ	
	875	X-18	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	条痕	ヘラケズリ後ナデ	
	876	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y2/1黒	○				良	条痕	ナデ	
	877	T-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	条痕	ナデ	
	878	—	—	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	10YR5/3にぶい黄	○				良	条痕	ヘラケズリ	
	879	H-(-1)	Ⅲ	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○		○		良	条痕	ナデ	
	880	Y-18 SUT3	Ⅱ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	条痕	ナデ	
	881	X-24	Ⅳ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄	○				良	条痕 ヘラケズリ	ヘラケズリ	
	882	I-2	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	2.5YR4/4にぶい赤褐	○				良	条痕	ナデ	
	883	X-21	Ⅲ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR4/4褐	○				良	条痕	ナデ	
	884	I-(-1)	Ⅲ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	条痕	ヘラケズリ	
	885	Y-22	Ⅲ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	条痕	ナデ	
	886	I-1	Ⅲ	口縁部	5Y3/1黒褐	5Y3/1黒褐	○				良	条痕	ナデ	
	887	X-22	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	7.5YR4/4褐	○				良	条痕	ナデ	
	888	X-24	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	条痕	ナデ	
	889	X-20	Ⅳ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR3/2黒褐	○				良	条痕	ナデ	
第99図	890	—	—	口縁部	10YR5/2灰黄褐	10YR3/2黒褐		○			良	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	煤付着
	891	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/3浅黄	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
	892	X-22	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	10YR4/2灰黄褐	○				良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
	893	X-22 H-(-1)	Ⅲ	口縁部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	○				良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
	894	Y-23 Y-22	Ⅲ Ⅳ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	ヘラケズリ後ナデ	沈線 ヘラケズリ ナデ	
	895	—	—	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
	896	—	Ⅲ	口縁部	5YR4/8赤褐	5YR4/4赤褐		○			良	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
	897	H-(-1) SUT3	Ⅲ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
	898	Z-20	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/2黒褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	ヘラケズリ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	899	Y-21	Ⅲ	口縁部	10YR5/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
	900	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/3浅黄	7.5YR7/4にぶい橙	○				良	沈線?ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
第100図	901	X-22	Ⅲ	胴部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	○				良	条痕	ナデ	煤付着
	902	H-1	—	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	ヘラミガキ	ヘラケズリ	
	903	X-19	Ⅲ	胴部	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	○				良	ヘラミガキ後ナデ	ヘラケズリ	
	904	—	—	胴部	2.5YR6/2灰黄	2.5Y6/3にぶい黄	○				良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	905	X-22	Ⅳ	胴部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	○				良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	906	H-(-1)	Ⅱ	胴部	10YR6/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	○				良	条痕	ヘラケズリ	
第101図	907	V-9	Ⅲ	胴部	2.5Y5/2暗灰黄	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	条痕	ヘラケズリ後ナデ	煤付着
	908	—	Ⅳ	胴部	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	条痕	ヘラケズリ後ナデ	
	909	I-(-1)	Ⅲ	胴部	10YR6/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	条痕	ヘラケズリ後ナデ	
第102図	910	Y-20	Ⅲ	底部	7.5YR4/6褐	7.5YR5/4にぶい褐	○				良	ヘラケズリ	ナデ	
	911	X-23	Ⅲ	底部	10YR3/1黒褐	7.5YR5/4にぶい褐	○			雲母	良	ナデ	ナデ	
	912	Y-18	Ⅲ	底部	2.5Y6/4にぶい黄	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	ナデ	ナデ	
	913	—	I	底部	10YR8/2灰白	10YR7/3にぶい黄橙	○				良	ナデ	ナデ	
	914	—	Ⅱ	底部	10YR5/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	ヘラケズリ	ナデ	
	915	Y-22	Ⅲ	底部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	○				良	ナデ	ミガキ ナデ	
	916	Y-24 X-24	Ⅲ	底部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙			○		良	ナデ	ナデ	
	917	X-21	Ⅲ	底部	2.5Y4/1黄灰	7.5YR6/6橙	○				良	ナデ	ナデ	
	918	V-9	Ⅲ	底部	5Y5/2灰褐	2.5Y7/3浅黄	○				良	ナデ	ナデ	
	919	J-2	Ⅲ	底部	10YR7/3にぶい黄橙	5YR5/6明赤褐	○			雲母	良	ヘラ調整	—	
	920	H-1 SUT2	Ⅲ	底部	10YR4/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○		○	雲母	良	—	—	
	921	SUT3	—	底部	10YR4/1褐灰	7.5YR5/4にぶい褐	○			雲母	良	ミガキ	—	
	922	SUT3	Ⅱ	底部	10YR8/2灰白	10YR7/4にぶい黄橙			○		良	—	—	
	923	V-9	Ⅲ	底部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙			○		良	指圧痕	—	
	924	Y-22	Ⅲ	底部	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐			○		良	—	—	
	925	H-(-1)	Ⅲ	底部	2.5Y4/1黄灰	2.5Y6/8にぶい黄褐	○				良	—	—	
	926	—	I	底部	2.5Y7/3浅黄	10YR7/6明黄褐	○		○		良	—	—	

縄文時代晩期土器観察表 XX・XXI 類

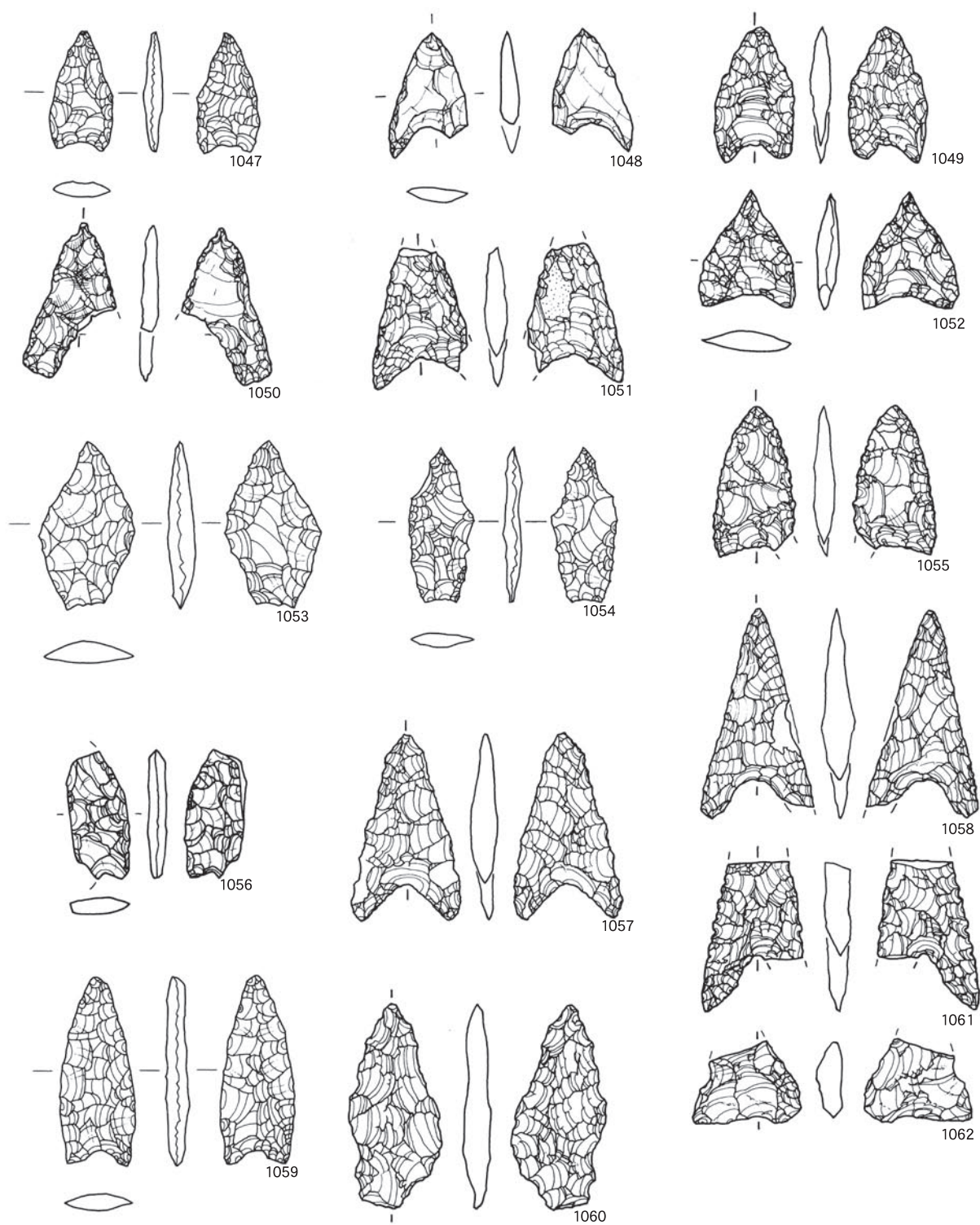
補図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第104 図	927	—	—	完形	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐					良	ミガキ	ミガキ	
	928	Y-22	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/2灰黄	2.5Y3/2黒褐		○			良	ミガキ	ミガキ	
	929	X-24	Ⅲ	口縁部	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙		○			良	ミガキ	ミガキ	
	930	X-22	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	7.5YR2/1黒		○			良	ミガキ	ミガキ	
	931	Y-20	Ⅳ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR6/6橙		○			良	ミガキ	ミガキ	
	932	Y-20	Ⅲ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	○				良	ミガキ	ミガキ	
	933	X-22	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/3浅黄	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	ミガキ	ミガキ	
	934	Y-22	Ⅳ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y8/3浅黄					良	ミガキ	ミガキ	
	935	Y-20	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	ミガキ	ミガキ	
	936	H-(-1)	Ⅲ	口縁部	10YR4/1褐灰	10YR5/2灰黄褐		○			良	ミガキ	ミガキ	
	937	I-2	Ⅲ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい黄橙		○			良	ミガキ	ミガキ	
	938	X-23	Ⅲ	口縁部	7.5YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐		○			良	ミガキ	ミガキ	
	939	X-23	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐		○			良	ミガキ	ミガキ	
	940	Y-20	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y7/3浅黄		○			良	ミガキ	ミガキ	
	941	X-22	Ⅲ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐		○			良	ミガキ	ミガキ	
	942	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y2/1黒	2.5Y3/2黒褐					良	ミガキ	ミガキ	
	943	Y-22	Ⅲ	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y6/3にぶい黄		○			良	ミガキ	ミガキ	
	944	X-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/4浅黄	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第105 図	945	X-23	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y3/1黒褐					良	ミガキ	ミガキ	
	946	Y-22	Ⅳ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR4/1褐灰					良	ミガキ	ミガキ	
	947	Y-24	Ⅲ	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐					良	ミガキ	ミガキ	
	948	I-1	Ⅲ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR4/3にぶい黄褐		○			良	ミガキ	ミガキ	
	949	Y-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/4浅黄	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	950	Y-23	Ⅳ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	951	Y-24	Ⅲ	口縁部	10YR5/1褐灰	10YR6/1褐灰	○				良	ミガキ	ミガキ	
	952	X-24	Ⅳ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	953	X-22	Ⅳ	口縁部	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	954	I-1	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR5/1褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	955	X-24	Ⅲ	口縁部	5YR5/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ミガキ	ミガキ	
	956	Z-24	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	957	I-2	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	958	Y-22	Ⅲ	口縁部	10YR5/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ後ナデ	
	959	Y-20	Ⅳ	口縁部	10YR2/1黒	10YR2/1黒		○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	960	I-2	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	961	Y-21	Ⅲ	口縁部	10YR3/2黒褐	10YR3/2黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ後ナデ	
	962	Z-24	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR7/4にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
第106 図	963	H-0 H-(-1)	Ⅱ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR3/2黒褐	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	964	Y-20	Ⅳ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	965	Y-22	Ⅳ	口縁部	10YR7/2にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐			○		良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	966	Y-22	Ⅲ	口縁部	10YR4/1褐灰	10YR4/2灰黄褐	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	967	Y-21	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	968	X-24	Ⅲ	口縁部	10YR6/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	○				良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	969	W-20	Ⅲ	口縁部	7.5YR5/4にぶい黄褐	7.5YR5/6明褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	970	Y-23	Ⅳ	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	ヘラケズリ	ミガキ	
	971	I-1	Ⅲ	口縁部	10YR5/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	972	Y-18	Ⅲa	口縁部	7.5YR5/4にぶい黄褐	10YR3/1黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ	煤付着
	973	SUT3	Ⅲ	口縁部	10YR3/2黒褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	ヘラケズリ	ミガキ	
	974	SUT3	Ⅱ	口縁部	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	○				良	ヘラケズリ	ケズリ後ナデ	
	975	SUT3	Ⅱ	口縁部	10YR2/1黒	10YR2/1黒	○				良	条痕	ミガキ	
	976	I-2	Ⅲ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	977	I-(-1)	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y3/1黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	978	W-22	Ⅲ	口縁部	5Y2/1黒	5Y2/1黒	○				良	ミガキ	ミガキ	煤付着
	979	X-23	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/1黒褐	2.5Y3/2黒褐	○				良	ケズリ	ミガキ	
	980	X-23	Ⅲ	口縁部	5Y3/2黒褐	2.5Y4/2暗灰黄	○				良	ミガキ	ミガキ	
第107 図	981	H-(-1)	Ⅲ	口縁部	2.5Y3/2黒褐	2.5Y4/1黄灰	○				良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ	
	982	SUT3	Ⅲ	口縁部	7.5YR5/4にぶい黄褐	7.5YR4/2灰褐	○				良	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
	983	Y-22	Ⅲ	口縁部	5Y2/1黒	5Y3/2緑黒	○				良	ミガキ	ミガキ	
	984	Y-23	Ⅲ	口縁部	7.5YR4/3褐	7.5YR2/1黒	○				良	ミガキ	ミガキ	
	985	Z-20	Ⅲ	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR5/3にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	986	X-24	Ⅲ	口縁部	2.5Y8/2灰白	2.5Y6/3にぶい黄	○				良	ミガキ ナデ	ミガキ	煤付着
	987	I-(-1)	Ⅲ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ミガキ ナデ	ミガキ	
	988	Z-24	Ⅳ	口縁部	2.5Y2/1黒	5Y2/2オリーブ黒	○				良	ミガキ ナデ	ミガキ	
	989	Y-22	Ⅲ	口縁部	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	○				良	ミガキ ナデ	ミガキ	
	990	H-(-1)	Ⅱ	頸部	2.5Y3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄橙	○				良	ミガキ	ミガキ	
第108 図	991	Y-23	Ⅳ	胴部	2.5Y3/1黒褐	10YR6/2灰黄褐	○				良	ミガキ	ミガキ	煤付着
	992	Y-20	Ⅲ	胴部	2.5Y7/2灰黄	2.5Y3/1黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	993	V-11	Ⅲ	口縁部	7.5YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい黄橙					良	ミガキ	ミガキ	
	994	I-2	Ⅱ	土製品	5Y2/2オリーブ黒	5YR6/6橙					良	—	—	
	995	Y-18	Ⅱ	土錘	7.5YR6/3にぶい黄褐	7.5YR6/3にぶい黄褐	○	○			良	—	—	
	996	Y-18	Ⅱ	土錘	7.5YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	—	—	
	997	X-24	Ⅲ	垂飾	—	7.5YR6/4にぶい黄橙					良	—	—	



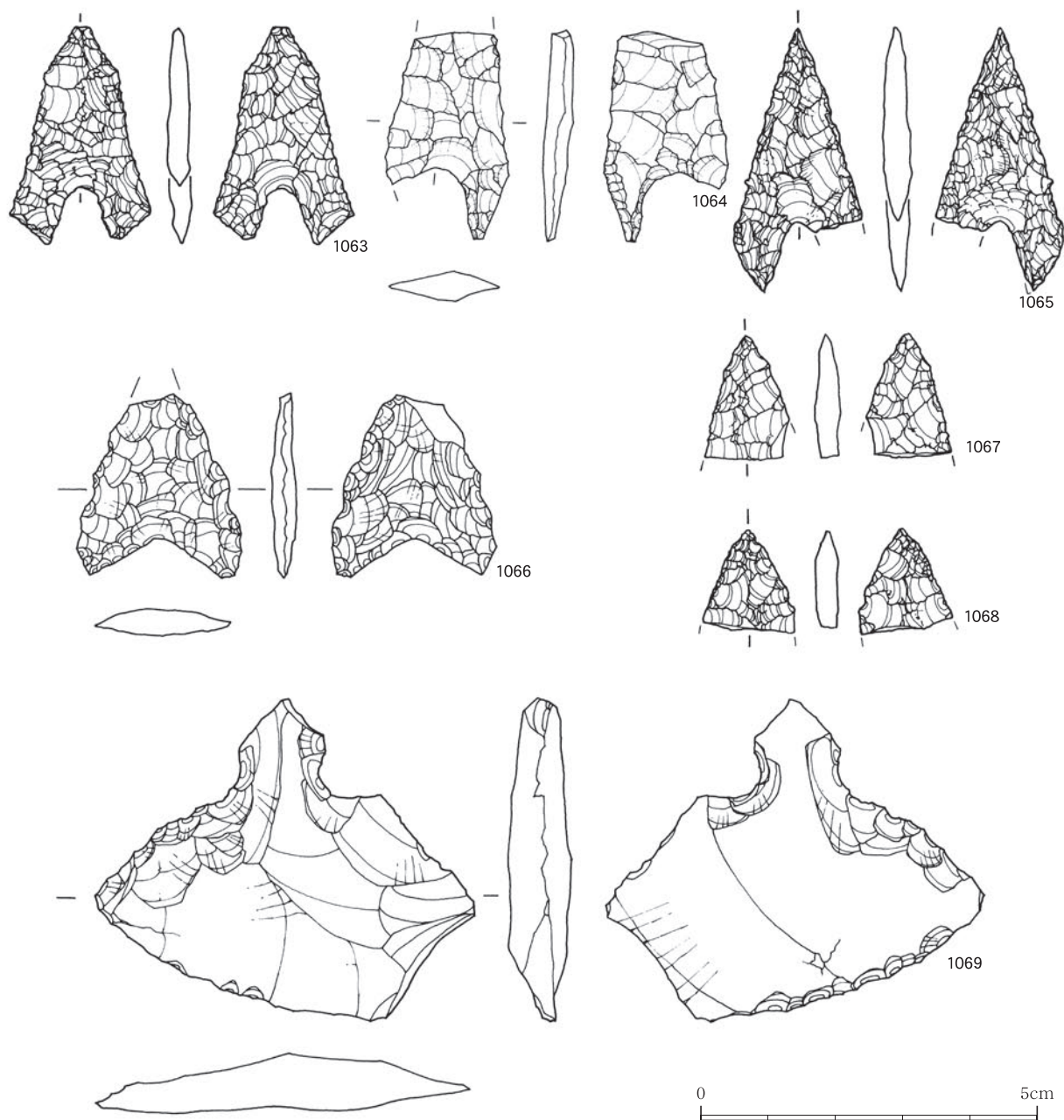
第109図 縄文時代晩期石器（1）



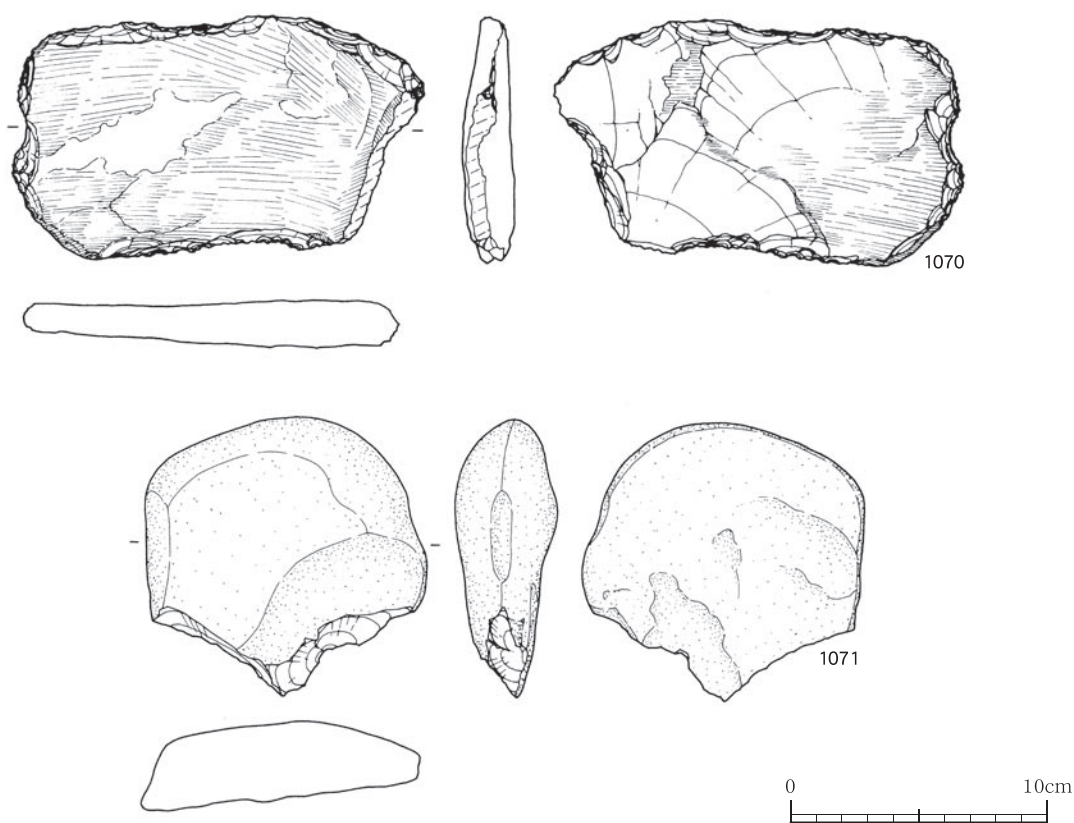
第110図 縄文時代晩期石器（2）



第111図 縄文時代晩期石器（3）



第112図 縄文時代晩期石器（4）



第113図 縄文時代晩期石器（5）

②石器（第109図～123図 998～1127）

I～Ⅲ層において縄文時代晩期と思われる石器が多数出土した。縄文時代早期同様、石鏃が豊富であった。また、石斧・磨石・石皿や横刃形石器・石錘・石飾や用途不明の異形石器、黒曜石の剥片も検出された。

石鏃（第109図～112図 998～1068）

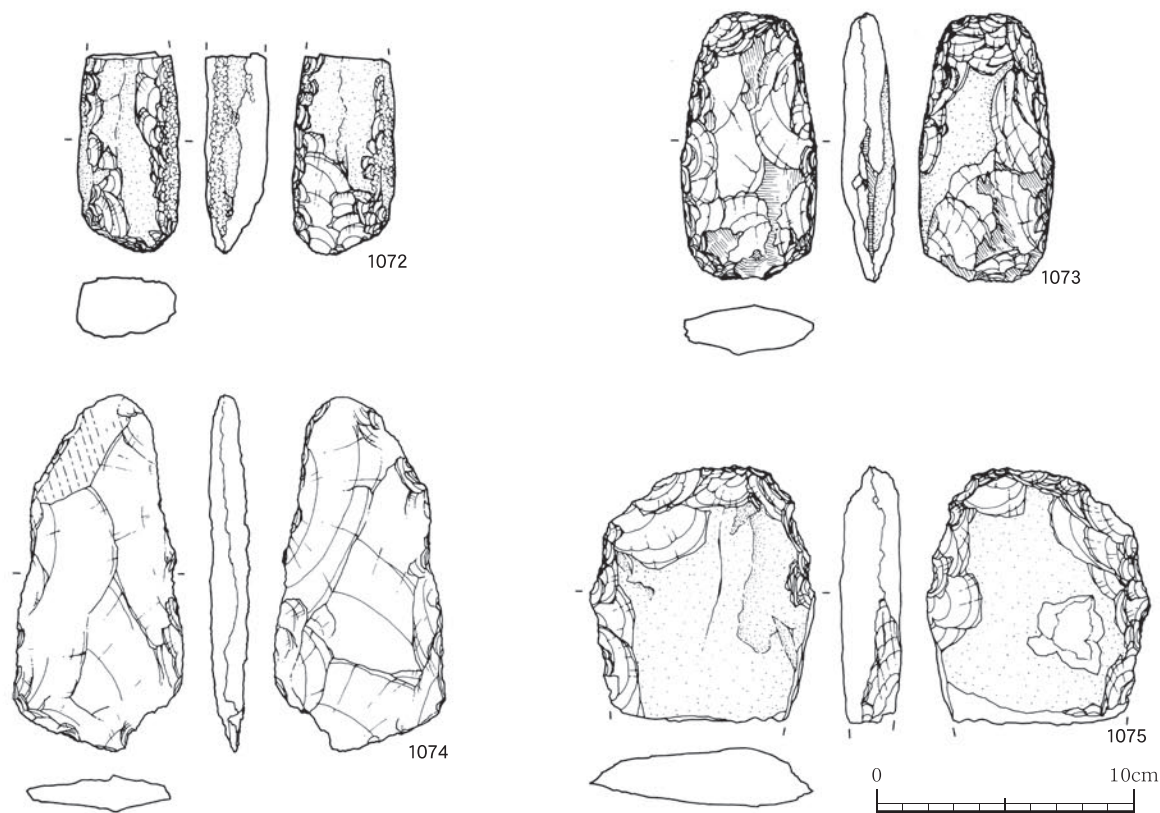
形態分類は本報告書 P187の石鏃形態分類表に準ずる。黒曜石Aの使用頻度が高く、本遺跡縄文時代早期（IV～V層）に比べ、石材選択傾向に偏りがあると言える。これは本遺跡中Ⅲ層で検出された黒曜石の剥片と伴するものであるが、まとまりに欠けたため、出土状況は非掲載とした。

形態をみると、縄文時代早期と比較して、全体的に基部調整が念入りで挟りが深いといえる。最大長平均は2.2cmで縄文時代早期と同様であるが、縄文時代早期と比較して若干、小形化の傾向が認められる。（参照：P188）しかし、1057～1061のように3

cmから4 cmを超える比較的大形の石鏃も検出されている。1025～1030・1052～1054は五角形で、晩期特有の形態を呈している。中でも1053・1054や1060は石鏃形態表のB型（五角形）を呈しながらD型（砲弾型）との中間の形態をとっている。また、1011・1013・1016・1017・1019・1020・1026・1028・1029・1040・1050・1052は先端部の調整が入念で、突起状を呈しており、本遺跡縄文時代晩期石鏃の形態的な特徴となっている。1038・1043はいずれも一部破損しているが、側縁部に突起状の膨らみをもつ。また、基部の挟りが深い等、同様の形態であるといえる。中でも1043はやや大きめで、実用的ではなく異形石器の範疇に入る可能性がある。

石匕・削器（第112図・113図 1069・1070）

早期と比較すると大形化し、頁岩系の石材選択が特徴。1069は比較的大形の石匕で、大剥離による刃部を最大限活用している。刃部の微細剥離痕は最小限にとどまる。1070は表裏の研磨が著しい。上下の



第114図 縄文時代晩期石器（6）

刃部形成が顕著で、側縁部に抉りが施されているため、大形の剥片を利用した削器とした。

礫器（第113図 1071）

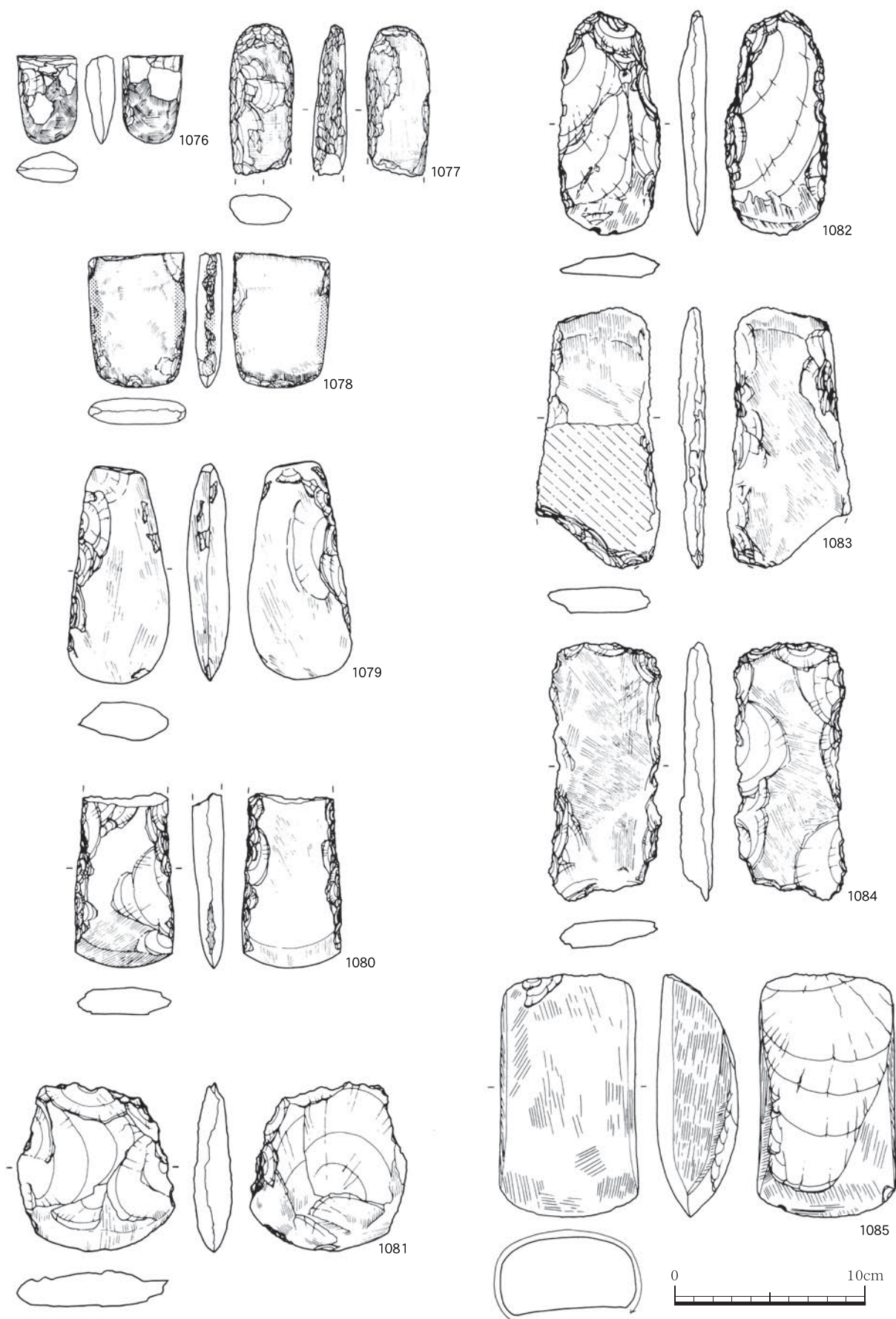
1071は砂岩を利用している。大きく自然面を残し、鋭利なドリル状の刃部をやや粗雑な剥離で形成している。早期・晩期ともに大形の礫器が少数にとどまっているのは、他の農業センター遺跡群との比較を踏まえ、本遺跡の同時代における位置づけを考える意味で判断材料となり得るだろう。

打製石斧（第114図 1072～1075）

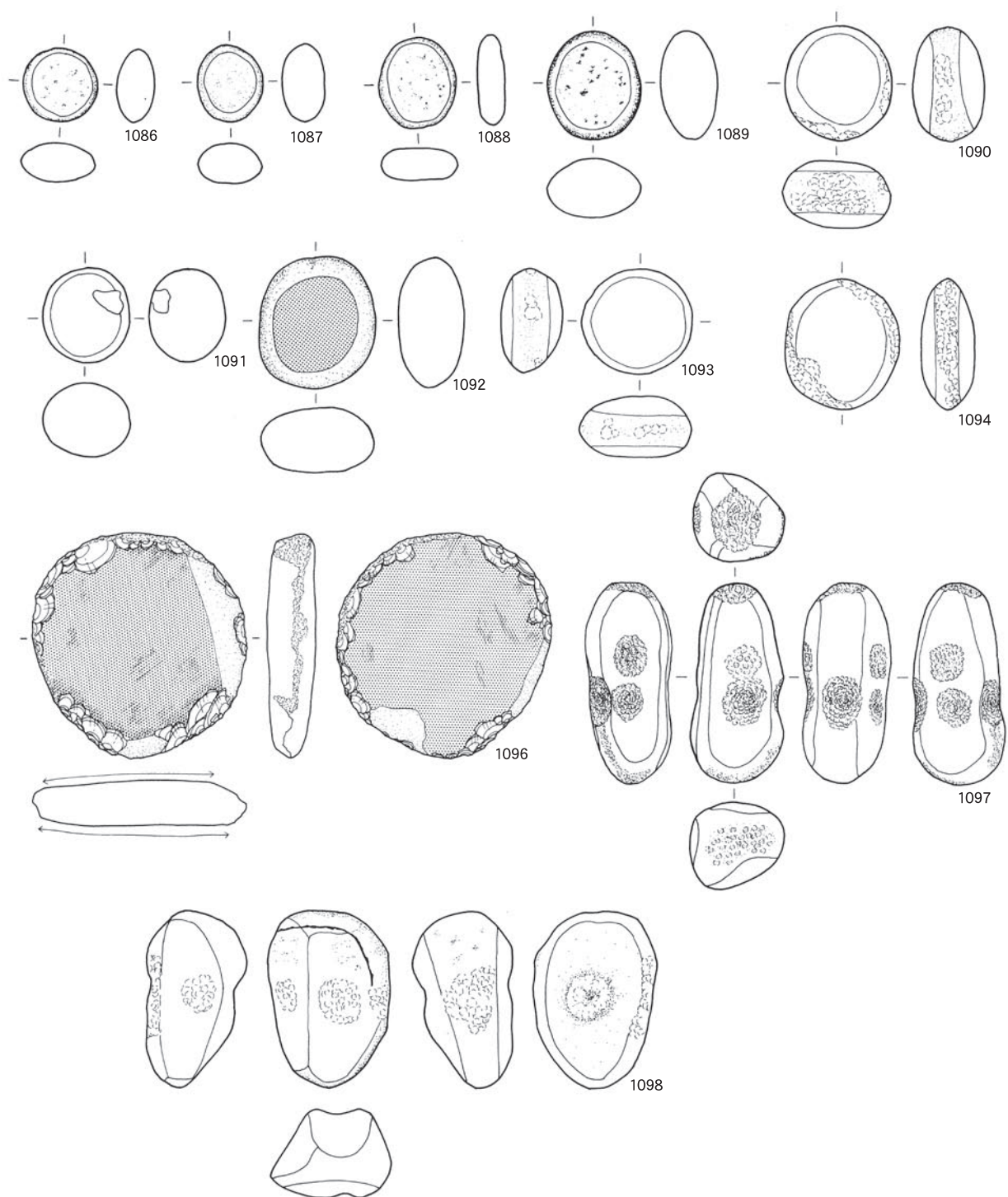
早期同様、打製石斧の石材選択は頁岩系に偏向しており、破損品が多い（遺構内遺物842を含む）。全体的に薄手で短冊状を呈し、やや粗雑な調整が目立つ。遺物の完成度は磨製石斧の方が高い。Ⅳ層において検出された大量の頁岩製の石斧整形剥片はⅢ層では減少しており、磨製石斧に依存度が偏向して

いった可能性もある。1072はやや厚手で棒状の頁岩の自然石を、側縁部・刃部に入念に剥離し、側縁部を中心に調整のための敲打を施している。1073は表・裏ともに摩滅部が観察できる。特に、中央から刃部にかけて顕著で、使用痕と思われる。

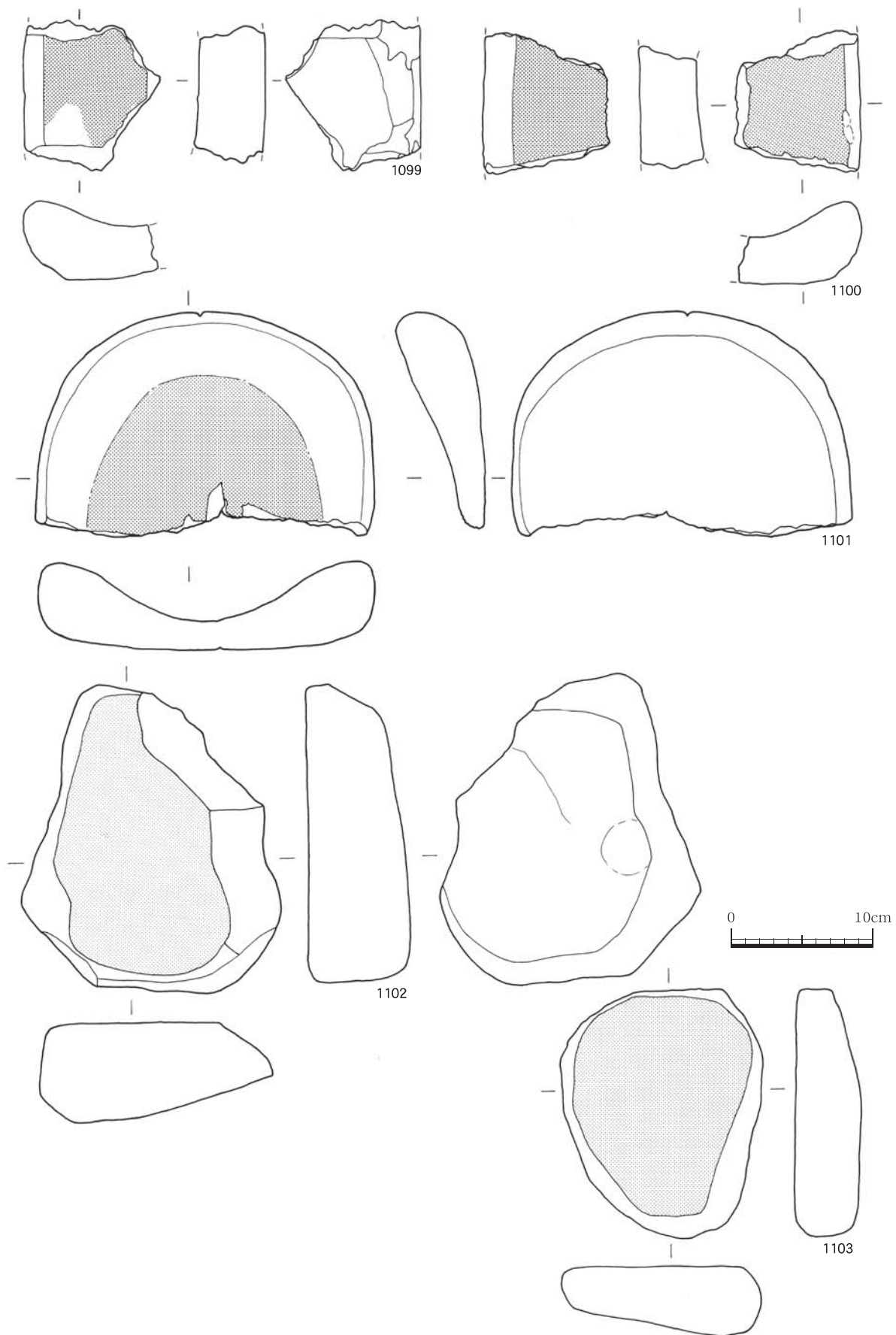
今回、諏訪牟田遺跡の縄文時代晩期において、有肩石斧の出土は見られなかった。これは、有肩石斧をはじめ、打製・磨製石斧等が大量に出土した農業センター遺跡群尾ヶ原遺跡(2006)とは全く異なった検出状況である。それぞれの遺跡で同時期に共伴する主な土器は、諏訪牟田遺跡が入佐式土器に類似、尾ヶ原遺跡が黒川式土器に類似しており、このことは本遺跡群において縄文時代晩期における有肩石斧の出土状況に時期的な差異が存在する可能性(本田)を示唆している。今後の検証を待ちたい。なお、1072は本報告書掲載の諏訪前遺跡の遺物865と接合する。



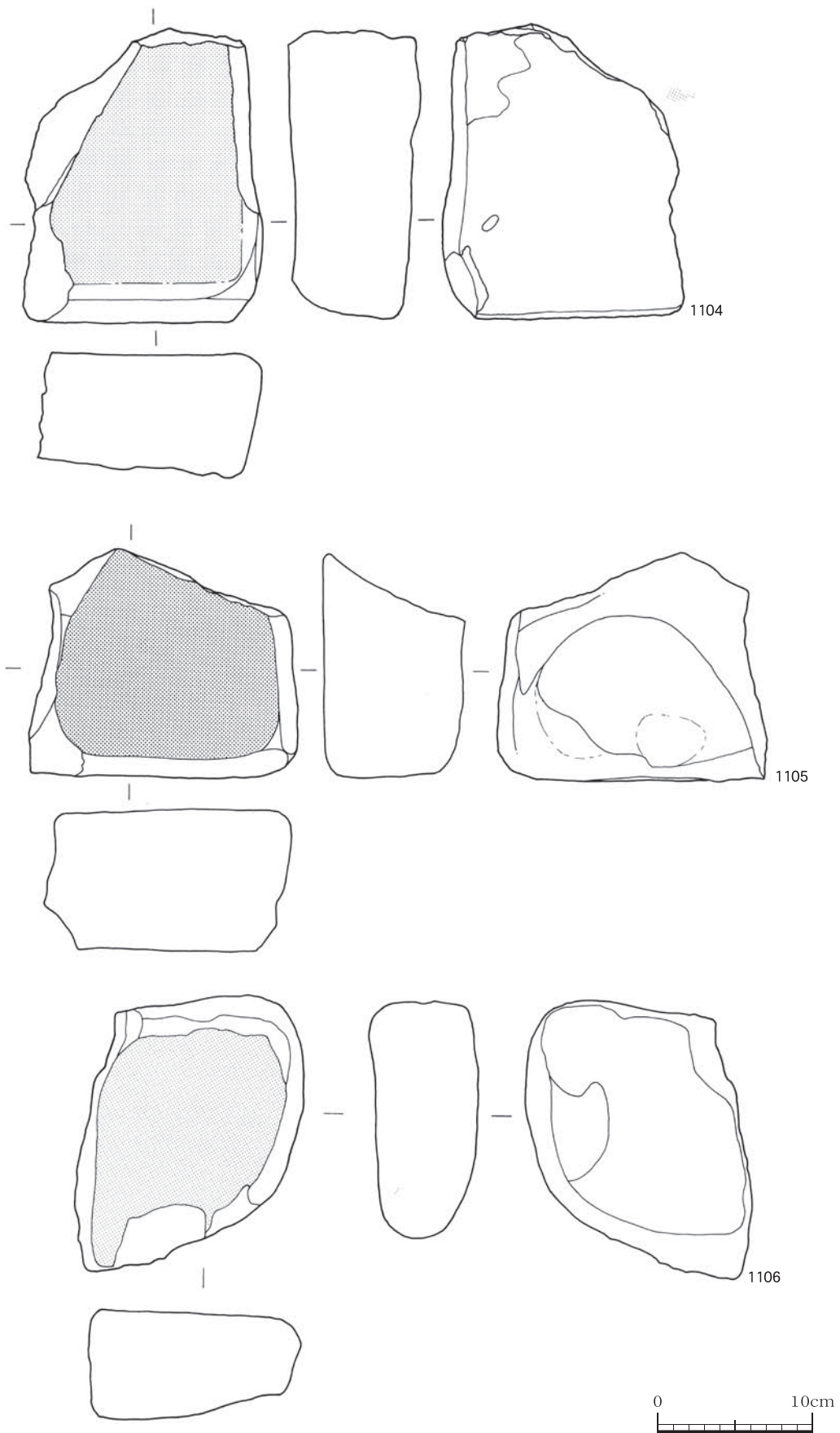
第115図 縄文時代晩期石器（7）



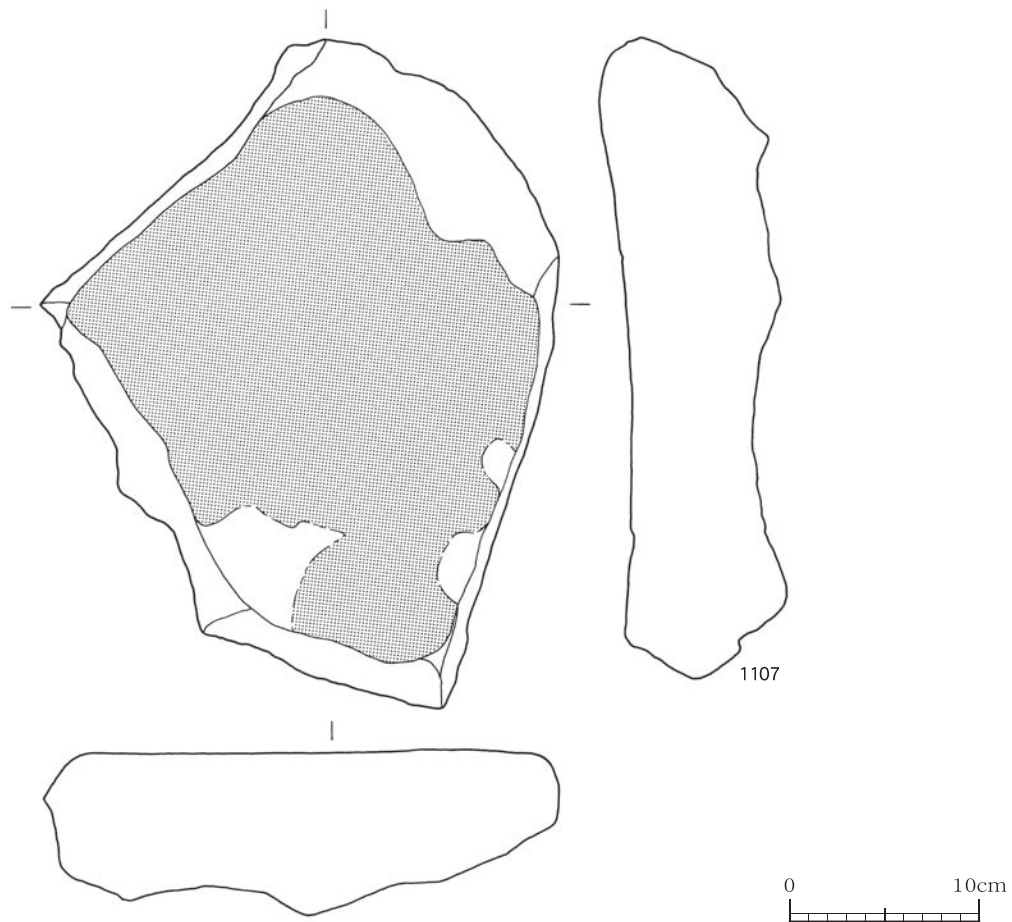
第116図 縄文時代晩期石器（8）



第117図 縄文時代晩期石器（9）



第118図 縄文時代晩期石器 (10)



第119図 縄文時代晩期石器 (11)

磨製石斧 (第115図 1076~1085)

一方、磨製石斧も出土数が限られているため傾向をつかむのは困難だが、頁岩系の使用頻度が高いのが特徴的である。これは縄文時代早期とは異なる傾向と言える。短冊型、紡錘型に加えて丸型 (1081) がある。いずれも刃部形成の研磨が入念で、完形を止める物が目立つ。1076・1080~1083は入念な研磨による刃部形成である。一方、1078はやや不規則な剥離作業による刃部形成が観察でき、1077は蛇紋岩を全体的に研磨し頭部から剥離を加え、形状を調整したと思われる。1078は両側縁部の擦痕が顕著であり、使用痕・装着痕のいずれかを検討する必要がある。1082は表裏面のみではなく、側縁部も入念な研磨が施されており、全面の研磨の後、裏面に器形調整のための剥離が施されている。1084・1085はいずれも頁岩系の石材を短冊状に剥片をとり、表裏に入念な研磨を施している。

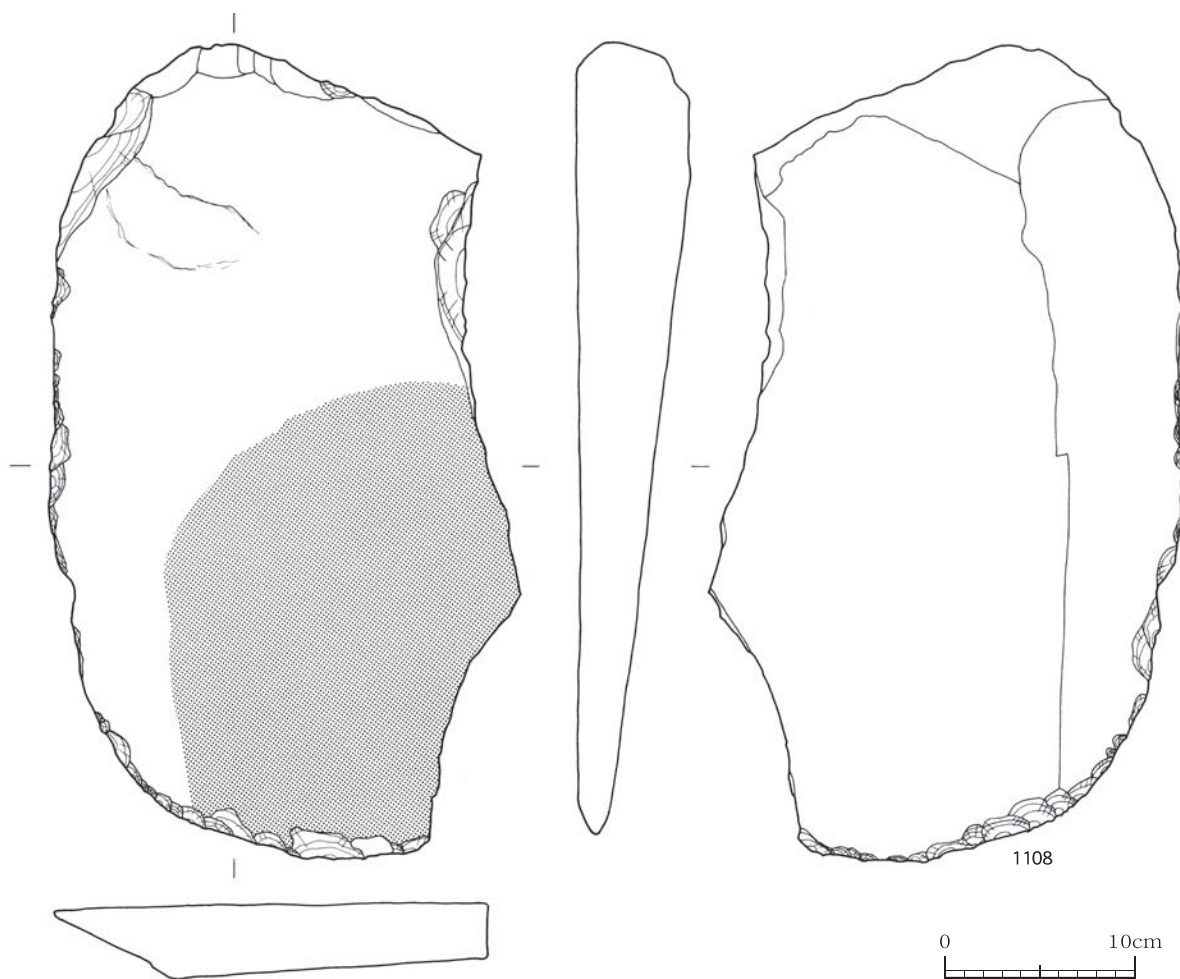
1084は裏面に摂理面を残し、一部研磨痕が摩滅している部分が観察できる。1085は研磨後の剥離も見られることから、磨製石斧として使用後、打製石斧への転用を試みた可能性もある。1084同様、研磨痕が摩滅している部分が観察できる。

磨石・敲石・円盤形石器 (第116図 1086~1098)

縄文時代早期とほぼ同様の形態がそろっているが量は貧弱になり、比較的小形のものが多くなる。

また、早期と比較すると、やや小形化し、敲打痕はあまり集中しなくなる。砂岩を多く選択している縄文時代早期と比較すると、わずかだが安山岩系の使用頻度が上がっているのが特徴的である。1087~1090・1092は調理具としての使用方法と加えて、土器製作時の器面調整具などが考えられる。

1096は全側縁部に剥離痕と敲打痕を残し、表・裏面とも磨面が観察でき、切断・敲打・磨擦等、複数の使用目的を包括した万能型の石器であった可能



第120図 縄文時代晩期石器 (12)

性がある。1097・1098は早期にほぼ同様の形態が集中しており、時期について今後検討の余地がある。1098は全面にわたって敲打痕集中部が見られる。径は2～3cmで、縄文時代早期における凹石の敲打痕集中部と共通する特徴がある。1098も同様である。いずれも敲打痕の集中部の摩耗が激しく、敲打痕の観察がやや困難である。これら共通の特徴について若干の検討を行った。(参照：まとめP185)

石皿 (第117図～121図 1099～1109)

選択された石材は安山岩系に偏向している。早期は磨石・敲打石・凹石の豊富さと比較して、石皿が少数であったのに比べ、晩期は全く逆の様相を呈している。破損品に加え、側縁部に入念な剥離が見られるなど、全体的に形が整えられた印象がある。また、使用面がほぼ水平である。本遺跡における縄文時代早期石皿の表面に凸凹が見られ、設置時に不安定であったのに比較すると形態の相違点が明確である。

同一個体の可能性がある1100～1102の使用面は大きくへこみ、使用頻度の高さを思わせる。

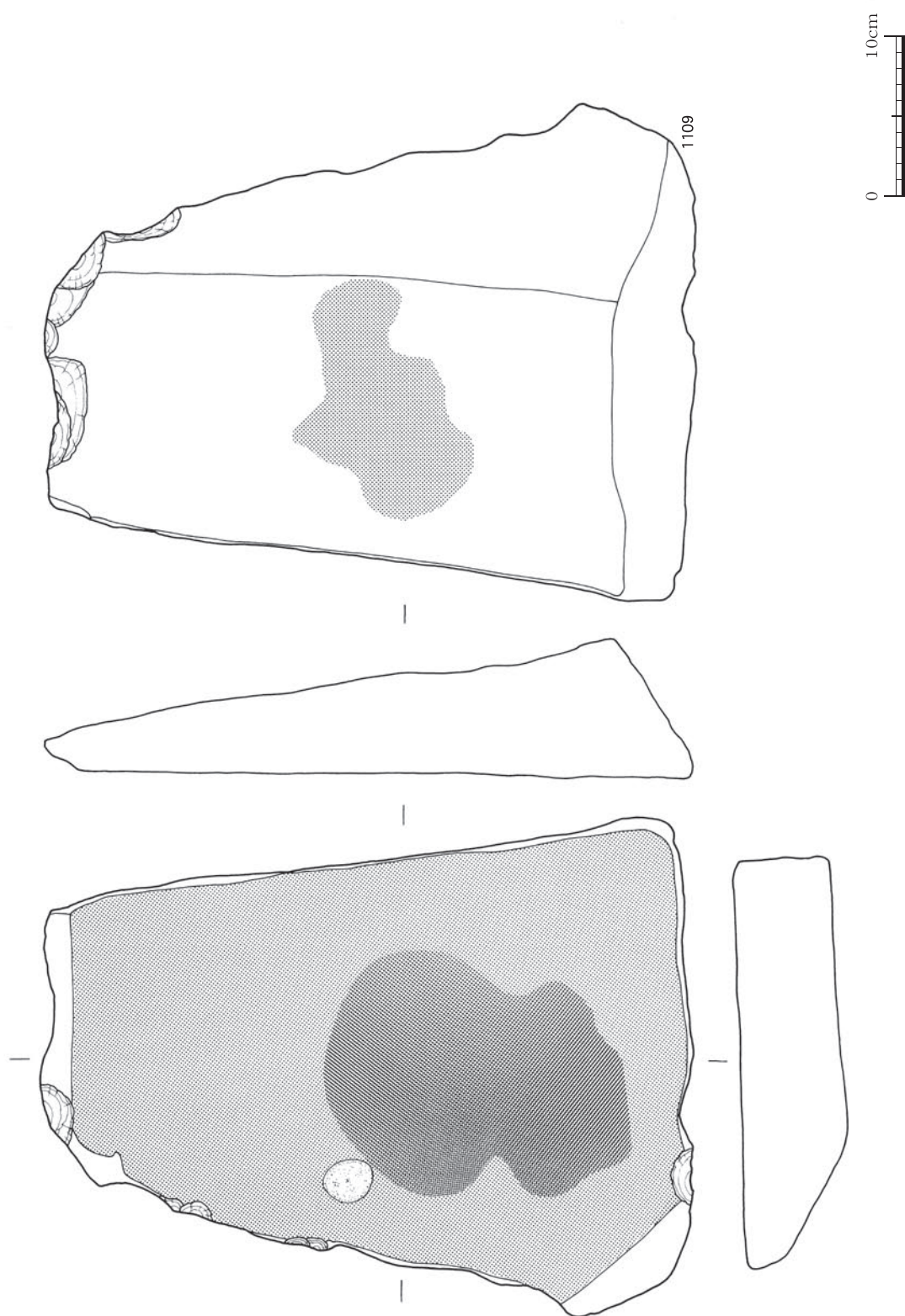
完形の大形石皿1108・1109は縄文時代晩期石皿に比べると薄く、使用面積が広いうえ安定している。1109は表面の全体に使用痕が観察でき、特に中央部に使用部が集中している。

軽石製品 (第122図 1110～1115)

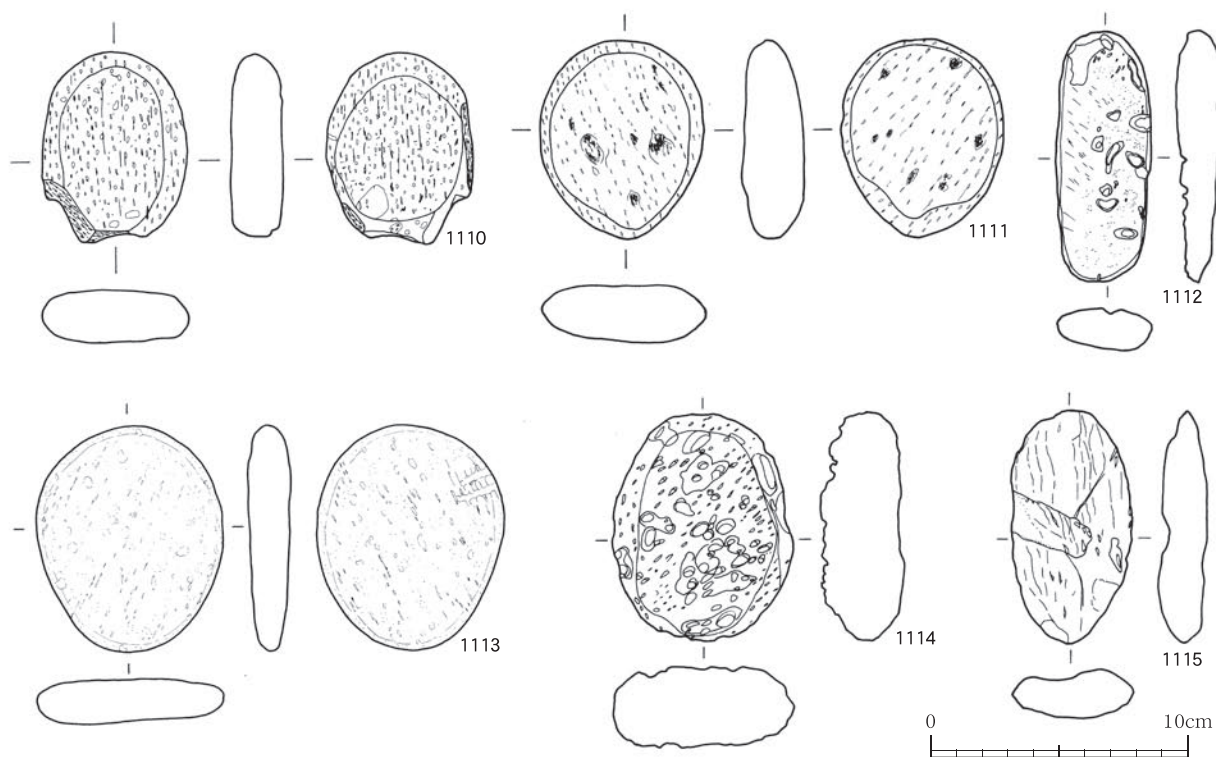
円形、棒状を呈するものがあり、全て扁平である。使用痕が観察しにくく、擦痕が観察できたのは1112・1113のみであった。

横刃形石器 (第123図 1116～1119)

頁岩系 (1116・1117・1119) と砂岩系 (1118) の石材を利用した横刃形石器が出土した。頁岩はⅢ層出土の剥片と同様の石材を使用しているものと思われる。いずれも表裏いずれかに大剥離面を残し、下部もしくは上部にやや粗雑な刃部形成による剥離が施されている。1117・1118は横長で刃部が上下に分



第121図 縄文時代晩期石器 (13)



第122図 縄文時代晩期石器（14）

かれる。1119・1120は全体の形状が蛤状を呈し、側縁部にも刃部が達している。また、1116・1118は裏面，1119は表面，1117は表・裏面及び側縁部・刃部に摩滅痕が観察できる。特に，1117は摩滅が顕著で，一部剥離の稜線が不明瞭な部分が見られた。

石錘（第123図 1120～1123）

いずれも砂岩を使用し，側縁部を剥離している。最大長は約7 cm台，最大幅は約8 cm台，重さは190～230 gに収まり，ほぼ同様の規格内に収まるものと思われる。本遺跡内では比較資料が少ないが，隣接する諏訪前遺跡出土の石錘の中でも幅が7 cm台のものが最も多く，規格性を必要としていた可能性がある。1121・1122は挟り部及び裏面に擦痕が著しい。紐ズレ等の使用痕と思われる。

石飾（第123図 1124・1125）

いずれも砂岩を使用している。ほぼ中央部に穿孔を有し，全体的に擦痕が見られる。

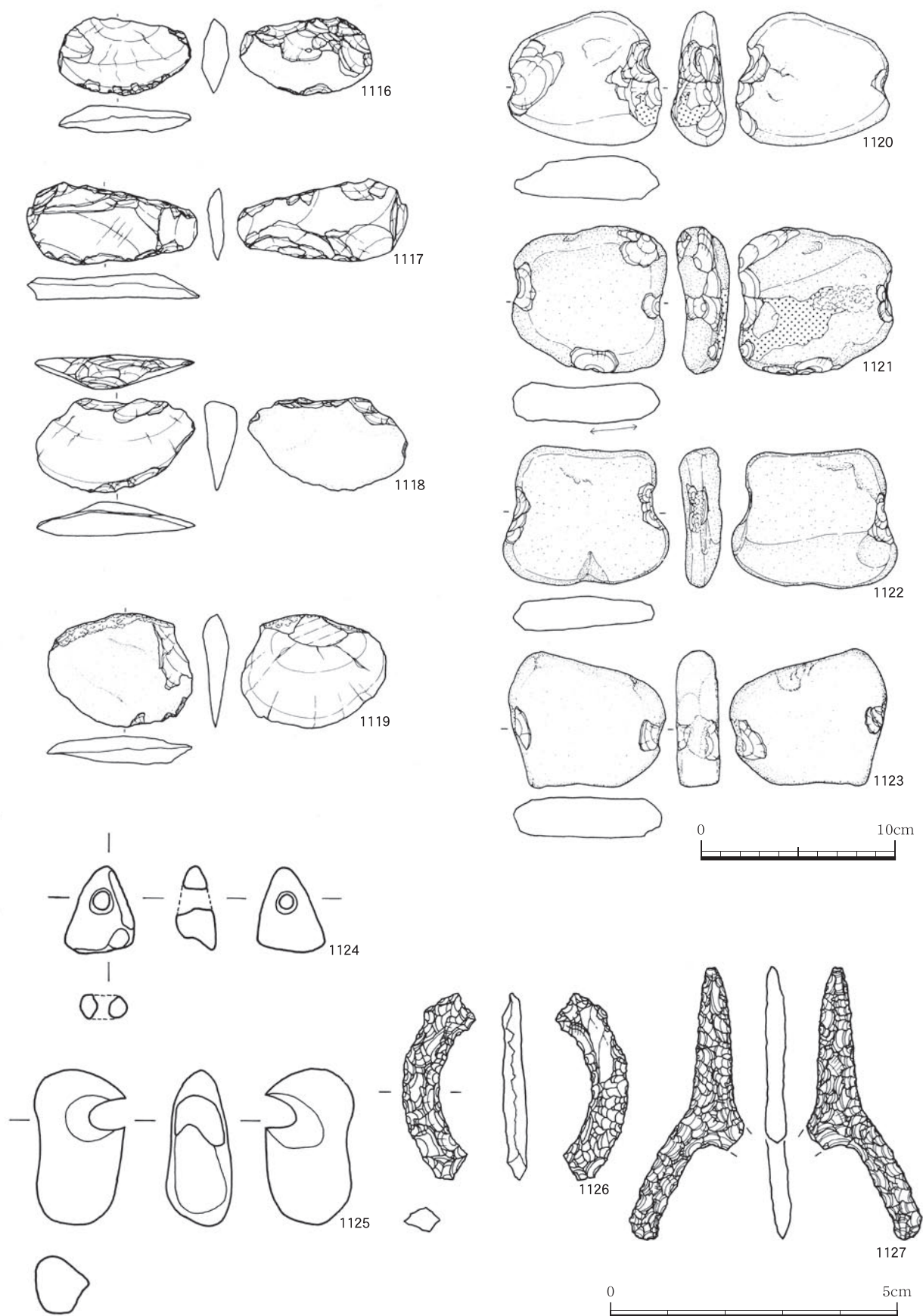
1124の全体は三角形を呈し，穿孔の外径は約4 mm

で，中央部にかけて狭くなり，直径が3 mm程度になる。一部研磨が著しく，光沢がある。1125の穿孔の最大径は約8～10 mmで1124に比べやや大きい。穿孔の周辺及び，内部は研磨が見られず，欠損したものと思われる。空豆状を呈し，全体的に研磨が施されている。

異形石器（第123図 1126・1127）

黒曜石を使用した用途不明の異形石器である。隣接する諏訪前遺跡で同時期と思われる同様の石器が出土（本報告書掲載）している。

1126は姫島産の黒曜石（黒曜石H）を使用した欠損品と考えられる。全体的に剥離調整が見られる。特に頭部は入念な剥離が施され，下部は欠損している。1127は全体的に入念な剥離が加えられ，横断面はやや扁平を呈する。欠損品で，おそらく，石鏃状を呈していたと思われるが，狩猟具として使用した可能性は薄い。



第123図 縄文時代晩期石器 (15)

縄文時代晩期石器(1)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	長幅比	形状	長幅比	基部	備考
						cm	cm	cm	g					
第 109 図	998	X-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石E	1.6	1.5	0.5	1.1	1.1	A	a	a	
	999	Y-18	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石D	1.2	1.2	0.2	0.3	1.0	A	a	b	
	1000	Z-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石C	1.4	1.3	0.3	0.4	1.2	A	a	b	
	1001	X-21	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石F	1.4	1.4	0.4	0.6	1.0	A	a	b	
	1002	X-22	Ⅲ	打製石鏃	安山岩A	1.6	1.3	0.3	0.6	1.3	A	a	b	
	1003	X-21	Ⅲ	打製石鏃	頁岩1	1.6	1.5	0.3	0.5	1.0	A	a	b	
	1004	W-22	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石E	1.7	1.4	0.3	0.5	1.2	A	a	b	
	1005	Y-24	Ⅲ	打製石鏃	鉄石英	1.7	1.5	0.4	0.7	1.1	A	a	b	
	1006	I-2	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	1.7	1.5	0.4	0.7	1.1	A	a	b	
	1007	Y-22	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石E	1.7	1.3	0.3	0.4	1.3	A	a	b	長さ推定
	1008	X-22	Ⅲ	打製石鏃	頁岩2	1.9	1.3	0.3	0.6	1.5	A	a	b	
	1009	Y-18	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	1.9	1.5	0.2	0.4	1.3	A	a	b	
	1010	X-20	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石F	1.9	2.0	0.4	0.6	0.9	A	a	b	
	1011	Y-18	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石D	1.4	1.3	0.3	0.4	1.1	A	a	c	
	1012	Y-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石D	1.5	1.3	0.3	0.4	1.2	A	a	c	
	1013	Y-24	Ⅲ	打製石鏃	頁岩2	1.5	1.3	0.3	0.5	1.2	A	a	c	
	1014	X-22	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石C	1.5	1.5	2.9	0.4	1.0	A	a	c	欠損(基部推定)
	1015	X-25	Ⅲ	打製石鏃	安山岩B	1.6	1.4	0.3	0.6	1.1	A	a	c	
	1016	I-2	Ⅲ	打製石鏃	チャート	1.8	1.4	0.4	0.7	1.3	A	a	c	
	1017	Z-18	Ⅱ	打製石鏃	玉髄2	1.8	1.6	0.3	0.6	1.2	A	a	c	
	1018	X-21	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石C	1.9	1.7	0.2	0.5	1.1	A	a	c	
	1019	H-(-1)	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	1.9	1.3	0.4	0.5	1.4	A	a	c	
	1020	Y-20	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石C	1.6	1.6	0.4	0.5	1.0	A	a	d	
	1021	—	—	打製石鏃	黒曜石A	1.7	1.4	0.4	0.6	1.2	A	a	d	
	1022	Y-19	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石F	1.7	1.6	0.4	0.6	1.1	A	a	d	
	1023	X-24	Ⅲ	打製石鏃	玉髄5	1.6	1.4	0.3	0.6	1.1	A	a	e	
	1024	I-(-1)	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石H	1.9	1.2	0.3	0.4	1.6	A	b	d	
第 110 図	1025	I-2	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	1.3	1.2	0.3	0.4	1.1	B	a	b	
	1026	Y-22	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石I	1.6	1.2	0.2	0.4	1.3	B	a	d	
	1027	I-1	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	1.9	1.4	0.3	0.7	1.4	B	a	c	
	1028	Y-22	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石I	1.4	1.1	0.3	0.2	1.3	B	a	c	
	1029	X-25	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	1.6	1.4	0.3	0.5	1.1	B	a	d	
	1030	X-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石G	1.3	0.9	0.3	0.2	1.4	B	a	e	
	1031	Z-20	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石D	1.9	1.5	0.4	1.1	1.3	C	a	c	
	1032	Y-22	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石I	1.5	0.9	0.3	0.3	1.7	C	b	d	
	1033	X-25	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石C	2.3	1.6	0.4	1.1	1.4	A	a	a	
	1034	—	—	打製石鏃	頁岩1	2.4	1.7	0.5	1.5	1.5	A	a	a	
	1035	I-1	Ⅲ	打製石鏃	安山岩A	2.1	1.8	0.4	1.0	1.2	A	a	b	
	1036	I-1	Ⅲ	打製石鏃	鉄石英	2.1	1.9	0.3	0.9	1.1	A	a	c	
	1037	V-10	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	2.2	1.9	0.4	0.9	1.2	A	a	c	
	1038	—	表探	打製石鏃	黒曜石D	2.3	1.6	0.3	0.9	1.4	A	a	c	
	1039	Y-18	Ⅱ	打製石鏃	黒曜石B	2.5	1.7	0.3	0.8	1.5	A	a	c	長さ推定
	1040	U-9	Ⅲ	打製石鏃	頁岩2	2.5	1.7	0.4	1.2	1.5	A	a	c	
	1041	W-22	Ⅲ	打製石鏃	頁岩2	2.5	1.8	0.3	1.2	1.4	A	a	c	長さ推定
	1042	X-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石G	2.7	1.9	0.4	0.9	1.4	A	a	c	
	1043	Y-18	Ⅱ	打製石鏃	黒曜石A	2.8	2.4	0.4	1.3	1.2	A	a	c	
	1044	Y-22	Ⅲ	打製石鏃	玉髄3	2.3	1.7	0.3	0.9	1.4	A	a	d	
	1045	I-2	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石F	2.5	2.1	0.7	2.2	1.2	A	a	e	
	1046	U-10	Ⅲ	打製石鏃	頁岩2	1.9	1.6	0.3	1.1	1.2	A	b	b	長幅比推定
第 111 図	1047	—	—	打製石鏃	玉髄4	2.0	1.0	0.2	0.6	1.9	A	b	b	
	1048	U-10	Ⅲ	打製石鏃	頁岩2	2.0	1.2	0.3	0.6	1.7	A	b	c	
	1049	X-23	Ⅲ	打製石鏃	玉髄2	2.3	1.3	0.3	0.8	1.7	A	b	c	
	1050	X-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	2.6	1.5	0.3	0.6	1.7	A	b	c	
	1051	X-24	Ⅲ	打製石鏃	チャート	2.8	1.5	0.4	1.2	1.8	A	b	c	長さ推定
	1052	—	撈乱	打製石鏃	黒曜石G	2.0	1.5	0.4	0.8	1.3	B	a	b	
	1053	W-20	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	2.7	1.7	0.5	1.6	1.6	B	b	c	
	1054	W-20	Ⅲ	打製石鏃	玉髄6	2.6	1.1	0.3	0.7	2.4	B	c	a	
	1055	X-21	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石G	2.5	1.4	0.3	1.0	1.8	C	b	b	
	1056	W-20	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	2.1	1.0	0.3	0.7	2.1	C	c	b	
	1057	X-21	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石B	3.1	1.8	0.4	1.6	1.7	A	b	c	
	1058	—	—	打製石鏃	安山岩A	3.5	1.9	0.5	1.7	1.9	A	b	c	
	1059	V-10	Ⅲ	打製石鏃	玉髄5	3.1	1.2	0.4	1.5	2.5	D	c	b	
	1060	W-21	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	3.4	1.6	0.5	1.9	2.2	C	c	c	有茎
	1061	Y-21	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	—	1.7	0.4	1.5	—	A	—	c	欠損
	1062	I-2	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石D	—	1.8	0.4	0.9	—	—	—	a	欠損
第 112 図	1063	X-22	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	3.3	2.1	3.0	2.0	—	—	—	—	
	1064	V-24	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石A	4.2	1.9	0.5	2.0	2.2	A	c	c	長さ推定
	1065	Y-22	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	4.1	2.0	0.4	2.2	2.1	A	c	d	
	1066	Y-18	Ⅲ	打製石鏃	頁岩3	3.8	2.5	0.4	2.4	—	A	b	c	長さ推定
	1067	W-20	Ⅲ	打製石鏃	玉髄2	1.9	1.3	0.4	0.8	1.5	—	—	—	欠損
	1068	Y-21	Ⅲ	打製石鏃	黒曜石D	1.6	1.4	0.4	0.6	1.1	—	—	—	欠損
平均						2.1	1.5	0.4	0.9	1.4	—	a	—	

縄文時代晩期石器（２）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
						cm	cm	cm	g	
第 112 図	1069	—	芋穴	石匕	頁岩	4.9	5.8	0.9	19.4	
第 113 図	1070	I-1	Ⅲ	削器	頁岩	4.7	13.6	1.8	102.8	
	1071	X-22	Ⅲ	礫器	砂岩	11.0	11.2	4.1	510.0	
第 114 図	1072	X-22	Ⅲ	打製石斧	頁岩	7.9	4.0	2.5	127.5	
	1073	X-21	Ⅲ	打製石斧	頁岩	10.4	5.4	1.8	166.7	
	1074	I-(-1)	Ⅲ	打製石斧	頁岩	14.1	6.7	1.5	139.4	
	1075	I-(-1)	Ⅲ	打製石斧	頁岩	10.2	8.9	2.4	302.2	
第 115 図	1076	Y-23	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	4.6	3.2	1.6	26.5	
	1077	Y-21	Ⅲ	磨製石斧	蛇紋岩	8.2	3.2	1.6	62.0	
	1078	Y-21	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	7.1	5.1	1.4	91.4	
	1079	Y-21	Ⅲ	磨製石斧	安山岩	11.5	5.5	2.2	170.0	
	1080	T-3	—	磨製石斧	頁岩	9.3	5.3	1.6	120.5	
	1081	T-3	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	9.0	8.4	1.9	165.6	
	1082	X-25	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	12.0	5.5	1.5	100.3	
	1083	Y-23	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	13.8	6.7	1.4	146.5	
	1084	Y-24	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	13.7	6.0	1.7	175.7	
	1085	X-22	Ⅲ	磨製石斧	頁岩	13.0	7.4	4.3	680.0	
第 116 図	1086	X-20	Ⅲ	磨石	安山岩	3.4	3.6	1.8	30.2	A-b-iii
	1087	I-2	Ⅲ	磨石	砂岩	3.6	3.1	2.0	25.6	A-b-iii
	1088	Y-21	Ⅲ	磨石	安山岩	4.3	3.7	1.5	36.7	A-b-iii
	1089	X-25	Ⅲ	磨石	安山岩	5.1	4.6	2.8	86.7	A-b-iii
	1090	X-24	Ⅲ	磨石	砂岩	5.6	5.1	3.4	135.0	B-b-iii
	1091	Y-24	Ⅲ	磨石	泥岩	4.5	4.1	3.6	94.2	A-a-iii
	1092	X-25	Ⅲ	磨石	砂岩	6.3	5.5	3.1	168.5	A-b-iii
	1093	Y-24	Ⅲ	磨石	安山岩	5.1	5.3	2.9	112.3	B-b-iii
	1094	Y-19	Ⅱ	磨石	砂岩	6.3	5.5	2.6	130.0	B-b-iii
	1096	I-1	Ⅲ	磨石・円盤形石器	砂岩	10.7	10.3	2.3	380.0	B-b-ii
	1097	X-21	Ⅲ	磨石・敲石・凹石	砂岩	9.6	4.5	4.2	234.4	C-c-ii
	1098	Z-19	Ⅱ	磨石・敲石・凹石	砂岩	8.5	5.8	4.8	292.5	C-c-ii
第 117 図	1099	I-2	Ⅲ	石皿	安山岩	10.0	9.6	4.7	570.0	
	1100	X-21	Ⅲ	石皿	安山岩	8.6	10.0	5.0	530.0	
	1101	Z-20	Ⅲ	石皿	安山岩	15.3	23.7	5.4	260.0	
	1102	—	Ⅲ	石皿	砂岩	21.2	18.1	7.1	370.0	
	1103	—	Ⅲ	石皿	砂岩	17.4	14.3	5.5	1700.0	
第 118 図	1104	—	Ⅲ	石皿	安山岩	19.2	14.8	8.5	3700.0	
	1105	SK1106	Ⅲ	石皿	砂岩	14.8	17.6	9.3	3800.0	
	1106	—	Ⅲ	石皿	砂岩	16.5	13.7	7.0	2700.0	
第 119 図	1107	—	Ⅲ	石皿	安山岩	33.8	27.2	8.6	10400	
第 120 図	1108	—	Ⅲ	石皿	砂岩	41.6	23.7	3.8	7000	
第 121 図	1109	T-48	Ⅲ	石皿	砂岩	40.6	30.5	8.7	12800	
第 122 図	1110	I-2	Ⅲ	軽石製品	軽石	7.2	5.8	2.1	20.0	
	1111	SK1106	Ⅲ	軽石製品	軽石	7.9	6.5	2.5	35.0	
	1112	X-22	Ⅲ	軽石製品	軽石	9.1	3.7	1.7	19.0	
	1113	Z-18	Ⅱ	軽石製品	軽石	8.9	7.5	1.8	30.9	
	1114	Y-18	Ⅱ	軽石製品	軽石	9.0	7.1	3.2	50.0	
	1115	—	—	軽石製品	軽石	9.2	4.8	1.9	30.0	
第 123 図	1116	—	—	横刃型石器	頁岩	3.9	6.9	1.9	38.7	
	1117	X-18	Ⅲ	横刃型石器	頁岩	4.2	8.8	1.3	50.4	
	1118	—	—	横刃型石器	頁岩	5.9	7.7	1.8	59.5	
	1119	I-1	Ⅱ	横刃型石器	頁岩	6.4	7.3	1.4	55.9	
	1120	X-22	Ⅲ	石錘	砂岩	7.1	8.1	2.9	194.1	
	1121	T-2	Ⅱ	石錘	砂岩	7.7	8.1	2.5	234.2	
	1122	T-2	Ⅱ	石錘	砂岩	7.4	8.7	1.8	189.2	
	1123	X-24	Ⅲ	石錘	砂岩	7.2	8.3	2.3	220.8	
	1124	Y-24	Ⅲ	石飾	砂岩	1.5	1.2	0.7	1.1	
	1125	X-23	Ⅲ	石飾	砂岩	2.7	1.4	1.2	6.0	
	1126	SUT2	—	異形石器	黒曜石 H	3.3	1.3	0.4	1.3	欠損
	1127	—	—	異形石器	黒曜石	4.9	1.3	0.4	1.5	欠損

第5節 弥生・古墳時代の調査

弥生・古墳時代については、遺構・遺物ともに出土がわずかであったため、一括して報告しておく。

(1) 弥生時代（第124図）

弥生時代に相当する遺構は検出されなかった。

遺物は非常に少なく、掲載したものは4点である。1129・1130は口縁部が「逆し」字状を呈するもので、1129は外面に2条の沈線が廻る。弥生時代中期前葉に相当する入来式土器に相当する。1131・1132は甕の底部である。1133は頁岩製の磨製石鏃である。

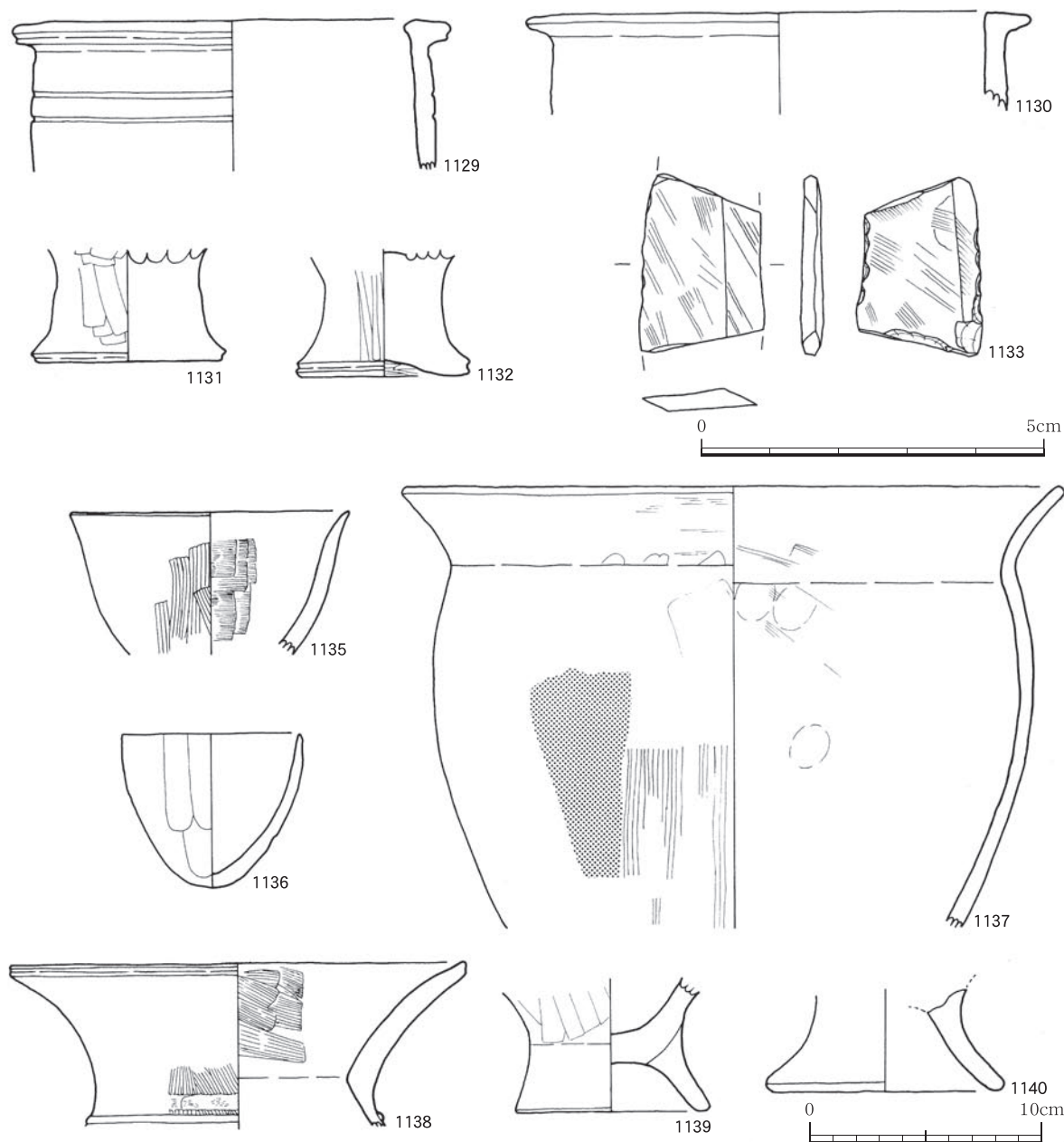
(2) 古墳時代（第124図～126図）

竪穴住居跡1軒と土坑1基が検出された。

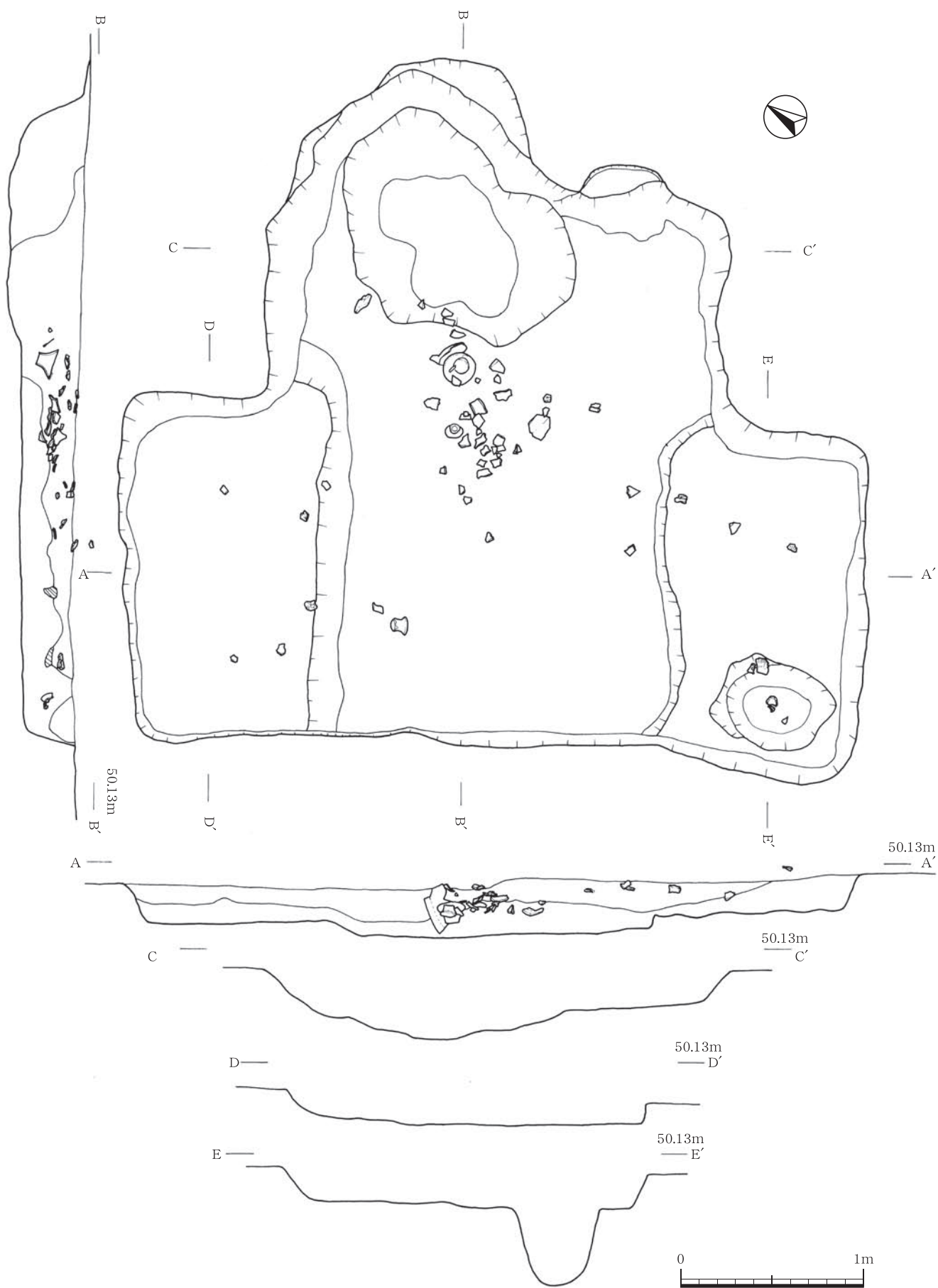
① 竪穴住居跡（第124図・125図）

Y-21区、Ⅲ層上面で検出された。形状は方形の両側に張り出し部をもつもので、柱穴は確認されなかったが、床面付近で2基の土坑が検出された。1基は床面からの深さが42cm程で、直径が約1m20cmである。もう1基は住居の北東部に設けられた張り出し部内で検出され、住居との関連が考えられる。

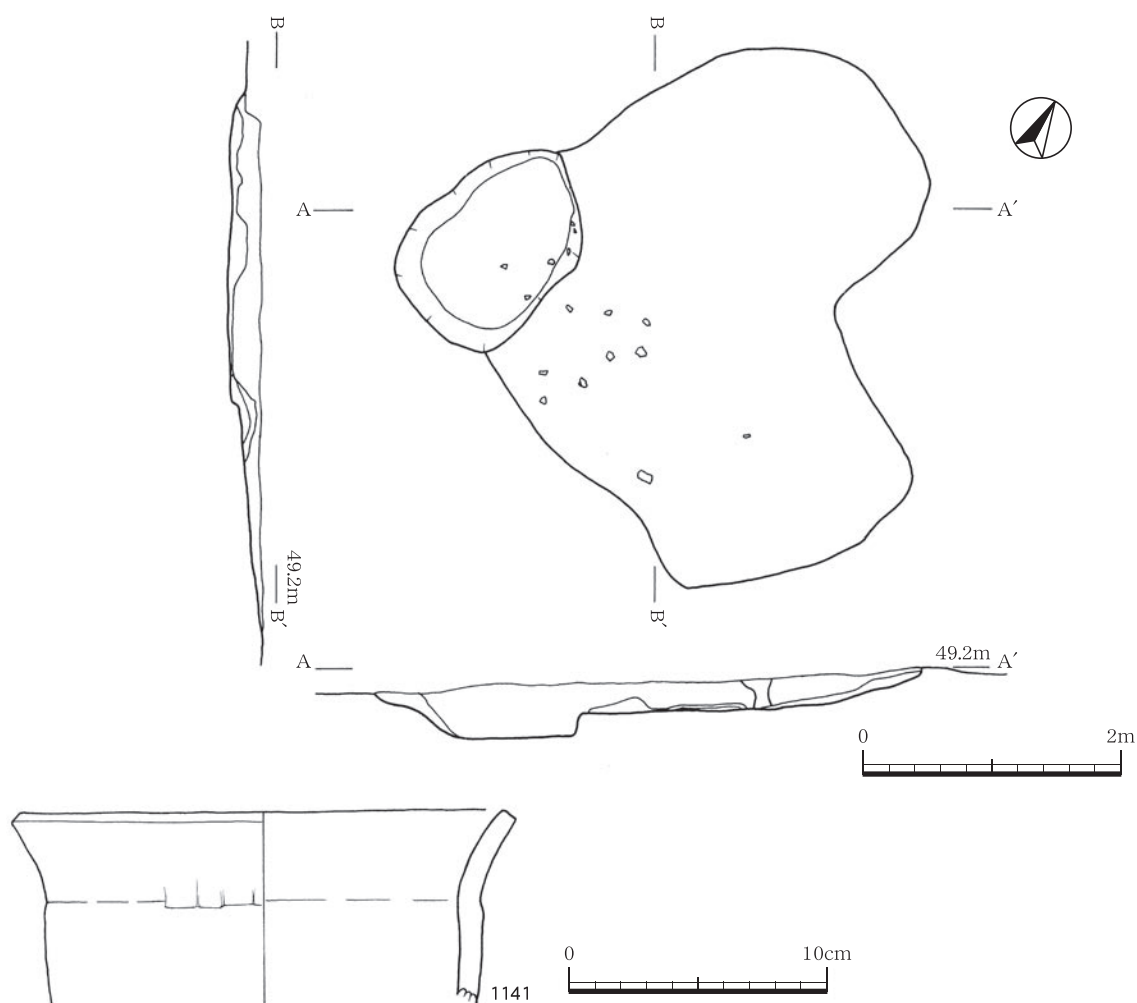
遺物は住居内のほぼ中央で出土した。1135～1140



第124図 弥生時代出土遺物及び古墳時代竪穴住居跡内出土遺物



第125図 古墳時代竪穴住居跡



第126図 土坑及び出土遺物

は中津野式土器の新段階に相当するものである。1135は外面胴部下半はヘラケズリが施されるが、上部は丁寧なハケ目調整が施される。1136は甕のミニチュア土器である。手づくねである。1138はラッパ状に開く壺の口縁部で、外面には段をつくる。器面調整内外面とも丁寧なハケ目調整が施される。

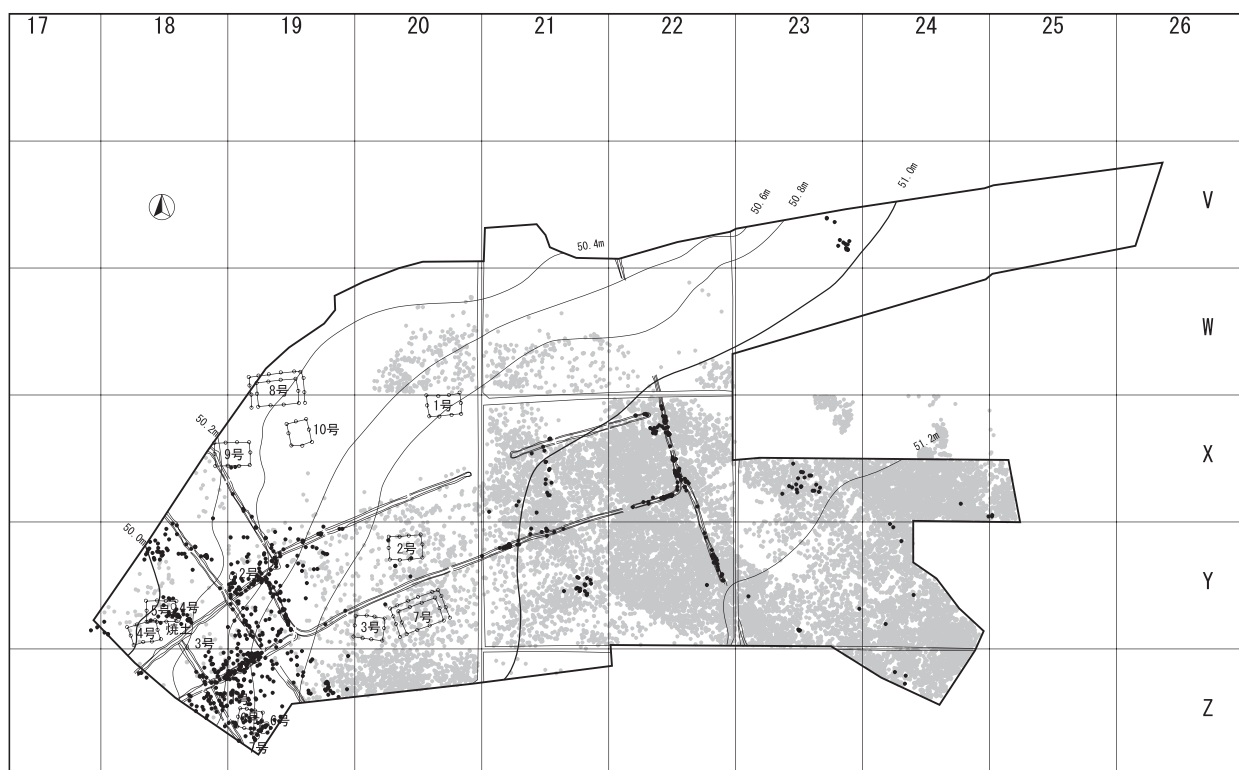
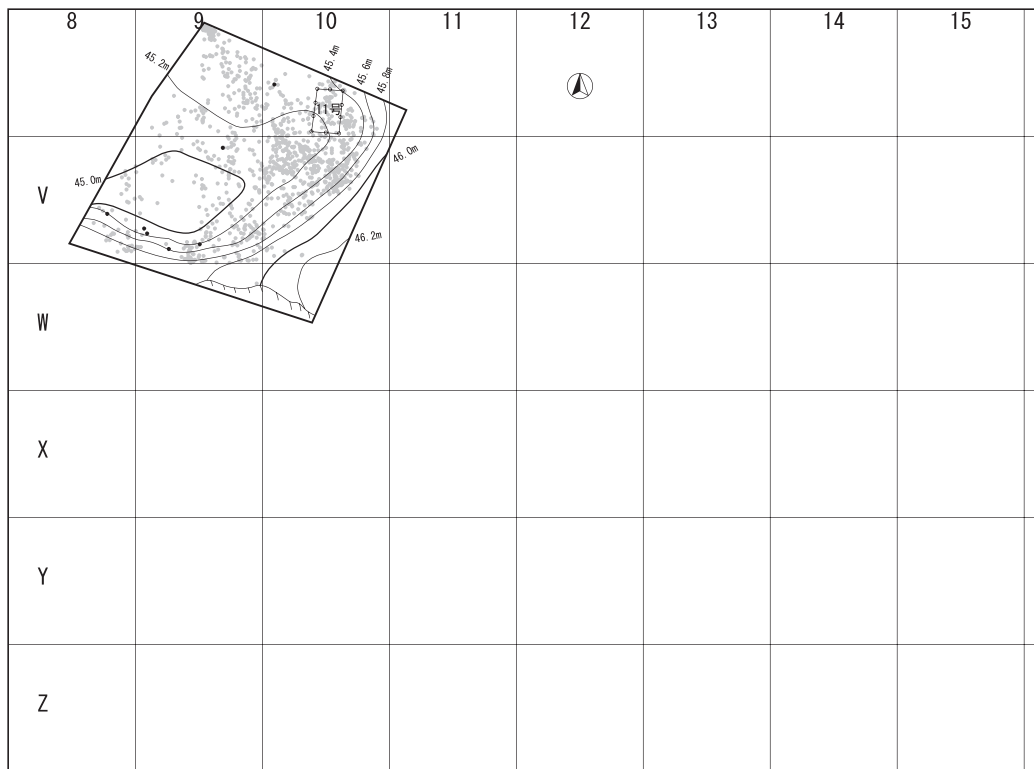
②土坑（第126図）

X-19区、Ⅲ層上面で検出された。比較的浅い土坑で、最も深い部分で40cm、他は24cm程度である。

遺物は成川式土器が数点出土したが、図化できたものは1点であった。1141は頸部の屈曲が弱く、口縁部も強く外反しないタイプのものである。口唇部は平坦気味につくられる。

弥生・古墳時代土器観察表

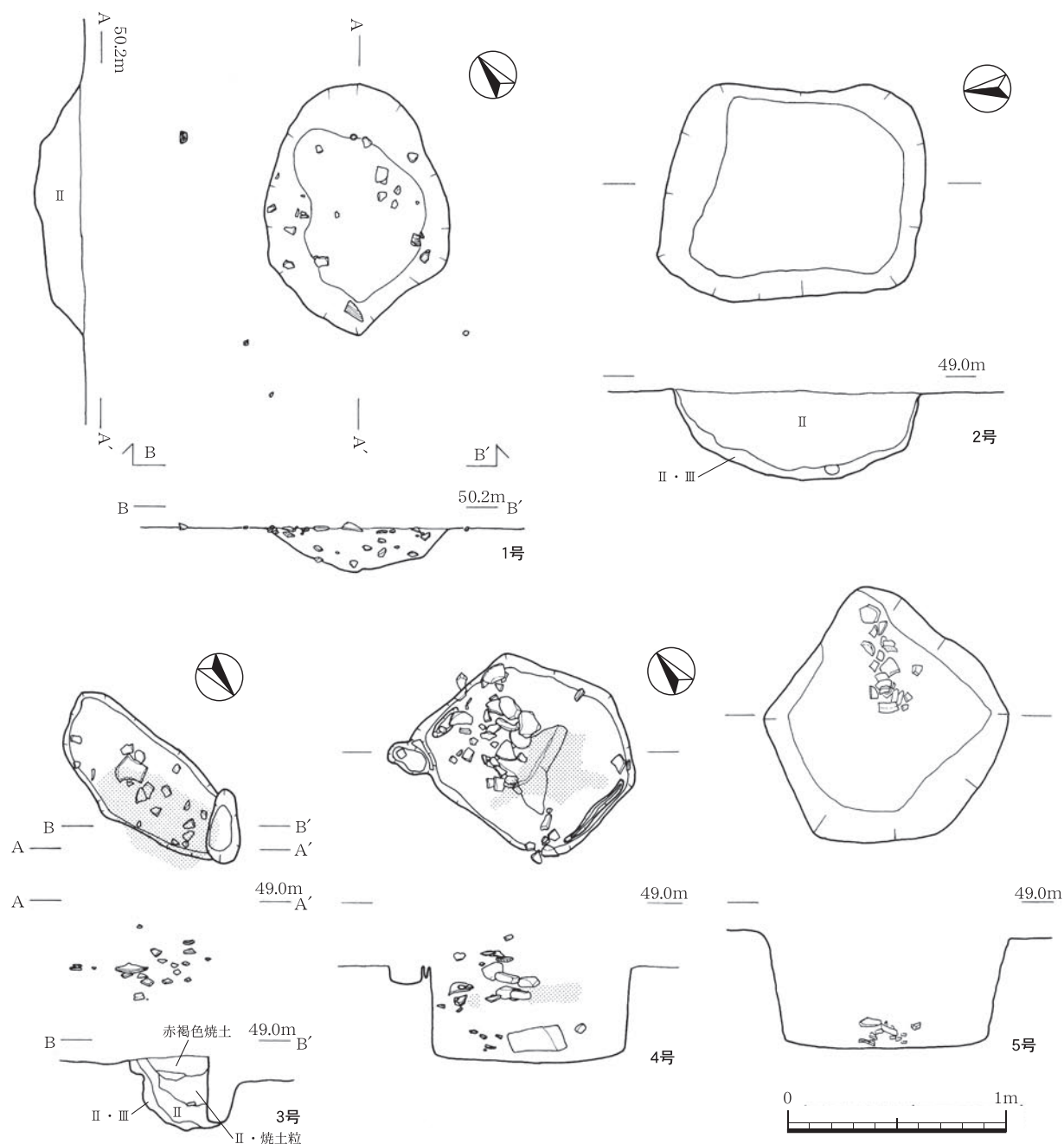
挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第124 図	1129	Y-19	Ⅱ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	ナデ 沈線	ナデ	
	1130	Y-18	Ⅱ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	ハケ目	ナデ	
	1131	Y-18	Ⅱ	高台	—	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	ケズリ後ナデ	—	
	1132	Y-19	Ⅱ	高台	—	7.5YR5/4にぶい褐	○	○			良	ミガキ	—	
	1133	X-22	Ⅲ	磨製石鏃	—	—					—	—	—	2g
	1135	Y-21 SH1101	—	口縁部~胴部	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR4/6褐	○	○			良	ハケ目	ナデ 指圧痕	
	1136	Y-21 SH1101	—	完形	2.5Y7/4浅黄	2.5Y7/3浅黄	○	○			良	指圧痕 ナデ	指圧痕	
	1137	Y-21 SH1101	—	口縁部~胴部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○	○			良	ハケ目 ヘラケズリ	ナデ ヘラケズリ	
	1138	Y-21 SH1101	—	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	○	○			良	ヘラナデ 指圧痕	ハケ目	
	1139	Y-21 SH1101	—	高台	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR4/6褐	○	○			良	ハケ目 ヘラナデ 指圧痕	ハケ目	
第126図	1141	X-19 SK1107	—	口縁部~胴部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙		○			良	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ	



第127図 古代・中世遺物出土状況及び遺構配置図（1グリッド：20m）



第128図 古代・中世遺構配置図（1グリッド：20m）



第129図 土坑 1～5号検出状況

第6節 古代・中世の調査

古代・中世については、時代の判別が難しい遺構もあったためまとめて取り扱うこととしたが、時代が分かるものについては文章中に明記した。

遺構は、土坑焼土遺構、掘立柱建物跡が検出された。

遺物は、土師器・須恵器・青磁・瓦器等が出土しているが、出土量はそれほど多くない。

(1) 遺構

古代の土坑7基、焼土遺構1基、古代の掘立柱建物跡6棟、中世の掘立柱建物跡5棟が検出された。すべて、Ⅲ層(アカホヤ二次堆積)上面での検出である。

①土坑 (第129図～133図)

1号土坑

Z-18区で検出された。楕円状の形状を呈し、埋土にはⅡ層に相当する黒色土が入る。遺物はほとんどが古代以前のもので混入と考えられる。土坑に



第130図 土坑6・7号検出状況

伴う遺物については小片で図化できなかったが、古代の土師器が出土している。

2号土坑

Y-19区で検出された。隅丸方形の形状である。埋土はⅡ層に相当する黒色土がほとんどであるが、下部はⅡ層とⅢ層が混じった土が薄く入り、炭化材が出土した。分析の結果クヌギ節であるとの結果がでており、燃料材として利用されたものと考えられる。また、年代測定から平安時代に相当するとの結果も得られている。(P 191・192参照)

3号土坑

Y～Z-18区で検出された。楕円形を呈し、土坑の南側は一部柱穴と切り合う。埋土には焼土を含んでおり、焼土内から古代の土師器が出土している。

4号土坑

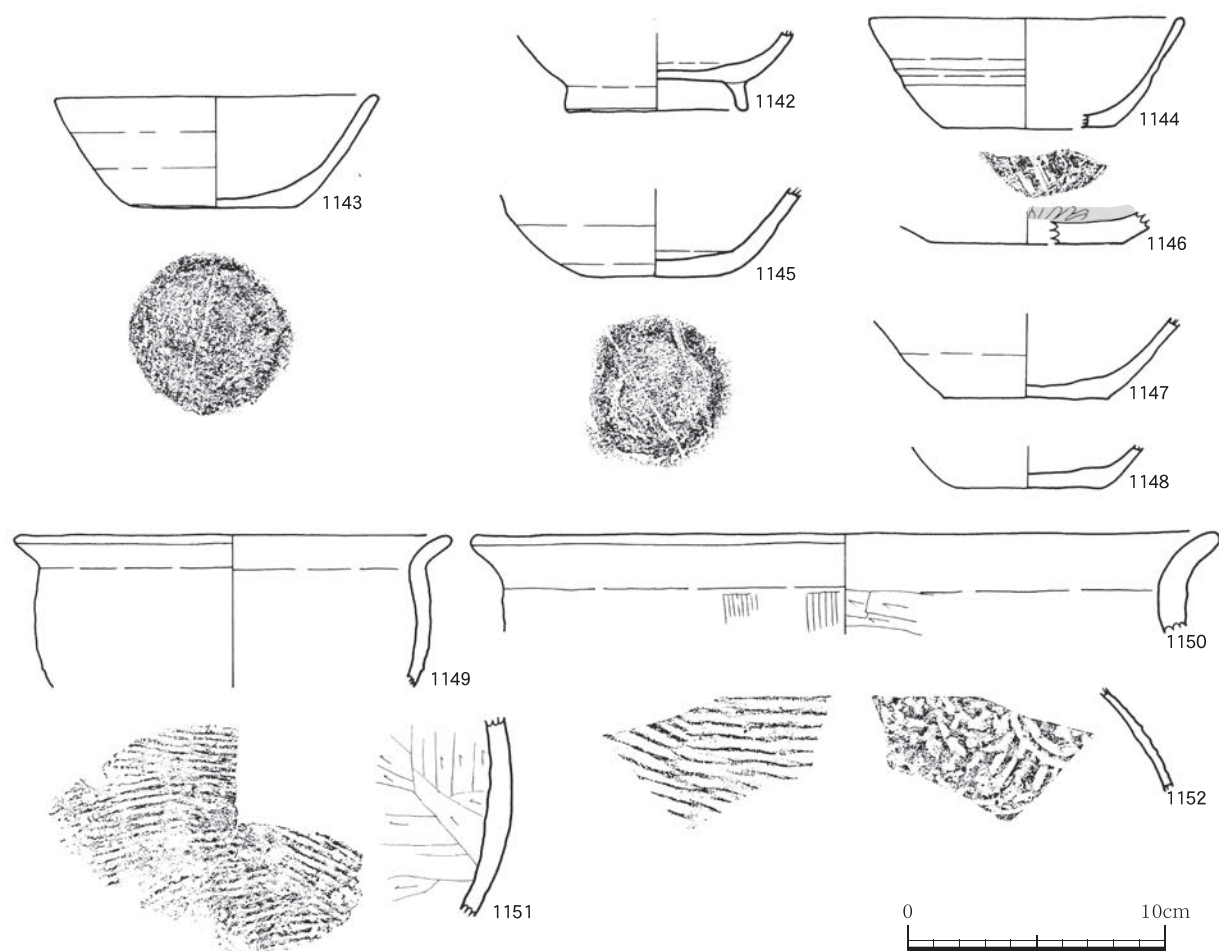
Y-18区で検出された。方形状の形状を呈し、北西の角は柱穴と一部重なる。埋土中には焼土が含まれる。遺物は古代の土師器等が出土した。また、下部からは石も出土している。

5号土坑

Z-19区で検出された。円形状の形状を呈する。遺物は下部から古代の土師器が出土した。

6号土坑

Z-19区で検出された。柱穴を挟んで、7号土坑と近接する。形状は隅丸方形でやや大型である。埋土はⅡ層及びⅢ層が入る。土坑に伴う遺物の出土量は比較的多く、古代の土師器・須恵器が出土した。



第131図 土坑内出土遺物（1）

7号土坑

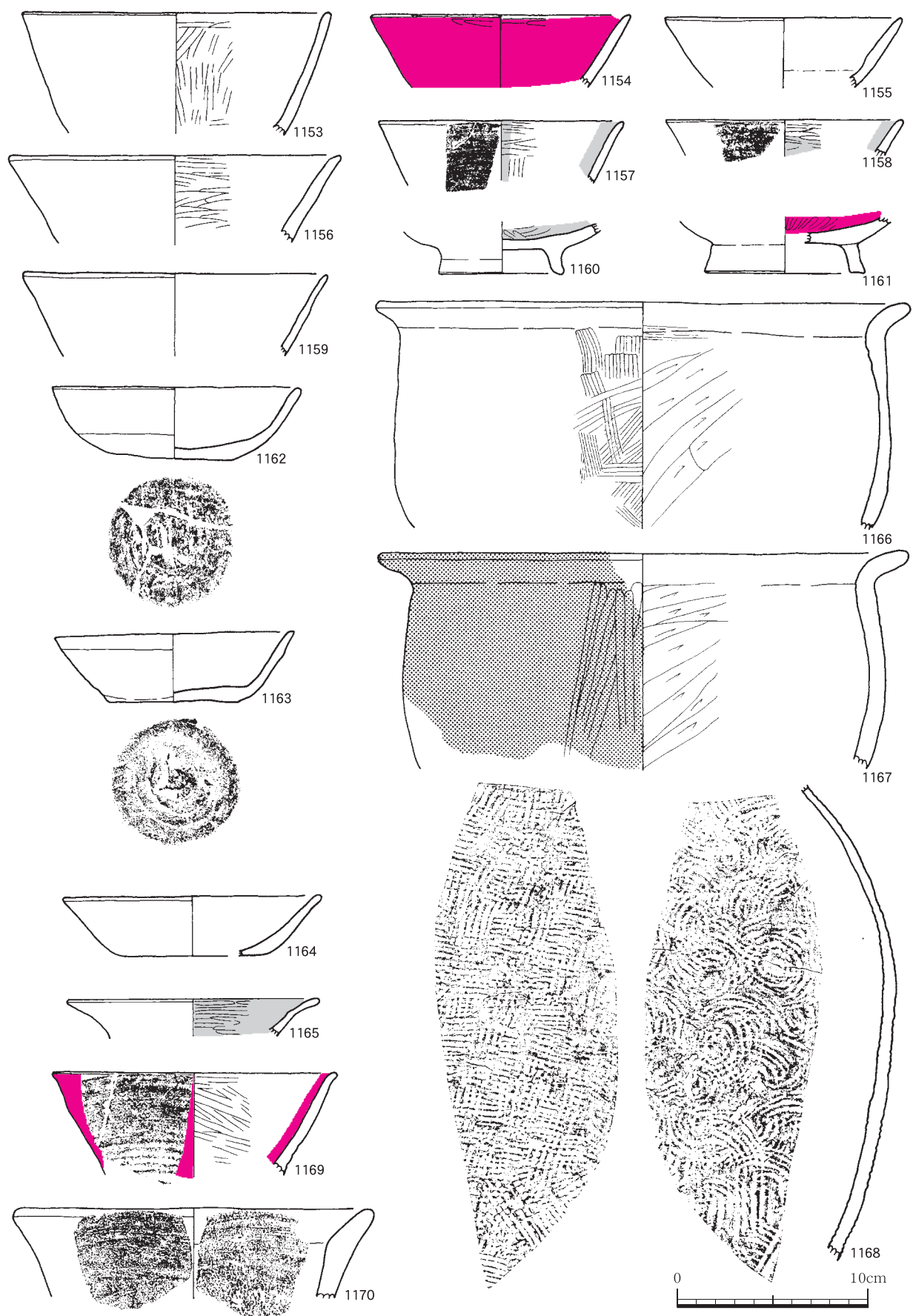
Z-19区で検出された。柱穴を挟んで、6号土坑と近接する。形状は隅丸方形である。埋土はⅡ層及びⅢ層が入る。遺物は古代の土師器が数点出土したが、図化できたものは2点であった。

土坑内出土遺物

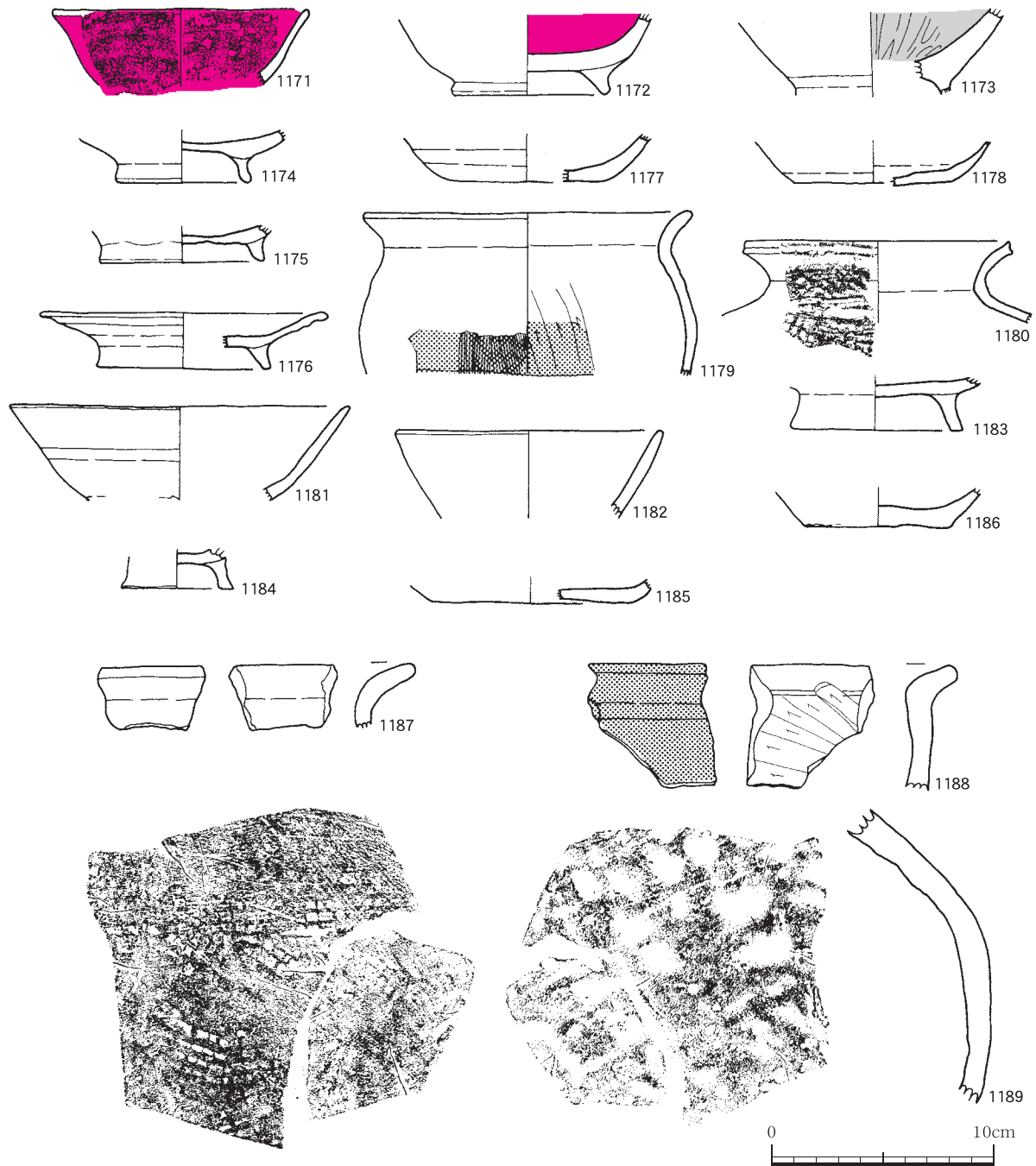
土坑内から出土した遺物を一括して掲載した。

1142～1152は4号土坑から出土した遺物である。1142～1150は土師器である。坏の底部はすべてヘラ切りである。1146を除き、碗・坏ともに腰部にヘラケズリの調整痕がやや残るが、基本的には内外面ともナデ調整が施される。1146は黒色土器A類に相当するもので、内面はミガキ調整が施される。1149・1150は甕である。1151・1152は須恵器の甕または壺である。1151は土器の色調が、外面はにぶい橙、内面はにぶい褐色を呈し、器面調整は外面に平行叩き目、内面にヘラケズリ調整が施される。1152は、外面は灰白色であるが、内面は赤褐色を呈するものである。

1153～1168は6号土坑から出土した遺物である。1153～1167は土師器である。1153～1158は逆「ハ」の字状に直線的に開く口縁部である。そのうち、1154は赤色土器B類に相当するもので、内外面ともに丁寧なミガキ調整が施され、赤色を呈する。1157・1158は黒色土器A類に相当するもので、内面は丁寧なミガキ調整が施され、黒色を呈する。また、1153・1156は、内面に丁寧なミガキ調整が施される。1160・1161は底部である。どちらも高台は比較的高く、内面はミガキ調整が施される。1160は、黒色土器A類、1161は赤色土器A類に相当する。1162～1164は坏である。底部の切り離しはヘラ切りである。1162は腰部に弱い段を有するもので、体部がやや丸みを帯びる。1163・1164は、体部が直線的に開くものである。1165は坏・または皿の口縁部と思われるもので、内面には丁寧なミガキ調整が施され、黒色を呈する。黒色土器A類に相当する。1166・1167は甕である。1167は内面口縁部付近と外面に煤が付着



第132図 土坑内出土遺物（2）



第133図 土坑内出土遺物（3）

する。1168は須恵器の胴部である。

1169・1170は7号土坑から出土した遺物である。1169は赤色土器B類に相当するものであるが、外面は一部赤色が看取される程度である。内面は丁寧なミガキ調整、外面はナデ調整が施される。

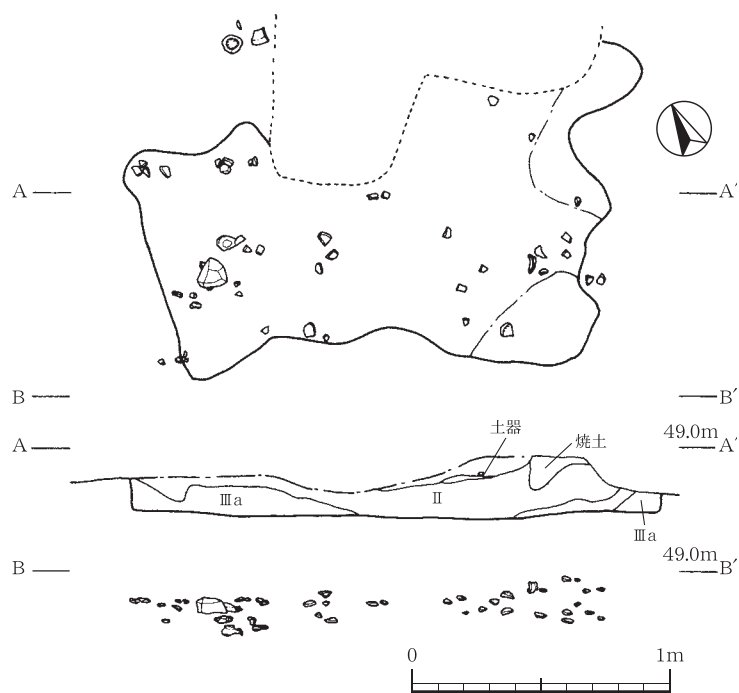
1171～1180は5号土坑から出土した遺物である。すべて土師器である。1171は内面と外面の一部が赤色を呈する赤色土器B類に相当する。1172は赤色土器A類に相当するが、内面のミガキは摩滅が激しい。

1173は黒色土器A類に相当するものである。1176は高台付皿である。口縁部はやや外反気味に開く。1177・1178は坏である。底部の切り離しはヘラ切りである。1179は甕である。内外面ともに雑なヘラケズリが施される。1180は須恵器の壺である。

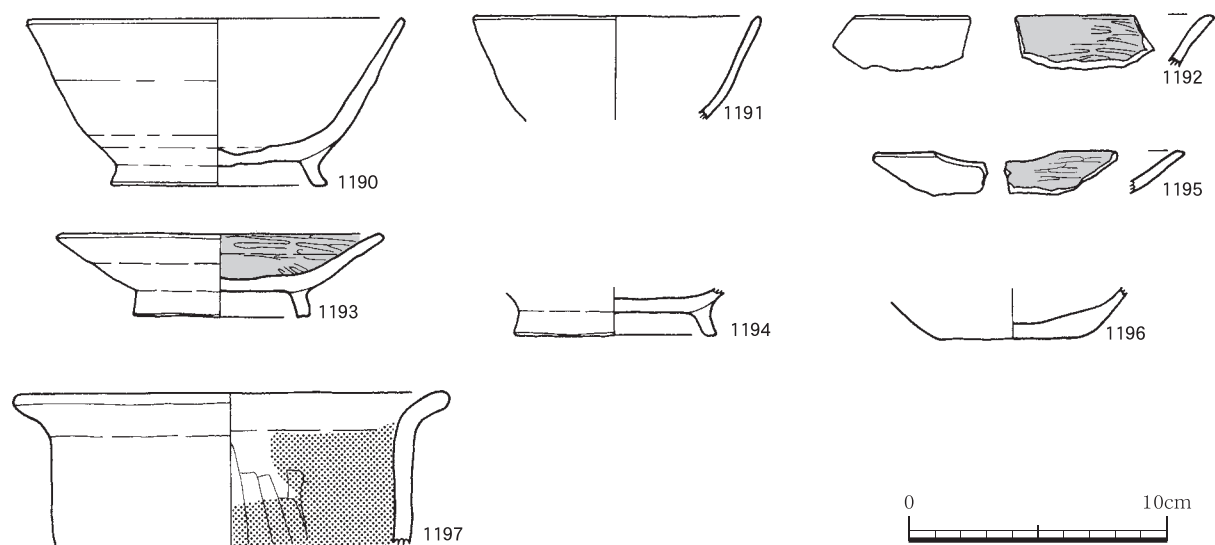
1181～1189は3号土坑から出土した遺物である。1181～1188は土師器である。1185・1186は坏の底部で、切り離しはヘラ切りである。1189は須恵器の壺であるが、胎土の色調は橙色を呈する。

②焼土遺構

Y-18区、Ⅲ層アカホヤ上面で検出された。形状は不定形である。焼土は厚いところで28cm程度となる。焼土の下層は、Ⅱ層の黒色土に焼土が混入し、赤褐色の粒子も少量入る。上層は、褐色を呈する粒子が多量に含まれる焼土層と黄色みが強い焼土層で、土師器が出土した。同じ区内には、焼土を伴う3号土坑や、古代に相当する掘立柱建物跡4が近接しており、掘立柱建物跡5は一部柱穴と切り合う。



第134図 焼土遺構内出土状況

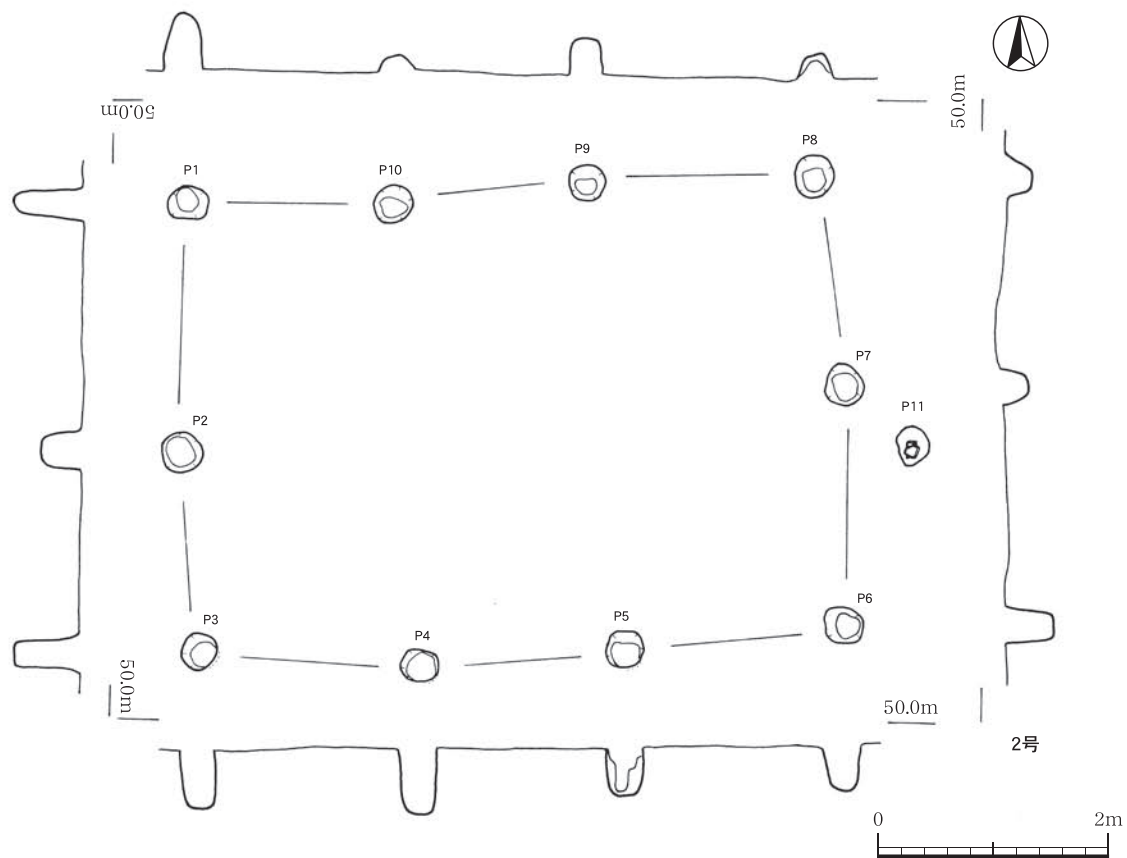
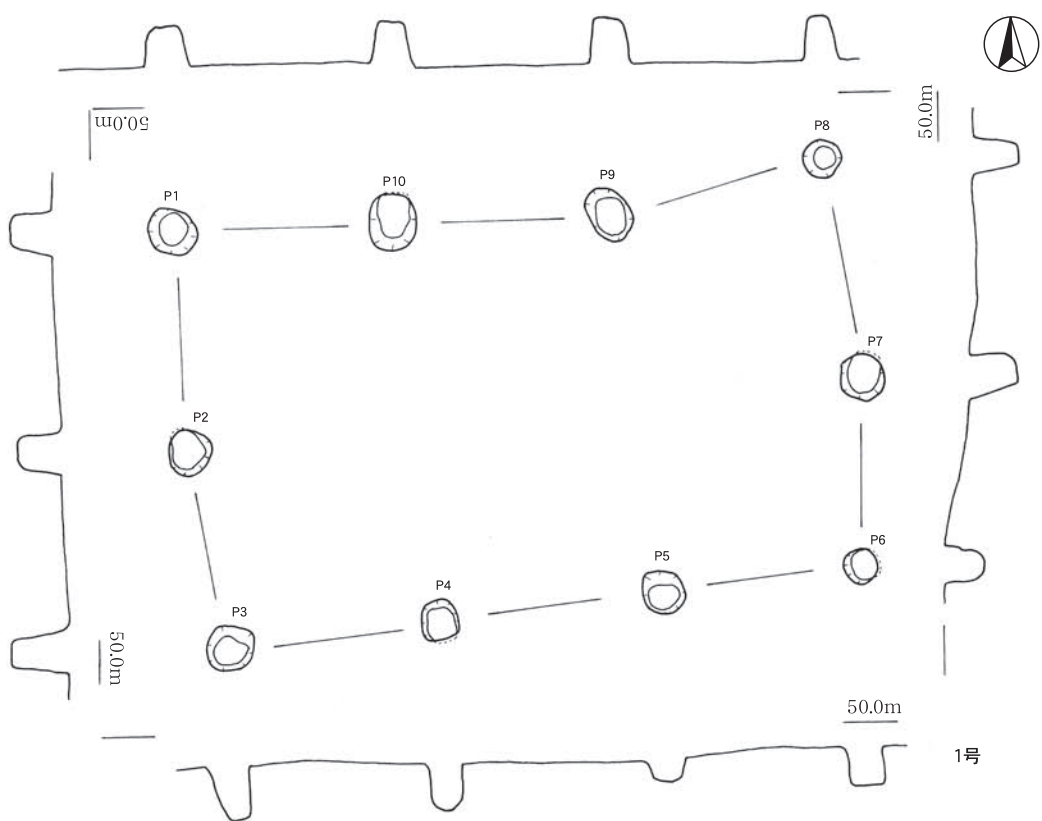


第135図 焼土遺構内出土遺物

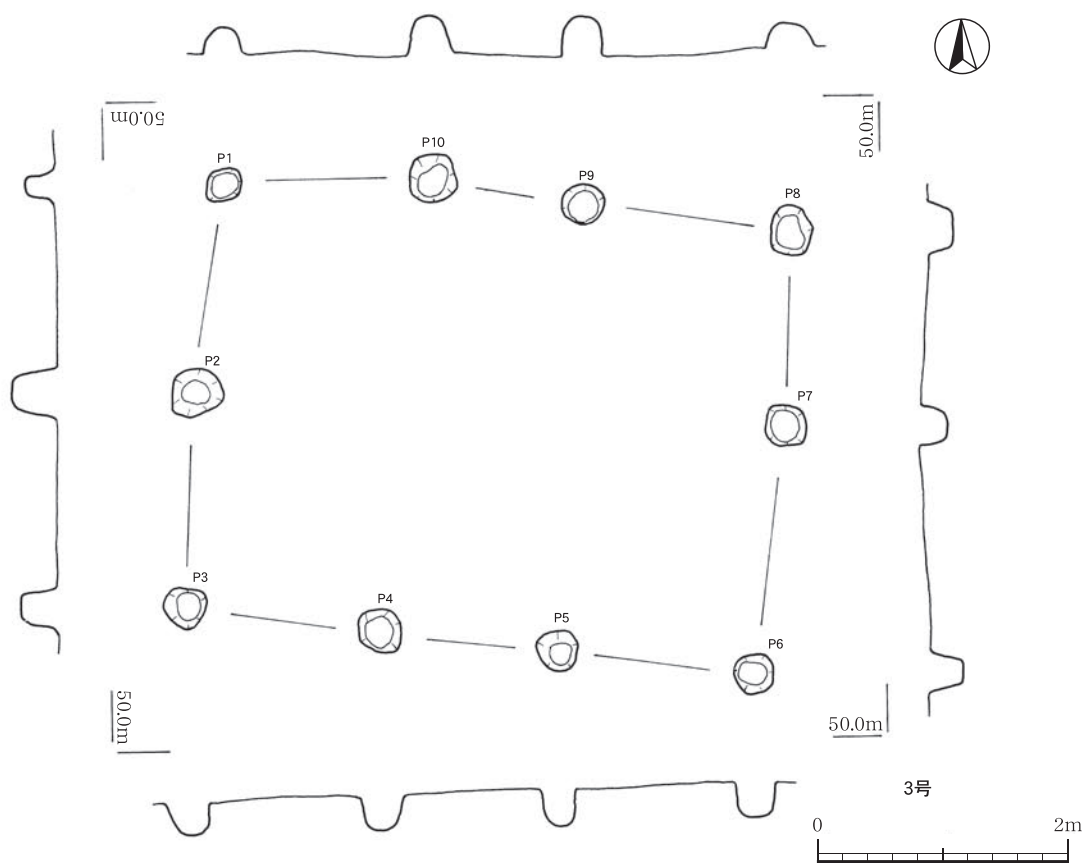
焼土内出土遺物（第135図 1190～1197）

遺物は土師器が出土した。1190・1191は腰部がやや丸みを帯びるものの、口縁部は直線的に開く。1190の高台内面には、高台を貼り付けた際のナデ調整が看取される。1192・1193・1195は黒色土器A類に相当するものである。内面は、丁寧なミガキ調整

が施される。そのうち1193は高台付皿であるが、この形状のものは、他の遺構内からも出土しており（土坑5号）、遺構の時期を考える上で参考となる遺物である。1196は坏の底部で、切り離しはヘラ切り後ナデ調整が施される。1197は甕である。内面はヘラケズリ調整が施され、煤が付着する。



第136図 掘立柱建物跡 1・2号



第137図 掘立柱建物跡 3号

③掘立柱建物跡（第136図～144図）

W～Z－18～20区，U－10区，Ⅲ層で11棟検出された。2間×3間が10棟（うち2棟が底付），2間×2間が1棟である。

この中で，主軸方向・形態・出土遺物などから1号～6号が古代に，7号～11号が中世に相当するものと考えられる。なお11号については時期不明である。また，掘立柱建物跡が検出された地域には，柱穴も集中して検出されていたが，現場において精査した。

柱並びは概して良好であるが，柱穴を数回立て替えているものもある。主軸は概ね10棟が東西，1棟が南北になる。

それぞれの平均値は，（棟部のみ）梁間柱間353.0cm，桁行柱間173.4cm，桁行間505.6cmである。また，柱穴は最大径110cm，最小径17cmで，深さは最大84cmである。柱穴の形状は平面が円及び楕円形，断面は矩形状を呈する。推定床面積は棟部のみで最大

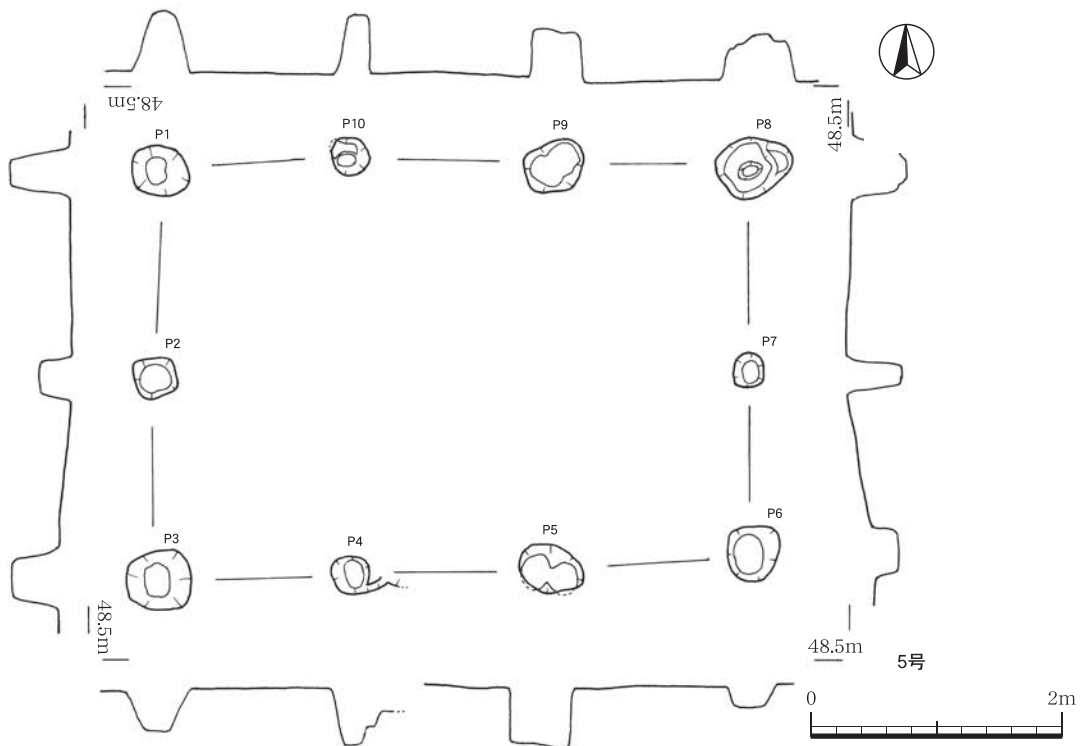
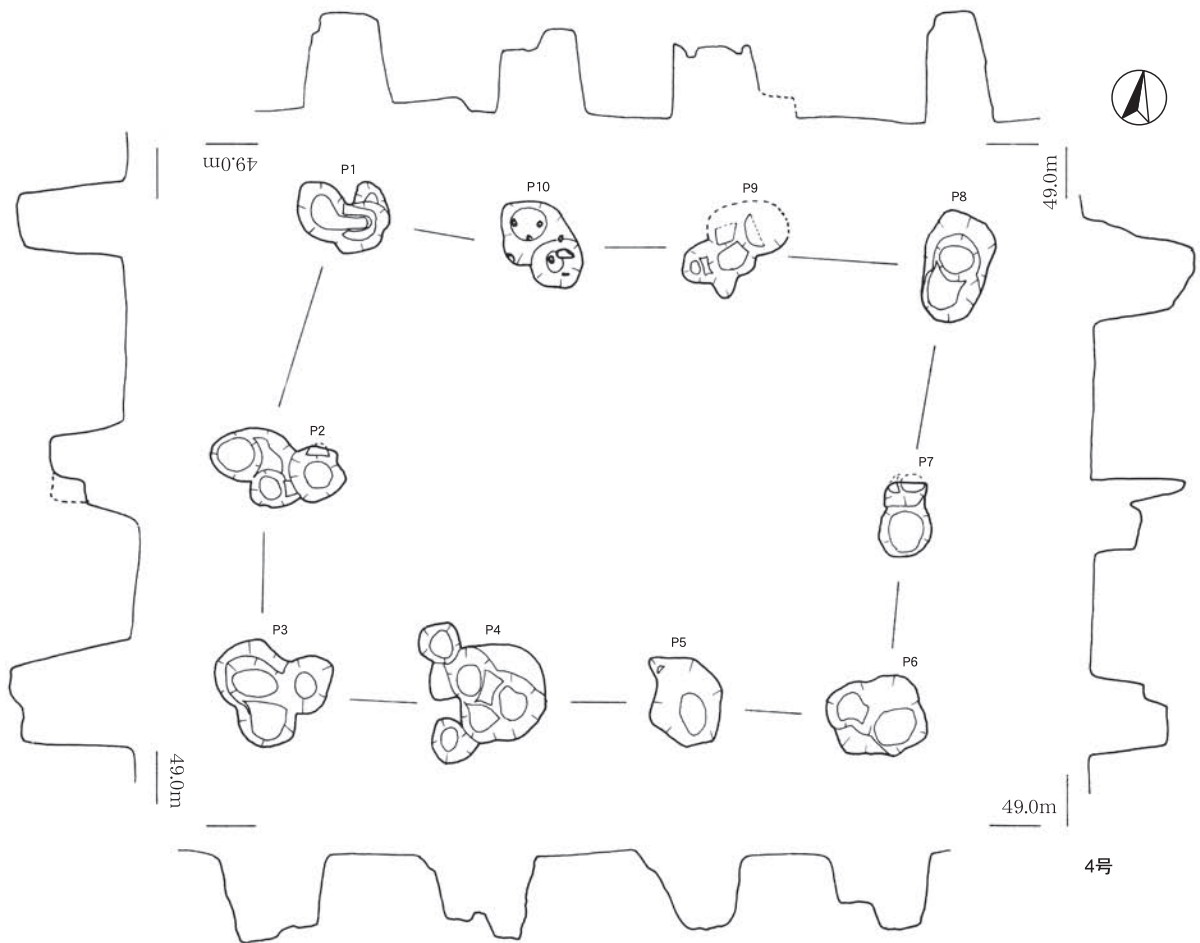
27.3㎡（掘立柱建物跡11号），最小10.6㎡，平均18.1㎡である。底部まであわせた総床面積の最大は39.5㎡（掘立柱建物跡8号）に及ぶ。

掘立柱建物跡 1号（第136図）

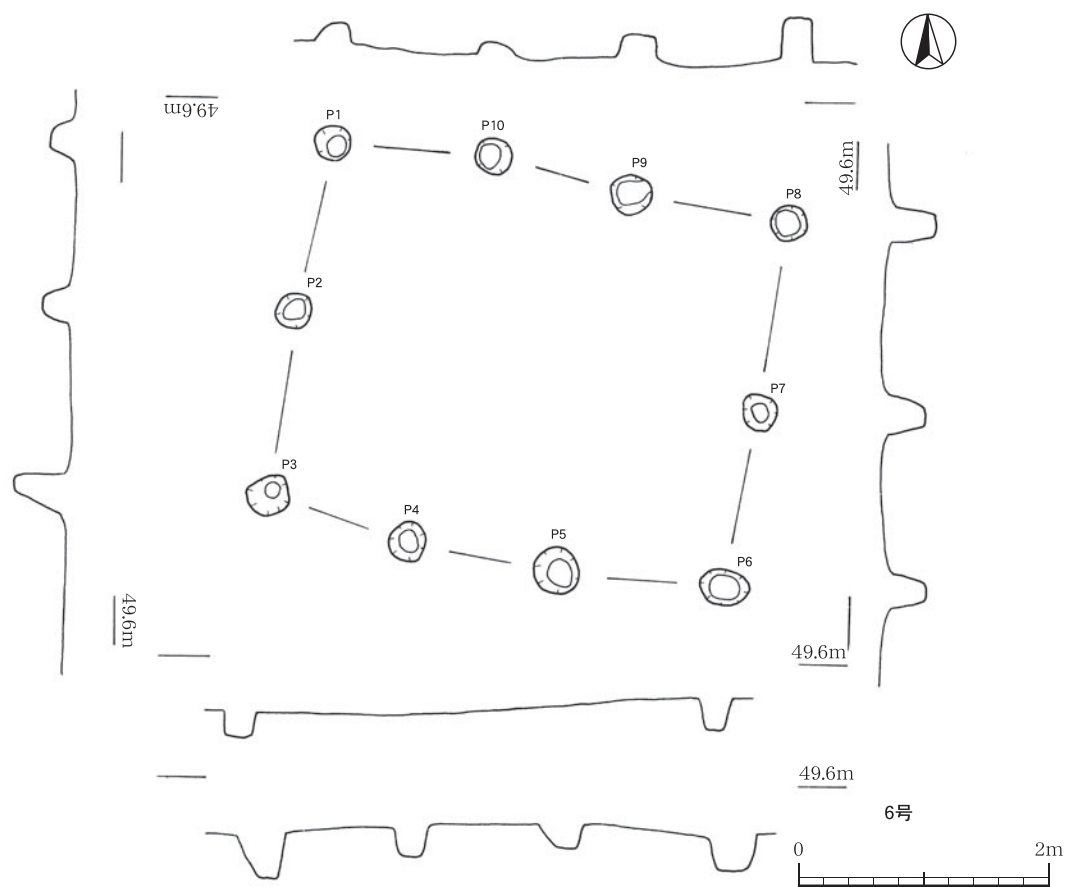
X－20区で検出された。主軸を東西にとる。遺物は，ピット8の埋土から古代に相当する須恵器の小形壺（第144図，1198）が出土した。口縁部が短く，頸部が「く」の字に屈曲するもので，内外面はナデ調整が施される。

掘立柱建物跡 2号（第136図）

Y－20区で検出された。主軸を東西にとる。溝状遺構3・5の中間に立地し，掘立柱建物跡3号と隣接する。遺物は，ピット11の埋土からは，古代に相当する土師器の椀と坏（第144図，1199・1200）が出土した。1199は，腰部で屈曲し，口縁部がわずかに外反しながら開く形状を呈するもので，高台部分は欠損している。1200は底面がヘラ切りされ，外面体部中位に弱い段を有する。



第138図 掘立柱建物跡 4・5号



第139図 掘立柱建物跡6号

掘立柱建物跡3号（第137図）

Y-20区で検出された。主軸を東西にとる。掘立柱建物跡2号と、溝状遺構3・5が隣接する。遺物は建物に関連すると考えられる土師器の碗の口縁部が2点出土した。そのうち1202はピット2から出土しており、赤色研磨の土師器碗である。

掘立柱建物跡4号（第138図）

Y・Z-18区で検出された。主軸を東西にとる。掘立柱建物跡5号と一部が切り合っている。主軸は異なるが東南で掘立柱建物跡6号が隣接する。遺物は、建物に関連すると考えられる坏の底部が1点出土している。底面はヘラ切りである。

掘立柱建物跡5号（第138図）

Y-18区で検出された。主軸を東西にとる。掘立柱建物跡4号と一部切り合っている。主軸は異なるが東南で掘立柱建物跡6号が隣接する。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡6号（第139図）

Z-19区で検出された。主軸を東西にとる。主軸は異なるが溝状遺構1が隣接する。遺物は出土していない。

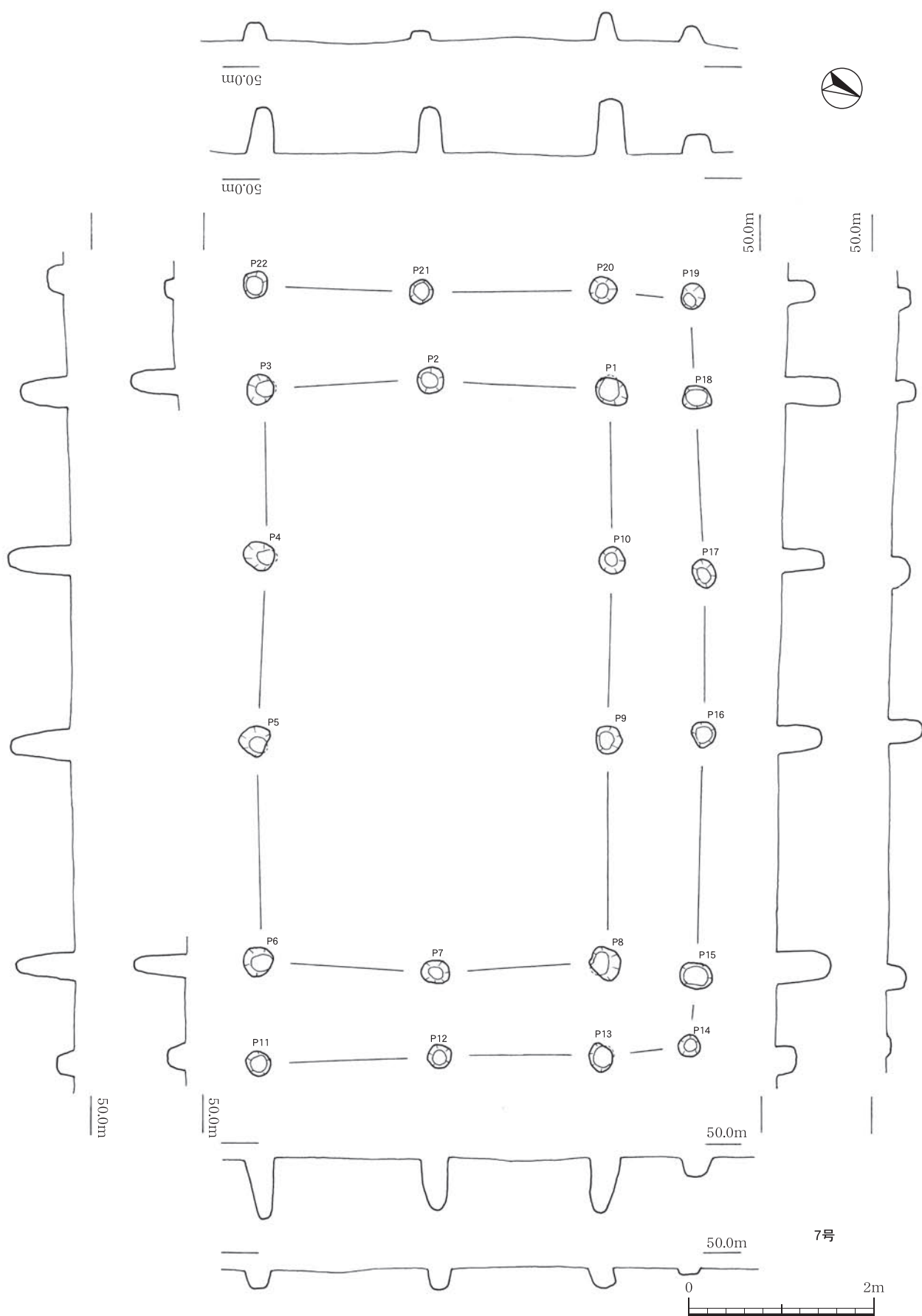
掘立柱建物跡7号（第140図）

Y-20区で検出された。主軸をほぼ東西にとる。

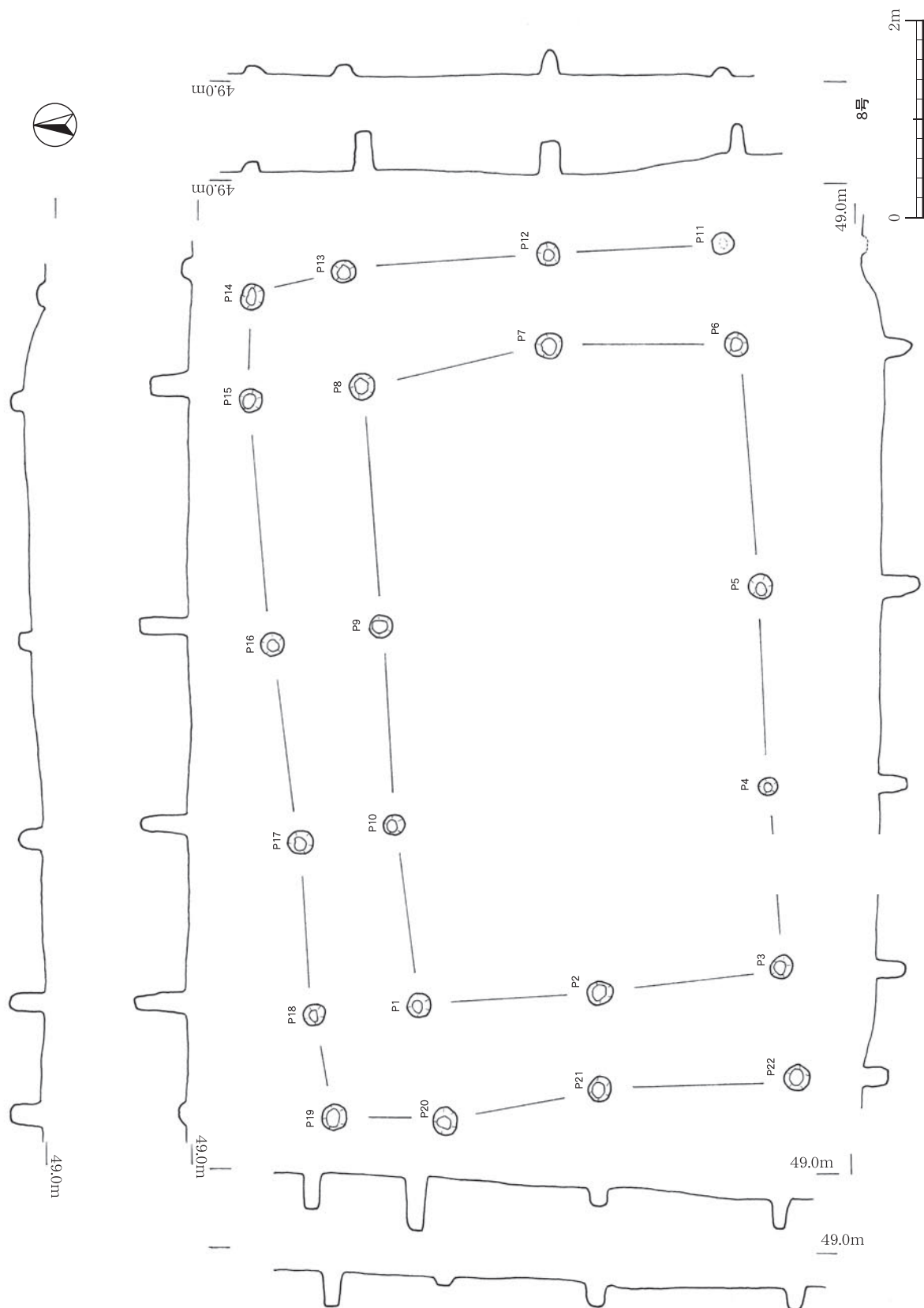
南面を除く3方で底が確認された。北側に同方向を主軸にする溝状遺構3が平行する。11棟中最大（推定床面積25.94㎡）である。遺物は、ピット20から中世に相当する土師器の坏が出土した。口縁部はわずかに外反し、底部は雑な作りで厚い。切り離しは糸切りである。

掘立柱建物跡8号（第141図）

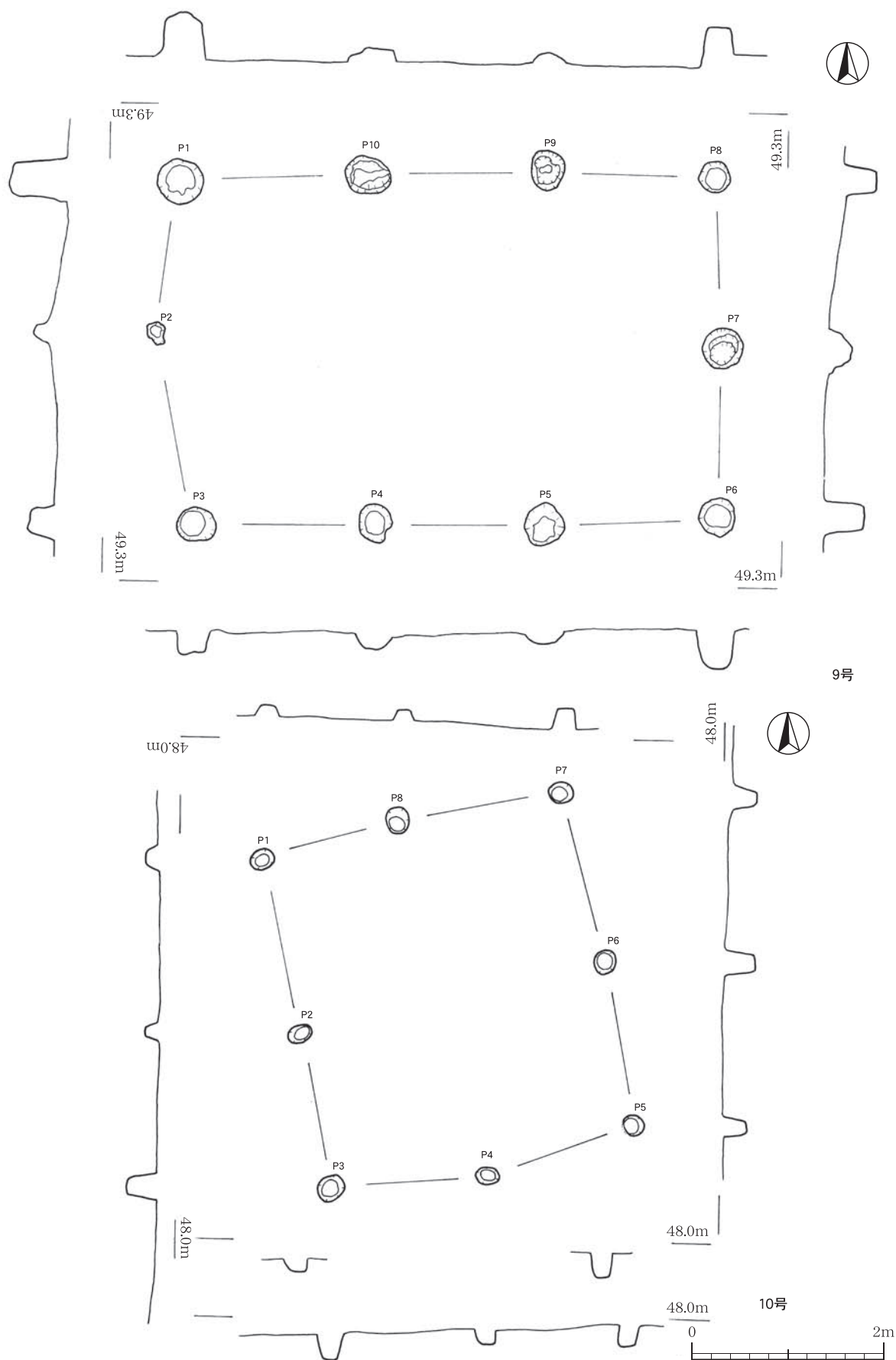
W・X-19区で検出された。主軸を東西にとる。南面を除く3方で底が確認された。建物に伴う遺物はないが、ピット1の脇で検出されたピット内からは、見込みに裏返しの「玉」の文字がスタンプされ



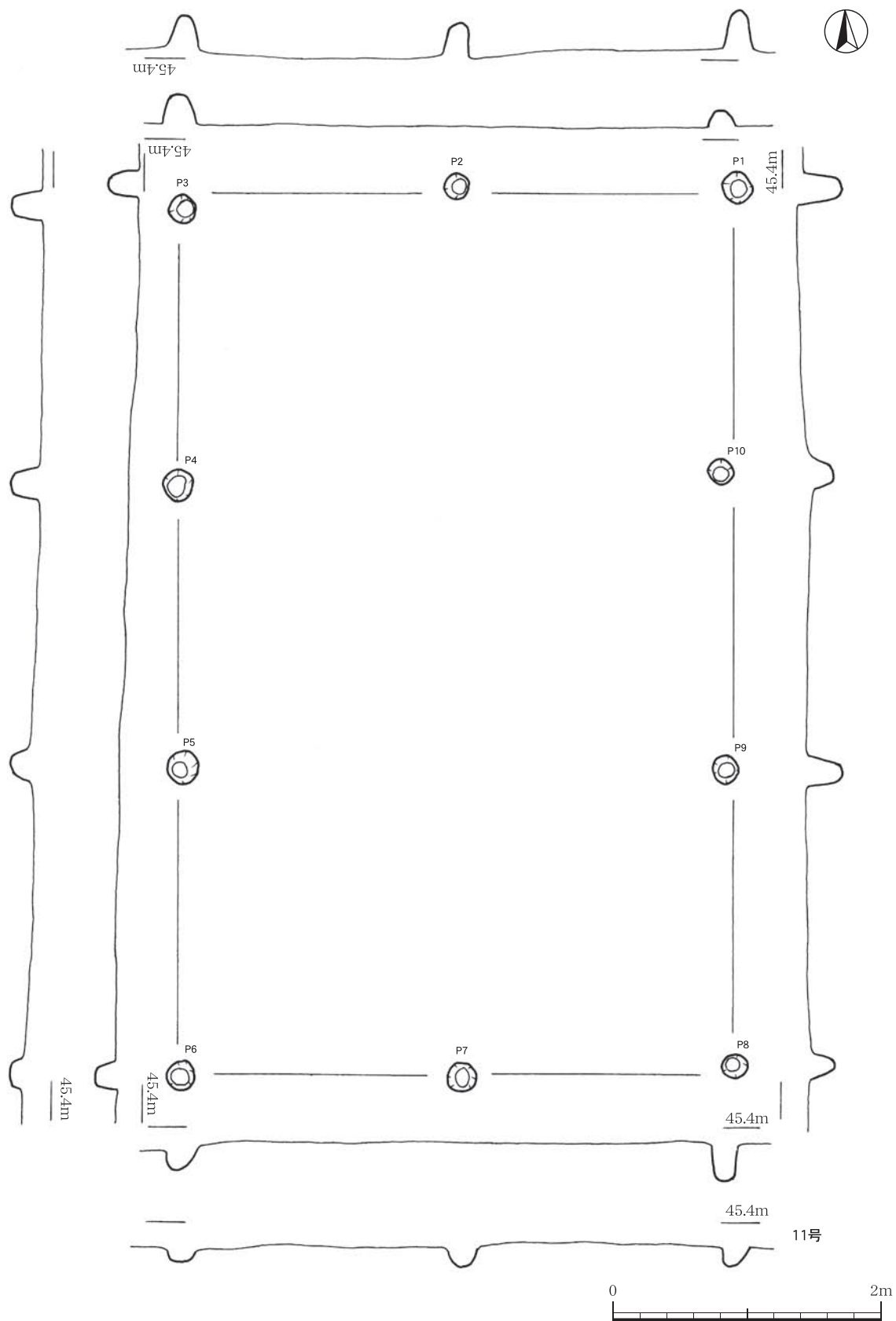
第140図 掘立柱建物跡 7号



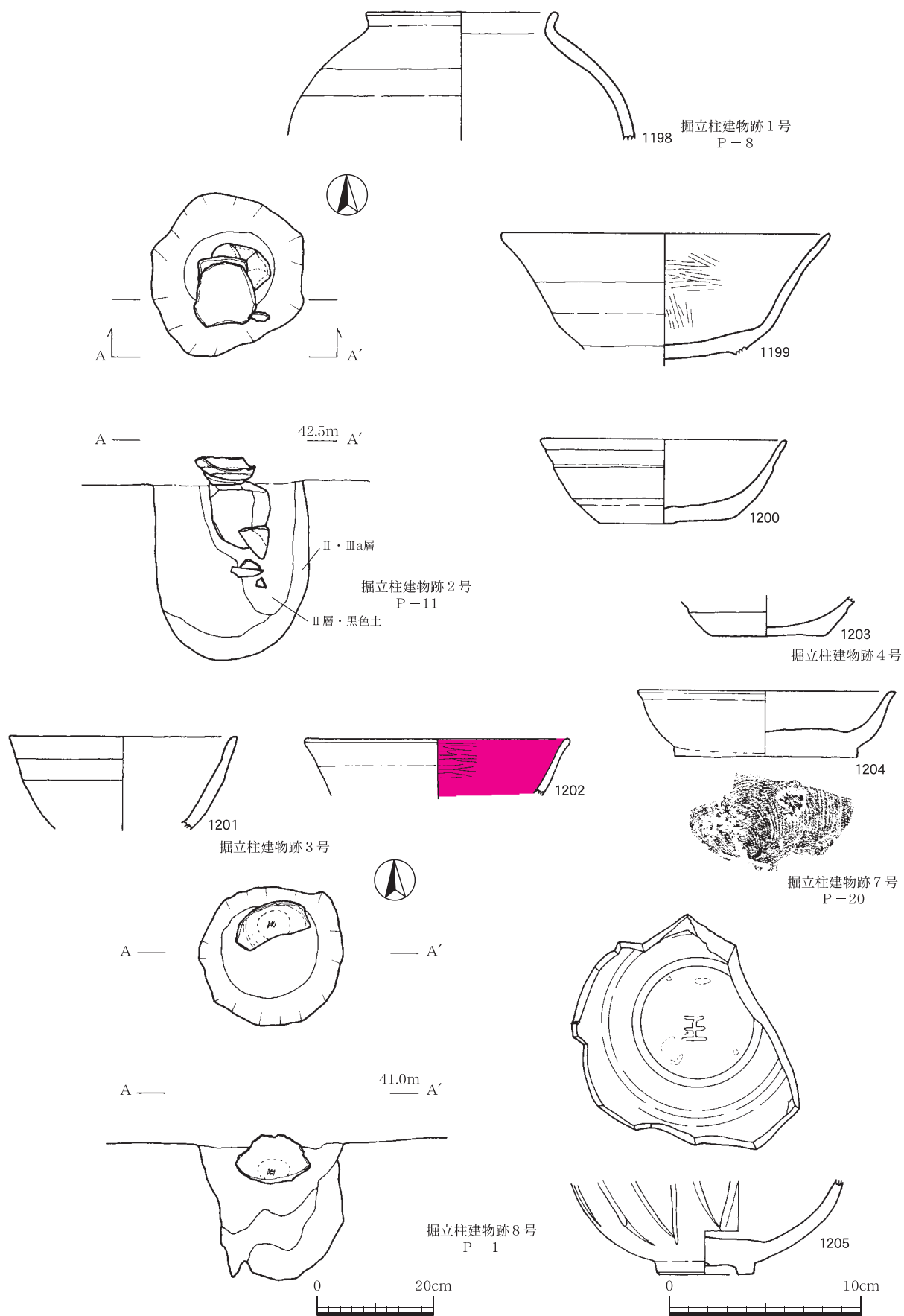
第141図 掘立柱建物跡 8号



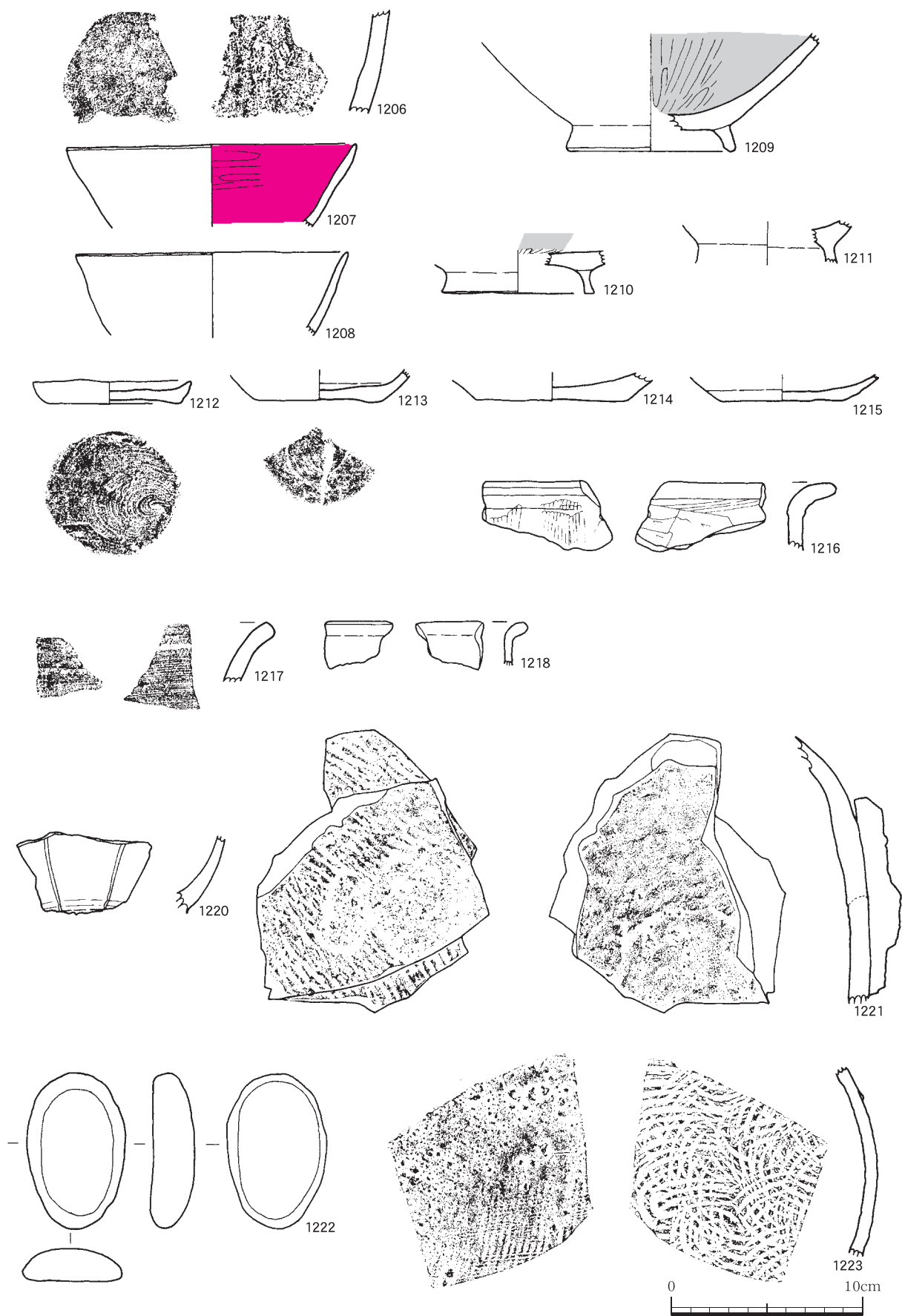
第142図 掘立柱建物跡 9・10号



第143図 掘立柱建物跡 1 1 号



第144図 掘立柱建物跡内出土遺物



第145図 ピット内出土遺物

掘立柱建物跡観察表（小数点第2位以下は四捨五入）

掘立柱建物跡1号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	336	P3-P4	168	508	1	32	42	36	楕円	17.1	
	P6-P8	325	P4-P5	180		2	36	38	34	楕円		
			P5-P6	160		3	39	38	36	円		
			P1-P10	178	526	4	36	32	29	楕円		
			P10-P9	172		5	17	36	32	楕円		
			P9-P8	176		6	32	28	28	円		
						7	37	37	35	円		
						8	36	30	30	円		
						9	36	45	31	楕円		
						10	35	45	37	楕円		
	平 均	330.5		172.3	517		33.6	37.1	32.8			

掘立柱建物跡2号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	357	P3-P4	177	517	1	46	32	25	楕円	18.1	
	P6-P8	358	P4-P5	165		2	32	32	32	円		
			P5-P6	175		3	48	30	27	楕円		
			P1-P10	166	500	4	54	30	26	楕円		
			P10-P9	154		5	37	30	30	円		
			P9-P8	180		6	37	32	28	楕円		
						7	23	34	30	楕円		
						8	20	34	30	楕円		
						9	29	29	28	円		
						10	13	32	31	円		
	平 均	357.5		169.5	508.5		33.9	31.5	28.7			

掘立柱建物跡3号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	337	P3-P4	156	453	1	21	28	23	楕円	15.5	
	P6-P8	352	P4-P5	140		2	37	40	36	楕円		
			P5-P6	157		3	26	34	33	円		
			P1-P10	156	452	4	27	38	32	楕円		
			P10-P9	120		5	30	32	30	円		
			P9-P8	165		6	28	32	31	円		
						7	23	38	32	楕円		
						8	20	39	33	楕円		
						9	31	33	31	円		
						10	31	38	37	円		
	平 均	344.5		150.8	452.5		27.4	35.2	31.8			

掘立柱建物跡4号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	380	P3-P4	174	486	1	73	72	30	切り合い	18	
	P6-P8	366	P4-P5	157		2	58	110	45			
			P5-P6	155		3	70	91	54			
			P1-P10	160	480	4	66	105	50			
			P10-P9	150		5	59	82	60			
			P9-P8	170		6	59	83	59			
						7	75	68	42			
						8	84	88	51			
						9	59	92	39			
						10	65	85	42			
	平 均	373		161	483		66.8	87.6	47.2			

掘立柱建物跡5号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	324	P3-P4	154	473	1	48	45	40	楕円	14.8	
	P6-P8	307	P4-P5	159		2	26	37	34	楕円		
			P5-P6	160		3	32	51	48	楕円		
			P1-P10	153	468	4	47	33	29	楕円		
			P10-P9	160		5	47	53	39	楕円		
			P9-P8	155		6	17	44	40	楕円		
						7	44	29	23	楕円		
						8	36	61	47	楕円		
						9	38	51	39	楕円		
						10	47	31	28	楕円		
	平 均	315.5		156.8	470.5		38.2	43.5	36.7			

掘立柱建物跡6号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	283	P3-P4	116	370	1	15	28	27	円	10.6	
	P6-P8	293	P4-P5	120		2	19	27	25	円		
			P5-P6	134		3	36	34	29	楕円		
			P1-P10	127	366	4	24	32	28	楕円		
			P10-P9	114		5	20	39	36	楕円		
			P9-P8	125		6	29	40	29	楕円		
						7	25	30	26	楕円		
						8	35	27	27	円		
						9	20	33	30	楕円		
						10	8	39	27	円		
	平 均	288		122.7	368		23.1	31.9	28.4			

掘立柱建物跡7号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	棟部床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	378	P3-P4	182	616	1	59	33	29	楕円	23.1	
	P6-P8	374	P4-P5	197		2	49	28	27	円		
			P5-P6	237		3	50	31	30	円		
			P1-P10	182	612	4	68	34	29	楕円		
			P10-P9	190		5	63	34	29	楕円		
			P9-P8	240		6	63	34	29	楕円		
						7	58	30	24	楕円		
						8	59	37	30	楕円		
						9	48	30	26	楕円		
						10	45	28	27	円		
平 均	376		204.7	614		56.2	31.9	28				
底部	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	総床面積 (㎡)	37.4
	P19 - P22	471	P14 - P15	74	801	11	19	27	25	円		
	P11 - P14	463	P15 - P16	260		12	19	28	24	楕円		
			P16 - P17	170		13	27	32	27	楕円		
			P17 - P18	187		14	5	25	23	円		
			P18 - P19	110		15	21	33	27	楕円		
					801	16	36	28	27	円		
						17	14	30	22	楕円		
						18	19	29	24	楕円		
						19	14	28	24	楕円		
						20	28	30	27	楕円		
						21	10	25	22	楕円		
						22	17	29	25	円		
	平 均	467		160.2	801		19.1	24.5	28.7			

掘立柱建物跡8号 2間×3間 方位 東西

棟部	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	棟部床面積 (㎡)	備 考
	P1-P3	371	P3-P4	183	630	1	51	25	25	円		
	P6-P8	380	P4-P5	201		2	18	27	23	楕円		
			P5-P6	246		626	3	30	29	27		
			P1-P10	184	4		29	20	19	円		
			P10-P9	200	5		38	26	25	円		
			P9-P8	242	6		27	26	22	楕円		
							7	34	25	25		
8							38	27	24	楕円		
9							48	24	22	円		
10	46	22				20	円					
平 均	375.5		209.3	628		35.9	25.1	23.2				
底部	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	総床面積 (㎡)	
	P19 - P22	472	P14 - P15	105	834	11	5	23	22	円		
	P11 - P14	477	P15 - P16	247		12	25	23	22	円		
			P16 - P17	202		13	11	24	23	円		
			P17 - P18	175		14	7	25	23	円		
			P18 - P19	105		15	12	23	22	円		
						16	12	24	22	円		
						17	22	26	24	円		
						18	35	22	20	円		
						19	31	26	25	円		
				20	8	28	24	楕円				
				21	24	25	24	円				
				22	25	26	26	円				
	平 均	474.5		166.8	834		18.1	24.6	23.1			

掘立柱建物跡9号 2間×3間 方位 東西

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	357	P3-P4	185	544	1	48	49	45	楕円	19.4	
	P6-P8	352	P4-P5	177		2	15	23	17	楕円		
			P5-P6	182		3	25	41	34	楕円		
			P1-P10	192	551	4	14	42	35	楕円		
			P10-P9	182		5	10	43	41	円		
			P9-P8	174		6	38	40	39	円		
						7	22	43	42	円		
						8	35	34	32	円		
						9	9	42	34	楕円		
						10	12	47	38	楕円		
	平 均	354.5		182.5	547.5		22.8	40.4	35.7			

掘立柱建物跡10号 2間×2間 方位 南北

	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
棟部	P1-P3	349	P3-P4	161	321	1	12	26	21	楕円	11.1	
	P5-P7	353	P4-P5	160		2	14	25	18	楕円		
			P1-P8	143	314	3	30	28	25	楕円		
			P8-P7	171		4	16	24	18	楕円		
						5	23	23	21	円		
						6	27	25	23	円		
						7	23	26	21	楕円		
						8	11	28	23	楕円		
	平 均	351		158.8	317.5		19.5	25.6	21.3			

掘立柱建物跡 11 号 2 間×3 間 方位 南北

棟部	柱穴番号	梁間柱間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備 考
	P1-P3	419	P3-P4	208	651	1	30	24	22	円	27.3	
	P6-P8	416	P4-P5	212		2	11	19	19	円		
			P5-P6	231		3	25	22	19	楕円		
			P1-P10	214		4	17	20	17	楕円		
			P10-P9	223	660	5	15	21	21	円		
			P9-P8	223		6	8	22	20	円		
						7	13	25	23	円		
						8	19	23	22	円		
						9	21	22	20	円		
						10	20	20	18	円		
	平 均	417.5		218.5	655.5		17.9	21.8	20.1			

た青磁碗が出土した。おそらくスタンプに「玉」の文字を陰刻したものを、見込みに押し当てたため「玉」の文字が裏返り陽刻となったものと思われる。掘立柱建物跡 8 号と関連ある柱穴の可能性も考えられる。

掘立柱建物跡 9 号 (第142図)

X-18・19区で検出された。主軸を東西にとる。西側で溝状遺構 5 と一部切り合っている。柱穴の形状が一定していない。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡10号 (第142図)

X-19区で検出された。掘立柱建物跡11号と同様に主軸を南北にとり、2 間×2 間で最小号の規模(推定床面積10.51㎡)である。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡11号 (第143図)

U-10区で検出された。2 間×3 間で、主軸を南北にとる。V~Z-18~24区の掘立柱建物跡群とは主軸の相違点、諏訪(南方)神社との位置関係等を含めて検討の余地がある。遺物は出土していない。

④ピット内出土遺物 (第145図)

掘立柱建物跡の周辺からは多くの柱穴が検出され、柱穴内から遺物が出土するものもあった。遺物は人為的に柱穴内に埋められたものであるかは断定することはできず、自然的に注入した可能性も考え

られる。遺物が出土した柱穴番号は、観察表内を参照されたい。掘立柱建物跡として検出された柱穴以外に、周囲には多数の柱穴が検出されており、発掘調査時には柱穴の精査を行った。そのため出土地点が不明な資料もあるが、参考資料として一括して掲載しておく。

1206~1218は土師器である。1206は甕の胴部である。1207は内面が赤色を呈しミガキ調整が施されるもので、赤色土器A類に相当する。1209・1210は内面が黒色を呈し、ミガキ調整が施される。黒色土器A類に相当する。1212~1215は坏の底部である。底部の切り離しは1212が糸切り、他はヘラ切り後ナデ調整が施される。1216・1217は甕の口縁部である。1216は外面にヘラ状工具によるナデ調整の痕跡が筋状に残る。1217は内外面ともナデ調整が施される。1218は小形の鉢の口縁部と思われるものである。内外面共にナデ調整が施される。1220は龍泉窯系の青磁の碗である。口縁部と底部は欠損しており、胴部のみが残る。外面には鎚連弁が施される。1221は須恵器の甕である。外面に別の個体が熔着している。使用に耐えうる製品であったと思われる。1222は砂岩製の小形の磨石である。平坦な面が磨面となっている。1223は、須恵器の壺である。

古代・中世土器観察表 (1)

挿図番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 131 図	1142	Y-18 SK1104	—	底部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○	○			良	回転ナデ	回転ナデ	
	1143	Y-18 SK1104	—	完形	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○	○			良	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	
	1144	Y-18 SK1104	—	完形	5YR7/8橙	7.5YR7/6橙	○				良	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	
	1145	Y-18 SK1104	—	完形	5YR7/8橙	5YR7/8橙		○	○		良	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	
	1146	Y-18 SK1104	—	底部	2.5Y2/1黒	5YR6/6橙	○	○			良	回転ナデ ヘラ切り	ミガキ	内黒
	1147	Y-18 SK1104	—	底部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○	○			良	回転ナデ	ナデ	
	1148	Y-18 SK1104	—	底部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	○	○			良	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	
	1149	Y-18 SK1104	—	口縁部~胴部	5YR4/4にぶい赤褐	5YR6/6橙	○	○	○		良	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ	
	1150	Y-18 SK1104	—	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	○	○			良	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1151	Y-18 SK1104	—	胴部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	○	○	○		良	平行タタキ	ヘラケズリ	
	1152	Y-18 SK1104	—	胴部	5YR4/3にぶい赤褐	2.5Y7/1灰白	○				良	平行タタキ	同心円タタキ	
第 132 図	1153	Z-19 SK1105	—	口縁部	7.5YR6/8橙	5YR6/6橙	○	○			良	回転ナデ	ミガキ	
	1154	Z-19 SK1105	—	口縁部	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐		○			良	ミガキ	ミガキ	内外赤
	1155	Z-19 SK1105	—	口縁部~胴部	10YR7/6黄褐	7.5YR7/6橙	○	○			良	回転ナデ	回転ナデ	

古代・中世土器観察表（２）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 132 図	1156	Z-19 SK1105	—	底部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	
	1157	Z-19 SK1105	—	口縁部	10YR3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄橙	○	○			良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1158	Z-19 SK1105	—	口縁部	5Y2/1黒	7.5YR6/6橙	○	○			良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1159	Z-19 SK1105	—	口縁部	10YR8/4浅黄橙	10YR7/6明黄褐		○			良	—	—	
	1160	Z-19 SK1105	—	底部	5Y2/1黒	5YR6/6橙	○	○			良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1161	Z-19 SK1105	—	底部	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ミガキ	内赤
	1162	Z-19 SK1105	—	完形	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1163	Z-19 SK1105	—	完形	5YR6/8橙	5YR6/8橙	○	○			良	ナデ	ヘラケズリ	
	1164	Z-19 SK1105	—	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1165	Z-19 SK1105	—	口縁部	10YR2/1黒	10YR5/3にぶい黄褐	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1166	Z-19 SK1105	—	口縁部～胴部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR4/6赤褐	○	○			良	ハケ目	ヘラケズリ	煤付着
	1167	Z-19 SK1105	—	口縁部～胴部	5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	○	○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ	煤付着
第 133 図	1168	Z-19 SK1105	—	胴部	2.5Y4/1黄灰	2.5Y4/1黄灰	○				良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1169	Z-19 SK1106	—	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	回転ナデ	ミガキ	内外赤
	1170	Z-19 SK1106	—	口縁部	7.5YR4/2灰褐	2.5YR2/1赤黒	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1171	Z-19 SK5	—	口縁部	7.5YR5/6明褐	2.5YR5/6明赤褐	○				良	ミガキ	ミガキ	内外赤
	1172	Z-19 SK5	—	胴部～底部	10R5/6赤	7.5YR6/6橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内赤
	1173	Z-18 SK5	—	胴部～底部	10YR1.7/1黒	5YR6/4にぶい橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1174	Z-19 SK5	—	胴部～底部	7.5YR5/6明褐	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	回転ナデ	ナデ	
	1175	Z-18 SK5	—	底部	10YR6/6明黄褐	2.5YR5/8明赤褐	○				良	ナデ	回転ナデ?	
	1176	SK5	—	底部	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1177	SK5	—	底部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	
	1178	Z-18 SK5	—	底部	5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	○				良	回転ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1179	Z-18 SK5	—	口縁部～胴部	5YR6/6橙	2.5YR6/8橙	○				良	ヘラナデ	ヘラケズリ	煤付着
	1180	Z-18 SK5	—	口縁部	10R3/2暗赤褐	10YR2/1黒	○				良	格子目タタキ	ナデ	
	1181	Y-18 SF1104	—	口縁部～胴部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1182	Y-18 SF1104	—	口縁部	5YR7/8橙	7.5YR7/6橙	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1183	Y-18 SF1104	—	底部	5YR7/6橙	5YR5/6明赤褐	○				良	回転ナデ	ナデ	
	1184	Y-18 SF1104	—	底部	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	ナデ	ナデ	
	1185	Y-18 SF1104	—	底部	7.5YR5/2灰褐	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1186	Y-18 SF1104	—	底部	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/6橙	○				良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
第 135 図	1187	Y-18 SF1104	—	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	○			雲母	良	ナデ	ナデ	
	1188	Y-18 SF1104	—	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	○			雲母	良	ナデ	ヘラケズリ	煤付着
	1189	Y-18 SF1104	—	胴部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○		○		良	格子目タタキ	指圧痕	
	1190	Y-18 SF1105	—	完形	7.5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1191	—	—	口縁部～胴部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1192	Y-18 SF1105	—	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	○				良	ナデ	ミガキ	内黒
	1193	Y-18 SF1105	—	完形	10YR2/1黒	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1194	Y-18 SF1105	—	底部	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1195	Y-18 SF1105	—	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	○				良	ナデ	ミガキ	内黒
	1196	Y-18 SF1105	—	底部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○				良	回転ナデ ヘラ切り	ナデ	
第 144 図	1197	Y-18 SF1105	—	口縁部	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	○				良	ナデ	ヘラケズリ	煤付着
	1198	X-20 SB1101	—	口縁部～胴部	5Y5/1灰	5Y6/3緑黄					良	ナデ	ナデ	
	1199	Y-20 SB1102	—	口縁部～胴部	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙				火山ガラス	良	回転ナデ	ミガキ	
	1200	Y-20 SB1102	—	完形	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙					良	回転ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1201	Y-20 SB1104	—	口縁部～胴部	10YR8/2灰白	10YR8/4浅黄橙		○			良	ナデ	ナデ	
	1202	Y-20 SB1105	—	口縁部～胴部	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR5/8明赤褐					良	ナデ	ミガキ	内赤
	1203	Y-18 SB1107	—	底部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐				火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	1204	Y-20 SB1103	—	完形	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐				火山ガラス	良	ナデ 糸切り	ナデ	
第 145 図	1205	W. X-19 SB1106	—	胴部～底部	5Y4/3暗緑	5Y4/3暗緑					良	連弁文、量付と 高台内面釉剥ぎ	見込みに「玉」の 陽刻・目跡	青磁
	1206	Y-18 SP-193	—	胴部	7.5YR7/4にぶい橙	10YR6/6明黄褐	○	○			良	ナデ	ヘラケズリ	
	1207	Y-18 SP-168	—	口縁部	5YR7/6橙	7.5YR8/3浅黄橙	○	○			良	ミガキ	回転ナデ	内赤
	1208	SP	—	口縁部	10YR8/4浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○				良	回転ナデ	回転ナデ	
	1209	Y-18 SP-103	—	胴部～底部	2.5Y2/1黒	7.5YR5/4にぶい褐					良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1210	Y-18 SP-47	—	底部	7.5Y2/1黒	7.5YR6/4にぶい橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1211	Y-18 SP-101	—	底部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR8/3浅黄橙		○			良	ナデ	ナデ	
	1212	Z-18 SP-12	—	完形	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	ナデ 糸切り	ナデ	
	1213	Y-18 SP-100	—	底部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○	○			良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1214	SP	—	底部	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	○				良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1215	Y-18 SP-113	—	底部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		○	○		良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1216	Y-18 SP-222	—	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ	
	1217	Y-18 SP-108	—	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○				良	ヘラナデ	ヘラナデ	
	1218	Z-18 SP-37	—	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1220	Y-18 SP-69	—	胴部	7.5Y5/2灰オリーブ	7.5Y5/2灰オリーブ					良	鍋連弁	—	
	1221	Z-18 SP-208	—	胴部	7.5YR4/3褐	2.5YR2/4極暗赤褐 10YR3/4暗褐					良	平行タタキ	指圧痕	
	1222	Z-18 SP-41	—	磨石	—	—					—	—	—	砂岩・150g
	1223	Z-18 SP-36	—	胴部	5YR4/1褐灰	5YR1.7/1黒					良	格子目タタキ	同心円タタキ	

⑤溝状遺構（第146図～149図）

諏訪牟田遺跡における溝状遺構はW～Z-18～22区から5条検出された。それぞれの溝状遺構は北西方向から南東方向に伸びるものと、南西方向から北東方向に伸びるものが、ほぼ直行する形で切り合うか、もしくは、カーブを描いている。溝状遺構内からは古代及び中世の遺物が検出されている。また、掘立柱建物跡等の主軸との比較から、本遺跡検出の溝状遺構は古代～中世のものと考えられる。

延長方向によって、

- | |
|--------------------|
| A：西北西から東北東方向に伸びるもの |
| B：東南から北西方向に伸びるもの |

の二つに分類する。

形状については、

- | |
|----------------------------------|
| a：直線を呈するもの |
| b：直角のバイパス・カーブを有し2方向に分かれる部分を有するもの |

の2タイプに分類した。

深さは場所によって15～20cmの範囲を超えない部分と、約60～80cmの比較的深めの部分がある。また、平均幅に若干のばらつきがあった。そのため、以下のように分類を試みた。

- | |
|---------------------------|
| i：100cm未満、平均幅が約60～80cm |
| ii：100cm以上、平均幅が約100～150cm |

同様の方向の溝状遺構はほぼ平行に位置しており、溝状遺構3・5がX～Y-19～22区において約85mに渡って平行を呈し、溝状遺構1・2・5・3が平行を呈する。硬化面、波板状遺構、ラミネ等はいずれも観察できなかった。

なお、溝状遺構の北西に位置する諏訪神社（南方神社：創建年代不詳）の本殿正面は現在、南東方向を向いており、遺物や掘立柱建物跡の出土状況を踏まえて関連を検討したい。（参照：P189）

また、切り合いから溝状遺構1・4が最も古いと考えられるが溝状遺構5は溝状遺構3を切り、溝状遺構2が溝状遺構5を切っているが、溝状遺構3に切られるというように、矛盾点がある。

各溝状遺構が同時期に存在した可能性も含め、今後詳細な検討が必要である。

溝状遺構1（A-a-i）

Y～Z-18～19区にかけて溝状遺構3・5に切られる形で検出された。長さ13m、幅約100～150cm、深さ約15～20cmである。

溝状遺構2（A-a-i）

X～Z-18～19区にかけて検出され、長さ約36m、幅約80～100cm、深さ約15～20cmで、溝状遺構5を切り溝状遺構3に切られる形で検出された。

溝状遺構3（B-b-ii）

バイパス・カーブを含めた総全長が約140m、Y～Z-18～19区の深さは約15～20cmであるのに対し、X～Y-19～22区は約60～80cmとやや深めである。溝状遺構1・2を切り、溝状遺構5に切られる形で検出された。X-22区において溝状遺構4を切るが、時代差を起因するのか、枝分かれしたものなのか、両者の可能性を含めて関連を検討する必要がある。Y-20区において、三面庇を有する掘立柱建物跡7号の長軸と平行し、同時代の可能性がある。

溝状遺構4（A-a-i）

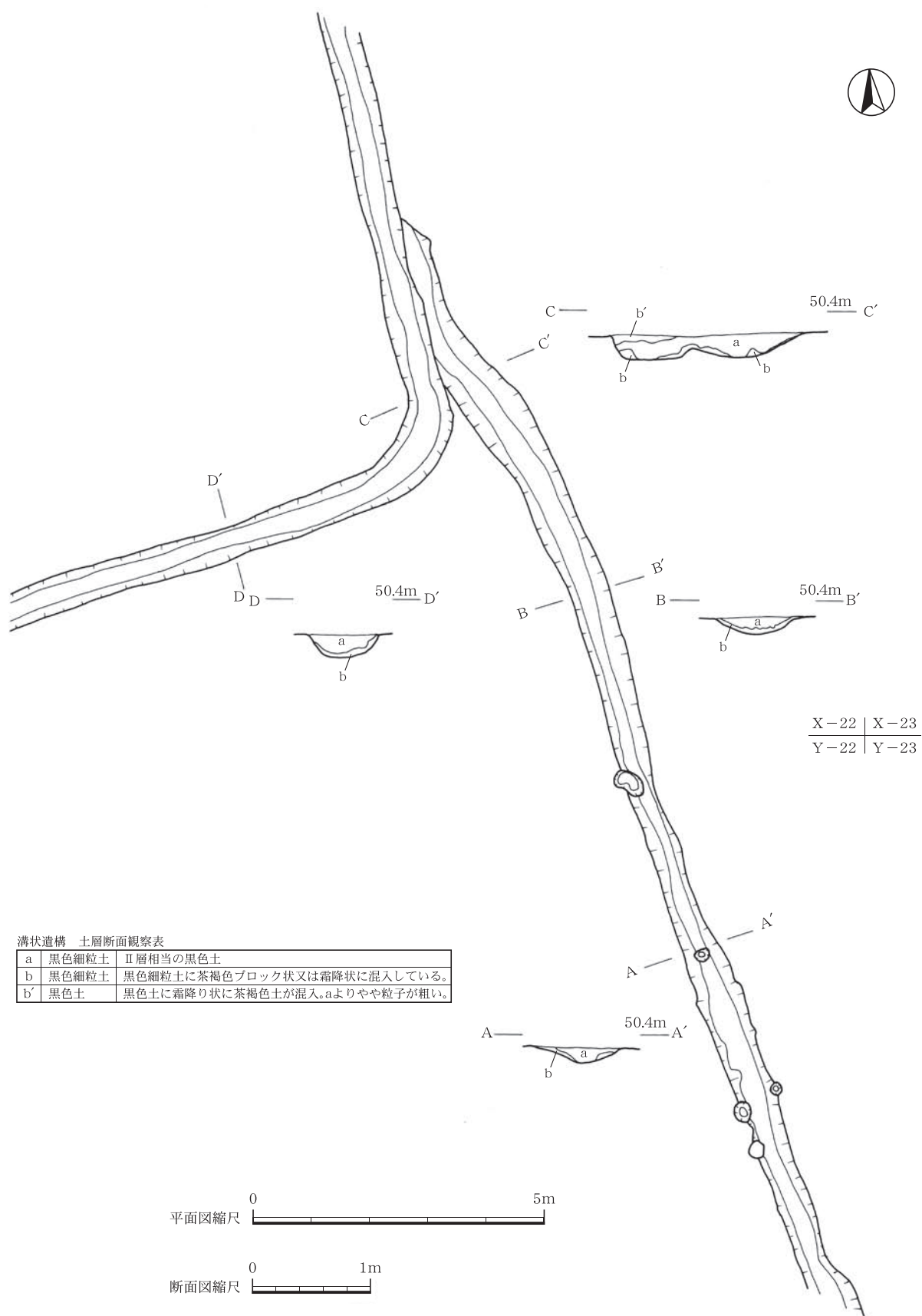
長さ20m、幅は溝状遺構3との切り合い部分で約100cmであるが、ほとんどの部分で約40～80cmに収まる。深さは約15～20cmである。溝状遺構1・2とほぼ平行に位置する。溝状遺構3から枝分かれして伸びる。

溝状遺構5（B-b-i・ii）

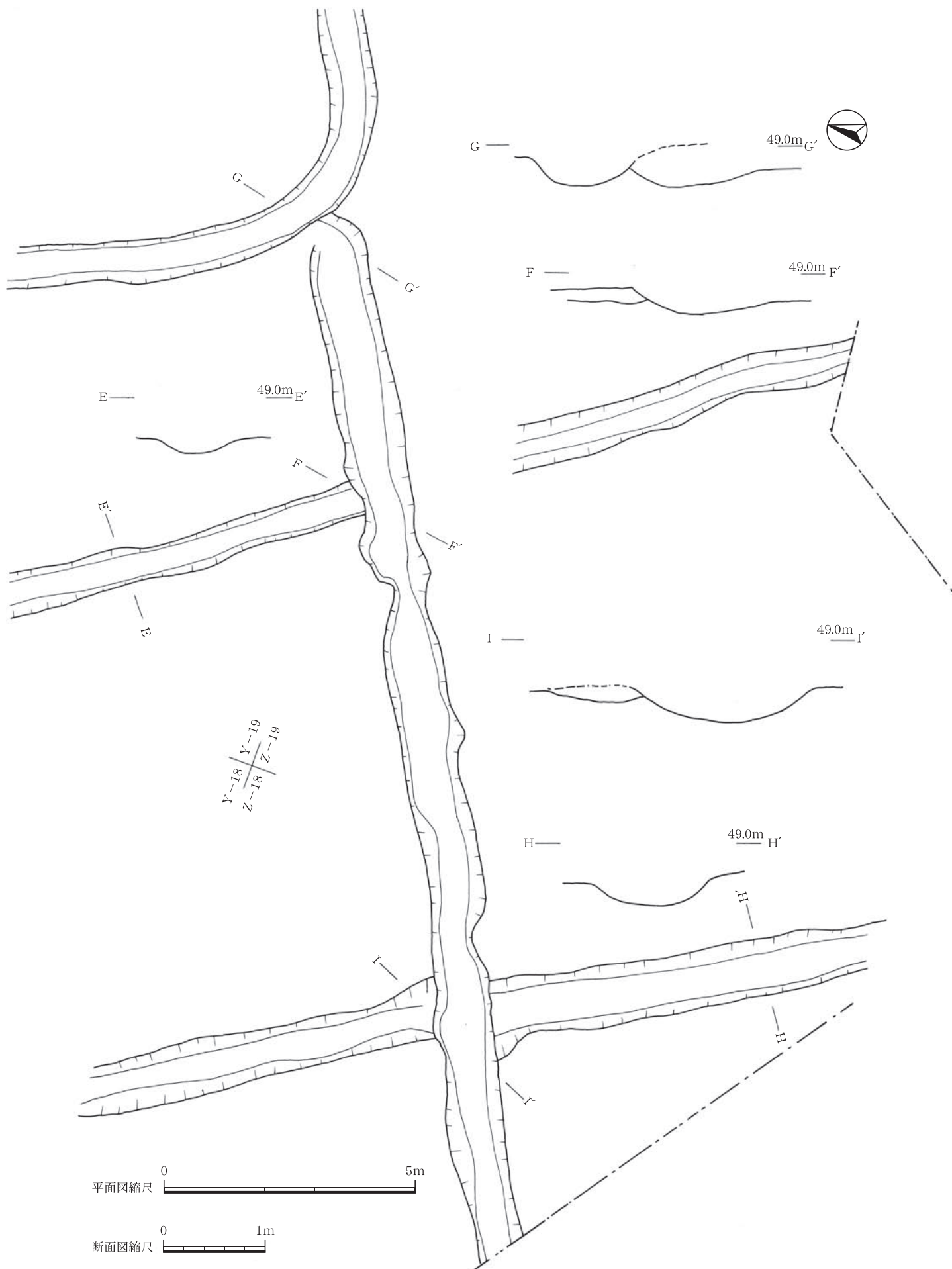
長さ約108m、最大幅はカーブ部で約150cmを数え、その他の部分は60～100cmと場所によってまちまちである。深さは溝状遺構3と平行に位置しているX-19～20区では60～80cmであるのに対し、X～Y-18～19区は15～20cmとやや浅めになる。Y-19区において枝分かれし、X～Y-19～22区においては溝状遺構3にほぼ平行に位置し、X～Z-18～19区においては溝状遺構1～3にほぼ平行に位置する。X-20～21区において一旦検出が不可能になるが、X-20区において検出された溝状遺構と同一と考えられる。X-18区の古代の掘立柱建物跡9号を切る。



第146図 溝状遺構配置図（1グリッド：20m）



第147図 溝状遺構（1）



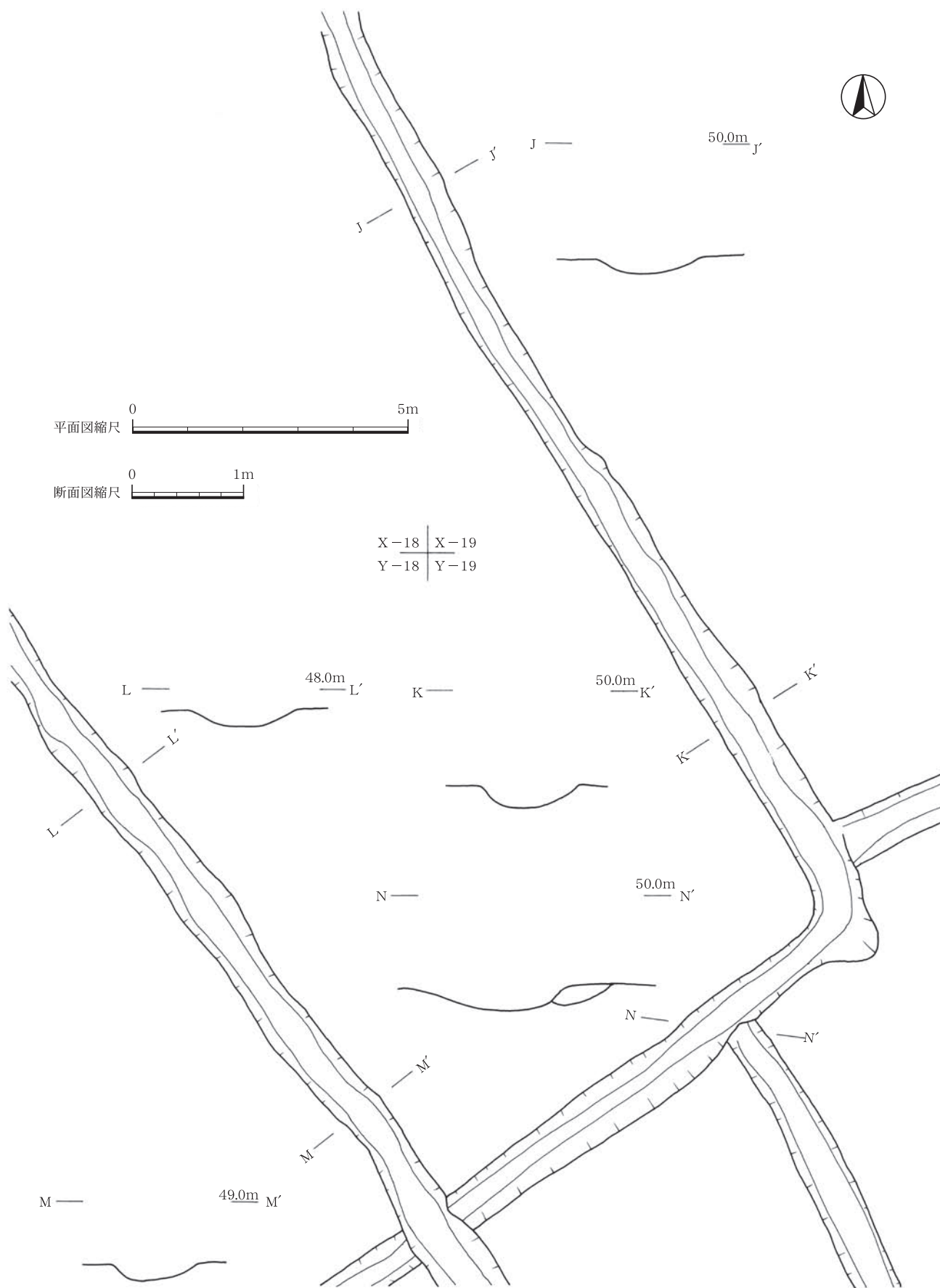
第148図 溝状遺構（2）



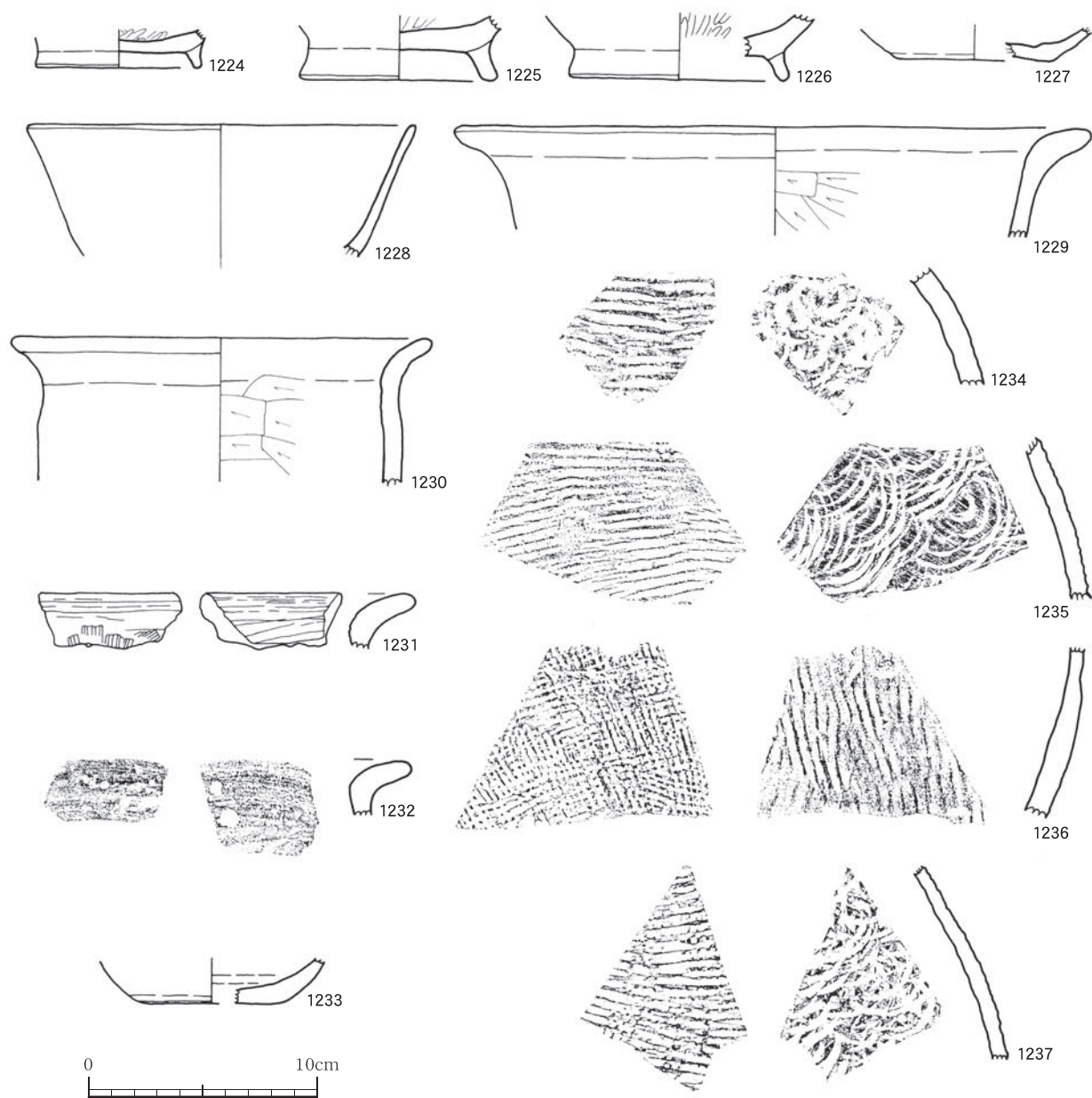
平面図縮尺 0 5m

断面図縮尺 0 1m

X-18	X-19
Y-18	Y-19



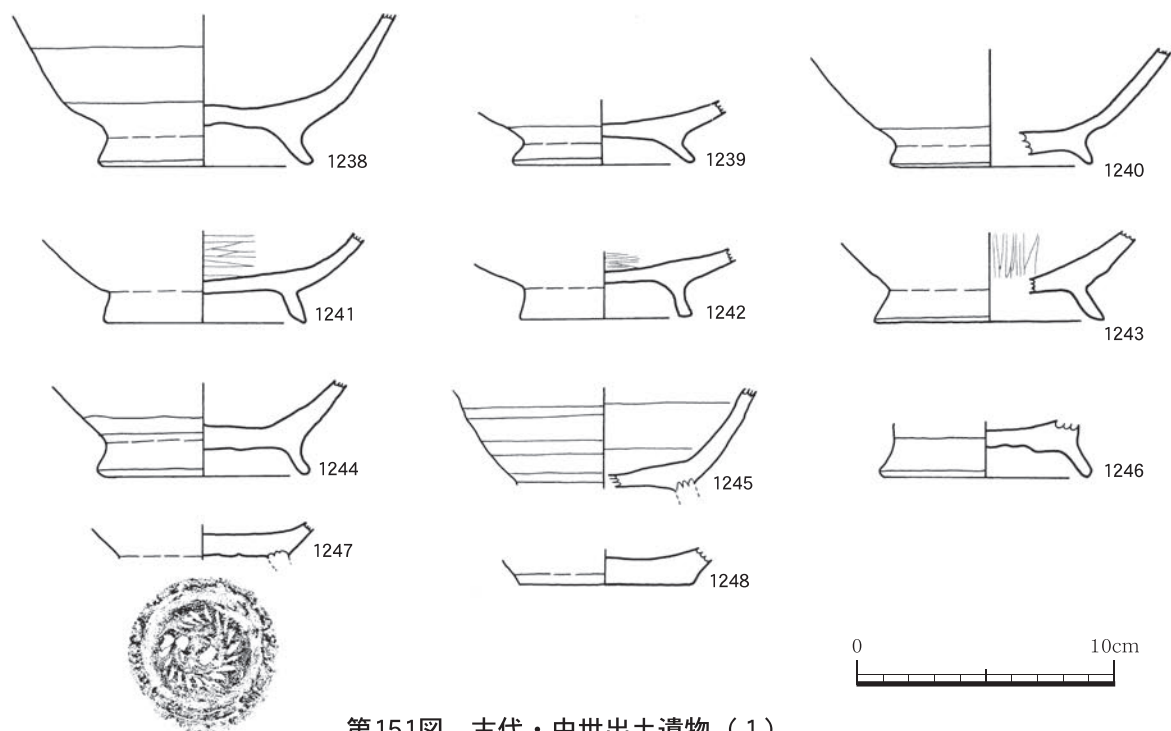
第149図 溝状遺構 (3)



第150図 溝状遺構内出土遺物

古代・中世土器観察表（3）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第150 図	1224	Y-19	II	底部	10Y2/1黒	2. 5YR7/2灰黄		○			良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1225	Y-19	II	底部	7. 5YR7/4にぶい橙	2. 5YR5/4にぶい赤褐		○			良	回転ナデ	ミガキ	
	1226	Y-19 SD	II	底部	10YR1. 7/1黒	5YR5/6明赤褐		○			良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1227	Y-20 SD	一	底部	10YR7/4にぶい黄橙	7. 5YR6/4にぶい橙	○				良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1228	X-20 SD	II	口縁部	7. 5YR8/6浅黄橙	7. 5YR8/6浅黄橙		○	○		良	ヘラケズリ ナデ	回転ナデ	
	1229	X-20 SD	IV	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR5/6明赤褐		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1230	SD	II	口縁部	10YR6/3にぶい黄橙	7. 5YR6/4にぶい橙	○	○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1231	Z-18 SD-3	II	口縁部	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	○	○			良	ハケ目	ナデ	
	1232	Z-19 SD-20	II	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	ナデ	ナデ	
	1233	SD-50	II	底部	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	○				良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1234	Z-18 SD-3	II	胴部	2. 5YR4/2暗灰黄	2. 5YR3/1黒褐					良	平行タタキ	同心円タタキ	
	1235	Z-18 SD-3	II	胴部	2. 5YR5/2暗灰黄	2. 5YR5/3黄褐					良	平行タタキ	同心円タタキ	
	1236	Y-20 SD	III	胴部	2. 5Y4/1黄灰	2. 5Y4/1黄灰		○			良	格子目タタキ	平行タタキ	
	1237	Y-20 SD	III	胴部	7. 5YR3/4暗褐	5YR3/4明赤褐					良	格子目タタキ	同心円タタキ	



第151図 古代・中世出土遺物（1）

溝状遺構内出土遺物（第150図）

溝状遺構内の出土遺物は、古代に相当する土師器・須恵器が出土し、そのうち14点を図化した。他に青磁も出土しているが、小片のため掲載しなかった。

遺物の出土地点については、観察表を参考にされたい。

1224～1226は碗の底部である。いずれも内面は丁寧なミガキ調整が施される。1224・1226は黒色土器A類に相当するものである。1227・1233は坏の底部である。底部の切り離しはヘラ切りである。1228は碗である。内面はナデ調整が施され、外面は腰部をヘラケズリで調整を施した後、ナデ調整を行っている。1229～1232は甕の口縁部である。1229は胴部が張らず、なだらかに窄まるものと思われる。1230は胴部がわずかに膨らむものである。1234～1237は須恵器の胴部である。甕または壺と思われる。

（2）遺物

古代・中世の遺物としては、土師器・須恵器・青磁・瓦器が出土したが、遺物量は多くない。土師器・須恵器においては、中世のものは数点で、大部分は古代に相当するものである。

①土師器（第151図～153図）

碗・坏

1238～1247は碗である。体部と高台の境は「く」

の字状に強く屈曲し、高台は「ハ」の字に開く。

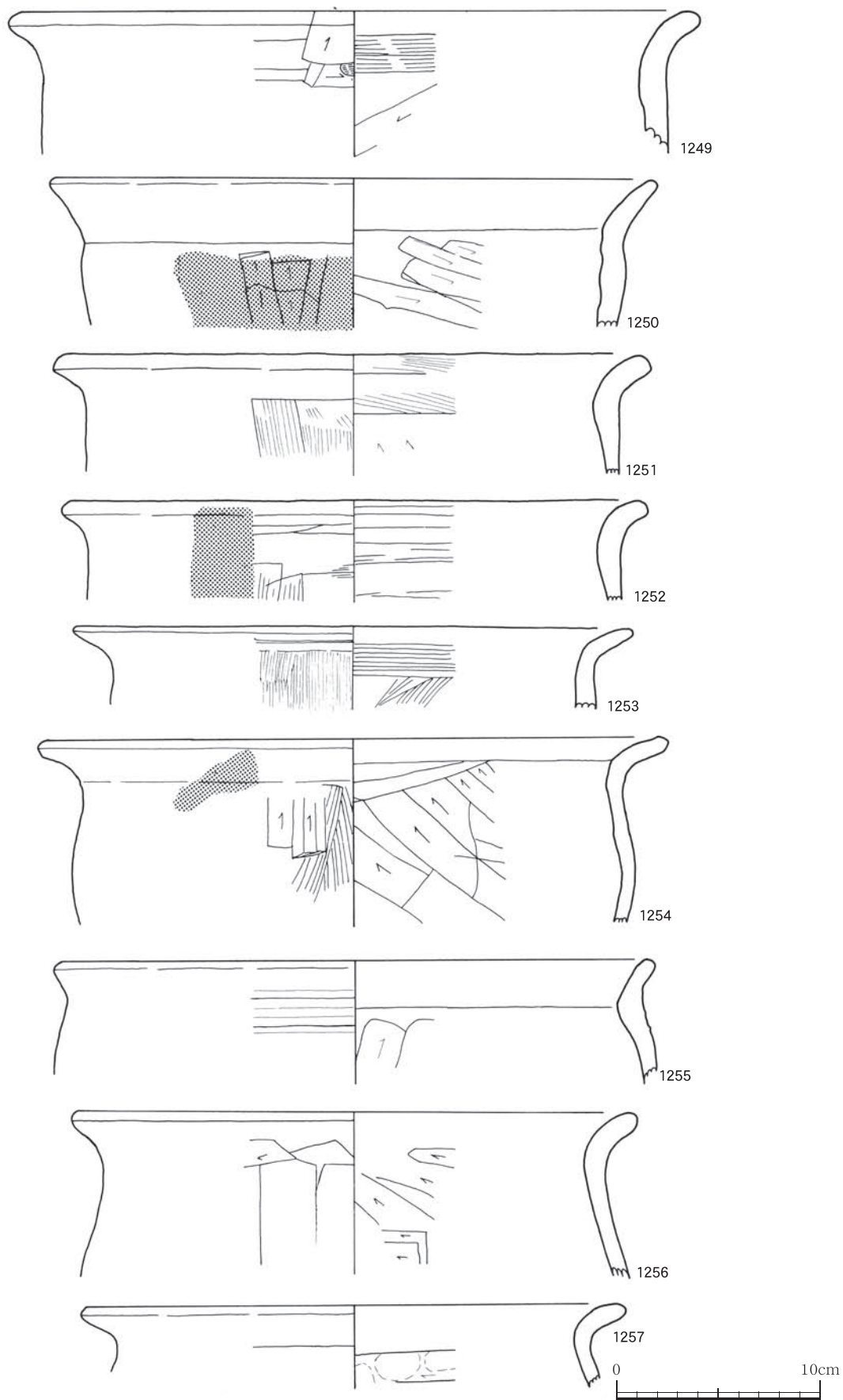
1238は腰部が張るものである。1241～1243は黒色土器A類に相当するもので、内面は丁寧なミガキ調整が施され、黒色を呈する。1241・1242は1243に比べやや高台の開きが弱い。1244～1246は赤色土器A類に相当するものである。内面はミガキ調整が施されるものと思われるが、摩滅が激しい。黒色土器A類と比較して体部が直線的に立ち上がる。1247は高台内面に、底部を切り離した際のヘラ切りの痕跡が残る資料である。

1248は坏である。赤色土器A類に相当し、内面はミガキ調整が施されるものと思われるが、摩滅が激しい。

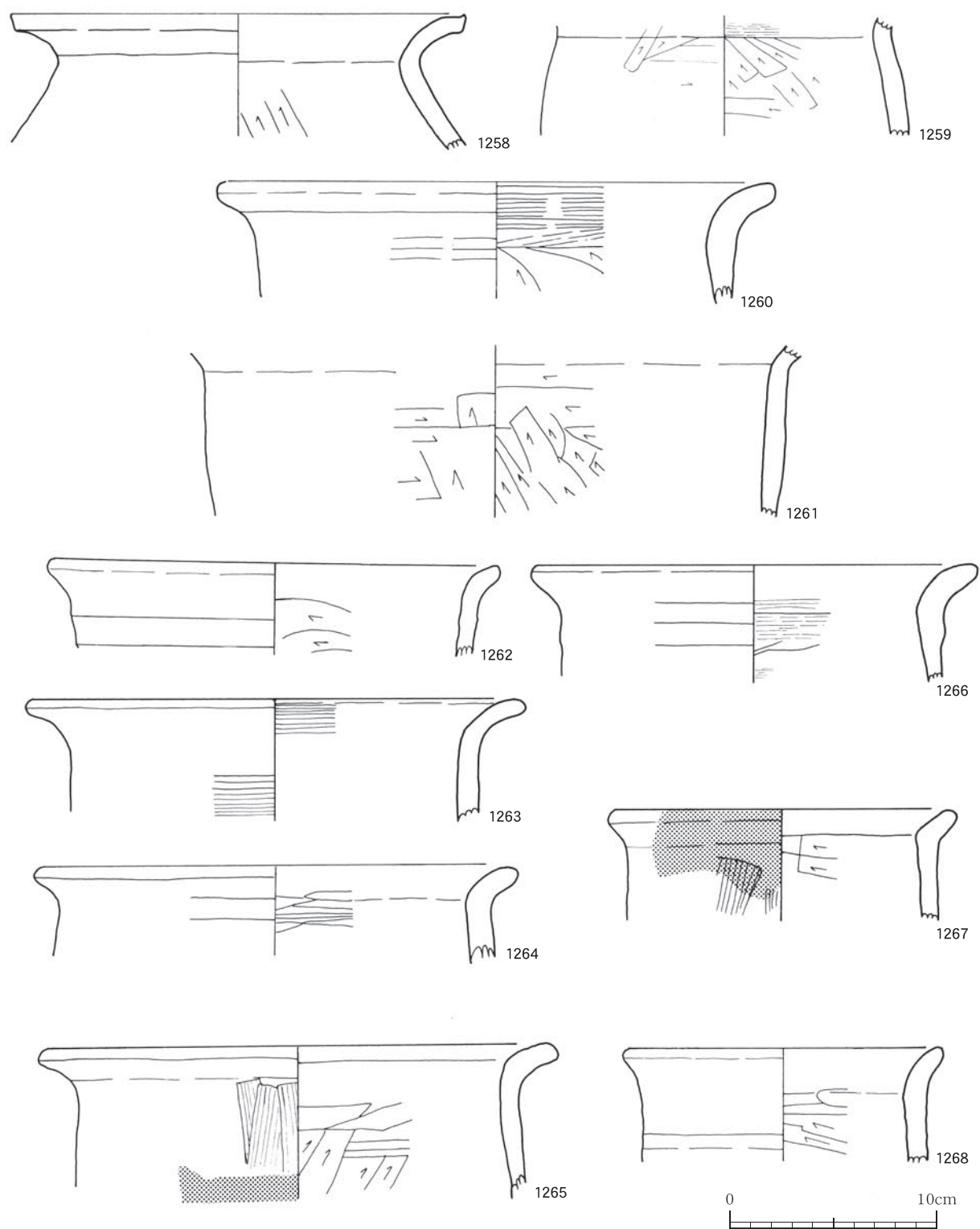
甕（第152図・153図）

口縁径により大きく3つに分類し、さらに胴部の形状によりさらに細分化した。口縁部はすべて強く外反し、1258を除き口縁部先端は丸くおさめられる。

1249～1257・1260・1261は口径が25～35cmのものである。そのうち1249～1251・1260・1261は胴部が張らないタイプのものである。1250は胴部内面のヘラケズリ調整が強く施されるもので、胴部外面には煤が付着する。1252～1257は胴部が張るタイプのものである。なかでも1255～1257が頸部の屈曲も強い



第152図 古代・中世出土遺物（2）



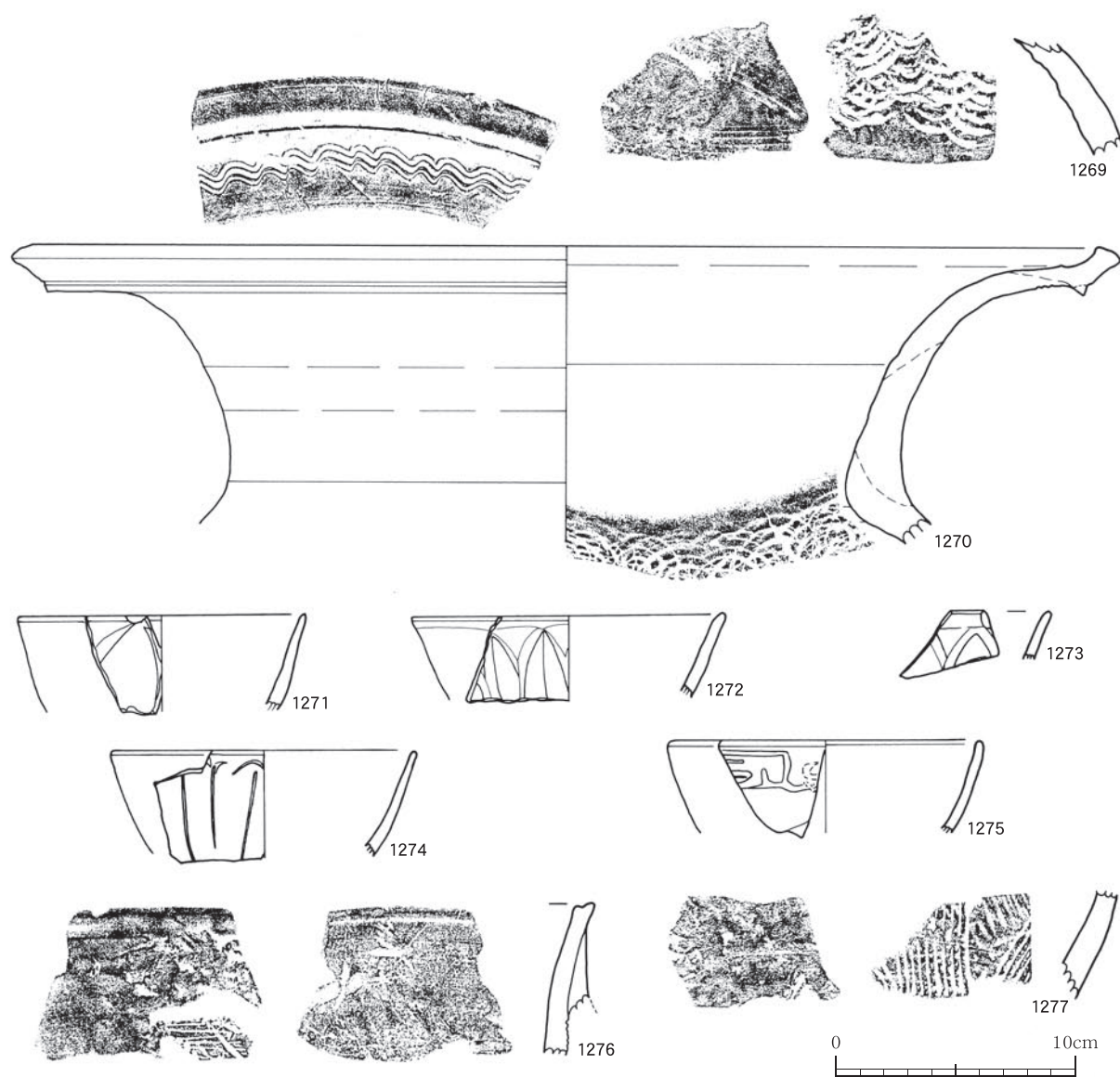
第153図 古代・中世出土遺物（3）

ため胴部が強く張る。1253は外面に細かいハケ目が施される。

1258・1259・1262～1266は口径が20～25cmの中形のものである。1262・1263は胴部が張らないタイプのもので、他は胴部が張るタイプのものである。

1258は頸部が「く」の字状に強く屈曲し、口縁部先端も平坦気味につくられる。須恵器の口縁部を模造したものと思われる。

1267・1268は口径が20cm以下の小形のものである。胴部は張らない。1267は外面全体に煤が付着する。



第154図 古代・中世出土遺物（4）

②須恵器（第154図）

須恵器の出土量は少なく、小片が多い。

1269は甕の肩部にあたるもので、内面には同心円状のあて具痕が残る。外面はナデ調整が施されており、一部煤が付着する。1270は大形の壺の口縁部である。口縁部先端は外側に折り返して肥厚させ突帯状の段をつくり、その下位に波状文を施す。器面調整は内外面ともナデであるが、頸部から下位は叩き調整が施される。

③青磁・その他の陶器（第154図）

1271～1275は龍泉窯系青磁碗である。青磁の出土量は極めて少なく、掘立柱建物跡の柱穴内から出土

した碗以外は全て小片である。1271～1274は体部外面に鎬連弁を有するものである。1271～1273は口縁部がやや外反する。1275は口縁部外面に雷文帯を有するものである。体部はやや丸みを帯びる形状である。

1276は瓦器である。外面口縁部下位に把手が付いていた痕跡が残る。内面にはわずかに煤が付着するため火に関する道具と思われるが、詳細は不明である。

1277は東播系の播鉢である。内面は叩き成形の痕跡が残り、その上から1単位10条の播り目が右斜め上方に向けて施される。

古代・中世土器観察表（４）

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 151 図	1238	Y-20	Ⅳ	底部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	回転ナデ	回転ナデ	
	1239	Z-19	Ⅱ	底部	10YR7/3にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	○	○			良	回転ナデ	回転ナデ	
	1240	Z-19	Ⅱ	底部	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙		○			良	回転ナデ	回転ナデ	
	1241	Y-17	Ⅱ	底部	7.5YR2/1黒	10YR6/4にぶい黄橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1242	Y-18	Ⅱ	底部	7.5YR2/1黒	5YR6/6橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1243	—	—	底部	2.5Y2/1黒	10YR7/3にぶい黄橙	○				良	回転ナデ	ミガキ	内黒
	1244	Z-18	Ⅱ	底部	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙		○			良	回転ナデ	ミガキ	内赤
	1245	—	—	底部	2.5YR5/6明赤褐	10YR7/3にぶい黄橙		○			良	回転ナデ	ミガキ	内赤
	1246	Y-18	Ⅱ	底部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR4/6赤褐		○			良	ナデ	ミガキ	内赤
	1247	Z-19	Ⅱ	底部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		○	○		良	ナデ ヘラ切り	ナデ	
	1248	—	—	底部	2.5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	○	○			良	ナデ ヘラ切り	ミガキ	内赤
第 152 図	1249	Y-18	Ⅱ	口縁部	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐		○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1250	I-1	Ⅲ	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/3褐		○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ ナデ	煤付着
	1251	Y-18	Ⅱ	口縁部	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙		○			良	ハケ目	ハケ目 ヘラケズリ	
	1252	—	—	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰		○			良	ハケ目 ナデ	ヘラケズリ	煤付着
	1253	Z-18	Ⅱ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙		○	○		良	ハケ目	ヘラケズリ	
	1254	Z-18	Ⅱ	口縁部	2.5Y7/3浅黄	10YR6/4にぶい黄橙		○			良	ハケ目	ヘラケズリ ナデ	煤付着
	1255	Y-19	Ⅱ	口縁部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1256	Y-18	Ⅱ	口縁部	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/6橙		○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1257	X-19	Ⅱ	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
第 153 図	1258	Y-18	Ⅱ	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1259	Z-19	Ⅱ	口縁部	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐		○			良	ヘラナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1260	Y-19	Ⅱ	口縁部	5YR6/6橙	5YR6/6橙	○	○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1261	Y-18	Ⅱ	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1262	Y-19	Ⅱ	口縁部	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1263	Y-18	Ⅱ	口縁部	7.5YR8/6浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙		○			良	ナデ ハケ目	ヘラケズリ ハケ目	
	1264	—	—	口縁部	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1265	I-1 SUT13	Ⅲ	口縁部	5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	ナデ ハケ目	ヘラケズリ ナデ	煤付着
	1266	Y-17	Ⅱ	口縁部	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/6赤褐		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
	1267	—	—	口縁部	10YR8/4浅黄橙	7.5YR7/6橙		○			良	ナデ ハケ目	ヘラケズリ ナデ	煤付着
	1268	Y-18	Ⅱ	口縁部	2.5Y6/3にぶい黄	7.5YR6/4にぶい橙		○			良	ナデ	ヘラケズリ ナデ	
第 154 図	1269	—	—	肩部	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	○		○		良	ナデ	同心円タタキ	煤付着
	1270	—	Ⅱ	口縁部	5Y6/2灰オリーブ	10YR4/2灰黄褐					良	ナデ 波状文	同心円タタキ	
	1271	—	—	口縁部	5Y5/3灰オリーブ	5Y5/3灰オリーブ					良	鑄連弁文	—	青磁
	1272	—	—	口縁部	5Y5/4オリーブ	5Y5/4オリーブ					良	鑄連弁文	—	青磁
	1273	—	Ⅱ	口縁部	7.5GY6/1緑灰	7.5GY6/1緑灰					良	鑄連弁文	—	青磁
	1274	SUT 2	I	口縁部	5GY5/1オリーブ灰	5GY5/1オリーブ灰					良	鑄連弁文	—	青磁
	1275	—	—	口縁部	2.5GY5/1オリーブ灰	2.5GY5/1オリーブ灰					良	雷文	—	青磁
	1276	—	—	口縁部	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	○				良	ナデ	ナデ	瓦器, 煤付着
	1277	—	Ⅱ	胴部	5Y2/1黒	5Y2/1黒					良	ナデ	スリ目	東播系 播鉢

第7節 小結

1 旧石器時代

ホルンフェルスの石材選択が顕著である。出土状況はまとまりに欠け、遺構を伴わなかったため、全体的な傾向はつかめなかった。

本遺跡では少量であったが、農業センター遺跡群中、頭無迫田遺跡(2007年度刊行予定)においては豊富な資料を得ている。これら同遺跡群との比較・検討の結果、本遺跡における石材選択を含めた旧石器時代の傾向が明らかになってくるものと思われる。

2 縄文時代

(1) 縄文時代草創期(土器・石器)

他層との混乱もあったが、遺物等から本遺跡における縄文時代草創期の存在が確認できた。

土器は損耗が激しく、図化できるものが少数であったが、形態分類を行った。

石鏃は側縁部と基部調整がやや粗雑で他時期とは異なった様相を見せている。

(2) 縄文時代早期(遺構)

縄文時代早期は集石遺構が11基検出されている。特に、X～Y-18～20区に集中して検出されている。縄文時代草創期の礫群に比べ、規模・数量ともに増加している。石材は頁岩系、安山岩系等多種に及び、掘り込みも確認されている。散礫状態を含め、半径が1mを超すものも珍しくない。遺構内遺物が少数であったため詳細な時代特定はできなかった。

(3) 縄文時代早期(土器)

縄文時代早期の土器は、Ⅱ類からⅪ類までの10類に分類される。中でも、Ⅷ類土器の出土量が顕著である。

Ⅱ類は、前平式に比定されるものである。器形は円筒と角筒が確認できる。

Ⅲ類は、志風頭式に比定されるものである。器形は、円筒・角筒・レモン形が確認できる。胴部の二重施文が特徴的で、地文の貝殻条痕文の上から、流水文・貝殻刺突文・直線文を組み合わせで施文している。角筒は、壁面の施文には差があるが、角部に貝殻の肋を利用した横位や斜位の刺突文が施されることが共通している。また、264はレモン形であるが、底部が欠損しているものの、口縁部から胴部下端まで完形に近い状態で出土しており、今後、器形の研

究に役立つものと期待できる。

Ⅳ類は、加栗山式に比定されるもの、Ⅴ類は小牧3A式に比定されるものである。口縁部に横位、胴部に縦位の貝殻刺突文が施され、クサビ形貼付文を有する個体があるなど、Ⅳ・Ⅴ類で共通点が多いが、胴部の押引文の有無で分類した。353～355は、胴部とクサビ形貼付文の土の色が異なっており、意識して別々の粘土を用いたのではないかと考えられる。

Ⅵ類は、吉田式に比定されるものである。1点だけの掲載であるが、口縁部から底部まで復元することができた。口縁部がやや外反するバケツ状の器形が確認できる。

Ⅶ類は、倉園B式に比定されるものである。

Ⅷ類は、石坂式に比定されるもので、本遺跡では出土量をもっとも顕著である。口縁部の形状が、外反し肥厚するものと、ほぼ直行するものに分類できる。^{註1}また、622の1点だけであるが、瘤状突起をもつものも出土している。本遺跡では、口縁部が外反するものが優勢である。口縁部の施文もバリエーションが豊かで、横位の刺突文を施すもの、斜位の刺突文を施すもの、羽状の刺突文を施すもの等に分けられ、それぞれに、口唇部が直行するもの・波状になるものが確認できる。604・605のように、貝殻を切り取って施文したと見られるものもあり、施文具の工夫についても窺い知ることができる。胴部は綾杉状の貝殻条痕文が施されるものがほとんどであるが、格子状や縦位と斜位の組み合わせのものも確認できる。なお、675はⅧb類としているが、胴部に刺突文のみ施すことから、下剥峯式に類する可能性もある。

Ⅸ類は、中原式に比定されるものである。

Ⅹ類は、塞ノ神Aa式に比定されるものである。677の1点だけの掲載であるが、口縁部から胴部まで復元できたものである。胴部に沈線文と網目撚糸文が施されており、貝殻を利用した文様が施される他の類との差異が見られる。

Ⅺ類は、右京西タイプに比定されるものである。横位や斜位の貝殻条痕文が施されている。

(4) 縄文時代晩期(土器・遺構)

縄文時代晩期の土器は、ⅩⅨ類～ⅩⅪ類に分類し

た。XX・XXI 類についてはさらに組成深鉢形土器と精製浅鉢形土器の 2 種に細分化することができ、それぞれ a、b とした。近年の研究において、これまで晩期前半としていた土器を後期後葉とする見方があるが、^{註2} 本稿では、従来の編年に従い述べることにしたい。

XX 類土器は、上加世田式土器に比定されるものである。口縁部外面文様帯に沈線が廻るタイプの深鉢形土器が出土しているが、出土量は非常に少ない。XX 類土器は、入佐式土器に比定されるものと思われる。晩期の土器とした中で、一番出土量が多いものである。埋設土器や土坑、掘立柱建物跡等の遺構もこの土器に伴うものである。XXI 類土器は、黒川式土器に比定されるものと思われる。出土量は XX 類土器に次いで少ない。

埋設土器

農業開発総合センター遺跡群では、本遺跡を含め 5 遺跡で埋設土器が検出されている。本稿ではそれらの埋設土器についてその特徴や傾向等を若干ではあるがまとめておきたい。

I 各遺跡の埋設土器

①諏訪牟田遺跡

3 基検出された。土器はほぼ正位置に埋設されており、上蓋は確認されなかった。外面に煤が付着していることから埋設用に転用したものと考えられる。底部は 3 号のみ残存し他は欠損していた。掘り込みは存在するが、掘り込みの径が土器の口縁径とほぼ同じであったため、上面からは確認できなかった。土器内の埋土については科学分析を行ったが周辺の土壌との差異はなく、詳細な用途等は言及できない。

②諏訪前遺跡

上半が後世の削平により欠損していたが、下半部はほぼ正位置に埋設されていた。掘り込みは存在するが、掘り込みの径が土器の口縁径とほぼ同じであったため、上面からは確認できなかった。土器の底部は故意に打ち欠いたものと思われる。

③南原内堀遺跡

底部を南側にした横位の状態で検出された。掘り込みは確認できなかった。

④尾ヶ原遺跡（註3）

2 基検出された。掘り込みは存在するが、平面からは確認できなかった。1 号はほぼ正位であったが、2 号は口縁部を下にして埋設されていた。いずれも小片で損傷が激しいため復元が難しく報告書作成時には図化できなかったが、今回樹脂や補強剤等を使用しての復元に成功し図化することができた。（参照：P 186・187）

土器の形状は、1 点は口唇部にリボン状の突起が 1 か所つくと思われ、黒川式土器に相当する。

⑤諏訪協遺跡（現在整理作業中）

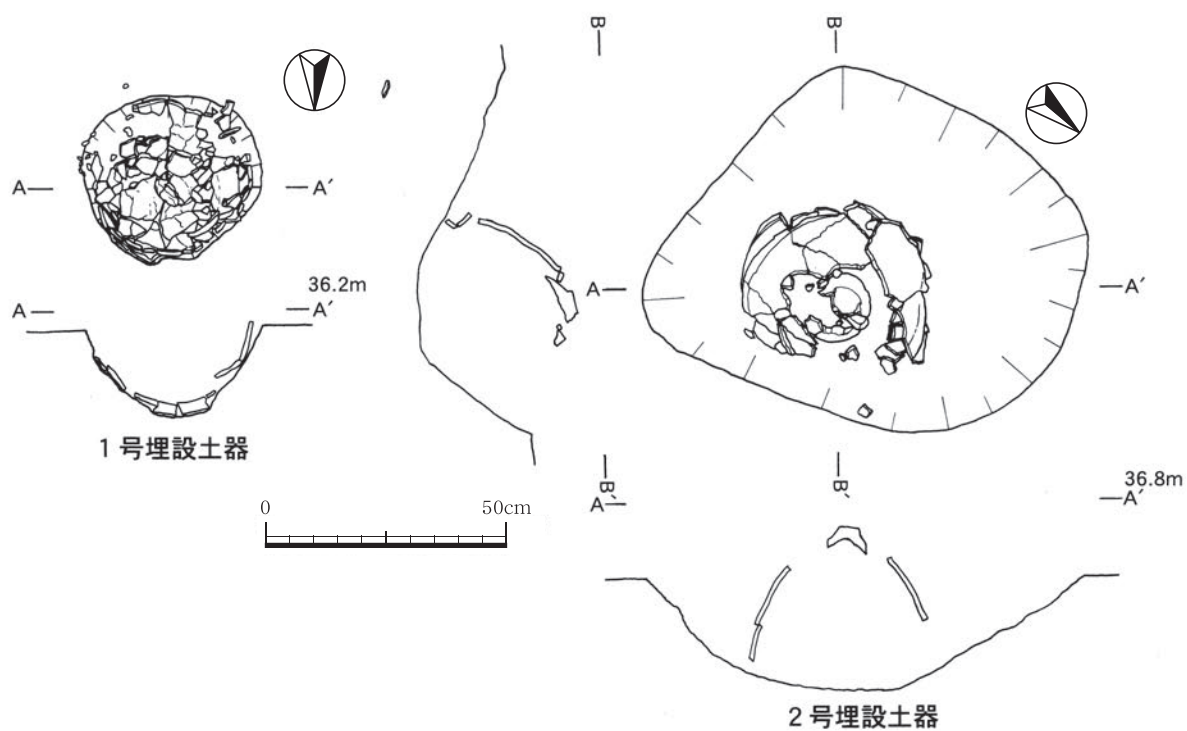
2 基検出された。どちらも後世に削平を受けており、遺物の損傷も激しい。埋設土器の形状は、2 点とも胴部中位が「く」の字状に屈曲するもので、内面はナデ調整、外面は条痕が施される。入佐式土器に相当するものと思われる。

II 本遺跡群の埋設土器の傾向

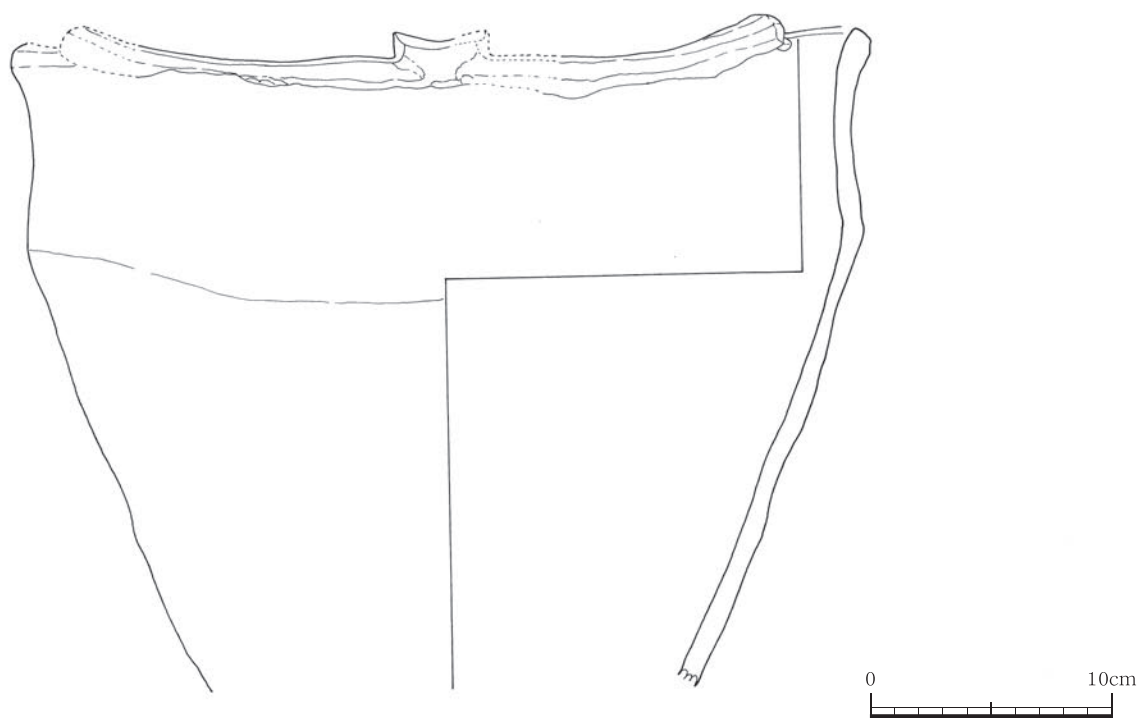
本遺跡群から検出された埋設土器は、全て掘り込みは存在するが、平面からは確認できなかった。掘り込みが土器の形状とほぼ同じ大きさであったため、平面からは検出できなかったものと思われる。土器の埋設方向は、南原内堀遺跡と尾ヶ原遺跡の 2 号を除きほぼ正位置に埋設されている。南原内堀遺跡・尾ヶ原遺跡 2 号の 2 基は、逆さ及び横位に埋められていた状況であるが、今後の課題としたい。上蓋については確認されたものはなく、全て単体のみの出土である。

土器形式は、尾ヶ原遺跡出土のもの以外はすべて入佐式土器に、尾ヶ原遺跡のものは黒川式土器に相当するものと思われる。遺跡の地理的關係から考えると、諏訪牟田遺跡・諏訪前遺跡・諏訪協遺跡は隣接した遺跡で、これらから検出された埋設土器はいずれも同一時期に形成されたものと考えられる。南原内堀遺跡の埋設土器については、土器形式は同じであっても、遺跡の位置が離れていることから、前述の 3 遺跡とは異なる人々により形成されたものと思われる。

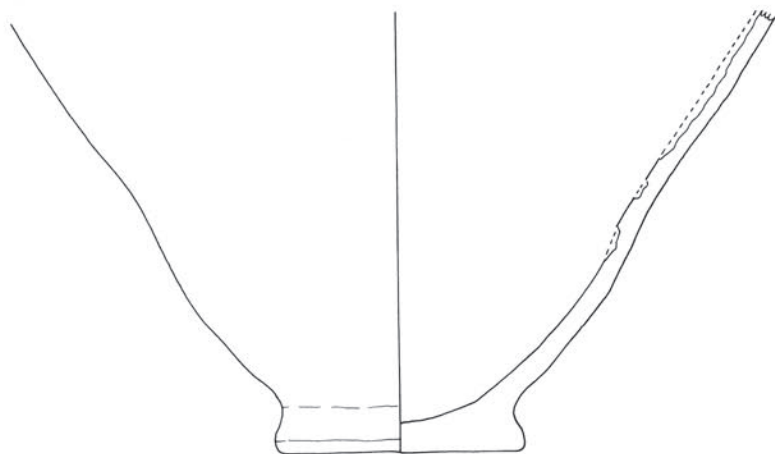
尾ヶ原遺跡は、前述の 3 遺跡から谷を挟んだ場所に立地しており、埋設土器も黒川式土器であることから、一番新しい時期に形成されたものと考えられる。



尾ヶ原遺跡埋設土器出土状況



尾ヶ原遺跡 1号埋設土器



尾ヶ原遺跡 2号埋設土器

(5) 縄文時代早期～晩期（石器）

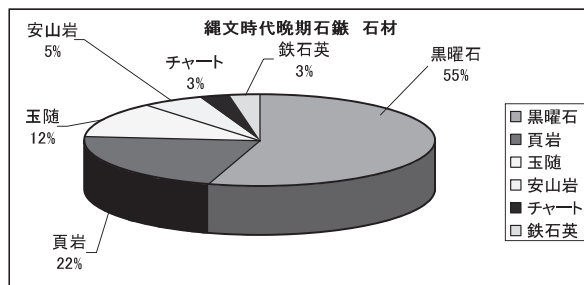
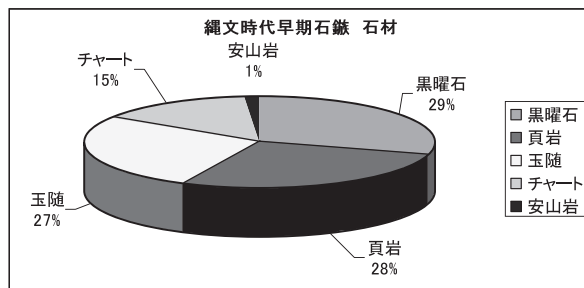
石鎌分類表

形 態	A 三角形	B 五角形	C 丸型	D 砲弾型	
					
長幅比 (縦長／幅)	a 正三角形 ($a < 1.5$)	b 二等辺三角形 ($1.5 \leq b < 2$)	c 縦長な三角形 ($c \leq 2$)		
					
基部形状態	a (平坦)	b (浅い)	c (深い)	d (U字状)	e (半円状)
					

(※既刊農業センター遺跡群報告書石鎌分類表に形態D・基部形状eを追加)

石鎌

石鎌の石材選択には時期差が見られる。早期は頁岩系や玉随系・チャート等の利用頻度が高く、総数は黒曜石の総数を上回る。しかし、晩期に入ると黒曜石が全体の半数以上を占め、早期とは異なった様



相を見せている。

早期・晩期ともに石鎌の平均最大長は2.2cmである。特に2.0～3.0cmに30%以上が集中し、晩期にやや大型の3cmを超すものの割合が高くなる。

早期・晩期石鏃最大長分布表

(小数点第2位以下四捨五入)

縄文時代早期～晩期 石鏃最大長比較表

最大長 (cm)	早期 (Ⅳ～Ⅴ)	晩期 (Ⅱ～Ⅲ)
2.0未満	36.4%	50.7%
2.0～3.0未満	39.0%	33.3%
3.0以上	10.3%	12.0%

(*注: 欠損品省略)

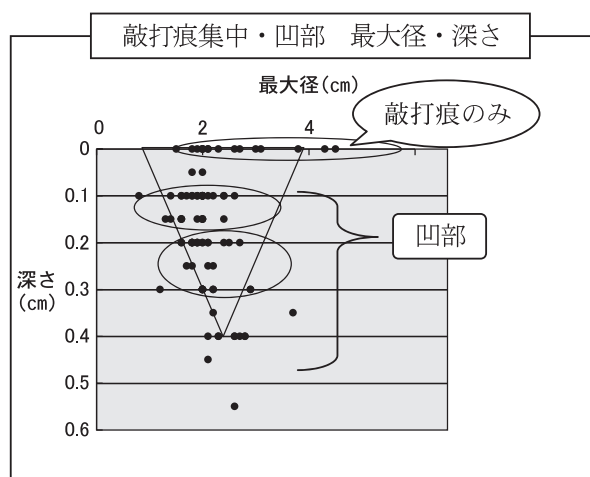
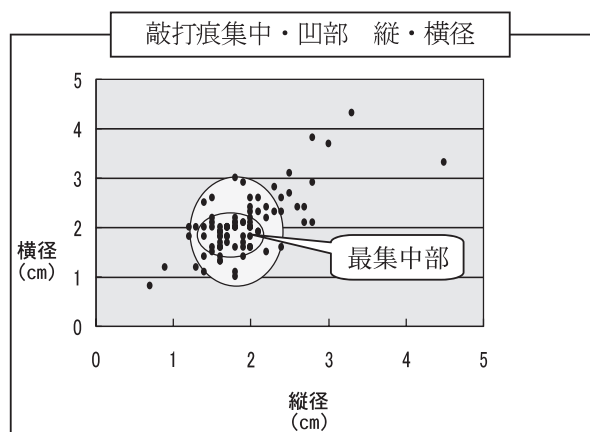
この表から、

- ① 晩期にかけて小型化の傾向が見られる。
- ② 早期は比較的まんべんなく分布する。
- ③ 早期・晩期ともに3.0cmを超える石鏃の割合が全体の10%を超える。

等の傾向が見られる。

縄文時代磨石・敲石・凹石

有敲打痕集中部・凹石敲打痕観察表



本遺跡縄文時代の凹石は掲載・非掲載を合わせ、41点である。既刊農業センター遺跡群報告書の中では最多で、磨石・敲石を合わせると78点得られた。凹石の凹部・敲石の敲打痕集中部資料数は98点にのぼった。本遺跡出土の敲石・凹石を観察すると以下

のような特徴があげられる。

- i 凹部の深さが各面ともに0.4cmを超えない範囲にほぼ収まる。
- ii 作業面を変えながら使用している。
- iii 凹部の敲打痕が観察されないか、非常に観察しにくい。
- iv 敲石は安山岩系、凹石は砂岩系を使用する傾向が見られる。

凹石における凹部の深さは、ほぼ0.4cmを超えない範囲にまとまっている。特に作業面が4面以上ある円形・棒状凹石の場合、その傾向が顕著である。

このことから、

- ① 深さ0.4cmを超えた時点で作業が成立しなくなる。

(作業対象物の大きさ・形状による抑制または、作業成立のために共伴する道具の機能的・形状的限界)

- ② 深さ0.4cmを超えない範囲で作業が成立する。

(作業者の技能熟練性による抑制)

などの理由が考えられるが、今後のデータの蓄積が必要であると思われる。

3 古代・中世

(1) 掘立柱建物跡

11棟中、10棟がⅤ～Ⅷ-18～20区において検出された。主軸方向・溝状遺構との隣接状況・出土遺物・切り合い状況から古代の掘立柱建物跡は9世紀後半、中世掘立柱建物跡は掘立柱建物跡9号脇ピット出土「王」・「玉」青磁の時期検討結果から、12世紀中頃～後半のものと思われる。^{註9}

古代のものと思われる掘立柱建物跡4～6号の周辺は古代の遺物を包含する土坑・焼土に加え、少量の鉄滓が検出された。

それぞれの平均値は、(棟部のみ) 梁間柱間353.0cm、桁行柱間173.4cm、桁行間505.6cmである。また、柱穴は最大径110cm、最小径17cmで、深さは最大84cmである。柱穴の形状は平面が円及び楕円形、断面は逆台形状を呈する。推定床面積は棟部のみで最大27.3㎡(掘立柱建物跡11)、最小10.6㎡、平均18.1㎡である。底部まであわせた総床面積の最大は39.5㎡(掘立柱建物跡8)に及ぶ。

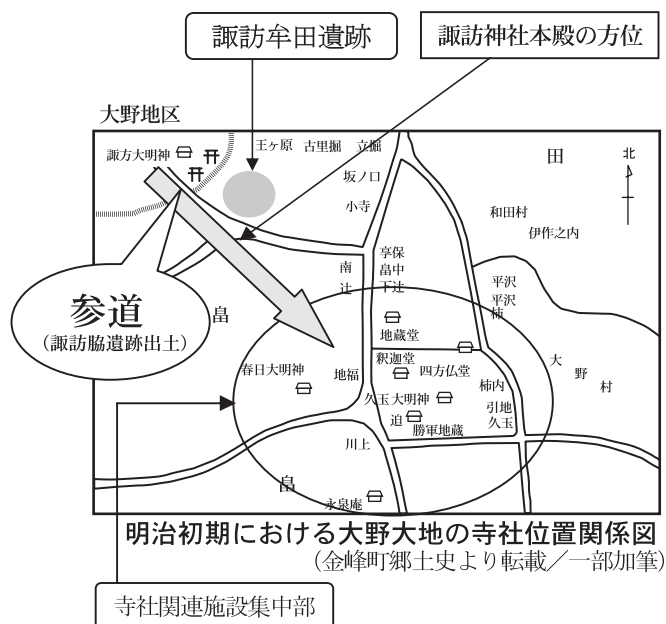
(2) 溝状遺構

それぞれの溝状遺構で下表のような形状（断面・幅・深さ）の共通点が見られた。

溝状遺構 1 と溝状遺構 3 (Y～Z-18～19区)
溝状遺構 3 と溝状遺構 5 (X～Y-19～22区)
溝状遺構 2 と溝状遺構 5 (X～Y-18～19区)

この中で、溝状遺構 1・2・4 と 3・5 の一部は前記諏訪（南方）神社の社殿の向きと方位がほぼ一致している。また、溝状遺構 3・5 は約 60m に渡って平行し、溝状遺構 2・5 と溝状遺構 3・5 は直行している。加えて、隣接する諏訪前遺跡の H～K-3～6 区において検出された中世溝状遺構及び、諏訪協遺跡（2007 年度刊行予定）検出の諏訪（南方）神社への参道もほぼ同様の方位である。金峰町郷土史によると、諏訪（南方）神社の南東方向には明治初期まで春日神社・釈迦堂・地藏堂等の寺社関連施設が点在していたという。

今回、遺構内出土遺物や遺構検出状況を検討したが詳細な時期決定には至らなかった。今後、同様の遺構・遺物が出土した農業センター遺跡群の建石ヶ原・古里・馬塚松・諏訪前・諏訪協遺跡等を総合的に分析・検討することで、古代～中世における本遺跡の様相が徐々に明らかになっていくと思われる。



図中説明

諏訪（南方）神社

鎮座地 日置市金峰町大野2338

御祭神 建御名方神・事代主命・建雷之命・天児屋根命・経津主命・比売神

由 緒 創建年代不詳。高橋・長崎の諏訪上下神社、大野泊之門の春日大明神、大塚の鎮守大明神（文安六年、1449年）を合祀。

春日神社（大野）

本大野村上馬場、由来不明。文安六年（1449）己巳九月十八日大壇那藤原忠幸寿命長云云の棟札あり。現在大野南方神社に合祀。

久玉明神（大野）

右者大野村下馬場、由来不明。文明十八年（1486）霜月二十六日の棟札に、大壇那友久并忠幸とある。川辺町神殿久玉神社に合祀。

釈迦堂

建立時期不明。明暦四戊戌年二月吉日の棟札に光久様云云の記事あり。参道は町道の方からついていたそうである。

（金峰町郷土史 上巻）

参考文献

- 註 1) 前迫亮一 2003『石坂式土器再考』『縄文の森から』創刊号
鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 註 2) 高橋信武・安藤英治 1983「大分県官地前遺跡の採集資料－大分県の晩期前半を中心とした土器編年－」『赤れんが』第 2 号 熊本大学考古学研究会 清田純一 1998「縄文後・晩期土器考－中九州の縄文後・晩期土器とその並行形式について－」『肥後考古』第 11 号 肥後考古学会
- 註 3) 鹿児島県立埋蔵文化財センター報告書（98）2006 農業開発総合センター遺跡群Ⅲ 尾ヶ原遺跡
- 註 4) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（83）農業センター遺跡群Ⅰ（窪見ノ上遺跡・建石ヶ原遺跡・古里遺跡・西原遺跡・吹上小中原遺跡・馬廻遺跡・三反牟田遺跡）
- 註 5) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（97）農業センター遺跡群Ⅱ（馬塚松遺跡・市掘遺跡・大門口遺跡）
- 註 6) 県史 46 鹿児島県の歴史 原口泉 ほか 山川出版
- 註 7) 金峰町郷土史 上・下
- 註 8) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（96）三角山遺跡群（3）（三角山Ⅰ遺跡）
- 註 9) 石器原産地研究会会誌 Stone Sources No. 2 石器原産地研究会 7) 太宰府市の文化財 第 49 集 太宰府条坊跡 XV ー陶磁器分類編ー
- 註 10) 鹿児島県史料 旧記雑録前編 P 63 「管窺愚考中」

諏訪牟田遺跡の自然科学分析調査

埋設土器・土坑

1 埋設土器の内容物に関する調査

パリオサーヴェイ株式会社

(1) 資料

調査対象は、縄文時代早期土器（264・SX1102）と晩期埋設土器 1～3 号（SJ1101～1103）の計 4 点である。

試料採取は264（SX1102）では土器内部から 2 点、土器直下の地山から 1 点である。埋設土器 1 号（SJ1101）では、土器の内部から 2 点、埋設土器 2 号（SJ1102）では、アカホヤ火山灰の上位層から 1 点、土器の内部から 2 点、土器直下の地山から 1 点、埋設土器 3 号（SJ1103）では土器内部から 3 点、土器付近の地山から 1 点の計13点である。

分析にはリン酸・カルシウム分析では全13点を用い、植物珪酸体分析では土器内を中心に 4 点を用いた。その結果、リン酸含量は、対象試料を含め、1.03～3.76 P₂O₅ mg/g の範囲にあり、埋設土器 3 号（SJ1103）の埋土試料で高い傾向が見られる。一方、カルシウム含有は埋設土器 3 号（SJ1103）の試料番号 1 を除いて、1.85～3.55CaO mg/g の範囲内にある。また、必ずしもリン酸含量の高い試料でカルシウム含量が高い傾向は見られない。植物珪酸体分析においては、表 2、図 1 に示すように各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態は悪く表面に多くの小孔（溶食痕）が認められる。植物栽培では埋設土器 1 号（SJ1101）の中下面試料でイネ属の単細胞珪酸

体がわずかに認められ、他の資料からは全く認められない。

また、各試料の植物系三体の産状は極めて似ている。すなわち、タケ亜科の産出が顕著であり、ウシクサ属やイチゴツナギ亜等が認められる。

(2) 考察

土器埋土等の土性は、全体的にシルト質であり粘土分が少なかった。土壌中の各成分は、主に粘土分に吸着・残留するため、今回の埋土などでは理化学成分が残留しにくく、外部へ拡散・流亡が生じやすいと考えられる。

表 2 埋設土器の植物珪酸体分析結果

種 類	試料 番号	縄文早期 SX1102 1	SJ1101 中下面	縄文晩期 SJ1102 2	SJ1103 4
イネ科葉部短細胞珪酸体					
イネ族イネ属		—	3	—	—
タケ亜科		132	172	118	138
ヨシ属		8	5	5	6
ウシクサ族コブナグサ属		4	—	—	—
ウシクサ族ススキ属		19	9	15	12
イチゴツナギ亜科		56	7	11	7
不明キビ型		36	27	25	29
不明ヒゲシバ型		3	2	3	4
不明ダンチク型		30	32	36	34
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
タケ亜科		57	60	81	85
ヨシ属		—	—	4	1
ウシクサ族		20	30	41	56
不明		26	20	27	29
合計					
イネ科葉部短細胞珪酸体		288	257	213	230
イネ科葉身機動細胞珪酸体		103	110	153	171
総 計		391	367	366	401

表 1 埋設土器のリン・カルシウム分析結果

遺構名	試料名	土性	土色	リン酸 P205 (mg/g)	カルシウム CaO (mg/g)
SX1102 縄文時代早期	1：土器内（上部）	SiL	10YR2/2 黒褐	1.53	2.41
	2：土器内（下部）	SiCL	10YR3/2 黒褐	1.06	3.12
	3：土器直下	SiCL	10YR3/2 黒褐	1.03	3.55
SJ1101 縄文晩期	埋土上面	SiCL	10YR2/3 黒褐	2.96	2.14
	埋土中下面	SiCL	10YR2.5/3 黒褐～暗褐	2.74	2.56
SJ1102 縄文時代晩期	1：土器内（上部）	SiCL	10YR3/3 暗褐	2.13	2.07
	2：土器内（下部）	SiCL	10YR3/4 暗褐	1.71	2.07
	3：土器直下	SiCL	10YR3/4 暗褐	1.38	2.12
	4：地山	SiCL	10YR3/4 暗褐	1.14	1.85
SJ1103 縄文時代晩期	1：表土	CL	10YR1.7/1 黒	2.88	7.86
	2：土器内（上部）	SiCL	10YR2/2 黒褐	3.76	2.55
	3：土器内（中部）	SiCL	10YR3/3 暗褐	3.19	2.32
	4：土器内（下部）	SiCL	10YR3/3 暗褐	3.33	2.20
	5：地山	SiCL	10YR3/2 黒褐	2.91	1.99

土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）
土性：土壌調査ハンドブック（ペトロジスト懇談会編，1984）の野外土性
SiL：シルト質壤土（粘土 0～15%，シルト 45～100%，砂 0～65%）
SiCL：シルト質植壤土（粘土 15～25%，シルト 45～85%，砂 0～40%）
CL：植壤土（粘土 15～25%，シルト 20～45%，砂 3～65%）

リン酸の土壤中に含まれる量（天然賦存量）は約 3.0P205mg/g 程度とされる。また、人為的な影響を受けた黒ボク土の平均値は、5.5P205mg/g との報告もある。さらに当社での分析例では骨片などの痕跡が認められる土壌では 6.0P205mg/g を超える場合が多い。また、カルシウムの天然賦存量は普通 1～50CaO mg/g（藤貫，1979）であり，含量幅がリン酸よりも大きい。これらの値を著しく超える土壌では，外的要因（おそらく人為的影響によるもの）によるリン酸・カルシウム成分の富化が指摘できる。

今回の測定値と比較すると，リン酸・カルシウム含量ともに天然賦存量の範囲内にある。そのため，いずれの土器内埋土にもこれらの成分が濃集しているとは言えない。なお，埋設土器 3 号（SJ1103）は天然賦存量の上限付近に達しており，他の土器と比較してリン酸含量が高かった。前述のように，理化学成分が保持されにくい土性であったことを考慮すれば，遺体成分の痕跡とも考えられる。しかし，植物由来のリン酸成分の供給も示唆されることから，さらに腐食含量の調査をすることで，今回の結果を改めて検討できる可能性がある。

栽培植物の痕跡は埋設土器 1 号（SJ1101）の中下面を除いて，全く認められなかった。埋設土器 1 号（SJ1101）の中下面でも，イネ属短細胞珪酸体がわずかに認められたに過ぎない。植物珪酸体の産状からは，縄文時代早期や晩期で周辺にタケ亜科をはじめとしてウシクサ族やイチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたことがうかがえる。

2 土坑の構築時期と出土炭化材に関する調査

調査対象は，古代 2 号土坑（SK1103）から採取された炭化材 2 点と，縄文時代晩期土坑（SK1109）から採取された炭化材 4 点である。この中から，放射性炭素年代測定で 2 点，炭化材同定で 6 点全点を選択した。

放射性炭素年代測定は，(株)地球科学研究所に依頼し，放射性炭素の半減期として LIBBY の半減期 5,568 年を使用した。その結果は，年代測定結果は表 3，炭化材同定結果は表 4 のとおりである。

考察

縄文時代晩期 2 号土坑（SK1109）では，出土した炭化材が約 3,170 年前を示した。これは縄文時代後期後半に相当する年代値であり，発掘調査所見よりも古い年代を示す。この要因として，土坑が構築された時期よりも古い樹木が炭化したり，後世の炭化材が混入したことが考えられるが，この点はさらに炭化材の出土状態も考慮して検討したい。

一方，古代 2 号土坑（SK1103）から出土した炭化材の年代は，約 1,110 年前（9 世紀半ば）を示し，考古学的所見を裏付ける年代値である。

炭化材の樹種についてみると縄文時代晩期 2 号土坑（SK1109）から出土した炭化材には，クヌギ節とスダジイの 2 種類が認められた。いずれも炭化していることから，土坑内で燃料材などとして用いられた木材の一部が炭化・残存した可能性があるが，詳細は不明である。

確認されたうち，スダジイは本遺跡周辺の現在の潜在自然植生で極相林を構成する種類である。

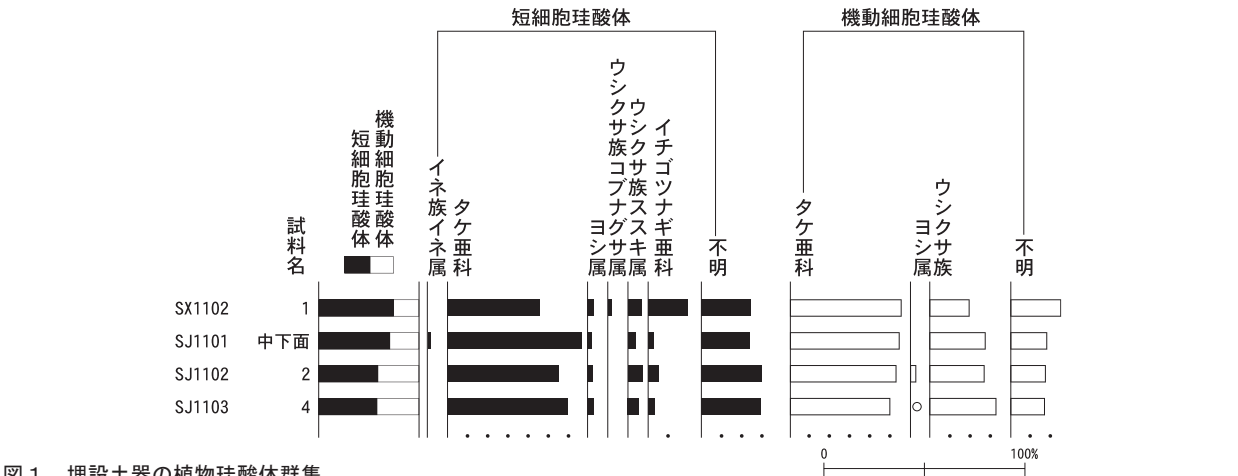


図 1 埋設土器の植物珪酸体群集
出現率は，イネ科葉部短細胞珪酸体，イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお，○は 1%未満の種類を示す。

表 3 土坑出土材の放射性炭素年代測定結果

出土遺構	試料の性状	測定年代値	δ 13C(C13/C12 比)	補正年代値	測定番号 (Lab. No.)
SK-1109	炭化材	3. 180 ± 70 y. B. P.	-25. 7%	3. 170 ± 70 y. B. P.	Beta-137492
SK-1103	炭化材	1. 160 ± 40 y. B. P.	-28. 0%	1. 110 ± 40 y. B. P.	Beta-137491

1) 年代値は、1950 年を基点とした年数
2) 補正年代値は、同位体効果 (δ 13C) の補正を行った値
3) 放射性炭素の半減期は、LIBBY の 5, 568 年を使用した

表 4 土坑出土材の樹種同定結果

遺構	時代	試料	樹種
SK1103	平安時代?	木炭	コナラ属コナラ亜科クヌギ節
		14C 用	コナラ属コナラ亜科クヌギ節
		NO. 1	スダジイ
		NO. 2	スダジイ
SK1109	縄文時代後期	X-21 (炭化物を含む)	スダジイ 広葉樹 (散孔材)
		14C 用	コナラ属コナラ亜科クヌギ節

また、クヌギ節はコナラ節などとともに二次林を構成する種類である。したがって、本遺跡周辺では縄文時代晩期にスダジイなどの常緑広葉樹が生育し、集落周辺には落葉広葉樹も生育していたことが推定される。

一方、平安時代の可能性のある古代 2 号土坑 (SK1103) から出土した炭化材は、2 点ともクヌギ節であった。この炭化材についても、燃料材などの一部が残存した可能性がある。クヌギ節は、縄文時代晩期の土坑から出土した炭化材にも認められており、基本的には同様の植生が見られたと考えられる。しかし、点数が少ないため、現時点では詳細は不明である。今後さらに古植生に関する試料を蓄積して、詳細を明らかにしたい。

引用文献

天野洋司・大田 建・草場 敬・中井 信 (1991) 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別軽量。
農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p. 28-36.
Bowen, H.J.M. (1983) 環境無機化学—元素の循環と生化学—, 浅見輝男・茅野充男訳, 297 p., 博友社 [Bowen, H.J.M. (1979) Environmental Chemistry of Element].
Bolt, G.H.・Bruggenwert, M.G.M. (1980) 土壌の化学。岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳, 学会出版センター [Bolt, G. H. and Bruggenwert, M.G.M (1976) SOIL CHEMISTRY], p. 235-236
土壌養分測定方法委員会編 (1981) 土壌養分分析法, 440p., 養賢堂.

藤貫 正 (1979) カルシウム, 地質調査所化学分析方法, p. 57-61, 地質研究所.

川崎 弘・吉田 滯・井上垣久 (1991) 九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別軽量, 農林水産省 農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p. 23-27.

近藤錬三・佐藤 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, p.31-64.

京大学農学部農芸化学教室編 (1957) 農芸化学実験所 第 1 巻, 411p., 産業図書.

町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州カルデラから噴出した広域テフラアカホヤ火山灰, 第四紀研究, 17, p.143-163.

宮脇 昭編 (1981) 日本植生誌 九州, 484p., 至文堂.

農林省農林水産技術会議事務局監修 (1967) 新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会 (1984) 野外土性の判定, ペドロジスト懇談会編「土壌調査ハンドブック」, p. 39-40

3 諏訪牟田遺跡における植物珪酸体分析
(株)古環境研究所

分析資料は、焼土 1 から採取された 3 点である。資料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表 5 及び図 2 に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、焼土 1 の検出状況については、不明瞭であったため、本報告書本文では非掲載とした。

〔イネ科〕 イネ, キビ族型, ヨシ属, ススキ属型 (おもにススキ属), ウシクサ族 A (チガヤ属など), シバ属

〔イネ科—タケ亜科〕 メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節, ヤダケ属), ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節), クマザサ属型 (チシマザサ節やチマキザサ節など), ミヤコザサ節型 (おもにクマザサ属ミヤコザサ節), 未分類等

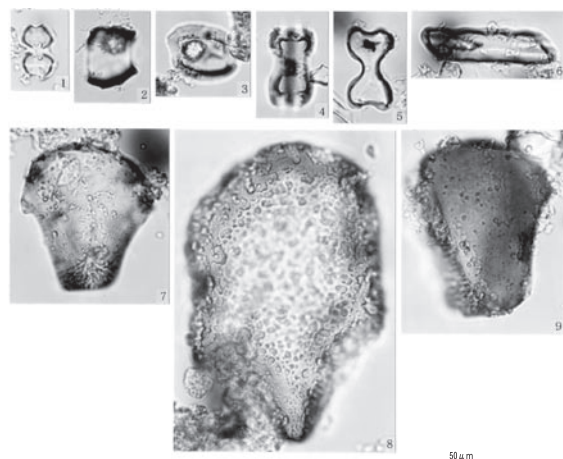
〔イネ科—その他〕 表皮毛起源, 棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来), 茎部起源, 未分類等

〔樹木〕 ブナ科 (シイ属), クスノキ科, マンサク科 (イスノキ属)

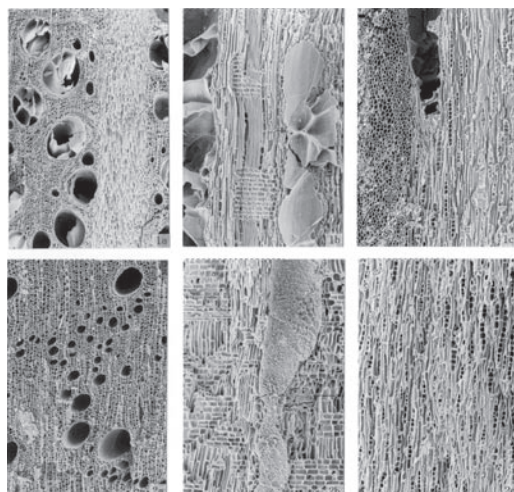
焼土 1 (試料 1, 2) と比較試料 (遺構外の土壌, 試料 3) について分析を行った。その結果, 全体的にネザサ節型や棒状珪酸体が多量に検出され, ススキ属型, ウシクサ族 A, メダケ節型, クマザサ属型, 及びクスノキ科なども検出された。このうち, 焼土 1 (試料 2) ではネザサ節型がとくに多く検出され, 密度は比較試料 (試料 3) の 2.6 倍にも達している。おもな分類群の推定生産量によると, 全体的にメダケ節型及びネザサ節型が卓越していることが分かる。

植物珪酸体分析から推定される植生と環境についてみると, 9 世紀中頃と推定される遺構周辺は, メダケ節やネザサ節などのタケ亜科を主体としてススキ属やチガヤ属なども見られるイネ科植生であり, 遺跡周辺にはクスノキ科などの照葉樹林も分布していたものと思われる。また, 遺構内の焼土 1 では, ネザサ節などが燃料の一部として利用された可能性が考えられる。

図版 1 植物珪酸体

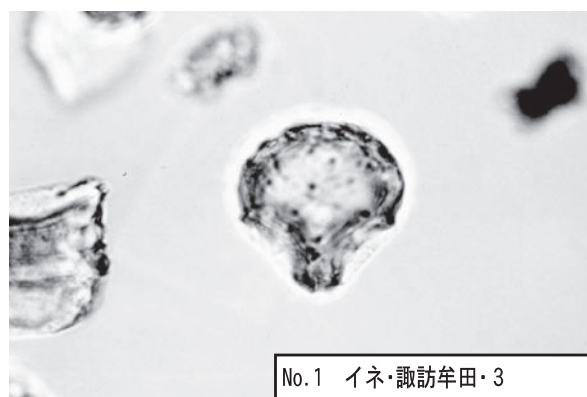


1. イネ属短細胞珪酸体 (SJ1101; 中下面)
2. タケ亜科短細胞珪酸体 (SJ1101; 中下面)
3. ヨシ属短細胞珪酸体 (SJ1101; 1)
4. コブナグサ属短細胞珪酸体 (SJ1101; 1)
5. ススキ属短細胞珪酸体 (SJ1102; 1)
6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (SJ1102; 1)
7. タケ亜科機動細胞珪酸体 (SJ1101; 中下面)
8. ヨシ属機動細胞珪酸体 (SJ1102; 2)
9. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (SJ1102; 2)

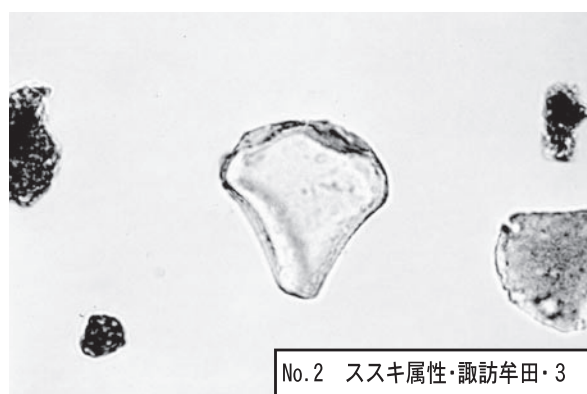


1. コナラ属コナラ亜属クマギ節 (SK1103)
2. スダジイ (SK1109 No. 1)

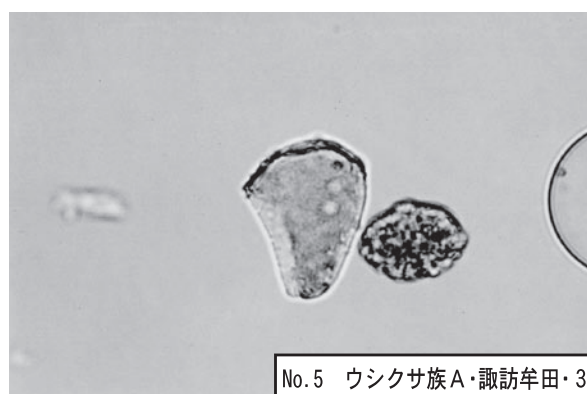
a: 木口 b: 柱目 c: 板目



No. 1 イネ・諏訪牟田・3



No. 2 ススキ属性・諏訪牟田・3



No. 5 ウシクサ族 A・諏訪牟田・3

0 50 100 μm

岩内明子・横田修一郎・岩松 暉 (1992) 鹿児島市沖積層の花粉分析. 日本地質学会西日本支部第125回例会 講演要旨, p.1-2.

杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号, p.27-37.

杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.

杉山真二 (1997) 人類をとりまく植生と環境. 宮崎県史通史編「原始・古代」, p.150-172.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) 一 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

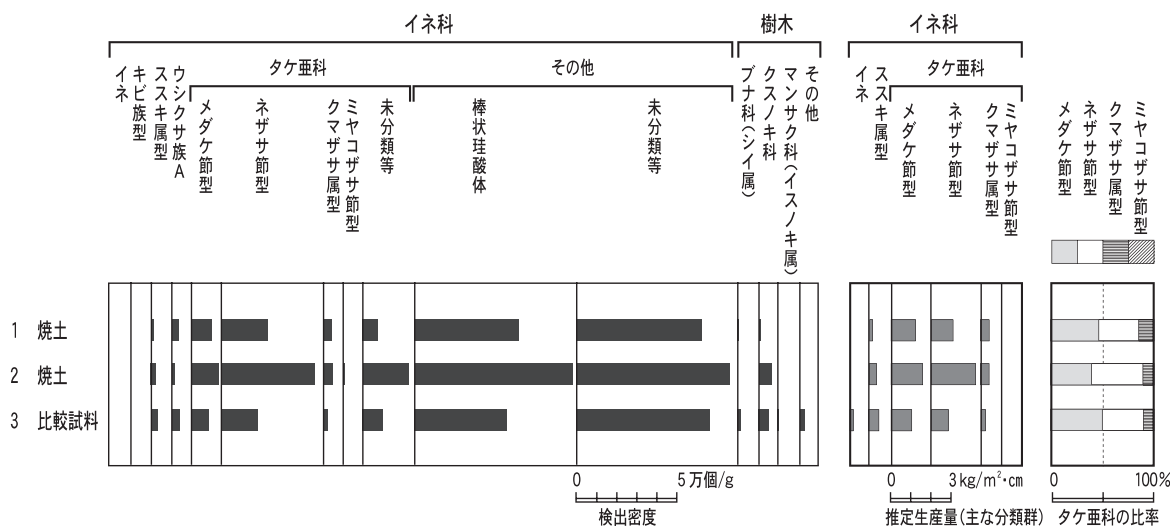


図2 諏訪牟田遺跡、焼土1における植物珪酸体分析結果

表5 鹿児島県、農業センター遺跡群における植物珪酸体分析結果

検出密度(単位:×100個/g)

地点・試料		南原内堀遺跡						諏訪牟田遺跡			馬塚松遺跡	
		64 トレンチ						焼土			SH9	
分類群	学名	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2
イネ科	Gramineae(Grasses)											
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)									7		
キビ族型	Paniceae type		7	8	7			6				
ヨシ属	<i>phragmites</i> (reed)		7									
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	23	14	15	7			13	29	35	7	67
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	29	29	45	51	7		44	22	49	68	80
シバ属	<i>Zoisia</i>										14	20
タケ亜科	Bambusoideae(Bamboo)											
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>			8				108	139	92	109	160
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		7					235	470	183	422	479
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	11	36	30	22	49	67	51	51	28	14	27
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>			15	15	56	37		7			7
未分類等	Others	6	22	23	7	14	7	76	227	99	306	253
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin	11	14	8	7		7				14	
棒状珪酸体	Rod-shaped	63	87	45	117	112	37	521	785	466	721	739
茎部起源	Stem origin		7									
未分類等	Others	161	254	98	263	259	247	629	763	663	762	819
樹木起源	Arboreal											
ブナ科(シイ属)	<i>Castanopsis</i>							6		14	27	7
クスノキ科	Lauraceae	6		8				13	66	56	54	80
マンサク科(イスノキ属)	<i>Distylium</i>									7		
その他	Others								7	28		7
植物珪酸体総数	Total	310	486	301	496	497	405	1703	2568	1729	2518	2743

おもな分類群の推定生産量(単位:kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)									0.21		
ヨシ属	<i>phragmites</i> (reed)		0.46									
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.28	0.18	0.19	0.09			0.16	0.36	0.44	0.08	0.83
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>			0.09				1.25	1.62	1.06	1.26	1.85
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		0.03					1.13	2.25	0.88	2.02	2.30
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	0.09	0.27	0.23	0.16	0.37	0.51	0.38	0.39	0.21	0.10	0.20
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>			0.05	0.04	0.17	0.11		0.02			0.02

タケ亜科の比率(%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>			24				45	38	49	37	42
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>		11					41	53	41	60	53
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	100	89	63	79	69	82	14	9	10	3	5
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>			13	21	31	18		1			0

第Ⅴ章 諏訪前遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の経過

諏訪前遺跡は、平成10年度、11年度に本調査を実施した。本調査は、農業大学校の研修棟建設部分、畑地整備で削平される範囲を対象とした。

平成10年度日誌抄

4月 調査開始。表土剥ぎ

5月 J～N-4～8区のⅡ層・Ⅲ層上面調査。縄文時代晩期の入佐式土器が多く出土。

6月 Ⅱ層・Ⅲ層の調査。縄文時代晩期の遺構（土坑・埋設土器・柱穴列）検出。

7月 Ⅲ層掘り下げ。一部下層確認トレンチ調査。M・N-2～4区の調査開始。M-2区において竪穴住居跡（弥生時代）検出。攻玉砥石管玉・小玉等出土。

8月 柱穴列の調査（掘り下げ、実測）。Ⅳ層（縄文時代早期）の調査。集石遺構検出・実測。

10月 弥生時代終末～古墳時代の竪穴住居跡の調査（掘り下げ、実測）。縄文時代晩期土坑調査。

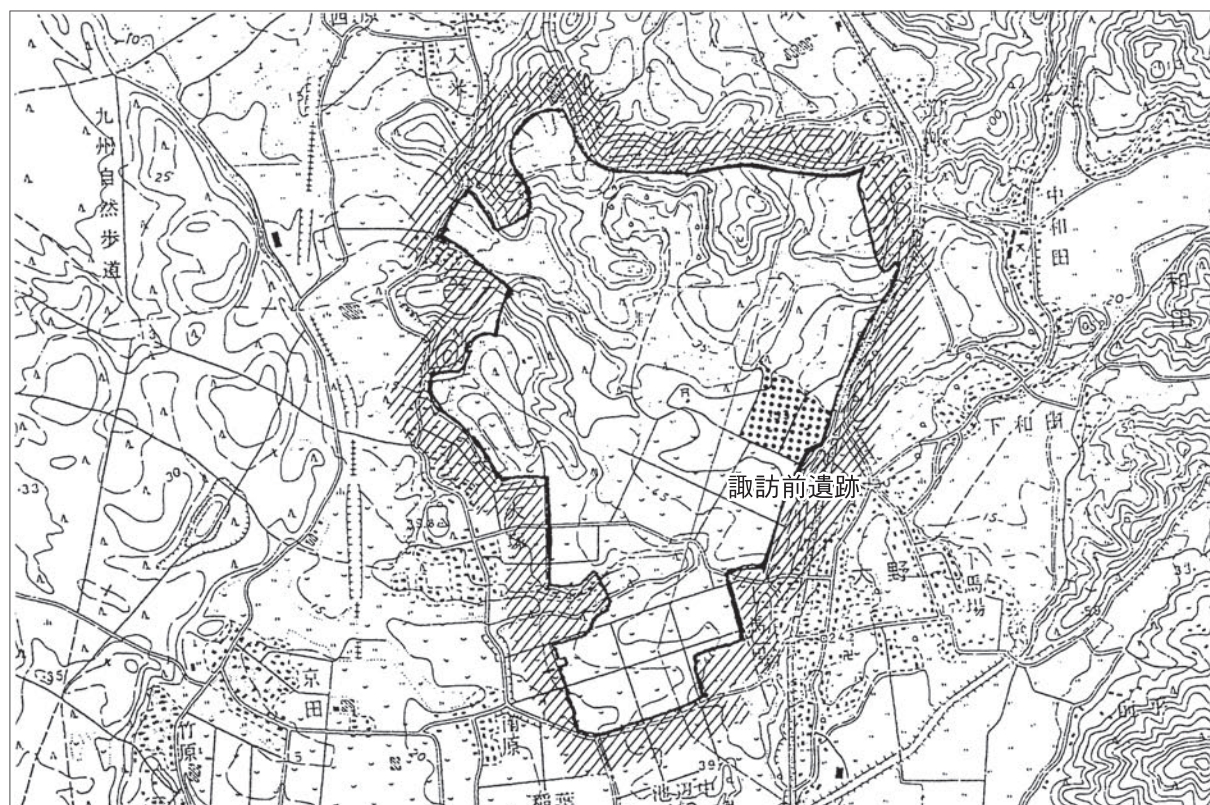
11月 竪穴住居跡の調査。土坑の調査。河口貞徳・本田道輝・中村明蔵・上村俊雄現地指導。

12月 土坑・柱穴列の調査。研修棟部分の表土剥ぎ。Ⅱ層・Ⅲ層掘り下げ。成尾英仁現地指導。

1月 H～J-4～8区の調査。Ⅲ層掘り下げ。縄文時代晩期の遺構・遺物出土。弥生～古墳時代の竪穴住居跡検出・調査。

2月 縄文時代晩期の調査（土坑・柱穴列・埋設土器）。竪穴住居跡の調査。トレンチによる下層確認。縄文時代早期の遺物出土。設楽博巳現地指導。

3月 壁断面実測。土坑調査。



第1図 諏訪前遺跡位置図

平成11年度日誌抄

- 4月 平成11年度調査開始。Ⅲ層（縄文時代晩期）掘り下げ。弥生時代竪穴住居跡調査。一部Ⅳ層（縄文時代早期）掘り下げ。
- 5月 Ⅳ層・Ⅴ層掘り下げ。
- 6月 Ⅲ層及びⅣ層・東側の畑地整備に削平される範囲（F～N－11～17区）の表土剥ぎ。
- 7月 表土剥ぎの終了した範囲の精査，Ⅱ層掘り下げ。古道・溝状遺構（中世）検出。Ⅲ層掘り下げ。縄文時代晩期の遺物が多く出土。
- 8月 Ⅲ層掘り下げ。溝状遺構掘り下げ・実測。一部Ⅳ層掘り下げ。
- 9月 Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ層掘り下げ。
- 10月 壁断面実測。
- 11月 Ⅲ層掘り下げ。清田純一・土田充義現地指導。
- 1月 Ⅲ層掘り下げ。遺構検出。弥生時代の竪穴住居跡調査。縄文時代晩期土坑検出・調査。
- 2月 縄文時代晩期土坑調査。Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。縄文時代早期の遺物出土。集石遺構検出・実測。
- 3月 下層確認のためのトレンチ調査旧石器時代相当の遺物（剥片）が出土。上村俊雄・本田道輝・永山修一現地指導。調査を終了する。

第2節 遺跡の層序

諏訪前遺跡における層序は、農業開発総合センター遺跡群における標準的な層序と同様である。大野原台地の北側に位置している。昭和40年代に圃場整備が行なわれているため、現在はほぼ平坦な地形であるが、調査を実施した結果では、西側に谷の入っている地形であることが判明した。また、圃場整備事業により上位の地層が削平されている範囲もみられた。

第3節 発掘調査の方法及び概要

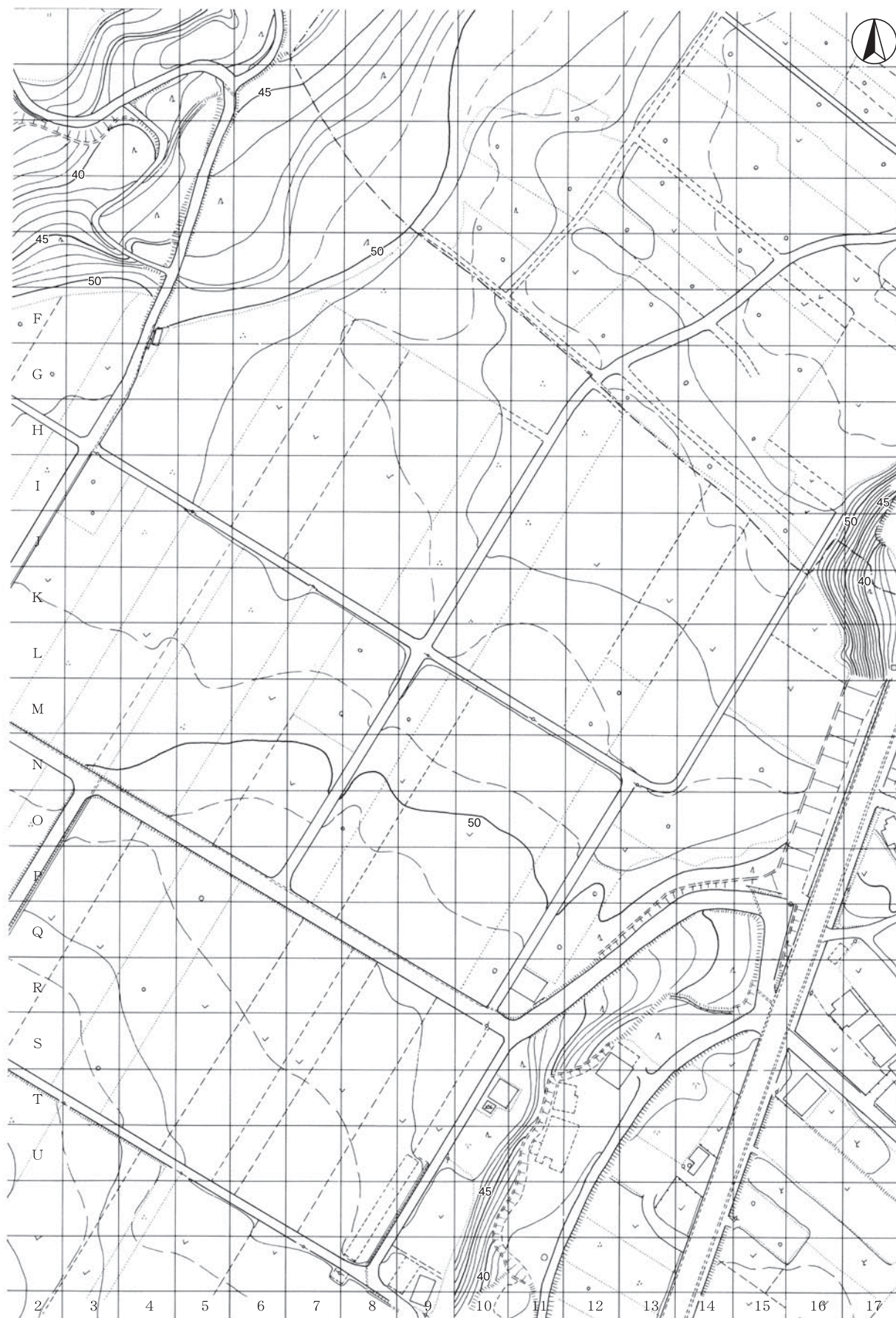
発掘調査は国土座標にあわせた20×20mの調査範囲（グリッド）を設定して実施し、遺跡地内の北側からA・B・C…，西側から1・2・3…とした。

遺跡は、東側には国道270号線が走り、北側は日置市の建石ヶ原遺跡・古里遺跡，西側は諏訪牟田遺跡，南側は諏訪脇遺跡・大門口遺跡に接している。標高約50mのほぼ平坦な台地上に在り、北側及び北西側に比高差約20mの谷が入り込んでいる。

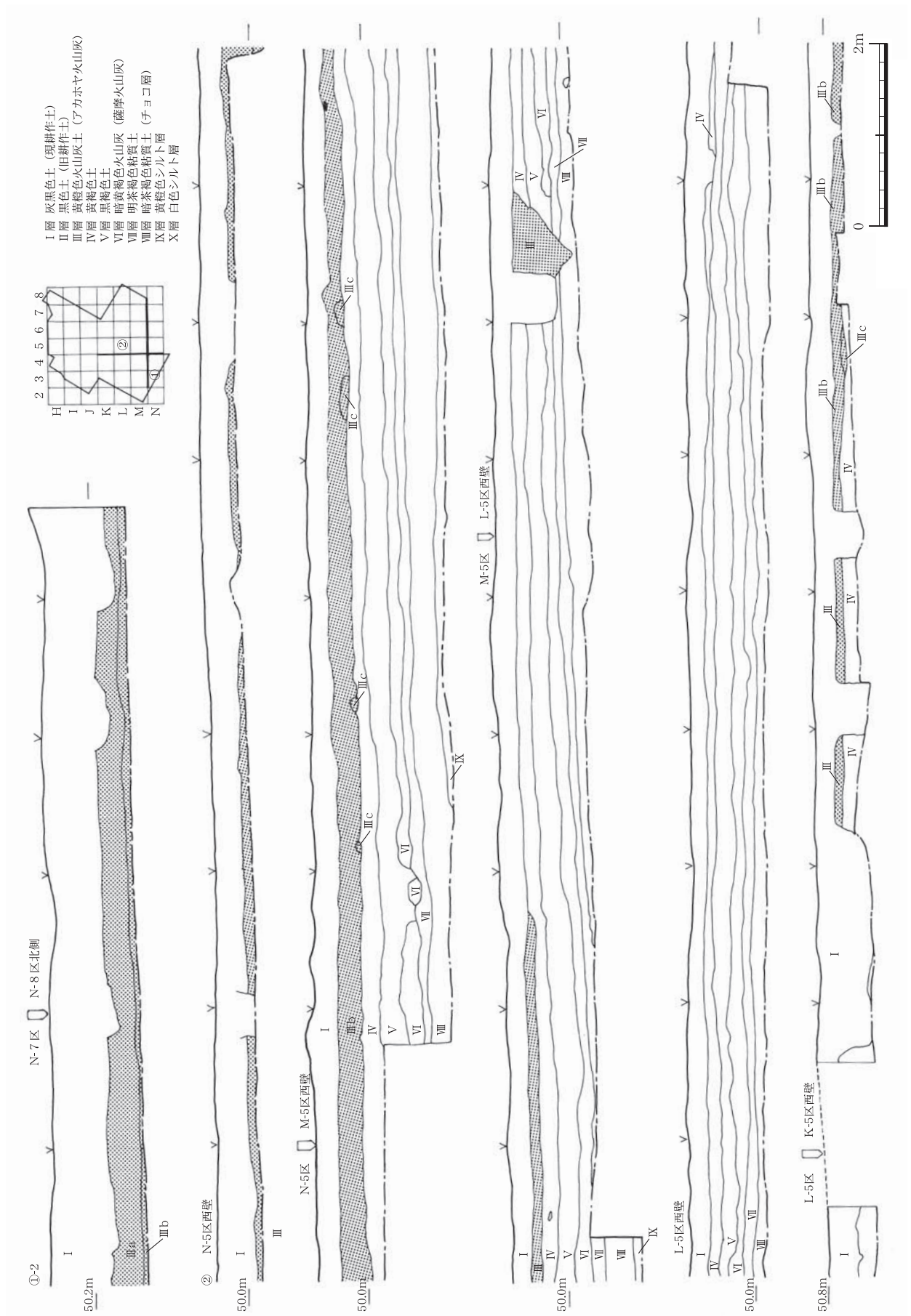
調査の結果，Ⅱ層からは弥生時代から中世までの遺物・遺構が出土している。古代から中世では道跡と溝状遺構が検出され，青磁・須恵器等が出土している。弥生時代・古墳時代では弥生時代終末から古墳時代初頭に位置付けられる中津野式土器を有する竪穴住居跡が3軒検出され，1号住居からはドラゴン（龍）を描いたと思われる土器片も出土している。Ⅲ層からは上部は縄文時代晩期の遺構・遺物が多く見られる。遺構は柱穴が3～6個一列に並んだ柱穴列，1間×1間の掘立柱建物跡，土坑，埋設土器などが検出された。遺物は入佐式土器を中心に数多く出土し，管玉等の玉類と攻玉用砥石や石器も出土している。Ⅲ層中位にはわずかではあるが後期の指宿式土器・市来式土器が出土している。Ⅳ層・Ⅴ層からは縄文時代早期の石坂式土器を中心に押型文土器・前平式土器等が出土し集石遺構も数基検出されている。Ⅶ層からは旧石器時代の遺物が出土している。

第4節 旧石器時代の調査成果

旧石器時代については，下層確認のトレンチ調査において剥片が出土したが，旧石器時代の包含層まで影響が及ばないため，本調査は実施しなかった。遺物も小剥片・チップのため図化し得なかった。



第2図 地形図及びグリッド配置図（1グリッド：20m）



第4図 諏訪前遺跡土層図(2)

第5節 縄文時代の調査

縄文時代は、早期及び晩期の遺物出土量が際立っている。早期では、集石遺構3基が検出され、土器・石器が多く出土している。晩期では、1間×1間の掘立柱建物跡、柱穴が3～6個一列に並ぶ柱穴列、土坑、焼土跡等の遺構が多く検出され、土器・石器も多く出土している。土器は入佐式土器が主体である。中期・後期の遺物も出土してはいるが、量は少ないもので遺構も検出されなかった。

1 縄文時代早期の調査

縄文時代早期では、集石遺構が3基が検出されたのみで遺構は少なかった。

土器は、早期前半のⅠ類土器から終末のⅧ類土器までの8類に分類されるものが出土している。しかしながら大半はⅣ類土器である。石器も石鏃・石匕・石斧・磨石・敲石・石皿等豊富である。

(1) 遺構 (第5図)

遺構は集石遺構が3基検出された。

① 1号集石遺構 (第5図)

J－5区Ⅳ層において検出されたもので、小児の頭大の台石状の礫が1個と10cm以下の角礫十数個で構成されている。礫の密集度合いは低い。しっかりと掘り込みは確認されていないが、礫の検出状況に30cm以上の高低差が見られることから掘り込みのあった可能性もある。

② 2号集石遺構 (第5図)

調査区の北西部分、H－3区において検出されたもので、現況で80×50cmの楕円形プランを呈する。拳大の角礫40個程度で構成されている。掘り込みの深さは、検出面から約20cmで底面の立ち上がりは平面プランと同様の楕円形で、床面は平坦である。

③ 3号集石遺構 (第5図)

調査区の北端部分、H－4区において3×2.5mの広い範囲に拳大の角礫が散在する状況で検出された。西側は、やや密集しているが、中央部にはほとんど礫は見られない。調査区北端であり、北西へ広がる可能性もある。

(2) 遺物 (第7図～第22図)

① 土器 (第7図～第16図)

土器はⅠ類～Ⅷ類までの8類に分類される。

Ⅰ類土器 (第7図)

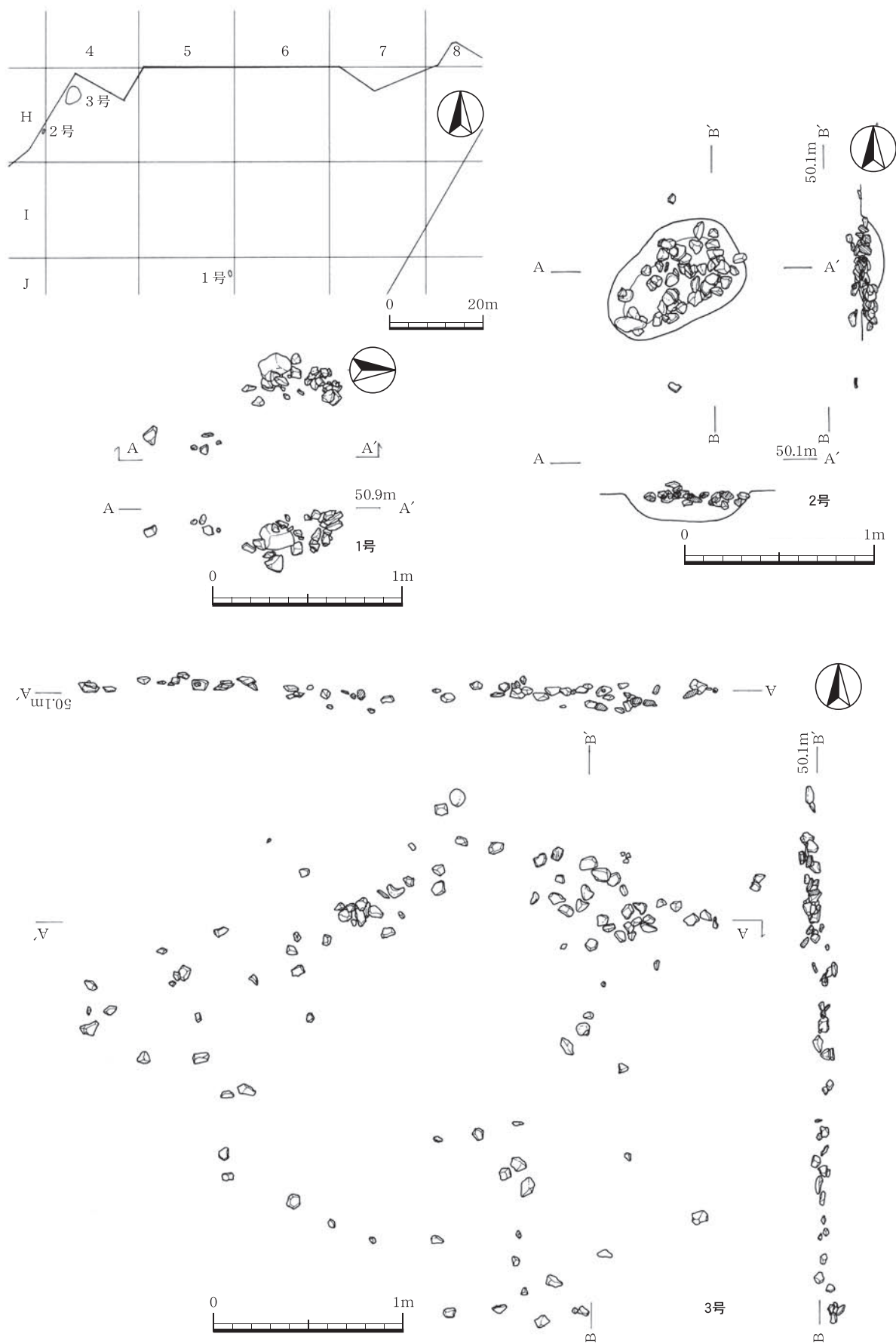
Ⅰ類土器は1点だけである。1は口縁部径15cmを測る深鉢形土器である。平坦な口唇部の外側にヘラによる刻目を施したためによる段を有する。口縁部直下に貝殻押引文を施し、その下に横位の貝殻刺突文を施すものである。胴部は内外面ともに貝殻条痕の後のナデ整形である。

Ⅱ類土器 (第7図)

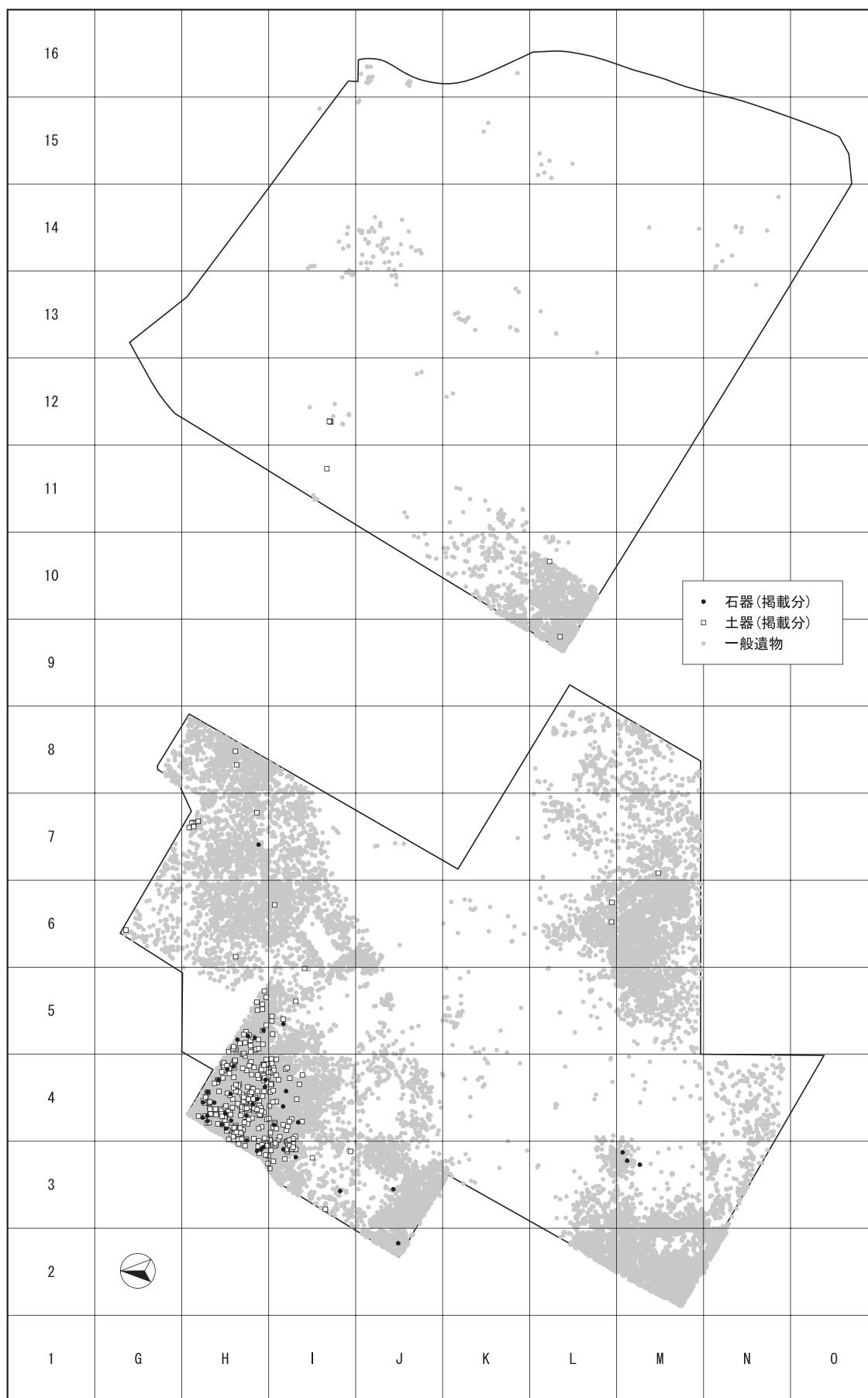
2・3の2点である。2は口縁部径10.2cmを測る。円筒土器である。口縁部直下に貝殻押引文、その下に横位の貝殻刺突文が施されるもので、口唇部は平坦で刻目が見られる。胴部には地文の貝殻条痕の上に2条の貝殻肋による沈線を斜位の直線文と縦位の流水文が施される。3は角筒土器の胴部で、2と同様の施文が見られる。

Ⅲ類土器 (第7図)

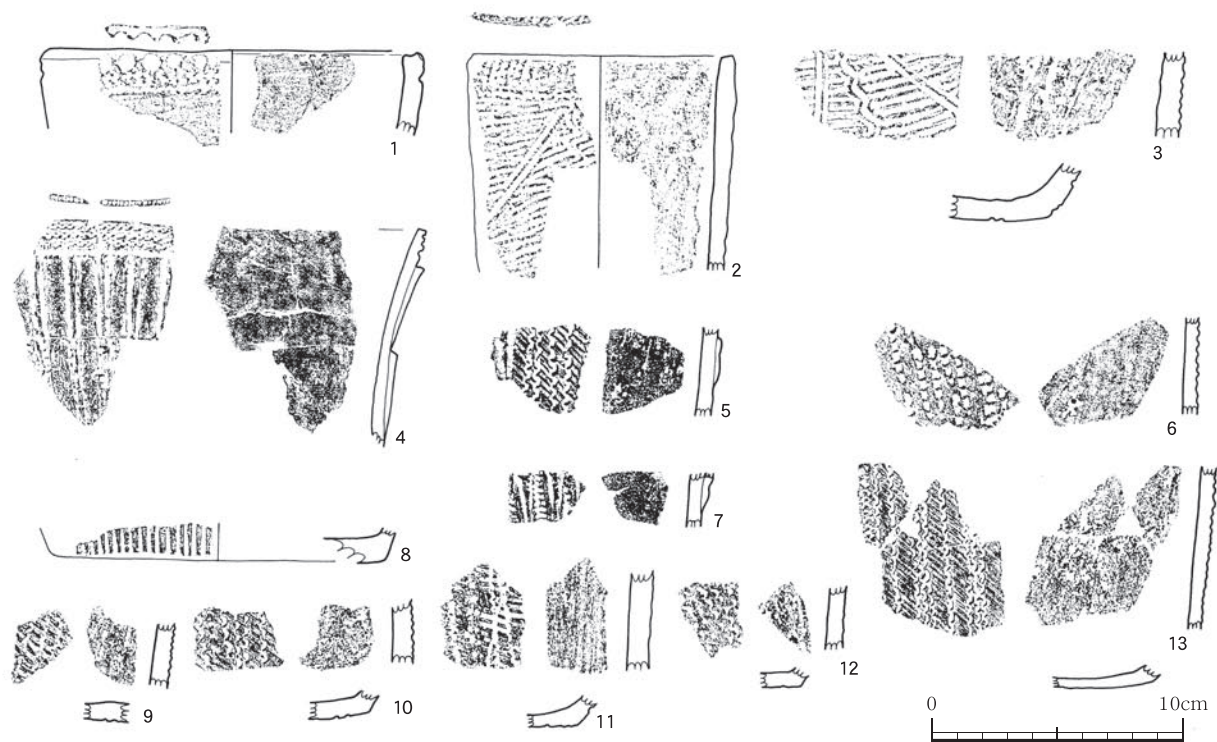
10点出土している。4～8は円筒土器で9～13は角筒土器である。4～6はクサビ形貼付文を有するものである。4は口縁部直下に横位の貝殻刺突文を4条施し、平坦な口唇部には刻目が見られる。クサビ形貼付文は2段で、その間はナデにより条痕が消されている。5は斜位の押引文が施される。6はクサビの間に深めの貝殻刺突文が施される。7は斜位の押引文の後でナデ整形が施されているため、条痕が消え、刺突文だけが残っている。8は底部径13cmを測るもので、縦位の沈線文が施される。9～13は角筒土器で、いずれも斜位の押引文が施される。



第5図 1～3号集石遺構



第6図 縄文時代早期遺物出土状況（1グリッド：20m）



第7図 縄文時代早期土器（1）

I～Ⅲ類土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第7図	1	I-3	Ⅲ	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 刻み目あり	ナデ	
	2	H-7	Ⅲ	口縁部から胴部	にぶい橙	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ケズリ	スス(外)
	3	H-8	Ⅳ	胴部	赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ケズリ	角筒
	4	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○			良	模形突起 貝殻刺突文(縦位横位)	ナデ	
	5	H-4	Ⅴ	胴部	橙	橙	○	○	○		良	押引文(斜行) 貝殻刺突文(縦位) 模形突起	ケズリ	
	6	—	—	胴部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(縦位) 模形突起	ナデ	
	7	M-7	Ⅱ	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(縦位)	ナデ	
	8	—	—	底部	橙	にぶい橙	○		○		良	刻み目あり	ナデ	剥落あり(両面)
	9	I-4	Ⅲ	胴部	黒	黒	○				良	押引文(斜行)	ケズリ	角筒
	10	H-4	Ⅳ	胴部	黒	橙	○	○			良	押引文(斜行)	ナデ	角筒
	11	I-4	Ⅲ	胴部	黒	にぶい黄橙	○	○	○		良	押引文(斜行) 貝殻刺突文(縦位)	ケズリ	角筒
	12	H-4	Ⅴ	胴部	灰黄褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文(縦位)	ケズリ	角筒
	13	I-4	Ⅴ	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	押引文(斜行)	ケズリ後ナデ	角筒

Ⅳ類土器（第8図～第14図）

Ⅳ類土器は、口縁部に貝殻刺突文を、胴部の地文に貝殻条痕文を施す円筒土器である。口縁部の形態、文様、胴部の条痕文により細分される。

口縁部の形態では、外反するものと直行するものに大きく分けられる。文様では、貝殻腹縁による刺突文が斜位、横位、縦位または、羽状に施されているもので分けることができる。胴部の条痕文は綾杉状条痕が見られるものもある。

14～40は、口縁部が外反し、貝殻腹縁による刺突文を斜位に施し、一部は条痕文も有するものである。

14は、口縁径30cm、器高36cmを測る大形のものである。口縁部の外反がわりと大きく、口唇部はヘラ状工具による刻目を施している。口縁部は貝殻腹縁による刺突文が斜位に施され、胴部には綾杉状条痕文が見られる。底部は横位の条痕文が確認される。15は、口縁径26cmを測る。口縁部の外反は14よりやや抑えられ、口唇部内側に貝殻刺突文が見られる。胴部は綾杉状条痕文が認められる。16～20は、口縁部が外反し、貝殻腹縁による刺突文が斜位に施されている。16は刺突文の下部にやや太めの条痕文が見られる。20は口縁部がやや厚いものであり、外反がやや強い。21～24は、20とくらべ、口縁部の外反が緩やかなものである。22と24については、胴部に向かう部分に貝殻腹縁による条痕文が見られる。25は21～24よりも外反が強く、半裁竹管によると考えられる口唇部の刻みがある。26、28・29は、口縁部の外反がやや緩やかで、貝殻腹縁による斜位の刺突文が見られる。28については、刺突文がやや押引状に見られ、深いところと浅いところが存在する。胴部に向かう部分に斜位の条痕文も見られる。27、30～40は口縁部における器形が外反している。とくに31、35、39・40は反りが大きい。それぞれ、貝殻腹縁による刺突文が斜位に施され、胴部を持つものは条痕文が斜位・綾杉状に見られる。35だけは、条痕文が横位に見られる。38は、口唇部の刻目が綾杉状にていねいに施されている。39については口唇部の刻目が浅い。

41～50は、口縁部がやや外反しているものから、完全に外反しているものである。また、貝殻腹縁に

よる刺突文は羽状の形になっている。44は、刺突文が浅めに施され、直線的であり、波状口縁である。46は、反りが大きく、内面の様子を真上から眺めることができる程である。47は刺突文が押引状に近く、斜位に近い向きで深く施されている。

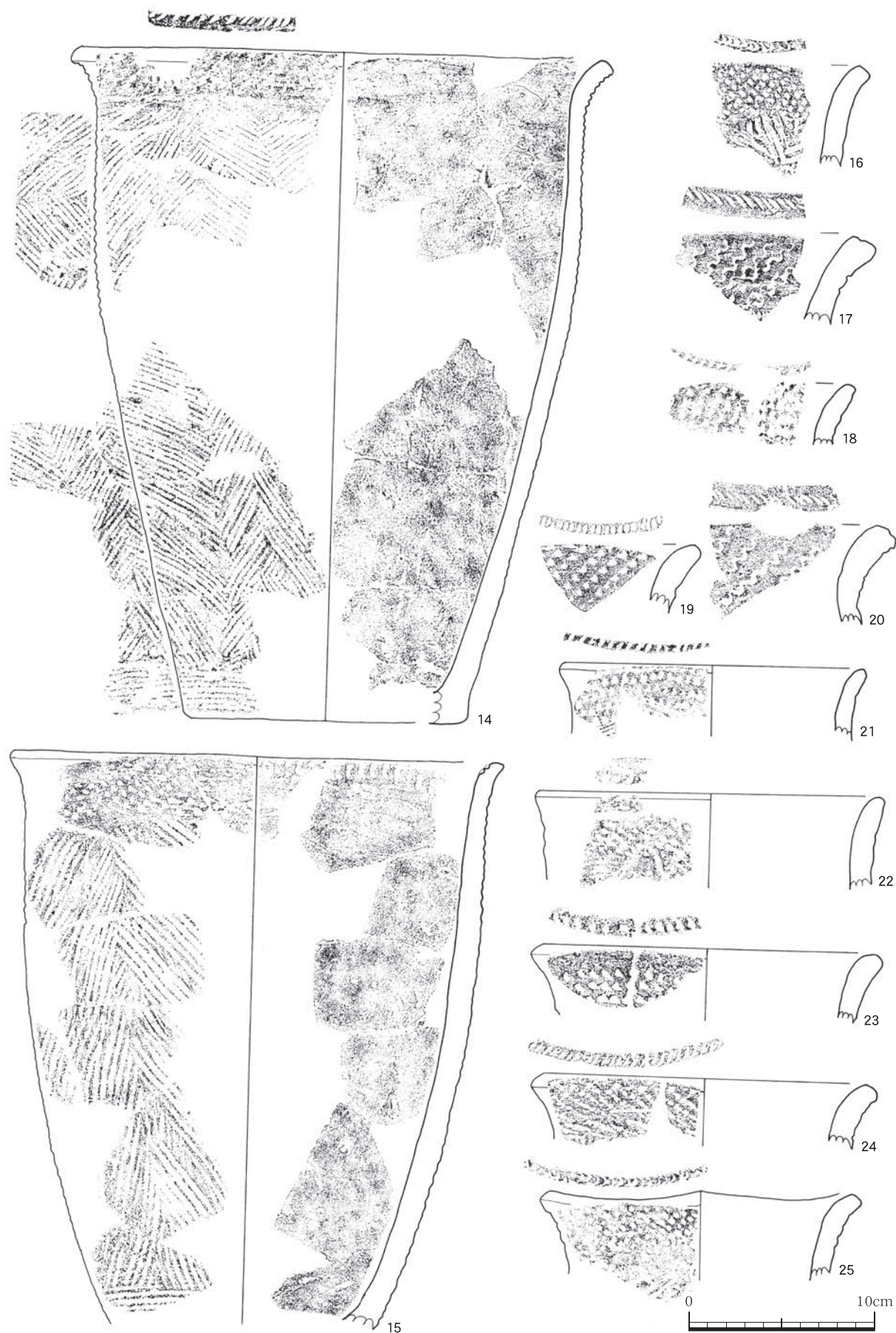
50・51は、同一固体と思われるものである。直行気味の胴部で、口縁部下位は薄くなり、口縁部が外反するものである。口縁部は羽状の刺突文が施され、胴部には細くて浅い条痕文が綾杉状および斜位に施されるものである。

52～65は、口縁部が外反し、貝殻腹縁による刺突文が横位に見られるものである。とくに、56と62～64の外反の度合いは大きい。また、52・53、56、61～65は、刺突文の下部に貝殻条痕文が見られる。

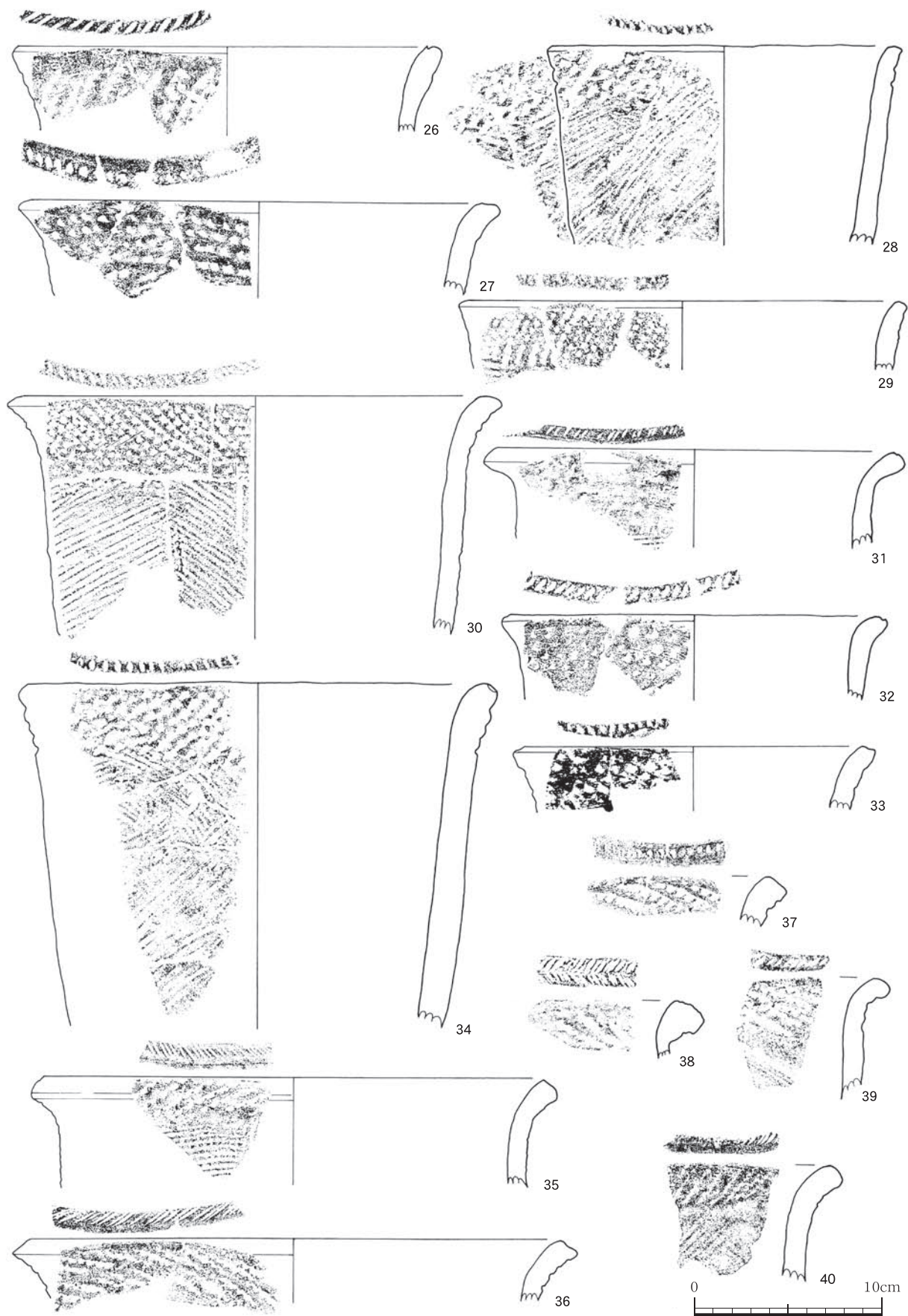
66～79は、口縁部が外反しているもので、外面上部に貝殻刺突文が横位に施され、そのすぐ下部にくっつけるような形で、刺突文が斜位に施されている。75は、斜位の傾きが、ほとんど真横に近い角度で施されている。

80～85は、貝殻腹縁による刺突文が横位に施されている。80は、綾杉状の条痕文も見られる。81は、横位の刺突文の下部に斜めの刺突文が三箇所小さめに施されている。

86～88は、押引文が横位に見られる。その中で、86は、同じ施文具で行なわれたと考えられる条痕文も見られる。89は貝殻腹縁による羽状の刺突文が見られる。90は、刺突文が横位に施され、その下部に浅く、縦位の刺突文が見られる。一部は条痕文と重なっている。91～93は刺突文が横位の部分と羽状の形をしている部分がある。とくに、91と93はその領域がはっきり区分されている。94は、口縁部に縦位に刺突文を等間隔でていねいに施している。95・96は口縁部に竹管文が施され、その下部に条痕文も見られる。97・98は口縁部に刺突文が縦位と横位に施されている。97は、大部分が縦位であり、その下に2条の横位の刺突文が見られる。下部には、綾杉状の条痕文も見られる。99は、口唇部は残っていないが、外面の形状から推測して、口縁部付近と思われる。刺突文は縦位に施されているが、条痕文は縦位、斜位と混ざっている。施文は小さく、浅い。



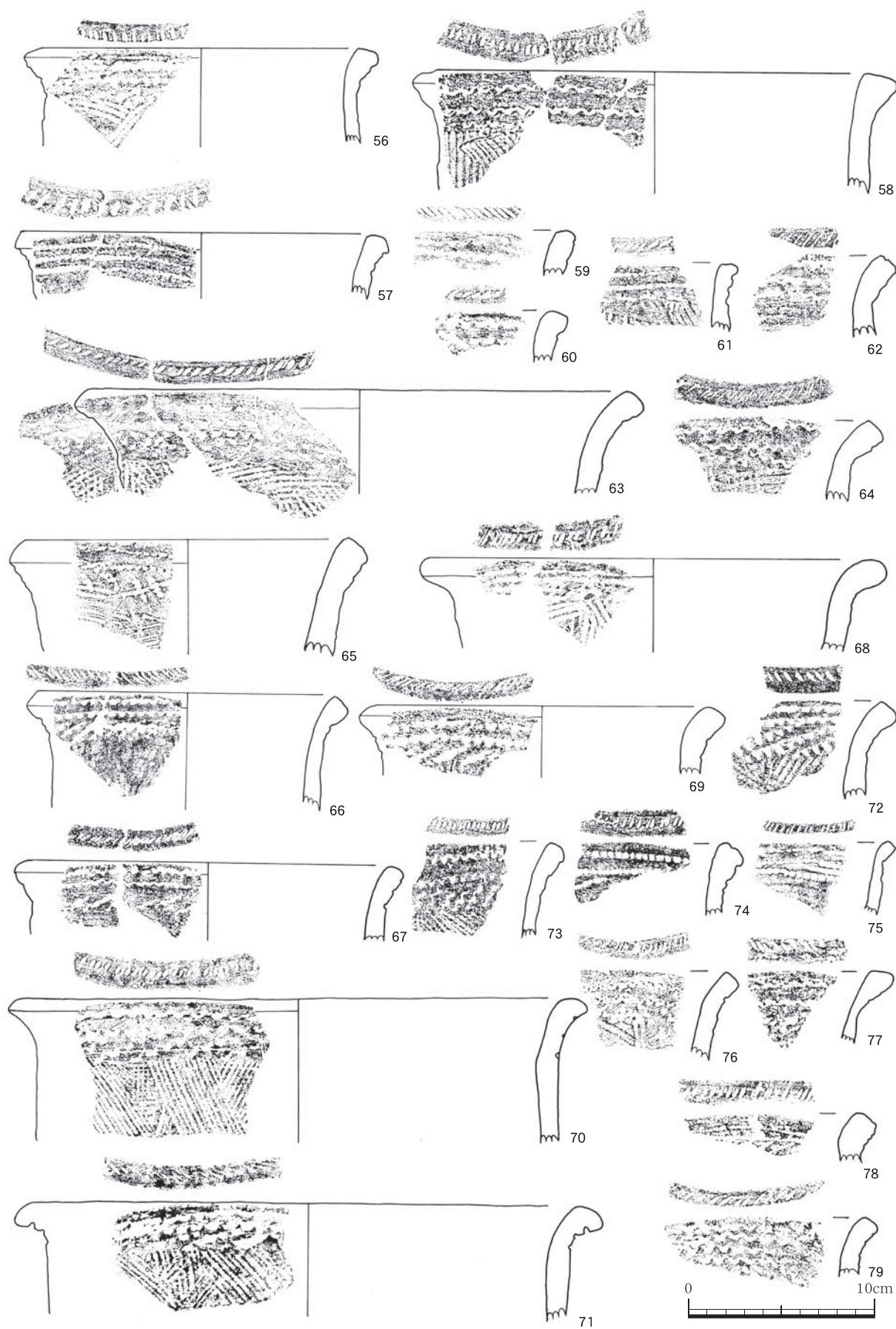
第8図 縄文時代早期土器（2）



第9図 縄文時代早期土器（3）



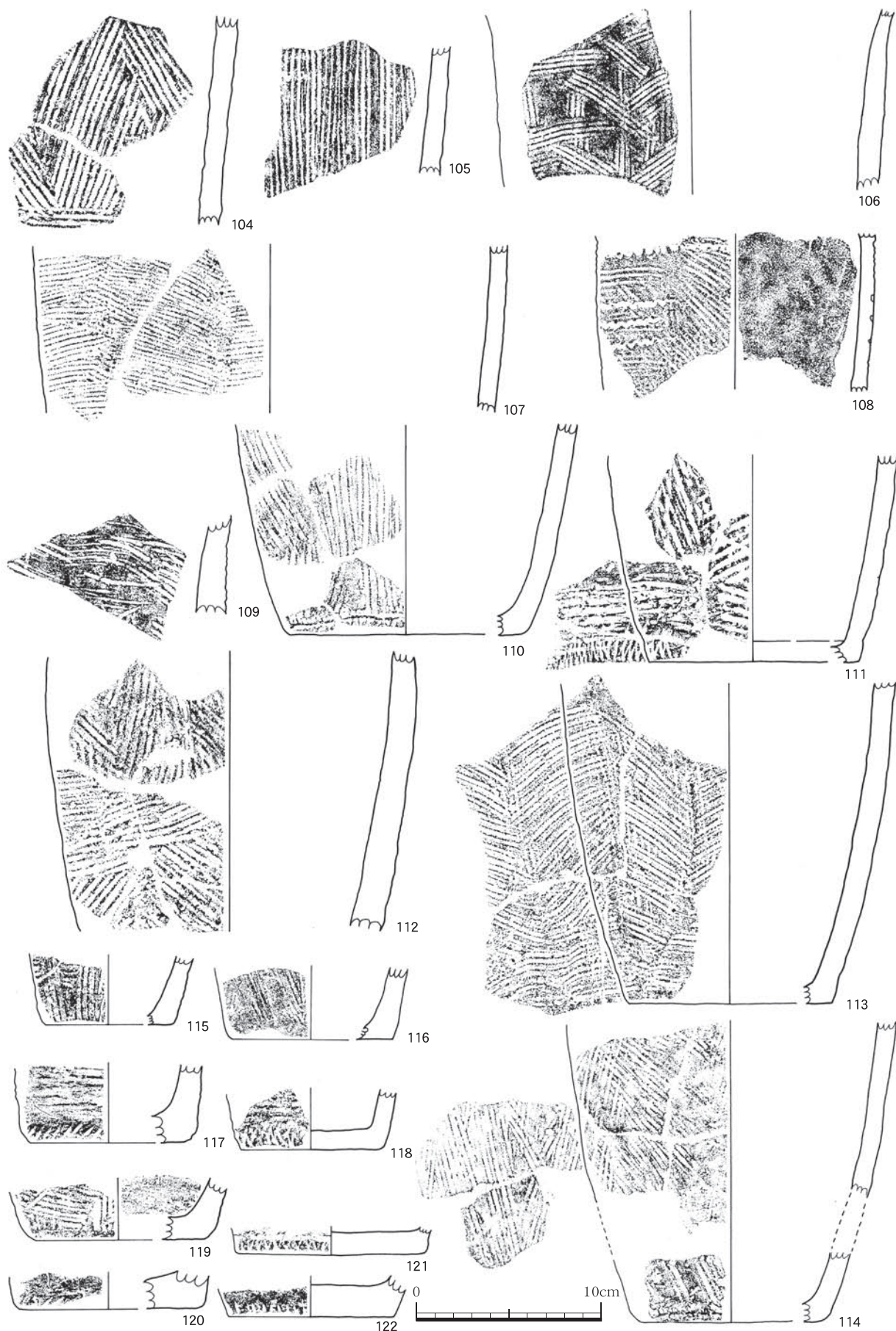
第10図 縄文時代早期土器（4）



第11図 縄文時代早期土器 (5)



第12図 縄文時代早期土器（6）



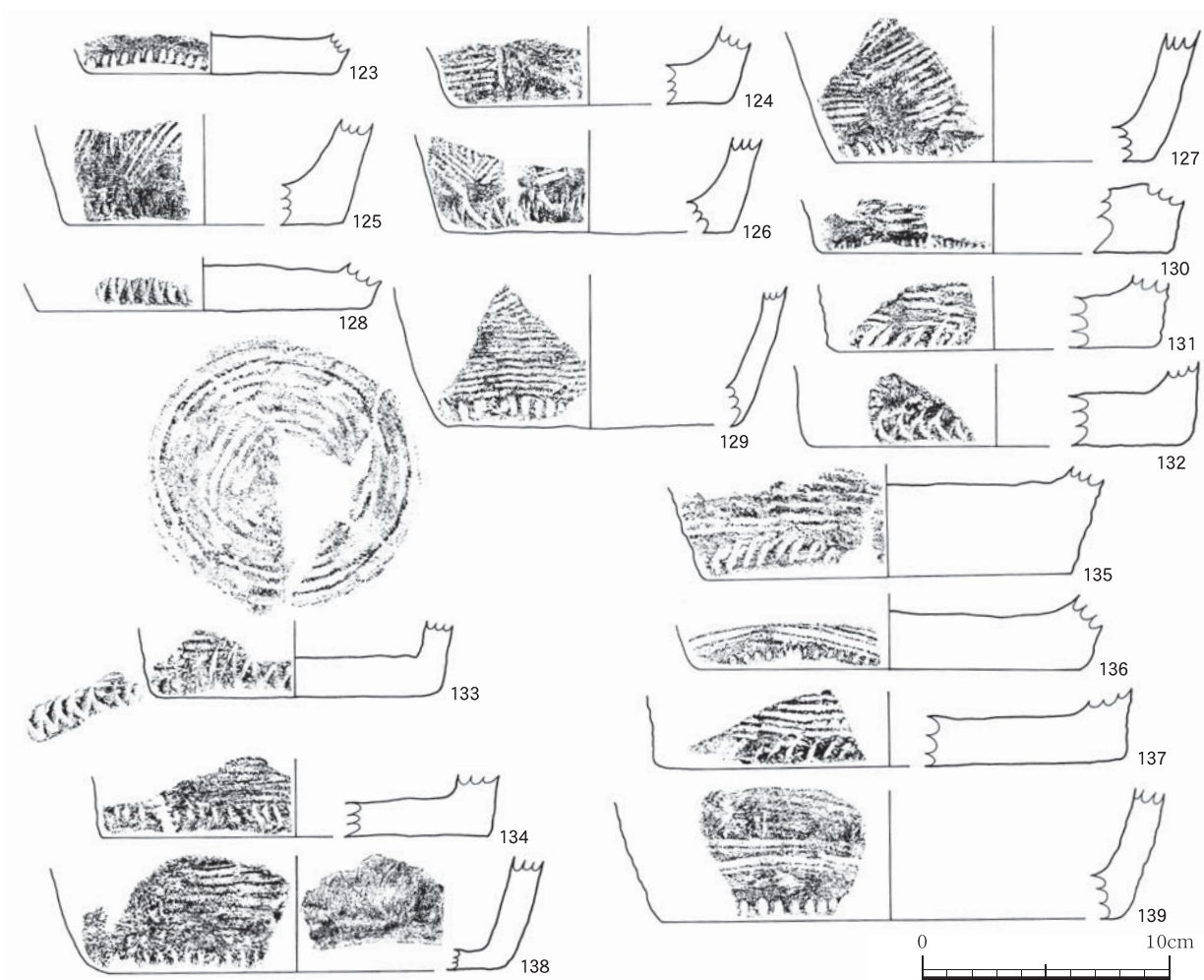
第13図 縄文時代早期土器 (7)

100は口縁部から底部に至るまで、刺突文が縦位、横位、斜位に部分ごとに施されている。その割合はあまり偏りが無い。外底部には、ヘラ状施文具による縦位の沈線文を浅く施している。101は、外面にナデ調整を行い、口唇部にはヘラ状施文具で沈線文が施されている。内面はケズリ調整が見受けられる。102は口縁径が8.5cmで、外面には貝殻腹縁による条痕文が細かく施されている。口唇部は特徴的な文様が見られない。

103～109は胴部である。103は、外面全体に条痕文が直線で大きく施される。頸部付近に横位の刺突文の形跡がかすかに見られる。104～109は貝殻腹縁による条痕文が施されている。104の内面にはススの付着が見られる。108は横位の刺突文が重ねて施されている。109は弧状に条痕文が施され、太さが一様ではない。

110～137は底部である。110～119は、貝殻腹縁による条痕文が施されている。また、110、114は、底面と平行に横位の刺突文が1～2条見られる。

111、117・118は、底部下面に刻目が見られる。120～123は底部下面に刻目があり、とくに121は底面と平行に1本の条痕文が見られる。内面は同心円状に条痕文が施されているが、その施文は薄く仕上げられている。124～127は貝殻腹縁による条痕文が施され、下部には刻目も見られる。ただし、125は、刻目がヘラ状のもので薄く仕上げられ、126は鋸歯状に仕上げられている。128は、底部下面に刻目が見られる。内面はナデ調整が行なわれているが、ていねいな平面には仕上がっていない。129・130は、貝殻腹縁による条痕文が施され、底部下面に刻目がある。ただし、130は剥落部分が大きく、はっきり見えない部分がある。131～139は、底部下面に刻目があり、その上部は貝殻腹縁による条痕文がある。ただし、132は条痕文がはっきりしない。133は、内面に同心円状に条痕文がていねいに施され、外面の刻み目は鋸歯状である。135は底面の直径が約15cm、厚さが3.3cmで、ずっしりした重みを感じる。



第14図 縄文時代早期土器（8）

Ⅳ類土器観察表 (1)

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 8 図	14	I-3, 4, 5	Ⅳ	完形	橙, 黒	橙, にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	
	15	I-4	V	完形	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	黒斑 (内)
	16	H-4	Ⅳ	口縁部	黒褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	17	H-4	V	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	18	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	19	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	20	I-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	21	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	22	I-4	V	口縁部	橙	褐灰	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	23	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	24	H-4	Ⅳ	口縁部	明赤褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	25	H-4	Ⅳ	口縁部	黒褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
第 9 図	26	I-4	Ⅳ	口縁部	明赤褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	27	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	28	H-5	Ⅳ	口縁部	灰褐	褐灰	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	29	I-4	Ⅳ	口縁部	明黄褐, にぶい橙	明黄褐, にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	30	H-4, I-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	31	I-4	V	口縁部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	32	H-5	V	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	33	H-3, I-5	Ⅳ	口縁部	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	34	H-4	V	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	35	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	36	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	37	H-4	V	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
第 10 図	38	H-4	Ⅳ	口縁部	浅黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位)	ナデ	
	39		V	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	40	H-4	V	口縁部	明赤褐	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	41	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	42	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○		○		良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	43	H-5	Ⅳ	口縁部	浅黄橙	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状) 貝殻条痕文	ナデ	
	44	H-4	V	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	45	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	46	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	47	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状) 貝殻条痕文	ナデ	
	48	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(羽状) 貝殻条痕文	ナデ	
	49	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
第 11 図	50	H-4	V	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状) 貝殻条痕文	ナデ	
	51	H-4	V	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	52	H-4	Ⅳ	口縁部	暗褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	53	H-4, I-4	Ⅳ	口縁部	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	54	H-4, I-4	Ⅳ	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	55	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	56	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	57	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	58	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	59	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	60	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	61	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
第 12 図	62	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	63	I-5	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	明黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	64	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	65	H-4	V	口縁部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	66	H-4, I-3	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	67	H-4, I-4	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	68	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	69	G-6	Ⅲ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	70	I-4	Ⅳ	口縁部	浅黄	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	71	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	72	H-4	Ⅲ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	73	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
第 12 図	74	I-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	75	I-3	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位斜位) 貝殻条痕文	ナデ	
	76	I-4	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	77	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	78	H-4	Ⅳ	口縁部	橙	明赤褐, にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	79	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	80	H-3, I-5	Ⅳ	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	
	81	H-3, 4	Ⅳ	口縁部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位斜位)	ナデ	
	82	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	微量	良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	83	H-4	V	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	84	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位)	ナデ	
	85	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
第 12 図	86	H-4	Ⅳ	口縁部	灰褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	押引文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	87	H-4	Ⅳ	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○		良	押引文(横位)	ナデ	
	88	H-4	Ⅳ	口縁部	灰黄褐	黒褐	○	○	○		良	押引文(横位)	ナデ	
	89	H-4	Ⅳ	口縁部	明黄褐	浅黄	○	○	○		良	貝殻刺突文(羽状)	ナデ	
	90	H-4	Ⅳ	口縁部	灰黄褐	にぶい橙	○		○		良	貝殻刺突文(縦位横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	91	H-4	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位・羽状) 貝殻条痕文	ナデ	ケズリ後ナデ

V類土器（第15図）

円筒系条痕文土器と呼ばれるもので復元完形になる2点が出土している。140は口縁部径24cm、器高33cmを測る。平底の底部からわずかに開いて立ち上がり、胴部はわずかに膨らむ。口縁部はやや外反し端部は丸い。口縁下位から胴部上位にかけて斜位の条痕文が施された後で、横位の条痕文が施されるものである。141はややいびつな器形である。口縁部径21.2cm、器高31cmを測る。器形は140とほぼ同様である。口縁下位から胴部上位にかけて横位の条痕

文が施される。

VI類土器（第15図）

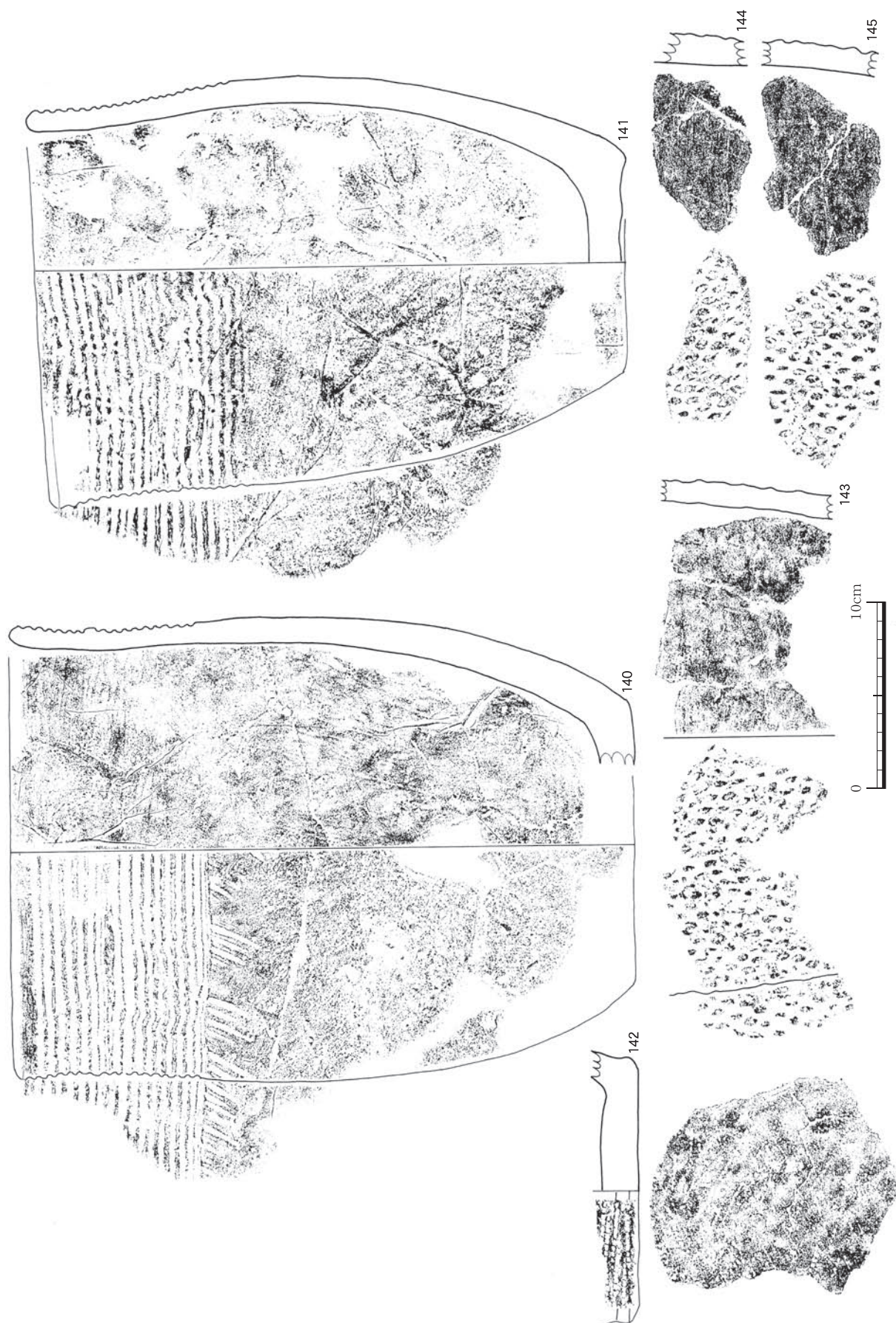
底部1点だけが出土している。142は底部径14.2cmを測る。底部側面に横位の貝殻刺突文が施されるものであるが、外底面にも貝殻刺突文が施されている珍しいものである。

VII類土器（第15図）

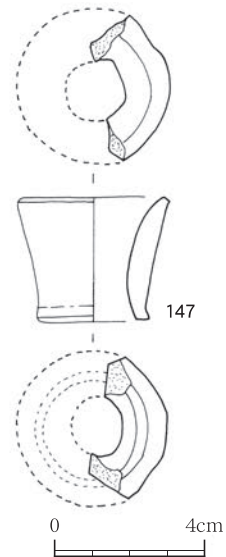
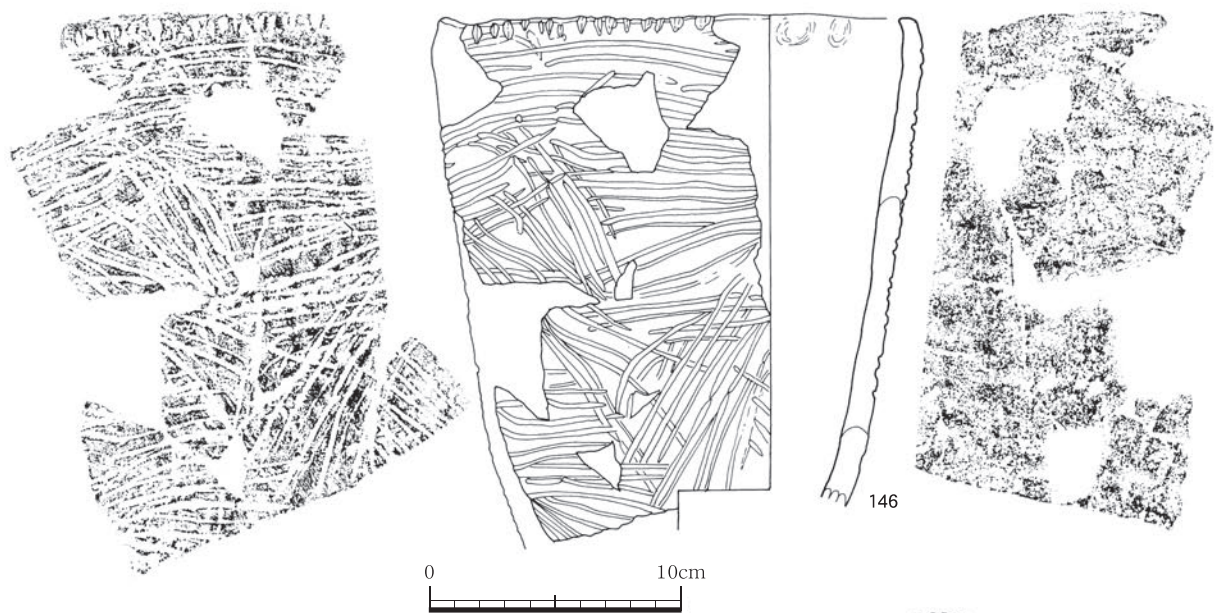
3点を図化した。143～145は、いずれも楕円押印文が施されるもので同一個体と考えられるものである。143は、胴部径28cmを測るものである。

IV類土器観察表（2）

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第12図	92	I-5	V	口縁部	にぶい赤褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文(横位羽状) 貝殻条痕文	ナデ	
	93	I-4	V	口縁部	にぶい赤褐	褐灰	○	○			良	貝殻刺突文(横位・羽状)	ナデ	
	94	H-4	V	口縁部	浅黄	明黄褐	○			微量	良	貝殻刺突文(縦位)	ナデ	
	95	H-4	IV	口縁部	褐	にぶい褐	○	○			良	竹管文 貝殻条痕文	ナデ	
	96	H-4	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	竹管文 貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	
	97	I-4	IV	口縁部	暗灰	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(縦位横位) 貝殻条痕文(綾杉状)	ナデ	
	98	H-4	III	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(縦位横位)	ナデ	
	99	I-3	IV	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文(縦位) 貝殻条痕文	ナデ	
	100	H-4	IV	完形	にぶい黄橙 黒	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(縦位横位斜位)	ケズリ	
	101	H-4	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	微量	良	ナデ	ケズリ	
第13図	102	L-9	III	口縁部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○		微量	良	貝殻条痕文	ナデ	
	103	H-4	III	胴部	橙	橙	○	○	○	微量	良	貝殻条痕文	ナデ	
	104	H-4	IV	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ	スス(内)
	105	H-4	IV	胴部	橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	106	H-5	III	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	107	H-5	IV	胴部	灰黄褐	浅黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	108	H-4	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	109	I-4	IV	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	微量	良	貝殻条痕文	ナデ	
	110	H-4, 5	IV	胴部底部	暗灰黄	褐灰	○	○			良	貝殻刺突文(横位) 貝殻条痕文	ナデ	
	111	H-4	IV	胴部底部	黒褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	112	H-4	IV	胴部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	113	H-5	IV	胴部底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	114	H-5	IV	胴部底部	にぶい橙	灰褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	115	I-4	IV	底部	黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	116	I-5	IV	底部	にぶい橙	灰黄	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	117	I-4	IV	底部	にぶい褐	灰黄	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ	
	118	I-3	III	底部	橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ	
	119	I-4	IV	底部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ	
	120	I-4	III	底部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	刻み目あり	ナデ	
	121	H-5	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	刻み目あり	貝殻条痕文	
第14図	122	I-4	IV	底部	橙	にぶい橙	○	○	○	微量	良	刻み目あり	ナデ	
	123	H-4	V	底部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	刻み目あり	ナデ	
	124	H-3	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	125	I-4	IV	底部	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	126	H-4, I-5	IV	底部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	127	H-5	IV	底部	にぶい褐	にぶい黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	128	H-4	V	底部	にぶい褐	灰黄	○	○	○	微量	良	刻み目あり	ナデ	
	129	H-5	IV	底部	浅黄	黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	130	H-4, 5	IV	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	剥落(側面)
	131	H-5	IV	底部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	132	H-4	IV	底部	明赤褐	橙	○	○	○		良	刻み目あり	ナデ	
	133	H-5	IV	底部	明赤褐	にぶい橙	○	○	○		良	刻み目あり	貝殻条痕文	
	134	H-4	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	
	135	H-4, 5	IV	底部	橙	浅黄橙	○	○	○	微量	良	貝殻条痕文	ナデ	
	136	I-4	IV	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	137	H-5	IV	底部	浅黄	灰黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	138	H-4	V	底部	明赤褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	
	139	H-4	IV	底部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	



第15図 縄文時代早期土器 (9)



Ⅷ類土器（第16図）

146の1点だけの出土である。口縁部径19cmを測る。底部から直線的に立ち上がり、口縁端部近くでわずかに内湾する。口縁部外面には刻目が施され、胴部には条痕文を意識していると思われる2条を単位とする沈線文を無作為に施すものである。

土製品（第16図）

I-7区出土である。筒状を呈するものであるが、両端は欠損してはいない。また、両端の復元径が4cmと3cmと違う点に注目したい。耳栓の可能性が高いものである。

第16図 縄文時代早期土器（10）・土製品

V～Ⅷ類土器・土製品 観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第15図	140	H-7	Ⅳ, Ⅵ	完形	褐灰	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	141	H-7, I-6, J-5	Ⅵ	完形	褐灰	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	
	142	H-4	Ⅴ	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文（横位）	ケズリ	
	143	I-11	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	楕円形押型文	ケズリ後ナデ	
	144	I-11	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	楕円形押型文	ケズリ	
	145	I-11	Ⅲ	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	楕円形押型文	ケズリ後ナデ	
第16図	146	L-4	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	微量	良	貝殻条痕文	ナデ	
	147	I-4	Ⅳ		にぶい黄橙	明黄褐	○	○						

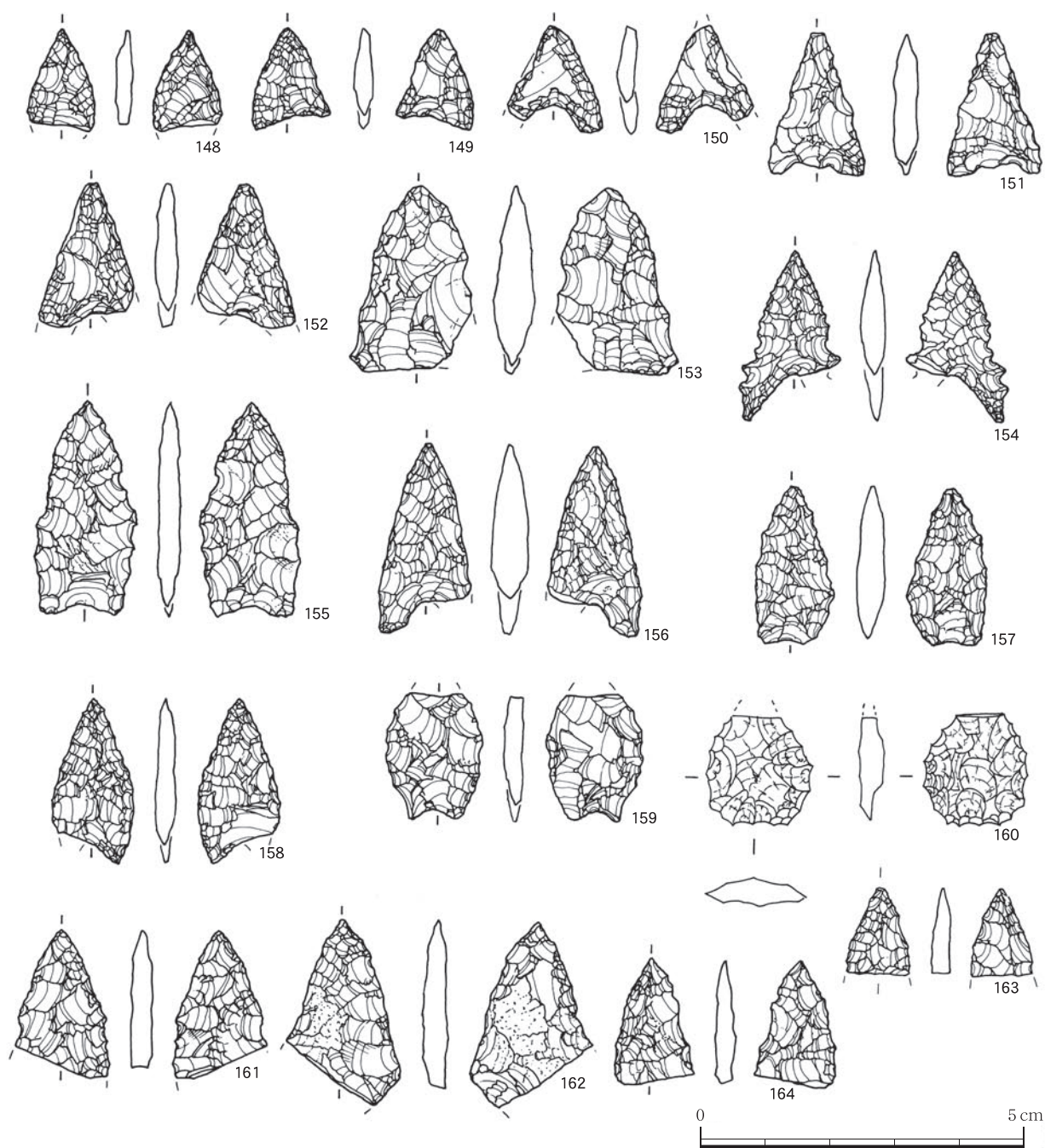
②石器（第17図～第22図）

石器は石鏃、石槍、石匕、スクレイパー、石斧、礫器、磨石、敲石、凹石、石皿等が出土している。

石鏃（第17図）

石鏃は17点出土しているが黒曜石・チャート・頁岩・玉髓等の石材が見られる。石鏃は本報告書における統一した分類にならうことにする。（石鏃分類

表187頁参照）148～151はA-a-b。152・154はA-b-c、153はA-a-a。155はA-c-b、156はA-c-c、157はC-a-b、158はC-b-c、159はC-b-b、160はC-a-aタイプである。161～164は基部が欠損しているため類別はできないが、いずれもAタイプに属するものである。



第17図 縄文時代早期石器（1）

石槍（第18図）

石槍は黒曜石製のものが1点出土している。165は幅2.2cm、厚さ0.8cmを測るが、基部は欠損するため長さは不明である。丁寧な両面交互剥離が行なわれる。

石匕（第18図）

石材が黒曜石と針質安山岩の2点が出土している。

166はやや厚めである。三角形状を呈し、刃部は両面交互剥離である。167は一部自然面を残した横長剥片を素材としたもので、刃部の交互剥離は部分的である。

スクレイパー（第18図）

168は玉髓の縦長剥片を素材としたものである。断面三角形を呈し、両側面に刃部を有する。

石斧（第19図）

169は打製石斧の刃部を欠損したものである。一部に自然面を残した分厚いものである。170は磨製石斧と思われる。下半部から刃部にかけては緻密な敲打仕上げであるが、磨った痕跡が見られない。上半部は磨面が顕著である。片側面には抉りが見られ、基部には敲打の痕跡が認められるものである。

礫器（第19図・第20図）

171～174は礫器である。171は片面に自然面を残す大型の横長剥片で刃部は交互剥離である。172は自然礫を半分に割った後で荒い剥離を行ない刃部を形成する。173は両面に自然面を残すもので、荒い剥離を行なうものである。174は自然礫の両側面を剥離するものである。

磨石・敲石・凹石（第20図・第21図）

円礫を用いた磨石のみの機能を持ったものと磨石と敲石の機能を持ったもの、磨石・敲石・凹石の機能を合わせ持ったもの及び自然礫の一部が凹んだ凹石、棒状の敲石等が見られる。175～179は円礫を素材とするものである。175～177は磨石だけのものである。178は磨石・凹石・敲石の機能を持つもので、側面全面に敲打の痕跡が認められる。また、片面には凹みも見られるものである。179は磨石と敲石の機能を持つもので、側面に敲打痕が認められる。180～182は自然礫を素材とするもので、180は磨石

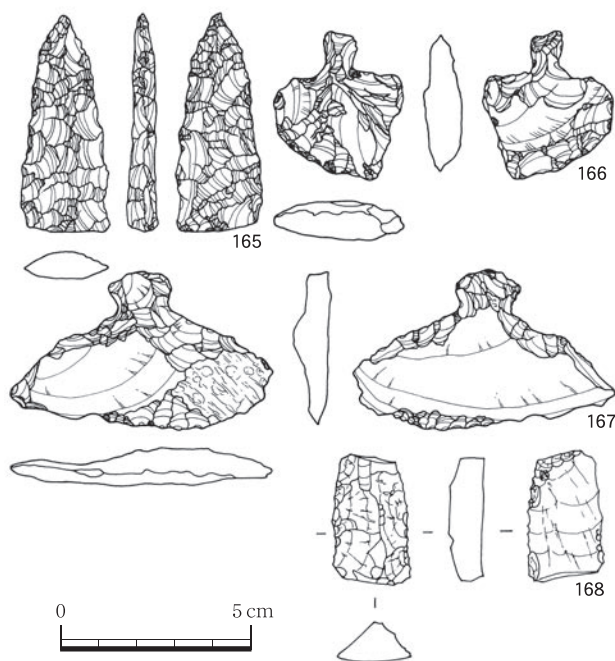
と凹石・敲石の機能を持つ。181・182は凹石だけの機能を持つもので、181は両面に、182は片面に2箇所の凹みを有する。183は扁平な長方形の礫を素材としたもので両面に磨った痕跡の認められるものである。

軽石製品（第21図）

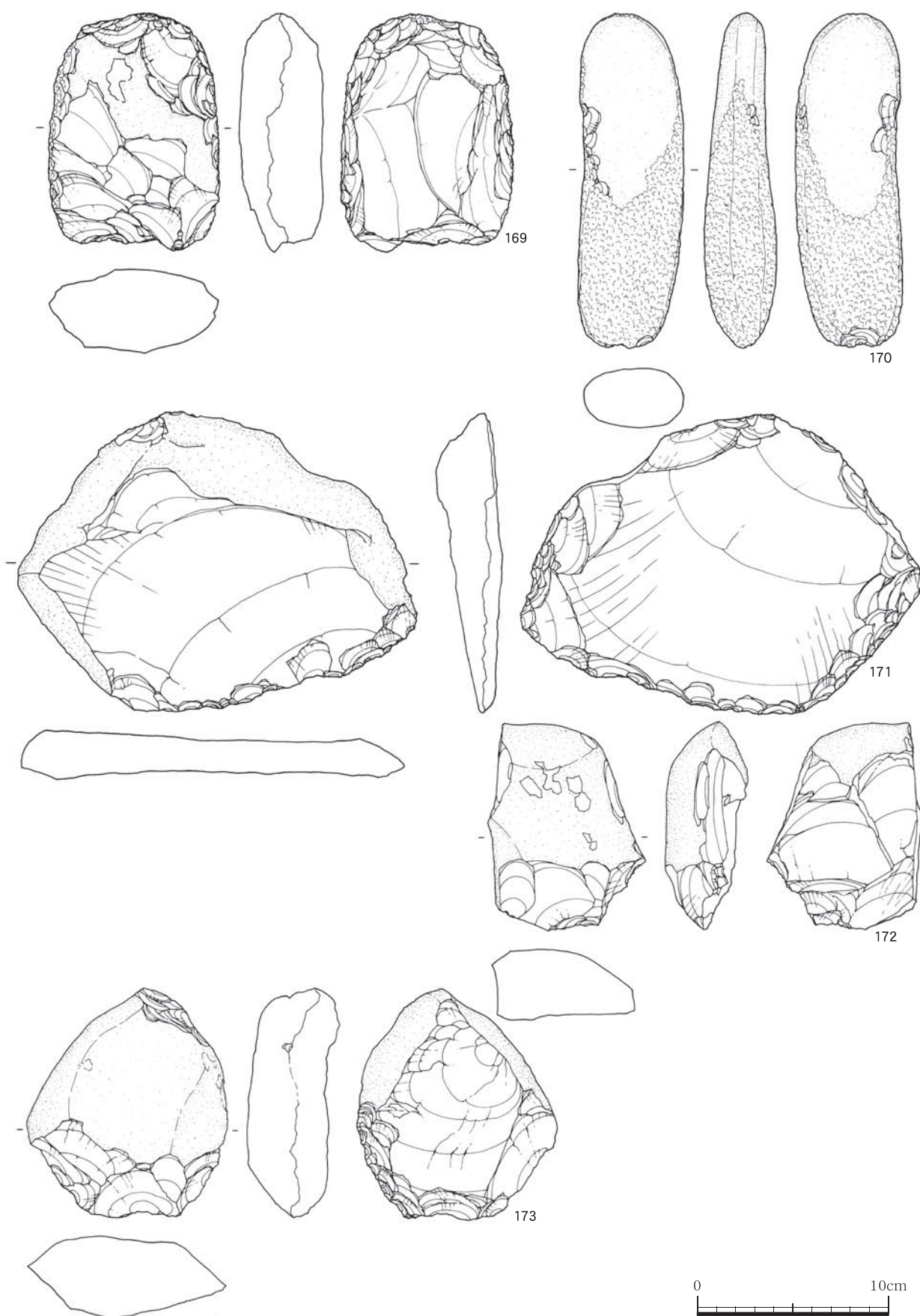
184は4.1×4.8cm、厚さ1.8cmの円板状を呈し、全面が磨られているものである。

石皿（第21図・第22図）

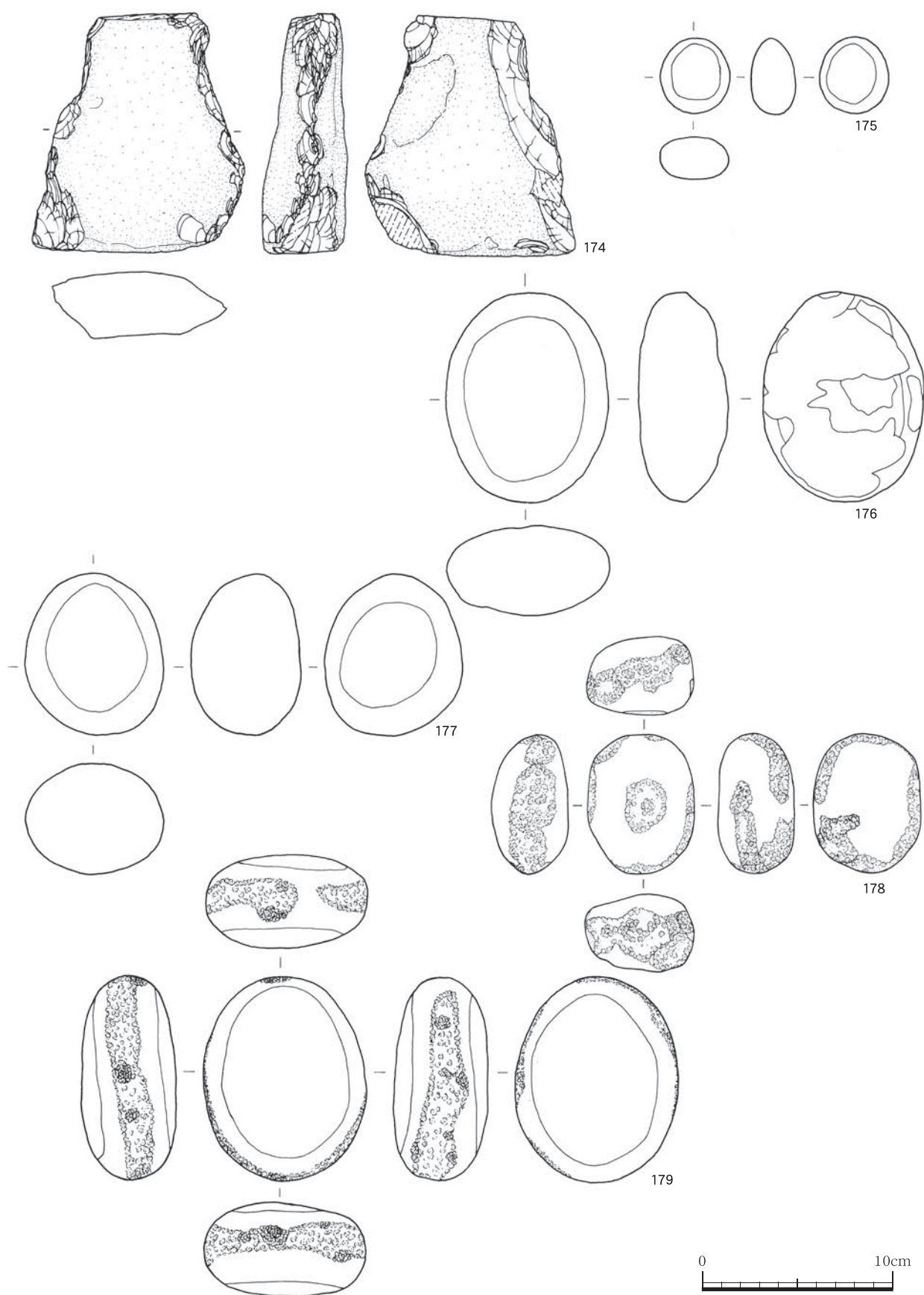
185～189は安山岩と砂岩を素材とする石皿である。いずれも両面に作業面を有するものである。185は素材によるものか作業面につやがある。188は両面共に敲打の痕跡が認められる。189は裏面は平坦では無いものの磨った痕跡が認められる。



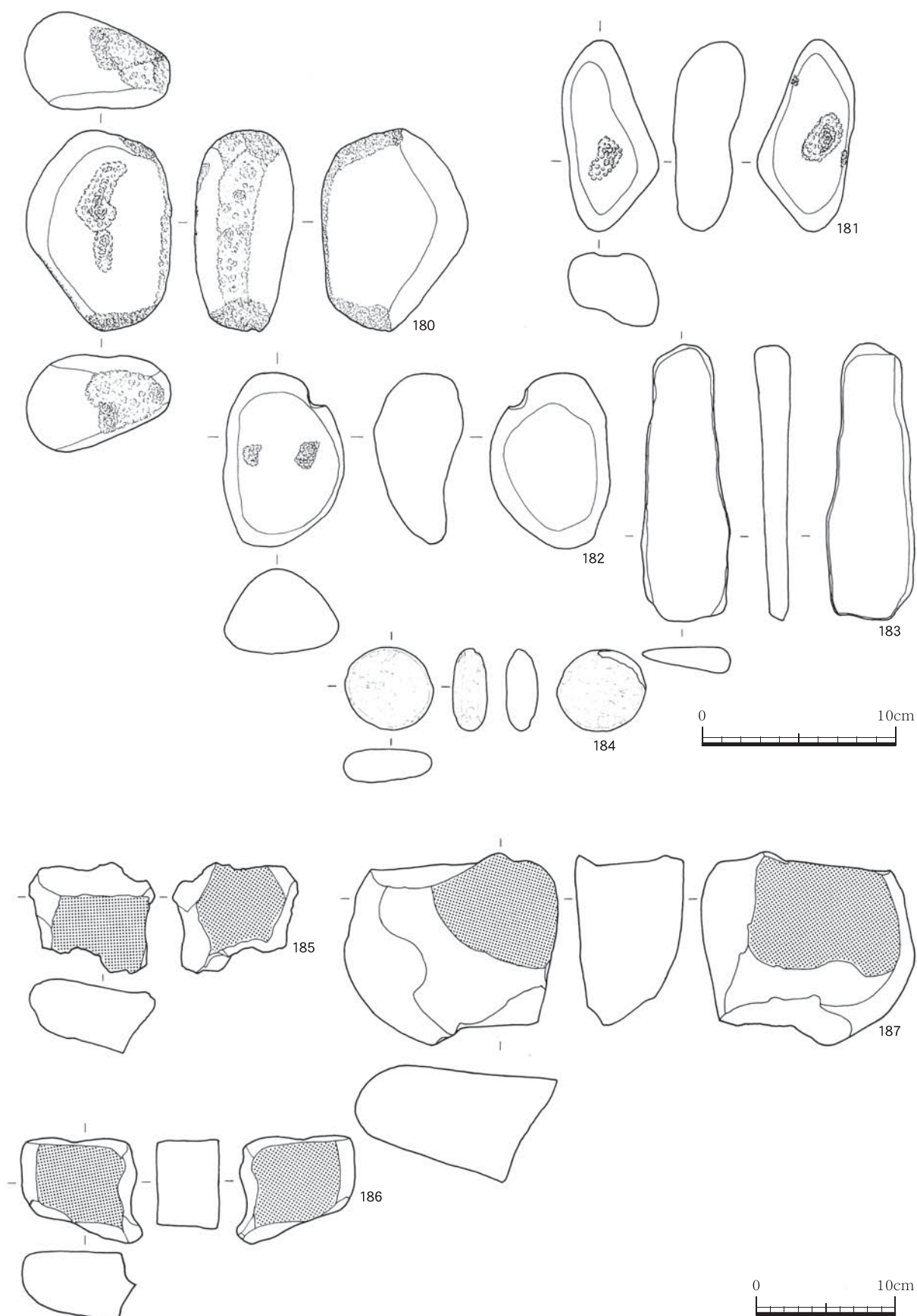
第18図 縄文時代早期石器（2）



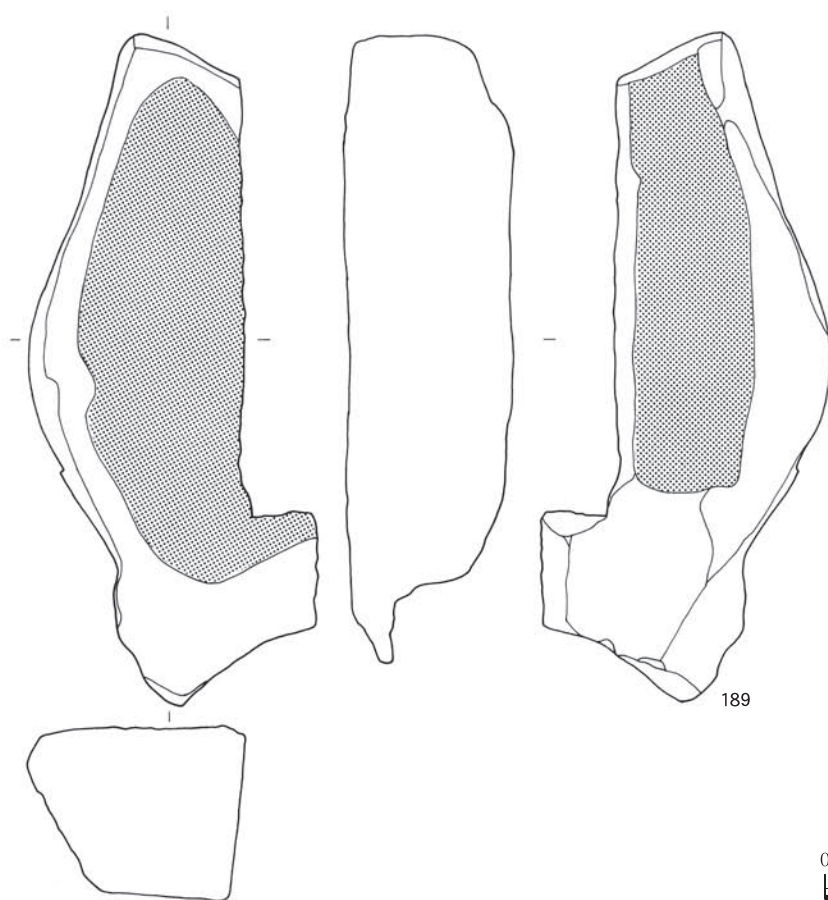
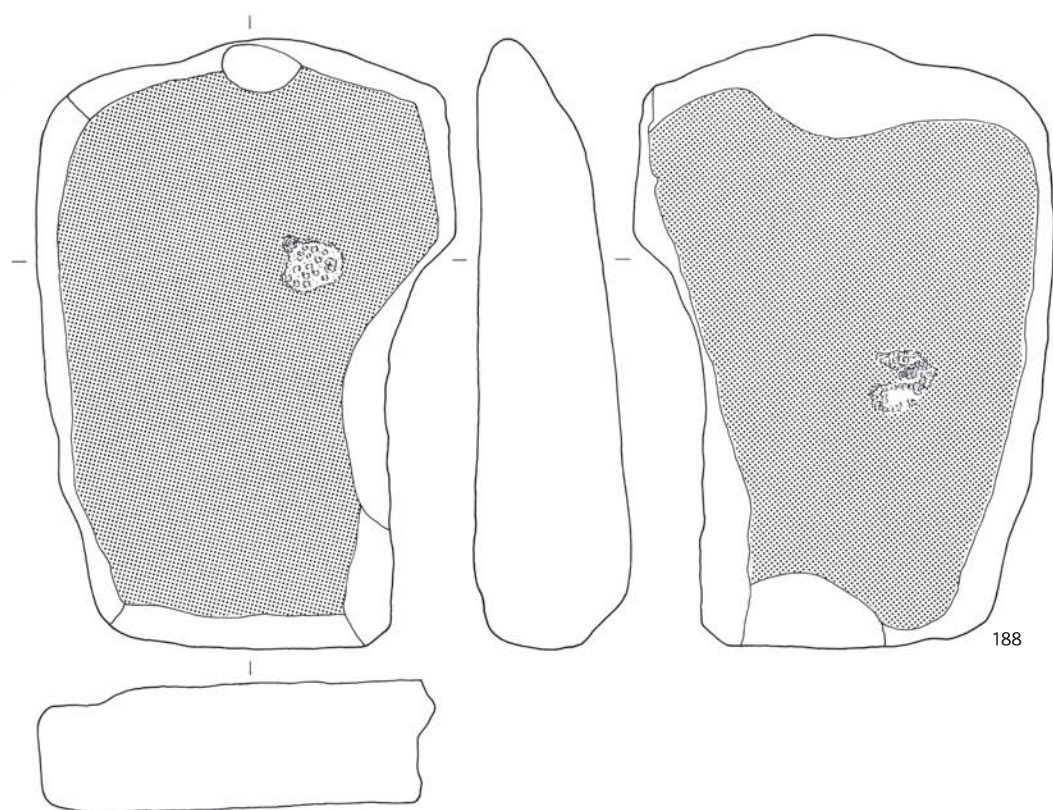
第19図 縄文時代早期石器（3）



第20図 縄文時代早期石器（4）



第21図 縄文時代早期石器（5）



第22図 縄文時代早期石器（6）

縄文時代早期石器観察表 1

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	
						cm	cm	cm	g	分類	破損部分
第 17 図	148	石鏃	I-3	IV	チャート	(1.60)	1.05	0.21	0.40	A a b	
	149	石鏃	I-5	IV	黒曜石	1.55	1.20	0.30	0.37	A a b	
	150	石鏃	I-4	IV	黒曜石	(1.70)	1.45	0.25	0.51	A a b	
	151	石鏃	J-3	IV	黒曜石	2.25	1.50	0.37	0.90	A a b	
	152	石鏃	H-4	IV	黒曜石	(2.25)	(1.50)	0.38	1.05	A b c	
	153	石鏃	H-4	IV	頁岩	2.90	1.90	0.61	2.75	A a a	
	154	石鏃	J-2	IV	黒曜石	(2.65)	1.60	0.38	0.83	A b c	
	155	石鏃	I-4	IV	玉髄	3.35	1.60	0.37	1.63	A c b	
	156	石鏃	H-4	IV	黒曜石	3.00	(1.45)	0.55	1.85	A c c	
	157	石鏃	H-4	IV	チャート	2.50	1.25	0.41	1.16	C a b	
	158	石鏃	I-4	IV	玉髄	2.60	(1.30)	0.30	0.82	C b c	
	159	石鏃	H-4	V	玉髄	(2.00)	1.50	0.30	0.98	C b b	
	160	石鏃	H-4	V	玉髄	(1.70)	1.70	0.38	1.19	C a a	
	161	石鏃	-	IV	玉髄	2.30	(1.50)	0.34	0.95	A	基部
	162	石鏃	H-4	IV	玉髄	(2.90)	(1.80)	0.37	1.67	A	基部
	163	石鏃	H-4	IV	黒曜石	1.35	(1.00)	0.30	0.37	A	基部
	164	石鏃	H-4	IV	玉髄	2.05	1.25	0.28	0.60	A	基部

縄文時代早期石器観察表 2

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考
						cm	cm	cm	g	
第 18 図	165	石槍	H-4	IV	黒曜石	5.75	2.30	0.80	9.00	
	166	石匕	I-4	IV	黒曜石	3.90	3.40	1.00	9.50	
	167	石匕	M-3	IV	安山岩	4.20	6.95	1.00	18.80	
	168	スクレイパー	H-4	IV	玉髄	3.50	2.00	0.98	8.05	
第 19 図	169	石斧	I-3	IV	頁岩	12.20	9.10	4.50	720.00	
	170	磨製石斧	H-7	IV	安山岩	17.85	5.50	3.85	581.00	
	171	礫器	I-4	IV	頁岩	20.10	15.80	3.10	1049.00	
	172	礫器	I-3	IV	頁岩	11.25	8.30	4.25	490.00	
	173	礫器	M-3	IV	頁岩	12.50	10.40	4.25	710.00	
第 20 図	174	礫器	H-3	IV	頁岩	12.70	10.60	4.45	830.00	
	175	磨石	H-4	IV	砂岩	4.10	3.75	2.30	44.17	
	176	磨石	H-4	IV	安山岩	11.10	8.50	4.80	630.00	
	177	磨石	H-5	IV	安山岩	8.60	7.40	5.80	500.00	
	178	磨石	I-4	IV	砂岩	7.30	5.70	4.10	219.24	敲打痕あり
	179	磨石	I-5	IV	安山岩	10.90	8.60	5.00	715.00	敲打痕あり
第 21 図	180	磨石・敲石	H-4	IV	砂岩	10.50	7.60	5.10	480.00	
	181	凹石・磨石	H-5	IV	砂岩	10.00	4.70	3.70	235.00	
	182	磨石	H-5	IV	砂岩	9.00	6.30	4.50	290.00	
	183	磨石	H-4	IV	頁岩	14.40	4.60	2.00	171.89	
	184	礫器	H-5	IV	軽石	4.25	4.69	1.76	8.48	
	185	石皿	H-4	IV	安山岩	7.60	8.80	4.40	370.00	
	186	石皿	H-4	IV	安山岩	7.00	8.00	4.60	370.00	
	187	石皿	H-4	IV	砂岩	12.60	14.50	7.50	1900.00	
第22図	188	石皿	H-4	V	砂岩	32.40	22.00	8.30	8900.00	
	189	石皿	M-3	IV	砂岩	34.80	12.00	9.40	5800.00	

2 縄文時代中期・後期の調査

縄文時代中期・後期については遺物の出土量は少なく、遺構も検出されなかった。

(1) 遺物（第23図～第25図）

遺物は、中期のⅨ類（阿高式系土器）からⅫ類（市来式土器）までが出土している。

Ⅸ類土器（第23図）

Ⅸ類土器は2点と数少ないものである。190は底部から胴部下位にかけての破片で底部径13.6cmを測る。器面をヘラケズリ調整した後に直線及び曲線の凹線文を施すものであるが、器面全面に施されていたものと思われる。191は口縁部径22.4cmを測る。口縁部はわずかに内湾し、口唇部には刺突文が施される。口縁部にはヘラ状の工具による3条の沈線文（連

続はしていない）を廻らした後で斜位の短沈線文を施すものである。器面はヘラケズリである。

Ⅹ類土器（第24図）

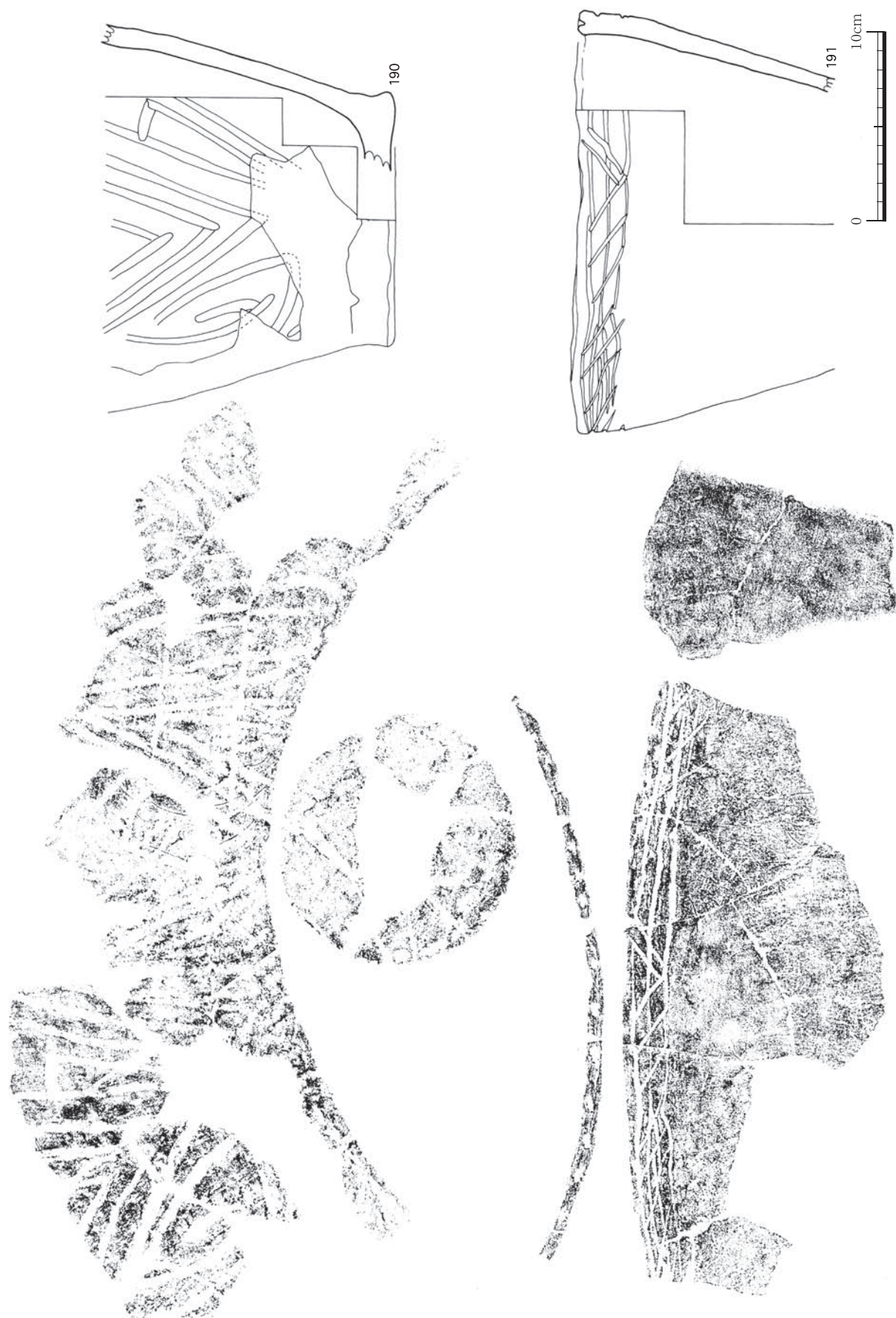
192～198の7点で、口縁部下位に凹線文を横位に施すものである。192は口縁部径25.2cmを測る。5条の凹線文が施されるが連続するものではなく、途中で押圧をするものである。193・194、196、198は1条の凹線文が廻る。195、197は凹線文と刺突文の組合せである。

Ⅺ類土器（第24図）

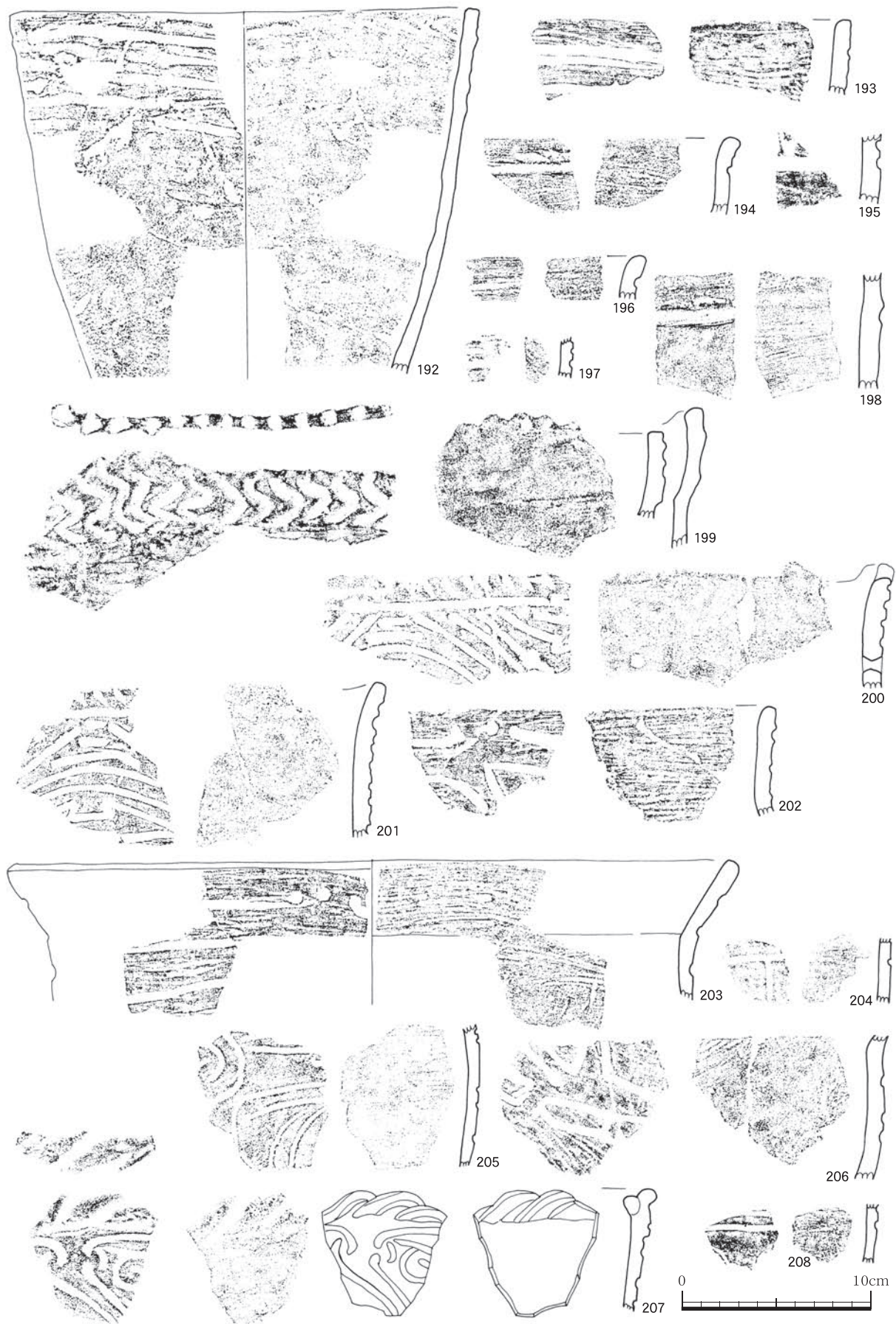
199の1点だけである。口縁部は段を持ち、内面は屈曲して稜が明瞭である。口縁部は突出部を有し、口唇部には刻目が施される。口縁部には約3cmの文様帯を設け、連続した「S字文」が施される。

縄文時代中期・後期土器観察表

挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第23 図	190	Ⅲ	I-7	底部～胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	凹線文	ナデ	
	191	Ⅲ	M-7	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	沈線文・ヘラケズリ		
第24 図	192	Ⅲ下	H-7	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	凹線文・ナデ	条痕・ナデ	
	193	Ⅲ	I-6	口縁部	にぶい褐	明赤褐	○	○			良	凹線文	条痕	
	194	Ⅱ	H-6	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	凹線文・ヘラケズリ	条痕	
	195	Ⅲ	K-10	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	凹線文	ナデ	
	196	Ⅱ	H-6	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	凹線文・ナデ	条痕	
	197	Ⅲ	J-16	胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	凹線文	ナデ	
	198	Ⅲ	H-7	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	凹線文・ナデ	条痕	
	199	Ⅲ・Ⅳ	H-4	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	凹線文（S字状文）	ナデ	
	200	Ⅲ	K-5	口縁部	橙	橙	○	○			良	凹線文	ナデ	補修孔
	201	Ⅲ	K-5	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	凹線文	ナデ	
	202	Ⅲ	I-6	口縁部	橙	橙	○	○			良	凹線文	条痕	スス（外）
	203	Ⅲ	I-6	口縁部	橙	橙	○	○			良	凹線文・ナデ	条痕	
	204	Ⅲ	J-16	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	沈線文	ナデ	
	205	Ⅲ	J-16	胴部	暗褐	にぶい赤褐	○	○			良	沈線文	条痕	
	206	Ⅲ	I-6	胴部	明赤褐	橙	○	○			良	沈線文・ナデ	条痕後ナデ	
	207	Ⅲ	J-16	口縁部	明赤褐	橙	○	○			良	沈線文・ねじり紐	条痕	
	208	Ⅲ	J-16	胴部	暗褐	橙	○	○			良	沈線文・ナデ	ナデ	
第25 図	209	—	—	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	沈線文・コブ状突起	条痕	スス（外）
	210	Ⅲ	J-3	底部～胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	沈線文・ナデ	条痕	
	211	Ⅲ	J-16	口縁部	橙	橙	○	○			良	刻み目・沈線文	条痕	
	212	Ⅲ	N-14	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕	条痕	
	213	Ⅲ	H-5	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・刺突文	ナデ	
	214	Ⅲ	I-14	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	刺突文・ナデ	ナデ	スス（外）
	215	Ⅲ	L-3	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○			良	ヘラケズリ	条痕後ナデ	
	216	Ⅲ	J-5	底部～胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○			良	条痕	条痕	
	217	Ⅲ	I-3	底部	橙	橙	○	○			良	ナデ	ナデ	



第23図 縄文時代中期土器（1）



第24図 縄文時代中期（2）後期土器（1）

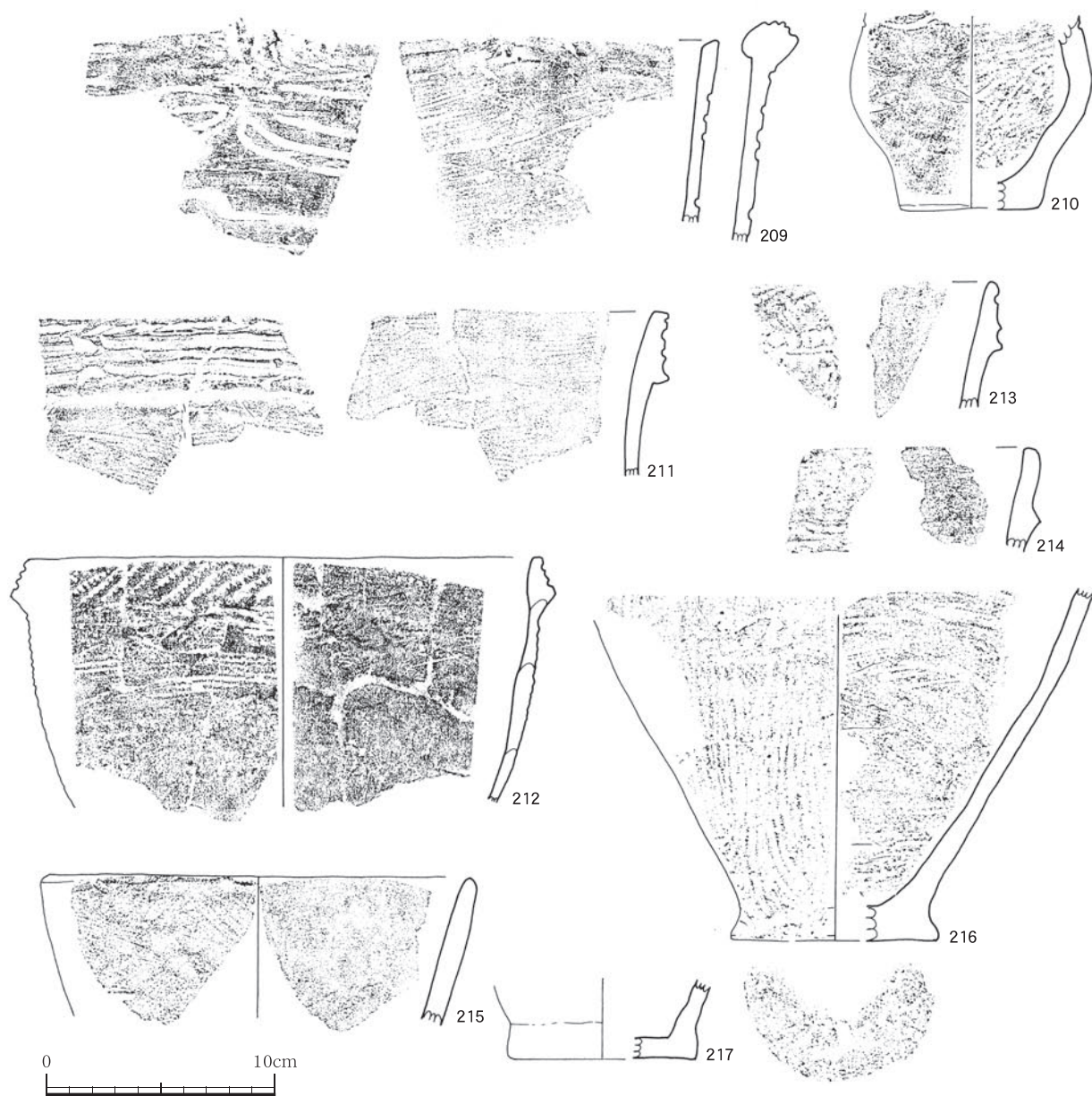
XII 類土器（第24図・第25図）

11点をXII 類土器としたが、将来的には細分される可能性を含んだものである。直線及び曲線の凹線文及び刺突文が施されるもので施文具はやや細身になる。201は口縁端部に刻目を有する。203は口縁部径39.2cmを測る。外反する口縁部で内面に稜線を有し、口縁部に刺突文と凹線文、屈曲部・胴部に凹線文を施すものである。205はヘラに近いような施文具により曲線文を施す。207は口唇部にねじり紐を有し、胴部には曲線文を施す。209は口縁部に瘤状の突起を有し、胴部に曲線文を施す。210は小形の

ものである。胴部が球形状に膨らみ、頸部がしまるものである。胴部上位にわずかに凹線文が見られる。

XIII 類土器（第25図）

口縁部を断面三角形に肥厚させ文様帯とするものである。211は口縁部直下に刻目を施し、その下位に2条の凹線を廻らす。途中に同一施文具で施したと思われる半円の刺突が認められる。212は口縁部径23.3cmを測る。口縁部に貝殻刺突文を斜位に施すものである。215は直線的な口縁部であるが、類別の判断のつかないものである。216・217は底部であるが、どの類の底部かは判別出来ない。



第25図 縄文時代後期土器（2）

3 縄文時代晩期の調査

縄文時代晩期は、他の時期に比べると数多くの土坑等の遺構が検出され、出土遺物の数も格段に多く、本遺跡の中心をなす時期と言える。

遺構に関しては、中世該当期の遺構も同一面で検出され、埋土の違いによりその時期を区別した。中世該当の遺構は、強い黒色で柔らかく、縄文時代晩期の埋土はやや黒色が弱く硬いものであった。

(1) 遺構

縄文時代晩期の遺構は、土坑28基、埋設土器1基、掘立柱建物跡3棟、柱穴列8列が検出された。特に多くの土坑が検出されたことが顕著である。

①土坑（第27図～44図）

28基の土坑の長径・短径・深さや形態などは、観察表に示した。遺構内遺物等から縄文時代晩期の土

坑と考えられるが、大きさや形状等に統一性はみられない。中には、埋土に炭化物が多いことと、土器が散乱していることより、その場で使用、破損したため破棄された感がある土坑もあるが、性格不明の土坑がほとんどである。床面が段堀されてある土坑は無かった。灰コラが埋土の上部に堆積していた土坑が数基検出された。

1号土坑（第27図）

深さが15cmの浅い楕円形の土坑である。埋土は、暗褐色のⅢ層1層だけである。土坑内遺物は、上部で、土器片が数点出土しただけである。

2号土坑（第27図・28図）

深さが27cmの比較的浅いほぼ楕円形の土坑である。埋土は、暗褐色のⅢ層1層だけである。端にピットが一基あるが、土坑に伴うピットかは不明。



第26図 縄文時代晩期遺構配置図

土坑内からは、土器片と砂岩製の磨石218が出土している。

3号土坑（第27図・28図）

ピットや樹痕と思われる穴などのため不整形の円形の土坑である。土坑内からは、土器は、粗製の深鉢形土器の胴部220、平底の底部219、内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の精製浅鉢形土器の口縁部221、胴部222が出土している。石器は、安山岩製の磨石223と粘板岩製の石斧224が出土している。

4号土坑（第27図・29図）

平面プランが不整形の長楕円形の土坑である。中世の可能性が高いピットを1基伴う。1基の土坑を拡張したか2基の土坑をつなげた可能性も考えられる。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部225・226と頸部227～230、胴部231～233、平底の底部234・235、浅鉢形土器の口縁部236・237、口縁～胴部239、胴部238、底部240が出土している。石器は、頁岩製の磨・敲石241が出土している。

5号土坑（第30図）

平面プランが楕円形の比較的小さな土坑である。遺物等は、出土していない。

6号土坑（第30図・44図）

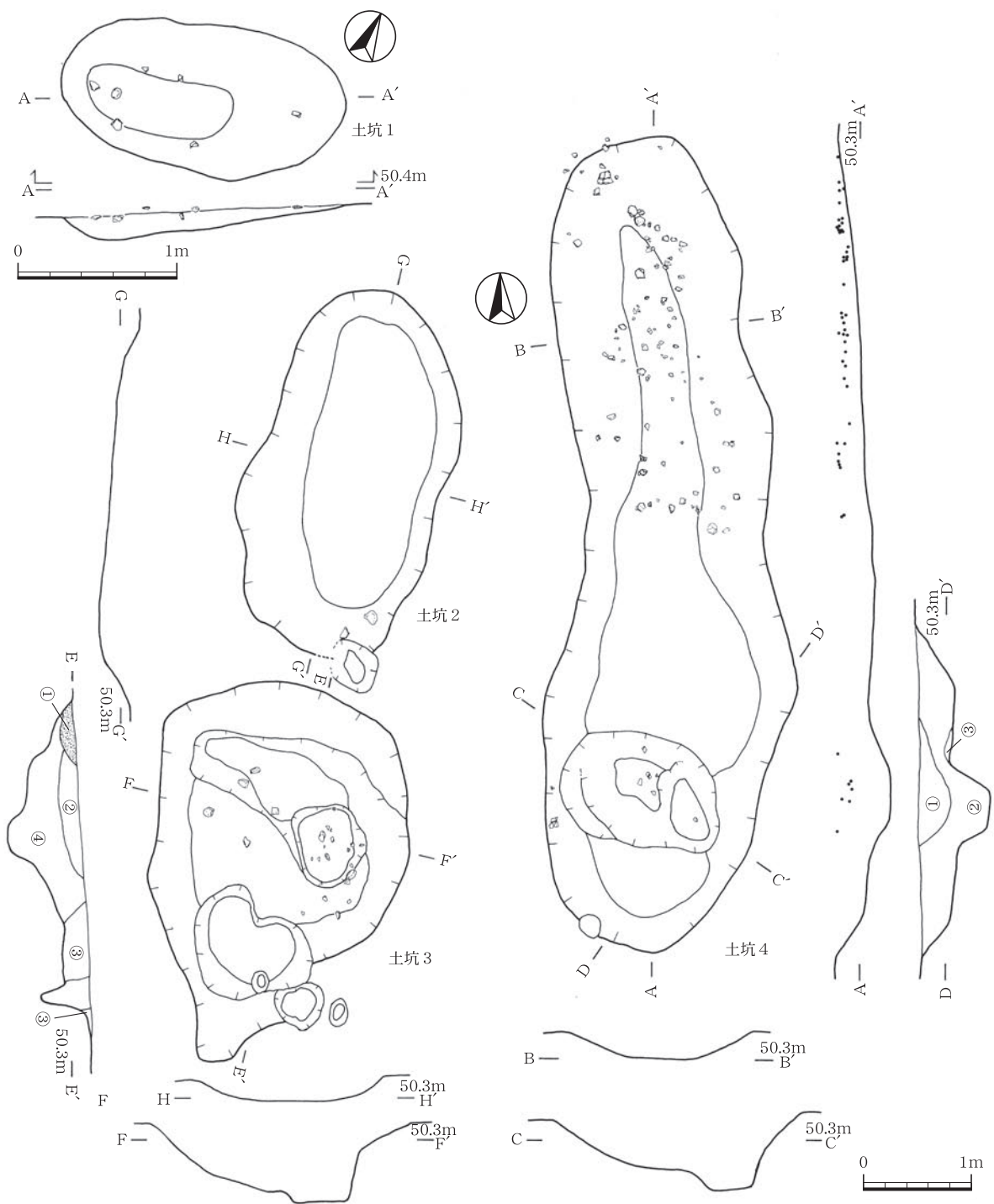
平面プランがほぼ円形の土坑である。埋土は、暗褐色粘質土の一層で、全体に小さな炭化物が混じるが、特に集中する箇所はない。淡褐色のブロック状粘土塊も多く含む。上位は、特に黒みが強いが、炭化物の有無には関係ないと思われる。土器の出土は、中位より上位に集中して見られ、深鉢形土器の外縁が条痕調整の口縁部242、胴部243が出土している。石器は、頁岩製の石鏃376、玉髄製の石鏃377が出土している。床面での遺物出土は無かった。

7号土坑（第30図・31図）

平面プランがほぼ円形の土坑である。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部244～246、胴部247・248、頸～胴部249、平底の底部250、浅鉢形土器の口縁部251・252が出土している。石器は、安山岩製の磨石253が出土している。

土坑観察表

番号	区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形態	埋土内遺物	備考 (切り合いなど)
1	H-4	177	97	15	楕円形	土器片	
2	I-4	350	175	27	楕円形	石器	
3	I-4	360	240	80	円形	土器片、石器	
4	I-4	773	231	32	長楕円形	土器片、石器	ピット
5	J-5	89	56	27	楕円形		ピット
6	J-5	233	202	59	円形	土器片、石器	
7	J-5	133	130	50	円形	土器片、石器	
8	K-4	217	187	46	円形	土器片	ピット
9	K-5	160	125	82	円形		
10	L-4	90	90	50	楕円形	土器片、石器	ピット
11	L-5	137	125	40	円形	土器片	
12	L-6	203	132	35	不整形	土器片、石器	
13	L-6	252	213	28	円形	土器片	
14	L-6	243	205	40	楕円形	土器片	
15	L-7	206	191	52	円形	土器片	ピット
16	L-8	120	106	40	円形		
17	L-7	52	49	49	円形	土器片	
18	L-7	292	280	147	円形	土器片	
19	L-7	188	182	35	円形	土器片	ピット
20	M-2	144	112	37	楕円形	土器片	1号住居と切り合い
21	M-2	93	69	66	楕円形	土器片	1号住居と切り合い
22	M-2	207	120	46	楕円形		焼土2と切り合い
23	M-2	181	112	80	円形	土器片	
24	M-2	84	68	50	円形	土器片、石器	
25	M-2	91	79	40	円形	土器片	ピット
26	M-2	162	141	72	円形	土器片、石器	1号住居と切り合い
27	M-5	104	103	41	円形	土器片	
28	N-4	106	82	15	円形	土器片	ピット



土坑3

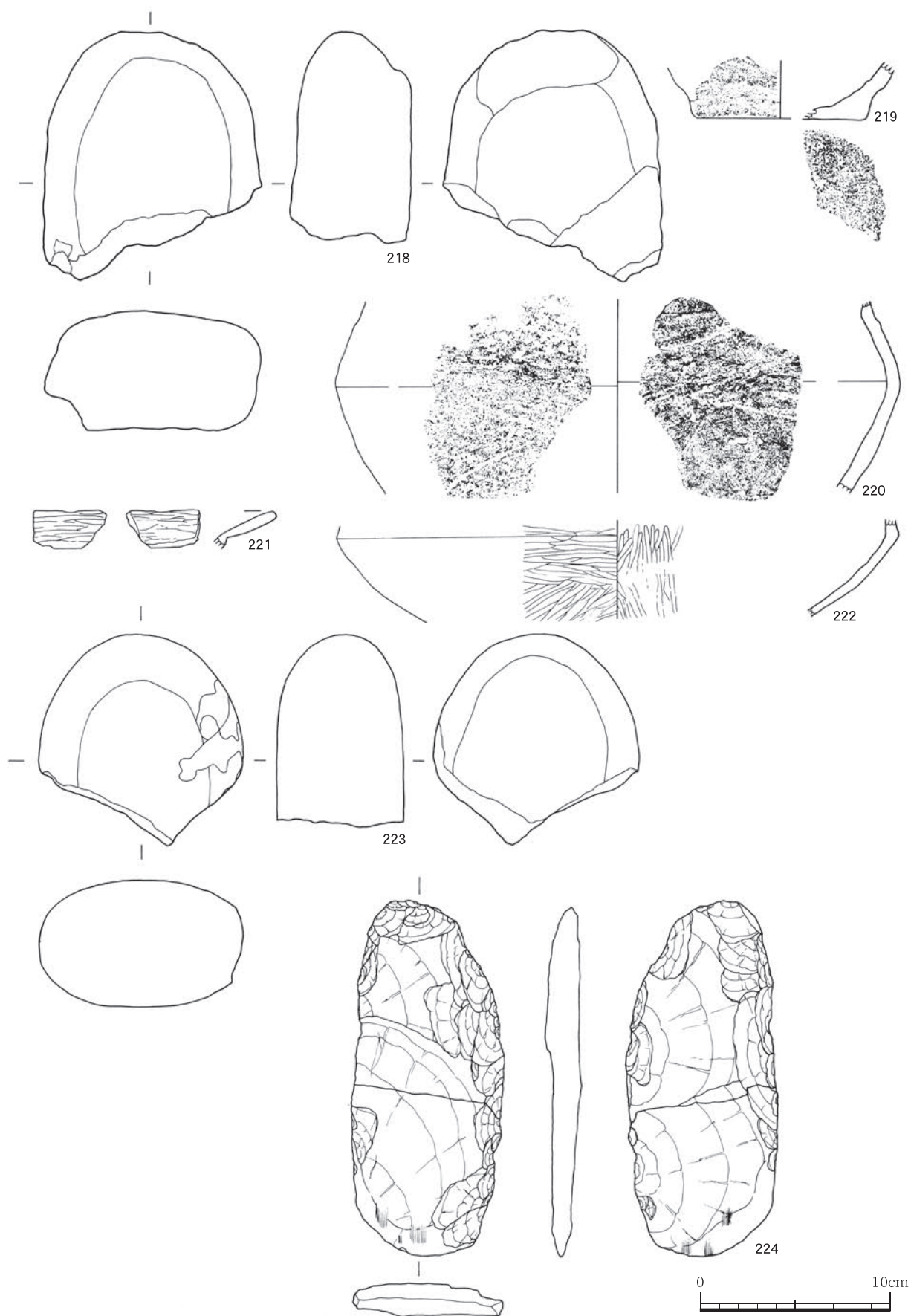
1	灰色粗砂。「灰コラ」と考えられる。しまりがあ って非常に硬い。
2	暗茶褐色土。炭化物が含まれる。しまりがあ って硬い。
3	黄褐色土。しまりはあるが、柔らかい。
4	暗黄茶褐色土。炭化物が含まれる。しまりがあ って硬い。

土坑4

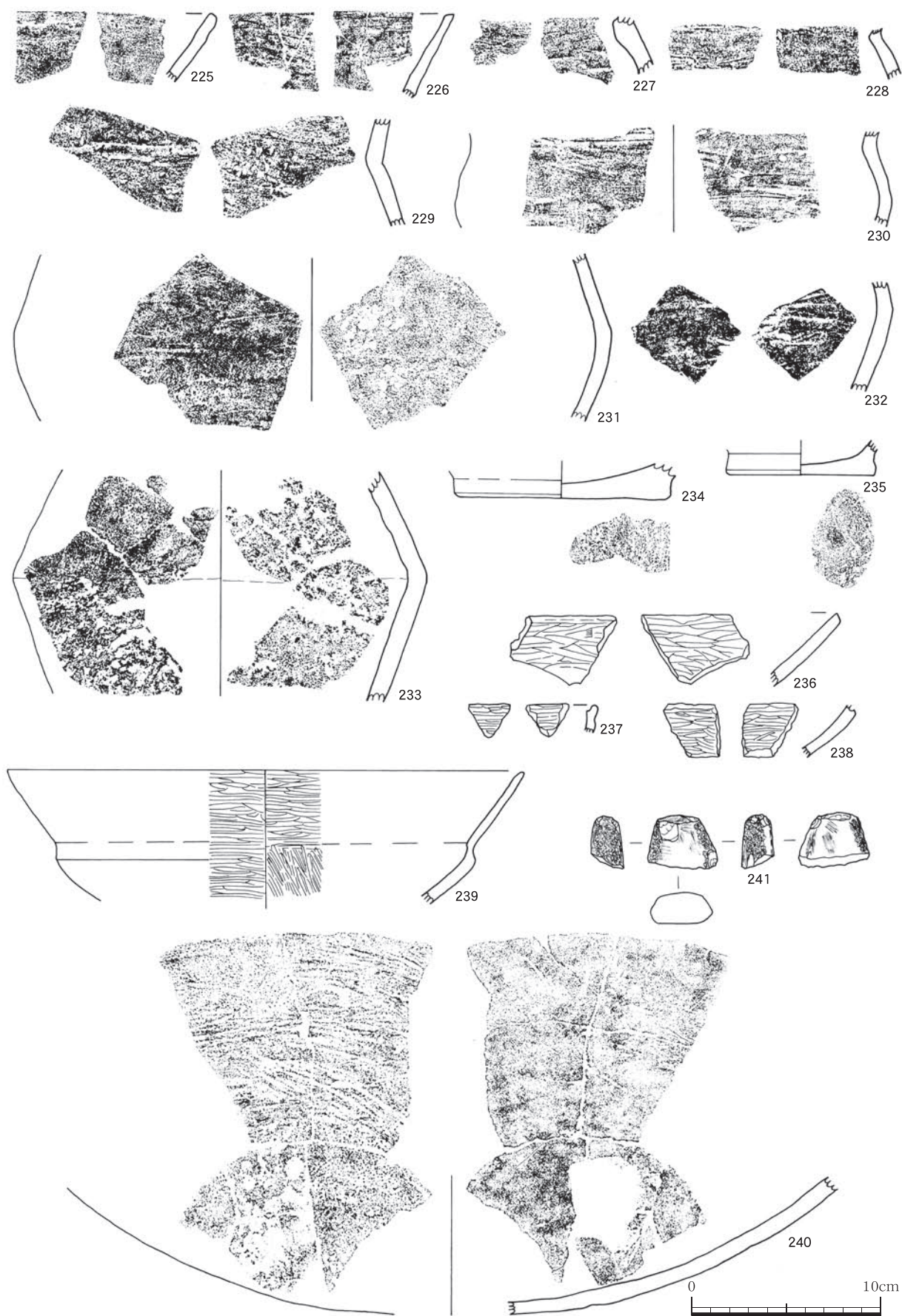
上部、一部分に灰コラ

1	暗茶褐色土。8mm程の炭化物が多く含まれる。 しまりがあって硬い。
2	黄茶褐色土。炭化物をわずかに含む。しまりがあ るが、やや柔らかい。
3	V層と同層。堀りすぎか？

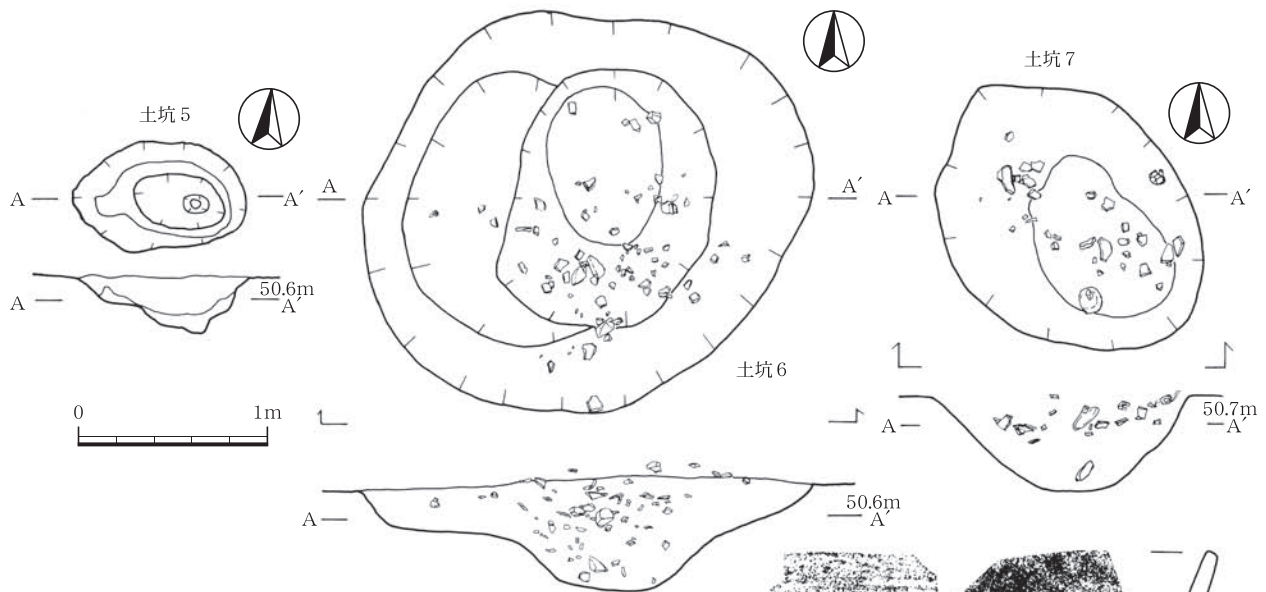
第27図 土坑 1・2・3・4号



第28図 土坑 2・3号出土遺物



第29图 土坑 4 号出土遗物

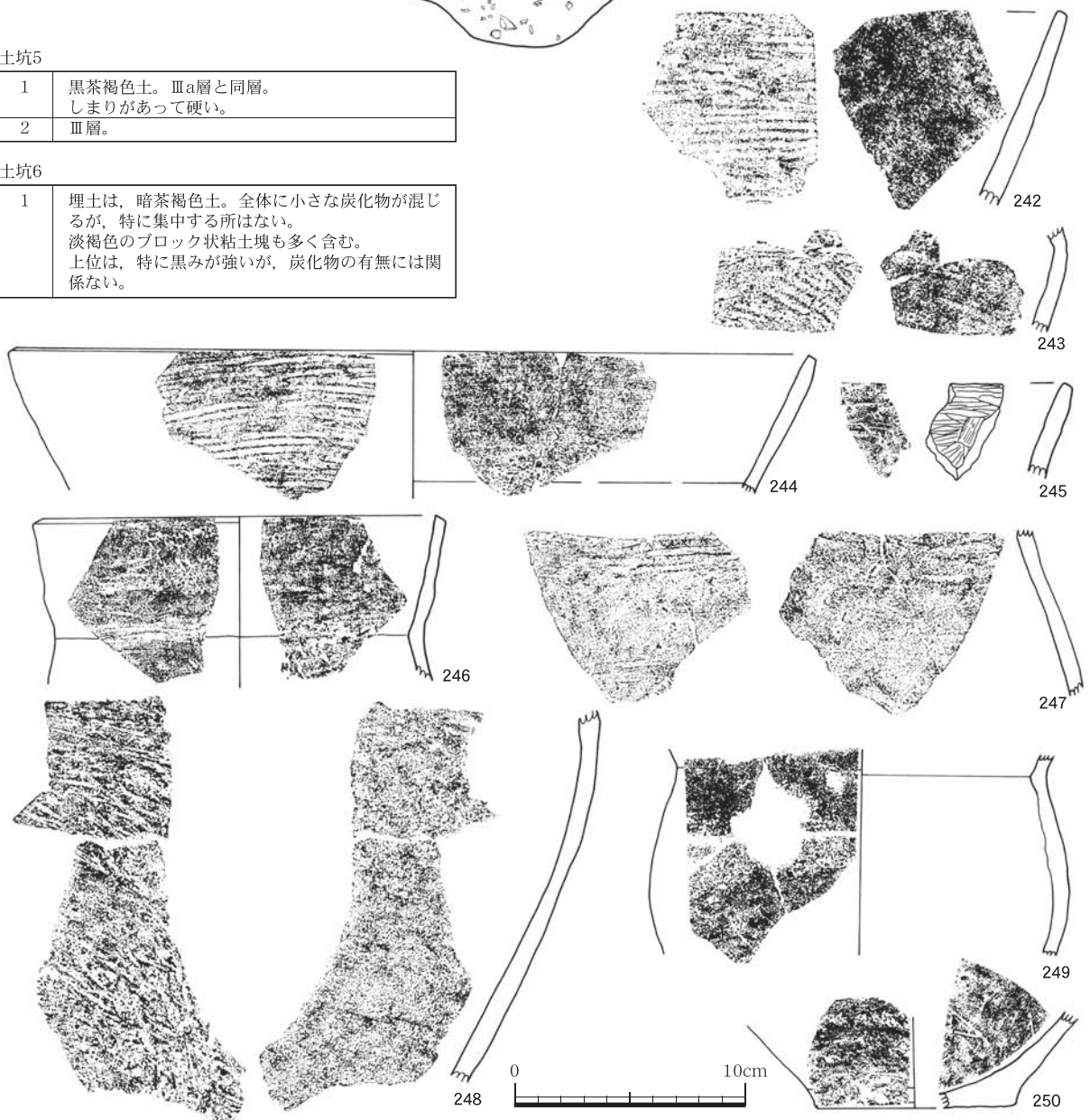


土坑5

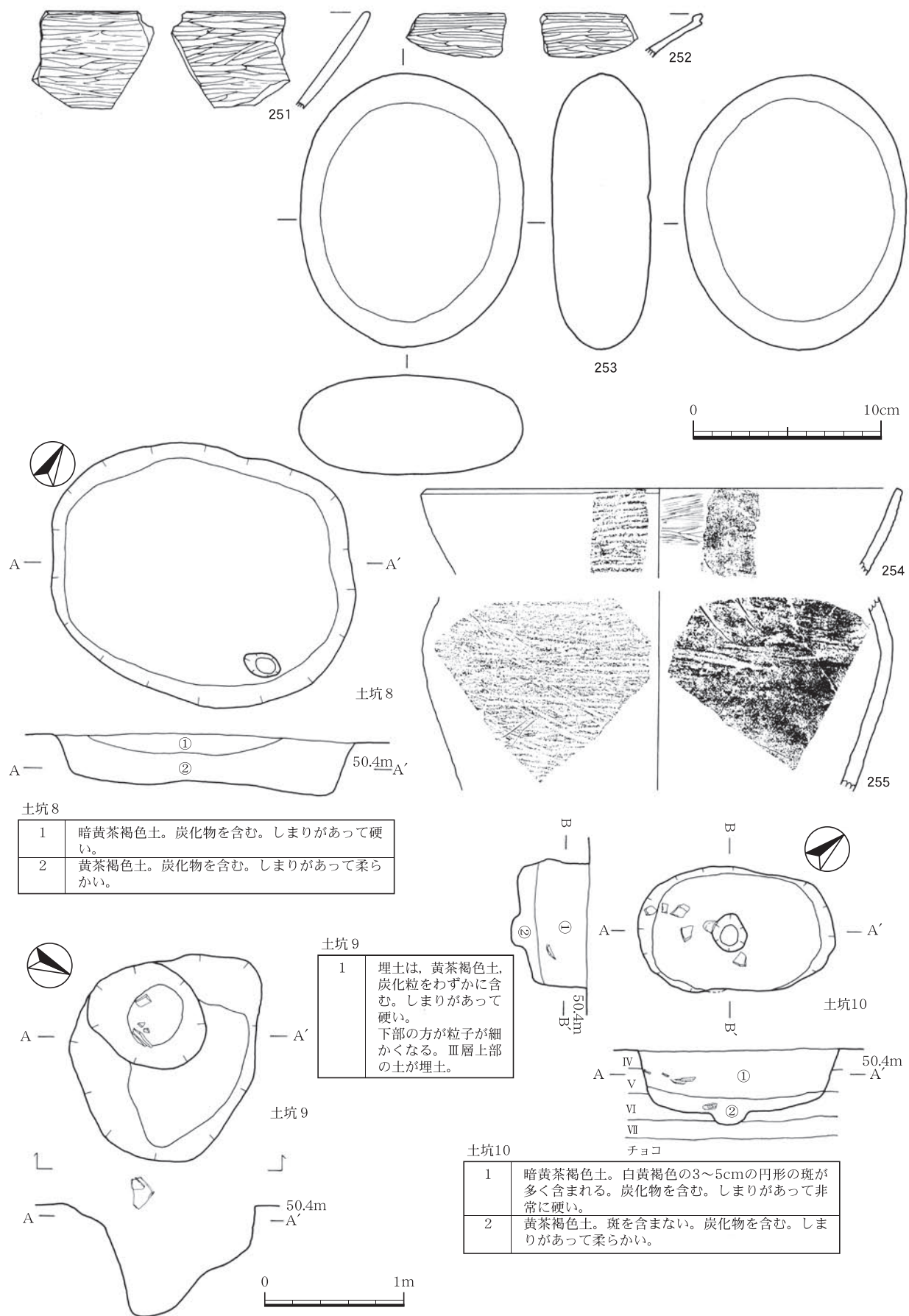
1	黒茶褐色土。Ⅲa層と同層。 しまりがあって硬い。
2	Ⅲ層。

土坑6

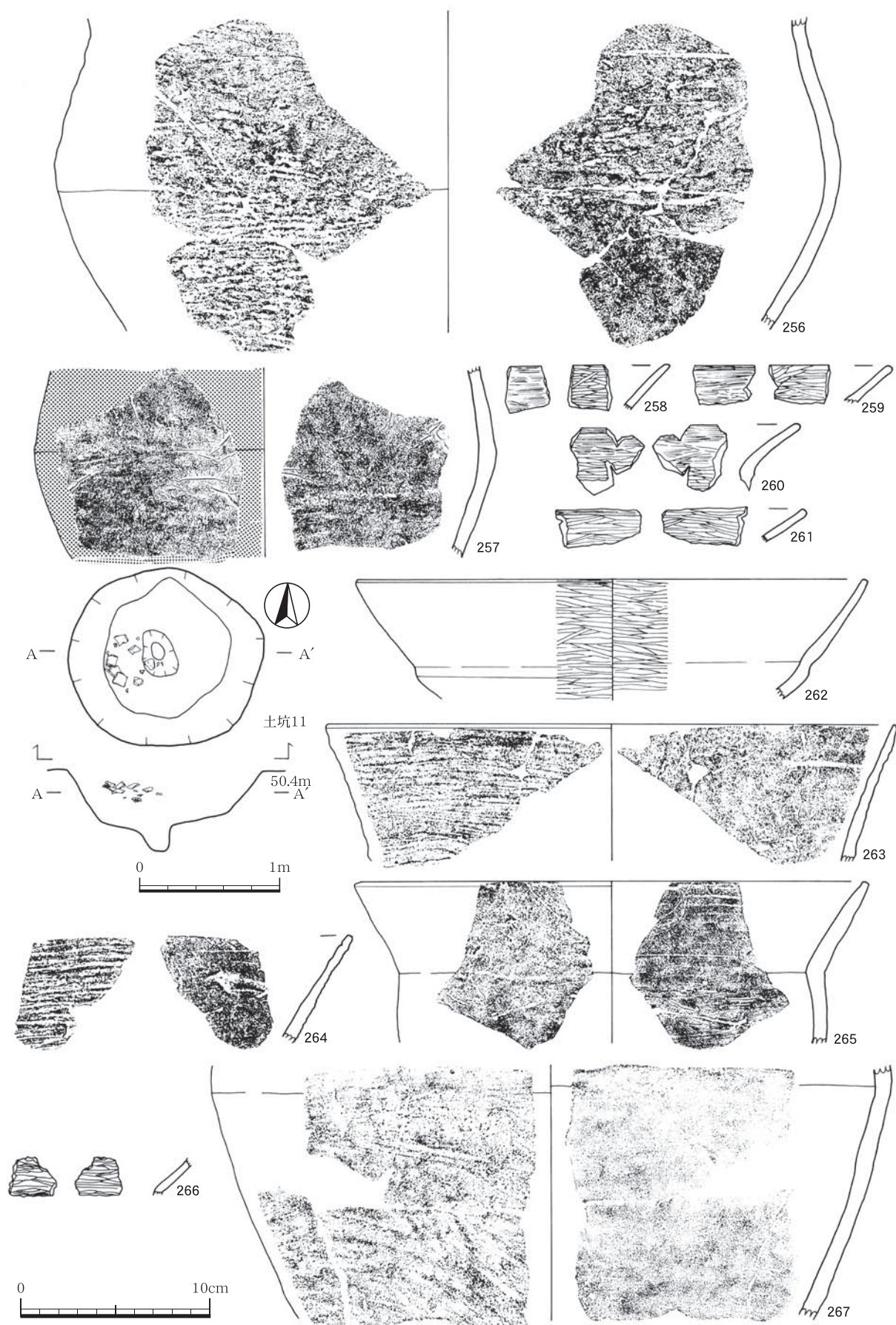
1	埋土は、暗茶褐色土。全体に小さな炭化物が混じるが、特に集中する所はない。 淡褐色のブロック状粘土塊も多く含む。 上位は、特に黒みが強いが、炭化物の有無には関係ない。
---	--



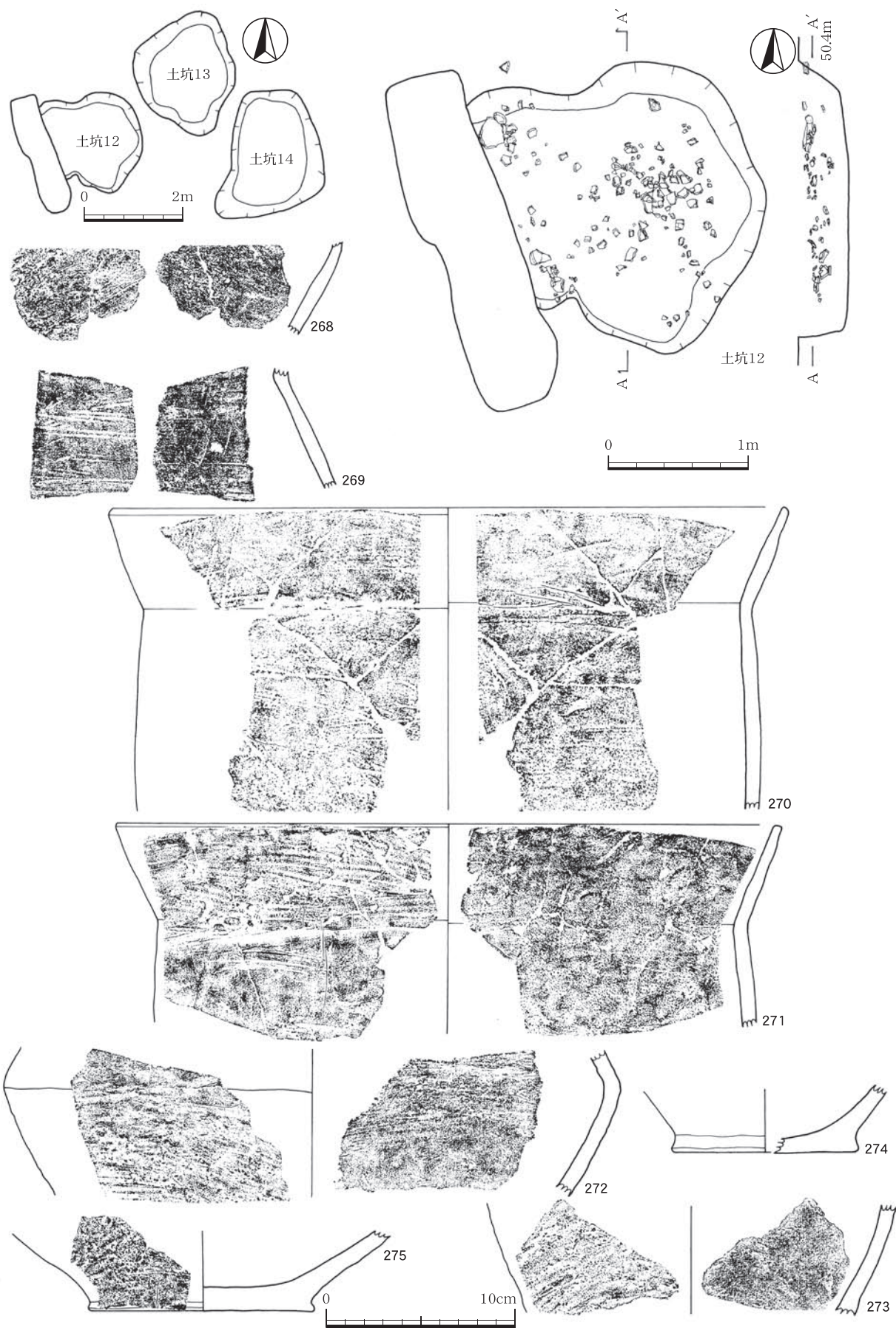
第30図 土坑5・6・7号及び出土遺物



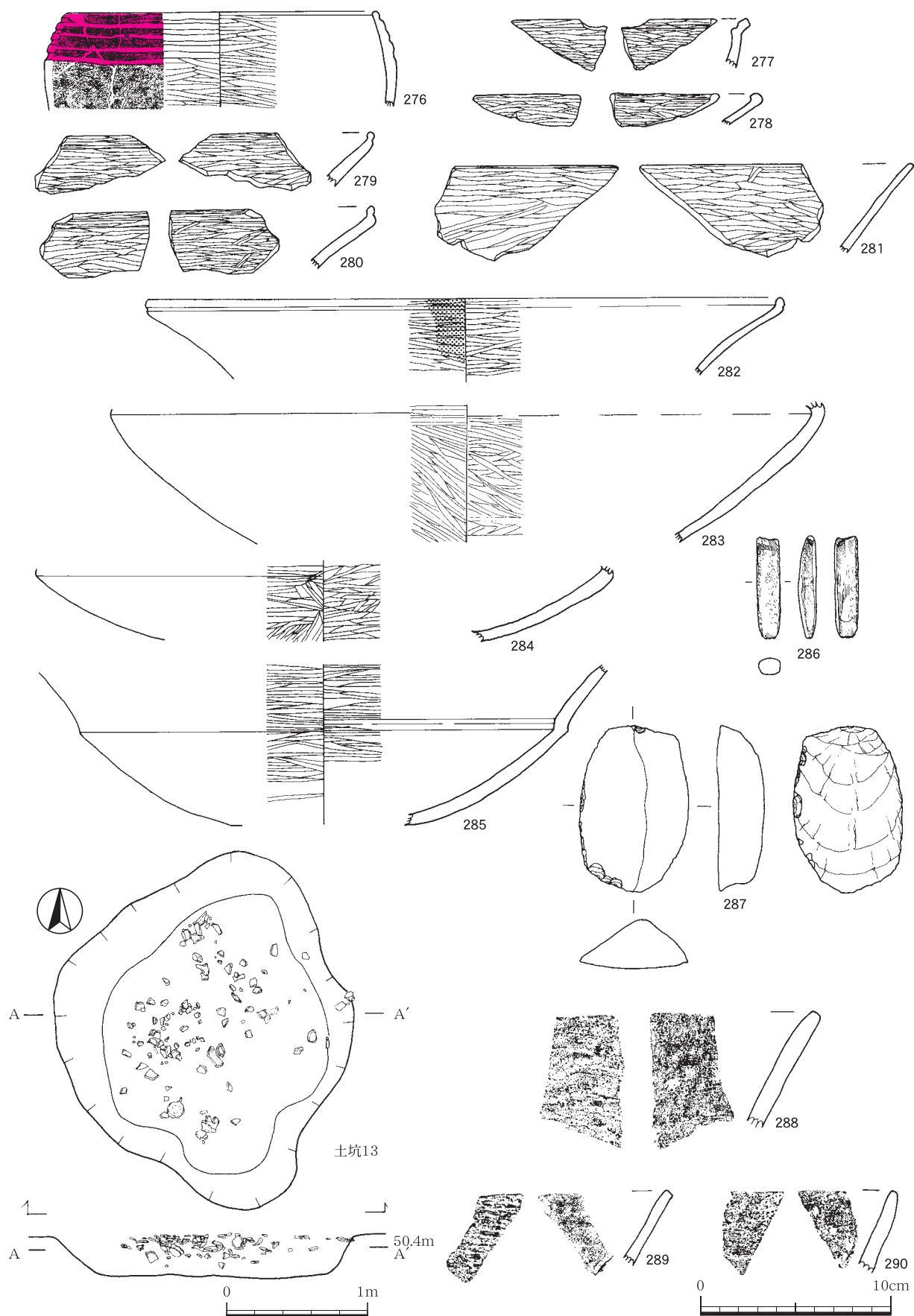
第31図 土坑8・9・10号及び出土遺物



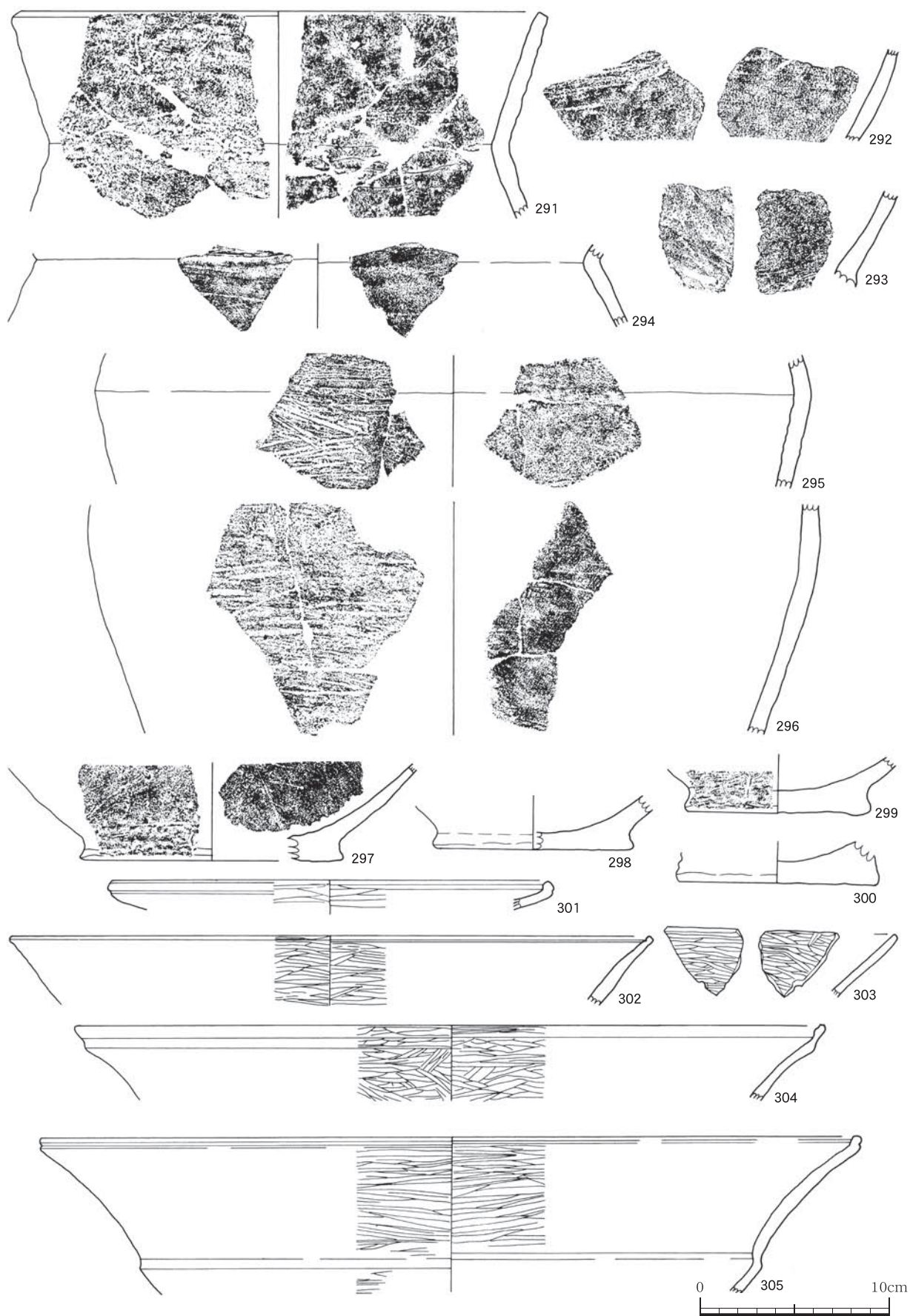
第32図 土坑11号及び出土遺物



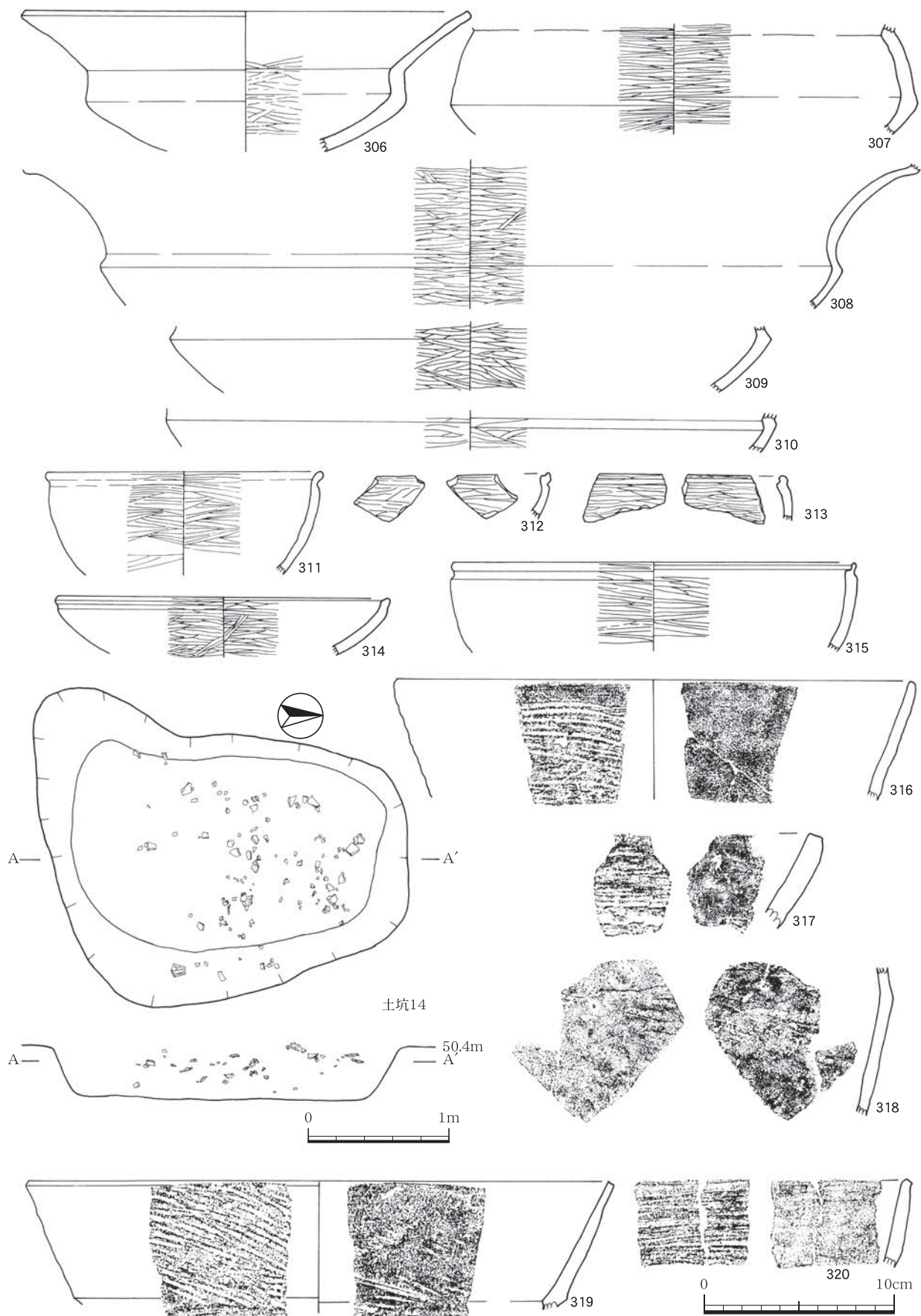
第33図 土坑12号及び出土遺物



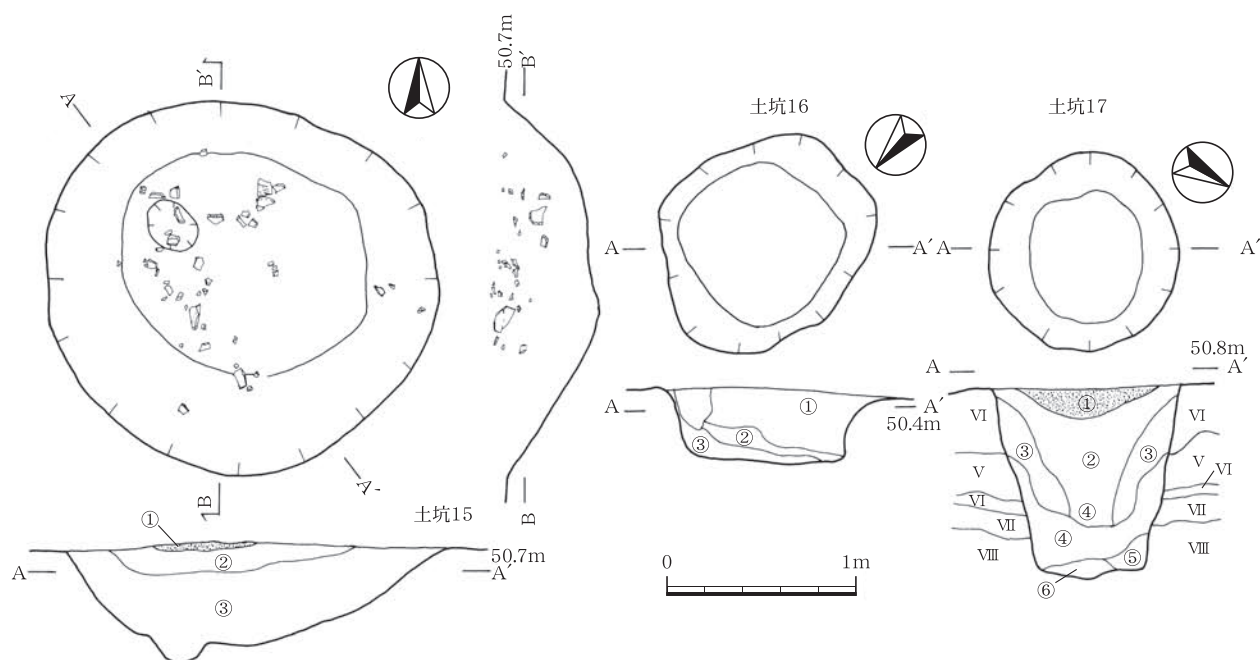
第34図 土坑13号及び出土遺物



第35図 土坑13号出土遺物



第36図 土坑14号及び出土遺物



土坑15

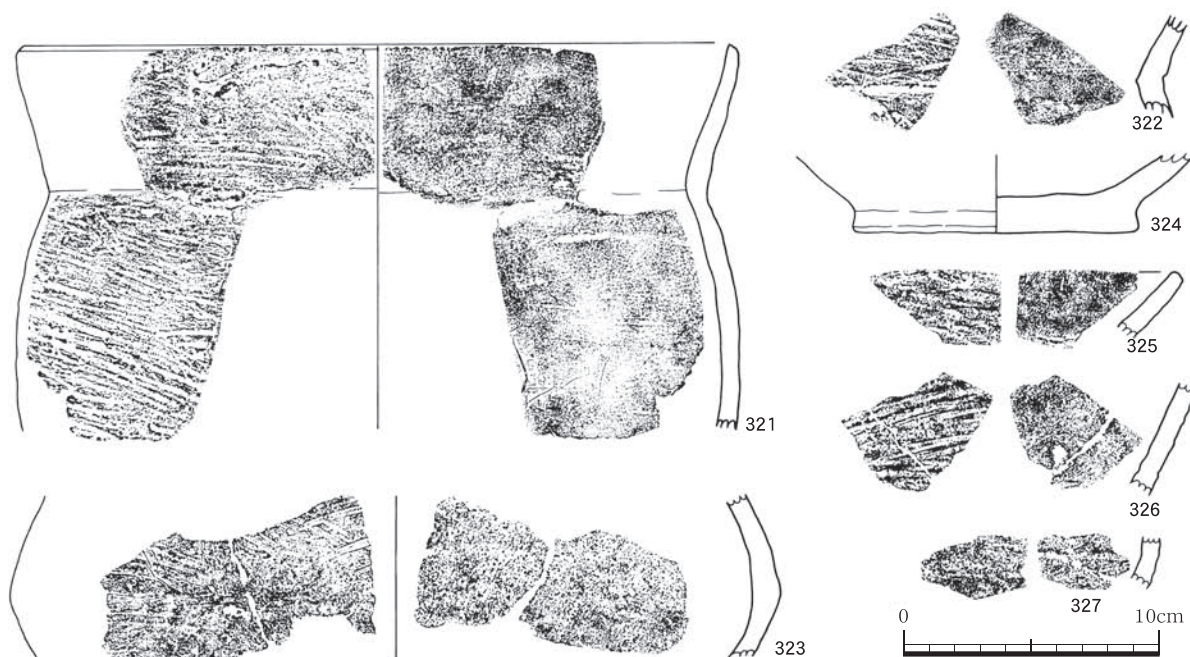
1	灰色粗砂。しまりがある、固結している「灰コラ」と考えられる。
2	暗黄茶褐色土。5mm程の炭化粒が多く含まれる。しまりがある、硬い。
3	黄茶褐色土。2mm程の炭化物をわずかに含む。上部は硬いが、下部になるにつれて、しまりがなくなり、シルト質になる。

土坑16

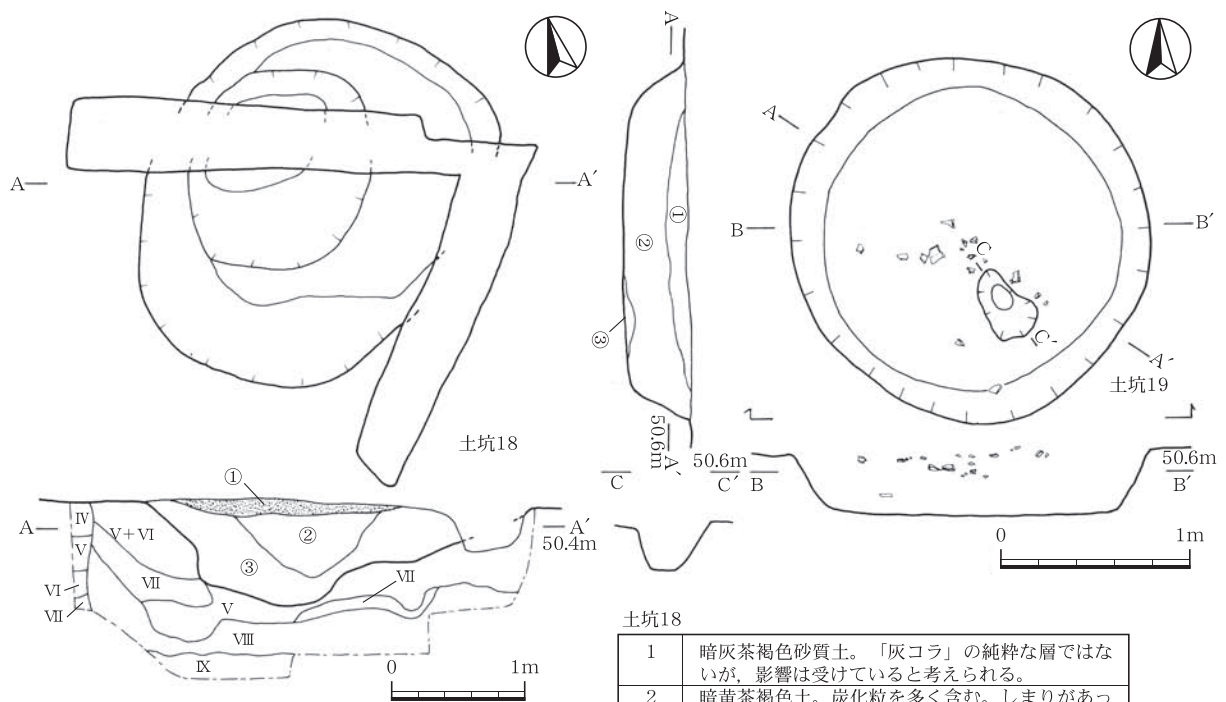
1	暗灰茶褐色砂質土。「灰コラ」の純粋な層ではないが、影響は受けていると考えられる。
2	暗黄茶褐色土。炭化粒が多く含まれる。しまりがある、硬い。
3	黄茶褐色土。炭化粒がわずかに含まれる。しまりがある、硬い。

土坑17

1	黄緑褐色土。少し荒砂が混じり、「灰コラ」の影響だと考えられる。
2	暗黄茶褐色土。炭化物が含まれる。しまりはあるが、少し柔らかい。
3	黄褐色土。炭化物が含まれる。しまりはあるが、少し柔らかい。
4	明茶褐色弱粘質土。炭化粒・焼土粒が含まれる。
5	暗白茶褐色土。やや粘質土。
6	白茶褐色土。弱粘質土。炭化粒を含む。



第37図 土坑15・16・17号及び出土遺物

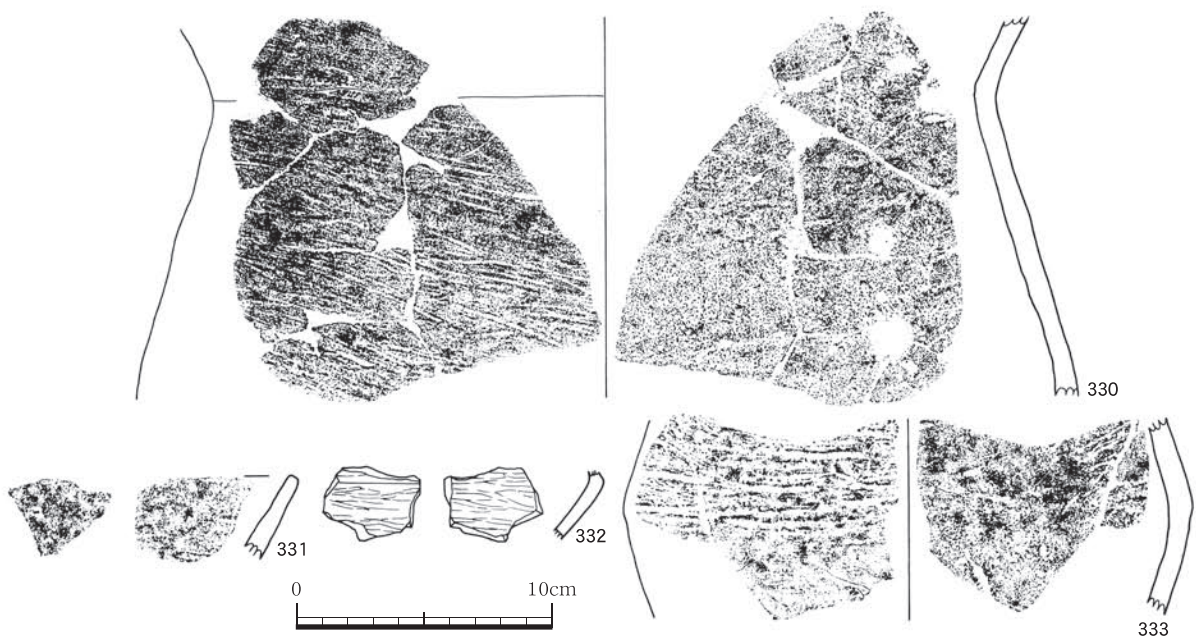
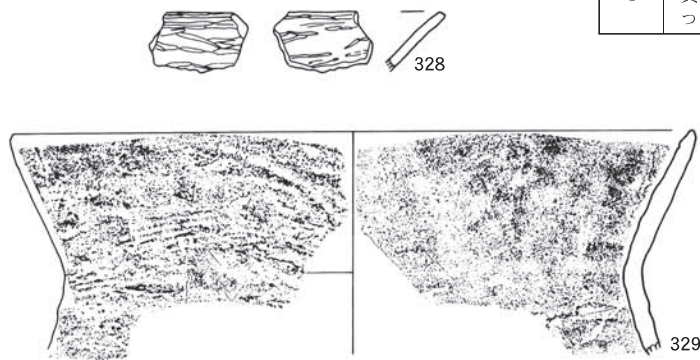


土坑18

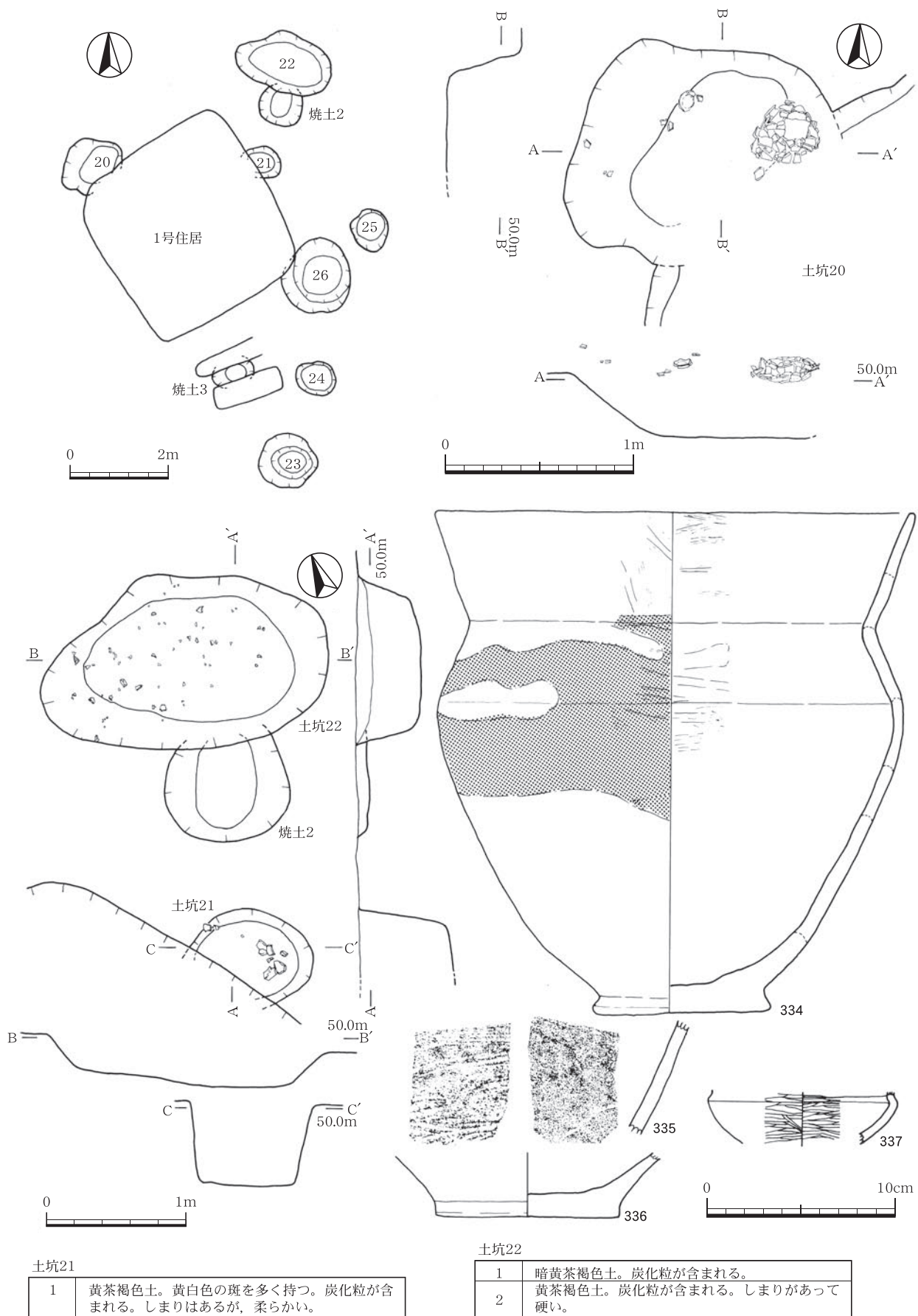
1	暗灰茶褐色砂質土。「灰コラ」の純粋な層ではないが、影響を受けていると考えられる。
2	暗黄茶褐色土。炭化粒を多く含む。しまりがあって硬い。
3	黄茶褐色土。炭化粒をわずかに含む。しまりがあって硬い。

土坑19

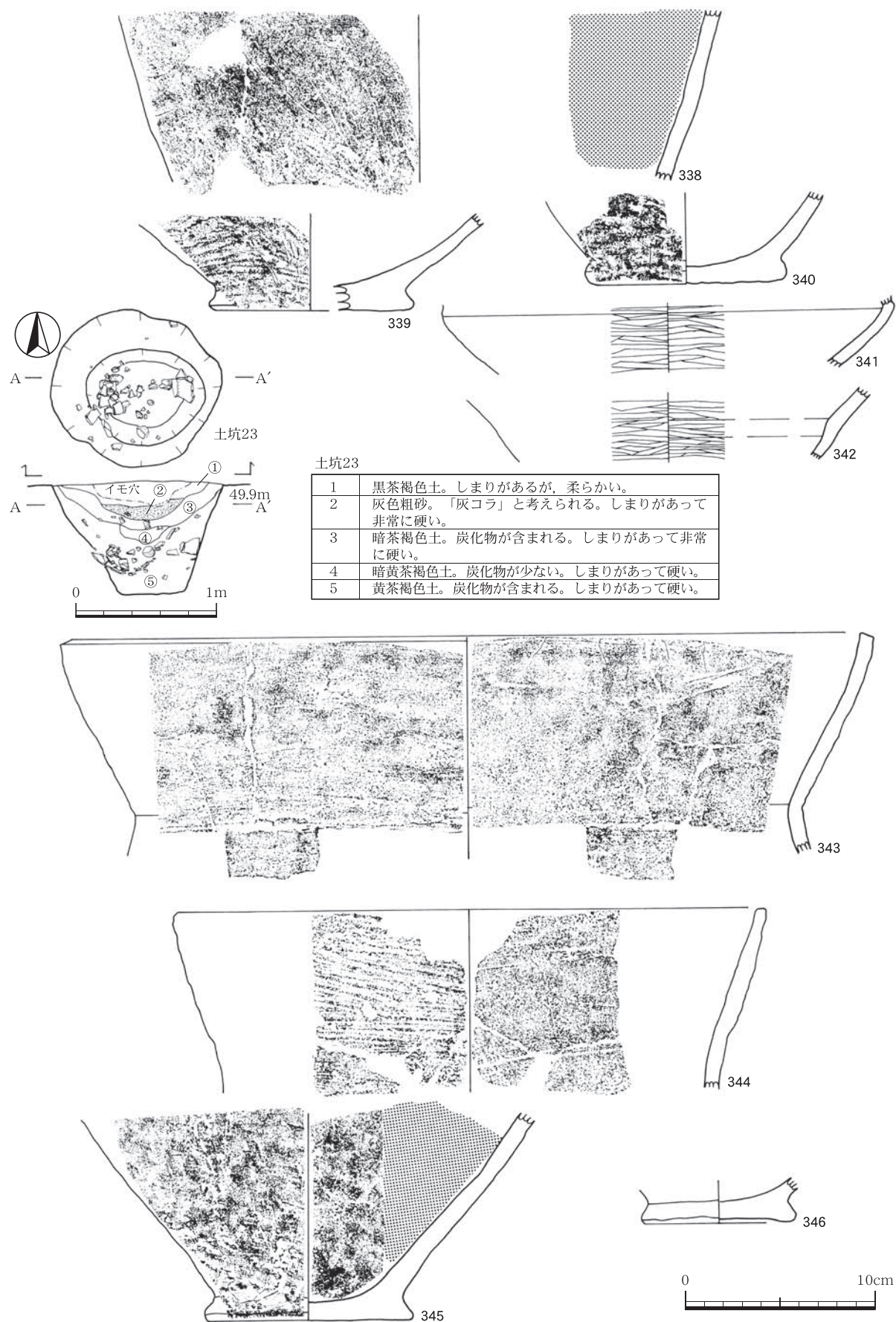
1	暗黄茶褐色土。炭化粒が多く含まれる。しまりがあって硬い。
2	黄茶褐色土。炭化粒がわずかに含まれる。しまりがあってやや硬い。
3	黒茶褐色土。V層の土層と同一である。



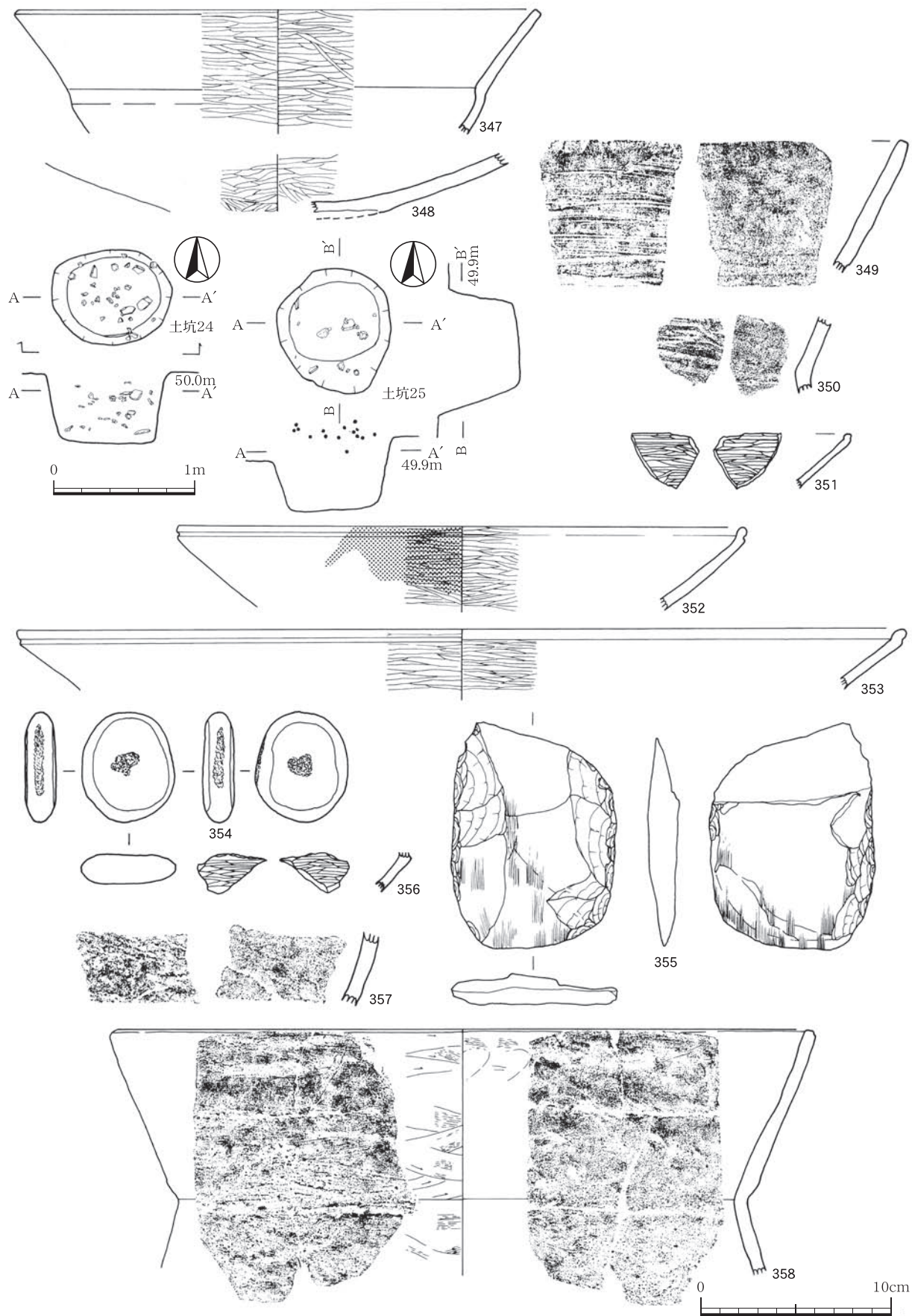
第38図 土坑18・19号及び出土遺物



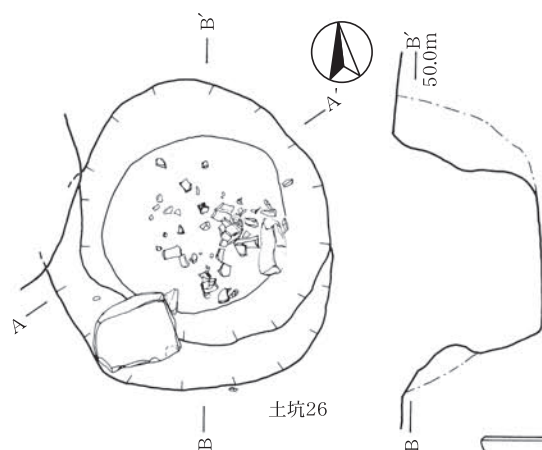
第39図 土坑20・21・22号・焼土2 及び出土遺物



第40図 土坑23号及び出土遺物

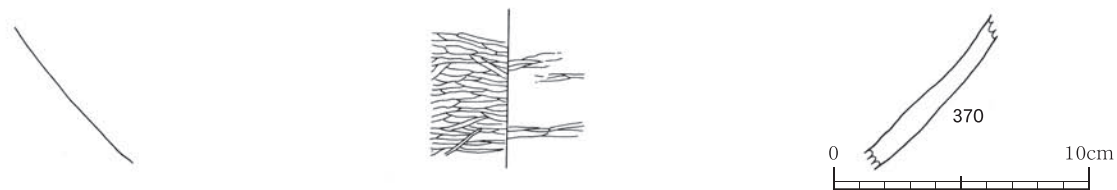
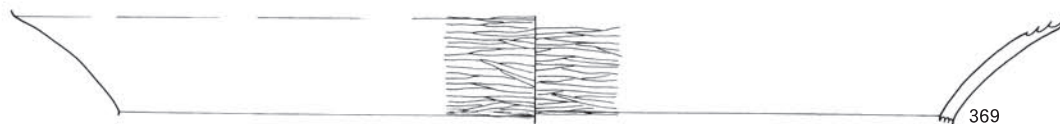
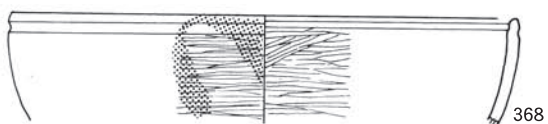
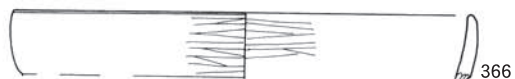
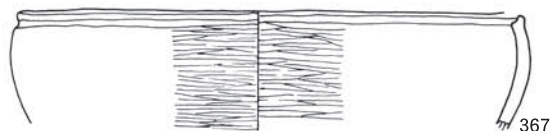
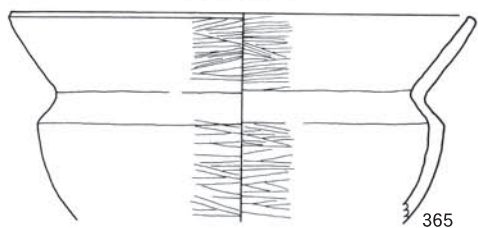
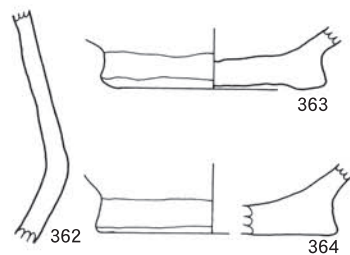
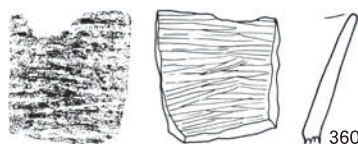
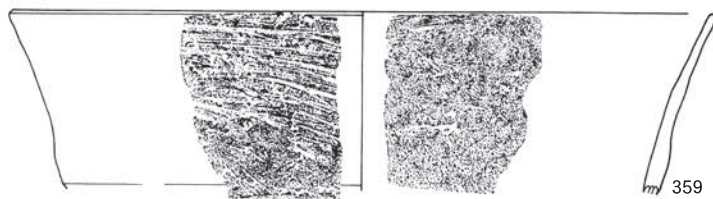
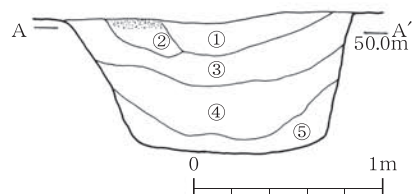


第41図 土坑24・25号及び出土遺物

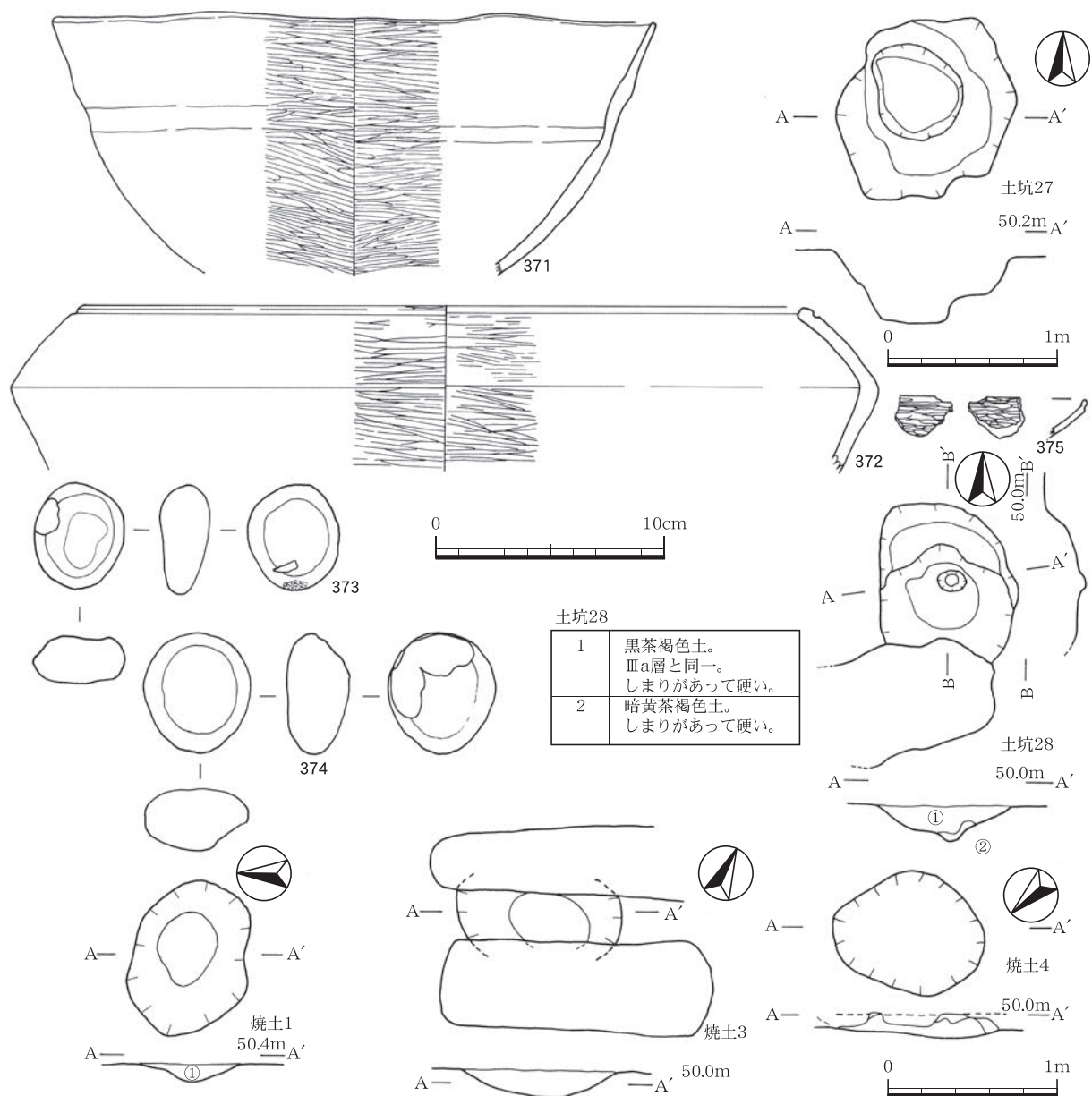


土坑26

1	暗黄茶褐色土。しまりがあって硬い。
2	赤褐色土。
3	黄茶褐色土。やや粘質を帯びる。乳黄褐色の斑が多くみられる。炭化物が含まれる。しまりはあるが、柔らかい。
4	乳茶褐色粘質土。白色の砂粒を含む。炭化物を含む。しまりがあって硬い。
5	黄灰色砂質土。砂がほとんどをしめるが、粘質も帯びる。炭化物を含む。しまりがあって硬い。



第42図 土坑26号及び出土遺物



第43図 土坑27・28号・焼土1・3・4及び出土遺物

8号土坑（第31図）

平面プランが円形の土坑である。端にピットを1基伴う。土坑内遺物は、土器片が数点出土しただけである。

9号土坑（第31図）

平面プランがほぼ円形の土坑である。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部254、胴部255が出土している。

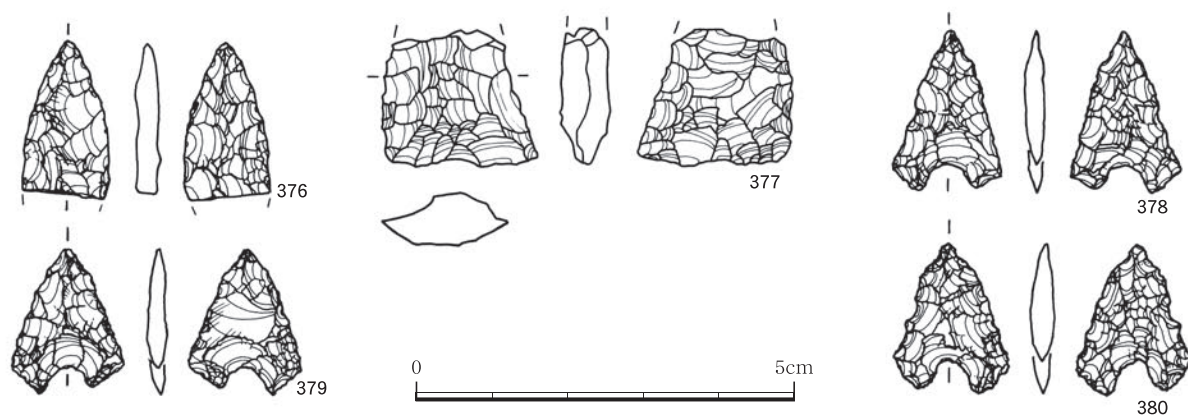
10号土坑（第31図・32図・44図）

平面プランが楕円形で、中央付近にピットを1基伴う土坑である。埋土は、周囲の土よりも硬く、判

断が難しかったが、遺物や炭化物の有無で確認することができた。土坑内からは、深鉢形土器の胴部256・257、内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の口縁部258～262が出土している。石器は、安山岩製の石鏃378・379が出土している。

11号土坑（第32図）

平面プランが円形の中央付近にピットを1基伴う土坑である。埋土は、暗黄褐色の一層であったが、上部には、白黄色の斑が含まれ、しまりがあって硬い。中位ぐらいには炭化物が多く含まれていた。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部263～265、胴部



第44図 土坑内出土石鏃

267, 浅鉢形土器の胴部266が出土している。

12号土坑 (第33図・34図・44図)

平面プランが不整形で、イモ穴により一部削平をうけていた。土坑内からは、土器は、深鉢形土器の口縁部270・271, 胴部268・269, 272・273, 平底の底部274・275が出土している。浅鉢形土器は、口縁部276~282, 胴部283~285が出土している。通称「マリ」と言われている276は、緩やかに内湾する口縁部の外面に4条の沈線が施されており、丹と思われる赤色顔料を伴っている。石器は、頁岩製の小型磨製石斧286, スクレイパー287, 腰岳産黒曜石製の石鏃380, 軽石製品988 (第95図) が出土している。

13号土坑 (第34図・35図・36図)

平面プランが不整形の土坑である。土坑内には、土器片が散乱しており、深鉢形土器は、口縁部288~291, 胴部292・293・295・296, 頸部294, 平底の底部297~300が出土している。浅鉢形土器は、頸部から口縁部にかけて大きく弧状に外反する形の口縁部301~306, 胴部307~310や胴部が内湾しながら立ち上がりの口縁部で短く外開きとなる形の311~315が出土している。石器は、異形石器892 (第84図) が出土している。

14号土坑 (第36図)

平面プランが楕円形に近い不整形の土坑である。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部316・317, 319・320, 胴部318が出土している。

15号土坑 (第37図)

平面プランが円形の土坑である。一部「灰コラ」

が堆積していたが、土坑内の遺物は、その下の層より出土した。深鉢形土器の口縁部~胴部321, 頸部322, 胴部323, 平底の底部324が出土している。

16号土坑 (第37図)

平面プランがほぼ円形の土坑である。土器等遺物は、出土していない。

17号土坑 (第37図)

平面プランが円形で、深さが98cmの比較的深い土坑である。一部「灰コラ」が堆積していたが、土坑内の遺物は、その下の層より出土した。深鉢形土器の口縁部325, 胴部326・327が出土している。

18号土坑 (第38図)

平面プラン300×250cm, 深さ143cmの比較的大きい土坑である。イモ穴により一部削平をうけていた。上部に「灰コラ」が堆積していたが、土坑内の遺物は、その下の層より出土した。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部328・329, 頸~胴部330が出土している。329は、外面は条痕後粗ナデ, 内面はナデ, 調整を施している。また、外面に付着していたススの放射性炭素年代測定を行ったところ、BP2970±85年である。(2005年3月鹿埋セ報83建石ヶ原遺跡177・178頁参照)

19号土坑 (第38図)

平面プランが円形で、ピットを1基伴う土坑である。土坑内からは、深鉢形土器の口縁部331, 胴部333, 内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の胴部332が出土している。

20号土坑（第39図）

平面プランが不整形で、弥生時代の1号住居により一部削平をうけている。M-2・3区に20～26号土坑や焼土、掘立柱建物跡など遺構が集中している。この土坑内からは、完形に復元できた深鉢形土器334、胴部335、平底の底部336が出土している。土坑上部で出土した入佐式土器の334は、頸部より口縁部が外反するもので、内外面ともナデ調整であり、外面にはススが広範囲に付着していた。

21号土坑（第39図・40図）

弥生時代の1号住居により、一部削平をうけていたが、平面プランは円形だと思われる。土坑内からは、深鉢形土器の内面にススが付着している胴部338、平底の底部339・340、内外面共丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の胴部341・342が出土している。

22号土坑（第39図）

平面プランがほぼ楕円形で、2号焼土と切り合っている。埋土や土坑内遺物等より2号焼土とほぼ同時期だと考えられる。土坑内からは土器の碎片が多数出土しているが、図化できなかった。

23号土坑（第40図・41図）

平面プランが円形の土坑である。埋土の植物珪酸体分析を行い、クスノキ科や棒状珪酸体が多量に検出された。（2005年3月鹿埋セ報83建石ヶ原遺跡178・179頁参照）「灰コラ」と思われる層より土器片が数点出土しているが、下層から出土した土器が上に浮いてきていると思われる。深鉢形土器の口縁部343・344、胴～底部345、平底の底部346が出土している。345は、内面はナデ調整であるが、一部スス付着後に研磨を施された部分があり、その研磨痕は、土器製作時につけられたものではなく、使用時にあたって施されたものと思われる。内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の口縁～胴部347、底面が欠損している胴～底部348が出土している。

24号土坑（第41図）

平面プランがほぼ円形の土坑である。土坑内からは、土器は、深鉢形土器の外表面は条痕、内表面はナデ調整の口縁部349、頸部350、内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の口縁部351～353が出土し

ている。石器は、砂岩製の磨・敲石354、粘板岩製の磨製石斧355が出土している。

25号土坑（第41図）

平面プランがほぼ円形の土坑である。土坑内からは、内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の胴部356と深鉢形土器の胴部357が出土している。

26号土坑（第41図・42図・43図）

平面プランがほぼ円形の土坑である。土坑内の自然礫及び焼土の上には「灰コラ」が堆積しており、埋土の重鉱物組成分析と植物珪酸体分析を行った。重鉱物組成分析では、開聞岳起源の「灰コラ」と共通した特徴が認められた。植物珪酸体分析では、クスノキ科が多量に検出された。（2005年3月鹿埋セ報83建石ヶ原遺跡175～179頁参照）土坑内の遺物は、「灰コラ」の下層から出土した。深鉢形土器は、口縁部358～361、胴部362、平底の底部363・364、浅鉢形土器は、口縁～胴部365、口縁部366～368、胴部369・370、内外面にケズリ後ミガキ調整の口縁～底部付近371、内外面にミガキ後ナデ調整で、胴部が屈曲して口縁部へ到り、口縁外面に1条の沈線を施す372が出土している。石器は、砂岩製の磨石373・374が出土している。

27号土坑（第43図）

平面プラン、断面とも不整形である。埋土からは、内外面共に丁寧なヘラミガキ調整の浅鉢形土器の口縁部375が出土している。

28号土坑（第43図）

平面プランが不整形で、一部イモ穴等により削平をうけている。中央付近にピットを一基伴う。遺物等は、出土していない。

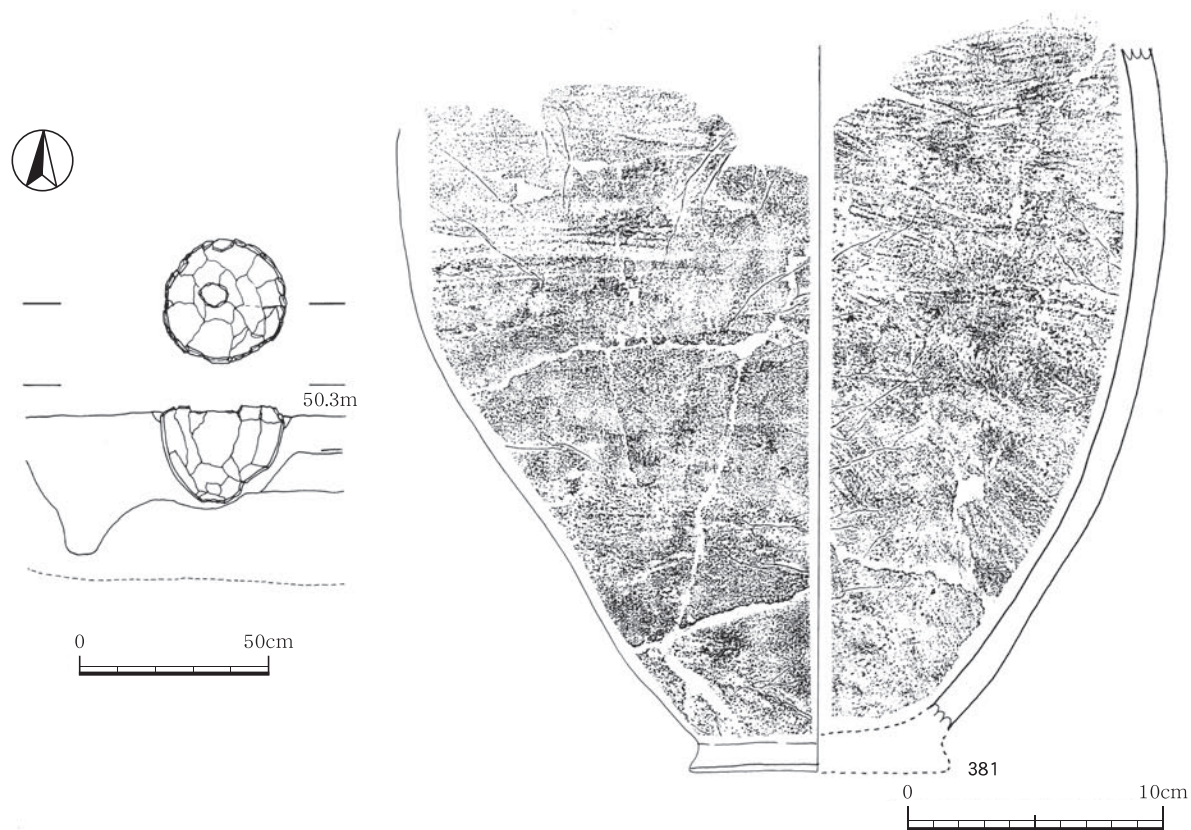
② 焼土（第39図・43図）

4基の焼土が検出された。埋土は、4基とも下層から黒褐色土と加熱を受けたと思われる赤褐色土からなる。2号焼土からは、内外面がミガキ後ナデ調整の浅鉢形土器の胴部337が出土している。

遺構内土器観察表

挿図 番号	番号	遺構	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
				内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 28 図	219	土坑3	底部	暗灰黄	橙	○	○	○	雲母	良	ナデ	ナデ	
	220	土坑3	胴部	浅黄オリーブ褐	浅黄	○	○			良	ナデ	ミガキ	スス(外)
	221	土坑3	口縁部	黄褐	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	222	土坑3	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第 29 図	225	土坑4	口縁部	黒	黒	○	○			良	条痕後ナデ	ミガキ後ナデ	
	226	土坑4	口縁部	浅黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕後ヘラケズリ	ナデ	
	227	土坑4	頸部	浅黄	黒褐	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
	228	土坑4	頸部	浅黄橙・橙	橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	229	土坑4	頸部	灰黄・黄灰	黒褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	230	土坑4	頸部	浅黄	黄褐	○	○	○		良	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	スス(外)
	231	土坑4	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	232	土坑4	胴部	にぶい黄橙	黒	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
	233	土坑4	胴部	灰黄	灰黄・黒褐	○	○	○			ナデ	ナデ	
	234	土坑4	底部	暗灰黄	にぶい赤褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	235	土坑4	底部	オリーブ黒	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	236	土坑4	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	237	土坑4	口縁部	暗灰黄	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	238	土坑4	胴部	オリーブ黒	黒	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	239	土坑4	口縁～胴部	浅黄	浅黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	240	土坑4	底部	オリーブ黒・にぶい黄	浅黄	○	○			良	条痕後ナデ	ミガキ後ナデ	
第 30 図	242	土坑6	口縁部	淡黄	浅黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	243	土坑6	胴部	にぶい黄	オリーブ黒	○	○			良	条痕	ナデ	
	244	土坑7	口縁部	灰黄	浅黄	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	245	土坑7	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	ナデ	ミガキ	
	246	土坑7	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	247	土坑7	胴部	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	248	土坑7	胴部	灰黄	にぶい黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	249	土坑7	頸～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	
	250	土坑7	底部	にぶい黄	暗灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	251	土坑7	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第 31 図	252	土坑7	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	254	土坑9	口縁部	にぶい黄橙	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	255	土坑9	胴部	褐灰	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	条痕後ナデ	スス(外)
	256	土坑10	胴部	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	条痕後ナデ	
第 32 図	257	土坑10	胴部	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス(外)
	258	土坑10	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	259	土坑10	口縁部	灰白	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	260	土坑10	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	261	土坑10	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	262	土坑10	口縁～胴部	褐灰・橙	褐灰・橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	263	土坑11	口縁部	灰黄	黄灰	○	○			良	条痕	ナデ	
	264	土坑11	口縁部	灰黄	にぶい黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	265	土坑11	口縁～胴部	黄灰	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス(外)
	266	土坑11	胴部	黄灰	灰黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	267	土坑11	胴部	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
第 33 図	268	土坑12	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	269	土坑12	胴部	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	スス(外)
	270	土坑12	口縁～胴部	浅黄	灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	271	土坑12	口縁～胴部	灰黄	浅黄橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	272	土坑12	胴部	灰黄	にぶい橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	273	土坑12	胴部	黒褐	明黄褐	○	○			良	ナデ	ミガキ	
	274	土坑12	底部	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	275	土坑12	底部	黄灰	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	276	土坑12	口縁部	暗灰黄	黒褐	○	○			良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	赤色顔料(外)
第 34 図	277	土坑12	口縁部	浅黄	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	278	土坑12	口縁部	灰黄褐	にぶい橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	279	土坑12	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	280	土坑12	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	281	土坑12	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	282	土坑12	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○		金雲母	良	ミガキ	ミガキ	スス(外)
	283	土坑12	胴部	黒	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	284	土坑12	胴部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	285	土坑12	胴部	褐灰	にぶい黄橙・灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	288	土坑13	口縁部	灰黄	暗灰黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	289	土坑13	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	290	土坑13	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	ナデ	ナデ	
	291	土坑13	口縁～頸部	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	292	土坑13	胴部	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
第 35 図	293	土坑13	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	294	土坑13	頸部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ・ナデ	ナデ	
	295	土坑13	胴部	浅黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	296	土坑13	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	297	土坑13	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	298	土坑13	底部	褐灰	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	299	土坑13	底部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	300	土坑13	底部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	301	土坑13	口縁部	黒	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	

挿入 番号	番号	遺構	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
				内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第35図	302	土坑13	口縁部	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	303	土坑13	口縁部	黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	304	土坑13	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	305	土坑13	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第36図	306	土坑13	口縁～胴部	褐灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ミガキ・ナデ	
	307	土坑13	胴部	灰黄	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	308	土坑13	胴部	黄灰	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	309	土坑13	胴部	黄灰	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	310	土坑13	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	311	土坑13	口縁部	黒	にぶい橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	312	土坑13	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	313	土坑13	口縁部	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	314	土坑13	口縁部	灰黄	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	315	土坑13	口縁部	黒	灰褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	316	土坑14	口縁部	にぶい黄	にぶい褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	317	土坑14	口縁部	灰黄	暗灰黄	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	318	土坑14	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	319	土坑14	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	320	土坑14	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
第37図	321	土坑15	口縁～胴部	にぶい橙	黒褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	322	土坑15	頸部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	323	土坑15	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	324	土坑15	底部	浅黄	浅黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	325	土坑17	口縁部	黄灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	326	土坑17	胴部	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	327	土坑17	胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
第38図	328	土坑18	口縁部	灰黄	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ後ナデ	
	329	土坑18	口縁部	灰	浅黄	○	○			良	条痕後粗なナデ	ナデ	スス（外）
	330	土坑18	頸～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	スス（外）
	331	土坑19	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（外）
	332	土坑19	胴部	灰褐	にぶい橙	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	スス（外）
	333	土坑19	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ・条痕	スス（外）
第39図	334	土坑20	完形	にぶい橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（外）
	335	土坑20	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	
	336	土坑20	底部	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	337	焼土2	胴部	橙	橙	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
第40図	338	土坑21	胴部	浅黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（内）
	339	土坑21	底部	灰褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	340	土坑21	底部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	341	土坑21	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	342	土坑21	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	343	土坑23	口縁～頸部	褐灰	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	344	土坑23	口縁～頸部	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	345	土坑23	胴部～底部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（内）
	346	土坑23	底部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第41図	347	土坑23	口縁～胴部	黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	348	土坑23	胴～底部	褐灰	浅黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	349	土坑24	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	スス（外）
	350	土坑24	頸部	灰黄	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	351	土坑24	口縁部	灰黄	にぶい黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	352	土坑24	口縁部	黄灰	黄灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	353	土坑24	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	356	土坑25	胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	357	土坑25	胴部	浅褐	にぶい黄	○	○	○		良	条痕後ヘラミガキ	ナデ	スス（外）
	358	土坑26	口縁部	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	359	土坑26	口縁部	灰白	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	360	土坑26	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	条痕後ミガキ	
第42図	361	土坑26	口縁部	浅黄	黄灰	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	362	土坑26	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（外）
	363	土坑26	底部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	364	土坑26	底部	褐灰	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	365	土坑26	口縁～胴部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	366	土坑26	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	367	土坑26	口縁部	浅黄	にぶい橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	368	土坑26	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	369	土坑26	胴部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	370	土坑26	胴部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ・ナデ	
第43図	371	土坑26	口縁～胴部	黒	橙	○	○	○		良	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	スス（外）
	372	土坑26	口縁～胴部	灰黄褐	浅黄	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	375	土坑27	口縁部	灰黄	黄灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第45図	381	埋設	胴部～底部	灰黄	橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	スス（外）



第45図 埋設土器及び出土状況

③埋設土器（第45図）

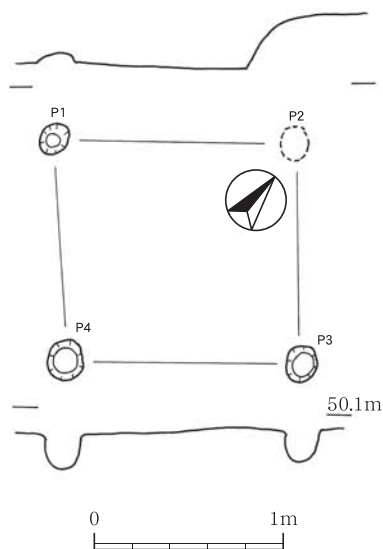
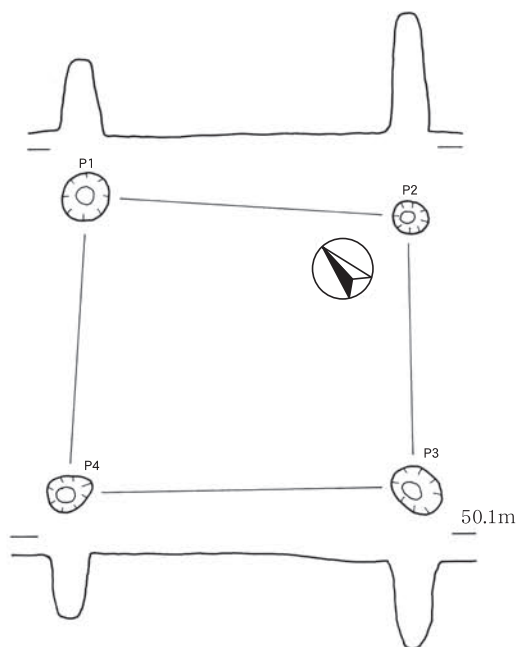
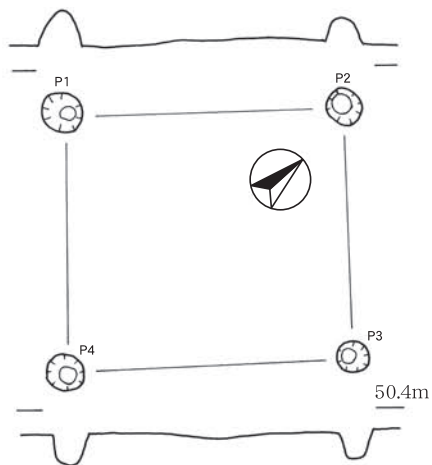
N-3区のⅢ層で検出された。381は、上半分が後世の削平等により欠損していた深鉢形土器であるが、残存していた胴～底部の下半分は、ほぼ正位に埋設されていた。底部は、何らかの理由で故意に打ち欠かれていると考えられる。掘り込みは、平面では確認できなかったが、断面観察では深鉢とほぼ同じ様な大きさと深さであったと思われる。

土器の内部の暗黄褐色土は、しまりがあるが、比

較的やわらかい。土器の中からは、遺物や人骨等は確認できず、土器内土壌のリン・カルシウム分析（2005年3月鹿埋セ報83建石ヶ原遺跡179・180頁参照）の結果、リン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性も認められなかった。しかし、底部が打ち欠かれていたことなどから、幼児の埋葬にかかわる可能性も考えられる。また、外面に煤が付着していたことから、煮炊き用の土器を、埋葬用として二次的に使用したものと考えられる。

遺構内石器観察表

挿図 番号	番号	遺構	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	
					cm	cm	cm	g	分類	破損部分
第28図	218	土坑2	磨石	砂岩	11.90	11.50	6.40	1120.00		
	223	土坑3	磨石	安山岩	10.80	10.90	6.70	1090.00		
	224	土坑3	石斧	粘板岩	18.90	8.20	1.80	315.00		
第29図	241	土坑4	磨石・敲石	頁岩	3.90	3.80	1.70	26.96		
第31図	253	土坑7	磨石	安山岩	14.60	12.80	5.30	1430.00		
第34図	286	土坑12	小型磨製石斧	頁岩	5.45	1.20	0.90	10.37		
	287	土坑12	スクレイパー	頁岩	8.90	6.05	2.60	159.22		
第41図	354	土坑24	磨石・敲石	砂岩	5.70	4.85	1.60	74.66		
	355	土坑24	磨製石斧	粘板岩	11.90	8.80	1.70	183.21		
第43図	373	土坑26	磨石	砂岩	4.70	4.00	2.05	57.42		
	374	土坑26	磨石	砂岩	5.30	4.70	2.75	89.69		
第44図	376	土坑6	石鏃	頁岩	2.10	1.10	0.30	0.87	C b a	基端の両方？
	377	土坑6	石鏃	玉髄(メノウ)	1.80	2.10	0.70	2.27	A b a	先端
	378	土坑10	石鏃	安山岩	2.10	1.45	0.25	0.65	A b b	—
	379	土坑10	石鏃	安山岩	1.90	1.45	1.25	0.57	A a b	—
	380	土坑12	石鏃	黒曜石(腰岳産)	1.95	1.50	0.35	0.73	A a b	—



第46図 堀立柱建物跡 1～3号

④堀立柱建物跡

堀立柱建物跡は、3棟とも1間×1間の建物である。諏訪前遺跡だけでなく農業開発総合センター遺跡群内の各遺跡で多くみられる。大きさ・方向・柱間形状等に統一性はみられない。柱穴内の埋土は、ほとんどが暗黒茶褐色の一層である。3号は、柱穴の一つが削平を受けており、建物跡ではない可能性も考えられる。

堀立柱建物跡柱穴計測表・柱穴芯間距離計測表
1号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	22	20	20
2	20	18	16
3	18	16	16
4	22	20	17

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	144
2～3	130
3～4	144
4～1	136

2号

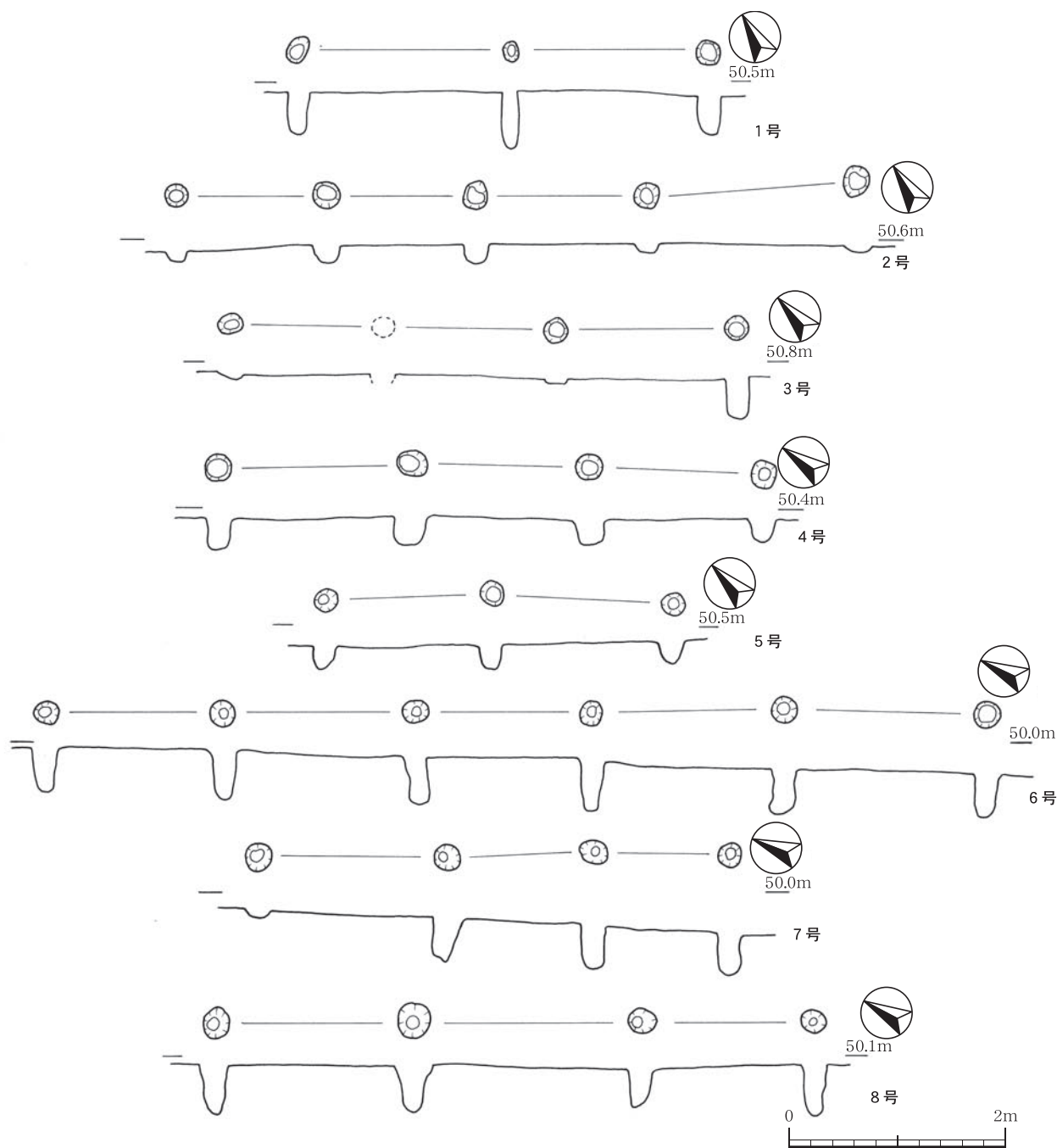
柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	27	25	37
2	20	19	63
3	27	21	47
4	23	19	32

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	170
2～3	141
3～4	180
4～1	154

3号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	18	13	5
2	—	—	—
3	19	15	15
4	20	18	17

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	—
2～3	—
3～4	125
4～1	115



第47図 柱穴列 1～8号

⑤柱穴列

柱穴列も農業開発総合センター遺跡群においてはよく見られる遺構である。3個以上の柱穴が直線上に並んでいるものを人為的な遺構としてとらえた。

本遺跡においては8列の柱穴列を検出したが、3号だけは、はっきりとしない柱穴が多く、柱穴列ではない可能性も考えられる。柱穴は3個から6個までのものがみられる。個数が多くなると若干直線か

らずれるものもみられるが、大きくずれることはない。また、柱穴の大きさや方位などについては、統一性はみられないが、M・N区で検出されたものは南北に近く、I・J区で検出されたものはM・N区のものより東西寄りになる傾向が見られる。何らかの建物の柱の可能性を考えたい。柱穴内の埋土は、ほとんどが暗黒茶褐色の一層である。

柱穴列柱穴計測表・柱穴芯間距離計測表

1号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	28	20	38
2	20	13	55
3	26	24	38

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	198
2～3	182
1～3	380

2号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	22	20	12
2	28	26	18
3	27	22	18
4	25	24	12
5	28	26	8

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	138
2～3	138
3～4	158
4～5	196
1～5	630

3号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	26	20	8
2	—	—	—
3	24	22	6
4	25	24	36

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	—
2～3	—
3～4	168
1～4	470

4号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	26	22	30
2	32	24	30
3	28	24	24
4	24	22	22

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	180
2～3	165
3～4	160
1～4	505

5号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	24	20	20
2	26	20	22
3	24	22	21

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	160
2～3	167
1～3	327

6号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	24	22	40
2	26	24	48
3	24	22	45
4	26	22	47
5	26	24	42
6	28	26	41

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	166
2～3	178
3～4	163
4～5	178
5～6	188
1～6	873

7号

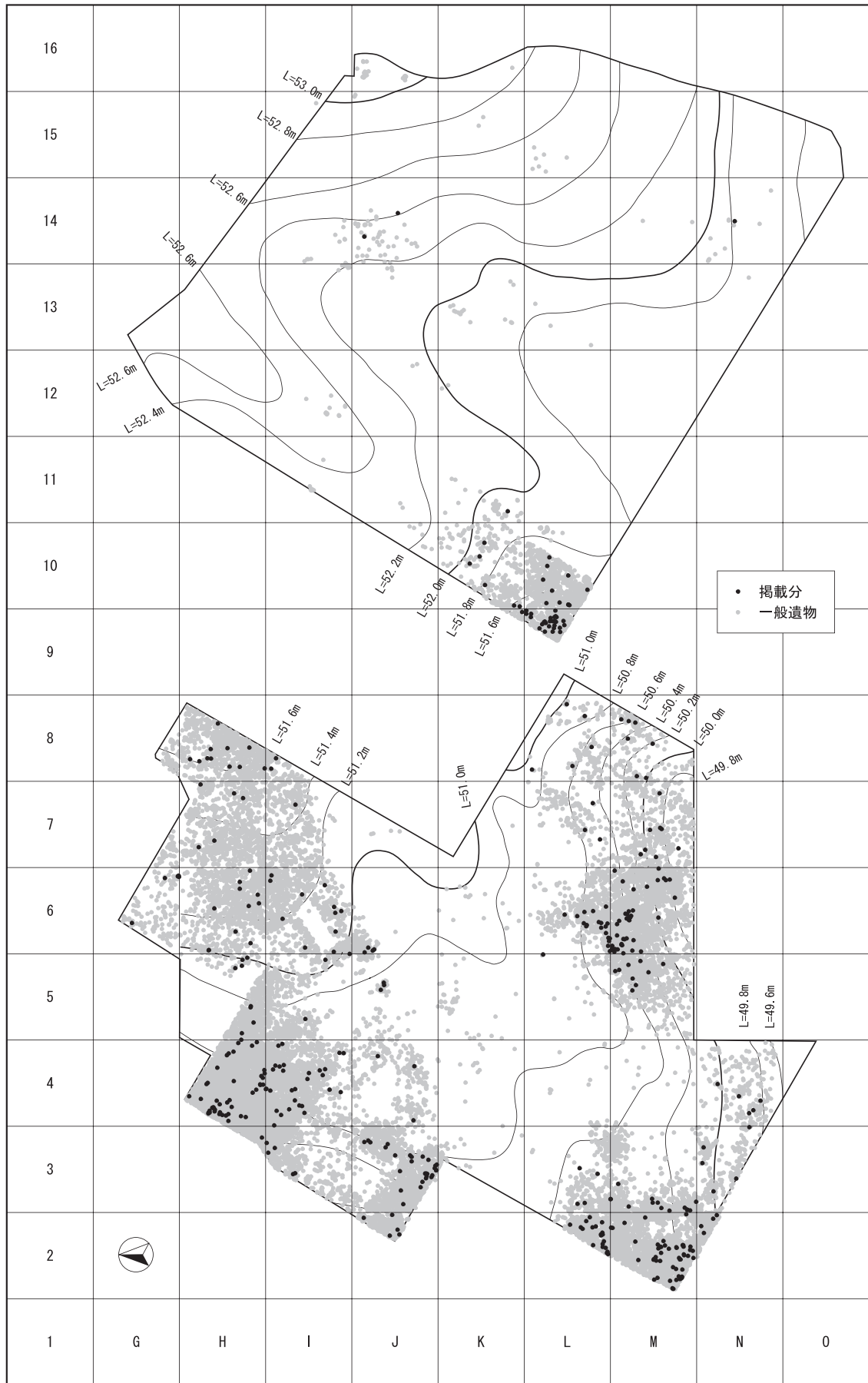
柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	26	24	9
2	25	24	41
3	28	22	40
4	24	22	39

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	173
2～3	143
3～4	124
1～4	440

8号

柱穴番号	柱穴痕（単位：cm）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	30	26	46
2	34	32	42
3	28	24	36
4	26	22	48

柱穴番号	柱間（単位：cm）
1～2	186
2～3	207
3～4	163
4～1	556



第48図 縄文時代晩期土器出土状況図（1グリッド：20m）

(2) 遺物 (第49図～第95図)

①土器 (第49図～第70図)

縄文時代晩期の土器は、深鉢形土器と浅鉢形土器に形態分類できる。概して深鉢形土器は粗製、浅鉢形土器は精製である。

縄文時代晩期の土器はXIV類とし、さらにXIV a・b・c類の3つに細分した。また、胴部や底部の破片で、著しい特徴が見られないものは、一括してXV類として扱った。

深鉢形土器 (第49図～第62図)

深鉢形土器は、その形状によりa類 (382・383)、b類 (384～519)、c類 (520～524) に細分される。

XIV a類 (第49図)

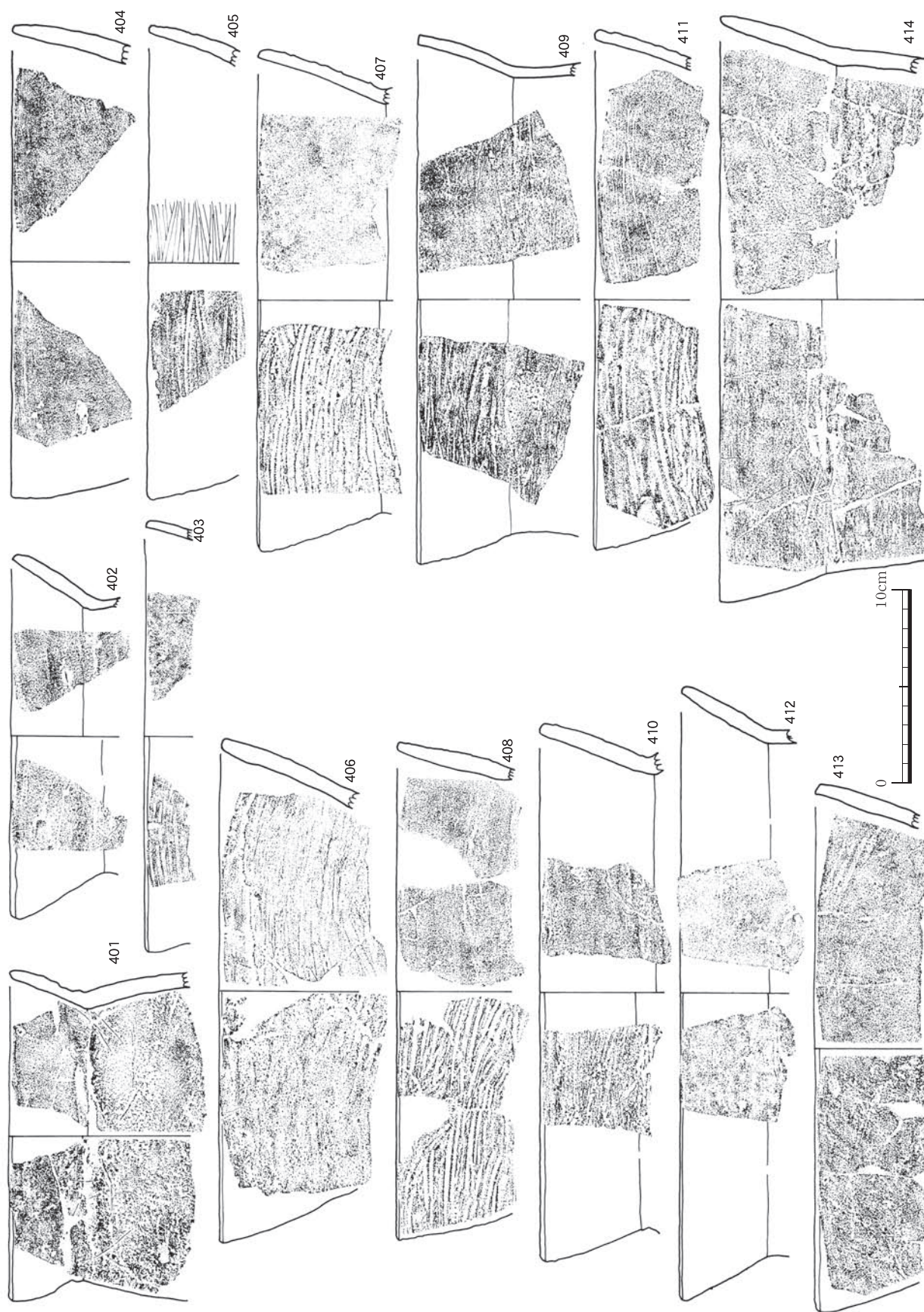
深鉢形土器 a類は、382と383の2点だけである。382は、直行する口縁部の狭い文様帯に3条の沈線を、383は、2条の浅い沈線を施すものである。

XIV b類 (第49図～第56図)

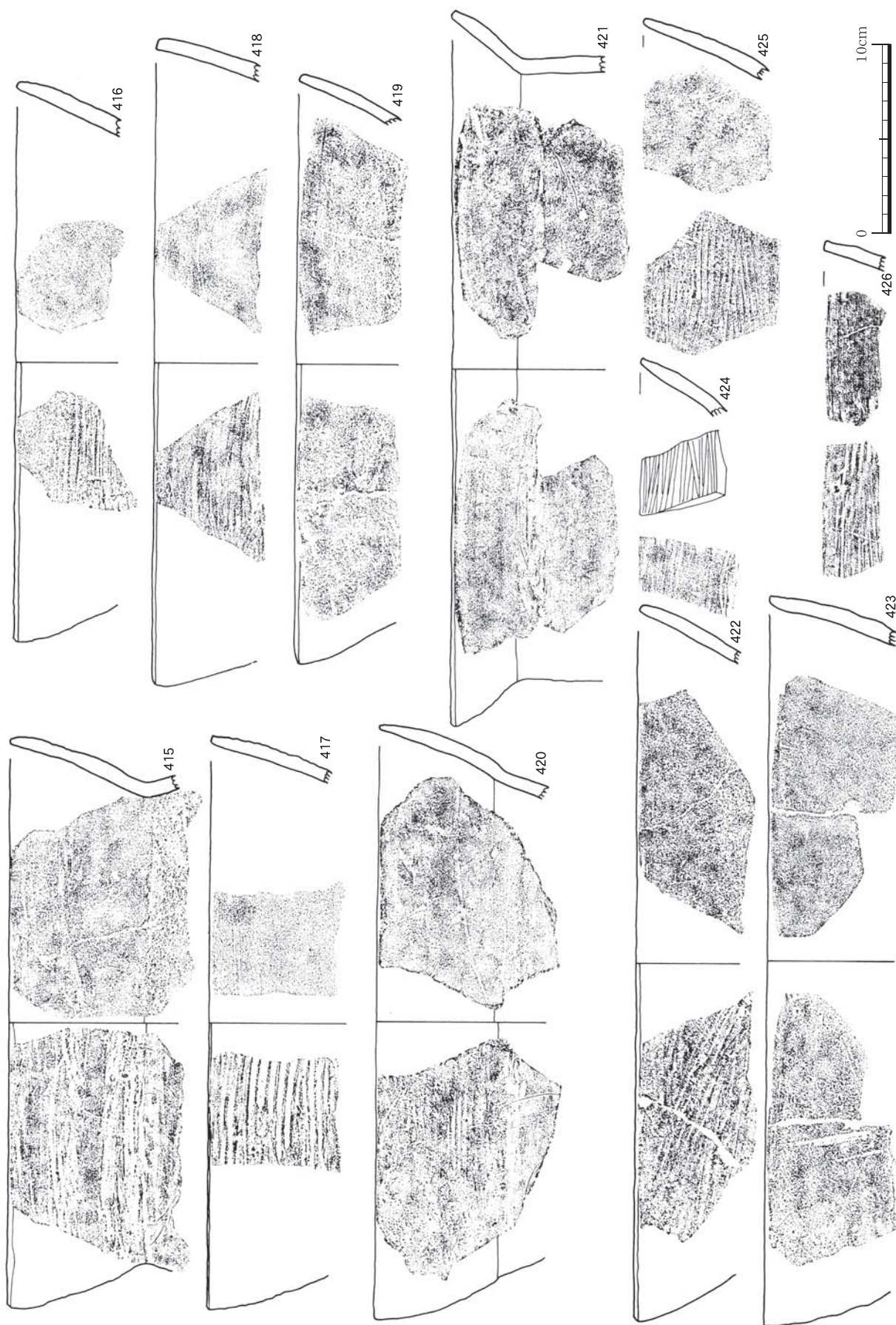
386～488深鉢形土器の口縁部である。384～397は数条の沈線を施すもの、398・399は沈線状の条痕を施すもので、内面の調整は条痕後ていね



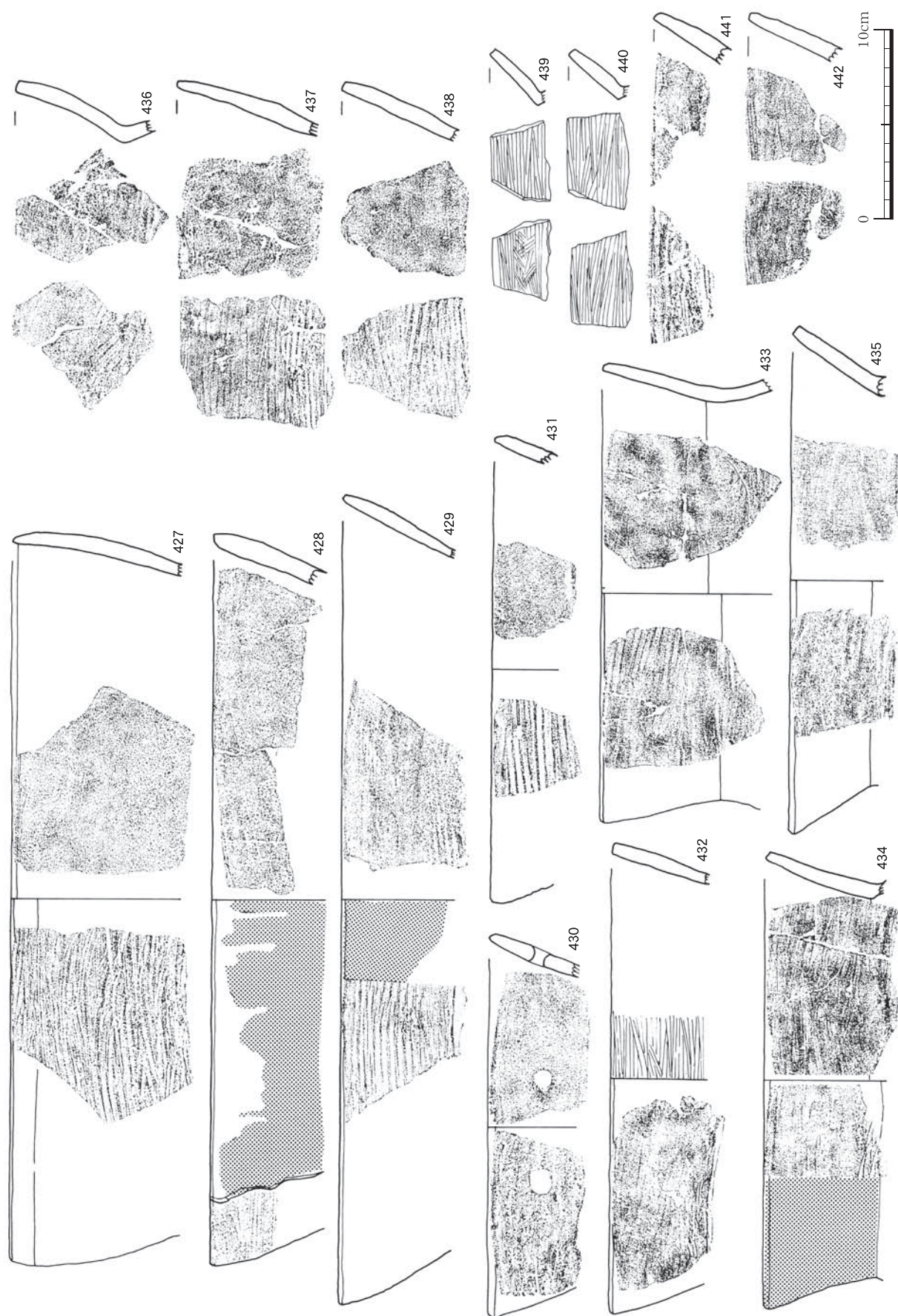
第49図 縄文時代晩期土器 (1)



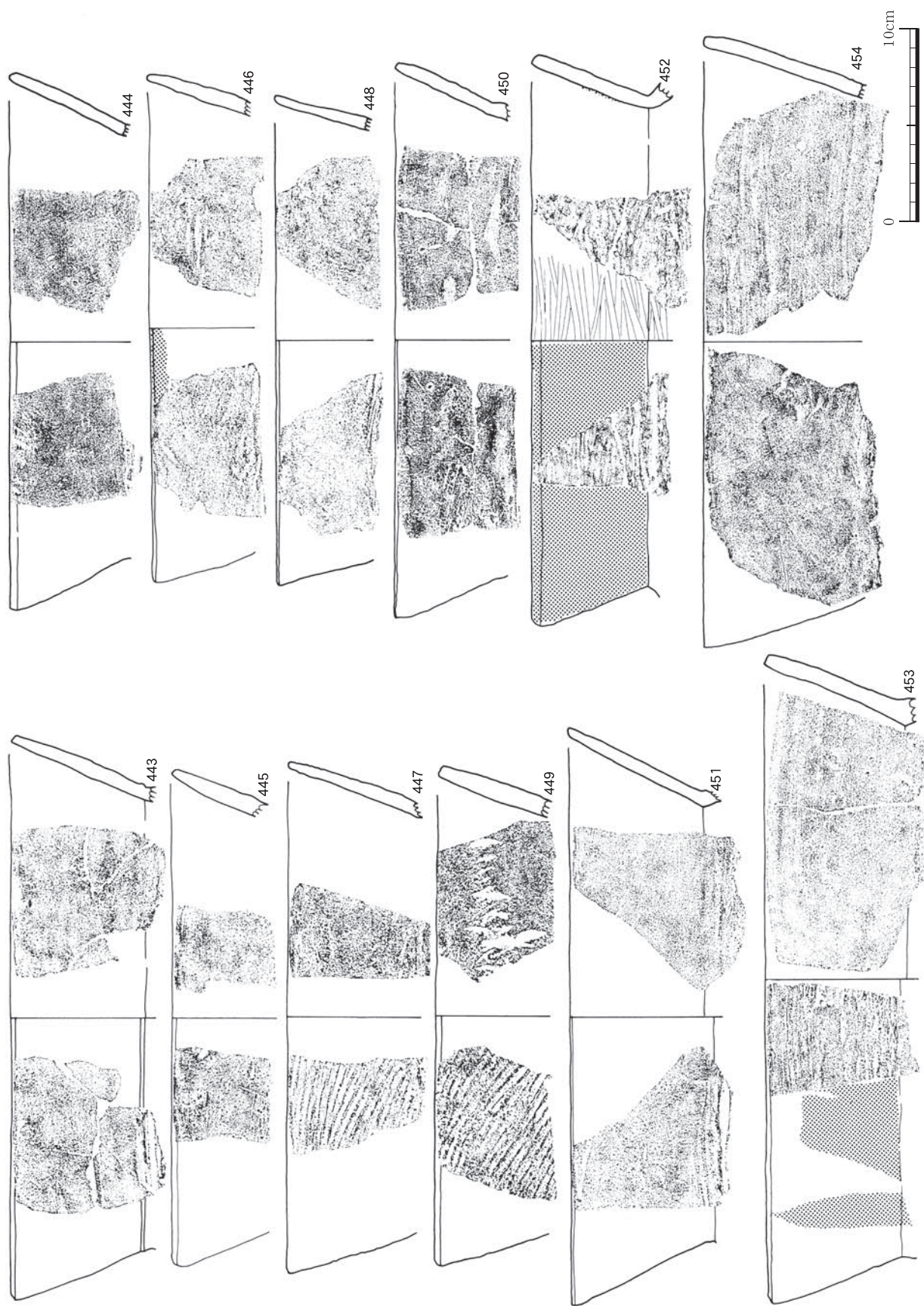
第50図 縄文時代晩期土器 (2)



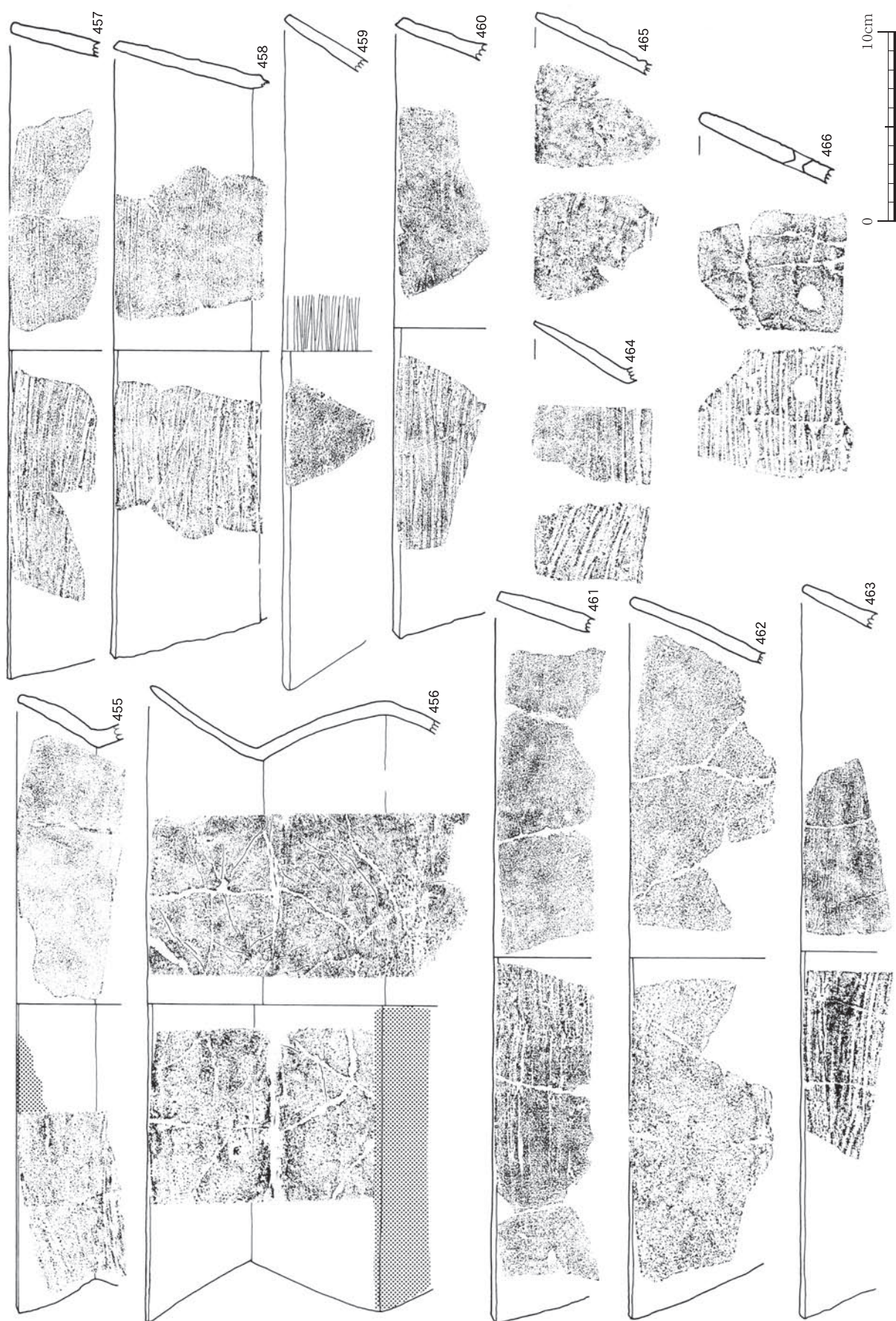
第51図 縄文時代晩期土器 (3)



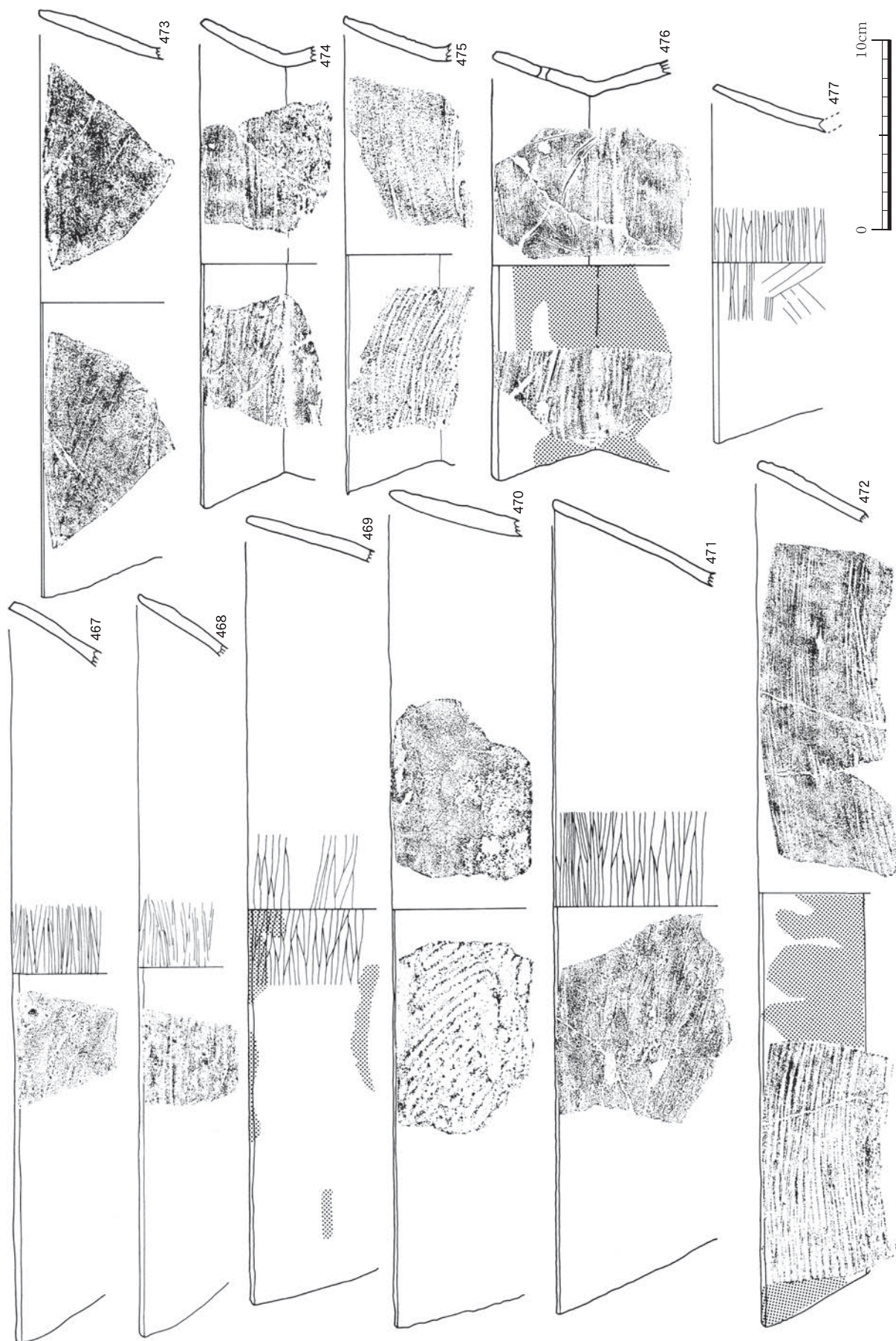
第52図 縄文時代晩期土器 (4)



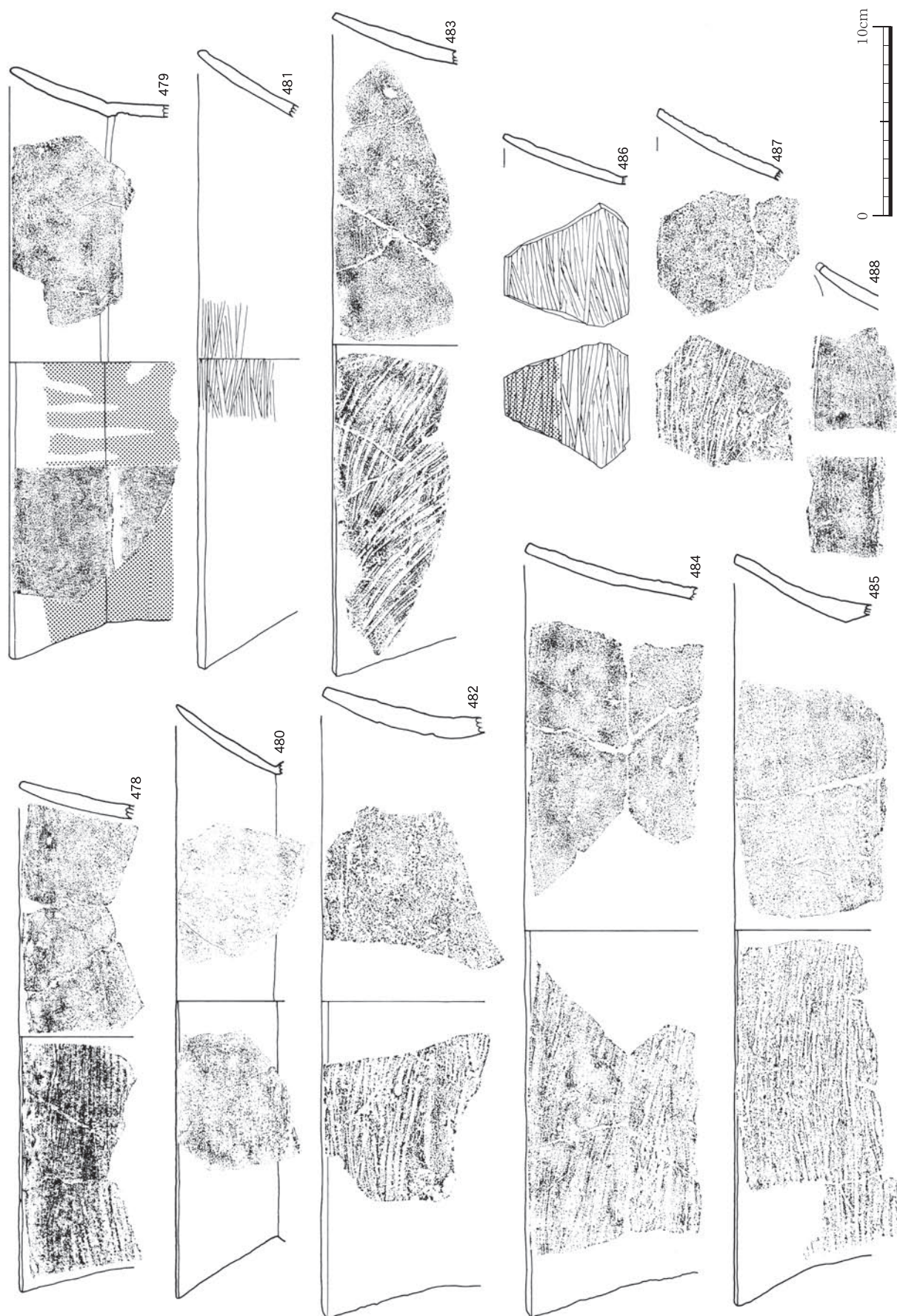
第53図 縄文時代晩期土器 (5)



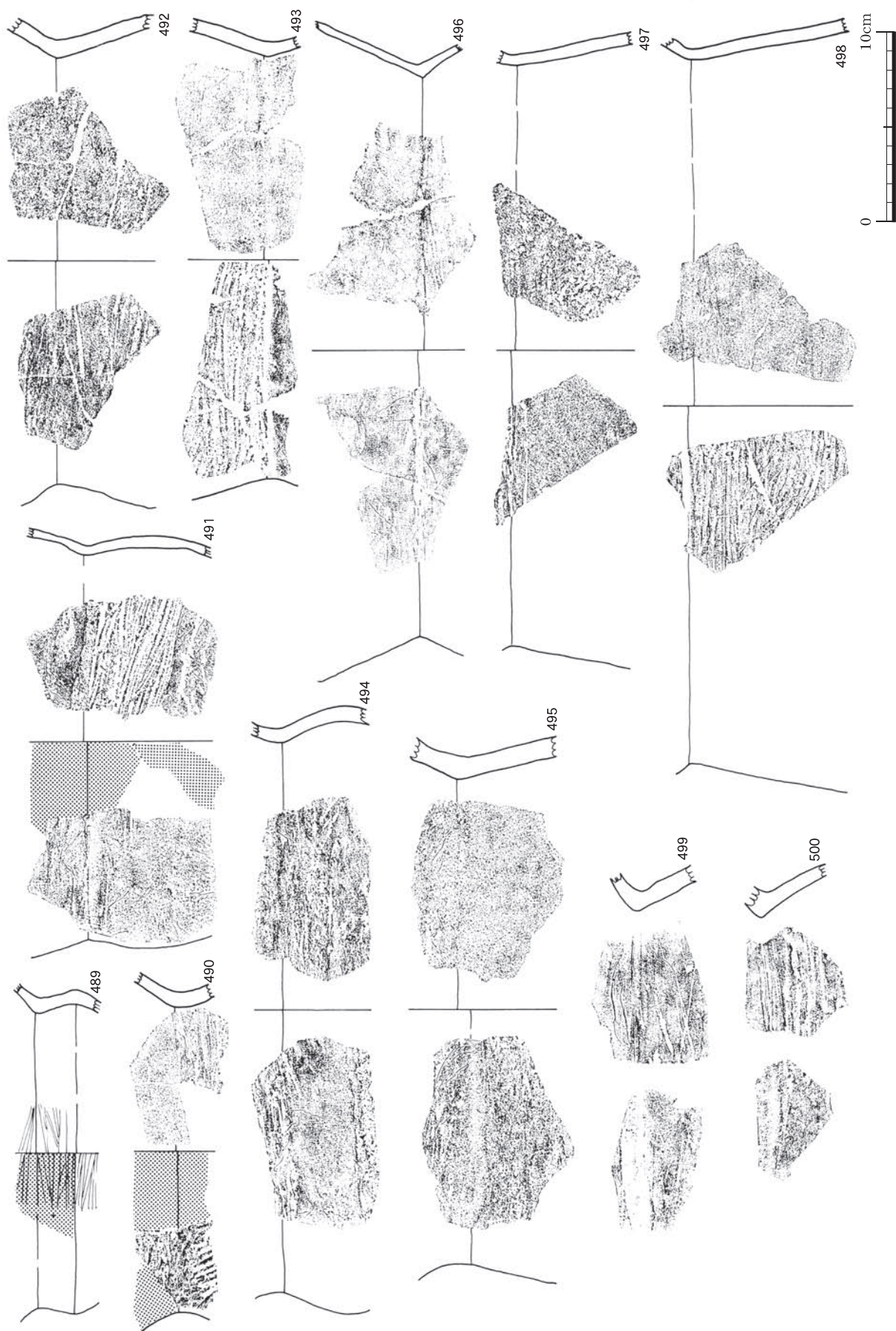
第54図 縄文時代晩期土器 (6)



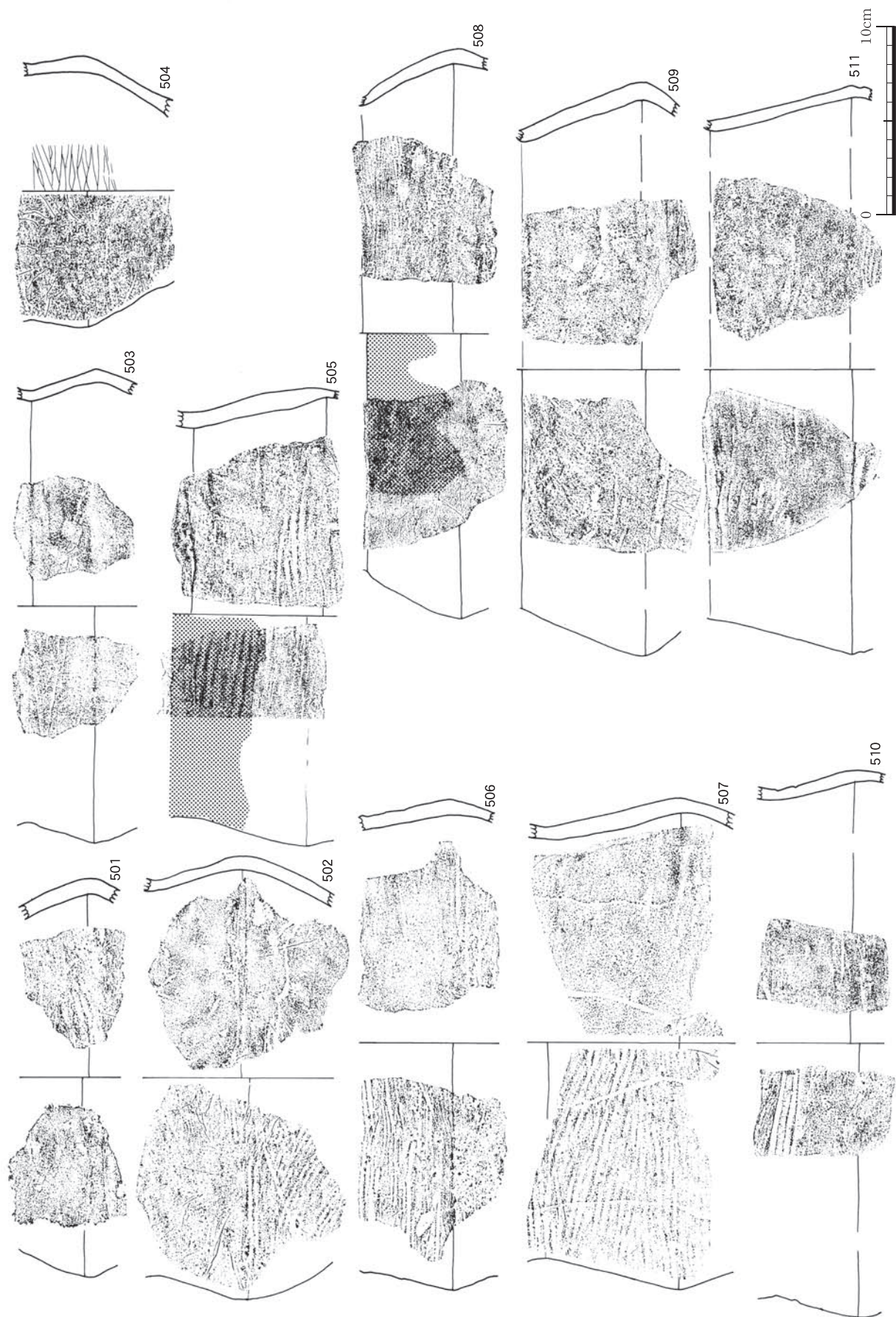
第55図 縄文時代晩期土器 (7)



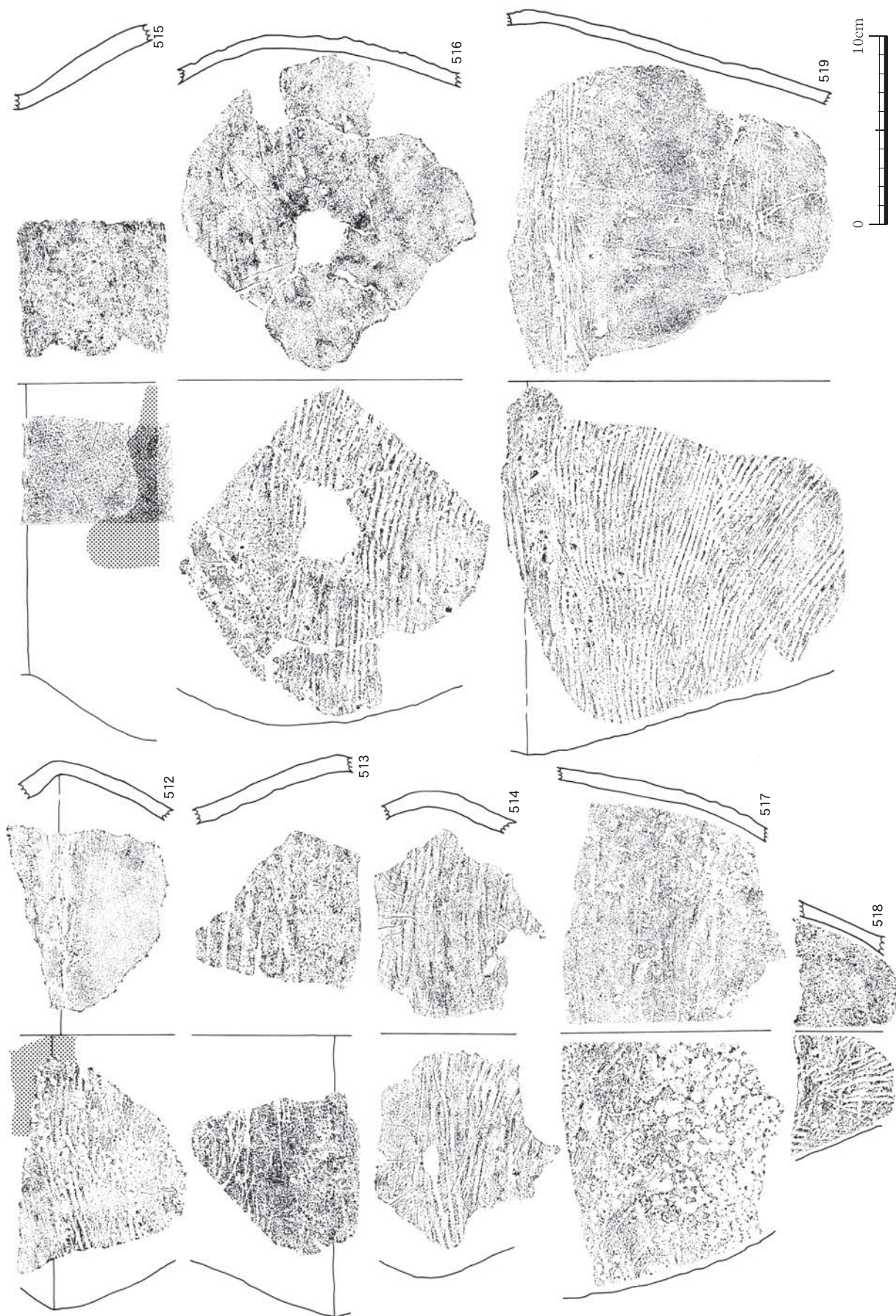
第56図 縄文時代晩期土器 (8)



第57図 縄文時代晩期土器（9）



第58図 縄文時代晩期土器 (10)



第59図 縄文時代晩期土器 (11)

いなナデ調整がほとんどである。頸部からの立ち上がりは、内湾気味に外反、直線的に外反、外反するものなどがある。

401～442は、内湾気味に外反するもので、420・421のように肥厚気味の口縁もある。外面は条痕調整、内面が条痕後ナデ調整のものがほとんどであるが405、424、439・440のように内面にミガキを施すものや439・440のように内外面ともいねいなミガキを施すものもある。

443～477は、頸部から直線的に外反するもので、内湾気味のものと同様に、肥厚気味のもの、外面の調整が条痕、内面は条痕後ナデ調整が多いが、ミガキを施すものも一部ある。

478～488は、口縁部が外側へ外反するもので、調整は他の深鉢形土器と同様であるが、486のように内外面とも丁寧なミガキを施すものもある。

489～498は、深鉢形土器の頸部付近の破片で、屈曲部の内面に明瞭な稜線をもつものや499・500のように大きく外側へ外反すると思われるものなどがある。

501～519は、胴部中央付近で屈曲し、肩部は内傾

し、頸部から口縁部へは「くの字」状に外反するものである。外面は条痕調整、内面はナデ調整がほとんどであるが、504のようにミガキによる調整もある。

XIV c 類（第60図）

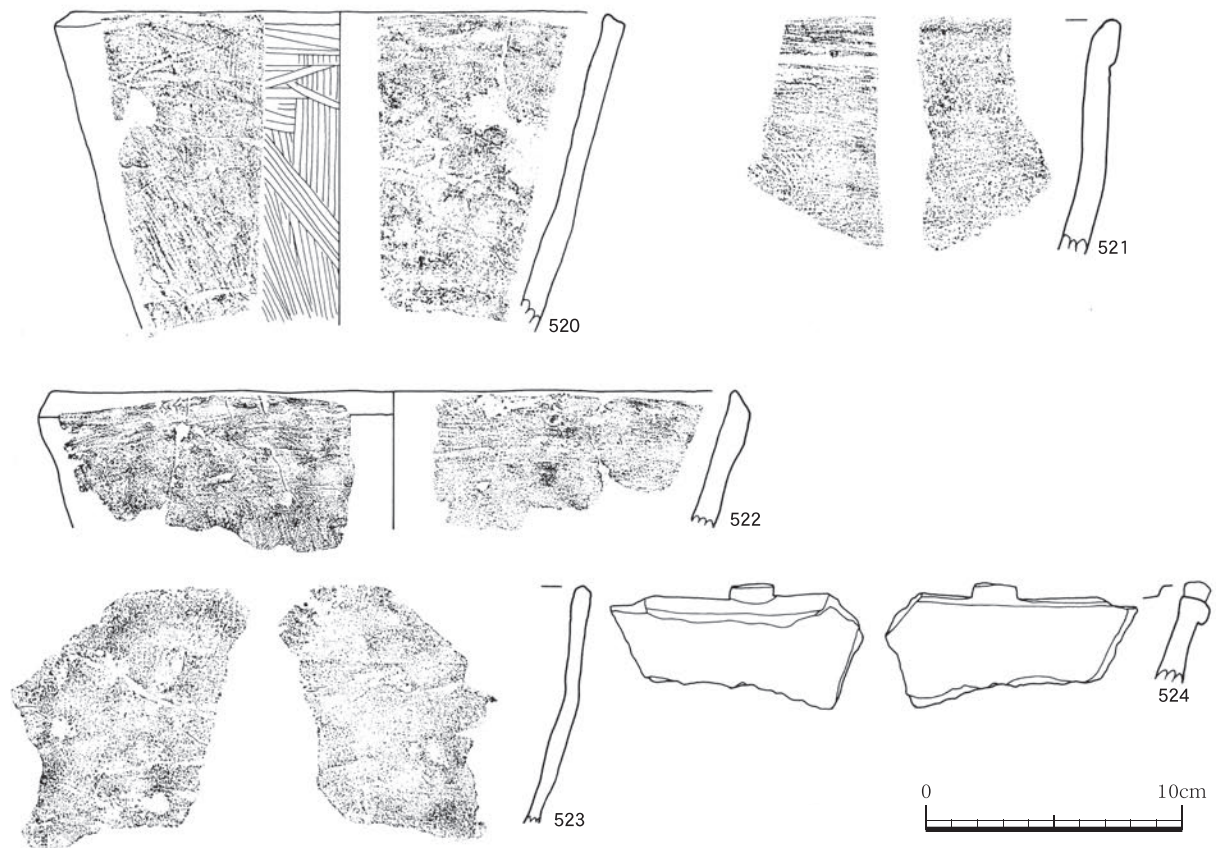
524は、口唇部に長方形の突起を施すもので、内外面ともにナデ調整である。XIV c 類の深鉢形土器の出土は、この一点のみである。

XIV 類（第60図～62図）

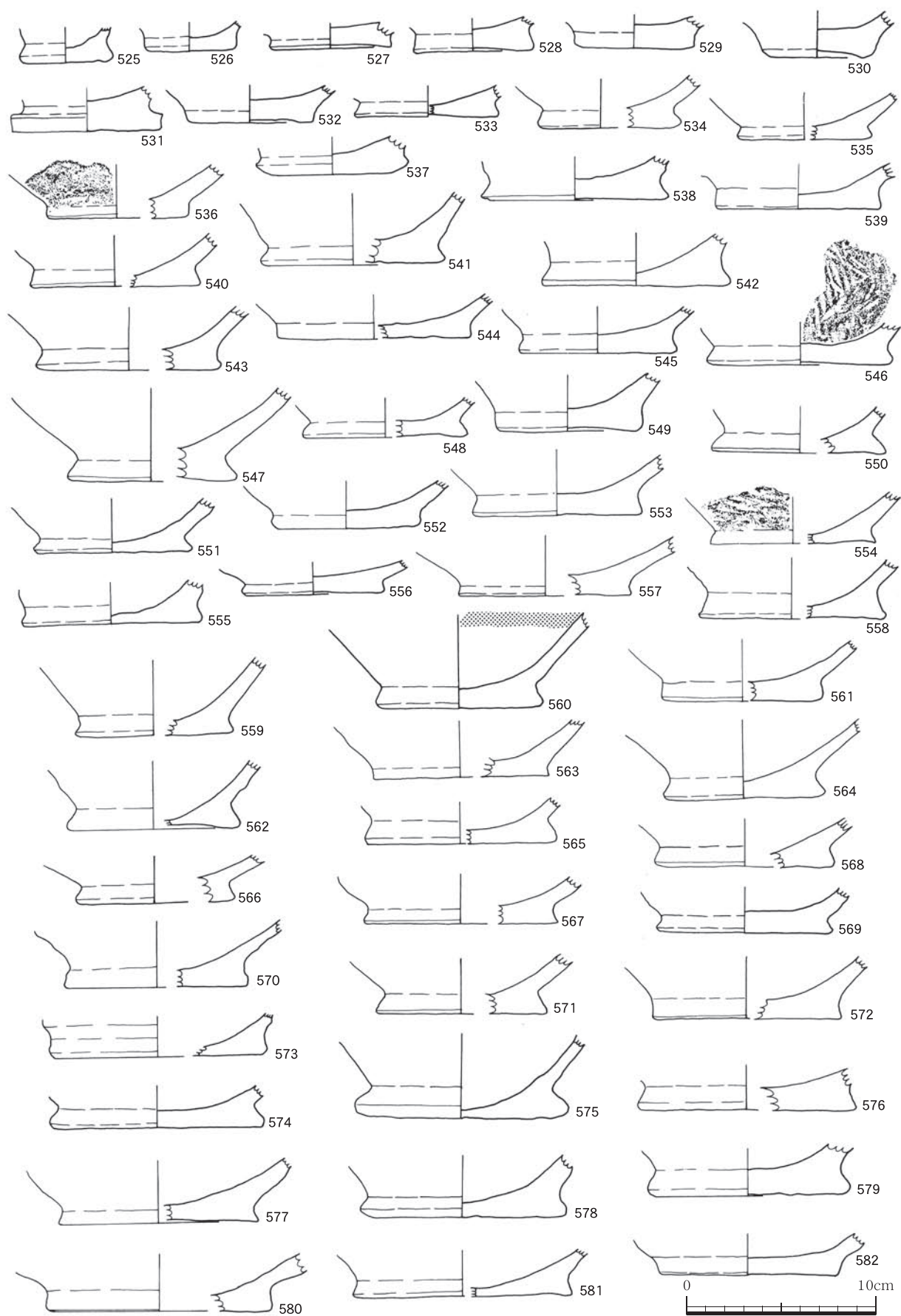
晩期の特徴を持つものの、細分が不可能なものを一括して、XIV 類として扱った。

520、522は直線的に立ち上がる口縁部で、口唇部は外傾する。外面の調整は粗なミガキ調整、内面はケズリ後ナデ調整である。521は内湾する口縁で、口縁端部は肥厚する。外面の調整は粗なミガキ調整、内面はケズリ後ナデ調整である。523は、521と同様の器形と考えられるが、口縁端部の肥厚は見られない。内外面の調整は同様である。

525～612は、深鉢形土器の底部である。前述のように細分が不可能なため、一括してXIV 類として扱った。



第60図 縄文時代晩期土器（12）



第61図 縄文時代晩期土器 (13)

ほとんどの底部が平底であり、内湾しながらすばまり、器底の張り出しの小さいものや胴部と底部の境が明瞭で器底の張り出しの大きいもの等に分けられる。特に、611は、器底部が独立し、逆台形状を呈するもので色調も赤色が強い。

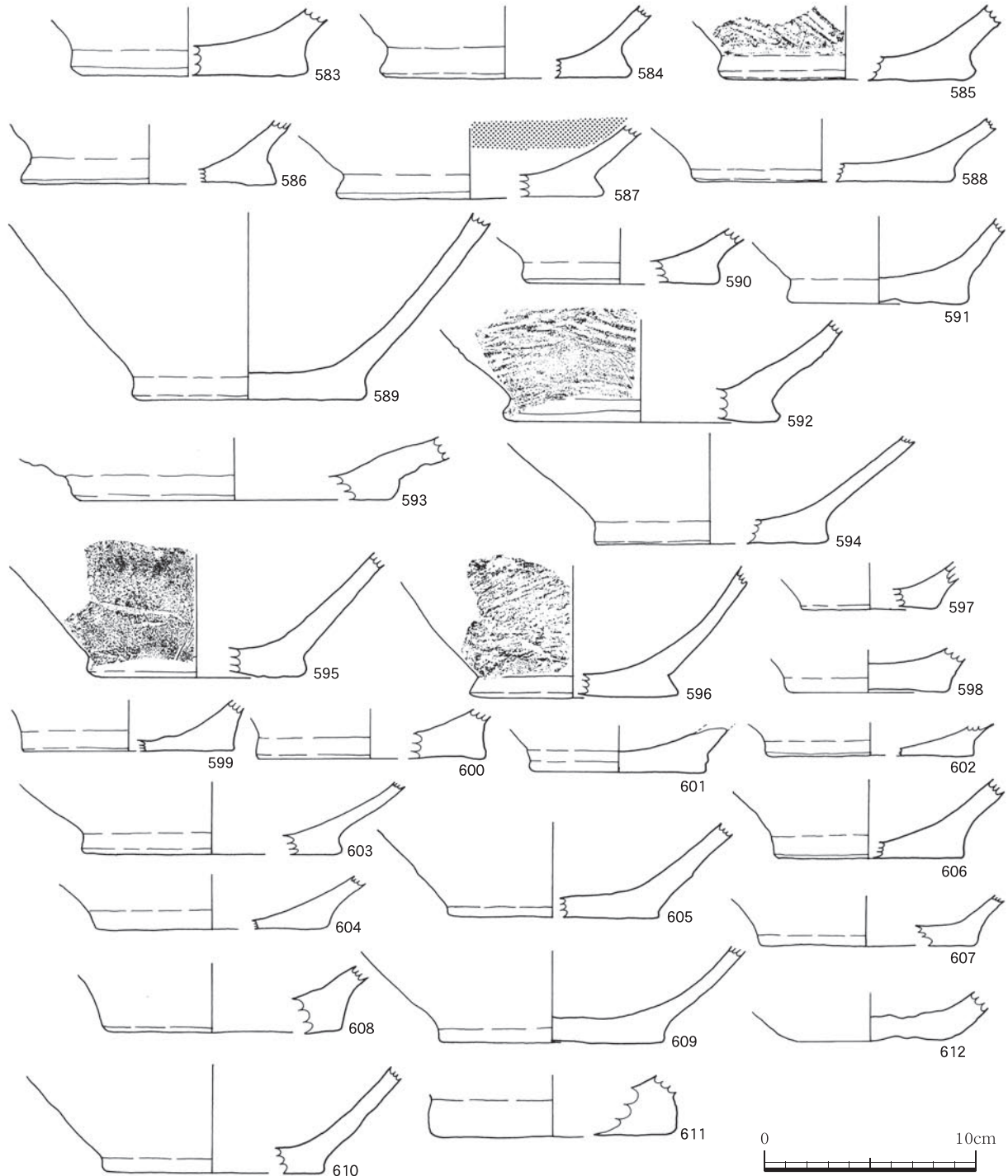
浅鉢形土器（第63図～第70図）

浅鉢形土器は、ほとんどが内外面にていねいなミガキを施す精製土器であり、その形状により a 類

(613), b 類 (614～764), c 類 (765・766) に細分される。

XIV a 類（第63図）

XIV a 類は、613が1点のみの出土である。口縁部は、直行気味に立ち上がり、文様帯には浅い2条の沈線を施す。口唇部にはヒレ状の突起を持ち、内外面はていねいなミガキ調整である。

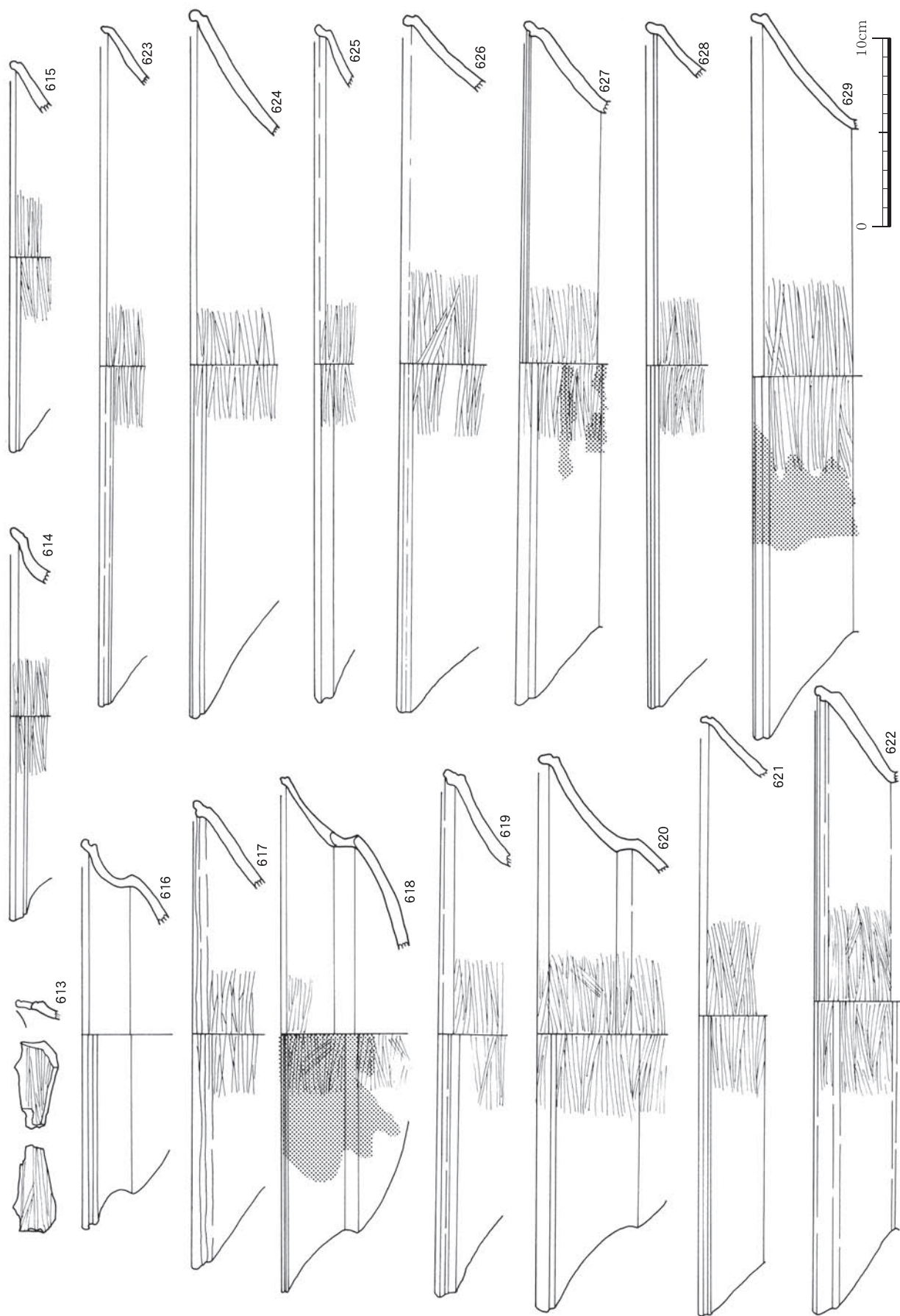


第62図 縄文時代晩期土器（14）

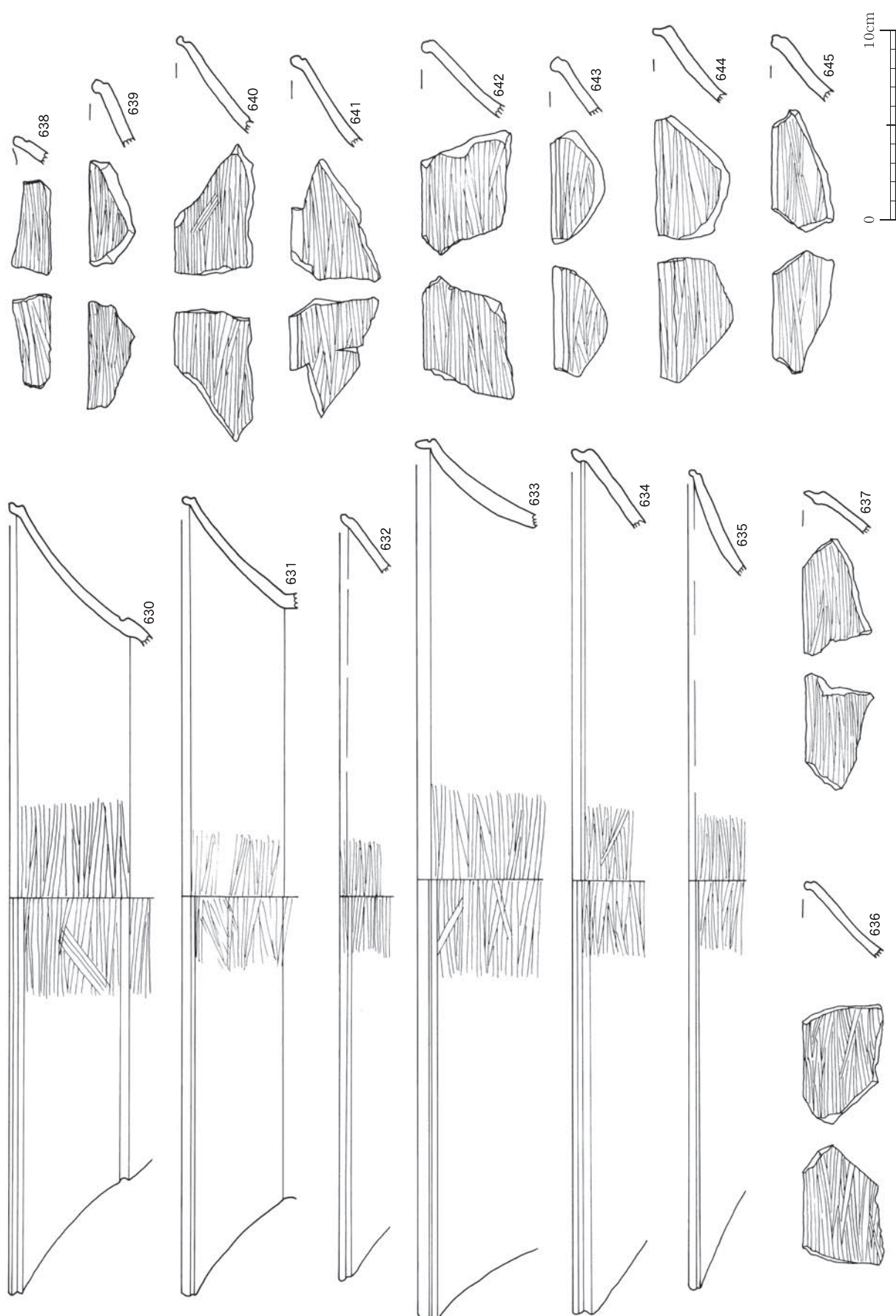
挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 49 図	382	IV	H-3	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	沈線・ナデ	ナデ	
	383	III	H-3	口縁	浅黄	灰黄	○	○	○		良	沈線・ナデ	ナデ	
	384	III	L-5	口縁	にぶい黄橙	黒褐	○	○			良	沈線・ナデ	ナデ	
	385	IV	J-2	口縁	黄灰	黒褐	○	○			良	沈線	ナデ	
	386	III	J-3	口縁	暗灰黄	黒褐	○	○	○		良	沈線	条痕後ナデ	
	387	III	N-3	口縁	浅黄	灰黄	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	388	III	N-4	口縁	黄灰	黒	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	389	III	J-3	口縁	灰黄	にぶい褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	390	III	G-6	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	沈線	ナデ	
	391	III	L-6	口縁	黒	黒	○	○			良	沈線	ナデ	
	392	III	L-2	口縁	浅黄	灰	○	○			良	沈線	ナデ	
	393	III	M-2	口縁	浅黄	暗灰黄	○	○			良	沈線	ナデ	
	394	III	L-2	口縁	浅黄	黄灰	○	○			良	沈線	ナデ	
	395	III	L-2・M-2	口縁	浅黄	浅黄橙	○	○			良	沈線	ナデ	
	396	III	M-2	口縁	浅黄	浅黄橙	○	○			良	沈線	ナデ	
	397	III	N-2	口縁	灰褐	にぶい褐	○	○			良	沈線	ミガキ	
	398	IV	J-2	口縁	浅黄	淡黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	399	III	I-4	口縁	灰	浅黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	400	III	M-2	口縁	灰	浅黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	401	III	L-9	口縁	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
第 50 図	402	III	M-8	口縁	褐灰	にぶい黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	403	III	M-2	口縁	褐	にぶい褐	○	○			良	条痕	ナデ	スス（外）
	404	III	L-9	口縁	灰黄	黒褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	405	III	H-4	口縁	黄灰	黒褐	○	○			良	条痕	ミガキ	
	406	III	M-2	口縁	灰褐	黒褐	○	○			良	条痕	粗なミガキ	
	407	III	L-8	口縁	にぶい橙	橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	408	III	L-2・L-3	口縁	灰黄	灰	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	409	III	L-9	口縁	黄灰	明黄褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	410	III	M-6	口縁	浅黄	灰	○	○			良	条痕	ナデ	
	411	II・IV	K-10, H-4	口縁	灰黄・浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	
	412	IV	L-6	口縁	褐灰	淡黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	413	III	L-9・L-10	口縁	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	ケズリ	ナデ	
	414	III	L-2	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
第 51 図	415	III	J-3	口縁	暗灰	黄灰	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	416	I	—	口縁	橙	にぶい橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	417	III	H-8	口縁	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	418	III	I-4	口縁	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	419	III	M-6	口縁	淡黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ケズリ・ミガキ	ナデ	
	420	III	L-10	口縁	灰黄	浅黄	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	421	IV	H-4	口縁	橙	灰黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	黒斑（内）
	422	III	M-7	口縁	浅黄	黒	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	423	III	L-6	口縁	浅黄	灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	424	III	I-4	口縁	黄灰	黒褐	○	○	○		良	条痕	ミガキ	
	425	III	L-9	口縁	にぶい黄	にぶい黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	426	I	—	口縁	暗灰黄	にぶい黄	○	○			良	条痕	ナデ	
第 52 図	427	III	M-3	口縁	灰黄	浅黄	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	428	III	M-3・N-3	口縁	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	429	III	H-4	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	スス（外）
	430	III	I-6	口縁	黄褐	灰黄褐	○	○			良	条痕	ナデ	補修孔あり
	431	III	J-3	口縁	にぶい黄	橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	432	III	H-4	口縁	黒・にぶい橙	オリーブ黒	○	○			良	粗なミガキ	ミガキ	
	433	III	M-2	口縁	暗灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	条痕	ミガキ	
	434	III	L-9	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	粗なミガキ	ミガキ	
	435	III	H-4	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ミガキ	
	436	IV	I-4	口縁	にぶい黄	黄褐	○	○			良	ナデ	ミガキ	
	437	III	L-2	口縁	灰黄	灰	○	○			良	条痕	ミガキ	
	438	III	M-2	口縁	灰黄	黄褐	○	○			良	条痕	ミガキ	
	439	III	J-4	口縁	浅黄	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	440	III	H-4	口縁	灰白	灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	441	III	J-3	口縁	黒	灰	○	○			良	条痕	ナデ	
	442	III	L-9	口縁	黒褐	灰	○	○			良	ケズリ	ミガキ	
第 53 図	443	III	M-6	口縁	浅黄	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	444	III	M-6	口縁	オリーブ黒	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	445	III	I-6	口縁	黄灰	黒	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	446	III	M-2	口縁	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（外）
	447	III	M-5	口縁	灰白	浅黄	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	448	III	L-7	口縁	暗灰黄	黄灰	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	449	III	J-14	口縁	灰	灰黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	450	III	I-4	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	451	III	M-2	口縁	黄褐	黒褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	452	III	M-2	口縁	灰黄	浅黄	○	○	○		良	条痕	ミガキ	
	453	III	M-7	口縁	黄褐	橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	スス（外）
	454	III	M-2	口縁	橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	良	条痕	ナデ	
第 54 図	455	III	H-4	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（外）
	456	III	M-6	口縁	黒褐	淡黄	○	○			良	条痕	ナデ	スス（外）
	457	III	J-3	口縁	浅黄	にぶい黄橙		○	○		良	条痕	ナデ	
	458	III	J-3	口縁	淡黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	459	III	M-5	口縁	灰黄	淡黄	○	○	○		良	ナデ	ミガキ	
	460	III	N-3	口縁	青黒	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	

挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第54図	461	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい黄	明褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	462	Ⅲ	J-6	口縁	にぶい黄橙	明褐	○	○	○		良	条痕	ナデ	スス（外）
	463	Ⅲ	J-3	口縁	灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	464	Ⅲ	M-6	口縁	浅黄	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	465	Ⅲ	H-6	口縁	灰オリーブ	オリーブ黒	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	466	Ⅲ	L-6	口縁	淡黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	補修孔あり
第55図	467	Ⅲ	—	口縁	黒	灰黄	○	○			良	ナデ	ミガキ	
	468	Ⅲ	F-11	口縁	にぶい黄橙	黒	○	○			良	条痕後ミガキ	ミガキ	
	469	Ⅲ	J-3	口縁	黄灰	淡黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	470	Ⅲ	H-4	口縁	灰黄褐	橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	471	Ⅲ	N-3	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ケズリ	ミガキ	
	472	Ⅲ	H-4	口縁	淡黄	淡黄	○	○	○		良	条痕	条痕	スス（内・外）
	473	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい橙	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（外）
	474	Ⅲ	M-6	口縁	浅黄	黄灰	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	
	475	Ⅲ	M-6	口縁	黄灰	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	476	Ⅲ	H-5	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	条痕	ナデ	補修孔あり
第56図	477	Ⅲ	M-8	口縁	灰	黒	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	478	Ⅲ	L-2	口縁	橙	橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	黒斑（外）
	479	Ⅲ	M-6	口縁	黒褐	明黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（外）
	480	Ⅲ	J-5	口縁	浅黄	オリーブ黒	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	481	Ⅲ	I-9	口縁	灰黄	オリーブ黒	○	○			良	ナデ	ナデ	
	482	Ⅲ	—	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	483	Ⅲ	M-2	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	484	Ⅲ	L-10	口縁	灰黄	橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	485	Ⅲ	G-7	口縁	オリーブ黒	にぶい黄	○	○			良	条痕	ナデ	
	486	Ⅲ	H-8	口縁	灰褐	黒	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
第57図	487	Ⅲ	M-2	口縁	灰白	灰	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	488	Ⅲ	M-7	口縁	黄橙	オリーブ黒	○	○			良	ナデ	ナデ	
	489	Ⅲ	L-2	口縁	にぶい黄橙	橙	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（外）
	490	Ⅲ	I-6	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	粗なミガキ	スス（外）
	491	Ⅲ	H-4	口縁	黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	ケズリ	ナデ・ケズリ	スス（外）
	492	Ⅲ	L-9	口縁	黄	橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	493	Ⅲ	H-3, J-3	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	494	Ⅲ	M-3	口縁	黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	スス（外）
	495	Ⅲ	L-2	口縁	黄橙	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	496	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第58図	497	Ⅲ	J-3	口縁	橙	明赤褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	498	Ⅲ	J-3	口縁	橙	橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	黒斑（内）
	499	Ⅲ	M-2	口縁	灰白	灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ・ミガキ	
	500	Ⅲ	L-2	口縁	淡黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	501	Ⅲ	M-5	口縁	灰	にぶい黄	○	○			良	ナデ	ケズリ	スス（内・外）
	502	Ⅲ	M-8	口縁	浅黄	にぶい黄	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	スス（外）
	503	Ⅲ	H-8	口縁	灰	浅黄	○	○			良	ナデ	ケズリ	スス（外）
	504	Ⅲ	H-4	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ミガキ	スス（外）
	505	Ⅲ	L-7	口縁	橙	灰	○	○	○		良	条痕	条痕・ケズリ	スス（外）
	506	Ⅲ	M-6	口縁	橙	明褐	○	○	○		良	条痕	ケズリ	
第59図	507	Ⅲ	M-2	口縁	淡黄	浅黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	508	Ⅲ	N-4	口縁	浅黄	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	509	Ⅲ	H-4	口縁	浅黄	黄橙	○	○	○		良	粗なミガキ	ナデ	
	510	Ⅲ	N-2	口縁	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	スス（外）
	511	Ⅲ	H-4	口縁	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（外）
	512	V	I-4	口縁	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	スス（外）
	513	Ⅲ	N-4	口縁	浅黄	にぶい橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	スス（外）
	514	Ⅲ	L-6	口縁	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○			良	条痕	ミガキ	
	515	Ⅲ	M-3	口縁	浅黄	にぶい黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（外）
	516	Ⅲ	N-14	口縁	褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	粗なミガキ	ケズリ	
第60図	517	Ⅲ	M-7	口縁	浅黄	橙	○	○	○		良	ケズリ	ナデ	スス（外）
	518	Ⅲ	N-3	口縁	灰白	にぶい黄橙	○	○			良	粗なミガキ	ナデ	
	519	Ⅲ	I-6	口縁	にぶい黄橙	橙	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	スス（外）
	520	Ⅲ	M-6	口縁	灰白	にぶい黄	○	○	○		良	粗なミガキ	ケズリ後ナデ	
	521	Ⅲ	H-6	口縁	明赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（外）
第61図	522	Ⅲ	H-8・I-8	口縁	褐	にぶい褐	○	○			良	粗なミガキ	粗なミガキ	スス（外）
	523	Ⅲ	H-7	口縁	にぶい褐	明赤褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	524	Ⅲ	H-7	口縁	黒	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	突起あり
	525	Ⅲ	I-6	口縁	灰黄	にぶい黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	526	Ⅲ	H-5	口縁	にぶい黄	暗灰黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	スス（外）
	527	Ⅲ	I-4	口縁	明赤褐	赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ・ミガキ	
	528	Ⅲ	J-4	口縁	黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ケズリ	
	529	Ⅲ	M-6	口縁	灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	530	Ⅲ	M-7	口縁	黒褐	橙	○	○	○		良	粗なミガキ	ミガキ	
	531	Ⅳ	J-2	口縁	暗灰黄	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	532	Ⅲ	M-2	口縁	淡黄	淡黄	○	○	○		良	ケズリ	ナデ	
	533	Ⅲ	H-4	口縁	黄橙	黄橙	○	○	○		良	ナデ	ミガキ	
	534	Ⅲ	H-5	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	535	Ⅲ	I-4	口縁	黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	黒斑あり（内）
	536	Ⅱ	H-4	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	537	Ⅱ	I-4	口縁	淡黄	浅黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	538	Ⅲ	I-4, J-3	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	539	Ⅲ	H-4	口縁	にぶい黄	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	

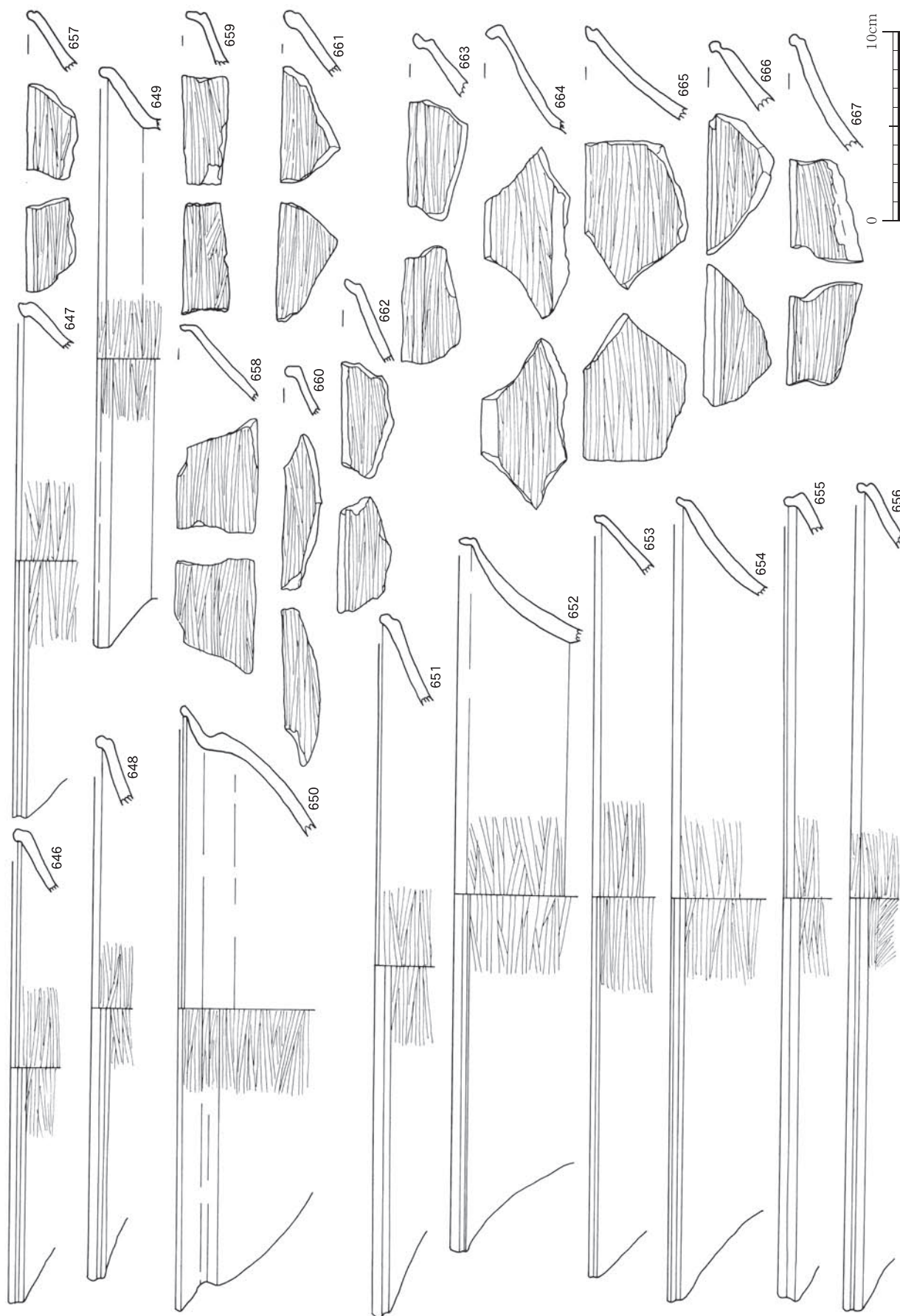
挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 61 図	540	Ⅲ	J-4	口縁	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	541	Ⅲ	H-5	口縁	にぶい黄	にぶい橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ・ナデ	
	542	Ⅲ	M-6	口縁	灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	543	Ⅲ	L-3	口縁	黄橙	橙	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	544	Ⅲ	J-4	口縁	浅黄	浅黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	545	Ⅲ	M-7	口縁	にぶい黄	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	546	Ⅲ	L-2	口縁	黄褐	灰オリーブ	○	○	○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	547	Ⅲ	H-4	口縁	灰白	明黄褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	548	Ⅲ	L-6	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○			良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	549	Ⅲ	L-2	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	550	Ⅲ	M-3	口縁	黄褐	にぶい赤褐	○	○			良	ミガキ後ナデ	ナデ	
	551	Ⅲ	L-10	口縁	淡黄	明黄褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	552	Ⅲ	M-8	口縁	灰	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	553	Ⅲ	I-4	口縁	黄灰	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ミガキ後ナデ	
	554	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい黄橙	明黄褐	○	○			良	条痕後ナデ	ミガキ後ナデ	
	555	Ⅲ	H-11	口縁	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	剥落
	556	Ⅲ	H-4	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	黒斑（内）
	557	Ⅲ	I-4	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	558	Ⅲ	M-2	口縁	明赤褐	明赤褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	559	Ⅲ・Ⅱ	I-5・I-6	口縁	黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	粗なミガキ	粗なミガキ	黒斑（内）
	560	Ⅲ	L-2	口縁	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	スス（内）
	561	Ⅲ	I-4	口縁	にぶい黄	橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	562	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○		良	粗なミガキ後ナデ	ナデ	
	563	Ⅲ	I-4	口縁	灰白	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	564	Ⅲ	H-6	口縁	灰オリーブ	にぶい黄橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	スス（外）
	565	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ナデ	
	566	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい黄	暗灰黄	○	○			良	ケズリ後ミガキ	ミガキ後ナデ	
	567	Ⅲ	M-8	口縁	灰白	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	568	Ⅲ	H-4	口縁	灰オリーブ	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	剥落（内）
	569	Ⅲ	I-4	口縁	灰白	にぶい黄橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	570	Ⅲ	L-10	口縁	灰白	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	571	Ⅲ	H-4	口縁	灰	明黄褐	○	○			良	ナデ	粗なミガキ	
	572	Ⅲ	—	口縁	灰オリーブ	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	573	Ⅲ	H-4	口縁	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ミガキ後ナデ	スス（外）
	574	Ⅲ	J-3	口縁	灰白	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	575	Ⅲ	L-8	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	576	Ⅲ	M-2	口縁	橙	浅黄橙	○	○	○		良	ナデ	ミガキ後ナデ	
	577	Ⅲ	K-10	口縁	灰オリーブ	にぶい黄	○	○	○		良	条痕後ナデ	ケズリ後ナデ	
	578	Ⅲ	L-6	口縁	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	579	Ⅲ	L-7	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	580	Ⅲ	J-3	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	剥落（内）
	581	Ⅲ	M-2	口縁	浅黄・にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ナデ	黒斑（内）
	582	Ⅲ	M-6	口縁	浅黄	黄橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
第 62 図	583	Ⅲ	H-4	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	584	I	I-6	口縁	灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	585	—	—	口縁	灰	にぶい黄	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	586	Ⅲ	I-5	口縁	浅黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	587	Ⅲ	L-6	口縁	浅黄	にぶい黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	588	Ⅲ	L-9	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	589	Ⅲ	L-9	口縁	灰黄	明黄褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	スス（外）
	590	Ⅲ	M-6	口縁	灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	スス（内）
	591	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	592	Ⅲ	I-3	口縁	浅黄	淡黄	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	593	Ⅲ	I-4	口縁	灰白	橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	594	Ⅲ	L-6・M-6	口縁	灰オリーブ	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	595	Ⅲ	L-6・M-6	口縁	灰	明黄褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ケズリ後ナデ	
	596	Ⅲ	L-9	口縁	明黄褐	橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	597	Ⅲ	K-10	口縁	明赤褐	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	598	Ⅲ	H-6	口縁	灰オリーブ	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	599	Ⅲ	L-6	口縁	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	600	Ⅲ	I-6	口縁	灰黄	にぶい橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	601	Ⅲ	L-10	口縁	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
第 63 図	602	Ⅲ	H-5	口縁	灰オリーブ	にぶい黄橙	○	○			良	粗なミガキ	ミガキ	黒斑（内）
	603	Ⅲ	H-6	口縁	灰	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ミガキ	ナデ	
	604	Ⅲ	H-4	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ミガキ後ナデ	底剥落
	605	Ⅲ	L-6・M-6	口縁	灰白	浅黄	○	○			良	ナデ	ナデ	剥落（内）
	606	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい橙	浅黄	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	607	Ⅲ	H-4	口縁	暗オリーブ灰	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ナデ	
	608	Ⅲ	J-3	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	609	Ⅲ	I-4	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	スス（内・外）
	610	Ⅲ	L-9	口縁	浅黄	明黄褐	○	○			良	粗なミガキ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	611	Ⅲ	K-10	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	剥落（内）
	612	Ⅲ	L-7	口縁	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	613	Ⅱ	H-5	口縁	浅黄橙	浅黄	○	○			良	沈線・ナデ	ナデ	突起あり
	614	Ⅲ	I-3	口縁	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	615	Ⅲ	I-4	口縁	淡黄	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	616	I	—	口縁	浅黄	淡黄	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	
	617	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい黄	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	618	Ⅲ	I-3	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス（外）



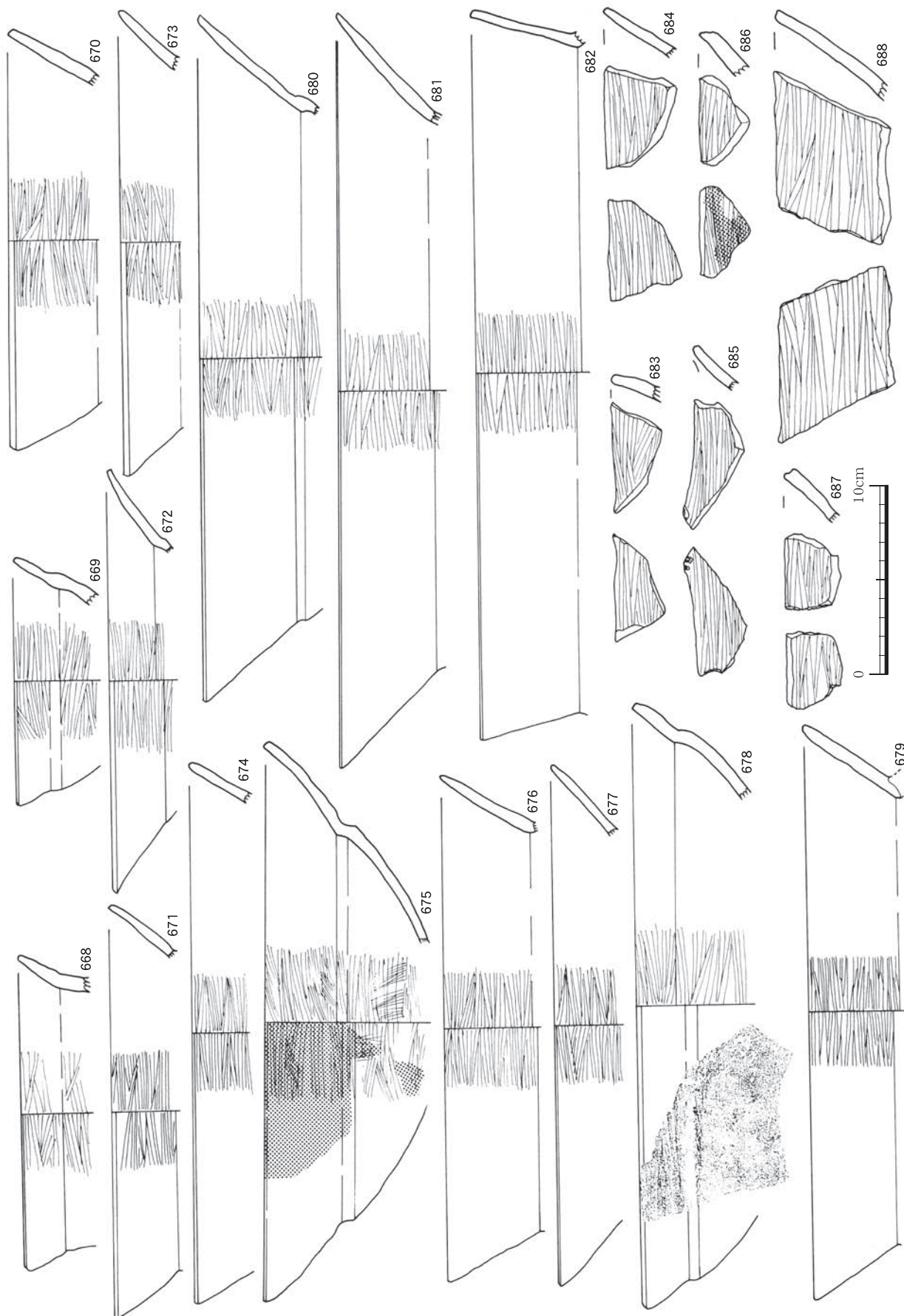
第63図 縄文時代晩期土器 (15)



第64図 縄文時代晩期土器 (16)



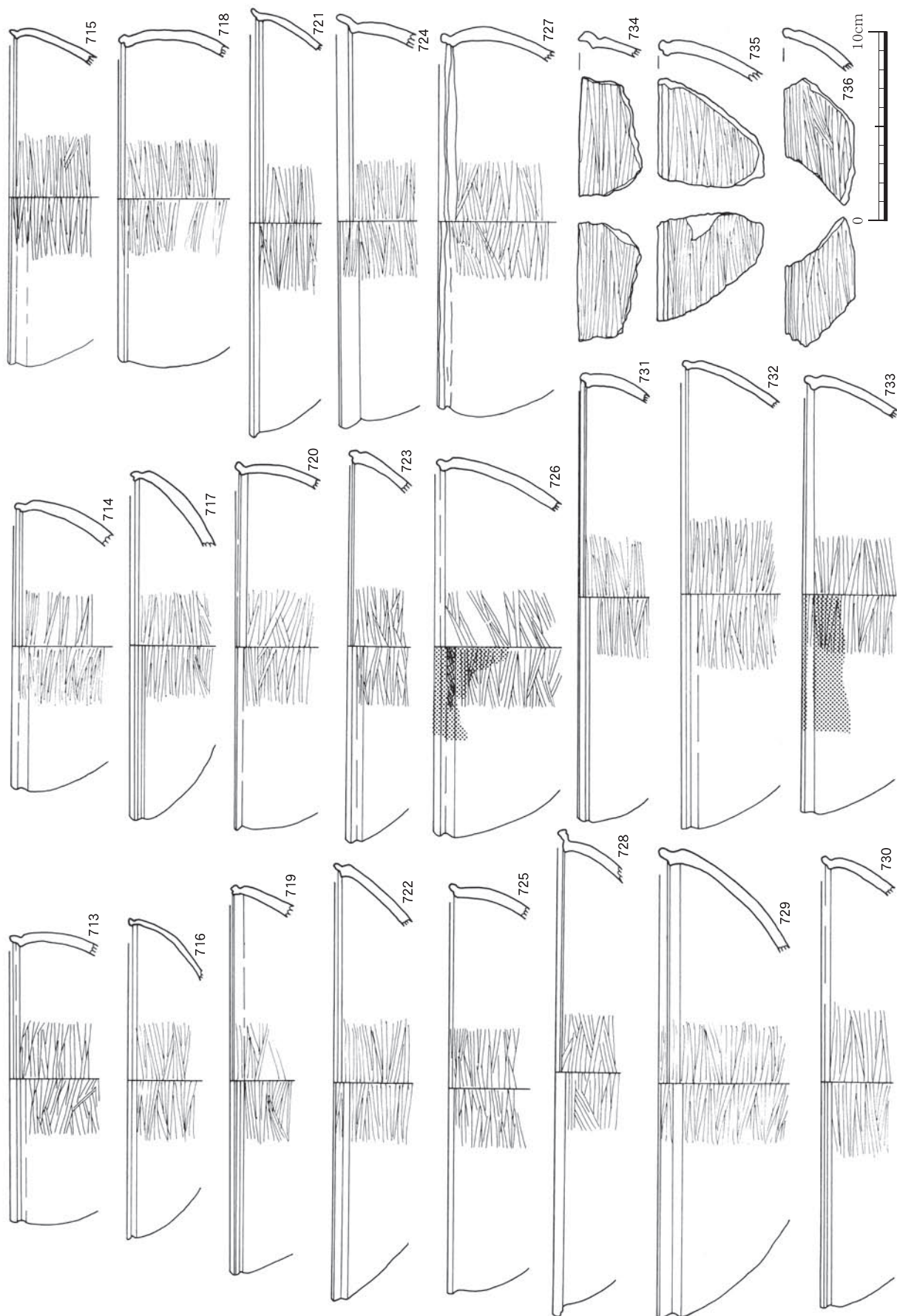
第65図 縄文時代晩期土器 (17)



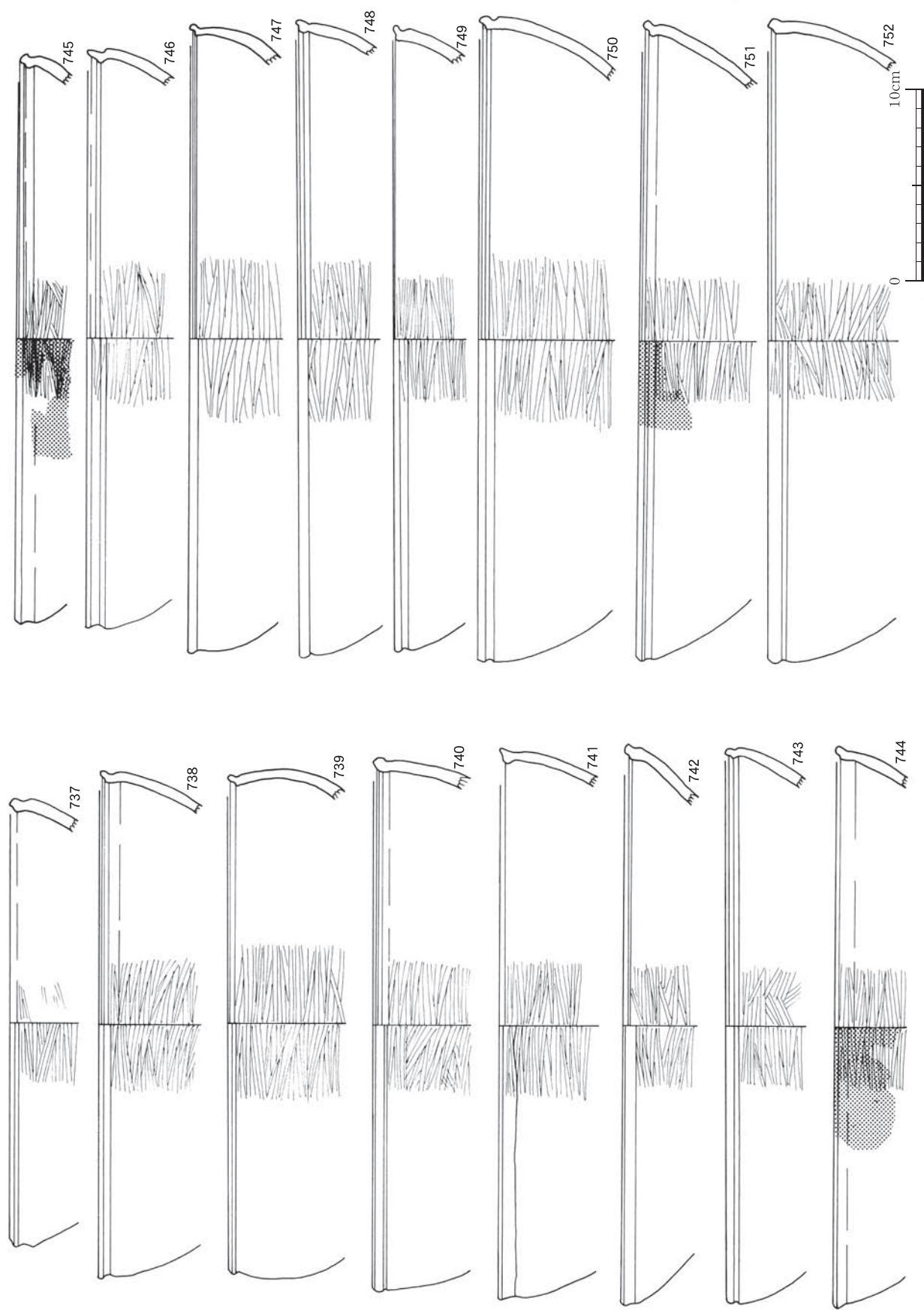
第66図 縄文時代晩期土器 (18)



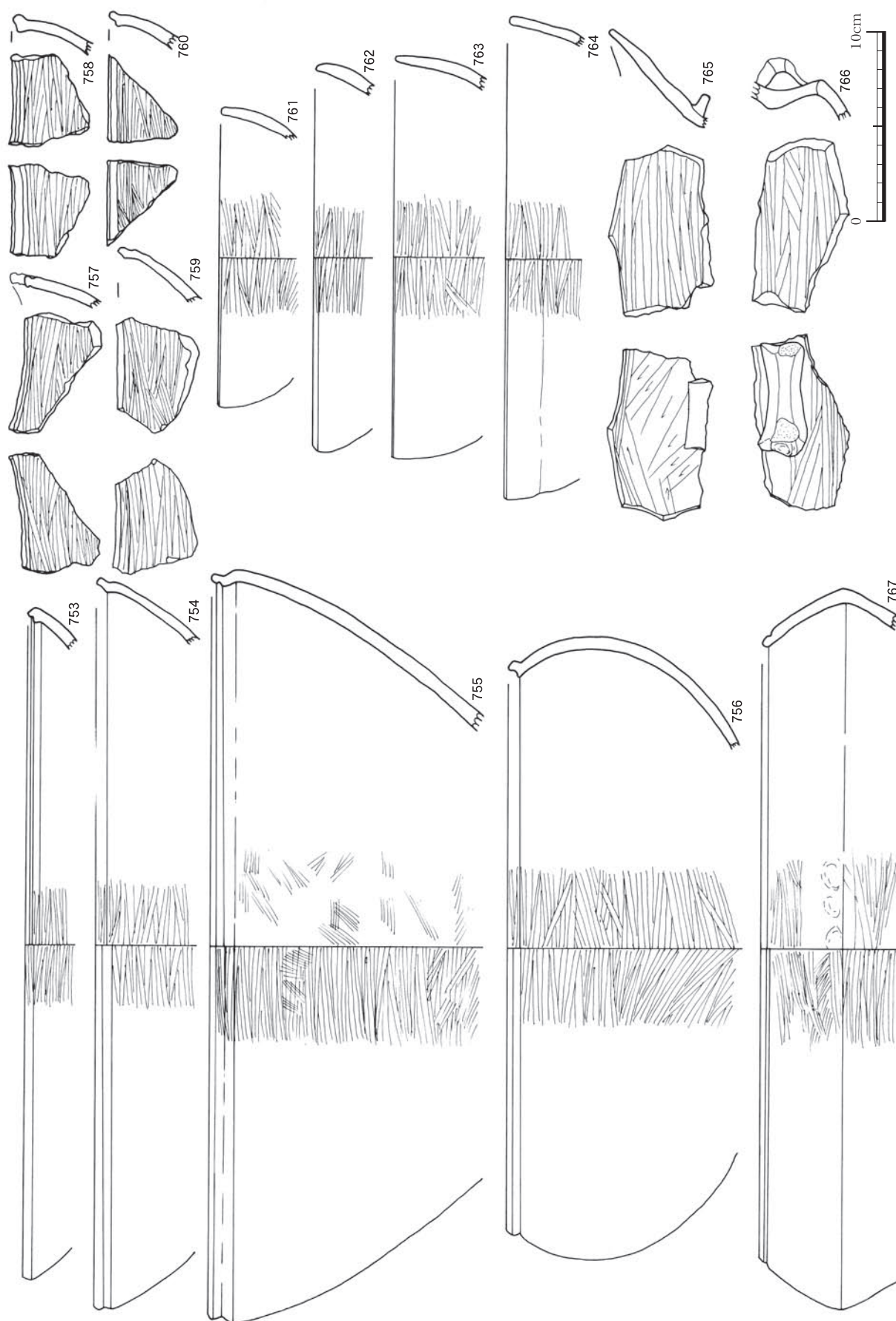
第67図 縄文時代晩期土器 (19)



第68図 縄文時代晩期土器 (20)



第69図 縄文時代晩期土器 (21)



第70図 縄文時代晩期土器 (22)

XIV b 類（第63図～第70図）

614～687は、口縁部に沈線を施し、肩部からくの字状に大きく屈曲し、口縁部が外反するものである。肩部から大きく外側へ屈曲しながら外反するもの（614～645）、と直線的に外反するもの（646～667）に分けられる。

口縁端部の形状には、内傾するもの（664）、直線状に立ち上がるもの（646、649、658・659、652）や外傾するもの（662）などがある。

668～688は、肩部から「くの字状」に大きく屈曲し、口縁部が外反するものであるが沈線を有しないものである。肩部から口縁部にかけての立ち上がりは、内湾気味なもの（671、675、688）、直線的なもの（682、684）や外反気味（672、676、685）などがある。また、668と669は、形態的にやや深めのものである。

689～712は、胴部片である。689～692は、胴部中央で一端内側へ大きく屈曲した後、口縁部へと到る

ものである。693～709、711・712は、胴部から直接外反しながら口縁部へと立ち上がるものである。

713～764は、明瞭な屈曲部を持たず碗状に口縁部へと立ち上るタイプの精製土器の浅鉢形土器で、内外面ともミガキによるていねいな調整を行っている。

713～760は、内傾する口唇部の内外面に凹線状の窪みを施すもの、761～764は、口唇部を平坦あるいは、丸くおさめるものである。753～755は、立ち上がり気味の胴部で、最大径が口縁部にあるものである。

XIV c 類（第70図）

765～767は、XIV c 類である。765・766は、外反する口縁の屈曲部にリボン状の突起を貼り付けるものである。調整は、765の外面がミガキ、内面はケズリ、766は、内外面ともミガキである。767は、胴部が「くの字状」に屈曲し、口縁外面に1条の沈線を施すもので、その調整は、やや粗なミガキである。

挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 63 図	619	Ⅲ	M-2	口縁	暗灰黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	620	Ⅲ	M-6	口縁	暗褐	暗褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	621	Ⅲ	L-2	口縁	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	622	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	623	Ⅲ	I-6	口縁	にぶい橙	橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	624	Ⅲ	M-3	口縁	黄橙	浅黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	625	Ⅲ	N-4	口縁	灰黄褐	にぶい褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	626	Ⅲ	H-4, I-7	口縁	にぶい黄橙・灰黄	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	627	Ⅲ	M-2	口縁	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス(外)
第 64 図	628	Ⅲ	N-3	口縁	灰黄褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	629	Ⅲ	L-6	口縁	淡黄	黄灰	○	○			良	粗なミガキ	ミガキ	スス(外)
	630	Ⅲ	H-6	口縁	黒	灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	631	Ⅲ	K-10	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	632	Ⅲ	M-2	口縁	黄橙	橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	丹塗り(内・外)
	633	Ⅲ	N-3	口縁	灰白	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	634	I	—	口縁	にぶい黄橙	暗褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	635	Ⅲ	H-4	口縁	黄灰	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	636	Ⅲ	J-3	口縁	黒褐	暗褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	637	Ⅲ	I-4	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	638	Ⅲ	M-2	口縁	灰黄	淡黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	波状口縁
	639	Ⅲ	M-5	口縁	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	640	Ⅲ	L-9	口縁	灰黄	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	641	Ⅲ	M-2	口縁	暗灰黄	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	642	Ⅲ	H-6	口縁	にぶい黄	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	643	Ⅲ	H-8	口縁	灰黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第 65 図	644	Ⅲ	C-10	口縁	黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス(外)
	645	Ⅲ	L-2	口縁	淡黄	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	646	Ⅲ	N-6	口縁	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	647	Ⅲ	H-6, I-6	口縁	暗灰黄・浅黄	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	648	Ⅲ	I-14	口縁	黒	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	649	Ⅲ	J-14	口縁	浅黄	灰白	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス(内・外)
	650	Ⅲ	G-11	口縁	黄橙	明黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス(内・外)
	651	Ⅲ	N-3	口縁	黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	652	Ⅲ	M-2	口縁	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	653	Ⅲ	L-9	口縁	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	654	Ⅲ	H-6	口縁	浅黄	灰	○	○	○		良	ケズリ後ミガキ	ミガキ	
	655	Ⅲ	M-3	口縁	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	656	Ⅲ	L-9	口縁	黒褐	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	657	Ⅲ	M-6	口縁	灰白	灰黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	658	Ⅲ	J-3	口縁	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	659	Ⅲ	M-5	口縁	黒	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	

挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 65 図	660	Ⅲ	M-5	口縁	黄灰	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	661	Ⅲ	N-2	口縁	暗灰黄	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	662	Ⅲ	—	口縁	オリーブ黒	黒	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	663	Ⅲ	I-4	口縁	灰	灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	664	Ⅲ	I-7	口縁	暗灰黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	665	Ⅲ	M-5	口縁	灰黄	黄灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	666	Ⅳ	J-2	口縁	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第 66 図	667	Ⅲ	M-6	口縁	黄灰	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	668	Ⅳ	J-2	口縁	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○		良	粗なミガキ	ミガキ	
	669	I	—	口縁	灰	浅黄	○	○			良	粗なミガキ	ミガキ	
	670	Ⅲ	H-5	口縁	灰黄	灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	671	Ⅲ	L-8	口縁	灰黄	灰白	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	672	Ⅲ	H-7	口縁	黒	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	673	Ⅲ	K-9	口縁	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	674	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	675	Ⅲ	I-4	口縁	淡黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	676	Ⅲ	I-6	口縁	オリーブ黒	灰オリーブ	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	677	Ⅲ	M-2	口縁	淡黄	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	678	Ⅲ	M-8	口縁	にぶい黄褐	暗灰	○	○	○		良	ケズリ後ミガキ	ミガキ	
	679	Ⅲ	L-9	口縁	浅黄	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	680	Ⅲ	H-8	口縁	オリーブ黒	黒	○	○			良	ケズリ後ミガキ	ミガキ	
	681	Ⅲ	J-3	口縁	褐灰	黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	682	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	683	Ⅲ	M-5	口縁	浅黄	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	684	Ⅲ	I-7	口縁	灰	灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	685	Ⅲ	M-6	口縁	浅黄	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	波状口縁
	686	Ⅲ	M-2	口縁	黒褐	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	687	Ⅲ	M-2	口縁	黄灰	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第 67 図	688	Ⅲ	J-3	口縁	にぶい黄	浅黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス (内・外)
	689	Ⅲ	I-6	口縁	灰黄	黒	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	690	Ⅲ	H-8	口縁	灰黄	灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	691	Ⅲ	H-4	口縁	黄灰	にぶい黄	○	○	○		良	ナデ	ミガキ	
	692	Ⅲ	L-2	口縁	浅黄	灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	693	Ⅲ	H-4	口縁	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	補修孔あり
	694	Ⅲ	N-3	口縁	黒	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	695	Ⅲ	J-6	口縁	黒	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	696	Ⅲ	J-3	口縁	浅黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	697	Ⅲ	H-4	口縁	明黄褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	698	Ⅲ	I-4	口縁	黒	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	699	Ⅲ	H-4	口縁	明褐	黒	○	○	○		良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	700	Ⅲ	M-8	口縁	明黄褐	橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	701	Ⅲ	L-2	口縁	淡黄	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	702	Ⅲ	M-3・N-3	口縁	浅黄	明黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス (内・外)
	703	Ⅲ	H-4	口縁	黒褐	浅黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (内・外)
	704	Ⅲ	J-5	口縁	にぶい黄褐	黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	705	Ⅲ	J-3	口縁	灰	灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	706	Ⅲ	L-9	口縁	オリーブ黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	707	Ⅲ	L-6	口縁	黒褐	暗褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第 68 図	708	Ⅲ	L-9	口縁	黒褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	709	Ⅲ	M-6	口縁	浅黄	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	710	Ⅲ	M-6	口縁	灰黄	淡黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	711	Ⅲ	L-10	口縁	浅黄	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	712	Ⅲ	K-9	口縁	黒褐	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	713	Ⅲ	I-4	口縁	にぶい黄橙	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	714	Ⅲ	M-3	口縁	灰	灰オリーブ	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	715	Ⅲ	M-6	口縁	灰白	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	716	Ⅲ	L-6	口縁	にぶい黄橙	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	717	Ⅲ	L-9	口縁	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	718	Ⅲ	H-8	口縁	黒	にぶい黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	719	Ⅲ	L-3	口縁	灰白	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	丹塗り
	720	Ⅲ	H-4	口縁	明黄褐	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス(外)・丹塗り(内)
	721	Ⅲ	H-5	口縁	明黄褐	黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	丹塗り (内)
	722	Ⅲ	I-4	口縁	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	723	Ⅲ	M-2	口縁	にぶい黄	暗灰黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	724	Ⅲ	H-4	口縁	明黄褐	浅黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	725	Ⅲ	L-10	口縁	黒褐	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	726	Ⅲ	H-4	口縁	灰黄褐	黒	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	727	Ⅲ	L-10	口縁	黄灰	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	728	Ⅲ	L-6	口縁	黒褐	オリーブ黒	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス (外)
	729	Ⅲ	M-2	口縁	灰黄褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	730	Ⅲ	G-6	口縁	灰黄	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第 69 図	731	Ⅲ	N-2	口縁	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	732	Ⅲ	N-4	口縁	灰白	灰オリーブ	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	733	Ⅲ	M-5・M-6	口縁	浅黄	黄灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	734	Ⅲ	H-4, I-7	口縁	灰黄褐	黄灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	735	Ⅲ	L-9	口縁	黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	736	Ⅲ	J-5	口縁	灰黄	灰褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	737	Ⅲ	L-6	口縁	黄灰	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	剥落 (内)

②石器（第72図～第95図）

縄文時代晩期の石器は、石鏃・ドリル・スクレイパー・石匕・磨製石斧・打製石斧・石錘・異形石器・玉類等多量の遺物が出土している。

石鏃（第72図～第75図）

石鏃は、遺跡北側のH-4～7区を中心として14点、南側のM・L-4・5を中心として9点、これらが、数多く出土している地点であると言える。総計では、I層であるものの、縄文時代晩期と思われるものを含めると73点出土している。

素材は、黒曜石（43点）、頁岩（14点）、チャート（11点）、玉髄（5点）などであり、780のように県外産と思われる黒曜石もある。

石鏃は、打製でほとんどが入念な交互の剥離による調整が行われている。73点中36点が破損しており、先端部が破損しているものは、7点、脚部の一方が破損しているもの22点、ともに破損しているものが7点である。

石鏃の分類は、本報告書における統一的な分類に倣うことにする。（石鏃分類表187ページ参照）768～774、776・777、779～782、784、787、811～813は、A-a-b。A-b-bは、775、829、832、838、A-a-cは、778、804、806～810、817、841。

B-a-dは、783、790、799、831。A-a-dは、784～786、788、792～794、796～798、800～803、814～816、820～825、830、833。C-a-dは、789、795。A-b-dは、791、818・819、B-a-cは、805。A-c-aは、834・835。A-a-aは、836。A-c-dは、837。C-b-aは、840。

基部が欠損しているため、形態と長幅比のみのものとして、B-aは、839。A-aは、826、828。A-bは827である。

量的には、A-a-dが25点と圧倒的に多く、次がA-a-bの18点、A-a-cの8点であり、他は数点ずつの出土である。

ドリル（第76図）

842は、チャート製ドリルである。本遺跡からの縄文時代晩期のドリルの出土は1点のみである。長さは、2.1cmでやや厚めの剥片を素材とし、先端にノッチ状の加工を施すものである。

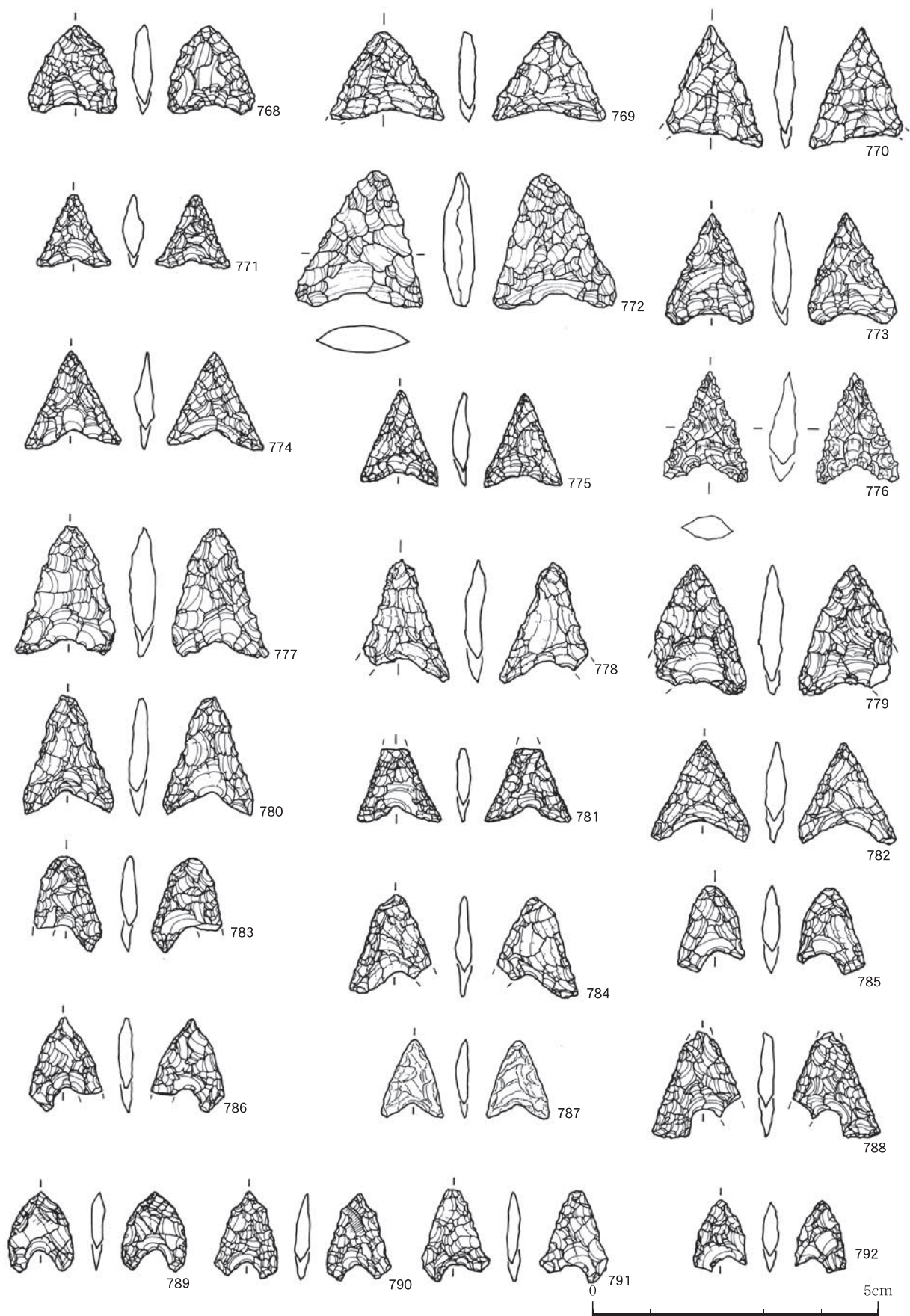
石匕（第77図・第78図）

843は、扁平な粘板岩の横長剥片を縦に用いたもので、左上側縁部に摘みを作出するためのものと思われる剥離があることから、石匕の未製品の可能性があるものである。

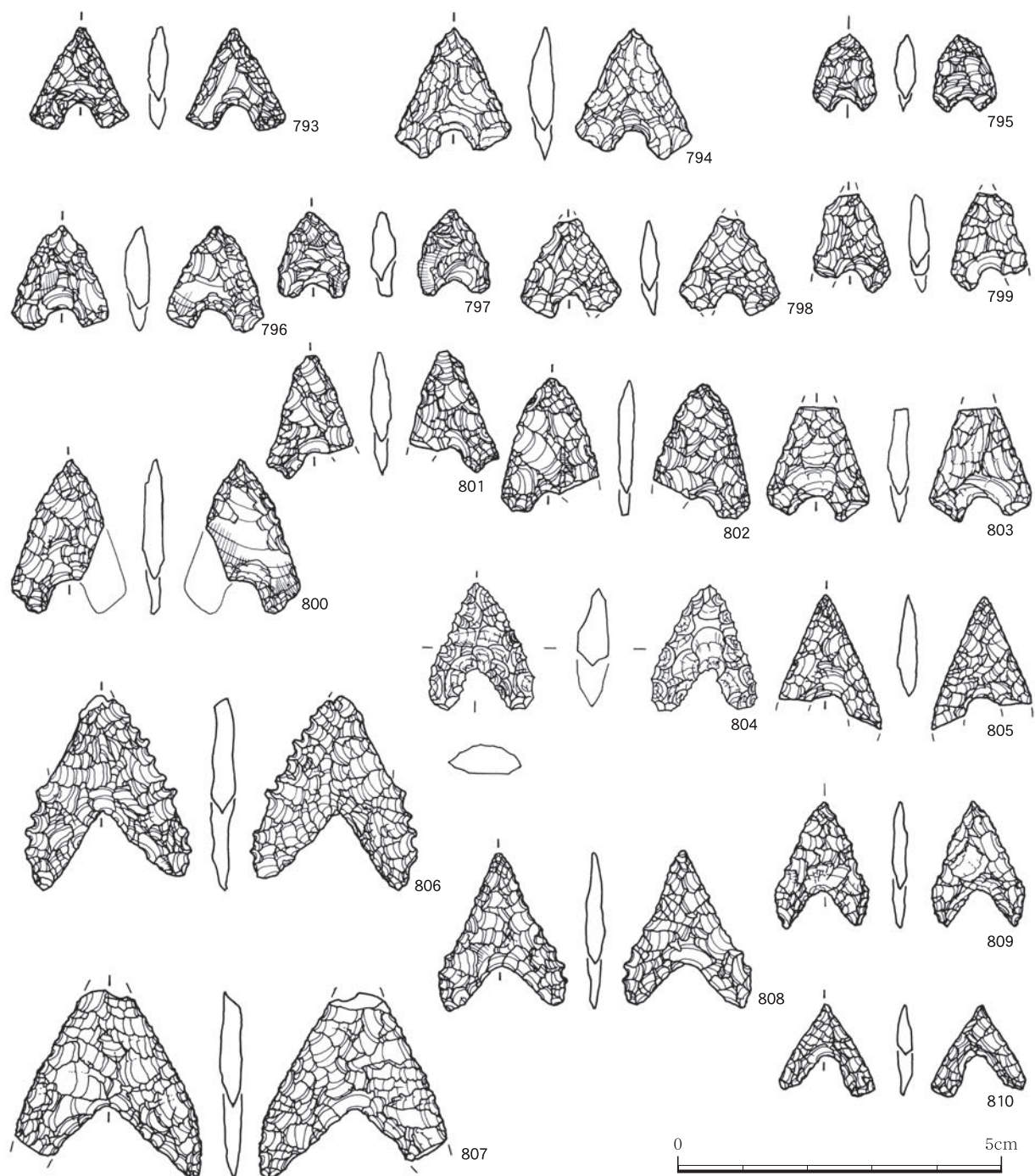
挿図 番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 69 図	738	Ⅲ	M-3	口縁	浅黄	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	739	Ⅲ	L-9	口縁	黒	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	740	Ⅲ	M-3	口縁	暗灰黄	灰黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	741	Ⅲ	J-3	口縁	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	742	Ⅲ	M-6	口縁	灰黄	淡黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	743	Ⅲ	L-9	口縁	黒	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	744	Ⅲ	L-2	口縁	オリーブ黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	745	Ⅲ	H-5	口縁	にぶい黄褐	暗褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	746	Ⅲ	M-2	口縁	暗褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	747	Ⅲ	L-8	口縁	黄灰	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	剥落（外）
	748	Ⅲ	N-3	口縁	黒	赤褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	749	Ⅲ	H-8・I-8	口縁	灰	オリーブ黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	750	Ⅲ	M-5	口縁	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	751	Ⅲ	M-6	口縁	にぶい褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	752	Ⅲ	J-3	口縁	黄灰	黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第 70 図	753	Ⅲ	J-3	口縁	灰オリーブ	灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	754	Ⅲ	M-3	口縁	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	755	Ⅲ	M-5	口縁	浅黄	灰黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ・ナデ	スス（外）
	756	Ⅲ	I-4	口縁	灰	黄灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	757	Ⅲ	K-10	口縁	灰白	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	758	Ⅲ	I-4	口縁	浅黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	759	Ⅲ	J-6	口縁	暗赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（外）
	760	Ⅲ	M-3	口縁	灰黄褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	761	Ⅲ	K-10	口縁	暗黄褐	黒	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	762	Ⅲ	I-5	口縁	黄褐	にぶい褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	763	Ⅲ	L-6	口縁	黒褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	764	Ⅲ	M-6	口縁	黄灰	灰白	○	○			良	ミガキ	ミガキ	スス（内・外）
	765	Ⅲ	I-4	口縁	にぶい黄褐	褐灰	○	○			良	ケズリ後ナデ	ミガキ	リボン状突起・スス（内・外）
	766	Ⅲ	L-3	口縁	褐	にぶい褐	○	○	○		良	ミガキ	ケズリ後ミガキ	
	767	Ⅲ	M-2	口縁	灰オリーブ	褐灰		○	○		良	ミガキ	ミガキ	



第71図 縄文時代晩期土器出土状況図（1グリッド：20m）

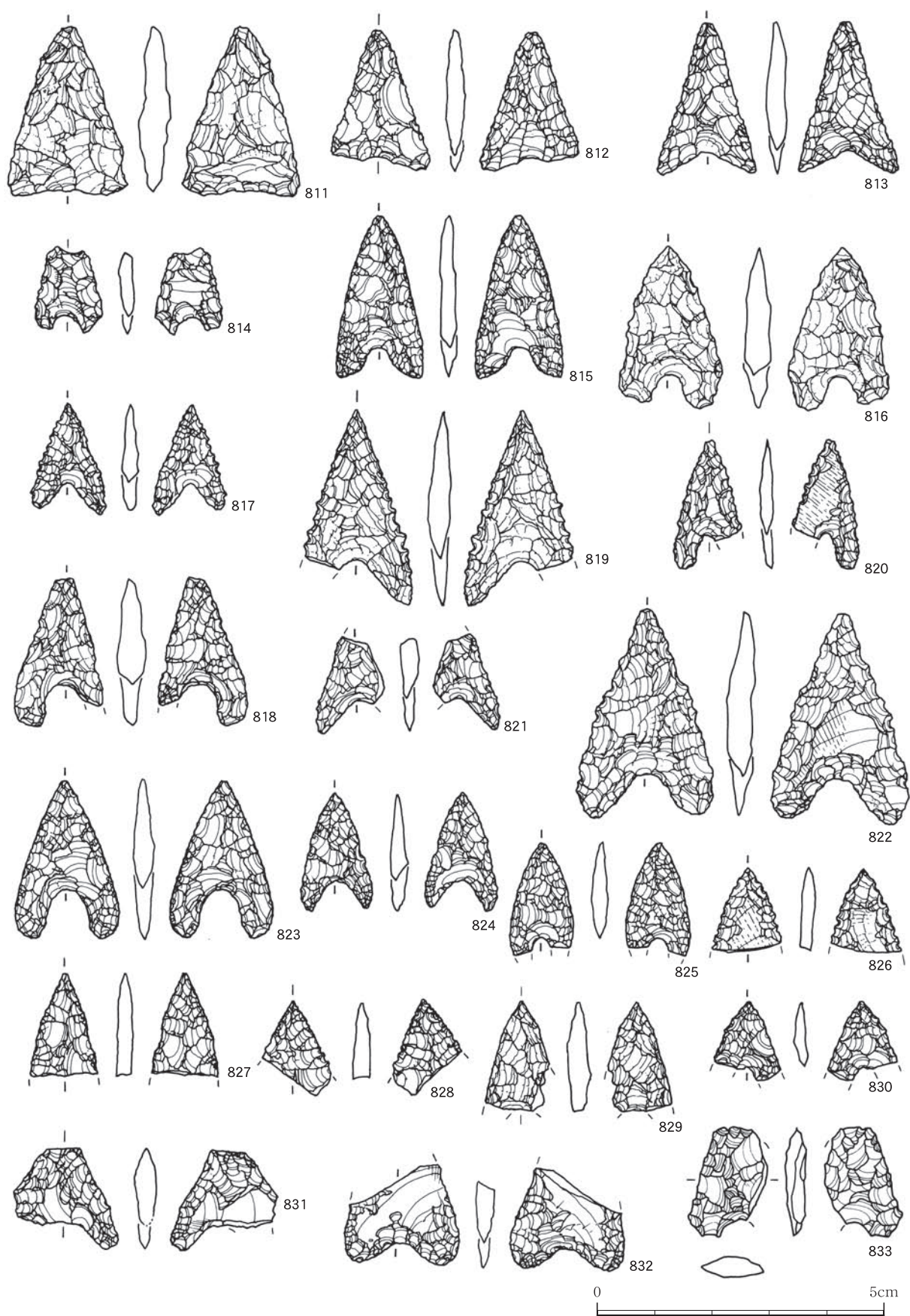


第72図 縄文時代晩期石器（1）



第73図 縄文時代晩期石器（2）

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	
						cm	cm	cm	g	分類	破損部分
第 72 図	768	石鏃	M-6	Ⅲ	黒曜石	1.50	1.50	0.35	0.70	Aab	
	769	石鏃	J-3	Ⅲ	頁岩	1.60	(2.00)	0.30	0.84	Aab	脚部
	770	石鏃	I-5	Ⅲ	黒曜石	2.10	(1.70)	0.30	0.84	Aab	脚部
	771	石鏃	K-4	I	黒曜石	1.30	1.40	0.32	0.32	Aab	
	772	石鏃	—	Ⅲ	黒曜石	2.40	2.25	0.50	2.38	Aab	
	773	石鏃	—	I	黒曜石	2.00	1.60	0.30	0.75	Aab	
	774	石鏃	H-7	Ⅲ	黒曜石	1.80	1.70	0.25	0.51	Aab	
	775	石鏃	K-10	Ⅲ	チャート	1.65	1.40	0.18	0.44	Abb	
	776	石鏃	—	I	黒曜石	2.00	1.50	0.40	0.69	Aab	
	777	石鏃	L-2	Ⅲ	黒曜石	2.50	1.80	0.42	1.14	Aab	脚部
	778	石鏃	I-5	Ⅲ	頁岩	2.20	(1.53)	0.32	0.81	Aac	脚部
	779	石鏃	M-6	Ⅲ	黒曜石	2.40	(1.60)	0.40	1.24	Aab	脚部



第74図 縄文時代晩期石器（3）

845は、鉄石英を素材とする小型の石匕である。I層の出土であるが、周辺の出土状況から、晩期として扱った。横型で全体に両面からいねいで細かな交互剥離が施されているが、裏面のつまみ部には、自然面が若干残されている。

846は、チャートの縦長剥片を素材とするもので、右側縁部を主として細かな調整が見られる。つまみ部は、粗い剥離により抉りを作り出している。また、裏面には、素材剥片の剥離を残すものである。

スクレイパー（第77図・第79図・第82図）

844, 852, 854・855・856, 882・883は、スクレイパーである。844, 852, 854・855・856, 882・883は頁岩、853はチャートを素材とするものである。883は1号住居跡からの出土であるが、形態やその出土状況から、晩期のものと考えられる。

844は、扁平な横長剥片を用いたスクレイパーの半欠品である。調整は側縁部のみであり、表面には自然面を、裏面には、素材剥片の剥離を残すものである。852も扁平な剥片を素材とし、右側縁部及び下部に刃部と思われる調整を施している。裏面には、素材剥片の剥離を残すものである。853も852と同様に扁平な素材を利用しているものである。

854は、最大厚が3.5cmを測るもので、全体に粗い調整を施し、下部に刃部作出のための調整を施している。他のスクレイパーに比して厚さ、重量ともに大きく、また、自然面を多く残すことから、小型の礫器として用いられた可能性もある。

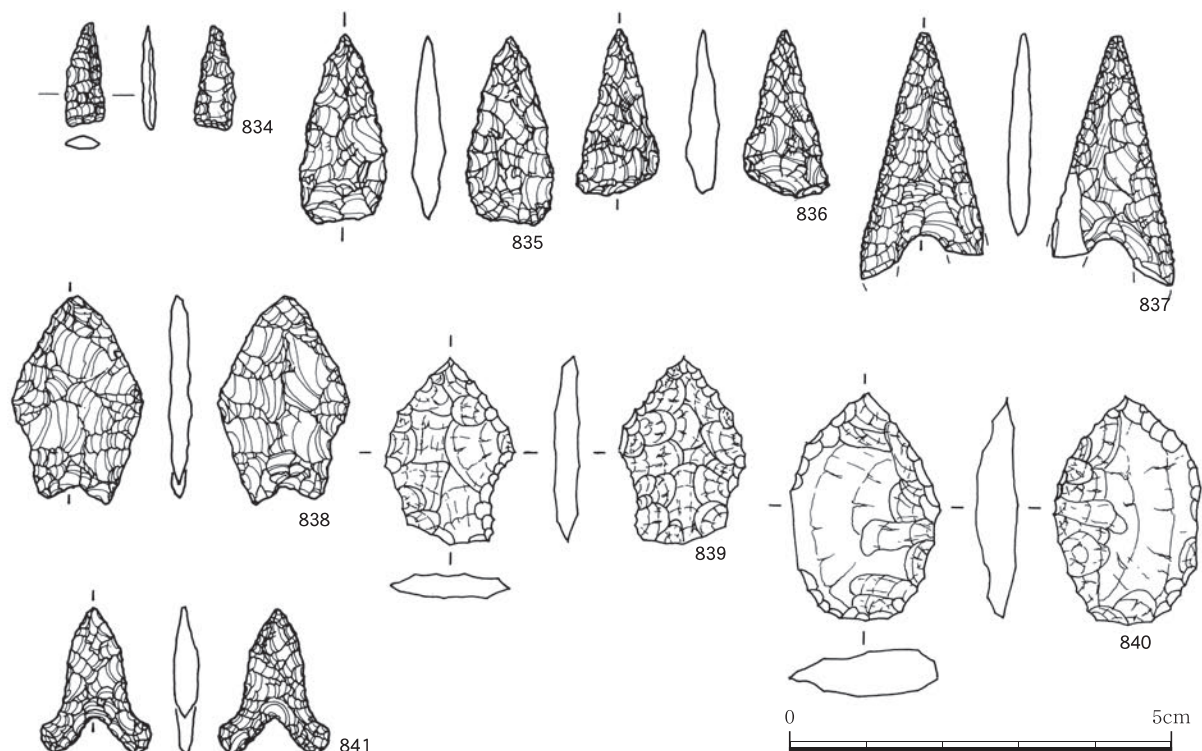
855は、翼状の横長剥片の下部に使用痕あるいは、刃部と思われる剥離を有するものである。856は、横長剥片の上部を表裏からいねいに調整を行い、下部及び右側縁部に細かな調整を施して刃部としたものである。

882は、縦長剥片の周辺部を中心に簡単に整形を行った後、両側縁部に刃部調整を行ったものである。883も、整形のために数回の調整を行った後、側縁部に刃部調整を行ったものであるが、右側の上部からの調整が整形のための最終打撃調整と思われる。この剥離は、中央部で段状にステップしていることから、この時点で整形を中断したものと思われる。

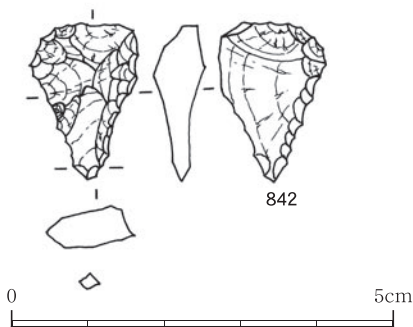
楔形石器・鎌状石器（第78図）

847は、楔形石器である。自然な薄い硬質頁岩の上端・下端に打撃等による剥離が残されるものである。

848～850は、鎌状の形態をしているために、便宜上この用語を用いた。848は砂岩、849は緑泥片岩、850は頁岩であり、全て欠損品である。850は、全面



第75図 縄文時代晩期石器（4）



第76図 縄文時代晩期石器（5）

磨製, 849は周辺部のみ磨製であり, 両者とも裏面は, 石材の節理面より剥落している。850は, 周辺部を細かな調整により整形している。特に下部は, 刃部としての整形と思われる。

加工痕剥片（第79図）

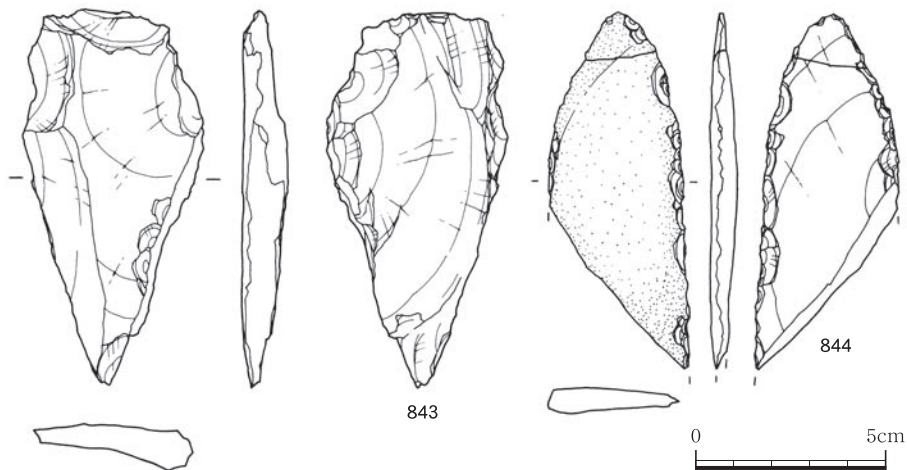
851は, 平面は分銅, 断面は台形状の形を呈する気泡の少ない上質の黒曜石の剥片で, 下部のみに微細の剥離が観察できるものである。

石斧（第80図・第81図）

石斧は, 磨製石斧・局部磨製石斧・打製石斧があり, 図化し得たのは22本であった。

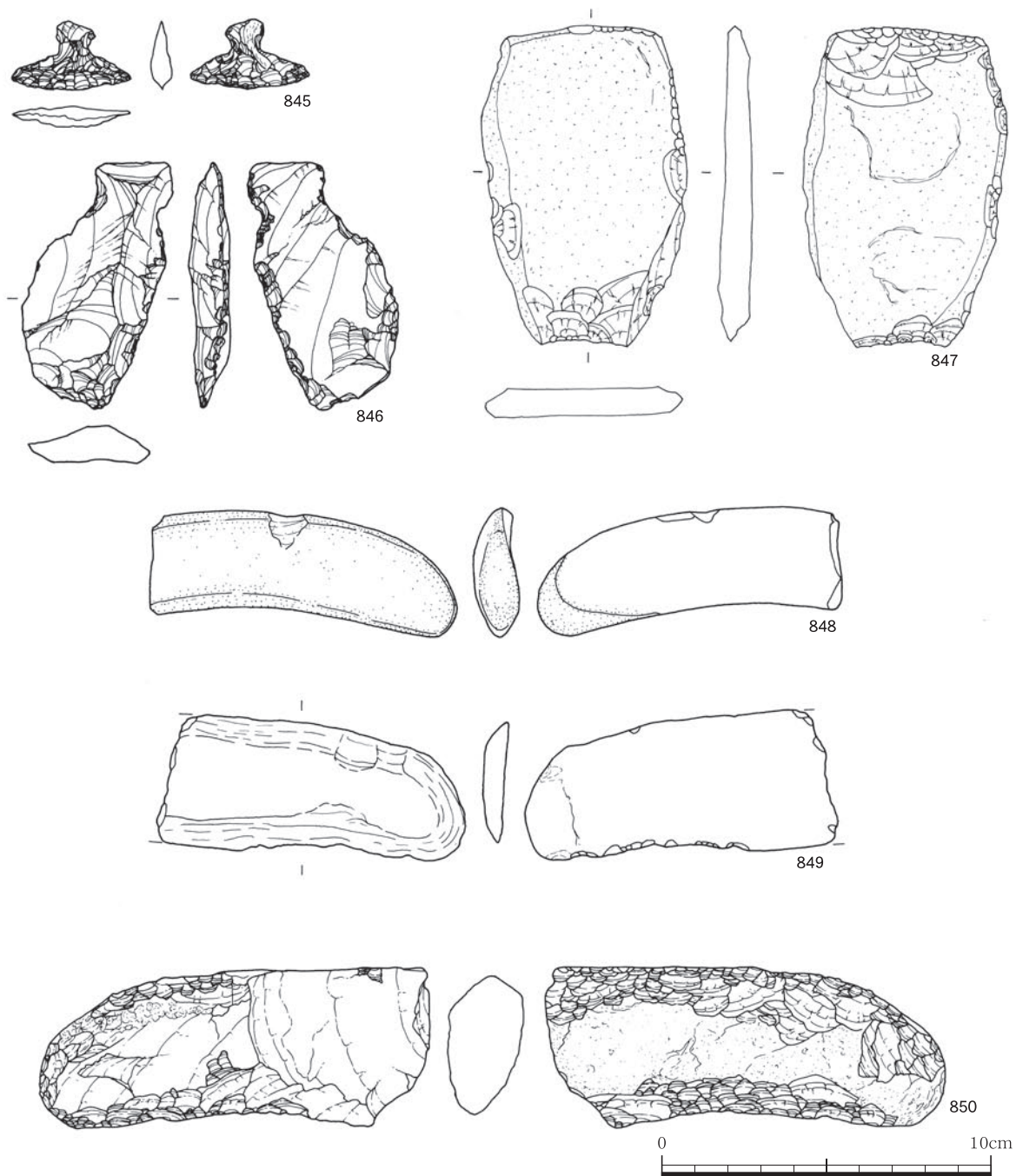
857～863, 866・867, 878は, 磨製石斧である。862, 866は安山岩, 他は頁岩を素材とするものである。

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	備 考 破損部分
						cm	cm	cm	g		
第72 図	780	石鏃	M-5	Ⅲ	黒曜石（針尾）	2.12	1.60	0.31	0.78	A a b	先端部
	781	石鏃	N-3	Ⅲ	黒曜石	1.35	1.50	0.25	0.37	A a b	先端部
	782	石鏃	M-8	Ⅲ	頁岩	1.85	1.72	0.35	0.66	A a b	
	783	石鏃	I-5	Ⅲ	黒曜石	1.70	(1.20)	0.30	0.44	B a d	脚部
	784	石鏃	H-7	Ⅲ	頁岩	1.85	(1.45)	0.30	0.52	A a d	先端・脚部
	785	石鏃	H-4	Ⅲ	チャート	1.60	1.20	0.30	0.47	A a d	脚部
	786	石鏃	H-4	Ⅲ	黒曜石	1.70	(1.30)	0.21	0.36	A a d	脚部
	787	石鏃	—	I	頁岩	1.45	1.10	0.22	0.26	A a b	
	788	石鏃	—	I	黒曜石	1.90	(1.60)	0.32	0.60	A a d	先端・脚部
	789	石鏃	I-6	Ⅲ	頁岩	1.50	1.15	0.21	0.30	C a d	
	790	石鏃	M-3	Ⅲ	黒曜石	1.60	1.12	0.23	0.35	B a d	
	791	石鏃	H-7	Ⅲ	チャート	1.65	1.20	0.28	0.42	A b d	先端部
第73 図	792	石鏃	H-4	Ⅲ	黒曜石	1.35	0.90	0.30	0.26	A a d	脚部
	793	石鏃	M-3	Ⅲ	黒曜石	1.50	1.60	0.28	0.45	A a d	
	794	石鏃	L-10	Ⅲ	頁岩	2.00	1.80	0.38	0.90	A a d	
	795	石鏃	L-2	Ⅲ	黒曜石	1.20	1.10	0.31	0.30	C a d	
	796	石鏃	M-6	Ⅲ	黒曜石	1.65	1.60	0.39	0.72	A a d	
	797	石鏃	H-4	Ⅲ	黒曜石	1.30	1.20	0.38	0.43	A a d	
	798	石鏃	H-7	Ⅲ	黒曜石	(1.55)	1.60	0.22	0.39	A a d	先端部
	799	石鏃	M-2	Ⅲ	チャート	(1.50)	(1.25)	0.30	0.45	B a d	先端部・脚部
	800	石鏃	I-4	Ⅲ	黒曜石	2.40	(1.80)	0.31	0.74	A a d	脚部
	801	石鏃	M-2	Ⅲ	黒曜石	1.95	(1.40)	0.33	0.56	A a d	脚部
	802	石鏃	G-11	Ⅲ	黒曜石	2.10	(1.60)	0.21	0.63	A a d	脚部
	803	石鏃	M-5	Ⅲ	頁岩	(1.80)	1.60	0.31	0.82	A a d	先端部
	804	石鏃	L-6	Ⅲ	玉髄	2.00	1.70	0.45	0.99	A a c	
	805	石鏃	H-8	Ⅲ	チャート	2.10	(1.60)	0.32	0.67	B a c	脚部
	806	石鏃	L-10	Ⅲ	黒曜石	3.00	2.70	0.40	1.92	A a c	先端部
	807	石鏃	I-3	Ⅲ	黒曜石	(2.50)	(2.90)	0.38	2.30	A a c	先端部・脚部
	808	石鏃	K-10	Ⅲ	黒曜石	2.50	2.00	0.30	0.83	A a c	
	809	石鏃	J-4	Ⅲ	頁岩	2.00	1.55	0.20	0.38	A a c	
	810	石鏃	L-5	I	チャート	1.50	1.55	0.28	0.30	A a c	
第74 図	811	石鏃	H-7	Ⅲ	頁岩	3.10	2.20	0.53	2.78	A a b	
	812	石鏃	J-5	Ⅲ	玉髄	2.50	1.75	0.29	0.93	A a b	
	813	石鏃	M-7	Ⅲ	頁岩	2.70	1.80	0.35	1.09	A a b	
	814	石鏃	M-5	Ⅲ	黒曜石	1.50	1.25	0.30	0.47	A a d	先端部
	815	石鏃	H-7	Ⅲ	黒曜石	2.90	1.50	0.30	1.11	A a d	
	816	石鏃	M-5	Ⅲ	頁岩	2.85	1.80	0.48	1.82	A a d	
	817	石鏃	—	I	黒曜石	2.00	1.40	0.31	0.48	A a c	
	818	石鏃	L-3	Ⅲ	黒曜石	2.65	(1.60)	0.45	1.27	A b d	脚部
	819	石鏃	H-5	Ⅲ	頁岩	3.40	(1.90)	0.35	1.59	A b d	脚部
	820	石鏃	L-6	Ⅲ	黒曜石	2.30	(1.20)	0.20	0.36	A a d	脚部
	821	石鏃	H-8	Ⅲ	チャート	(1.80)	(1.25)	0.30	0.47	A a d	先端部・脚部
	822	石鏃	—	I	黒曜石	3.70	2.50	0.50	2.81	A a d	
	823	石鏃	I-7	Ⅲ b	チャート	2.80	2.00	0.38	1.20	A a d	
	824	石鏃	L-10	Ⅲ	黒曜石	2.10	1.30	0.32	0.52	A a d	
	825	石鏃	L-6	Ⅲ	チャート	(2.00)	(1.15)	0.31	0.58	A b d	脚部
	826	石鏃	I-4	Ⅲ	黒曜石	(1.50)	(1.25)	0.23	0.36	A a	脚部
	827	石鏃	H-4	Ⅲ	玉髄	(1.80)	(1.25)	0.27	0.45	A b	脚部
	828	石鏃	H-8	Ⅲ	黒曜石	(1.70)	(1.30)	0.29	0.41	A a	脚部
	829	石鏃	J-4	Ⅲ	頁岩	(2.00)	(1.15)	0.42	0.77	A b b	脚部
	830	石鏃	—	I	黒曜石	(1.40)	(1.30)	0.22	0.32	A a d	脚部
	831	石鏃	M-2	Ⅲ	黒曜石	1.80	1.90	0.41	0.92	A a c	先端部・脚部
	832	石鏃	M-6	Ⅲ	黒曜石	(1.80)	2.10	0.33	1.11	A b b	先端部
	833	石鏃	N-3	Ⅲ	黒曜石	2.00	(1.50)	0.33	0.78	A a d	先端部・脚部
第75 図	834	石鏃	—	Ⅲ	黒曜石	1.40	0.50	0.18	0.11	A c a	
	835	石鏃	H-4	Ⅲ	玉髄	2.55	1.20	0.38	0.90	A c a	
	836	石鏃	L-3	Ⅲ	黒曜石	1.75	1.15	0.41	0.70	A a a	脚部
	837	石鏃	—	I	黒曜石	(3.30)	(1.70)	0.32	1.32	A c d	脚部
	838	石鏃	—	I	チャート	2.80	1.80	0.32	1.40	A b b	
	839	石鏃	H-4	Ⅲ	玉髄	2.50	1.70	0.29	1.16	B a	脚部
	840	石鏃	H-4	Ⅲ	玉髄	3.00	2.00	0.57	3.25	C b a	
	841	石鏃	—	Ⅲ	チャート	1.95	1.50	0.31	0.55	A a c	



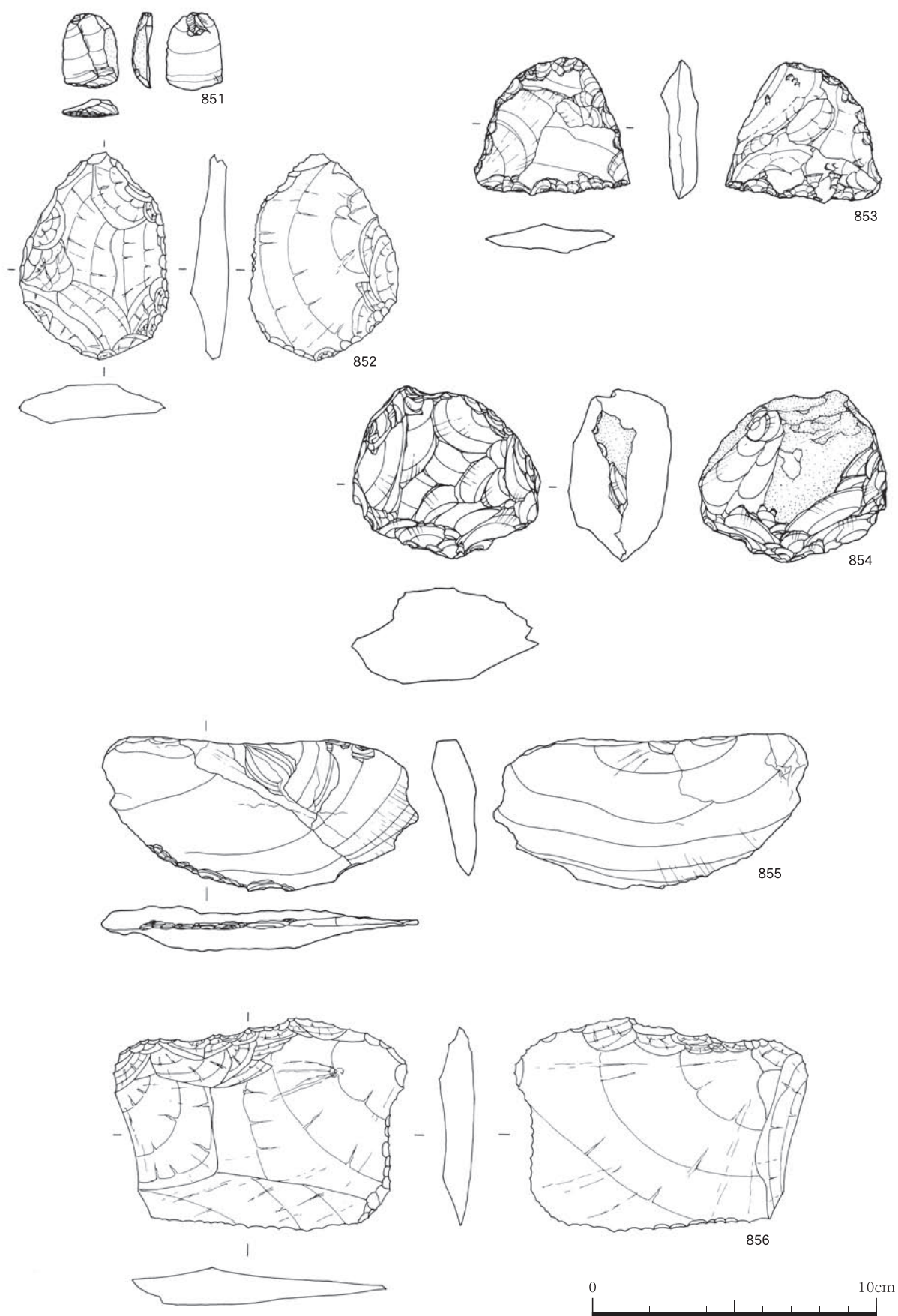
第77図 縄文時代晩期石器（6）

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考
						cm	cm	cm	g	
第76図	842	ドリル	I-3	Ⅲ	チャート	2.10	1.40	0.58	1.40	
第77図	843	石ヒ	G-6	Ⅲ	粘板岩	9.80	4.80	1.20	46.51	
	844	スクレイパー	I-4	Ⅲ	頁岩	9.00	3.60	0.70	24.64	
第78図	845	石ヒ	—	I	鉄石英	2.10	3.60	0.70	2.80	
	846	石ヒ	M-2	Ⅲ	チャート	7.55	4.55	1.30	32.80	
	847	クサビ型石器	L-9	Ⅲ	頁岩	9.70	6.10	1.05	97.13	
	848	鎌状石器	M-2	Ⅲ	砂岩	3.90	9.35	1.40	58.60	
	849	鎌状石器	M-2	Ⅲ	緑粘片岩	4.50	9.40	0.70	40.90	
	850	鎌状石器	G-8	Ⅲ	頁岩	4.85	(11.90)	2.40	159.86	
第79図	851	加工痕剥片	L-7	Ⅲ	黒曜石	2.65	2.00	0.60	3.10	
	852	スクレイパー	N-3	Ⅲ	頁岩	7.30	5.20	1.20	56.03	
	853	スクレイパー	M-2	Ⅲ	チャート	4.90	5.40	1.10	30.54	
	854	スクレイパー	H-8	Ⅲ	頁岩	6.50	6.70	3.32	166.53	
	855	スクレイパー	I-5	Ⅲ	頁岩	10.80	5.20	1.29	76.55	
	856	スクレイパー	H-8	Ⅲ	頁岩	7.50	10.35	1.29	109.17	
第80図	857	磨製石斧	K-10	Ⅲ	頁岩	5.60	4.60	7.50	20.66	
	858	磨製石斧	M-5	Ⅲ	頁岩	11.00	3.45	1.45	71.00	
	859	磨製石斧	—	I	頁岩	11.00	4.70	1.30	116.59	
	860	磨製石斧	—	Ⅲ	頁岩	20.15	9.10	2.12	420.00	
	861	磨製石斧	M-6	Ⅲ	頁岩	7.20	6.50	3.75	244.79	
	862	磨製石斧	M-6	Ⅲ	安山岩	6.25	6.30	1.85	95.91	
	863	磨製石斧	L-7	Ⅲ	頁岩	8.50	5.55	3.50	244.43	
	864	打製石斧	H-8	Ⅲ	安山岩	10.15	5.10	3.45	160.50	
	865	打製石斧	N-3	Ⅲ	頁岩	7.60	3.20	2.50	105.09	
	866	磨製石斧	J-3	Ⅲ	安山岩	8.20	4.95	3.30	177.31	
	867	磨製石斧	J-6	Ⅲ	頁岩	8.20	3.60	1.25	54.99	
第81図	868	打製石斧	M-6	Ⅲ	粘板岩	8.00	18.70	1.70	330.00	
	869	打製石斧	L-9	Ⅲ	粘板岩	14.80	8.25	0.95	145.47	
	870	打製石斧	—	I	頁岩	13.50	6.15	3.05	306.14	
	871	打製石斧	L-10	Ⅲ	粘板岩	11.45	6.50	1.75	110.54	
	872	打製石斧	—	Ⅲ	頁岩	6.25	6.50	1.85	97.58	
	873	打製石斧	—	I	粘板岩	9.40	7.30	1.30	96.05	
	874	打製石斧	M-6	Ⅲ	安山岩	11.90	6.35	1.90	129.30	
	875	打製石斧	L-2	Ⅲ	粘板岩	12.15	7.20	1.30	178.69	
	876	打製石斧	M-2	Ⅲ	粘板岩	9.25	5.50	1.40	68.77	
	877	打製石斧	L-9	Ⅲ	安山岩	9.85	4.05	1.60	88.17	
第82図	878	磨製石斧	M-6	Ⅲ	頁岩	11.80	4.00	1.70	123.29	
	879	礫器	H-4	Ⅲ	頁岩	13.70	10.50	4.55	740.00	
	880	礫器	L-2	Ⅲ	頁岩	7.70	6.10	1.90	135.91	
	881	礫器	H-8	Ⅲ	頁岩	7.60	8.40	4.40	313.72	
	882	スクレイパー	—	I	頁岩	9.95	3.80	1.10	48.39	
	883	スクレイパー	1号住居	—	頁岩	8.42	5.95	2.08	101.03	
	884	石錘	M-2	Ⅲ	安山岩	6.20	6.00	1.90	89.63	
	885	石錘	I-3	Ⅲ	頁岩	5.42	7.75	2.88	150.87	
第83図	886	石錘	I-6	Ⅲ	頁岩	6.98	7.86	3.01	163.84	
	887	石錘	M-8	Ⅲ	砂岩	5.88	7.15	1.18	108.17	
	888	石錘	H-4	Ⅲ	砂岩	5.80	6.15	1.80	112.28	
	889	石錘	I-7	I	砂岩	5.75	7.45	1.70	103.38	
	890	石錘	I-8	Ⅲ	凝灰岩	7.70	6.68	2.38	162.83	
	891	異形石器	—	I	黒曜石	2.50	0.55	0.30	0.63	
第84図	892	異形石器	土坑13	—	黒曜石	2.55	0.70	0.30	0.50	
	893	異形石器	J-3	I	黒曜石	1.35	1.65	0.30	0.40	
	894	異形石器	—	I	黒曜石	2.60	2.60	0.50	1.58	
	895	玉類（管玉）	—	I	結晶片岩様緑色石	0.95	径0.50	0.10	0.48	
	896	玉類（勾玉）	L-2	Ⅲ	結晶片岩様緑色石	(0.70)	0.35	0.20	0.07	
	897	玉類（小玉）	M-2	Ⅲ	結晶片岩様緑色石	0.55	径0.60	0.15	0.10	
	898	玉類（小玉）	M-2	Ⅲ	結晶片岩様緑色石	0.35	径0.50	0.20	0.08	
	899	磨石	M-2	Ⅲ	安山岩	3.70	2.90	2.20	31.77	
第85図	900	磨石	I-8	Ⅲ	砂岩	4.10	3.00	1.70	31.70	
	901	磨石	M-5	Ⅲ	安山岩	3.80	3.30	1.30	23.83	

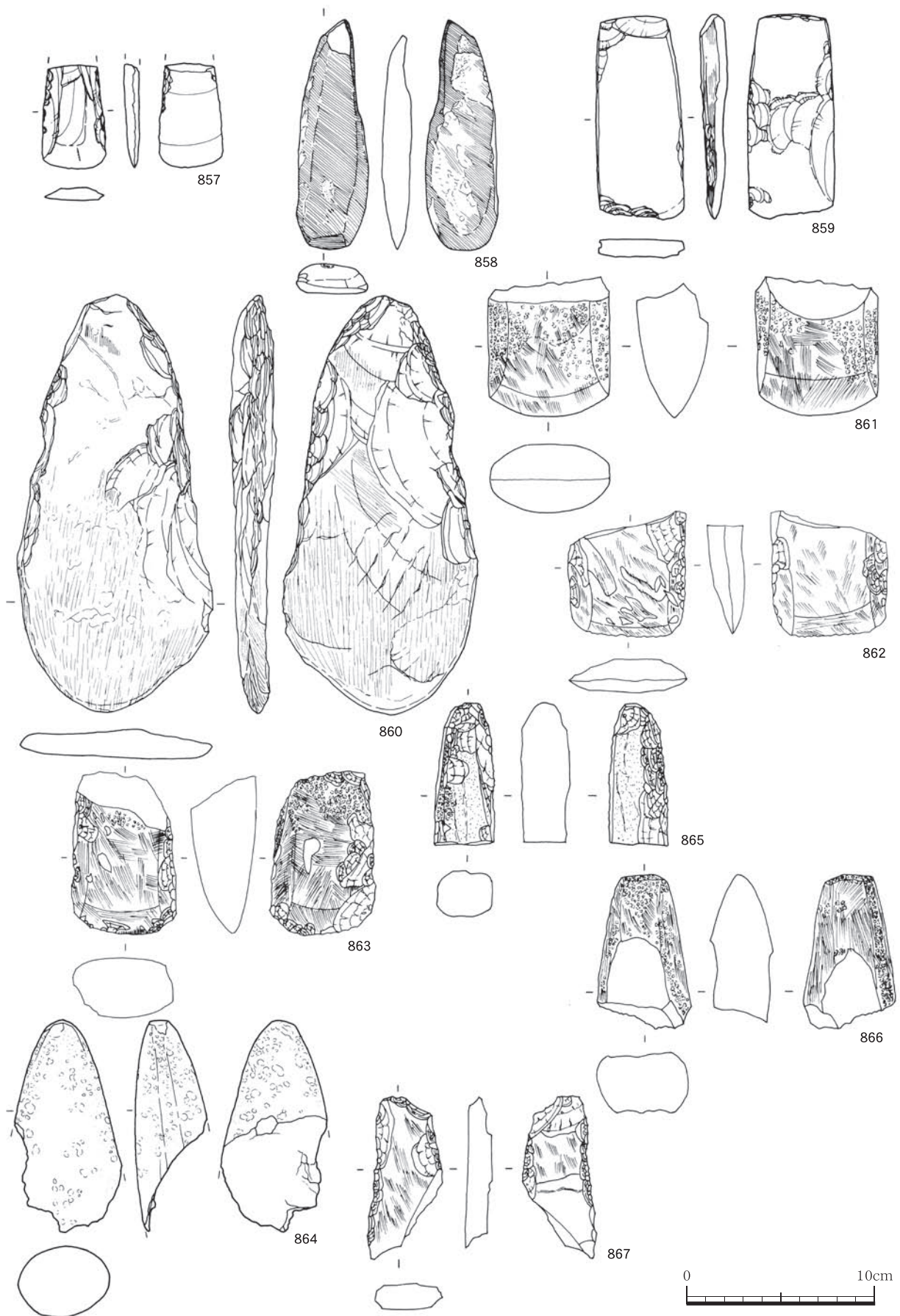


第78図 縄文時代晩期石器（7）

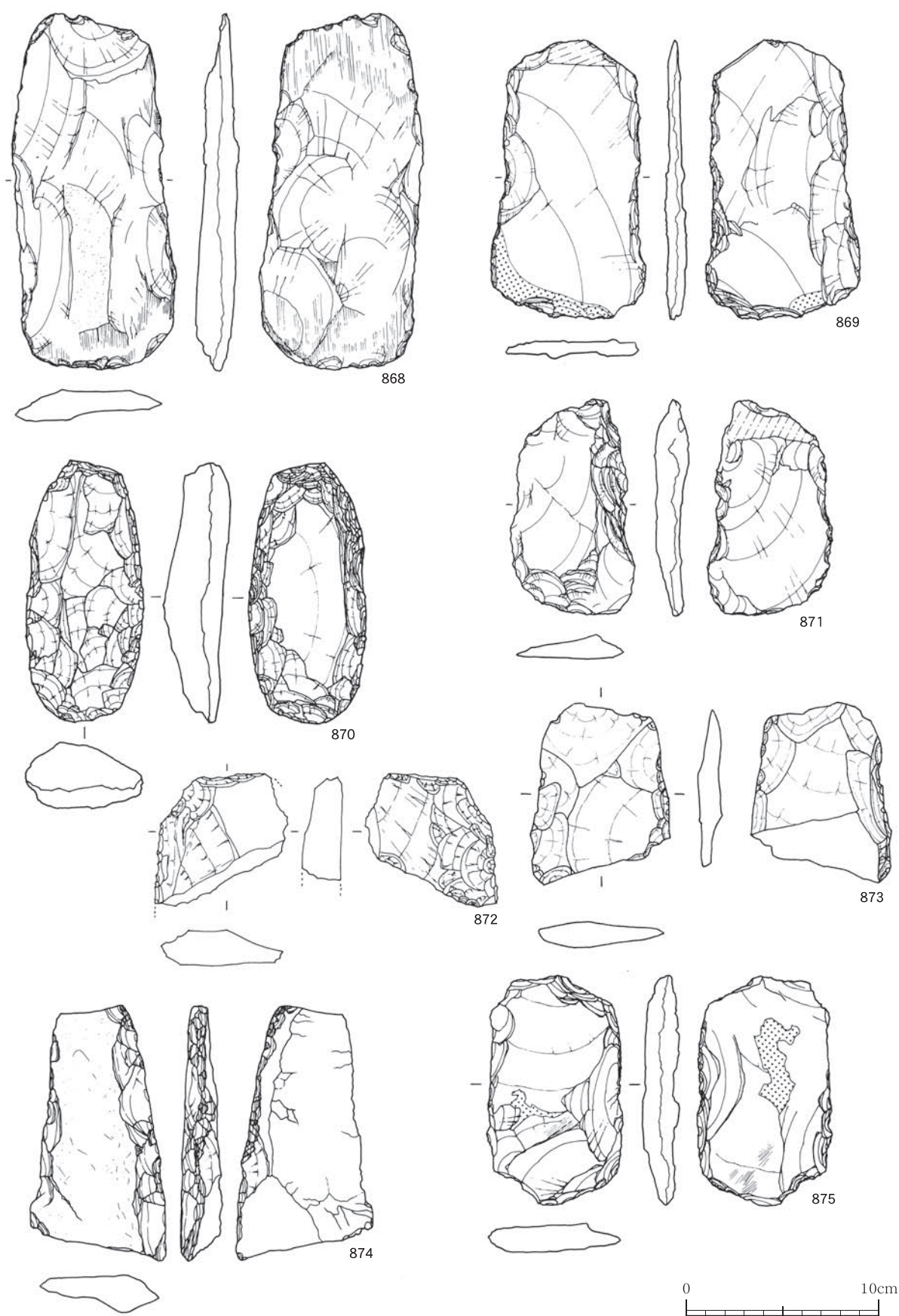
挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考
						cm	cm	cm	g	
第 85 図	902	磨石	M-2	I	砂岩	3.50	3.44	1.30	22.50	
	903	磨石	M-5	III	砂岩	4.00	3.30	1.50	30.58	
	904	磨石	M-3	III	砂岩	4.10	3.70	1.70	39.03	
	905	磨石	K-4	I	砂岩	4.10	3.30	1.60	29.79	
	906	磨石	2号住居	—	砂岩	4.50	3.70	1.85	41.83	
	907	磨石	J-3	III	砂岩	4.10	3.90	1.80	41.69	
	908	磨石	N-3	III	砂岩	4.20	3.60	1.80	41.13	
	909	磨石	N-3	II	砂岩	4.20	3.90	1.70	37.08	
	910	磨石	L-6	III	砂岩	4.20	3.80	2.00	40.34	
	911	磨石	L-9	III	砂岩	4.30	3.90	2.55	47.76	
	912	磨石	M-6	III	砂岩	4.40	3.90	2.50	60.32	
	913	磨石	J-3	III	砂岩	4.50	3.80	1.50	33.56	
	914	磨石	M-2	III	砂岩	4.80	4.00	1.55	44.72	
	915	磨石	M-2	III	砂岩	4.60	4.80	1.80	47.28	



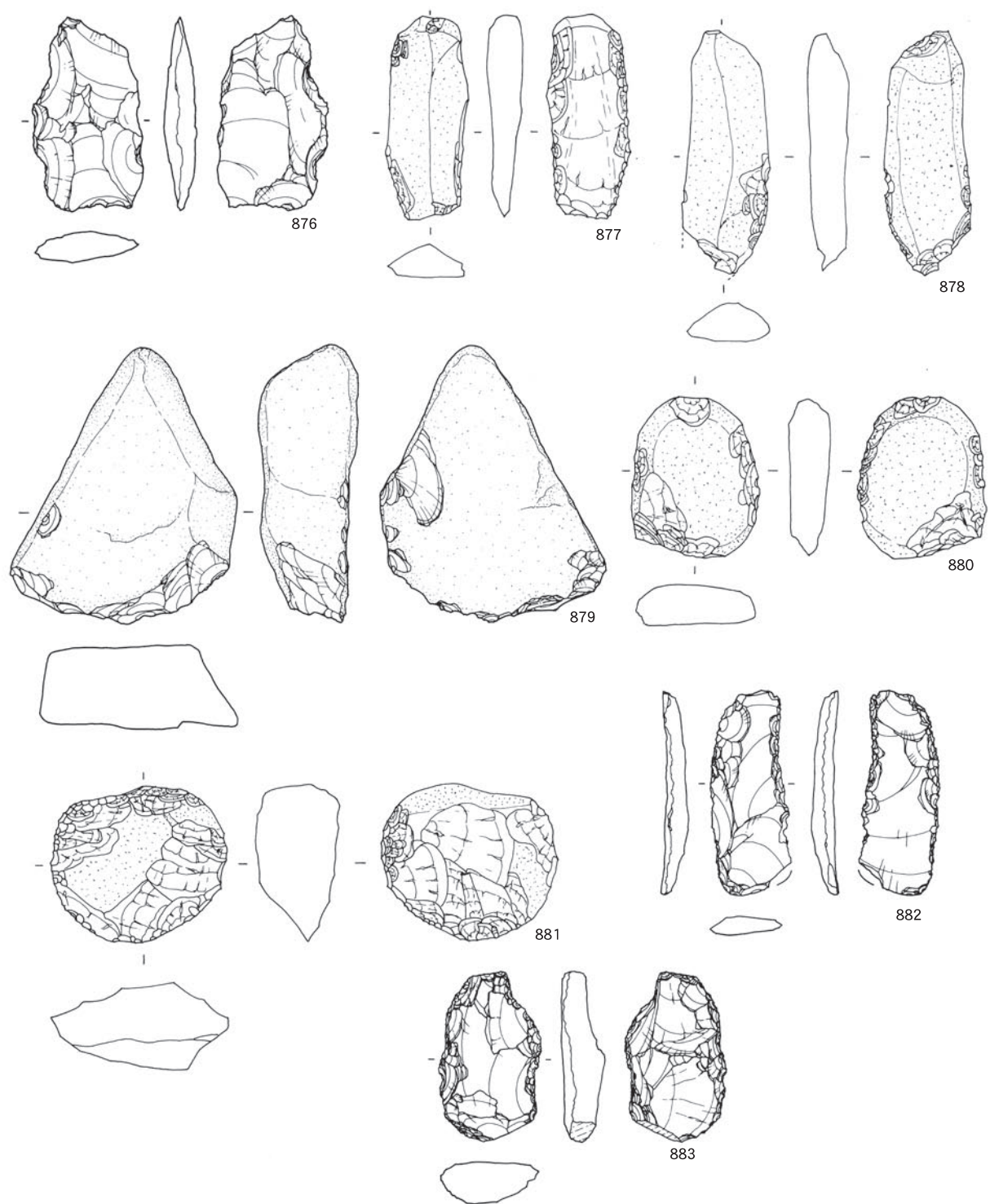
第79図 縄文時代晩期石器（8）



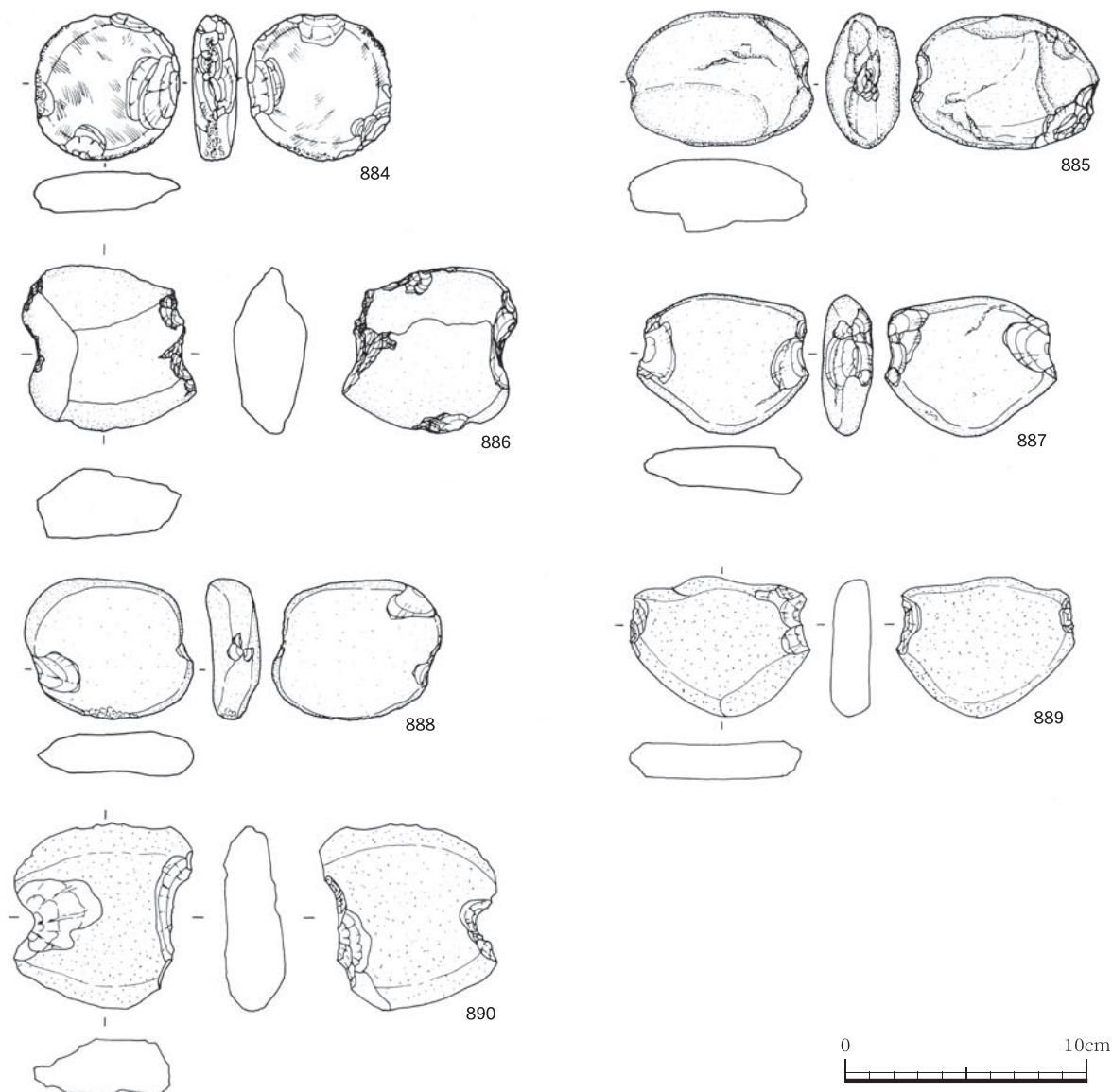
第80図 縄文時代晩期石器（9）



第81図 縄文時代晩期石器 (10)

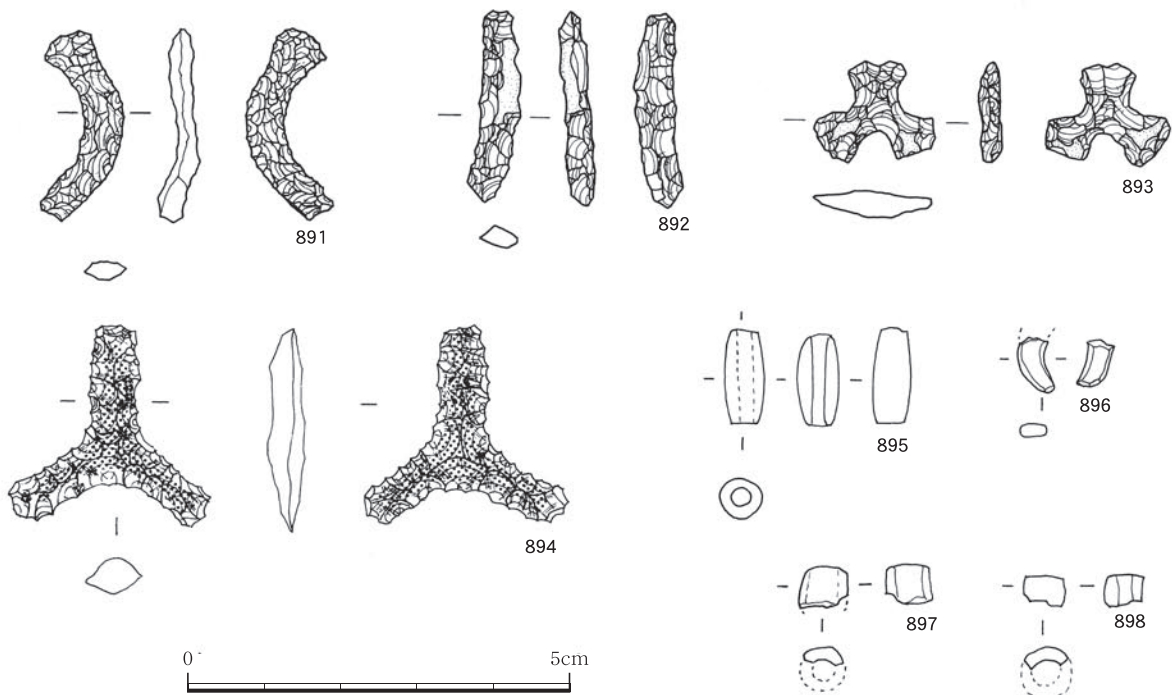


第82図 縄文時代晩期石器 (11)



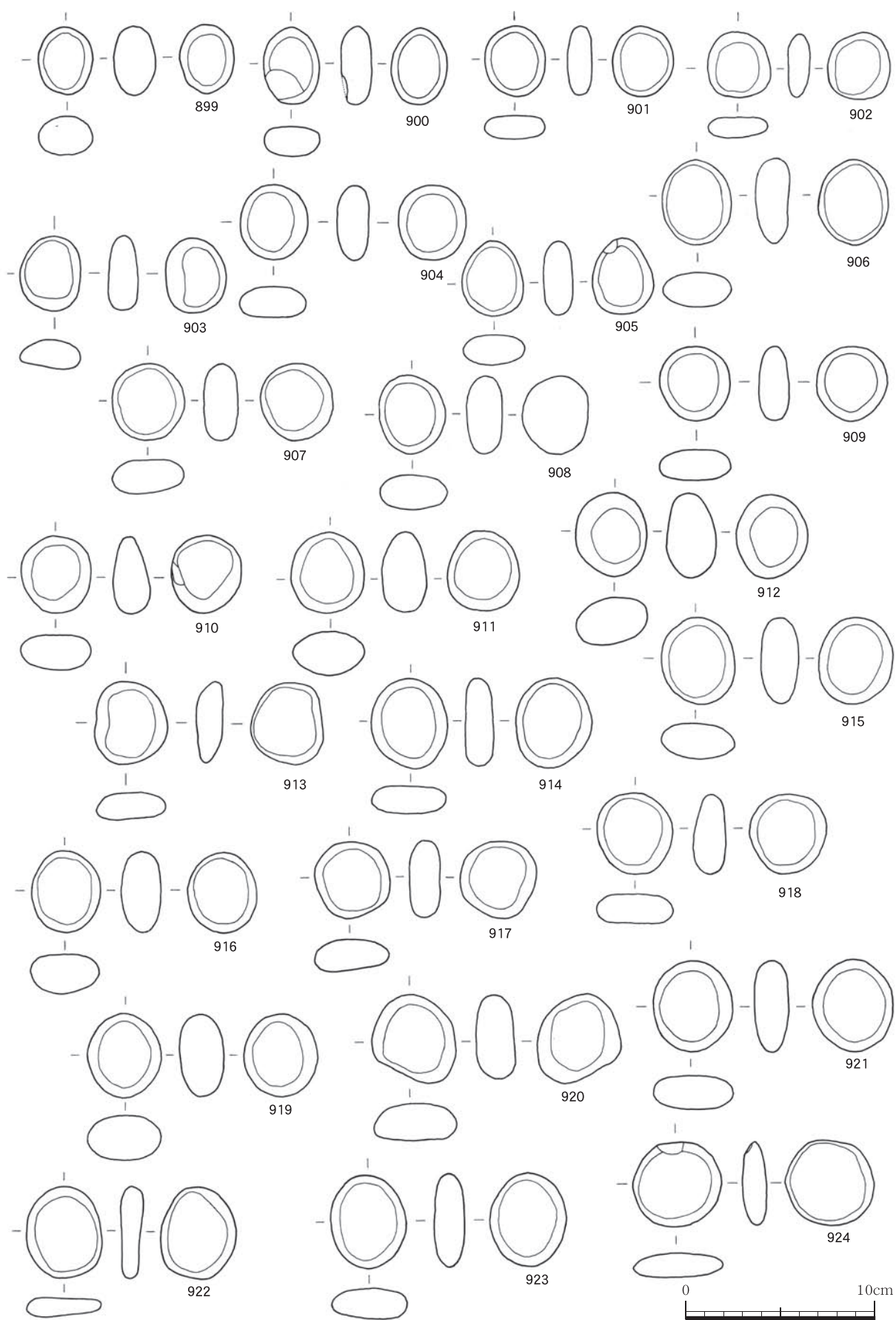
第83図 縄文時代晩期石器（12）

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考
						cm	cm	cm	g	
第 85 図	916	磨石	M-3	Ⅲ	砂岩	4.4	3.7	2.1	46.61	
	917	磨石	M-2	—	安山岩	4.2	4.2	1.7	43.2	
	918	磨石	M-2	—	安山岩	4.4	4.1	1.7	44.17	
	919	磨石	L-10	Ⅲ	安山岩	4.5	3.9	2.4	60.18	
	920	磨石	L-10	Ⅲ	砂岩	4.4	4.5	2.1	58.97	
	921	磨石	H-4	Ⅲ	砂岩	4.9	4.3	1.8	58.21	
	922	磨石	M-2	Ⅲ	砂岩	5.0	4.0	1.1	32.37	
	923	磨石	M-2	Ⅲ	砂岩	5.0	4.1	1.6	48.82	
	924	磨石	M-2	Ⅱ	安山岩	4.5	4.7	1.3	41.97	
第 86 図	925	磨石	L-9	Ⅲ	砂岩	5.0	4.5	2.8	89.72	
	926	磨石	—	—	安山岩	4.6	3.8	1.6	39.76	
	927	磨石	M-2	I	砂岩	4.9	4.4	1.4	45.87	
	928	磨石	L-10	Ⅲ	安山岩	5.1	4.7	1.7	64.77	
	929	磨石	I-6	Ⅲ	砂岩	5.6	4.2	2.5	81.38	
	930	磨石	M-6	Ⅲ	砂岩	4.8	3.9	1.6	45.06	
	931	磨石	M-2	—	安山岩	5.4	4.8	2.7	107.47	
	932	磨石	L-10	Ⅲ	砂岩	5.4	5.0	1.8	75.97	
	933	磨石	L-9	Ⅲ	安山岩	5.3	5.0	2.7	106.64	
	934	磨石	L-10	Ⅲ	砂岩	5.8	5.0	1.8	83.25	
	935	磨石	L-9	Ⅲ	砂岩	5.8	5.2	2.3	96.84	

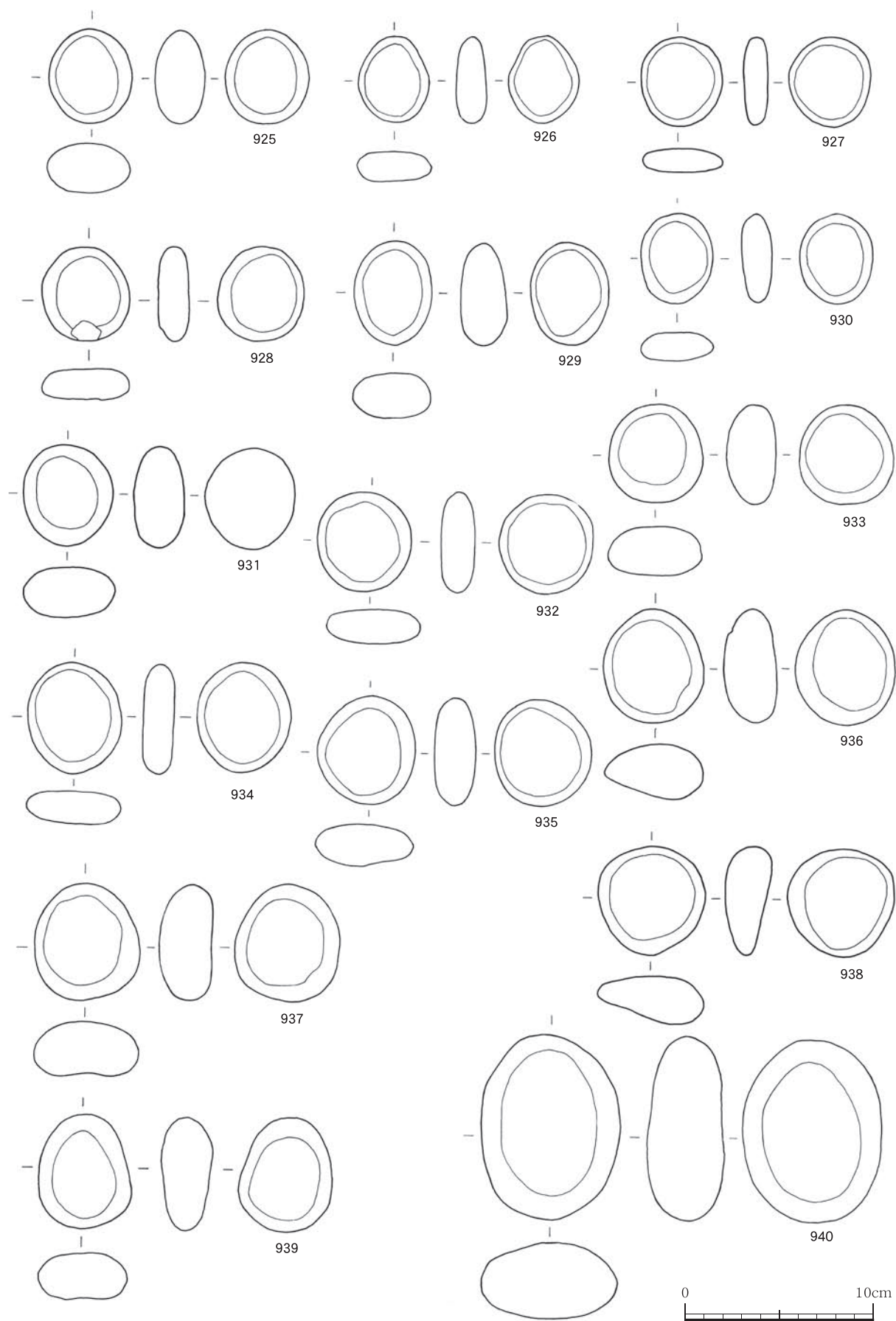


第84図 縄文時代晩期石器 (13)

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第86図	936	磨石	L-2	Ⅲ	砂岩	6.10	5.30	2.80	121.54	
	937	磨石	L-7	Ⅲ	砂岩	6.20	5.70	2.80	144.37	
	938	磨石	H-8	Ⅲ	砂岩	5.40	5.80	2.40	105.69	
	939	磨石	M-2	Ⅲ	安山岩	6.00	4.70	2.50	110.00	
	940	磨石	L-9	Ⅲ	砂岩	10.00	7.20	4.00	425.00	
第87図	941	磨石	—	—	砂岩	9.40	6.70	6.00	530.00	
	942	磨石	H-7	Ⅲ	砂岩	7.70	6.20	5.30	490.00	
	943	磨石	L-9	Ⅲ	安山岩	10.30	7.90	6.70	790.00	
第88図	944	磨石(タタキ)	M-6	Ⅲ	砂岩	4.40	3.80	2.10	50.71	
	945	磨石(タタキ)	L-10	Ⅲ	砂岩	4.80	4.50	2.20	67.88	
	946	磨石(タタキ)	L-9	Ⅲ	安山岩	4.90	4.10	2.40	73.97	
	947	磨石(タタキ)	M-3	Ⅲ	砂岩	5.20	4.20	2.50	80.76	
	948	磨石(タタキ)	M-2	Ⅲ	砂岩	5.40	4.70	2.20	82.16	
	949	磨石(タタキ)	H-8	Ⅲ	砂岩	5.30	4.30	2.70	80.51	
	950	磨石(タタキ)	L-9	Ⅲ	砂岩	5.20	4.30	2.30	75.16	
	951	磨石(タタキ)	M-2	Ⅲ	安山岩	4.80	4.30	1.80	56.37	
	952	磨石(タタキ)	—	I	安山岩	5.00	4.80	2.60	86.76	
	953	磨石(タタキ)	G-8	Ⅲ	砂岩	5.00	4.90	2.40	80.96	
	954	磨石(タタキ)	M-2	Ⅲ	砂岩	5.00	5.00	1.65	54.29	
	955	磨石(タタキ)	M-2	Ⅲ	砂岩	5.20	4.90	3.10	113.86	
	956	磨石(タタキ)	—	I	砂岩	5.50	5.00	2.50	89.71	
	957	磨石(タタキ)	L-10	Ⅲ	砂岩	5.80	5.40	2.40	109.72	
	958	磨石(タタキ)	L-10	Ⅲ	安山岩	5.80	5.50	2.20	116.03	
第89図	959	磨石(タタキ)	L-9	Ⅲ	砂岩	5.60	5.10	2.70	98.36	
	960	磨石(タタキ)	M-2	Ⅲ	砂岩	6.20	5.80	3.60	160.00	
	961	磨石(タタキ)	I-7	Ⅲ	安山岩	7.20	7.70	3.70	315.00	
	962	磨石(タタキ)	I-6	Ⅲ	砂岩	6.15	5.00	3.90	172.83	
	963	磨石(タタキ)	H-4	Ⅲ	安山岩	11.00	9.70	5.20	835.00	
	964	磨石・凹石	L-2	Ⅲ	安山岩	10.45	9.65	8.45	1210.00	
第90図	965	磨石(タタキ)	L-7	Ⅲ	安山岩	11.50	8.90	4.60	750.00	
	966	磨石(タタキ)	L-2	Ⅲ	安山岩	13.70	11.85	4.60	980.00	
	967	磨石(タタキ)	L-10	Ⅲ	安山岩	12.50	10.30	2.90	480.00	
第91図	968	磨石(タタキ)	1号住居跡	—	安山岩	14.50	4.80	4.80	930.00	
	969	磨石(タタキ)	K-3	I	安山岩	7.00	10.80	5.70	640.00	
	970	磨石(タタキ)	H-4	Ⅲ	安山岩	12.00	10.00	4.10	540.00	
	971	磨石(タタキ)	I-8	Ⅲ	砂岩	6.50	11.50	5.80	580.00	
	972	棒状磨石	L-2	Ⅲ	砂岩	8.00	3.40	2.00	59.34	
	973	磨石・凹石	L-10	Ⅲ	砂岩	11.50	9.00	4.80	750.00	
第92図	974	砥石	M-3	Ⅲ	砂岩	9.30	5.60	4.70	440.00	
	975	攻玉砥石	M-2	Ⅲ	砂岩	10.40	10.60	8.50	1300.00	
	976	砥石	L-9	Ⅲ	砂岩	10.20	6.80	2.50	221.74	
	977	砥石	M-2	Ⅲ	砂岩	7.20	6.60	2.90	205.26	
第93図	978	石皿	I-3	Ⅲ	砂岩	19.20	23.40	7.70	6800.00	
	979	石皿	—	—	砂岩	14.00	18.30	10.00	3400.00	



第85図 縄文時代晩期石器 (14)



第86図 縄文時代晩期石器 (15)

857・858はていねいな研磨が施されており、その形状から、石のみの可能性もある。859は両側面及び上端をていねいに研磨して短冊型に仕上げている。刃部は、使用による刃こぼれと思われる剥離がみられる。860は、側縁部を中心に剥離調整により整形が行われた後、刃部を中心に縦位の研磨が施されている。

861～863は、刃部のみの破片であり、3点とも刃部には入念な研磨が施されている。866・867は、基部のみの破片で、866は敲打と研磨による整形、867は剥離調整と研磨による整形である。

878は、刃部近くにわずかな研磨が見られることから、自然礫を利用した刃部欠損石斧と思われるものである。

864・865、868～877は、打製石斧である。864、874、877は安山岩、865、870、872は頁岩、868・869、871、873、875・876は粘板岩を素材とするものである。

864、874は、基部のみの破片である。864はてい

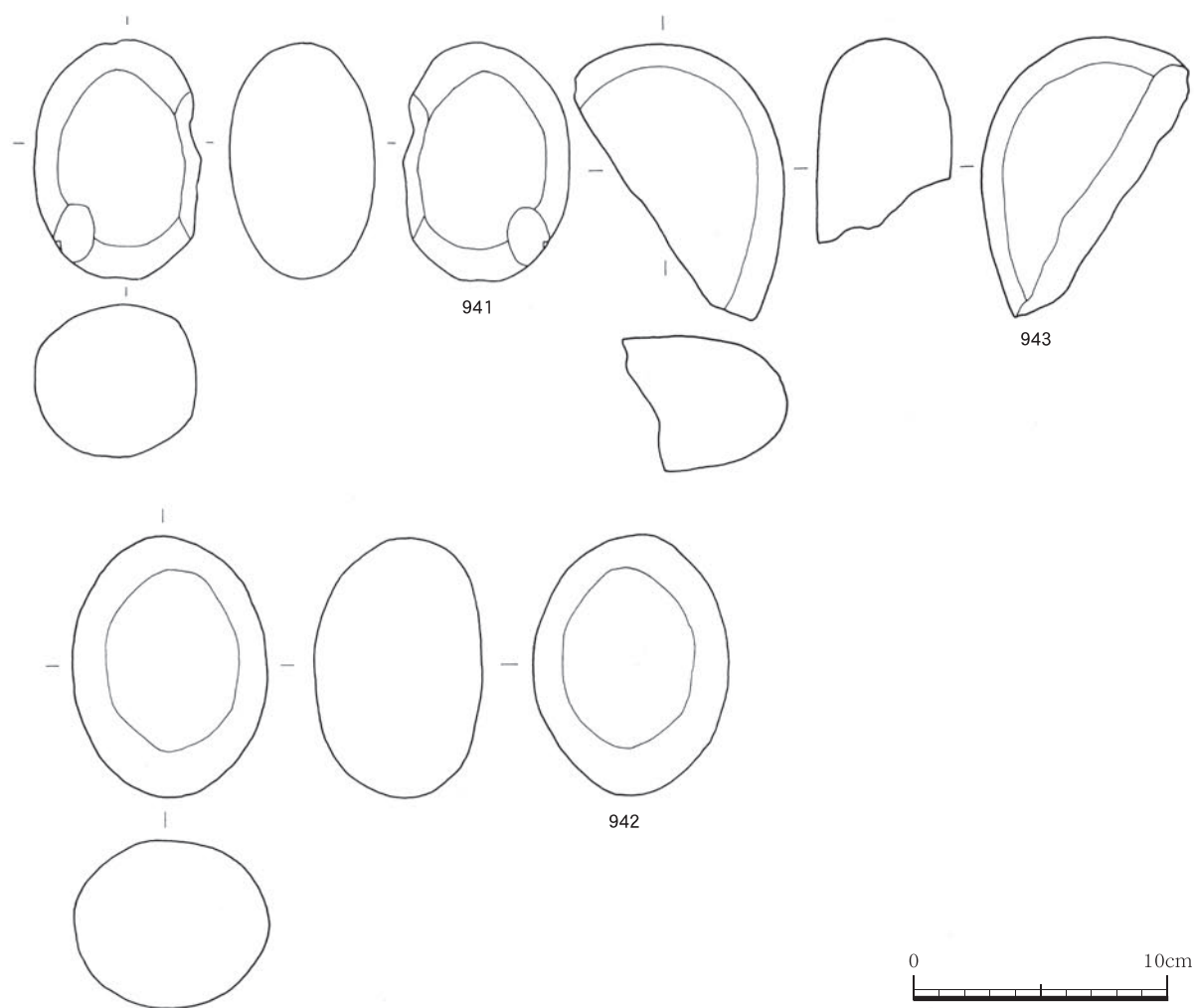
ねいな敲打による整形であるが、部分的に研磨の可能性もあるものである。874は側縁部を中心にていねいな剥離調整を行っている。表面には、自然面が残され、裏面は石の節理面より剥落している。

865、872は基部のみの破片で、ともに剥離調整により整形を行っている。870は、全面をていねいな剥離調整によって小判状に整形している。裏面中央部には、素材剥片の剥離が残される。

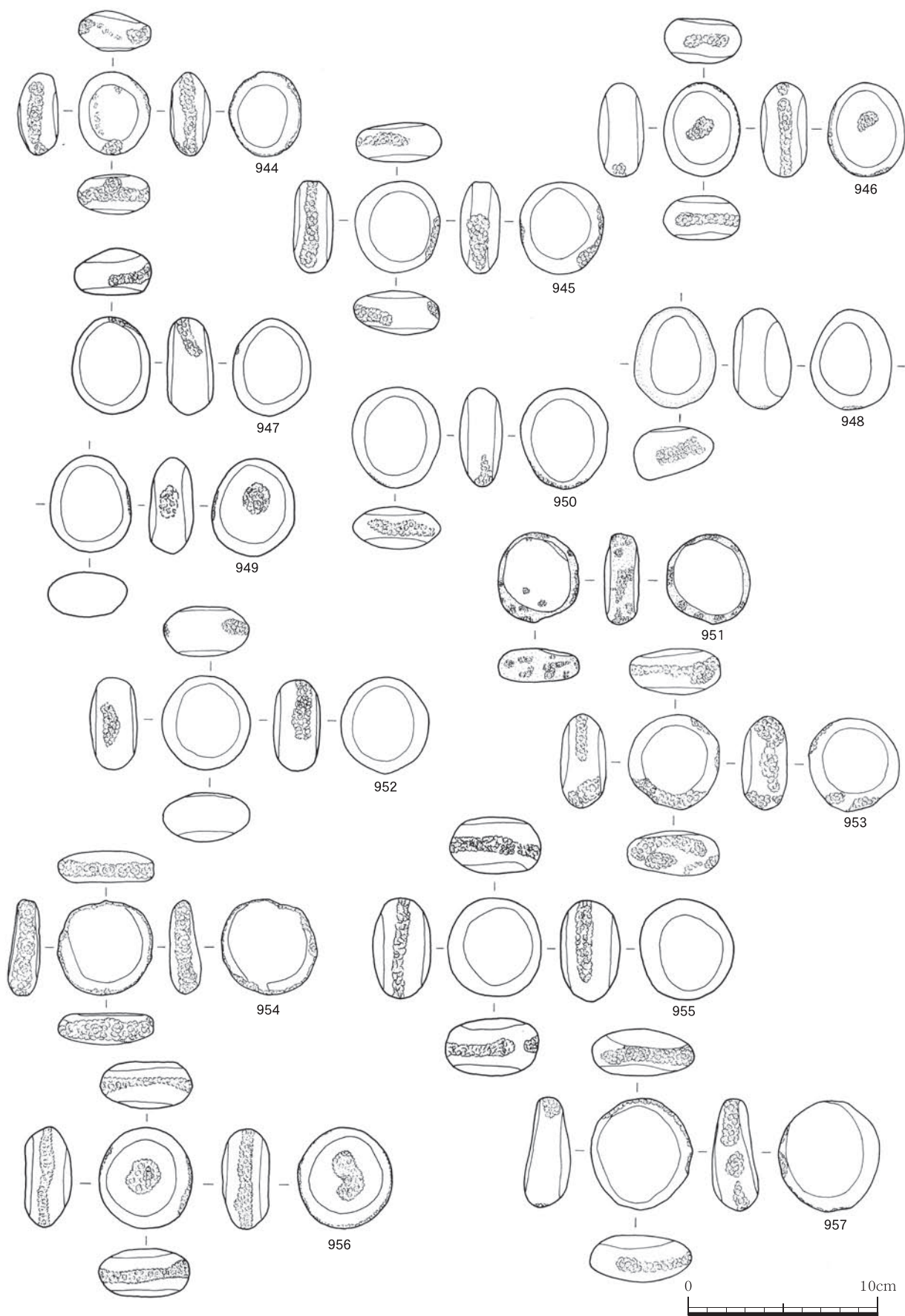
868・869、871、873、875・876は、扁平な粘板岩を素材としたもので、その形状はほとんどが短冊形である。868は、刃部を中心にていねいな縦位の研磨が行なわれている。また、869、875は、使用によると思われる磨耗が見られる。

礫器（第82図）

879・880・881は礫器である。879は、自然面を多く残し、粗い剥離により刃部を作り出している。880は、扁平な礫を、881はやや分厚い円礫を用いている。



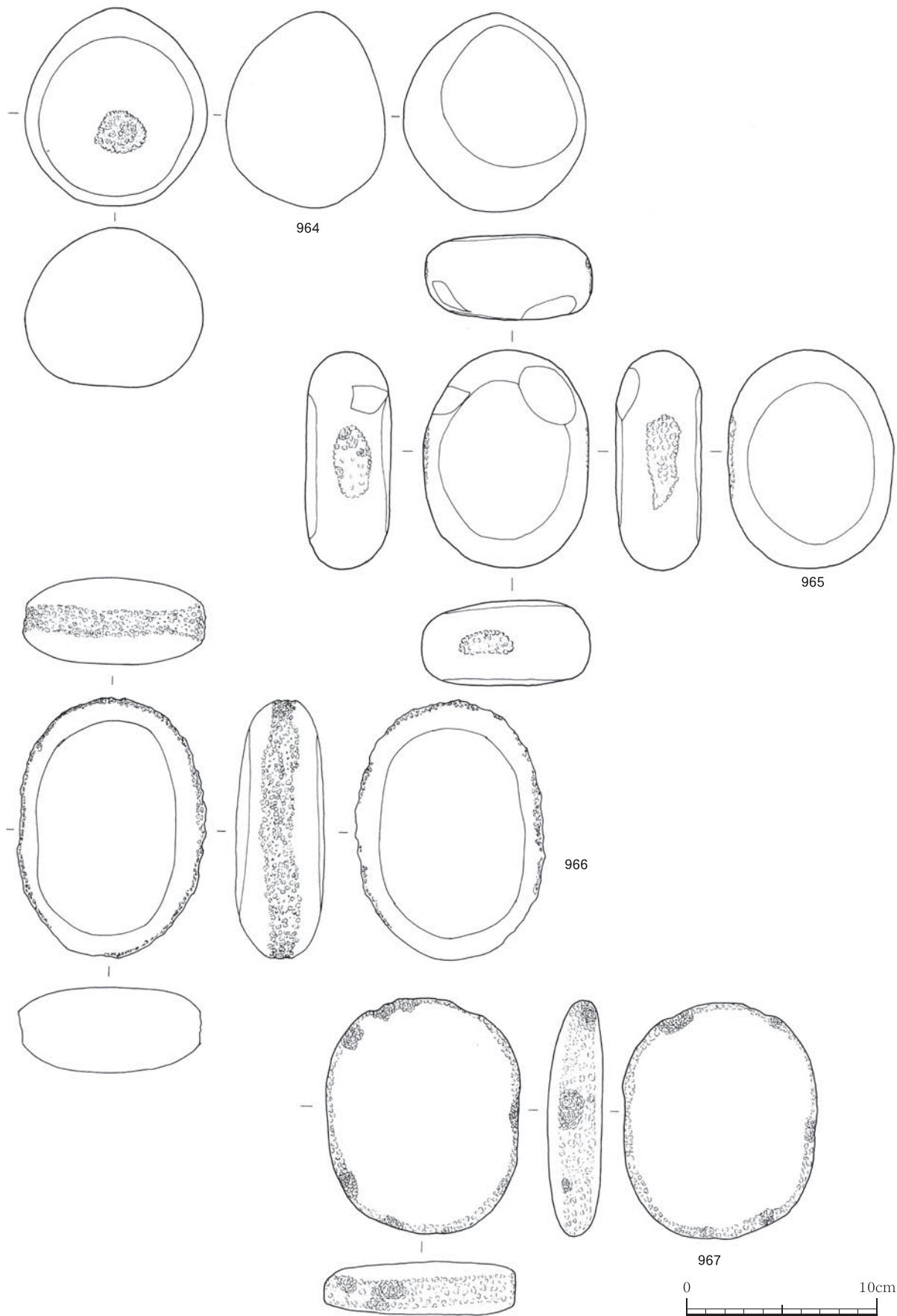
第87図 縄文時代晩期石器（16）



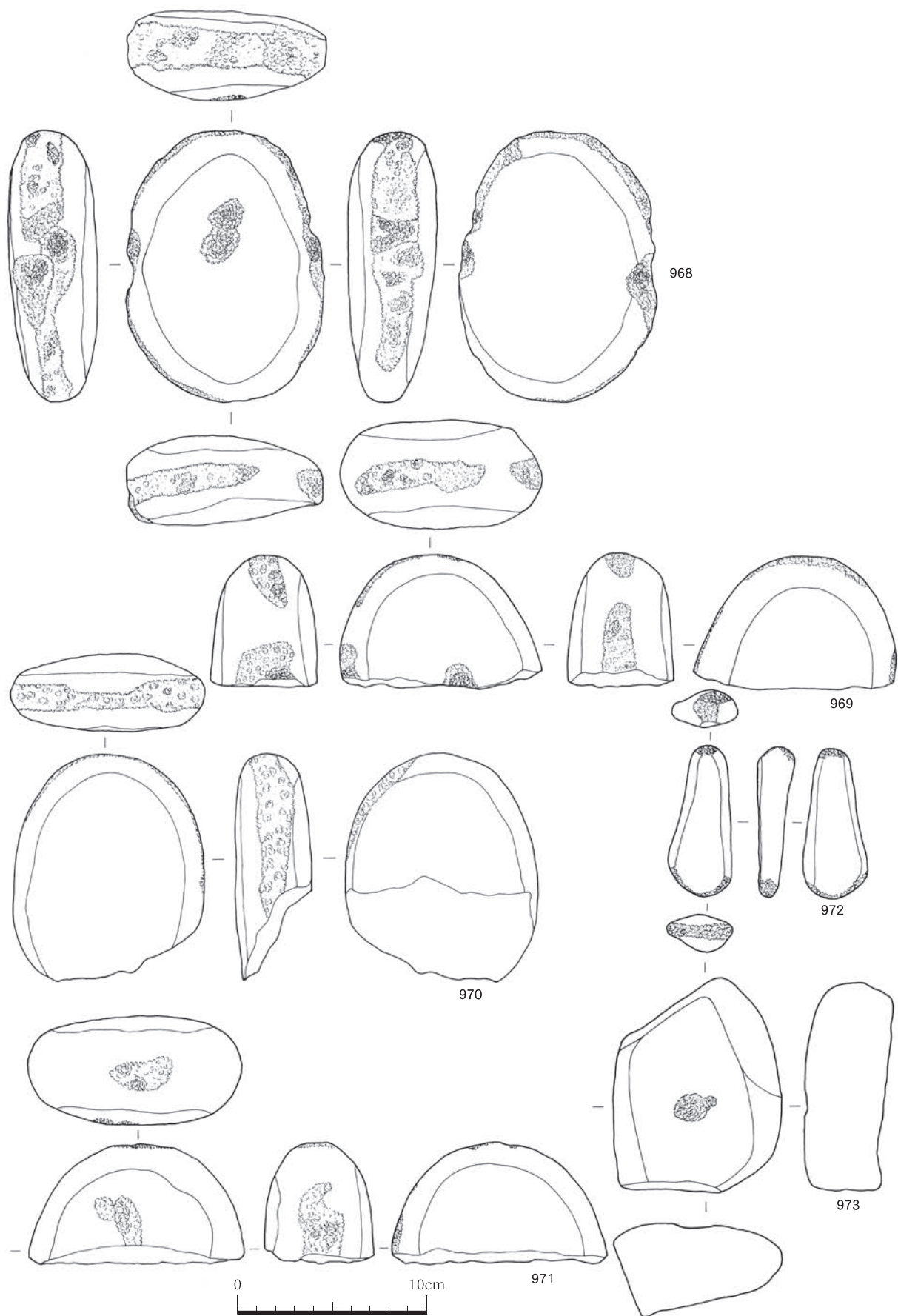
第88図 縄文時代晩期石器 (17)



第89図 縄文時代晩期石器（18）



第90図 縄文時代晩期石器 (19)



第91図 縄文時代晩期石器 (20)

石錘（第83図）

884～890は石錘で、石質は安山岩・凝灰岩・頁岩・砂岩などである。885～890は、扁平な方形や楕円形の自然礫を利用し、両側縁両面からの粗い剥離による二ヶ所の抉りを作り出している。884には、数ヶ所の浅い抉りが施されている。

異形石器・垂飾品（第84図）

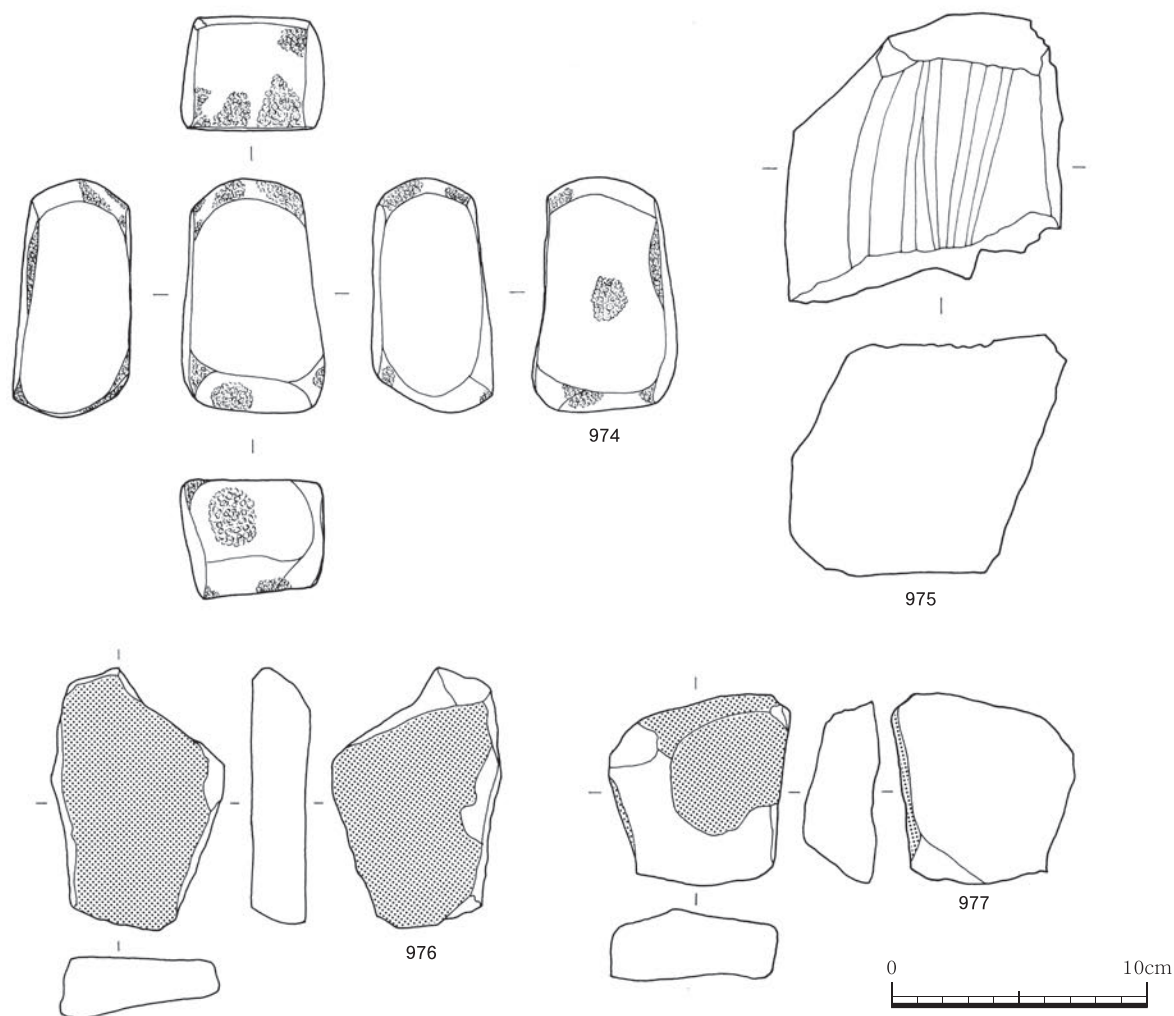
891, 893・894・895はⅠ層であるが、縄文時代晩期のものと考えられる。896～898はⅢ層, 892は土坑13の埋土よりの出土である。

891～894は黒曜石製の異形石器である。891は弧状に湾曲し、全面にていねいな剥離が施されたもので、上部は摘み状にやや膨らみ、断面の形状は菱形に近く、下端は欠損している。

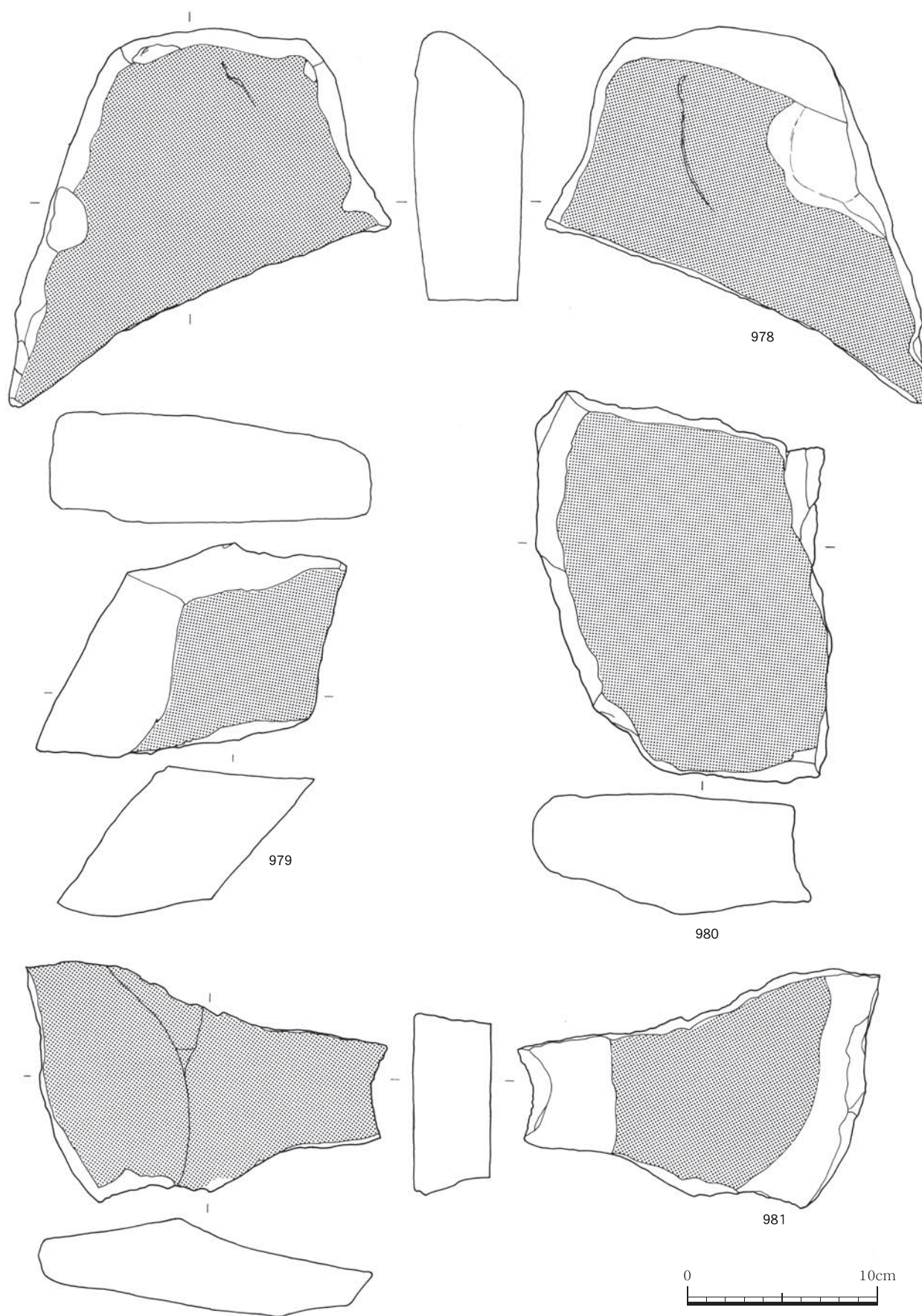
892は891に比べると直線的である。893・894はY字状を呈するもので、893は石鏃の基部の抉り状の凹みを有する。894は、両面ともに磨耗が著しい。

895は管玉, 897・898は小玉で、外面はていねいな研磨が施されている。896は、勾玉の下端部と考えられる。

挿図番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第93図	980	石皿	L-9	Ⅲ	安山岩	25.50	19.80	8.60	6600.00	
	981	石皿	L-9	Ⅲ	安山岩	16.80	23.90	6.10	3000.00	
第94図	982	石皿	G-8	Ⅲ	砂岩	11.60	6.10	5.90	795.00	
	983	石皿	M-2	Ⅲ	砂岩	16.50	8.30	7.40	1585.00	
	984	石皿	N-4	Ⅲ	砂岩	8.40	9.40	5.60	555.00	
	985	石皿	L-6	Ⅲ	砂岩	12.90	14.00	6.20	2000.00	
第95図	986	軽石製品	—	Ⅰ	軽石	11.20	7.60	4.85	102.83	
	987	軽石製品	J-3	Ⅲ	軽石	4.00	3.80	1.60	7.57	
	988	軽石製品	土坑12	—	軽石	9.10	5.60	3.30	35.08	



第92図 縄文時代晩期石器（21）



第93図 縄文時代晩期石器 (22)

これらの垂飾品は、いずれも緑色の石であり、結晶片岩様緑色石と言われ、その原産地は、熊本～鹿児島島の西海岸地域に求められるのではないかとされている。

磨石・敲石・凹石（第85図～第91図）

円礫を用いた磨石のみの機能を持ったものと磨石と敲石の機能を合わせ持ったもの及び自然礫の一部が凹んだ凹石、棒状の敲石等が見られる。石質は砂岩と安山岩であるが、圧倒的に磨石のみの機能の場合は砂岩が多い傾向にある。

899～943は円礫を素材とし、磨石だけの機能を持つものである。944～971は磨石・敲石の機能、あるいは、磨石・敲石・凹石の3つの機能を合わせ持つものである(968は、1号住居の埋土からの出土であるが、出土状況から晩期と思われる)。特に954・955・956、966は、側面全面に敲打の痕跡が認められる。

972は、棒状の自然礫を上端と下端に敲打の痕跡が、側面には磨耗が認められる。973は、不定形の自然礫を利用したもので、中央部分に凹みが認められる。

砥石（第92図）

974～977は砥石である。

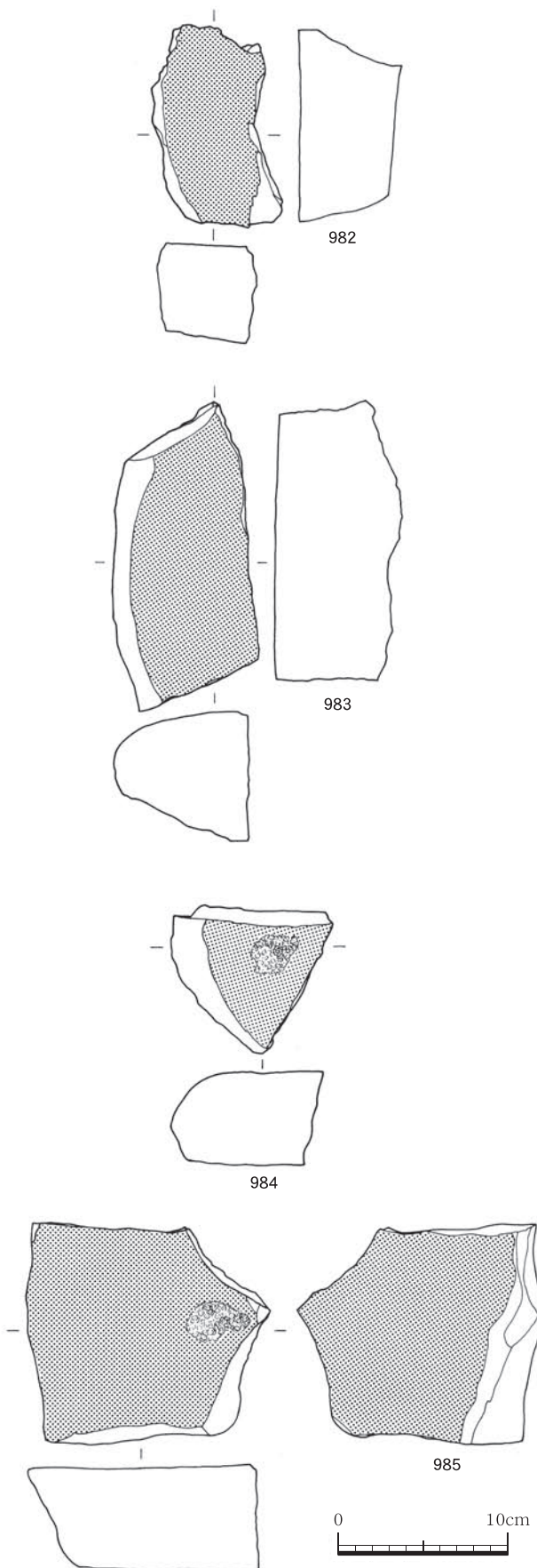
974は研磨作業により、数々の面が形成されている。また、周辺には、敲打・中央部には凹みが認められる。975は、砂岩の攻玉砥石であり、使用による5条の溝が認められる。976は両面に977は側面及び表面に研磨作業による磨耗が認められる。

石皿（第93図・第94図）

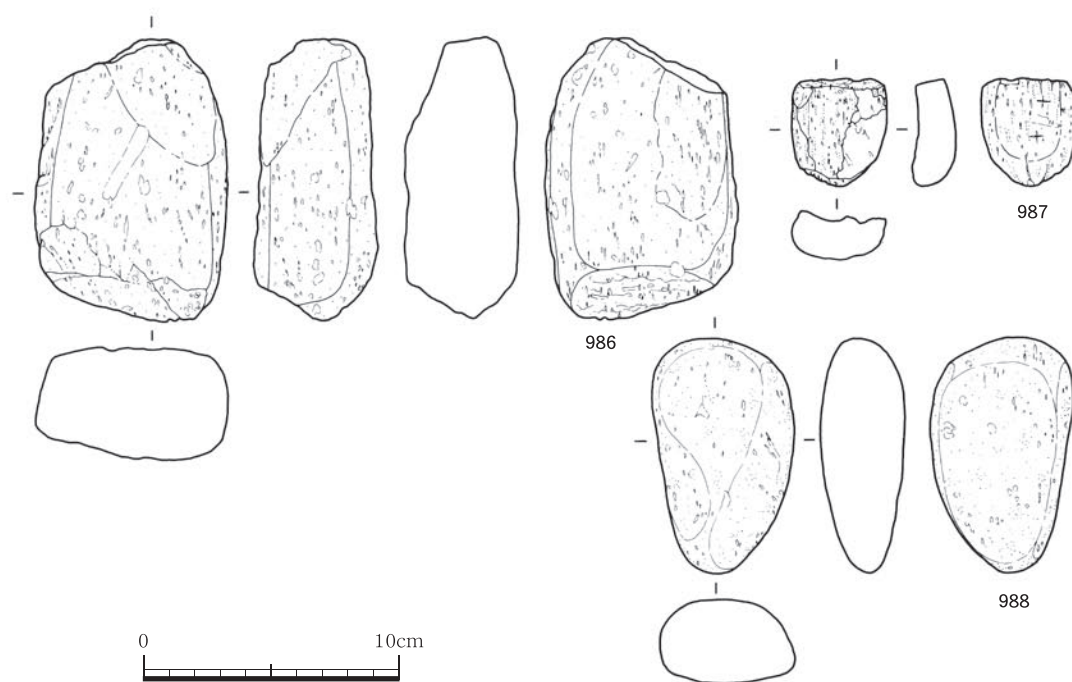
978～985は石皿で、そのほとんどの材質が砂岩製である。982・983以外は、全て表裏面とも作業面として用いられている。また、984・985の表面には、敲打によると思われる凹みが認められる。

軽石製品（第95図）

986～988は、軽石製品である。988は、土坑12からの出土である。987は、残存長4.0cm、幅3.8cmであり、船底状に加工され、厚さは1.6cmである。986、988は、軽く磨られているものの、大きな加工の痕跡は見られない。



第94図 縄文時代晩期石器（23）



第95図 縄文時代晩期石器 (24)

第6節 弥生時代の調査

弥生時代の遺物包含層は、削平されているため遺物はほとんど出土しなかった。しかしながら、Ⅲ層上面において竪穴住居跡が3軒検出された。

1 遺構（第96図～第106図）

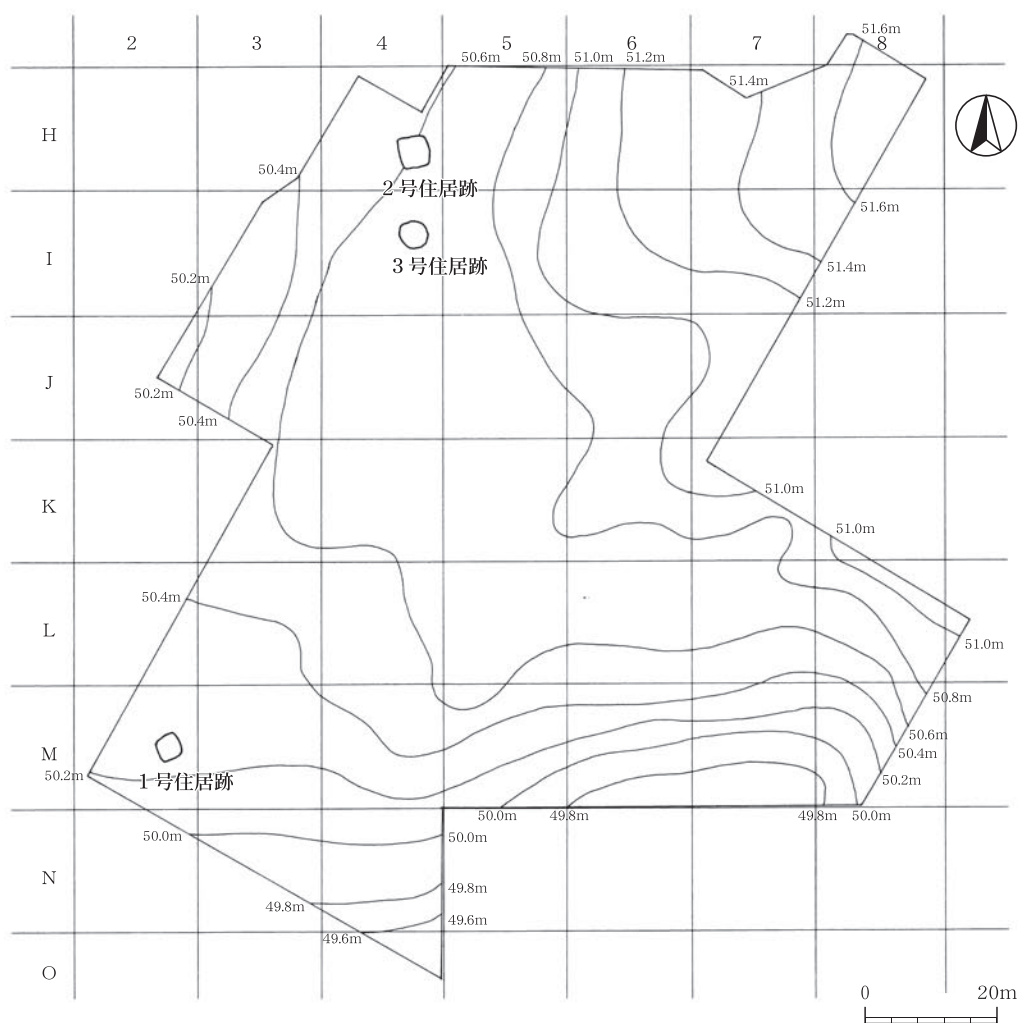
遺構は、H-4区、I-4区、M-2区において竪穴住居跡が3軒検出された。

(1) 1号竪穴住居跡（第97図～第102図）

M-2区Ⅲ層上面において検出されたもので、4×3.8mの略方形プランである。長軸の向きは西～南東で、南東壁に径1mの掘り込み、北東壁には0.7×0.9mの掘り込みを有する。検出面からの深さは約30cmである。住居内からは完形土器を含む多量の

土器片が出土し、ほぼ床面直上のものも多い。

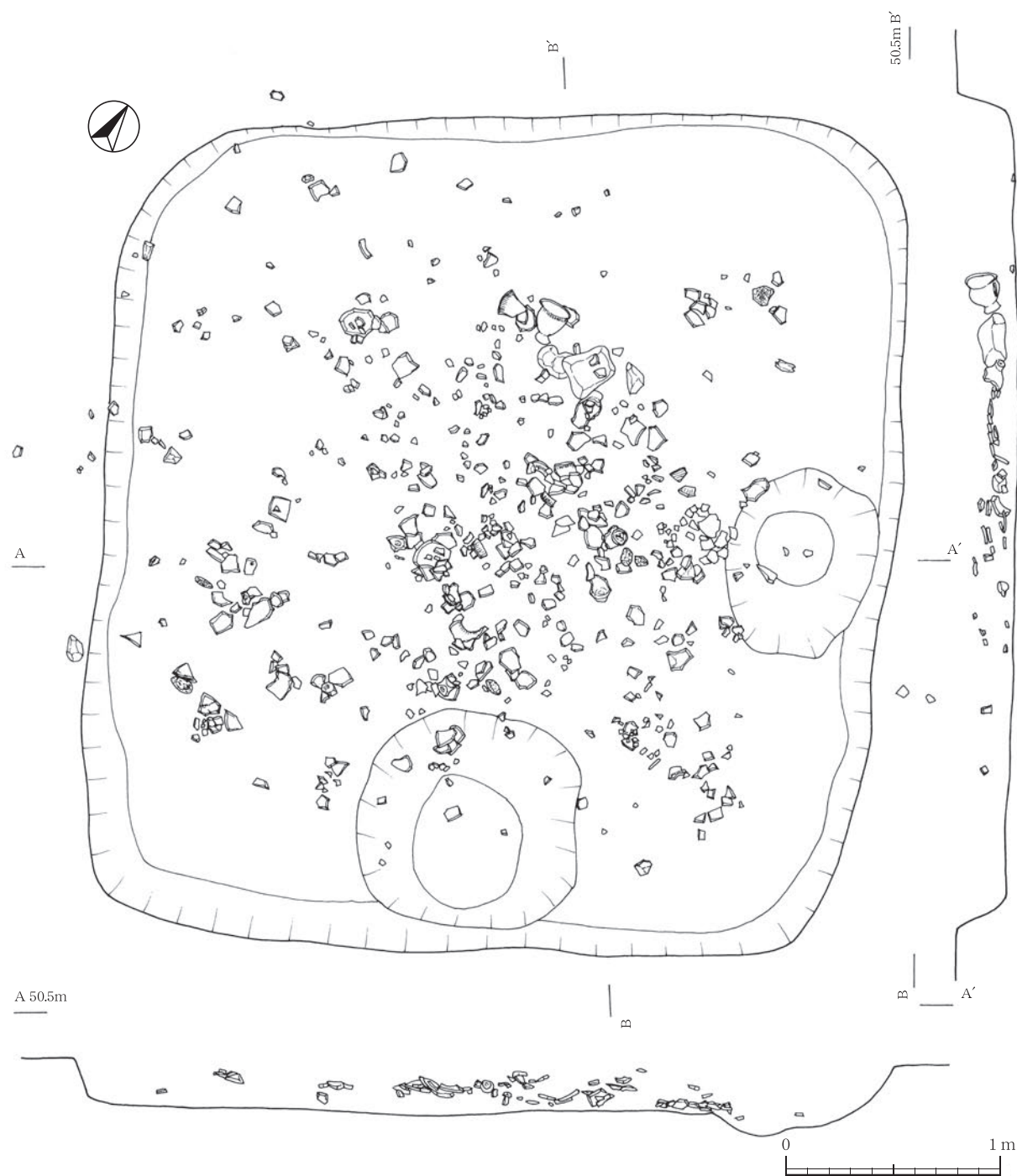
また、住居内及び周辺において柱穴と思われるものは検出されなかった。遺物の中には磨製石包丁、石皿等の石器も見られる。特筆されるものとして、龍「ドラゴン」を描いたと思われる線刻のある壺形土器が出土している。989は肩部に5条の三角形貼付突帯を廻らす壺形土器の肩部から胴部の破片である。突帯はシャープではない。突帯上位から肩部にかけて鋭いヘラ状工具による線刻画が認められるものである。線刻画は欠損部分があるため全体の把握は困難であるが、龍「ドラゴン」を表わしたものと思われる。990～1000は甕形土器である。990は口縁部径13.2cm、器高16.2cmを測る。底部はやや浅い上げ底の脚台で、胴部は張るものである。口縁部は



第96図 弥生時代竪穴住居跡配置図

わずかに外反し内面に稜線は有しない。991～1000は、口縁部が「くの字状」に外反するもので、内面の稜線が明瞭なものとややにぶいものがある。991～993は浅い脚台の底部で胴部がやや張るものであるが、992は頸部のしまりが強く内面の稜線も明瞭である。994～1000は口縁部から胴部の破片である。器外面調整はハケ目だけのもの（992, 994～996,

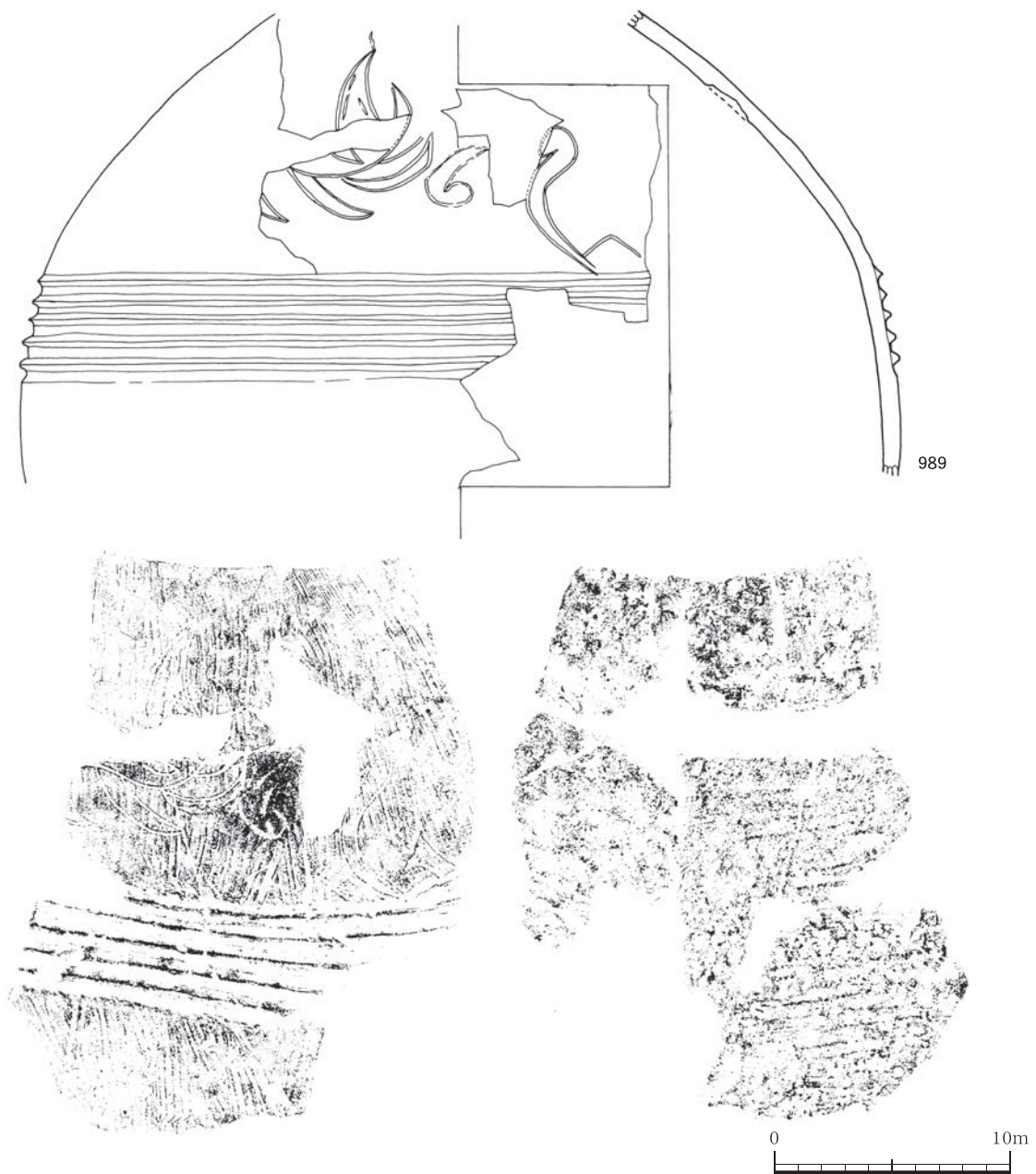
998～1000）と上位はハケ目で下位はヘラケズリのもの（991, 993, 997）がある。1001～1006は壺形土器である。1001は口縁部径 13.1cm, 器高19.6cmを測る。平底から胴部は球形状に膨らみ、口縁部は短く外反するものである。1002は口縁部径11.5cm, 器高22.2cmを測る。口縁部は頸部から直行気味に立ち上がり端部近くで外反するものである。1003は口縁



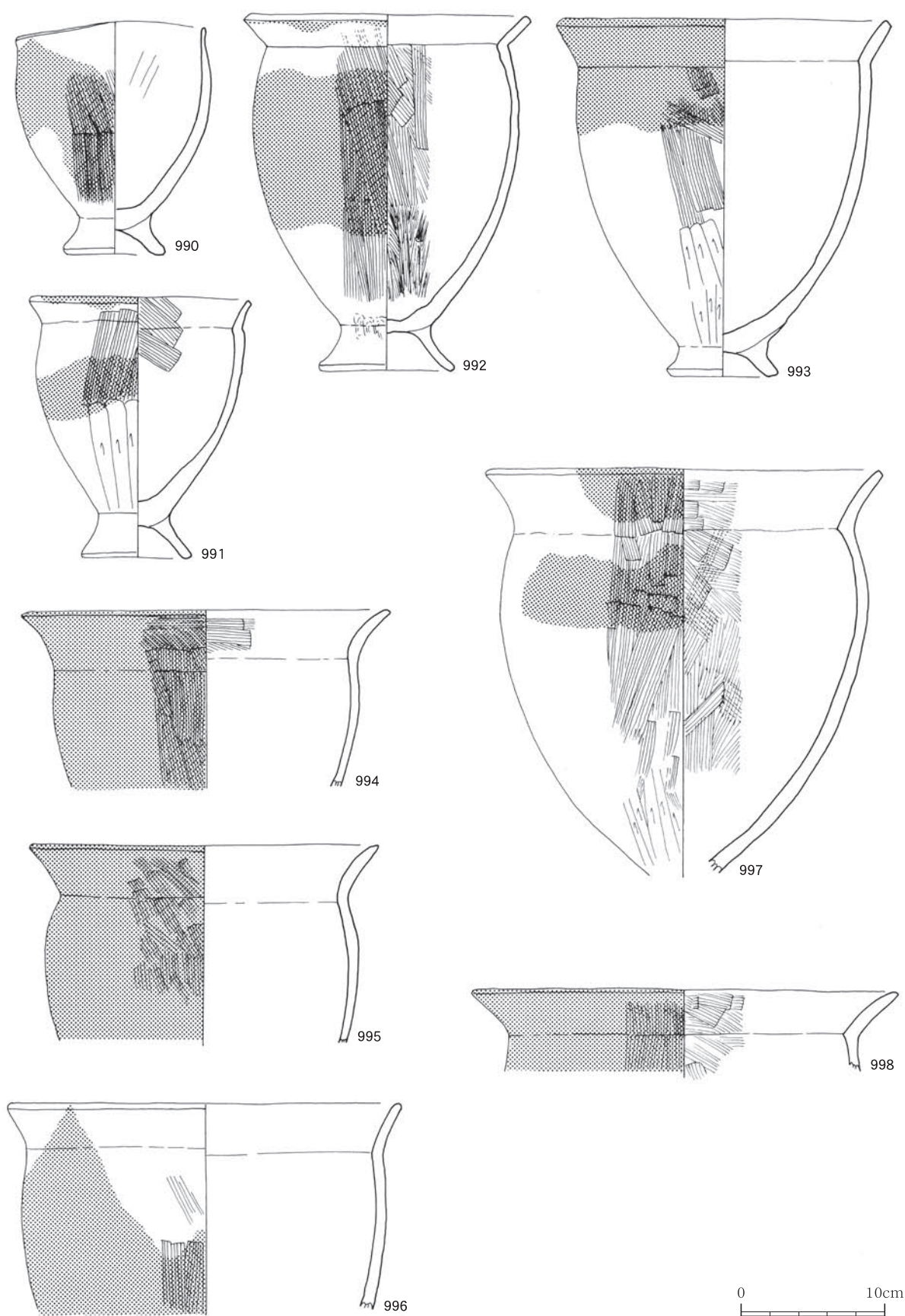
第97図 1号竖穴住居跡

部径18.3cm, 器高27cmを測る。器形がいびつになっているもので、胴部は球形状に膨らむ。1004～1006は胴部に刻目突帯を廻らすものである。1004は口縁部径13.4cm, 器高25.4cmを測る。1005は口縁部径17cm, 器高28.5cmを測る。やや胴長の器形で口縁部は大きく外反する。胴部はやや丸みを帯び口縁部は緩やかに外反する。1006は口縁部径15.8cm, 器高32.8cmを測る。長胴の器形で胴部最大径の部位よりやや上位に刻目突帯を廻らす。1008は刻目突帯を有しない胴

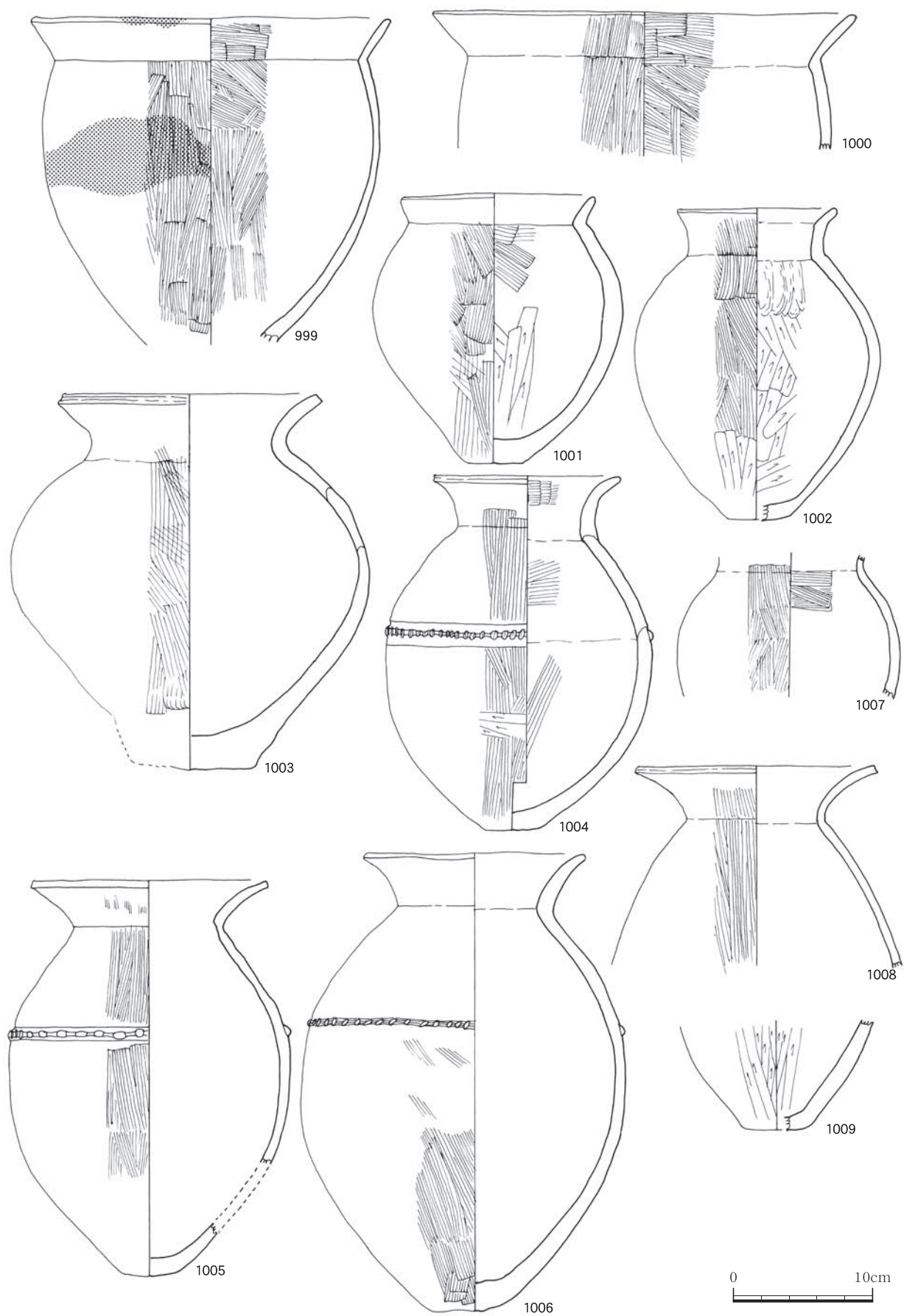
部。1009は底部である。外面の器面調整はハケ目であるが、1002, 1009は底部から胴部下半にかけてヘラズリが見られる。1001・1002の内面調整はヘラズリが認められる。1010は口縁部径24cm, 器高11cmを測る椀形土器である。胴部は丸みを帯び、口縁部はやや内湾する。1011は口縁部径11cm, 器高6.8cmを測る小型の鉢形土器。平底の底部から直線的に立ち上がり口縁部へ到るものである。1012は高坏の脚部である。1013・1014は充実器台状の底部である



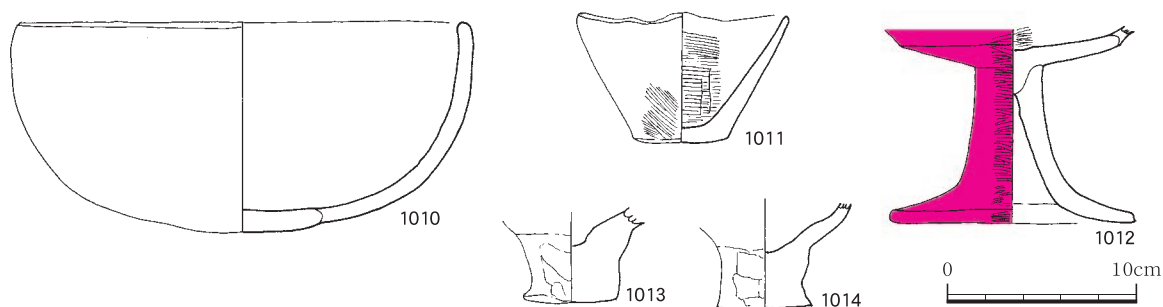
第98図 1号竪穴住居跡出土遺物（1）



第99図 1号竖穴住居跡出土遺物(2)



第100図 1号竪穴住居跡出土遺物（3）



第101図 1号竪穴住居跡出土遺物（4）

住居跡内土器観察表

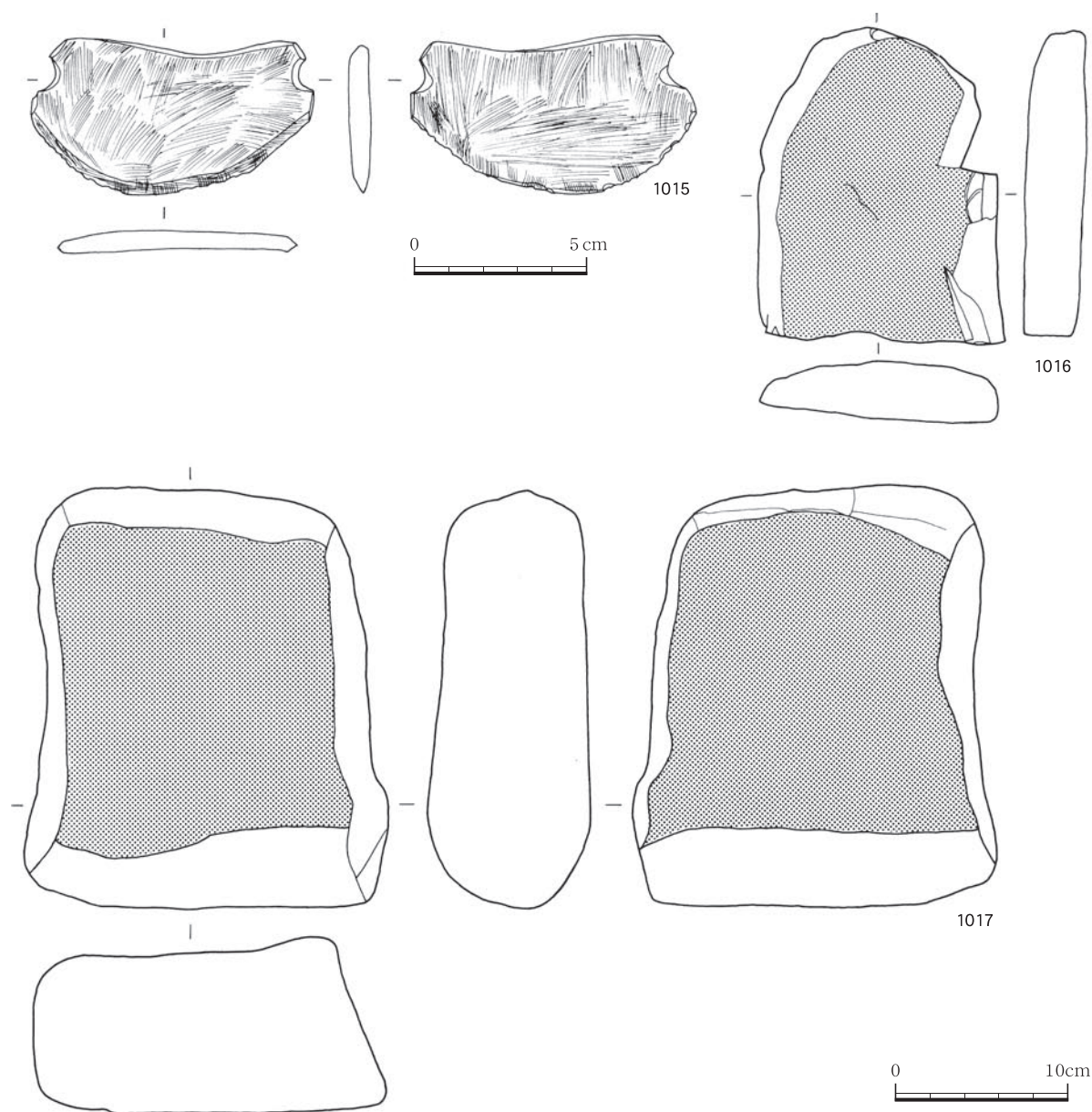
挿図 番号	番号	遺構	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
				内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第98図	989	1号住居跡	肩～胴部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	ハケ目	ハケ目	線刻土器
	990		完形	灰白	浅黄橙	○	○			良	ナデ	ハケ目	
	991		完形	明黄褐	浅黄橙	○	○			良	ハケ目・ヘラケズリ	ハケ目	黒斑(内)・スス(外)
	992		完形	明赤褐	赤褐	○	○			良	ハケ目・ナデ・指頭押圧	ハケ目・板ナデ・ナデ	スス(外)・剥落(内)
	993		完形	灰白	灰白	○	○			良	ハケ目・ヘラケズリ	ナデ	スス(内・外)
	994		口縁～胴部	浅黄橙	黄	○	○			良	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	スス(外全面)
	995		口縁～胴部	灰白	浅黄橙	○	○	○		良	ハケ目	ナデ	スス(外)
	996		口縁～胴部	浅黄橙	浅黄橙	○	○			良	ハケ目・ナデ	ナデ	スス(外)
	997		口縁～胴部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ目・ヘラケズリ	ハケ目	スス(内・外)
第99図	998		口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	ハケ目	ハケ目	スス(外)
	999	1号住居跡	完形	橙	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ目	ハケ目	スス(外)
	1000		口縁～胴部	明赤褐	橙	○	○			良	ハケ目	ハケ目	
	1001		完形	にぶい橙	灰黄褐	○	○			良	ハケ目	ハケ目・ヘラケズリ	
	1002		完形	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○		良	ハケ目・ヘラケズリ	ヘラケズリ・指頭押圧	
	1003		完形	橙	橙	○	○			良	ハケ目	ヘラケズリ・ナデ	スス(外)
	1004		完形	浅黄橙	浅黄橙	○	○			良	ハケ目・ヘラケズリ・キザミ目突帯	ハケ目・ナデ	
	1005		完形	にぶい橙	橙	○	○			良	キザミ目突帯・ハケ目・ヘラケズリ	ナデ	
	1006		完形	暗緑灰	浅黄	○	○	○		良	ハケ目・ナデ	ナデ	
	1007		頸部～胴部	浅黄橙	明赤褐	○	○			良	ハケ目	ハケ目・ナデ	スス(内・外)
第100図	1008		口縁～胴部	浅黄橙	橙	○	○			良	ハケ目	ナデ	剥落(内)
	1009		胴部～底部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	ケズリ後ミガキ	ヘラケズリ	黒斑(外)
	1010	101図	完形	にぶい橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	1011		完形	黒褐	褐	○	○			良	ハケ目・ナデ	ハケ目	
	1012		高杯脚部	赤	赤	○	○			良	ミガキ	ヘラミガキ	丹塗(外)
	1013		脚部	灰	にぶい黄橙	○	○			良	指頭押圧	ナデ	スス(外)
	1014		脚部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	ヘラケズリ	ナデ	黒斑(外)
第101図	1015	2号住居跡	完形	にぶい黄橙	橙	○	○			良	ハケ目・ヘラケズリ	ハケ目・ナデ	スス(外)
	1016		頸部	橙	橙	○	○			良	ハケ目・ヘラケズリ	ハケ目・ナデ	
	1017		口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	ハケ目	ハケ目	
	1018		胴部	灰	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ目	板ナデ	
	1019		完形	にぶい赤褐	明褐	○	○			良	ヘラケズリ・ナデ	ナデ	スス(内・外)
	1020		胴部	橙	明赤褐	○	○			良	ハケ目・ナデ・三角突帯	ハケ目・ナデ	
	1021		口縁部	黄橙	黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1022		胴部	灰	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ目・三条の三角突帯	ナデ	
	1023		胴部～底部	灰	橙	○	○			良	板ナデ・ヘラケズリ	板ナデ	
第102図	1024	3号住居跡	完形	浅黄橙	浅黄橙	○	○			やが良	細かいハケ目	ナデ	黒斑(内)
	1025		口縁	浅黄橙	黄橙	○	○			良	細かいハケ目	ナデ	
	1026		口縁	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1027	3号住居跡	胴部	灰	浅黄	○	○			良	ハケ目	ナデ	
	1028		口縁	浅黄橙	黄橙	○	○			良	細かいハケ目	ナデ	
	1029		口縁	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1030		胴部	灰	浅黄	○	○			良	ハケ目	ナデ	
	1031	3号住居跡	口縁	浅黄橙	黄橙	○	○			良	細かいハケ目	ナデ	
	1032		口縁	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1033		胴部	灰	浅黄	○	○			良	ハケ目	ナデ	

住居跡内石器観察表

挿図 番号	番号	遺構	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考
					cm	cm	cm	g	
第102図	1015	1号住居	磨製石包丁	頁石	4.5	8.2	0.55	31.75	
	1016	1号住居	石皿	砂岩	17.8	13.9	3.3	1540	
	1017	1号住居	石皿	砂岩	24.4	20.7	9.3	8700	

が、上位の部位が欠損しているため器種は不明であるが鉢形土器の底部の可能性が高い。1015は磨製石包丁である。幅 8.2cm、長さ 4.5cm、厚さ0.5cmの頁岩製である。刃部は湾曲し両端に紐掛用の袢が見

られる。全面に丁寧な研磨が施されている。1016・1017は石皿と思われる。1016はやや扁平なもので作業面は片面である。1017は24.3×18.7cmの略方形で厚さ 9 cmと大型のもので両面に作業面が認められる。

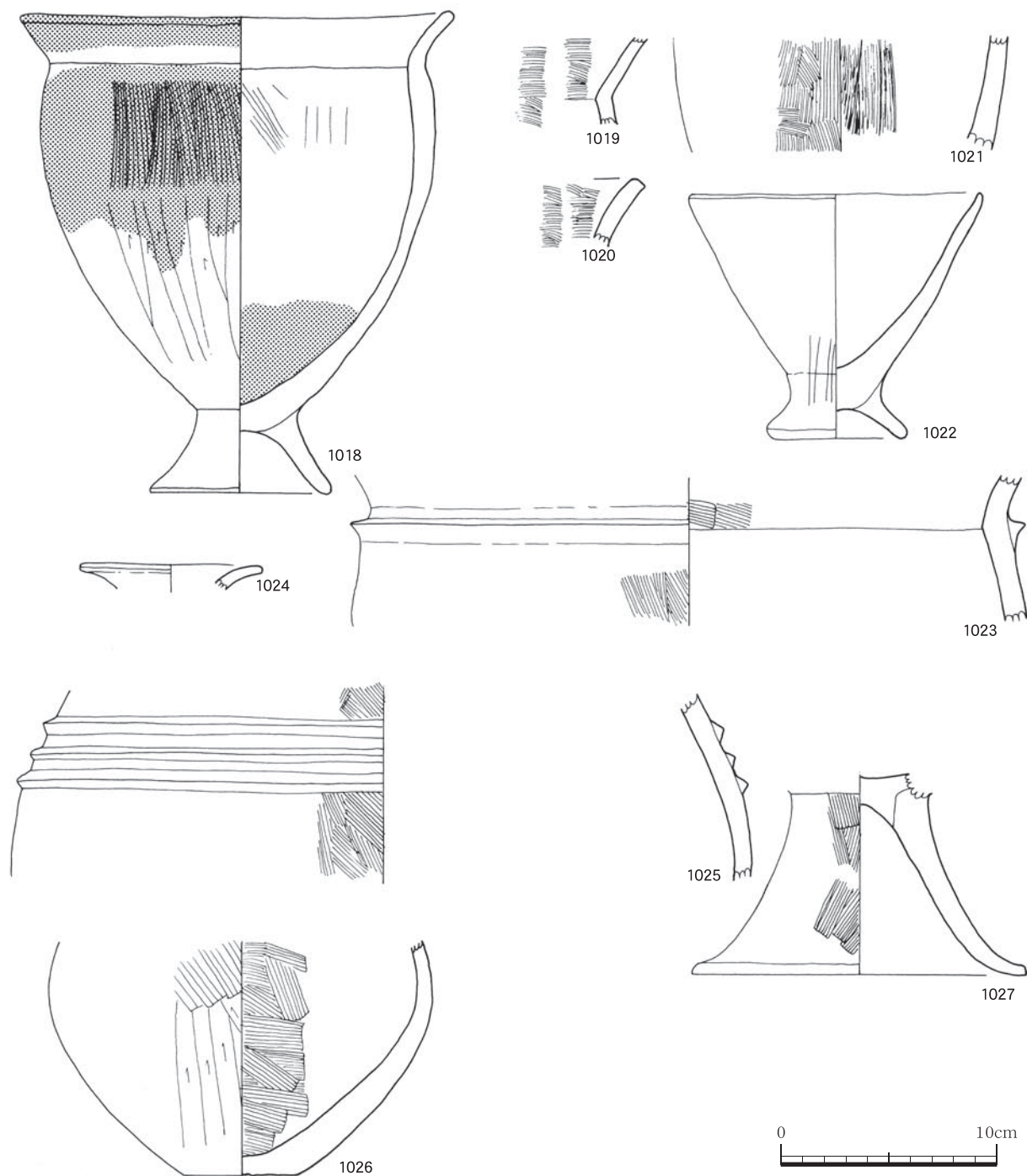


第102図 1号竪穴住居跡出土遺物（5）

(2) 2号竪穴住居跡（第103図～第105図）

H-4区Ⅲ層上面において検出されたもので、
5.2×5.7mの略方形プランである。長軸はほぼ東西
で東壁・南壁・西壁には1箇所、北壁には2箇所の
間仕切り状の突出部が見られる。また、中央には2.5
×2.5mの方形の掘り込みが設けられ段をなしてい
る。検出面からの深さは中央で約60cm、周辺で約20
cmである。ピットは9個が検出されているが、ピッ

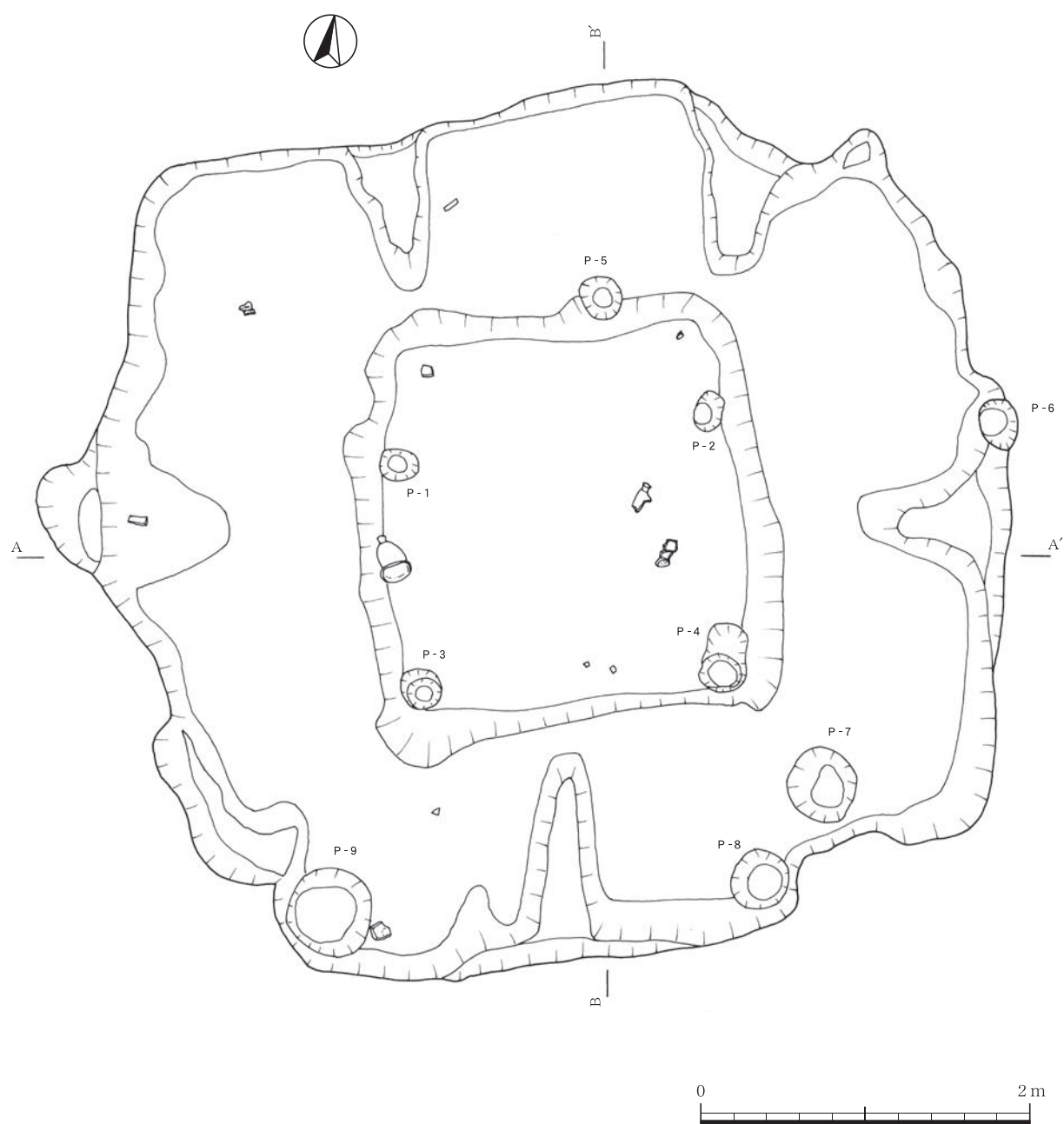
ト1～ピット4が主柱穴の4本柱が想定される。ま
た、南壁にそって検出されたピット8・ピット9も
補助柱的な要素を持つものと思われる。住居内から
遺物の出土は少なく図化出来たのは10点だけであ
る。1018～1023は、甕形土器。1018は口縁部径20.3cm、
器高22.5cmを測る。上げ底の脚台から立ち上がった
胴部はあまり張らず、頸部でいったんしまり口縁部
は「くの字状」に外反する。口縁部内面の稜線は明



第103図 2号竪穴住居跡出土遺物

瞭である。器外面は上位はハケ目、下位はヘラケズリである。1022は脚台を有する鉢形土器。浅い上げ底の脚台から直線的に立ち上がり口縁部へ到るものである。1023は大形甕形土器の頸部。口縁部は「くの字状」に外反するものと思われるもので、頸部に三角形貼付突帯を廻らす。1024～1026は壺形土器。

1024は小型の壺形土器の口縁部と思われる。1025は肩部に3条の三角形貼付突帯を廻らす。1026は平底の底部で胴部は球形状に膨らむものである。1027は高坏の脚部。なだらかに広がり裾部へ到るものである。

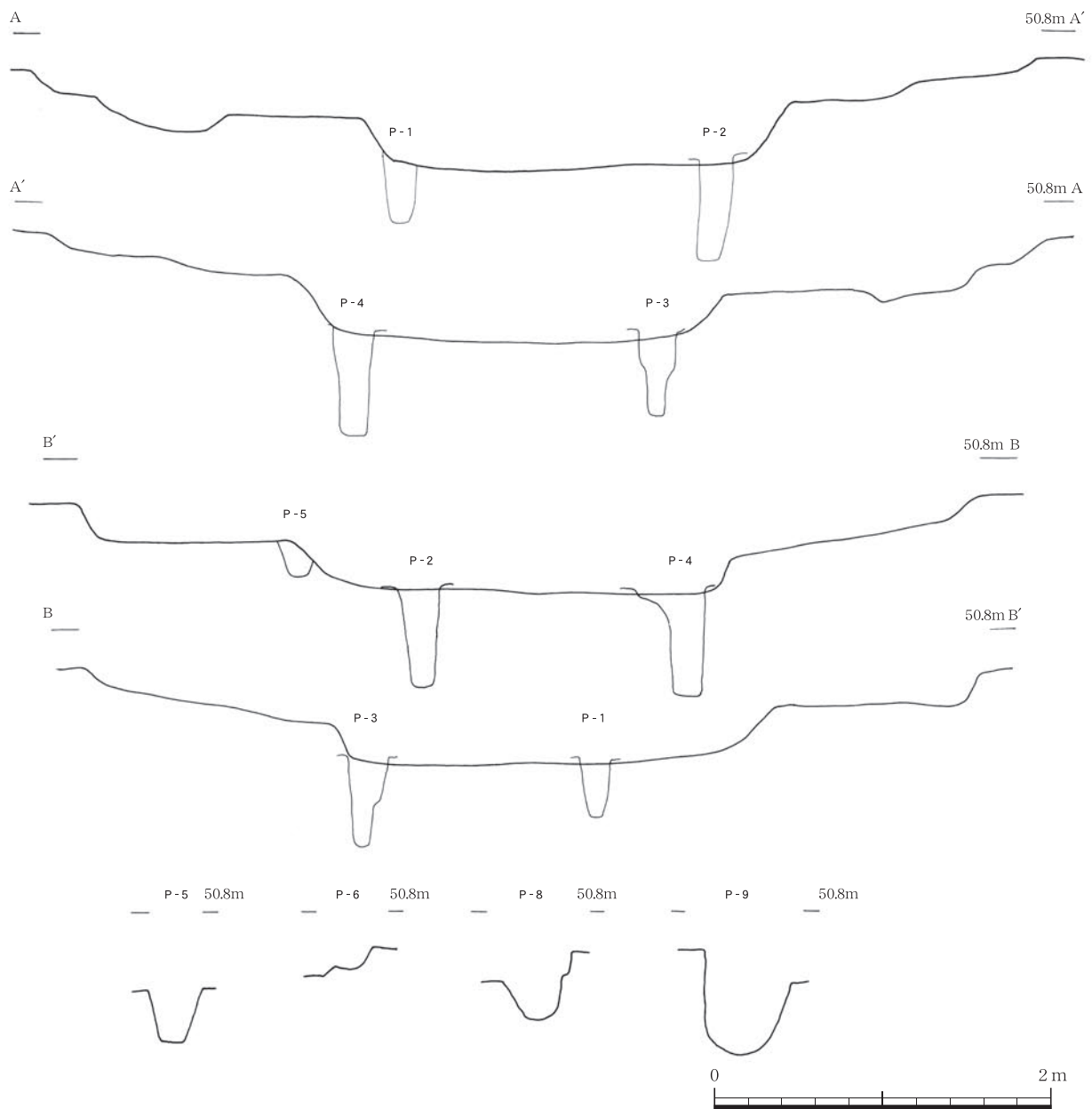


第104図 2号竪穴住居跡

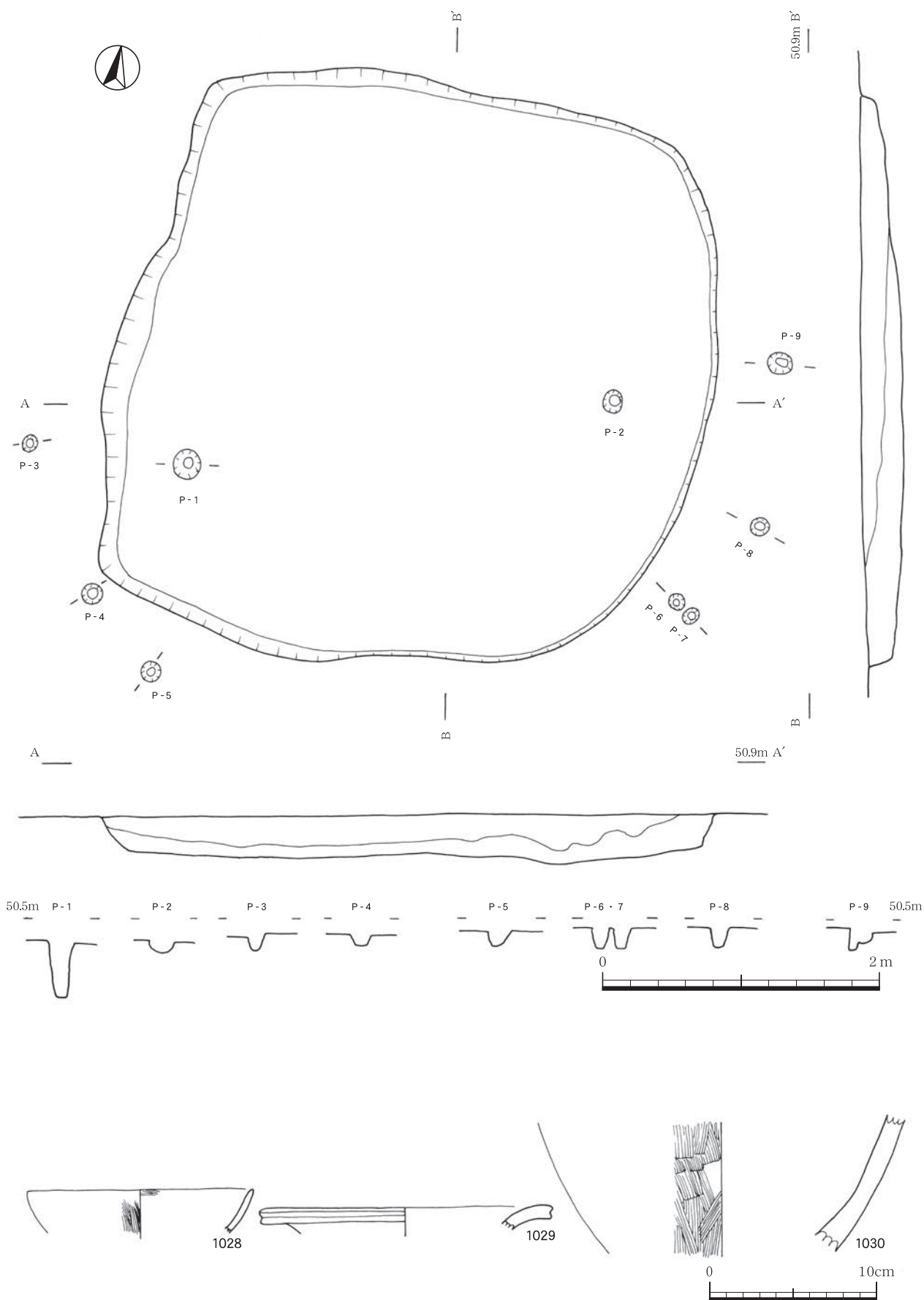
(3) 3号竪穴住居跡（第106図）

I-4区Ⅲ層上面において検出されたもので4.2×4.3mの略方形であるが、西側はやや丸みをおびていびつな形状を呈している。掘り込み面からの深さは30cmと浅い。ピットは住居内に2個、周辺に7

個が検出されているが、ほとんどが浅いピットで柱穴と認定し得るものはない。住居内からの遺物も少なく、図化できたのは3点である。1028は鉢形土器か碗と思われる。1029は壺形土器の口縁部である。1030は壺形土器の胴部下半の破片と思われる。



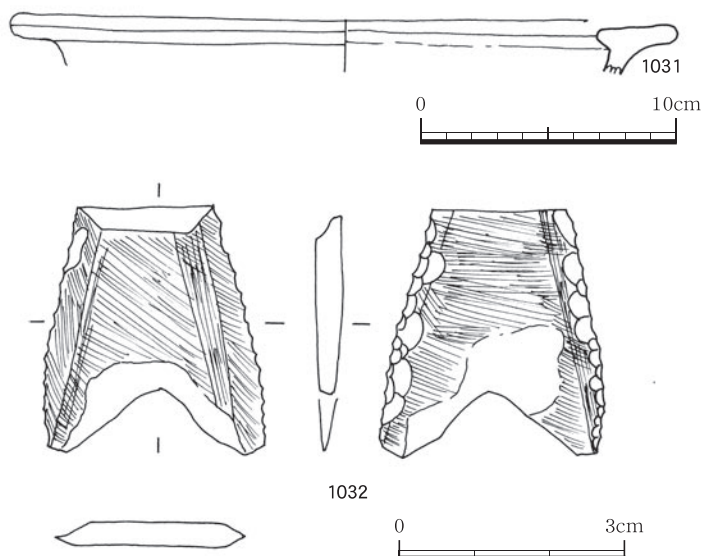
第105図 2号竪穴住居跡断面図



第106図 3号竖穴住居跡・出土遺物

2 遺物（第107図）

遺構に伴わない遺物としては、甕形土器の口縁部片と磨製石鏃だけである。1031は口縁径26.5cmを測るもので、口縁部が逆し字状に外反し、内面に突出部を有するものである。1032は頁岩製の磨製石鏃で先端部を欠損する。基部はV字状に挟れ、全面に擦痕が認められるものである。



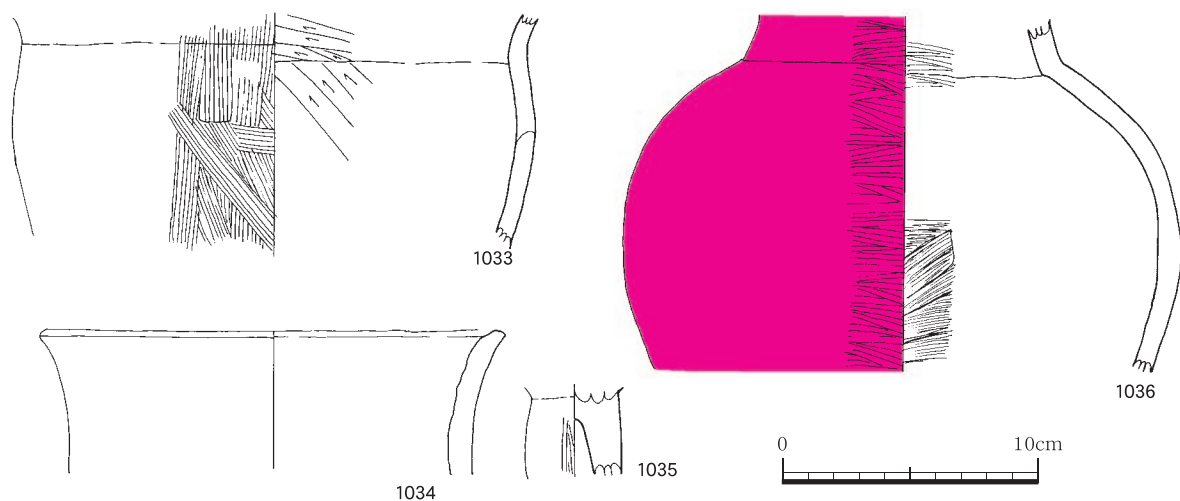
第107図 弥生時代出土遺物

第7節 古墳時代の調査（第108図）

古墳時代の遺構は検出されず、出土した遺物もわずかであった。

1033は口縁部を欠損する甕形土器の頸部から胴部である。口縁部は外反するものの頸部の内面の稜線は明瞭ではない。外面はハケ目、内面はヘラケズリ調整である。1034は口縁径18.4cmを測るもので丸底の甕形土器と思われる。口縁部がゆるやかに外反する。1036は頸部がしまり、胴部が球形状に膨らむ壺形土器である。外面及び内面上位は丁寧なヘラミガキで、内面下位は板ナデである。外面にはベンガラ

と思われる赤色顔料が塗布されている。1035は高坏の脚部である。



第108図 古墳時代遺物

弥生・古墳時代遺物観察表

挿図番号	番号	層位	出土区	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第107図	1031	Ⅲ	—	口縁	淡茶褐色	淡茶褐色	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1033	Ⅲ	H-4	胴部	黄灰	暗灰黄	○	○			良	ハケ目	ヘラケズリ	スス(外)
	1034	Ⅲ	H-6	口縁	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1035	I	I-4	高坏	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ヘラミガキ後ナデ	ナデ	スス(外)
	1036	—	H・I-4	胴部	赤褐色	赤	○	○			良	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナデ・イタナデ・ミガキ	丹塗(外)

弥生時代石器観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	
						cm	cm	cm	g	分類	破損部分
第107図	1032	磨製石鏃	—	—	頁岩	3.2	2.9	0.4	(4.32)		先端

第8節 中世・近世の調査

中世は、遺構は溝状遺構を検出し、遺物は少なく土師器や須恵器、青磁等が出土した。近世では、染付が出土した。

溝状遺構

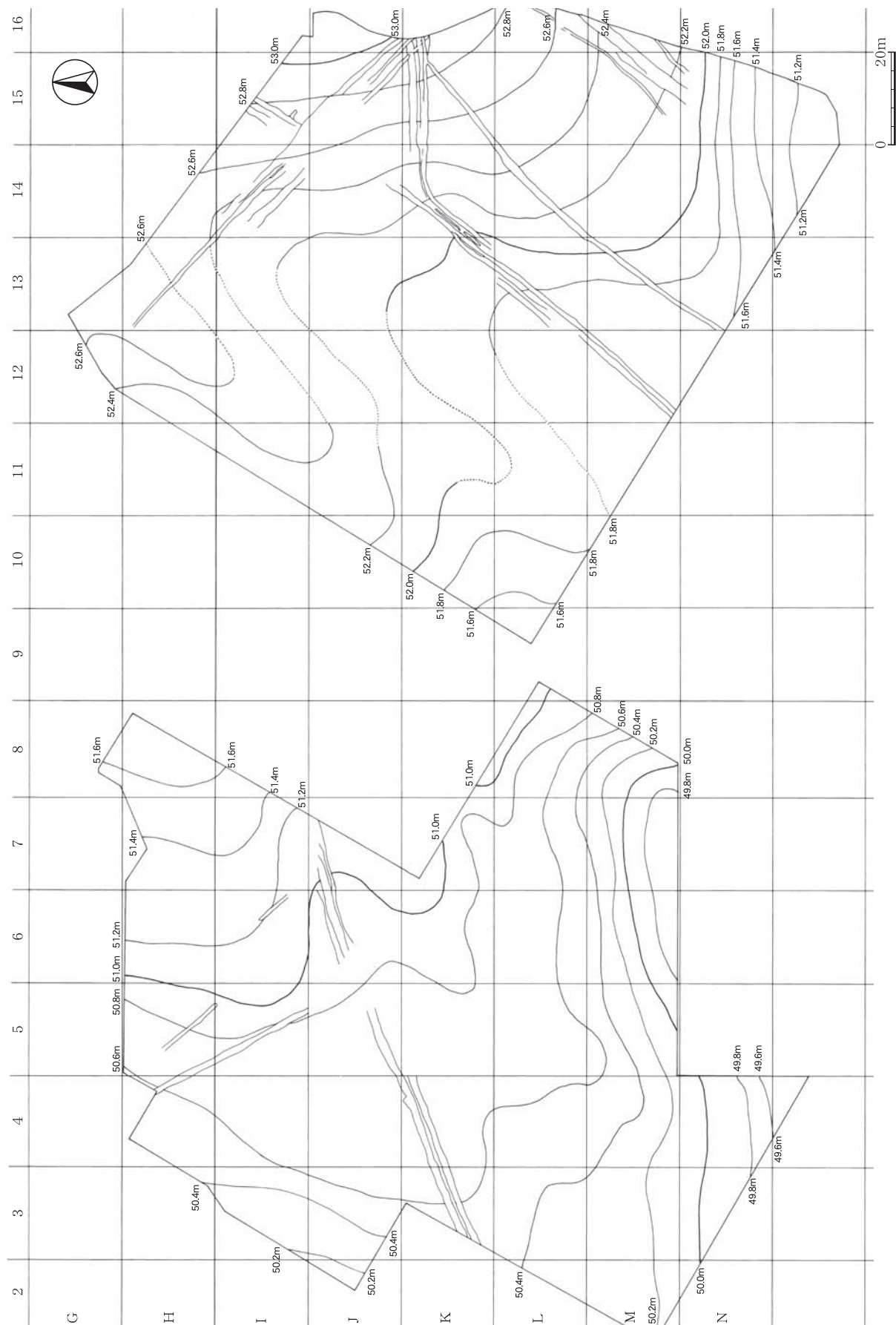
溝状遺構は、H～K－3～7区から4条とH～N－12～16区から6条の計10条検出されている。H～K－3～7区では、南東のI－5区から北西のH－4区にかけて1条、H－5区とI－6区に各1条走る。また、南西のK－3区から北西のJ－7区にかけて硬下面を伴った幅約5mの幅広の溝状遺構

が1条走っており、一部図化した。H～N－12～16区では、南西から北東にかけて走る2条と北西から南東にかけて走る1条がK－16区付近で合流している。埋土は、黒色土の一層であることと埋土内出土遺物から中世の遺構と考えられる。

溝状遺構内出土遺物

1037は、口縁部径13cmを測る青磁の稜花皿である。色調が褐色がかっている特徴をもつ。1038は口縁部径16.2cm、器高7.2cmを測る瓦器質の鉢である。体部に竹管文が見られる。底部には、縦に約1cmの刻み目を施す。

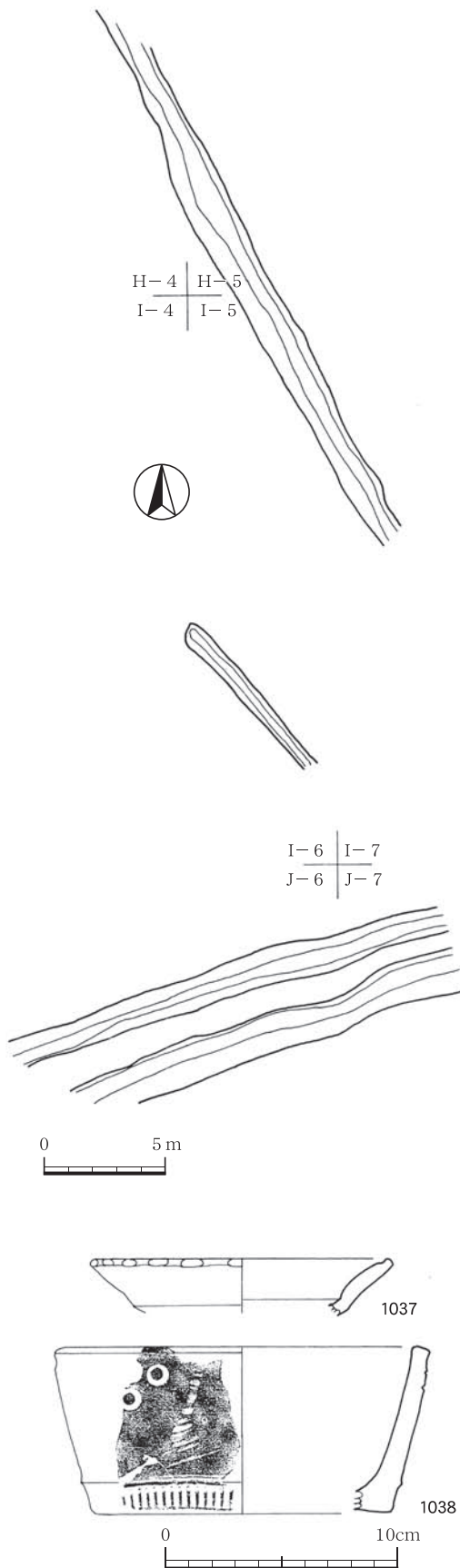
挿図 番号	報告 番号	出土区	層	種別	器種	部位	法量 (cm)				胎土	焼成	色調	備考
							口径	底径	器高	高台高				
第110 図	1037	溝状遺構	—	青磁稜花皿	皿	口縁部	13.0	—	—	—	精緻	良	褐	
	1038	溝状遺構	—	瓦質土器	鉢	口縁～底部	16.2	13.0	7.2	—	精緻（赤含む）	良	にぶい黄橙	
第111 図	1039	H－8	I	土師器	皿	胴部～底部	—	10.5	2.0	—	精緻	良	橙	
	1040	L－13	II	土師器	皿	口縁～底部	12.5	8.7	2.5	—	脆弱	良	にぶい黄橙	
	1041	H－7	II	土師器	皿	胴部～底部	—	7.0	1.5	—	脆弱	良	橙	
	1042	—	I	須恵器	甕	胴部	—	—	—	—	精緻	良	青灰	
	1043	N－3	II	須恵器	甕	胴部	—	—	—	—	精緻	良	暗青灰	
	1044	—	表層	須恵器	甕	胴部	—	—	—	—	精緻	良	灰オリーブ	
	1045	—	—	陶器	鉢	口縁部	—	—	—	—	精緻	良	青灰	
	1046	—	—	瓦質土器	鉢	口縁部	24.9	—	—	—	精緻（赤含む）	良	黄橙	
	1047	—	—	瓦質土器	鉢	口縁部	—	—	—	—	脆弱	良	灰白	
	1048	—	—	陶器質火舎	鉢	口縁部	—	—	—	—	精緻	良	灰	
	1049	M－7	III	青磁	碗	口縁～胴部	12.8	—	—	—	精緻	良	灰オリーブ	
	1050	—	—	青磁	碗	口縁部	—	—	—	—	精緻	良	灰	
	1051	I－14	III	青磁	碗	口縁部	—	—	—	—	精緻	良	灰	
	1052	—	I	青磁	碗	口縁部	12.9	—	—	—	精緻	良	灰オリーブ	
	1053	M－2	II	青磁	碗	口縁部	11.0	—	—	—	精緻	良	オリーブ灰	
	1054	—	—	青磁	碗	底部	—	4.8	—	—	精緻	良	オリーブ灰	
	1055	—	—	青磁	碗	底部	—	—	—	—	精緻	良	明緑灰	
	1056	—	I	白磁	碗	底部	—	6.0	—	0.6	精緻	良	灰白	
	1057	—	—	染付	碗	口縁～胴部	11.2	—	—	—	精緻	良	明青灰	
	1058	—	—	染付	碗	口縁～胴部	9.2	—	—	—	精緻	良	明オリーブ灰	
	1059	—	—	染付	碗	胴部～底部	—	4.9	—	0.5	精緻	良	明青灰	
	1060	—	—	染付	皿	底部	—	6.4	—	0.4	精緻	良	明緑灰	
	1061	—	—	染付	碗	口縁～胴部	11.7	—	—	—	精緻	良	灰白	
	1062	—	—	染付	碗	口縁～胴部	12.1	—	—	—	精緻	良	明緑灰	



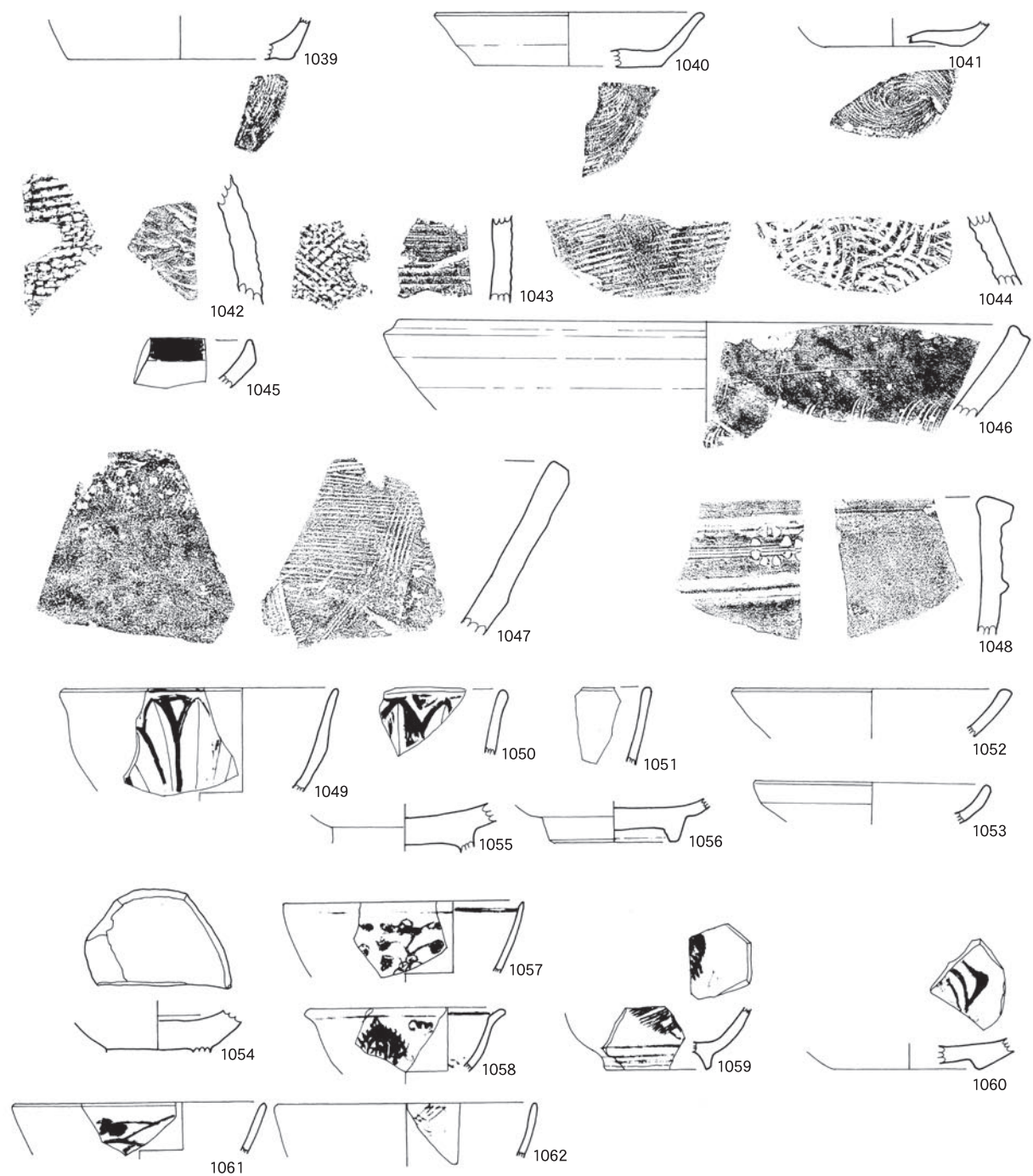
第109図 中世遺跡配置図

中世から近世の遺物

中世・近世の遺物は少なく図化できたものは24点である。1039～1041は土師器の皿と思われるものであるが、口縁部から底部まで有る物は1040のみで、口縁部径12.5cm、器高2.5cmを測る。いずれも底部の切り離しは糸切りによるものである。1042～1044は須恵器の甕の胴部片である。1042は外面が格子目叩き、内面が同心円叩き。1043は外面が格子目叩き、内面が平行叩き。1044は外面が平行叩き、内面が同心円叩きである。1045は東播系陶器のこね鉢である。1046は口縁部径24.4cmを測る瓦器質の摺り鉢である。内面は斜位及び横位のナデの後に櫛目が施されるものである。1047は内面には横方向のハケ目の後で、6条の櫛目が施されるものである。1048は陶器質の火舎と思われる。口縁部は「逆し字状」に外反し、口縁部下位に三角突帯を廻らす。口縁部と突帯の間に菊花文のスタンプが見られる。1049～1055は青磁である。1049～1051、1054・1055は碗。1049・1050は鎚蓮弁の碗である。1051は蓮弁文。1052は口縁部径12.9cmの皿である。1053は口縁部径9.2cmの皿である。1054は見込みに花文が見られる。1056は白磁碗の底部である。1057～1060は中国産の染付である。1057は口縁部径11.2cm、1058は口縁部径9.2cmの碗で草花文が描かれる。1060は碁笥底の皿で見込みに「寿」の文字を人形に描いてある。1061・1062は近世の肥前系の染付である。



第110図 中世溝状遺構・出土遺物



第111図 中世遺物

第5節 小結

諏訪前遺跡においては、縄文時代早期・中期・後期・晩期、弥生時代終末期、古墳時代・中世の各時代の遺構・遺物が出土している。

縄文時代の土器は、Ⅰ類～ⅩⅣ類に分類される。Ⅰ類～Ⅶ類は早期、Ⅸ類・Ⅹ類は中期、Ⅺ類～ⅩⅢ類は後期、ⅩⅣ類は晩期である。

縄文時代早期

Ⅰ類土器～Ⅲ類土器は早期前半と思われるものである。Ⅰ類土器は岩本式に、Ⅱ類土器は二重施文を施すもので志風頭式に比定できる。Ⅲ類土器はクサビ形貼付文を有するものなどで、加栗山式に比定できるものである。

Ⅳ類土器は、縄文時代早期中半の石坂式土器に比定できる。口縁部は外反もしくは、やや外反し、口唇部には刻目を有するものが多い。口縁部は貝殻復縁による刺突文が斜位、横位、縦位または羽状に施されている。胴部は貝殻復縁による条痕文が斜位もしくは綾杉状に施されている。底部は浅い刻目が見られるものが多い。全体的に焼成は良く、刺突文や条痕は整い、乱れがない。諏訪前遺跡のⅣ類土器の口縁部文様についてみると、斜位の刺突文だけのもの（14～40）、羽状の刺突文（41～51）、横位の刺突文だけのもの（52～64）、横位の刺突文の下位に斜位の刺突文を施すもの（65～80）、縦位の刺突文を施すもの（94・97～99）、竹管文を施すもの（95・96）等に分けられる。前迫亮一氏による石坂式土器の分類においては、^{註1}Ⅰ式（古段階）は、口唇部はやや丸みがあり、口縁部は外反し、胴部はやや膨らむ器形をしている。文様については、口唇部・底部に浅い刻目が施され、胴部は綾杉状の貝殻条痕もしくは、格子目状の条痕が存在する。Ⅱ式（新段階）は、口唇部は平坦なものが主であり、口縁部は外傾および直行するものが主であり、胴部はほぼ直線的な器形をしている。文様については、口唇部・底部に刻目のないものが主であり、胴部は綾杉状の貝殻条痕、格子目状の貝殻条痕のほかに、全面貝殻刺突文のものも存在する。また、口縁部に瘤状突起をもつものが出現するとしている。本遺跡のⅣ類（石坂式）土器についてみると、大半が口縁部が外反するⅠ式で

ある。100は口縁部に大きめの横位の貝殻刺突文、胴部には斜位、縦位の刺突文を施し、貝殻条痕文が見られないもので、下剥峯式の文様構成と類似するが、器形から判断して、石坂式の範疇に入れたい。101、102は口縁部が直行するもので、100と共にⅡ式と思われる。

Ⅴ類土器は、出土量は2点と少ないが、復元完形になるものである。早期中葉の中原式に比定できる。

Ⅵ類土器は底部の1点であるが、早期中葉の下剥峯式に比定できる。

Ⅶ類土器は5点を図化した同一固体と思われるものである。早期中葉の押型文土器である。

Ⅷ類土器は胴部に沈線文を施すものであるが、貝殻条痕文を意識したものと考えられるもので、早期終末の円筒形貝殻条痕文土器の範疇でとらえたい。

また、土製品1点も出土している。筒状を呈し、両端の径が違う点に注目すると耳栓と考えることが妥当かと思われるものである。

石器についてみると、石鏃・石槍・石匕・スクレイパー・礫器・磨石・敲石・凹石・石皿等が出土しており、他の遺跡と大差ない状況がうかがえる。

縄文時代中期・後期

縄文時代中期・後期の遺物は少ないが、Ⅸ類・Ⅹ類の中期、Ⅺ類～ⅩⅢ類の後期と時代幅がある。

Ⅸ類土器は、凹線文が器面全面に施されるものであり、191は凹線文ではなくヘラによる沈線文で、口縁部付近だけの施文であるが、器面調整や器形から考えて阿高式土器に比定できるとと思われる。

Ⅹ類土器は、やや細めの凹線文が施されるものである。中期末から後期初頭においては、器形や文様構成が複雑で編年が確立していないのが現状である。中期末の岩崎上層式に比定できるものと考えられるが、今後細分される可能性を持つものである。

Ⅺ類土器は、口縁部の施文帯に凹線による「S字状文」を施すもので、南副寺式に比定できる。

Ⅻ類土器は、平行沈線文を主とするもので、後期の指宿式土器に比定できる。ねじり紐を有するものや、瘤状突起を有するものなど文様も豊富である。

ⅩⅢ類土器は、口縁部が断面三角形に肥厚するもので、後期の市来式土器に比定できる。

縄文時代晩期

縄文時代晩期は、他の時期に比べると数多くの土坑等の遺構が検出され、出土遺物の数も格段に多く、本遺跡の中心をなす時期と言える。

遺構は、土坑28基、焼土4基、埋設土器1基、掘立柱建物跡3棟、柱穴列8列が検出された。特に多くの土坑が検出されたことが顕著である。

土坑は、大きさや形状等に統一性はみられなく、性格不明の土坑がほとんどであるが、中には、埋土に炭化物が多いことと、土器が散乱していることより、その場で使用、破損したため破棄された感がある土坑もある。土坑や焼土跡が集中して検出された箇所もあった。また、灰コラが埋土の上部に堆積していた土坑が数基検出され、埋土の火山灰分析を行った。重鉍物組成分析では、開聞岳起源の灰コラと共通した特徴が認められ、植物珪酸体分析では、クスノキ科が多量に検出された。

焼土は、4基共土坑と近接していた。

埋設土器は、入佐式の粗製深鉢形土器であり、土器の中からは、遺物や人骨等は確認できず、土器内土壌のリン・カルシウム分析の結果でも、リン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が認められなかったが、底部が打ち欠かれていたことなどから、幼児の埋葬にかかわる可能性も考えられる。

掘立柱建物跡は、3棟とも1間×1間の建物である。諏訪前遺跡だけでなく農業開発総合センター遺跡群内の各遺跡で多くみられるが、大きさ・方向・柱間形状等に統一性はみられない。

柱穴列は、柱穴の個数が多くなると若干直線からずれるものもみられるが、大きくずれることはない。また、柱穴の大きさや方位などについては、統一性はみられない。しかしながら、主軸についてみると、M・N区で検出されたものは南北に近く、I・J区で検出されたものは、東西寄りになる傾向が見られる。何らかの建物の柱の可能性を考えたい。

出土土器についてみると、晩期の土器は、粗製深鉢・精製浅鉢等に分けられる。これらを一括してXIV類とし扱い、さらにa類・b類・c類に細分した。ただし、その移行形態と考えられるものもある。

XIV a 類は、数条の沈線を施した短い口縁部の文

様帯が直行するもので、上加世田式土器に比定される。深鉢形土器の382・383、浅鉢形土器の613である。

XIV b 類土器は晩期の中心をなすものである。深鉢形は粗製で、口縁部が「くの字状」に外反し、胴部で屈曲して底部へ至る。浅鉢形土器は精製で、皿状の丸底を呈し、胴部でやや内側に屈曲した後に、大きく外反するタイプと、胴部に屈曲部を持たず碗状に口縁部へ立ち上がるタイプのものである。これらは、入佐式土器に比定されるものである。ただし、粗製と精製の中間的な調整も存在する。

入佐式土器は、口縁部文様帯に沈線を廻らし、口縁部がやや内湾気味のものが古く、直線的に外反するものが後出する。その中には、沈線が条痕や無文と変化しているものもある。つまり、口縁部の粗雑化、無文化という傾向が見られるということである。

本遺跡においては、文様帯が沈線、条痕、条痕後ナデという調整方法のものが出土し、量的には条痕、条痕後ナデが圧倒的に多い。そこで、出土状況の分布や器形の変化等について検討を行ったが、時期的な変化を思わせる分布の偏りは見られなかった。

XIV c 類土器は、深鉢形土器が520～524、浅鉢形土器が765～767と極端に少ないものであるが、黒川式土器に比定されるものである。

524及び756・766は、口縁部に突起や頸部にリボン状の貼付けが施される典型的な黒川式土器である。ただし、524はその突起の形状から考えると、リボン状の貼付けの初源的な形態と考えられる。

520～523は、東和幸氏が黒川式土器の最終段階に位置付けられるとした、鹿児島島の無刻目突帯土器「干河原段階」に概当するものと思われる。^{註2}

767については、従来ある浅鉢の形態とやや異なるもので、今後の課題としたい。

出土石器については、石鏃・ドリル・石匕・スクレイパー・楔形石器・鎌状石器・礫器・石錘・異形石器・垂飾品・磨石・敲石・凹石・砥石・石皿や軽石等いろいろな器種の石器が出土している。特に、石鏃及び磨石・敲石・凹石の出土量が多い。

また、晩期特有の異形石器、その他にヒスイに似た緑色の石を利用した玉類（勾玉、管玉、小玉）も出土し、それらの製作に関係したと思われる攻玉砥

石の出土も注目される。

弥生時代

弥生時代の遺物は住居内から出土した以外は少なく、中期の黒髪式土器の甕形土器の口縁部と磨製石鏃が出土したのみである。

遺構は、竪穴住居跡が3軒検出された。1号住居跡は方形、2号住居跡は方形であるが、間仕切りを有し、中央には1辺約2.5mの方形の掘り込みがあり、2段になっている。3号住居跡は略方形であるが、やや不正形である。ほぼ同時期の住居ではあるが、形態に統一性がない点が注目される。2号住居跡は間仕切りを有し、2段掘りになるもので突出部の外側に壁が無ければ花卉型住居の形態と変わらない。これまで花卉型住居と言われてきた住居も本来は方形プランであった可能性を示唆するものである。

住居跡内の遺物は、1号住居跡からは多量出土しているが、2号住居跡・3号住居跡からは少ない状況である。1号住居跡内出土の土器についてみると、甕形土器は、底部が中空の浅い脚台で、口縁部は「く」の字状に外反し、内面の稜は明瞭なものである。器外面は全面ハケ目のものと胴部下半はヘラケズリのものがある。壺形土器は、胴部に刻目突帯を廻らすものと、無いものがある。底部は平底で、胴部はあまり膨らまない。大半は甕形土器と壺形土器であるが、わずかに椀状の鉢形土器と小型鉢形土器、高坏が出土している。これらは、弥生時代終末の中津野式土器の範疇に入るものと思われる。

また、壺形土器で、胴部に5条の三角突帯を廻らし、その上位に鋭いヘラによる線刻画が見られるものがある。その線刻画については、春成秀爾氏によると、中国に起源を持つ架空の動物である「龍」が日本に入ってきたのは、佐賀県桜馬場遺跡出土の方格規矩四神鏡に描かれていることから弥生時代に遡ることは明らかで、大阪府池上遺跡出土の土器に描かれているものが、鏡の絵画から転写した初期のものであると推察している。^{註3}大阪府船橋遺跡、恩地遺跡などの絵画も同様に「龍」を描いたものと思われる。本遺跡の絵画について見ると、一部欠損しているものの上記の遺跡の絵画「龍」に類似しており、「龍」と考えて良いものと思われる。春成秀爾氏は、

弥生時代の「龍」に対する信仰が雨乞いや雨鎮めの祭り結びついて広がっていくことを指摘している。^{註4}東和幸氏は、南九州の弥生時代後期に「龍」の絵画土器が出現する点について、洪水等の自然現象（集中豪雨や台風に見舞われる多雨地帯）に対する祭祀行為ではないかと推論している。^{註5}

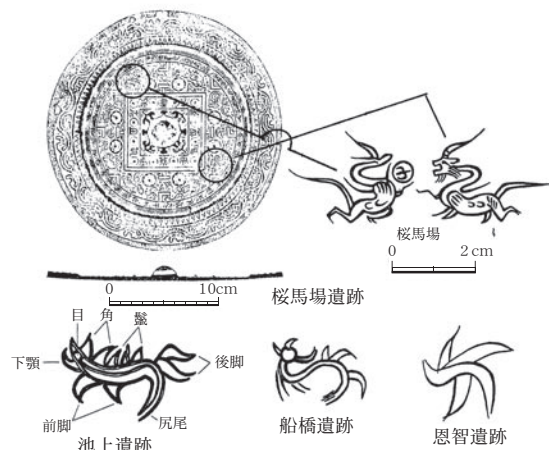
本遺跡の竪穴住居跡は形態は異なるが、1号住居跡出土の土器や2号住居跡の形態などから考えて、中津野式土器の時期、つまり弥生時代終末期と考えてよいものと思われる。

古墳時代

古墳時代の遺物は少なく、甕形土器2・壺形土器1・高坏1だけである。隣接する諏訪牟田遺跡で検出されている竪穴住居跡の時期（古墳時代前期）と近いものである。

中世

中世は、溝状遺構が検出された。溝内からは青磁と瓦器質鉢が出土した。遺物は少なく土師器や須恵器、青磁等が出土しているが、13～15世紀と思われる。染付では近世の肥前系のものが見られる。



註5より転載

註1) 前迫亮一 2003 「石坂式土器再考」 研究紀要『縄文の森から』創刊号、鹿児島県立埋蔵文化財センター

註2) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(38)「計志加里遺跡」 2002 鹿児島県立埋蔵文化財センター

註3・4) 春成秀爾 1991 「絵画から記号へー弥生時代における農耕儀礼の盛衰ー」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集、国立歴史民俗博物館

註5) 東和幸 2006 「南九州地域の龍」『原始絵画の研究、論考編』設楽博巳編集 有限会社六一書房

諏訪前遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

本遺跡の分析結果については建石ヶ原遺跡（鹿埋セ報83）においても報告してある。今回は、それ以外の分析結果について報告することにしたい。土坑の火山灰分析や遺構内遺物に付着していた煤の放射性炭素年代測定、埋設土器のリン・カルシウム分析の詳しい結果は、建石ヶ原遺跡報告書を参照。

諏訪前遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。

2. 試料

分析試料は、諏訪前遺跡の土坑23および土坑26から採取された計7点である。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上にな

るまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重，単位：10－5g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属（ヨシ）の換算係数は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。

〔イネ科〕

キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、シバ属、Bタイプ〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) 土坑23

上部を灰コラ層で覆われた土坑の埋土（試料1～4）について分析を行った。その結果、Ⅷ層（試料4）ではクマザサ属型やミヤコザサ節型が比較的多く検出された。Ⅶ層（試料3）では、キビ属型、ススキ属型、ウシクサ属Aなどが出現しており、クマザサ属型やミヤコザサ節型は減少している。また、試料3では、クスノキ科に由来する植物珪酸体も検出された。樹木

は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。Ⅵ層(試料2)からⅤ層(試料1)にかけてもおおむね同様の結果であるが、クマザサ属型やミヤコザサ節型はさらに減少している。

2) 土坑26

上部を灰コラ層で覆われた土坑の埋土(試料1~3)について分析を行った。その結果、全体的にネザサ節型や棒状珪酸体が多量に検出され、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、クマザサ属型、およびクスノキ科なども検出された。このうち、焼土1(試料2)ではネザサ節型がとくに多く検出され、密度は比較試料(試料3)の2.6倍にも達している。主な分類群の推定生産量によると、全体的にメダケ節型およびネザサ節型が卓越していることが分かる。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

1) 土坑23

Ⅷ層(チョコ層)の堆積当時は、クマザサ属(ミヤコザサ節が含まれる)を主体とするイネ科植生であったものと推定される。タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされており、ネザサ率(両者の推定生産量の比率)の変遷は、地球規模の氷期-間氷期サイクルの変動とよく一致することが知られている(杉山, 1997)。ここでは、クマザサ属が卓越していることから、当時は寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。

縄文時代草創期遺物包含層のⅦ層から桜島薩摩テフラ(約1.1~1.2万年前)混のⅥ層にかけては、ススキ属やチガヤ属、キビ属などが見られるようになり、クマザサ属は大幅に減少したものと推定される。

クマザサ属は森林の林床でも生育が可能であるが、ススキ属やチガヤ属は陽当たりの悪い林床では生育が困難である。このことから、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく、比較的開かれた環境であったものと推定される。

また、この時期には遺跡周辺でクスノキ科な

どの照葉樹が見られるようになったものと推定される。花粉分析によると、8,800~9,000年前には鹿児島市でシイ・カシ林が成立していたと推定されているが(岩内ほか, 1992)、本遺跡周辺ではこれよりも前にクスノキ科が拡大していた可能性が考えられる。

2) 土坑26

遺構周辺は、メダケ節やネザサ節などのタケ亜科を主体としてススキ属やチガヤ属なども見られるイネ科植生であり、遺跡周辺にはクスノキ科などの照葉樹林も分布していたものと推定される。また、遺構内の焼土1では、ネザサ節などが燃料の一部として利用されていた可能性が考えられる。

参考文献

- 岩内明子・横田修一郎・岩松暉(1992)鹿児島市沖積層の花粉分析・日本地質学会、日本地質学会西日本支部第125回例会講演要旨、p.1-2.
- 杉山真二(1987)遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点、植生史研究、第2号、p.27-37.
- 杉山真二(1987)タケ亜科の機動細胞珪酸体、富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83.
- 杉山真二(1987)人類をとりまく植生と環境、宮崎県史通史編「原始・古代」、p.150-172.
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)、考古学と植物学、同成社、p.189-213
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-、考古学と自然科学、9、p.15-29.

第Ⅵ章 南原内堀遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の経過

本調査は平成13年度・平成15年度に行われた。耕種試験場の研究畑造成・付帯施設建設に起因する調査のため、削平される範囲を対象とした。また、一部の下層確認調査を実施した。

平成13年度日誌抄

1月 本調査開始。表土剥ぎ。Ⅲ層・Ⅳ層掘り下げ。

縄文時代早期の土器片少量出土。トレンチによる下層確認。縄文時代草創期の土器片少量出土。

平成15年度日誌抄

9月 1地点 Ⅲ層掘り下げ。調査終了。

2地点 トレンチⅢ層～Ⅸ層掘り下げ。遺構・遺物無し、調査終了。

3地点 Ⅲ層掘り下げ。溝状遺構検出。

10月 3地点 縄文時代晩期柱穴列・埋設土器検出。

縄文中・後期遺物出土。調査終了。

第2節 調査の方法及び概要と層位

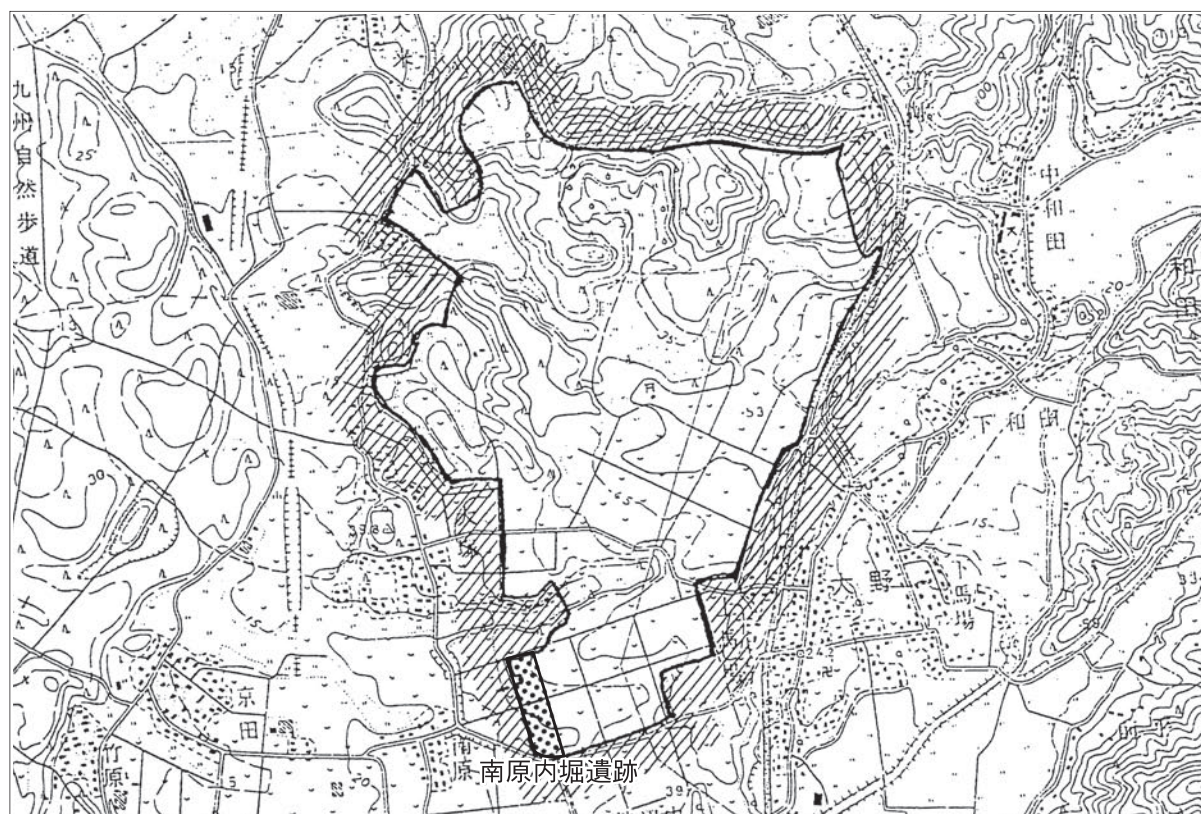
発掘調査は国土座標にあわせた20×20mの調査範囲（グリッド）を設定して実施し、遺跡地内の北側からA・B・C…、西側から0・1・2…とした。

北側に急な谷、南側に緩やかな谷が入る標高約30mの台地になり、全体的に南側へ緩傾斜している。

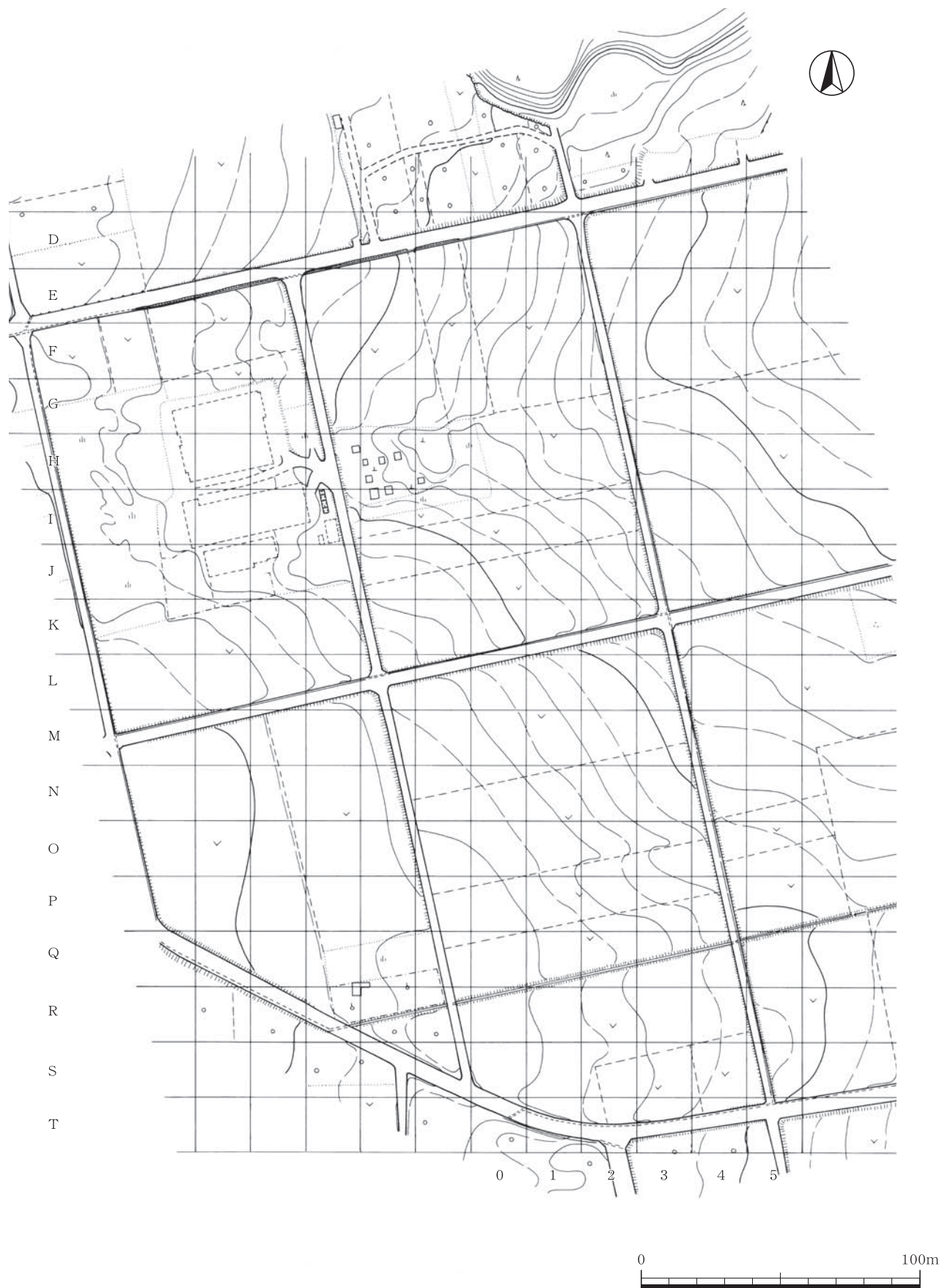
調査の結果、遺物は主としてⅢ層から出土した。遺構は、数は少なかったがⅢ層下面で、柱穴列や埋設土器を検出した。

掘削が及ぶのは深いところでも、Ⅵ層面までであったのでⅤ層以下は確認トレンチを設定して調査を実施した。旧石器該当層から石器や剥片が数点出土したが、広がりはないようであった。

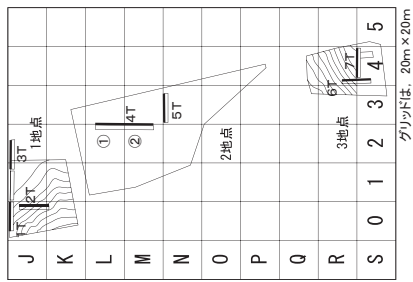
本遺跡の層位は、農業開発総合センター遺跡群全体の基準層位と基本的に変わらない。



第1図 遺跡位置図（1／25,000）



第2図 地形図及びグリッド配置図



- I 層 灰黒色土
- II 層 黒色土
- III 層 黄褐色火山灰
(アカホヤ火山灰)
- IV 層 黄褐色土
- V 層 黒褐色土
- VI 層 暗黄褐色火山灰層
(薩摩火山灰)
- VII 層 明茶褐色粘質土
- VIII 層 暗茶褐色粘質土
- IX 層 黄褐色シルト
- X 層 白色シルト

- ① III・IV混土
- ② IV・V混土
- ③ VIII 混土
- ④ III・V・VI混土
- ⑤ VIII・IX混土
- ⑥ VII・VIII混土
- ⑦ VII 混土

第3図 土層断面図

第3節 旧石器時代の調査（第4図）

旧石器時代に関しては、3地点のトレンチから細石刃核とナイフ形石器が出土したが、その周辺からは、遺構・遺物は検出されなかった。

1のナイフ形石器の長さは、4.0cmで、刃部に使用痕が認められる。石材は頁岩である。農業開発総合センター遺跡群内において該当期の遺跡は、神原遺跡・頭無迫田遺跡などがある。共に小型ナイフ型石器の出土がみられるので、関連を考えなければならない。

2は上牛鼻産黒曜石製の細石刃核であり、当遺跡においては1点のみ出土している。I層から出土したが、Ⅷ層まで削平をうけていることなどから、旧石器時代の遺物と思われる。

第4節 縄文時代の調査

1 縄文時代草創期の調査

(1) 遺物

縄文時代草創期は尾根上と北側斜面に散布してい

た。隣接する中尾遺跡においては落とし穴状遺構や礫群等が検出されているが、南原内堀遺跡の調査においては、無文土器片が数点出土しただけで、出土状況は疎であった。石器についても明確な石器は検出されていない。

I類土器（第5図）

3は、縄文時代草創期の土器である。口唇部に刻目を施しており、文様は見あたらない。隣接する中尾遺跡においては、隆帯文を廻らせた土器が出土している。

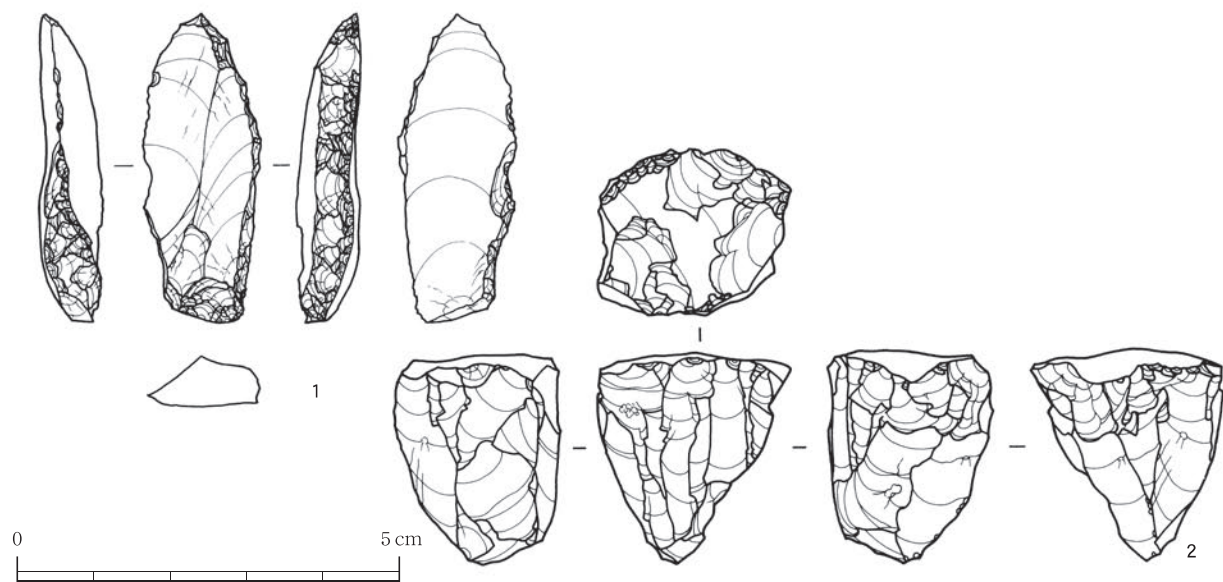
2 縄文時代早期の調査

(1) 遺物

縄文時代早期に関してもトレンチによる確認調査を実施した。道路拡幅により本調査が必要な部分もあったが、トレンチ調査による遺物の出土数は少なかった。

II類土器（第5図）

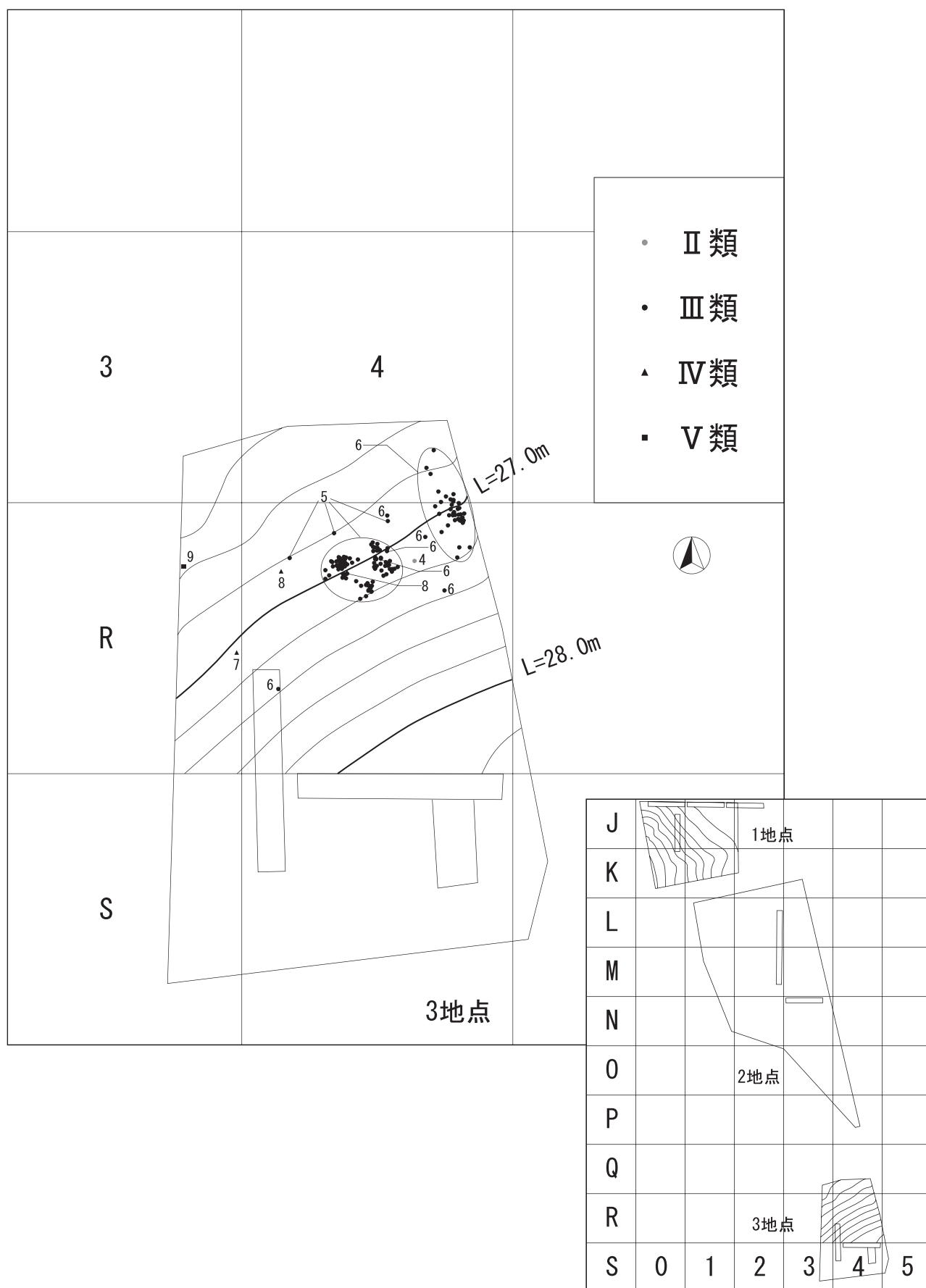
4は、口縁部に2条の貝殻刺突文が廻らされている。



第4図 旧石器時代の遺物



第5図 I類土器・II類土器



第6図 縄文時代早期（II類）・中期（III～V類）土器出土状況（1グリッド：20m）

3 縄文時代中期の調査

(1) 遺物

縄文時代中期は、遺物数は5個体と少ないものの、ほぼ完形に復元できる資料も得られた。1・2地点では遺物は出土せず、3地点のみ出土した。

Ⅲ類土器（第7図～9図）

従来阿高式系土器と呼ばれてきたものに該当する。5・6は、共に口唇部に刻目を持ち、胴部に曲線的な凹線文と鉤状短沈線を施し、底部は見つからなかったが、口縁部から底部付近までのほぼ完形である。5は、口径39.0cm、器高41.0cmの大型の甕形土器である。口唇部刻目が単列で胎土に滑石を多く含む。6は、口径36.0cm、器高29.0cmの甕形土器である。口唇部刻目が交互になっており滑石が余り見られない。

Ⅳ類土器（第9図）

7・8は、口唇部刻目と凹線文から、指宿式土器に該当すると思われるが、小片のため判然としない。

Ⅴ類土器（第9図）

9は、従来春日式土器と呼ばれてきたものに該当する。口縁部に棒状工具による幾何学的な沈線を施している。

4 縄文時代後期の調査

(1) 遺物

本遺跡では、最も土器の種類が多い時期である。ただし、破片がほとんどで復元できるものは少なかった。1・2地点では遺物は出土せず、3地点のみ出土した。

Ⅵ類土器（第10図）

従来鐘崎式土器と呼ばれてきたものに該当する。10は、ほぼ平らな口唇部に沈線文と刺突文を、11は、沈線文を2条施している。

Ⅶ類土器（第10図～12図）

口縁部断面形が三角形を呈する深鉢形土器である。この時期の南九州を代表する市来式土器に該当する。12・13は、口唇部に刻目を持ち、さらに口縁部下に沈線文さらに下位に連続刺突文を廻らすものである。14・15は、「ハの字」状の刺突文をポイントとして施し、その下位に凹点状の密な連続刺突文

を廻らすものである。16～18は、口縁部の上下2列に廻らした連続刺突文の間に、主として貝殻腹縁部による刺突文を施している。19は、口縁部下に貝殻腹縁部による斜位の連続刺突文を施し、さらにその下位に凹点状の密な連続刺突文を廻らすものである。20・21は、口縁部の上下2列に廻らした連続刺突文の間に刺突文をポイントとして施すものである。22は、口径25cmで、上下2列の沈線文の間に、ヘラによる刺突文を施すものである。23～32は、口縁部断面三角形部に同一文様を単純に連続して廻らすものである。施文具は貝殻腹縁部やヘラ状工具を用いたものが多い。33は口縁部に貝殻腹縁部による刺突文を横位あるいは斜位に連続して施文している。34・35は、口唇部に刻目を持ち、さらに口縁部下に貝殻腹縁部やヘラ状工具により連続刺突文を廻らすものである。

36～54は、市来式土器の範疇で捉えられるものではあるが、一括して取り扱ったものである。

40は、口径22cmの深鉢形土器で、底部付近まで、復元することができた。41は、口径18cmの深鉢形土器である。49は、台付皿形土器の口縁部に竹串状の工具による沈線文を施している。外面には、科学分析の結果、若干鉄分が検出された部分があり、赤色が塗られていた可能性も考えられる。51は、底径8cmである。52は、底径12cmで、器底が比較的厚く、底面には直径約0.7～1.2cmの木の実の殻と思われる圧痕が数カ所見られる。53・54は、口縁部に1条の沈線文を施している。

Ⅷ類土器（第12図）

従来辛川式土器と呼ばれてきたものに該当する。55は、肥厚した口唇部に磨消縄文と沈線文を施す。56は、胴部に磨消縄文と沈線文を施し、文様帯の上部に連点文が加わる。

Ⅸ類土器（第12図）

57は、従来中ノ原タイプと呼ばれてきたものに該当する。胴部に磨消縄文と沈線文を施す。

Ⅹ類土器（第12図）

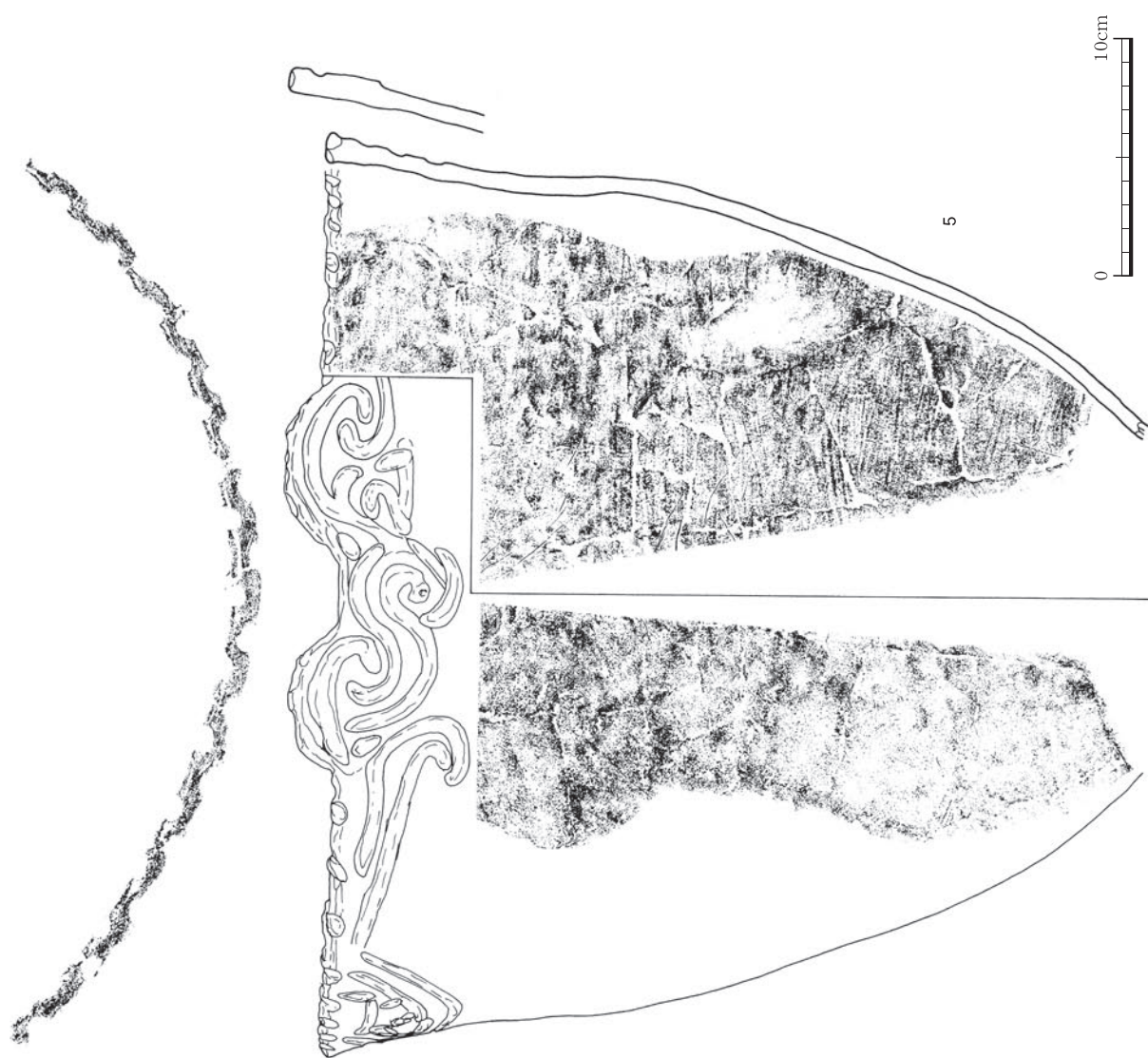
58～64は、従来西平式土器と呼ばれてきたものに該当する。胴部に磨消縄文と沈線文を施し、文様帯の上部に連点文が加わる。

旧石器時代 石器観察表

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
						cm	cm	cm	g	
第4図	1	ナイフ形	S-4	VIII	頁岩	4.0	1.5	0.9	5.51	
	2	細石刃核	R-4	I	黒曜石（上牛鼻）	2.8	2.55	2.2	15.96	

土器観察表 1

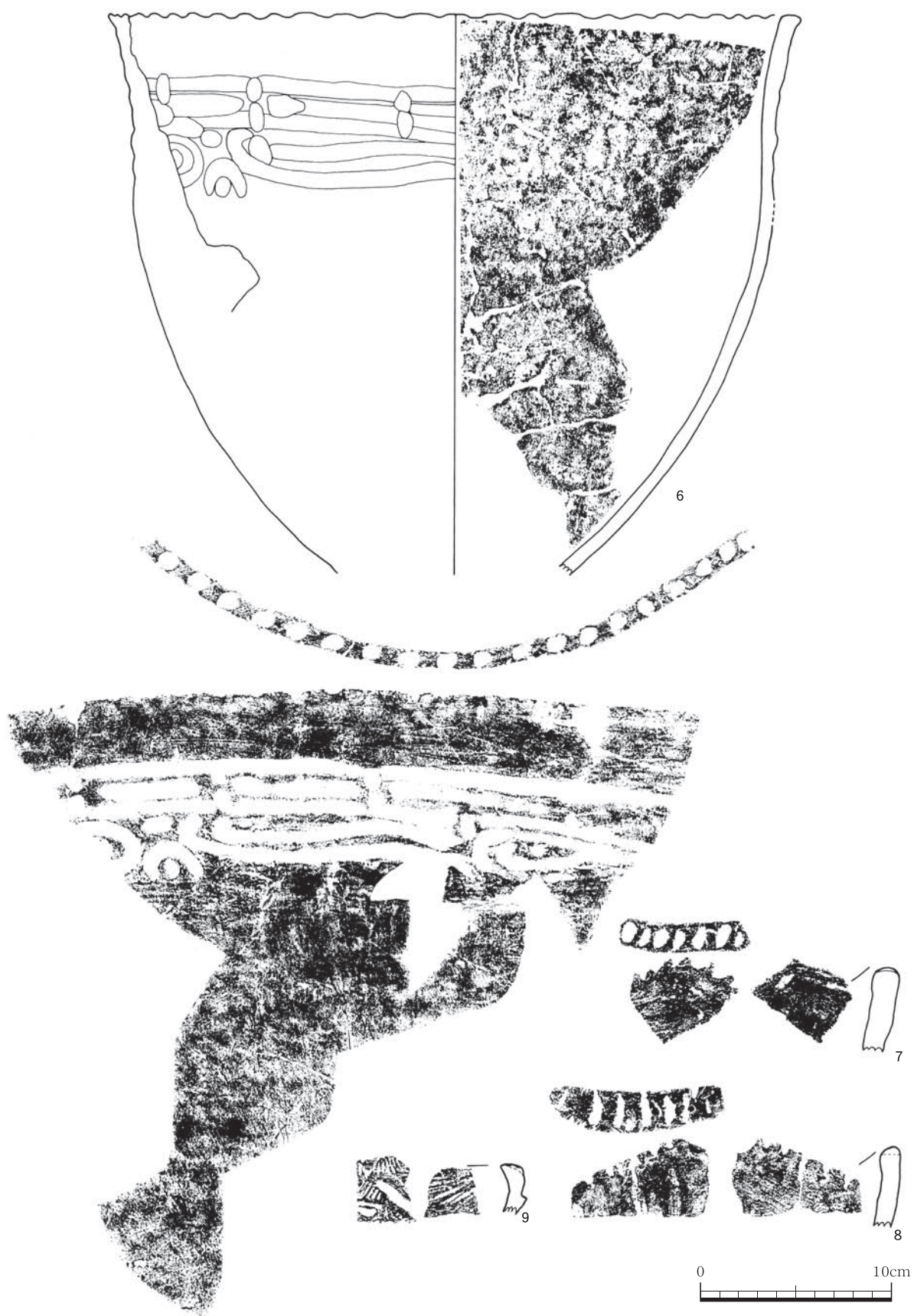
挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	類	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第5図	3	G-1	VIII	口縁部	黒褐	黒褐	○				粗	ナデ	ナデ	I	
	4	R-4	III	口縁部	明赤褐	灰褐	○	○	○	軽石	良	貝殻刺突文・ナデ	ナデ	II	
第7図	5	R-4	III	口縁～底部付近	橙～にぶい赤褐	にぶい赤褐～灰褐	○	○	○	滑石	良	ナデ	ナデ	III	スス(外)
第8図	6	Q・R-4	III	口縁～底部付近	赤橙～橙	赤橙～橙	○	○	○	滑石	良	ナデ	ナデ	III	
第9図	7	R-3	III	口縁部	橙～褐灰	にぶい赤褐	○	○	○	白粒軽石	良	ナデ	ナデ	IV	
	8	R-4	III	口縁部	明赤褐～褐灰	明赤褐～にぶい赤褐	○	○	○	滑石	良	ナデ	ナデ	IV	
	9	R-3	III	口縁部	明赤褐～にぶい赤褐	橙～黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ・条痕	V	
第10図	10	R-4	III	口縁部	橙～にぶい橙	橙	○	○		角レキ	良	ナデ	ナデ	VI	
	11	R-4	III	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		黒雲母	普通	ナデ	ナデ	VI	
	12	R-3	III	口縁部	にぶい赤褐	橙～灰褐	○	○		白粒	良	ナデ	ナデ	VII	
	13	R-4	III	口縁部	橙～灰黄褐	明赤褐～にぶい赤褐	○	○		白粒	良	ナデ	ナデ	VII	
	14	R-4	III	口縁部	橙～黒褐	にぶい赤褐～灰褐	○	○	○		良	ケズリ・ナデ	貝殻条痕	VII	スス(外)
	15	R-4	III	口縁部	にぶい赤褐	にぶい褐～黒褐	○	○	○		良	ケズリ・ナデ	貝殻条痕	VII	
	16	R-4	III	口縁部	赤橙～褐灰	橙～にぶい赤褐	○	○			良	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	VII	
	17	Q・R-4	III	口縁部	にぶい黄橙～灰黄褐	にぶい黄橙～灰黄褐		○			良	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	VII	スス(外)
	18	R-4	III	口縁部	橙	橙～にぶい赤褐	○	○			優良	ナデ	ナデ	VII	
	19	R-3	III	口縁部	橙	橙～灰褐	○	○			良	ナデ	ナデ	VII	
	20	R-3	III	口縁部	暗赤褐	橙～にぶい赤褐	○	○		白粒	良	ナデ	ナデ	VII	
	21	Q-4	III	口縁部	橙	にぶい赤褐～暗赤灰	○	○	○		良	ナデ	ナデ	VII	
第11図	22	R-4	III	口縁部	明赤褐～灰褐	明赤褐～灰褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ・ナデ	VII	
	23	R-4	III	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	VII	
	24	Q-4	III	口縁部	明赤褐～暗赤灰	にぶい赤褐～暗赤褐	○	○		粒	良	ナデ	ナデ	VII	
	25	R-4	III	口縁部	にぶい黄褐～灰黄褐	橙～にぶい赤褐	○	○		粒	良	ナデ	ケズリ・ナデ	VII	スス(外)
	26	R-4	III	口縁部	にぶい橙～褐灰	にぶい赤褐～灰褐	○	○			良	ナデ	ナデ	VII	スス(外)
	27	R-4	III	口縁部	橙	にぶい赤褐～褐灰	○	○		軽石	普通	ナデ	ナデ	VII	
	28	R-4	III	口縁部	橙	橙～灰褐	○	○		金雲母	良	ナデ	ケズリ・ナデ	VII	
	29	R-4	III	口縁部	にぶい赤褐～灰褐	橙～にぶい赤褐	○	○		礫	良	貝殻条痕文後ナデ	貝殻条痕文後ナデ	VII	
	30	R-4	III	口縁部	橙～明黄褐	橙		○			良	貝殻条痕文後ナデ	貝殻条痕文後ナデ	VII	
	31	Q・R-4 R-3	III	口縁部	橙～にぶい赤褐	明赤褐	○	○		粒	良	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	VII	
	32	R-3	III	口縁部	橙～灰褐	橙～灰褐	○	○	○		良	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	VII	
	33	Q-4	III	口縁部	明黄褐～褐灰	にぶい褐	○	○		粒	普通	ナデ	ナデ	VII	
	34	R-4	III	口縁部	明赤褐～暗赤灰	橙～明赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文後ナデ	貝殻条痕文	VII	
	35	R-4	III	口縁部	橙	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕・ヘラ斜刻み	貝殻条痕文後ナデ	VII	
	36	Q-4	III	口縁部	黄褐	明黄褐～にぶい黄褐	○			軽石	普通	ナデ	ナデ	VII	
	37	R-4	III	口縁部	橙～にぶい黄橙	橙～にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	VII	
	38	R-4	III	口縁部	にぶい橙～灰褐	橙～明黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	VII	
	39	R-4	III	口縁部	にぶい赤褐	橙～黒褐	○	○	○		良	貝殻条痕	ナデ	VII	
	40	R-4	III	口縁～底部付近	黄橙～灰黄褐	橙～にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	VII	スス(外)
	41	Q・R-4	III	口縁～胴部	明黄褐～黒褐	黄橙～灰黄褐	○	○			普通	ナデ	ナデ	VII	
第12図	42	Q・R-4	III	口縁部	橙～にぶい黄橙	明赤褐～にぶい黄橙	○	○		白粒軽石	良	ケズリ・ナデ	ナデ	VII	
	43	R-3	III	口縁部	暗赤褐	にぶい赤褐～暗赤灰	○	○		白粒	良	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	VII	
	44	Q-3	III	口縁部	明赤褐～にぶい黄褐	明赤褐～暗褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	VII	
	45	R-4	III	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙～にぶい黄褐	○	○		粒・礫	良	ナデ・条痕	ケズリ・条痕	VII	
	46	R-4	III	口縁部	明赤褐～黒褐	にぶい褐～黒褐		○	○		良	貝殻条痕	貝殻条痕	VII	スス(外)
	47	Q・R-4	III	口縁部	明赤褐～黒褐	にぶい赤褐～黒褐	○	○	○		良	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	VII	スス(外)
	48	R-3	III	口縁部	にぶい赤褐～暗赤褐	にぶい赤褐	○	○		白粒	良	ナデ	ナデ	VII	
	49	R-3	III	口縁部	にぶい黄褐～黒褐	褐～黒褐	○	○	○	白粒	良	ナデ	ナデ	VII	
	50	J-1	III	口縁部	灰褐～黒褐	明赤褐～灰褐	○	○	○		普通	ナデ	ナデ	VII	
	51	Q・R-4	III	底部	にぶい赤褐	橙～にぶい赤褐	○	○		白粒・礫	普通	ナデ	ナデ	VII	
	52	R-4	III	底部	橙～明赤褐	橙	○	○		白粒・礫	普通	ナデ	ナデ	VII	木の突圧痕
	53	R-3	III	口縁部	にぶい黄橙～黒褐	橙～にぶい赤褐	○			白粒	良	ナデ	ナデ	VII	スス(外)
	54	R-4	III	口縁部	にぶい橙～褐灰	にぶい橙～褐灰	○	○		方解石	良	ナデ	ケズリ・ナデ	VII	
	55	R-4	III	口縁部	にぶい赤褐～黒褐	橙～黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ・ミガキ	VIII	
	56	R-3・4	III	頸部	黒褐～黒	浅黄～にぶい黄橙	○	○		粒・礫	良	ナデ	ナデ・ミガキ	VIII	
	57	Q-4	III	胴部	にぶい赤褐～灰褐	にぶい赤褐～褐	○	○	○	方解石	良	ナデ	ナデ	IX	
	58	R-4	III	胴部	黄褐～黒褐	橙	○	○		白粒・礫	良	ナデ	ナデ・ミガキ	X	
	59	R-4	III	頸部	灰黄褐～黒褐	にぶい黄橙～にぶい黄褐	○	○		黒曜石	良	ナデ・連点	ナデ・ミガキ	X	
	60	R-4	III	頸部	褐～黒褐	にぶい赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ	X	
	61	R-4	III	胴部	黒褐	にぶい黄褐～にぶい黒褐	○	○			良	沈線・沈線内刺突文	ナデ	X	
	62	R-4	III	頸部	黒褐	にぶい黒褐	○	○			良	沈線・沈線内刺突文	板ナデ	X	
	63	R-4	III	口縁部	黒褐	にぶい褐	○	○			良	沈線	板ナデ	X	
	64	Q-4	III	口縁部	黒褐	にぶい赤褐	○	○			良	沈線	板ナデ	X	



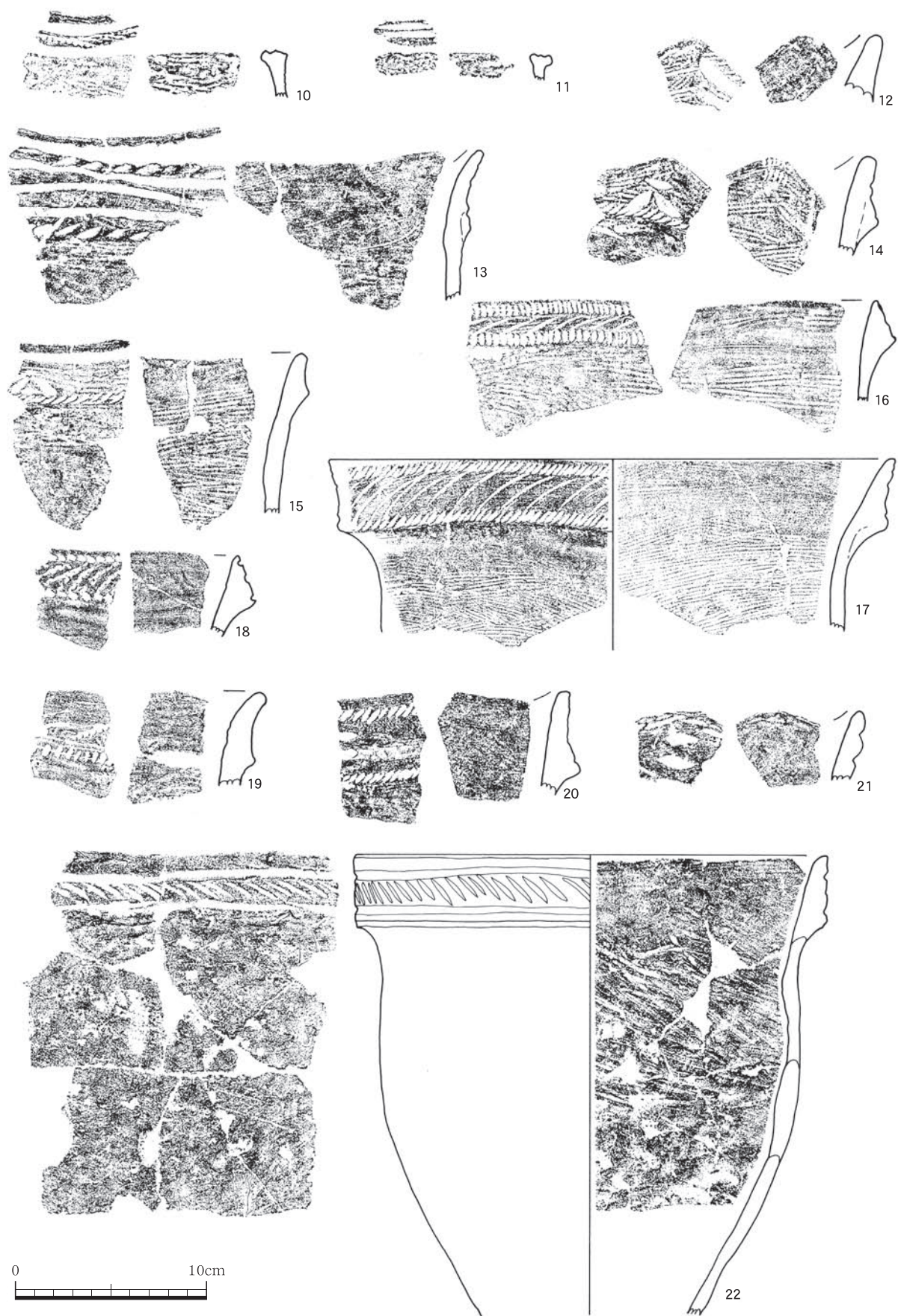
第7図 Ⅲ類土器 1 - 1



第8図 III類土器1-2



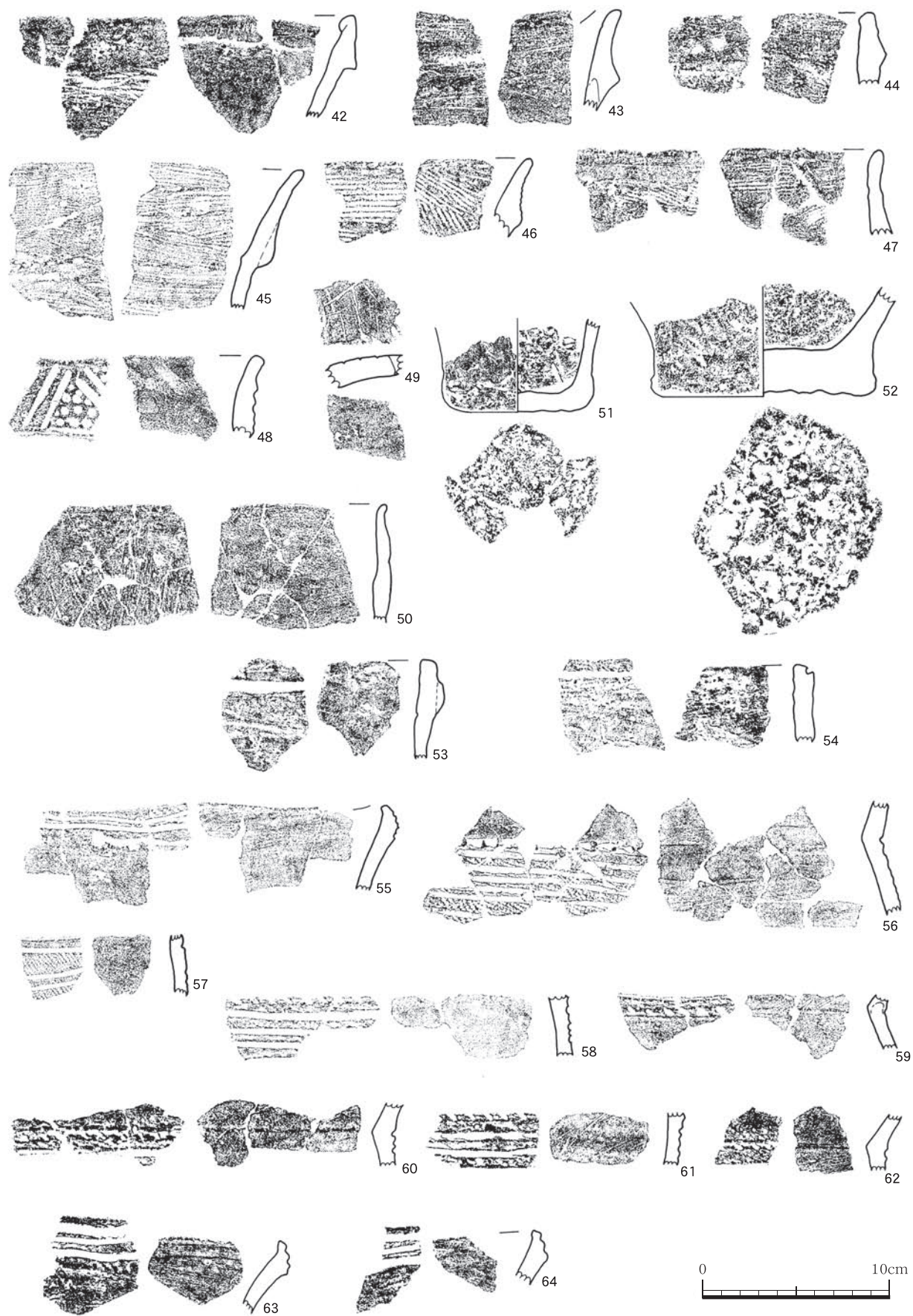
第9図 III類土器2・IV類土器・V類土器



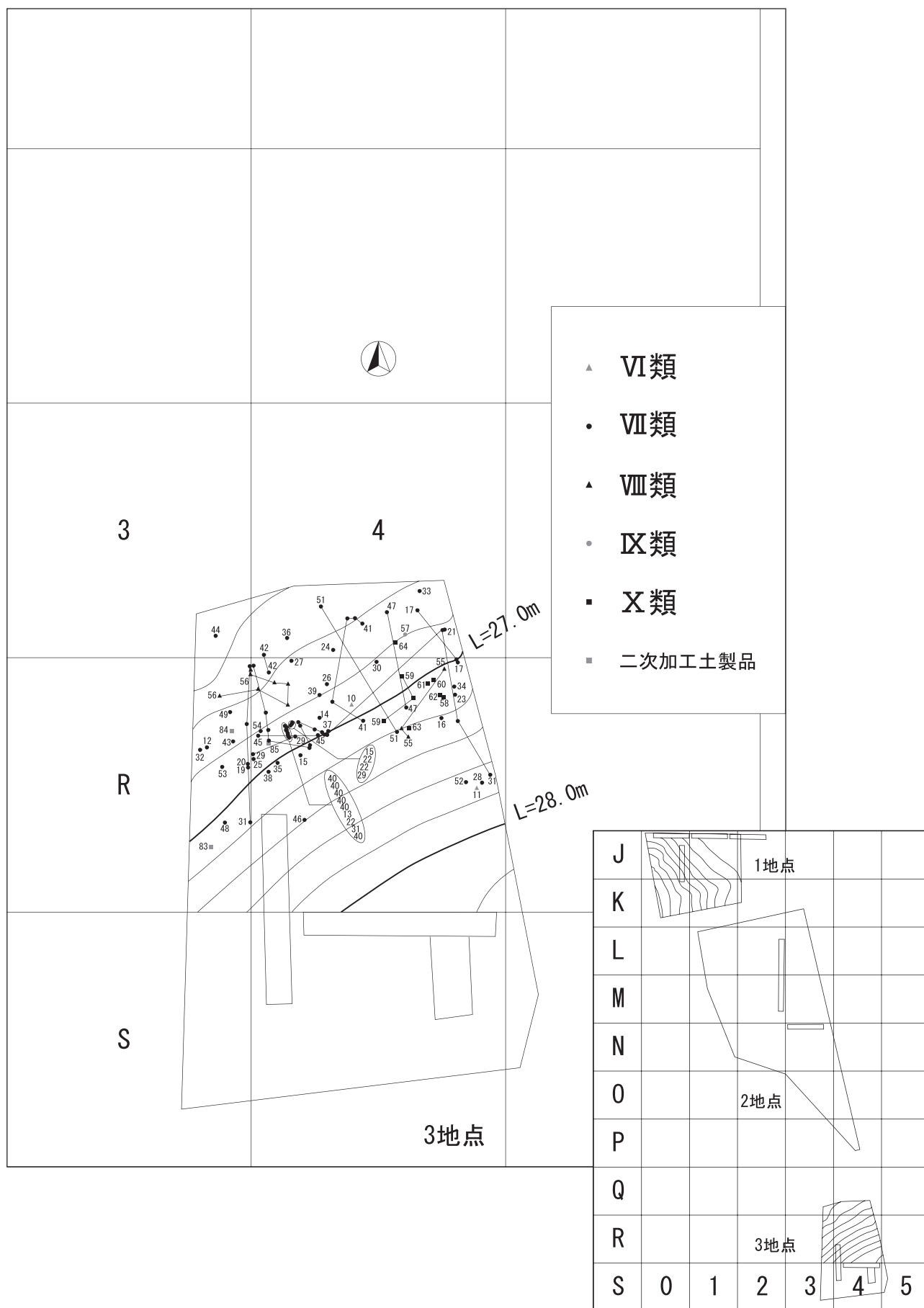
第10図 VI類土器・VII類土器 1



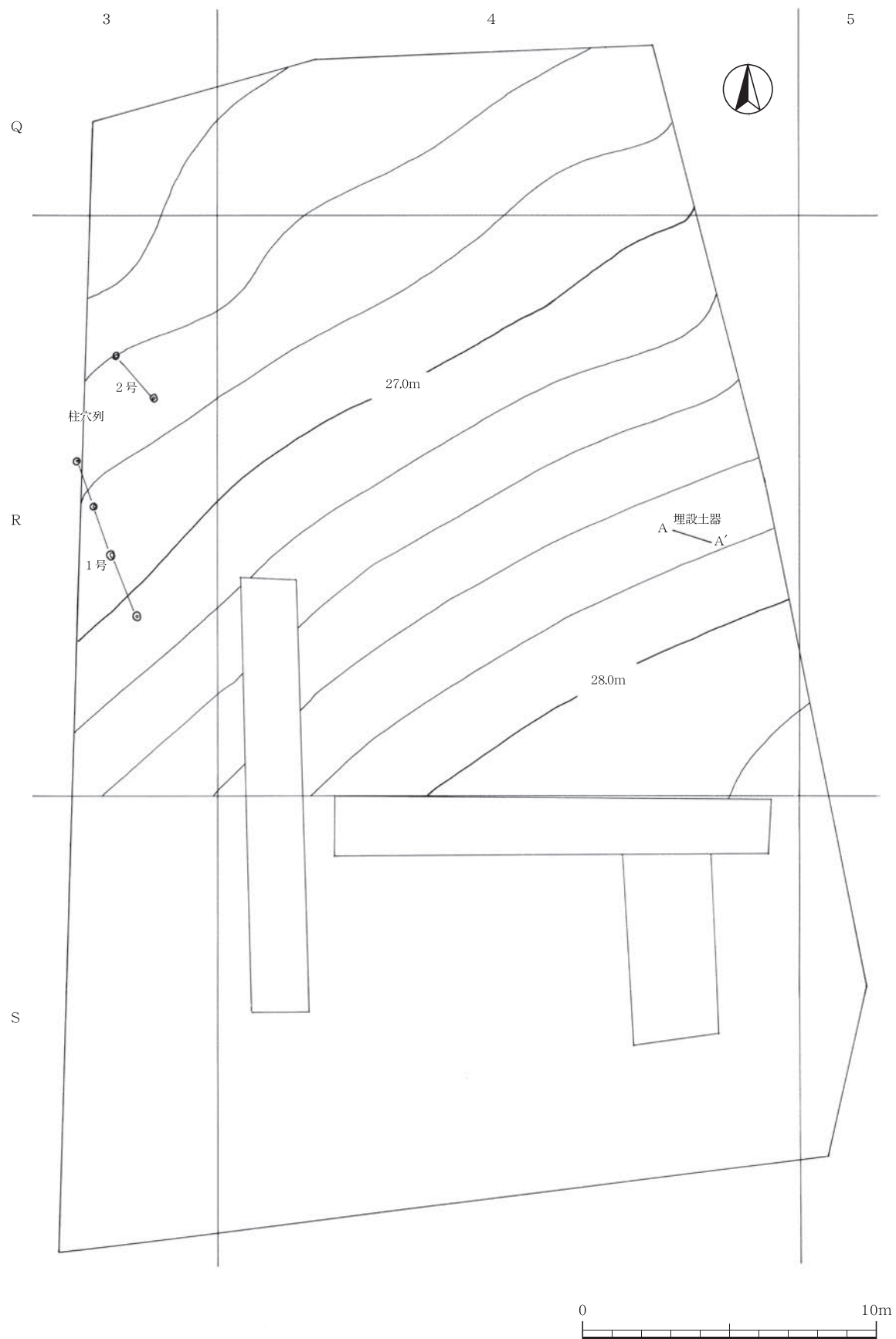
第11図 VII類土器 2



第12図 VII類土器 3・VIII類土器・IX類土器・X類土器



第13図 縄文時代後期（VI～X類）土器出土状況（1グリッド：20m）



第14図 縄文時代晩期遺構配置図

5 縄文時代晩期の調査

(1) 遺構

柱穴列（第15図）

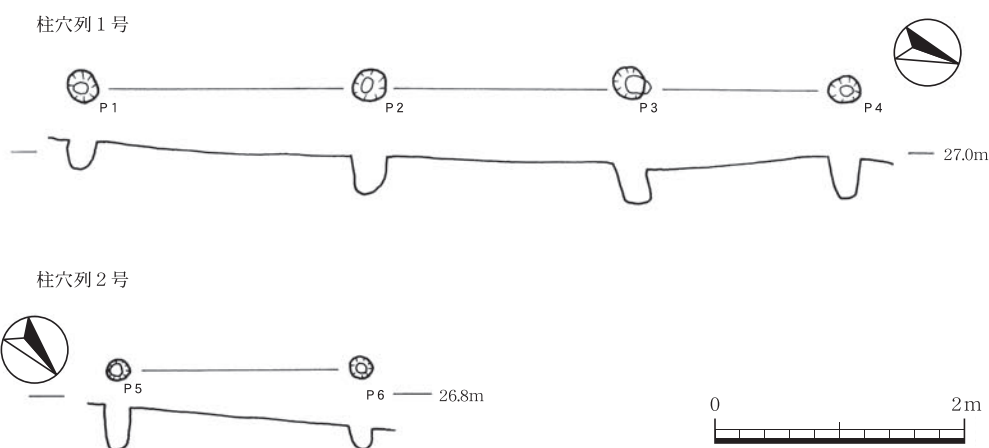
柱穴列は農業開発センター遺跡群においてはよく見られる遺構である。南原内堀遺跡では2個以上の柱穴が直線上に並んでいるものを人為的な遺構としてとらえた。2つの列ともほぼ直線に並ぶ柱穴列である。また、2つの柱穴列は、ほぼ平行に並んでいる。柱穴列の延長部分も調査したが、柱穴等の遺構は、確認できなかった。遺構の時期は、柱穴内の埋土が共通してほぼⅡ層の黒色土であることや、周囲の出土遺物から、縄文時代晩期であると考えられる。

1号柱穴列

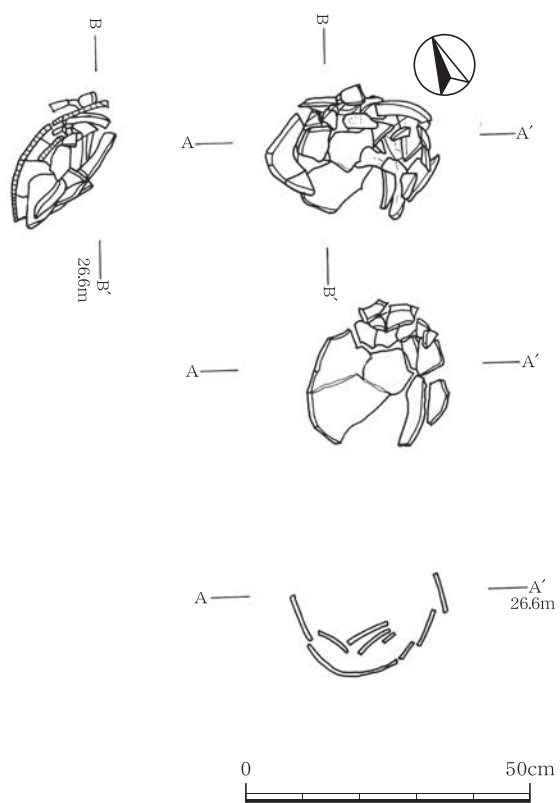
柱穴番号	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	23	25	24	円
2	30	26	25	円
3	23	25	24	円
4	32	25	21	楕円
平均	27	25.25	23.5	
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)	
P1 ~ P2	230	191.67	575	
P2 ~ P3	180			
P3 ~ P4	165			

2号柱穴列

柱穴番号	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
5	35	18	17	円
6	18	18	17	円
平均	26.5	18	17	
柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)	
P5 ~ P6	193			



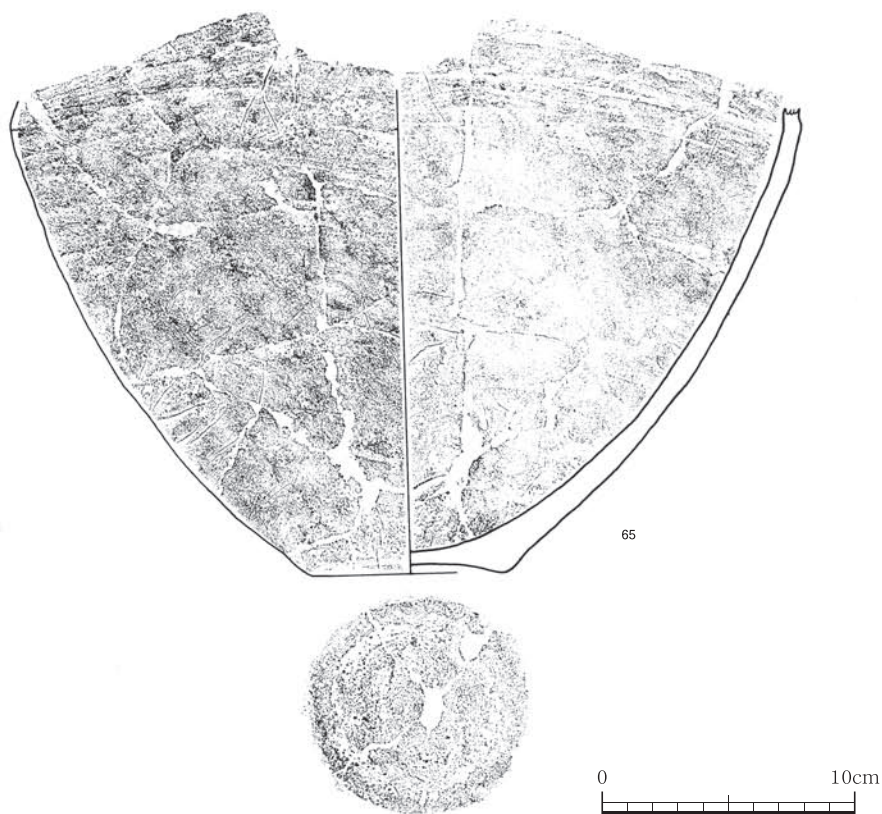
第15図 柱穴列



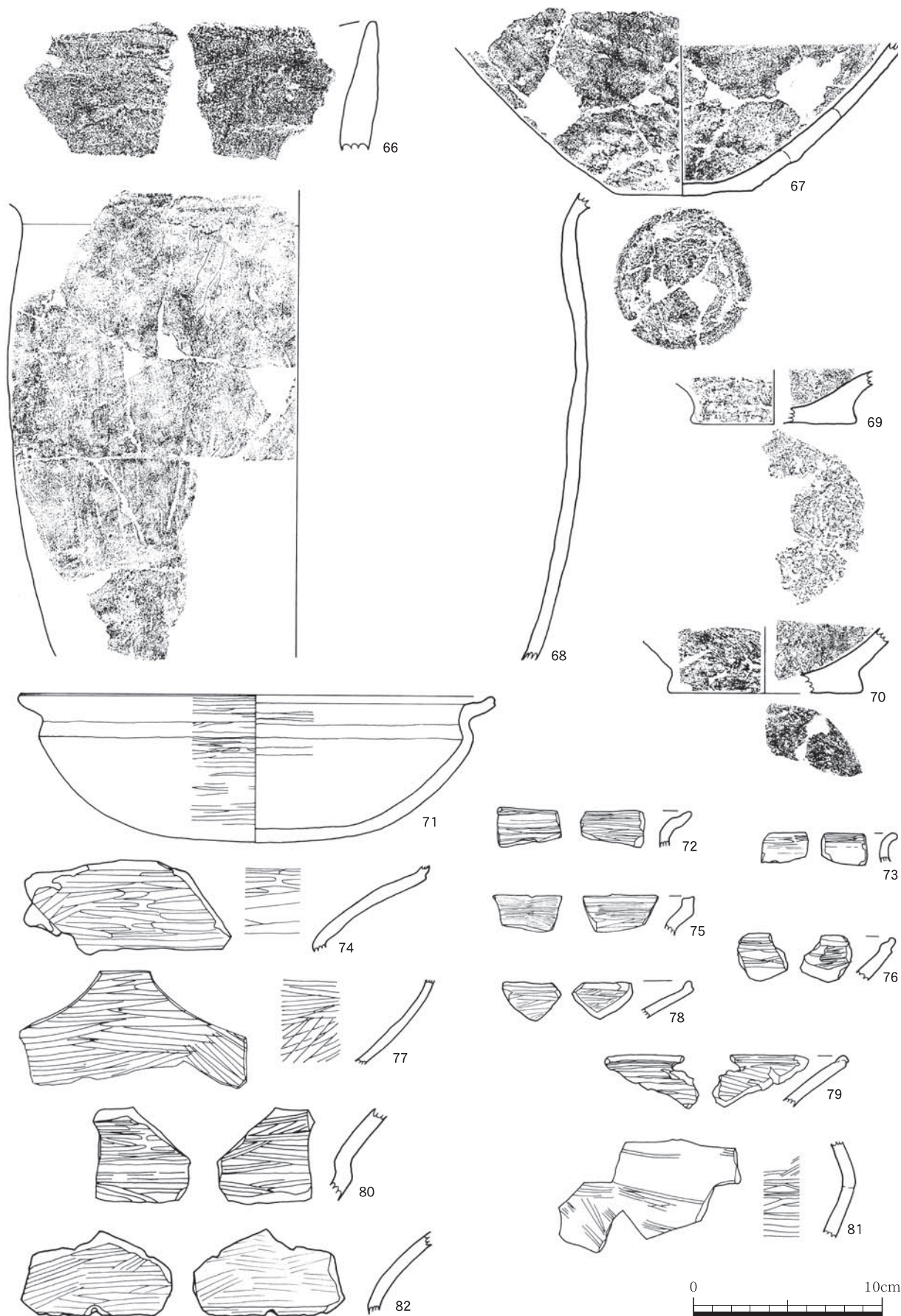
埋設土器（第16図）

R－4区のⅢ層で、底部を横にした状態で検出された。当時の掘り込み面は、確認できなかった。

口縁部は、欠損していたが、残存していた胴部の屈曲部分から底部までを復元することができた。挿図土器番号65で、最大径31.0cm，底径8.0cmの粗製の深鉢形土器である。



第16図 埋設土器



第17図 XI類土器

(2) 遺物（土器）

晩期の遺物は、1地点、3地点で出土した。

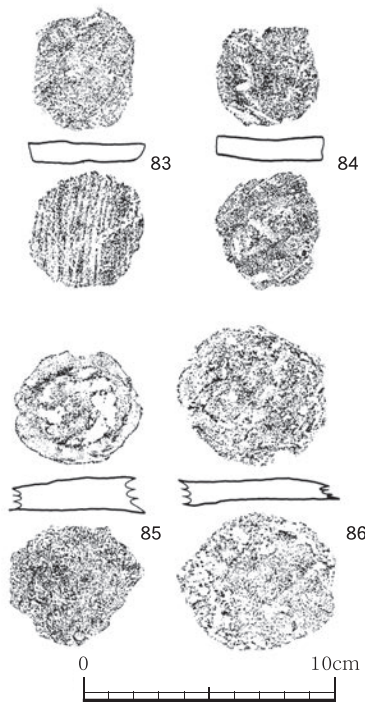
XI 類土器（第17図）

66～70は、粗製の深鉢形土器と思われる。66は、直行する口縁部である。67は、底径8cmで胴部まで残存していた。68は、口縁部と底部は、欠損していたが、頸部から底部付近まで残存しており、最大径31cmである。69・70の底部は、器底が比較的薄く、内湾しながら窄まり、器底の張り出しが小さいものである。

71～82は、精製浅鉢形土器である。71は、口径25.0cm、器高8cmの黒色研磨の精製浅鉢の全形を復元することができた。

二次加工土製品（第18図）

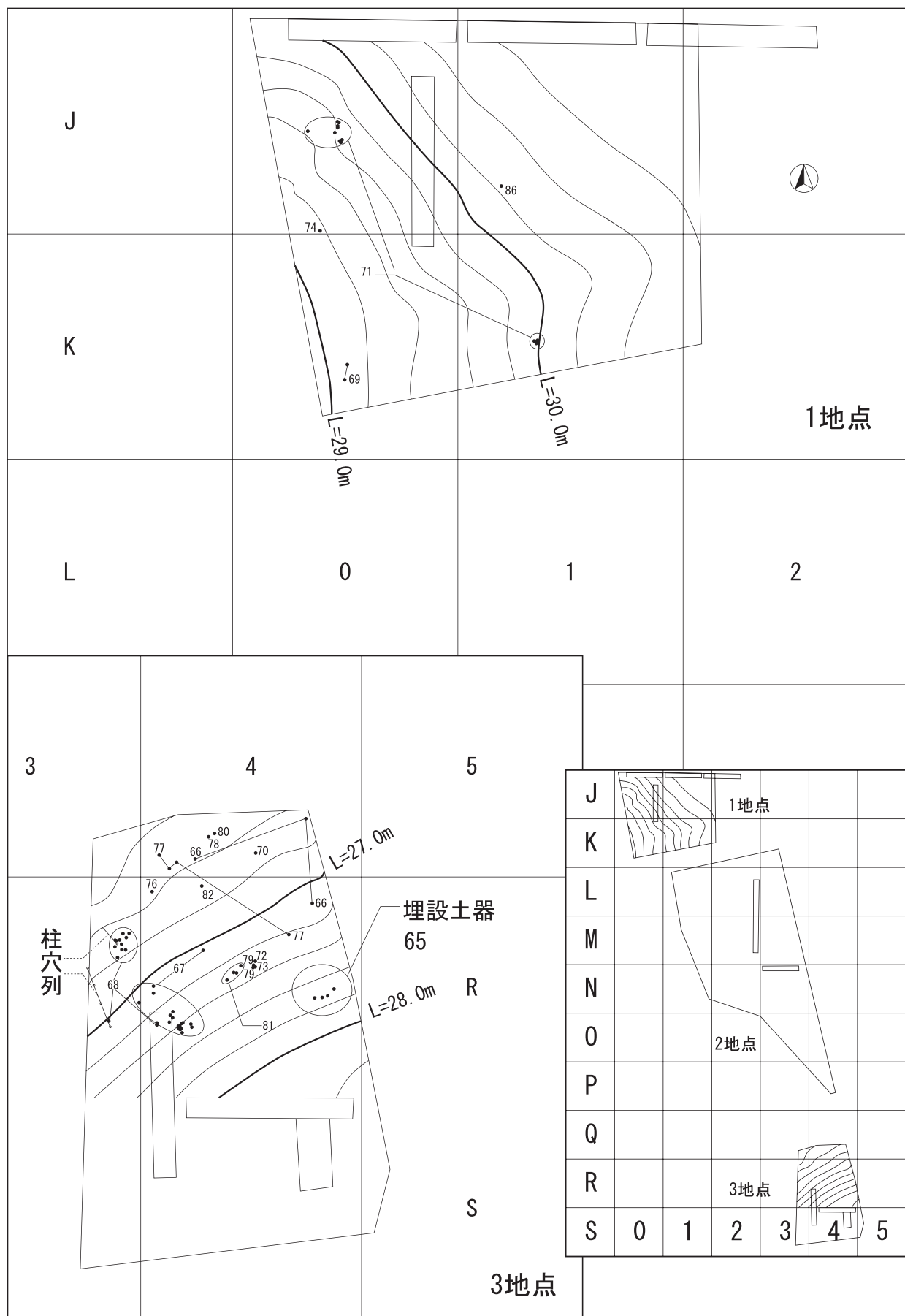
83～86は、土器片を加工したもの一般にメンコと呼ばれているものである。貝殻条痕がある土器片があることなどから、縄文時代後期の土製品である可能性が高い。83は、厚さ約0.6cmの土器片を、円形に近い5×4.5cmの形態に両面から打ち欠き、打ち欠き面は擦っている。84は、厚さ約0.8cmの土器片を、方形に近い4.2×4.1cmの形態に両面から打ち欠き、打ち欠き面は擦っている。85・86は、底部を転用したと思われる。85は、厚さ約1.1cmの土器片を、円形に近い5.6×5.2cmの形態に両面から打ち欠き、打ち欠き面は擦っている。86は、厚さ約0.7cmの土器片を、円形に近い6.1×5.6cmの形態に両面から打ち欠き、打ち欠き面は擦っている。



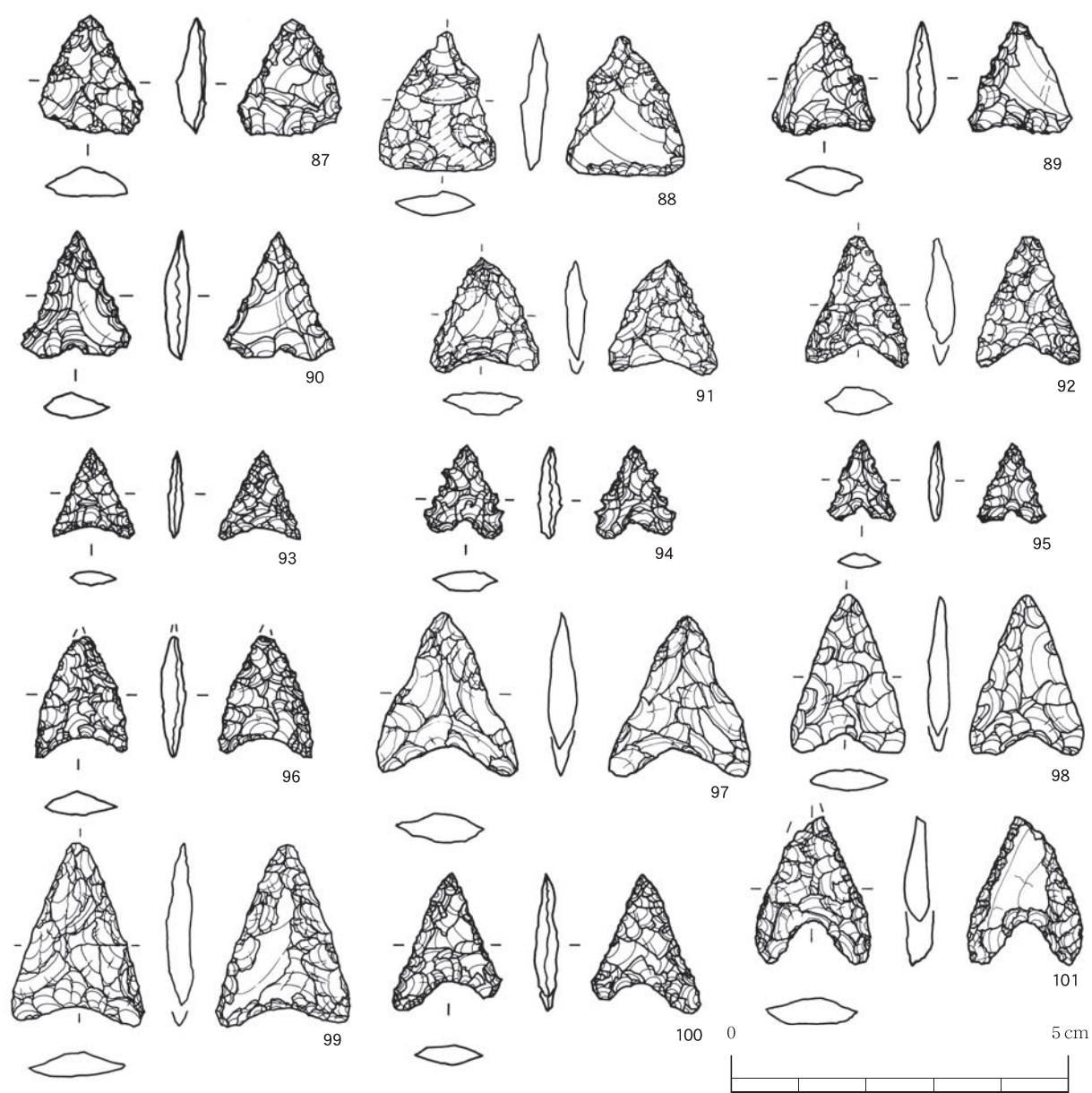
第18図 二次加工土製品

土器観察表 2

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	類	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第17 図	65	R-4	Ⅲ	底～胴部	明赤褐～黒褐	橙～黒褐	○	○		軽石	良	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデミガキ	XI	埋設土器・スス(外)
	66	Q-R-4	Ⅲ	口縁部	にぶい橙～灰黄褐	橙～にぶい黄褐	○	○	○	軽石	良	ナデ	ナデ	XI	
	67	R-3・4	Ⅲ	底～胴部	にぶい黄橙～褐灰	橙	○	○	○	礫	良	ケズリ・ナデ	ナデ	XI	
	68	R-3・4	Ⅲ	頸～胴部	橙～褐灰	橙～黒褐	○	○	○		良	ケズリ・ナデ	ナデ	XI	
	69	K-O	Ⅲ	底部	暗灰黄～黄灰	橙～灰褐	○	○	○	礫	良	ナデ	ケズリ・ナデ	XI	
	70	Q-4	Ⅲ	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		粒	良	ナデ	ナデ	XI	
	71	K-1, J-0	Ⅲ	完形	明赤褐～黒	明赤褐～黒	○	○			優良	ミガキ	ミガキ	XI	
	72	R-4	Ⅲ	口縁部	黒	黒褐	○	○		白粒	良	ミガキ	ミガキ	XI	
	73	R-4	Ⅲ	口縁部	黒褐	にぶい赤褐～黒褐		○			良	ミガキ	ミガキ	XI	
	74	J-O	Ⅲ	口縁部	灰黄褐～黒褐	灰黄褐～黒褐	○	○		微粒	良	ミガキ	ミガキ後ナデ	XI	スス(外)
	75	R-4	Ⅲ	口縁部	赤褐～にぶい赤褐	橙～にぶい赤褐	○	○			良	ケズリ・ナデ	ナデ	XI	
	76	R-4	Ⅲ	口縁部	黒褐～黒	黒褐～黒	○	○		粒	良	ミガキ	ミガキ	XI	スス(外)
	77	Q-R-4	Ⅲ	胴部	黒褐～黒	にぶい黄褐～褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XI	
	78	Q-4	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		白粒	良	ミガキ	ミガキ	XI	
	79	R-4	Ⅲ	口縁部	橙～にぶい赤褐	橙～にぶい赤褐	○				良	ミガキ	ミガキ	XI	
	80	Q-4	Ⅲ	頸部	灰黄褐～褐灰	にぶい黄褐～黒褐	○			粒	良	ミガキ	ミガキ	XI	
第18 図	81	R-4	Ⅲ	胴部	黒褐	にぶい黄褐～黒	○	○		粒	良	ミガキ	ミガキ	XI	スス(外)
	82	R-4	Ⅲ	胴部	黒褐～黒	にぶい黄橙～灰黄褐	○	○	○	粒	良	ミガキ	ミガキ	XI	
	83	R-3	Ⅲ	メンコ	橙	褐～黒褐	○	○		粒	良	ナデ	貝殻条痕・ナデ	その他	スス少(外)
	84	R-3	Ⅲ	メンコ	橙	明赤褐	○	○		粒	良	ナデ	ナデ	その他	
	85	R-4	Ⅲ	メンコ	赤褐	褐～灰褐	○	○		白粒	良	ナデ	ナデ	その他	
	86	J-1	Ⅲ	メンコ	明赤褐～明黄褐	明赤褐	○	○		粒	良	ナデ	ナデ	その他	



第19図 縄文時代晩期（XI 類）土器出土状況（1グリッド：20m）



第21図 縄文時代石器 1

縄文時代の石器（第21図～25図）

Ⅲ層の石器は、明確な時期の特定はできなかったため、縄文時代の石器として取り扱った。石器は、1地点、3地点で出土した。

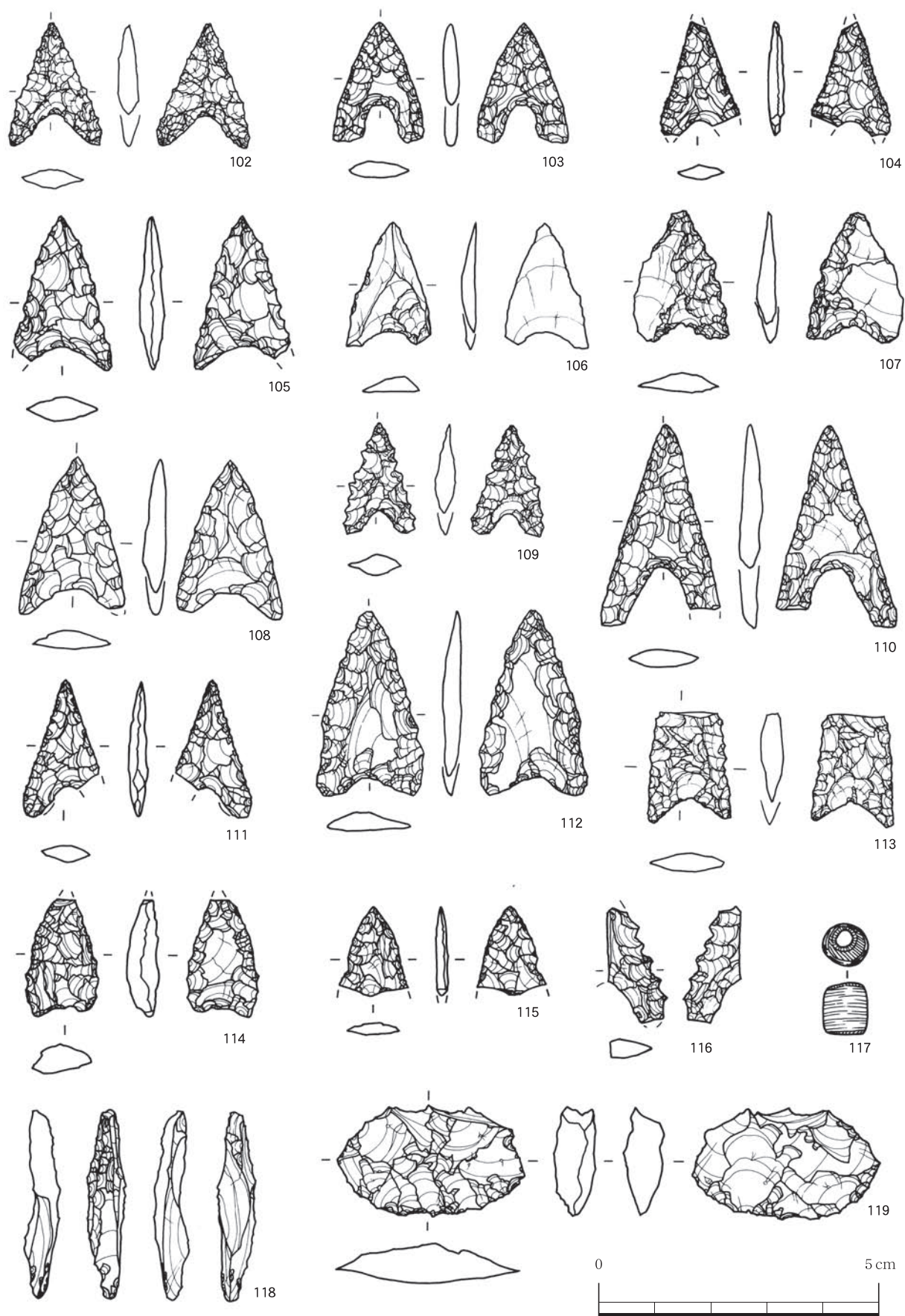
87～116は、石鏃で、30点が出土している。素材は黒曜石10点、頁岩14点、安山岩3点、蛋白石1点、瑪瑙1点、鉄石英1点である。その内、黒曜石は、肉眼観察によると上牛鼻産に類似するものが1点、北西九州系（椎葉川産系2点、針尾・淀姫産系2点、腰岳5点）に類似するものが9点出土している。

分類は、P187の石鏃分類表をもとに分類した。

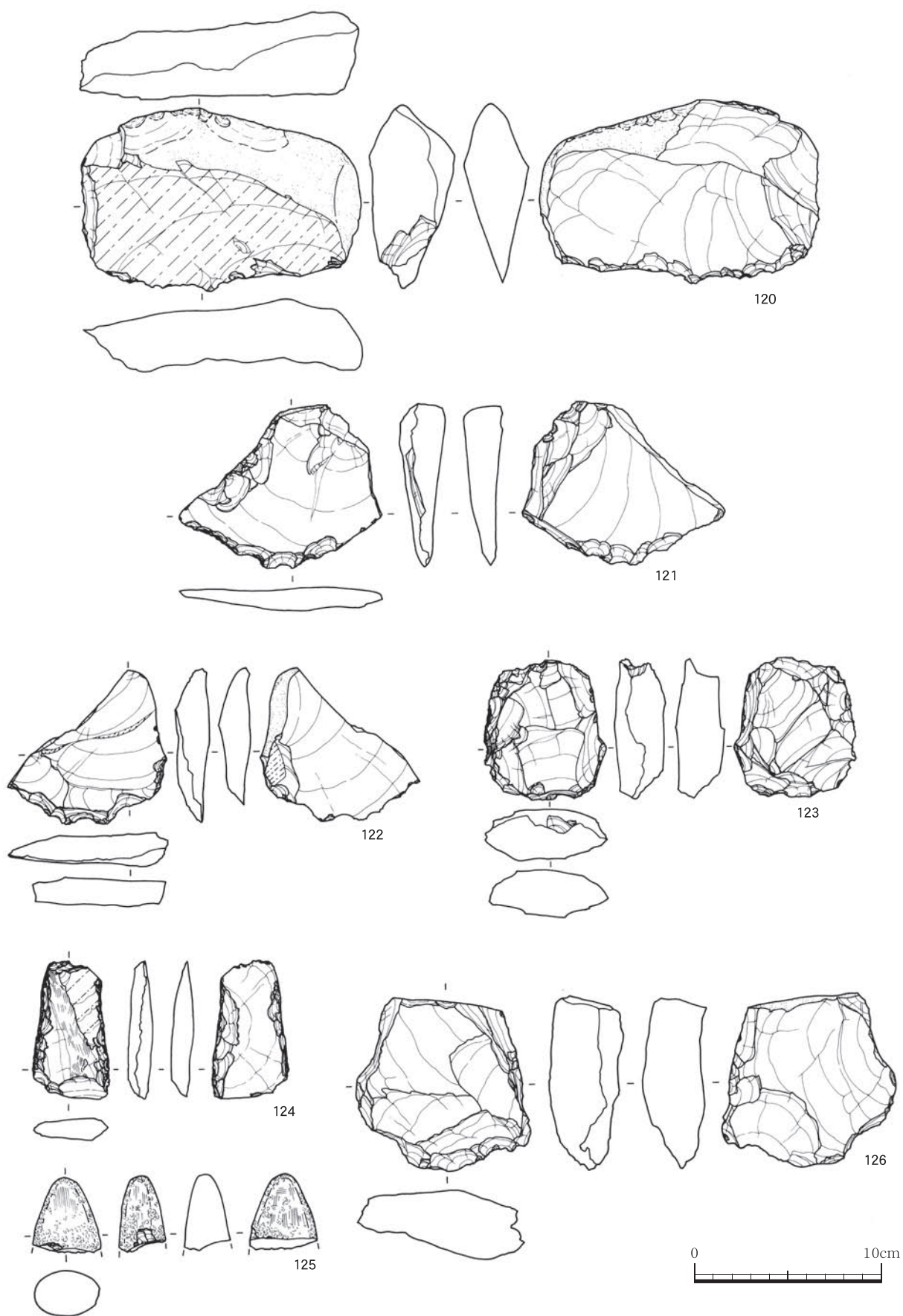
石鏃は打製で、ほとんどのものが入念な交互剥離により調整されている。30点中16点が破損しており、先端部が破損しているものは6点、基端の片方が破損しているものは7点、基端の両方が破損しているものは3点、形状が不明なものが1点である。

117の小玉は、結晶片岩様緑色岩で、諏訪前遺跡でも出土している。直径0.8cm、長さ0.93cmで、中心からややずれて直径0.4cmほどの孔があいている。

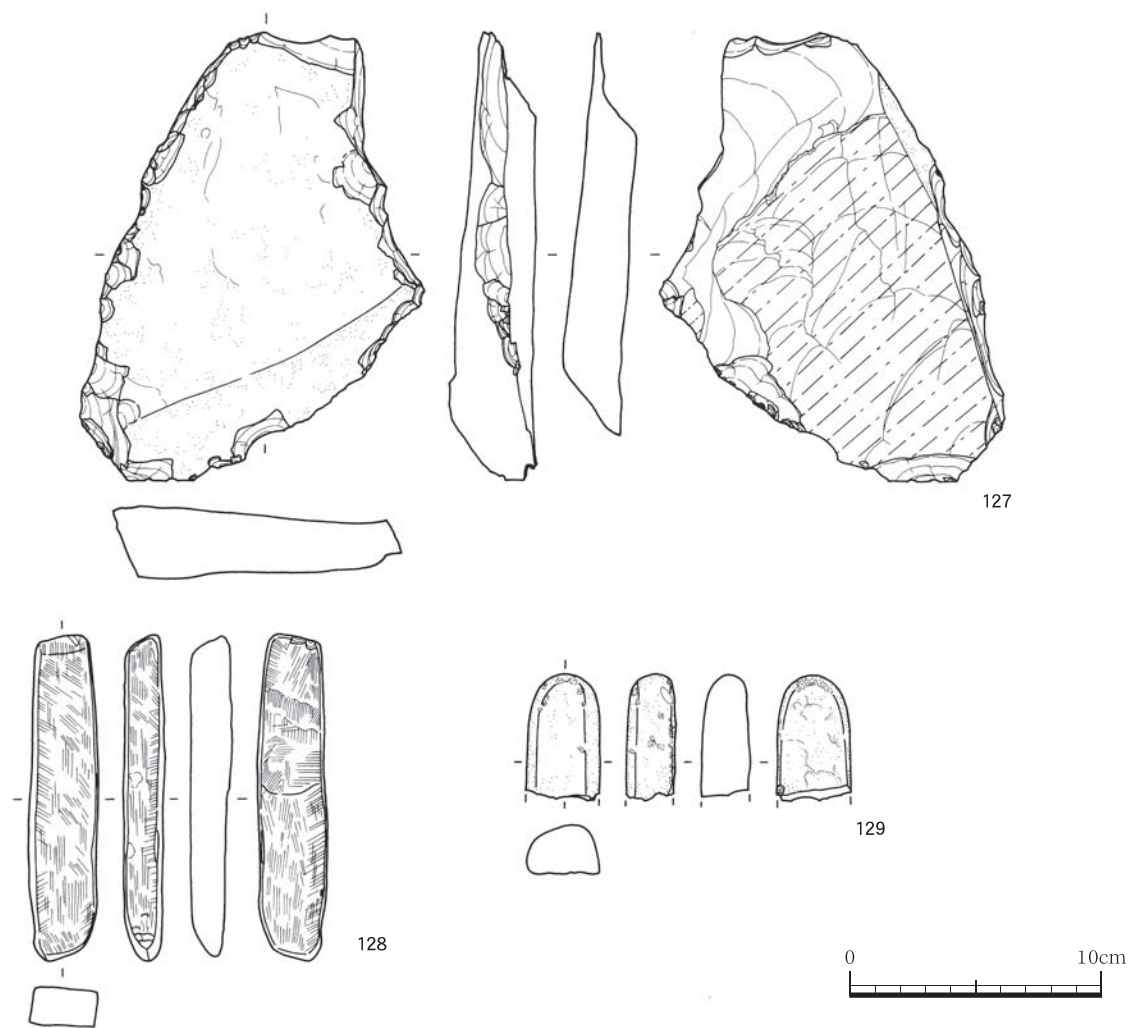
118は、蛋白石製の石鏃である。側縁部及び先端部に掛けて使用痕が認められている。



第22図 縄文時代石器 2



第23図 縄文時代石器 3



第24図 縄文時代石器 4

119～122は、横型のスクレイパーである。119は、黒曜石製で、両面から細かな交互剥離が施され、細かな段をつけて刃部を形成している。黒曜石の原産地は、肉眼観察によると、腰岳産系のものであると思われる。120は、頁岩製の大型のスクレイパーとしたが、礫器としても考えられる。自然の節理面を残し、片面から細かな交互剥離が施され、細かな段をつけて刃部を形成している。121は、頁岩製で自然の節理面を残し、両面から細かな交互剥離が施され、細かな段をつけて刃部を形成している。122は、頁岩製で、背面に自然面を残し、片面を剥離調整し、刃部を形成している。

123は、安山岩製の打製石斧である。未完成品が折損していると思われる。

124は、安山岩製の打製石斧の基部である。刃部

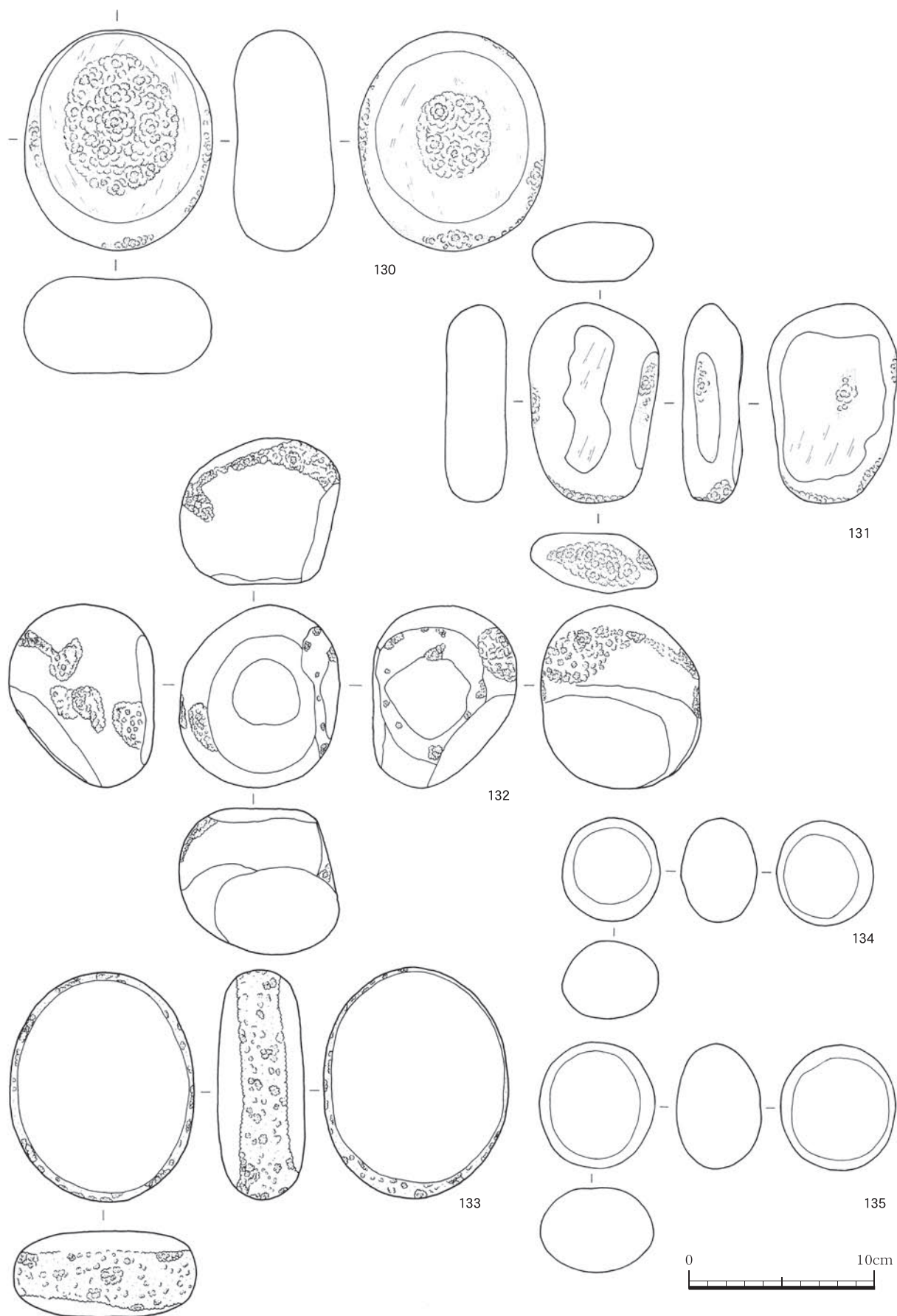
の部分は折損しており、自然の節理面を残し、側縁部及び先端部に掛けて交互剥離が施されている。

125は、泥岩製の磨製石斧の基部である。全体に研磨痕が見られ、側縁部・先端部ともに研磨による明瞭な稜の形成が見られる。

126・127は、安山岩製の礫器である。敲打による刃部調整を行っている。

128・129は、敲石である。128は、安山岩製である。棒状で、全体を磨いて成形しており、先端部の両端に敲打痕が見られる。129は、頁岩製で、一部欠損しており、頭部の背面側に使用面が見られる。

130～135は、磨石と思われる。石材は、砂岩や安山岩のものが多い。130～133は、磨石と敲石の機能を持ったものである。134・135は、磨石の機能のみ持つものである。



第25図 縄文時代石器 5

縄文時代石器観察表

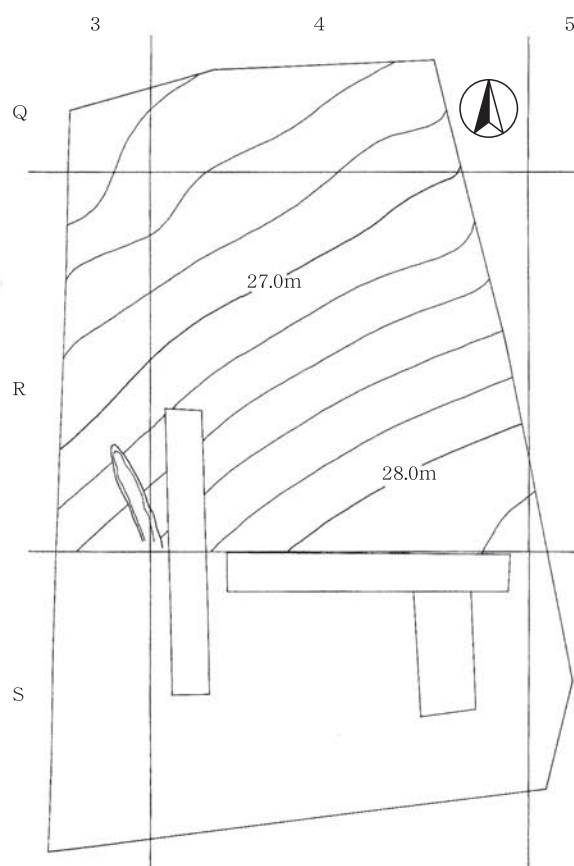
挿図 番号	番号	器種	出土区	層位 遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	
						cm	cm	cm	g	分類	破損部分
第 21 図	87	石鏃	R-3	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.67	1.47	0.40	0.77	A a a	基端の片方
	88	石鏃	Q-3	Ⅲ	頁岩	2.00	1.20	0.30	1.10	A a a	
	89	石鏃	Q-4	Ⅲ	黒曜石(針尾・淀姫)	1.62	1.47	0.40	0.77	A a a	
	90	石鏃	Q-4	Ⅲ	安山岩	1.85	1.60	0.40	0.71	A a b	基端の片方
	91	石鏃	Q-4	Ⅲ	頁岩	1.40	1.10	0.20	0.73	A a b	
	92	石鏃	K-1	Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	1.60	1.00	0.40	0.71	A a b	先端
	93	石鏃	K-0	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.28	1.18	0.20	0.18	A a b	
	94	石鏃	K-0	Ⅲ	黒曜石(椎葉川)	1.20	1.09	0.30	0.31	A a b	基端の片方
	95	石鏃	R-4	Ⅲ	黒曜石(椎葉川)	1.17	1.00	0.20	0.16	A a b	
	96	石鏃	R-3	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.22	1.35	0.35	0.60	A a b	先端
	97	石鏃	Q-4	Ⅲ	頁岩	2.00	1.30	0.40	1.34	A a b	
	98	石鏃	Q-3	Ⅲ	頁岩	2.00	1.10	0.30	0.84	A a b	
	99	石鏃	Q-4	Ⅲ	頁岩	2.40	1.40	0.30	1.67	A a b	
第 22 図	100	石鏃	R-4	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	2.02	(1.55)	0.30	0.64	A a c	基端の片方
	101	石鏃	R-4	Ⅲ	鉄石英	1.40	1.30	0.40	1.16	A a c	先端
	102	石鏃	J-0	Ⅲ	頁岩	1.60	1.10	0.30	0.67	A a c	
	103	石鏃	J-1	Ⅲ	頁岩	1.50	1.00	0.20	0.62	A a c	
	104	石鏃	R-4	Ⅲ	安山岩	1.98	1.40	0.30	0.55	A b b	先端・基端の両方
	105	石鏃	Q-4	Ⅲ	頁岩	2.21	1.70	0.40	1.38	A b b	基端の片方
	106	石鏃	J-0	Ⅲ	頁岩	1.90	1.00	0.20	0.69	A b b	基端の片方
	107	石鏃	Q-4	Ⅲ	瑪瑙	2.00	1.40	0.30	1.21	A b b	
	108	石鏃	R-4	Ⅲ	頁岩	2.30	1.30	0.40	1.23	A b b	
	109	石鏃	R-4	Ⅲ	黒曜石(針尾)	1.50	0.90	0.30	0.51	A b c	
	110	石鏃	K-1	Ⅲ	頁岩	2.50	1.20	0.30	1.50	A b c	基端の両方
	111	石鏃	R-3	Ⅲ	安山岩	2.95	(1.34)	0.30	0.65	A b c	基端の片方
	112	石鏃	R-4	Ⅲ	頁岩	2.90	1.50	0.30	1.84	A c b	
	113	石鏃	J-0	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.60	1.30	0.30	0.94	A c b	先端
	114	石鏃	Q-4	Ⅲ	蛋白石	2.03	1.18	0.55	1.39	C b b	先端
	115	石鏃	J-0	Ⅲ	安山岩	(1.58)	(1.20)	0.20	0.36	不明	基端の両方
	116	石鏃	R-4	Ⅲ	頁岩	1.50	0.70	0.30	0.47	不明	不明
	117	玉	R-4	Ⅲ	結晶片岩様緑色岩	0.93	0.80	0.10~0.30	0.81		
	118	石錐	Q-4	Ⅲ	蛋白石	3.37	1.18	0.70	1.05		
第 23 図	119	スクレイパー	R-4	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.95	3.30	0.70	4.34		
	120	スクレイパー	R-3	Ⅲ	頁岩	17.50	11.80	4.50	590.00		
	121	スクレイパー	J-0	Ⅲ	頁岩	8.50	10.80	2.40	155.00		
	122	スクレイパー	Q-4	Ⅲ	頁岩	7.20	7.90	1.80	97.00		
	123	打製石斧	R-3	Ⅲ	安山岩	7.40	6.30	2.60	158.00		
	124	打製石斧	R-4	Ⅲ	安山岩	7.40	4.10	0.80	45.70		
	125	磨製石斧(一部)	R-4	Ⅲ	泥岩	(4.10)	(3.70)	(2.40)	39.60		
	126	礫器	R-3	Ⅲ	安山岩	9.20	9.40	3.70	342.00		
第 24 図	127	礫器	R-4	Ⅲ	安山岩	19.80	12.60	3.20	768.00		
	128	敲石	R-4	Ⅲ	安山岩	15.40	2.80	1.40	118.00		
	129	敲石	Q-4	Ⅲ	頁岩	5.00	3.00	2.00	45.00		
第 25 図	130	磨石・敲石	R-4	Ⅲ	砂岩	11.90	10.00	5.30	950.00		
	131	磨石・敲石	Q-4	Ⅲ	砂岩	10.70	6.80	3.20	340.00		
	132	磨石・敲石	R-4	Ⅲ	砂岩	9.60	8.50	7.70	890.00		
	133	磨石・敲石	R-4	Ⅲ	安山岩	12.20	9.90	4.70	900.00		
	134	磨石	R-4	Ⅲ	安山岩	5.60	5.20	4.20	170.00		
	135	磨石	R-4	Ⅲ	安山岩	6.90	6.20	4.70	260.00		

第5節 中世の調査

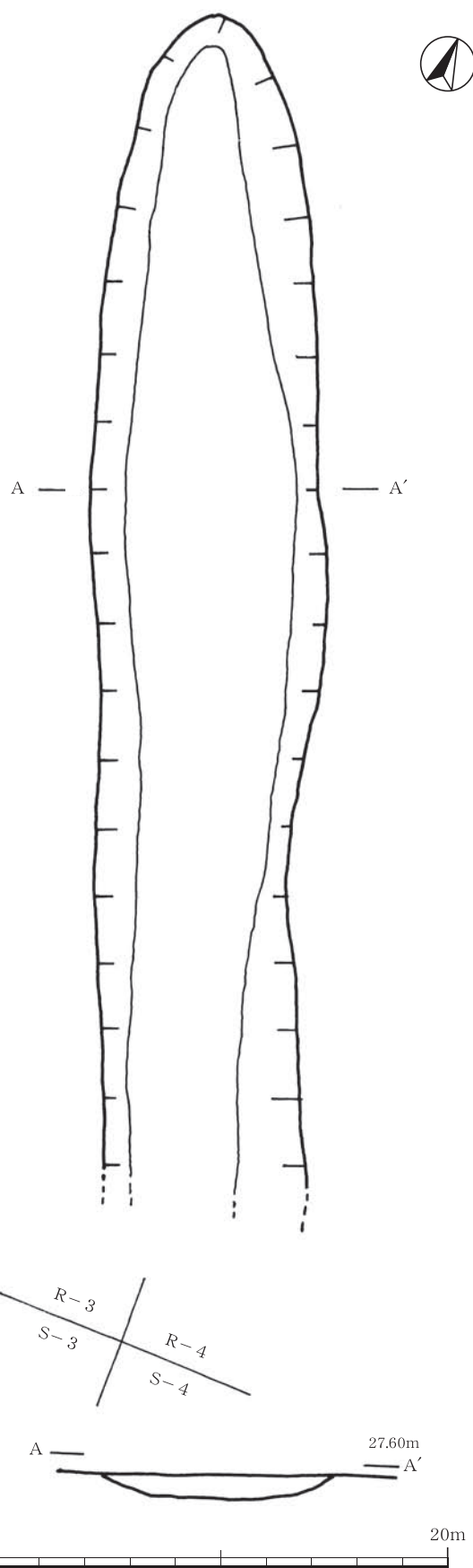
(1) 遺構

溝状遺構（第26図）

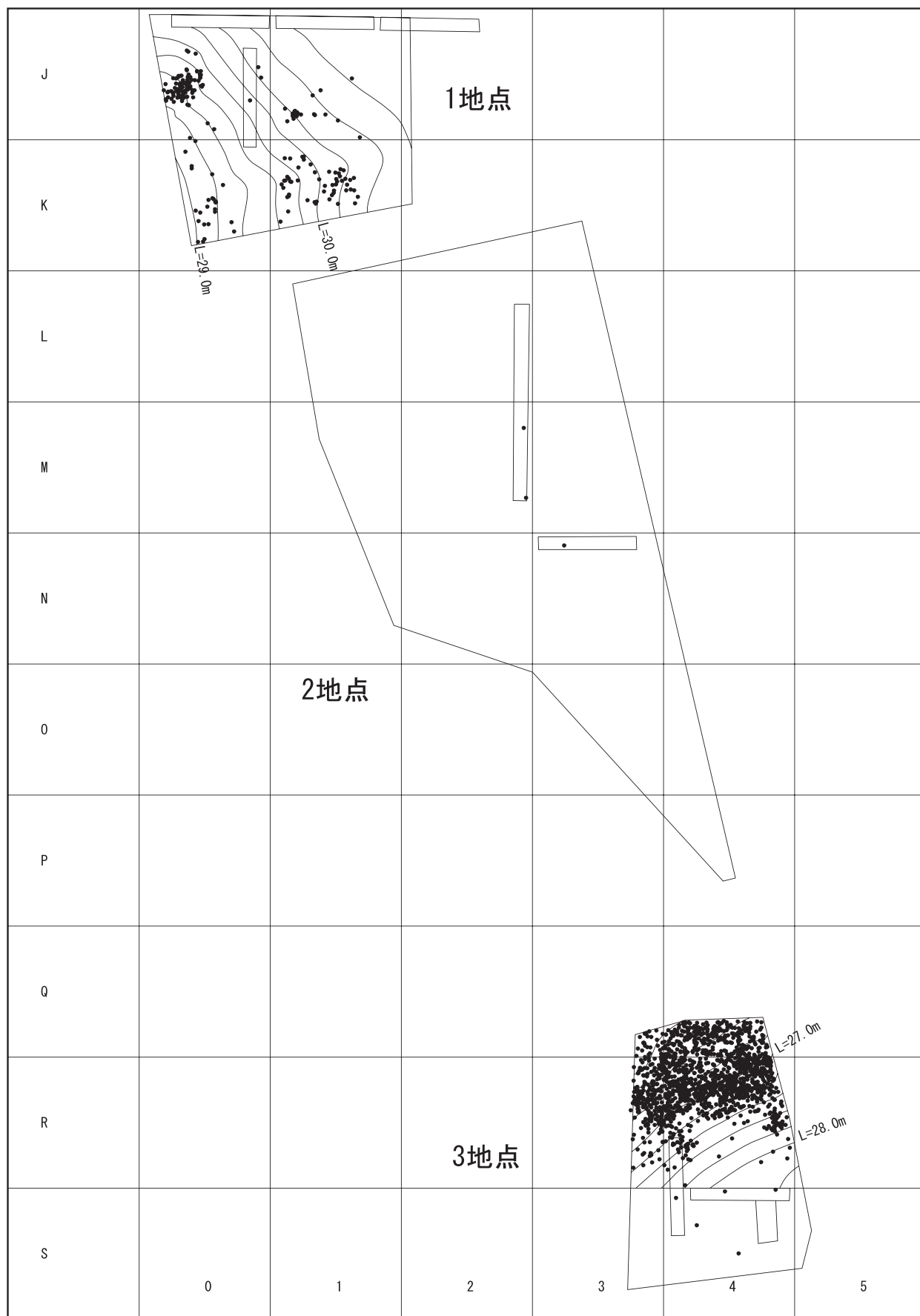
南原内堀遺跡では、溝状遺構は、R-3区のⅢ層上面で検出された溝1基のみである。幅は、約100cmで、検出面からの深さは、10cmを測る。底面は、浅い凹レンズ状をなす。埋土は、Ⅱ層の暗黒褐色土である。北から南側へ延びるものと考えられるが、イモ穴や近代以降の削平により、延長部分は、確認できなかった。埋土内出土遺物はみられず、時期を特定するものはないが、埋土の類似性から、中世以降のものと考えられる。



グリッドは20m×20m



第26図 溝状遺構



第27図 遺跡全体遺物出土状況（1グリッド：20m）

第6節 小結

確認調査の結果では、北側では、トレンチからの出土はほとんどなかったことから、本調査は、南側を中心に行った。南側を1・2・3地点に分けて調査を行ったが、2地点では、トレンチによる下層確認調査まで行ったが、遺構・遺物は発見されなかった。3地点では、柱穴列や埋設土器、溝状遺構の遺構が発見され、多くの遺物も出土した。

1 旧石器時代

トレンチによる下層確認調査で、石器が2点出土したが、それ以外の遺物は出土しなかった。

2 縄文時代草創期・早期

草創期・早期の遺構は検出できなかった。遺物もほとんど出土しなかったが、Ⅰ類を草創期、Ⅱ類を早期に分類された。早期の遺物は、下剥峯式土器に類すると思われる。

3 縄文時代中期

中期の遺構は検出できなかったが、土器は、Ⅲ類からⅤ類の3類に分類された。Ⅲ類は阿高式系土器、Ⅳ類は指宿式土器、Ⅴ類は春日式土器に類する。2点の大型甕形土器を完形復元できた阿高式系土器に関しては、文様が口縁部に集約されるものが多く、阿高式系土器でも前半期に属するものと思われる。

4 縄文時代後期

後期の遺構は検出できなかったが、土器は、Ⅵ類からⅩ類の5類に分類された。Ⅵ類は鐘崎式土器、Ⅶ類は市来式土器、Ⅷ類は辛川式土器、Ⅸ類は中ノ原式土器、Ⅹ類は西平式土器に類する。

数多く出土したⅦ類の市来式土器は、鹿児島市来貝塚を標識遺跡とする。頸部が弱くくびれ胴部がやや張る平底の深鉢、断面三角形または「くの字状」に肥厚させた口縁部に斜位の連続貝殻復縁圧痕文、連続爪形文、凹線、貼付文などで施文するのが見られた。他に装飾的な台付皿の口縁部と思われる土器片も出土した。

その他にメンコと呼ばれている二次加工土製品の出土が見られた。

5 縄文時代晩期

晩期の遺構は、3地点で柱穴列が1基、埋設土器が1基検出されている。遺物は、1・3地点で出土し、

土器は、Ⅺ類の深鉢形土器や浅鉢形土器に類する。

6 縄文時代の石器

Ⅲ層出土の石器は、該当時期が縄文時代中期から晩期までの範疇に含まれるため、時代の決定ができなかった。

7 中世

出土遺物は少なかったが、遺構は、溝状遺構が1条検出されている。

南原内堀遺跡は、調査範囲も狭く、遺物量も少ないが、阿高式系土器や市来式土器など貴重な資料を得られた遺跡である。

トレンチの土壌も植物珪酸体分析を行っている。Ⅷ層の堆積当時は、クマザサ属が卓越していることから、寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。縄文時代草創期遺物包含層のⅦ～Ⅷ層は、ススキ属やクスノキ科などが見られるようになったことから、当時の遺跡周辺は比較的開かれた環境であったものと推定される。詳しい結果は、鹿埋セ報97「馬塚松遺跡」他の付編と本報告書 P194を参照。

参考文献

- 1 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(22)「干迫遺跡」1997年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 2 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(98)農業開発総合センター遺跡群Ⅲ「尾ヶ原遺跡」2006年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 3 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(54)「中原遺跡」2003年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 4 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(97)農業開発総合センター遺跡群Ⅱ「馬塚松遺跡」「市堀遺跡」「大門口遺跡」2006年2月鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 5 第15回九州縄文研究会沖縄大会「九州の縄文時代装身具」2005年九州縄文研究会沖縄大会実行委員会
- 6 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(79)「大坪遺跡」2005年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター

第Ⅶ章 加治屋堀遺跡の発掘調査成果

第 1 節 調査の経過

本調査は平成15年度に行われた。耕種試験場の研究畑造成に起因する調査のため、造成される部分のみの調査であった。したがって、掘削が及ばない部分については本調査を実施後、一部の下層確認調査だけを実施した。

調査は、平成15年8月に実施した。表土剥ぎ。Ⅲ層掘り下げ。縄文時代晩期の遺物少量出土、掘立柱・柱穴列検出。トレンチ掘り下げ。調査終了。

第 2 節 調査の方法及び概要

発掘調査は国土座標にあわせた20×20mの調査範囲（グリッド）を市堀遺跡と合わせて設定して実施し、遺跡地内の北側からA・B・C…、東側から1・2・3…とした。

農業開発総合センター敷地内の東南端にある西方向へ緩やかに傾斜する尾根の南側の傾斜地に立地する。北側は市堀遺跡に接し、西側は中尾遺跡に接し

ている。

本遺跡の層位は、農業開発総合センター遺跡群全体の基準層位と基本的に変わらない。

造成の予定部分は、遺跡内の2ヶ所であったため、第1地点・第2地点として調査を行った。

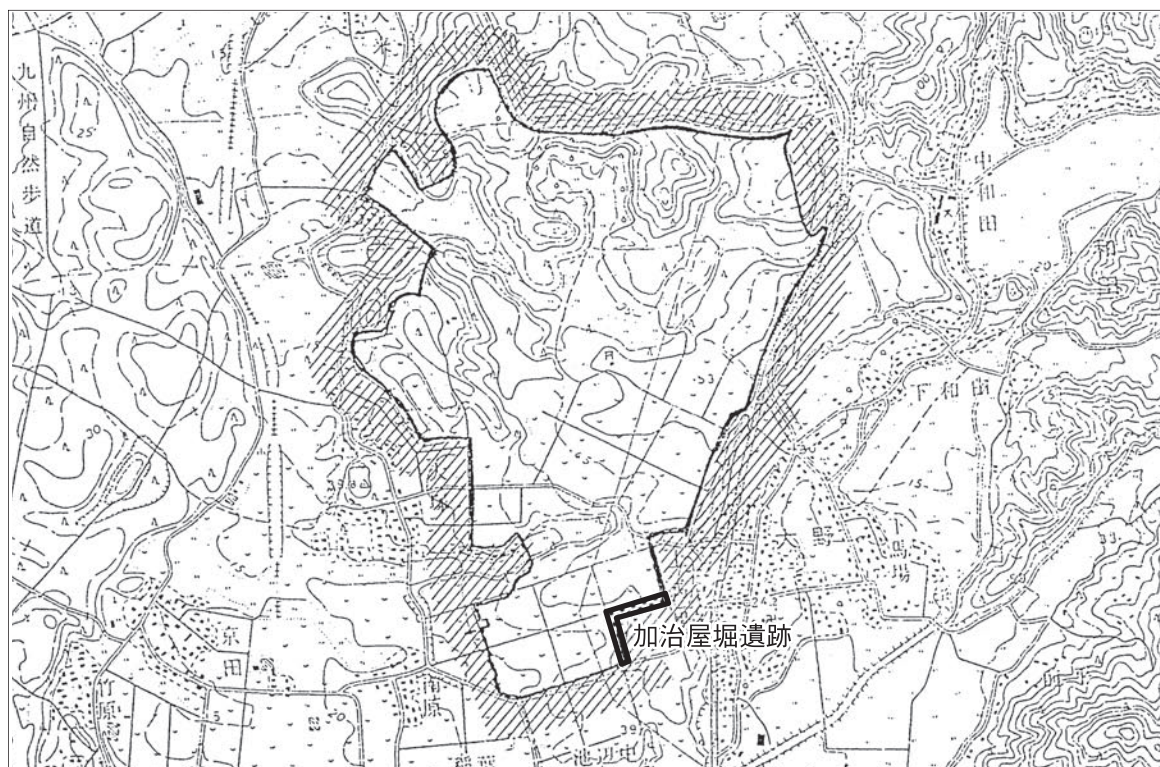
本調査は、表土を重機で除去後、人力で掘り下げた。第1地点はⅢ層から残っていたが、2地点は表土を除去した状態で、Ⅴ～Ⅷ層がみられた。

第1地点のⅢ層からは縄文時代前期及び晩期に相当すると思われる土器が出土した。また、Ⅲ層下面では縄文時代晩期の時期と考えられる柱穴列・掘立柱建物跡（1間×1間）が検出された。

掘削が及ぶ部分はⅢ層よりも上の部分であったのでⅣ層以下は確認調査を行った。

確認調査の結果、縄文時代早期該当の土器片2点以外は検出されなかった。

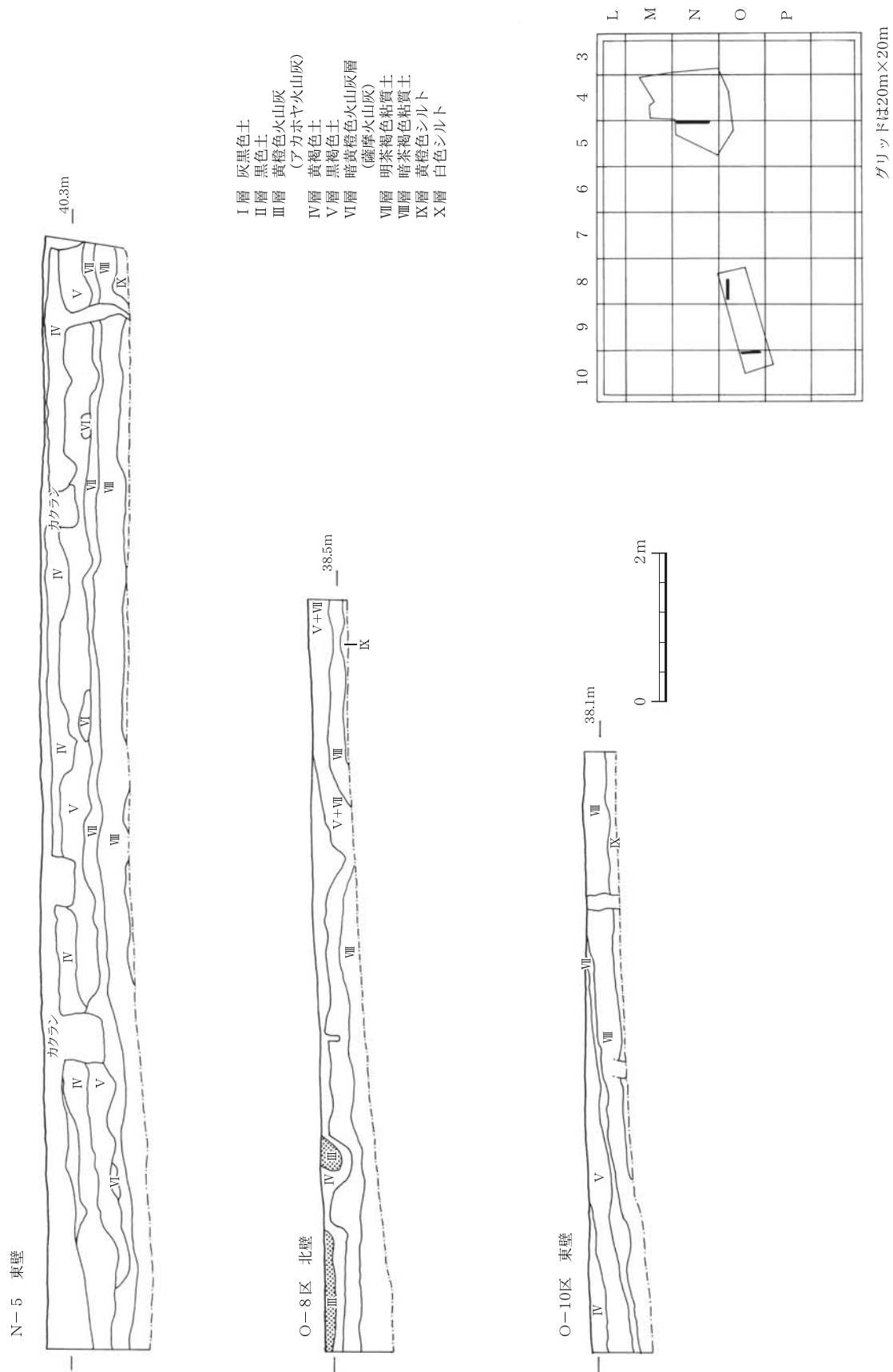
第2地点については、前述のとおり包含層であるⅡ・Ⅲ・Ⅳ層については削平されていたので、下層確認調査を実施したが、遺構・遺物は発見されなかった。



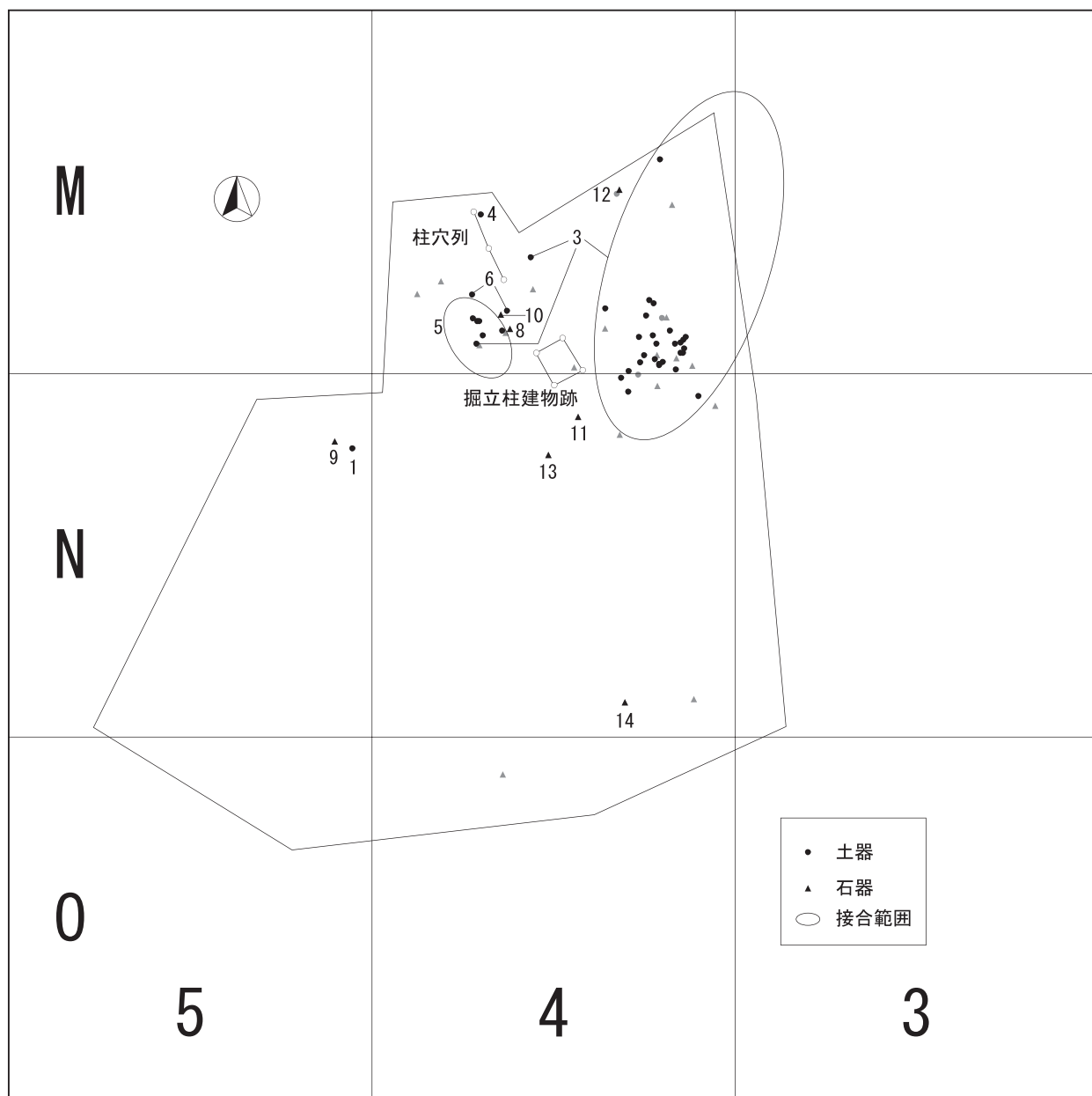
第 1 図 遺跡位置図（1／25,000）



第2図 地形及びグリッド配置図



第3図 土層断面図



※報告書掲載遺物は番号がついており、その他の取り上げた遺物は薄く表しています。

第4図 1地点遺構検出状況及び遺物出土状況図（1グリッド：20m）

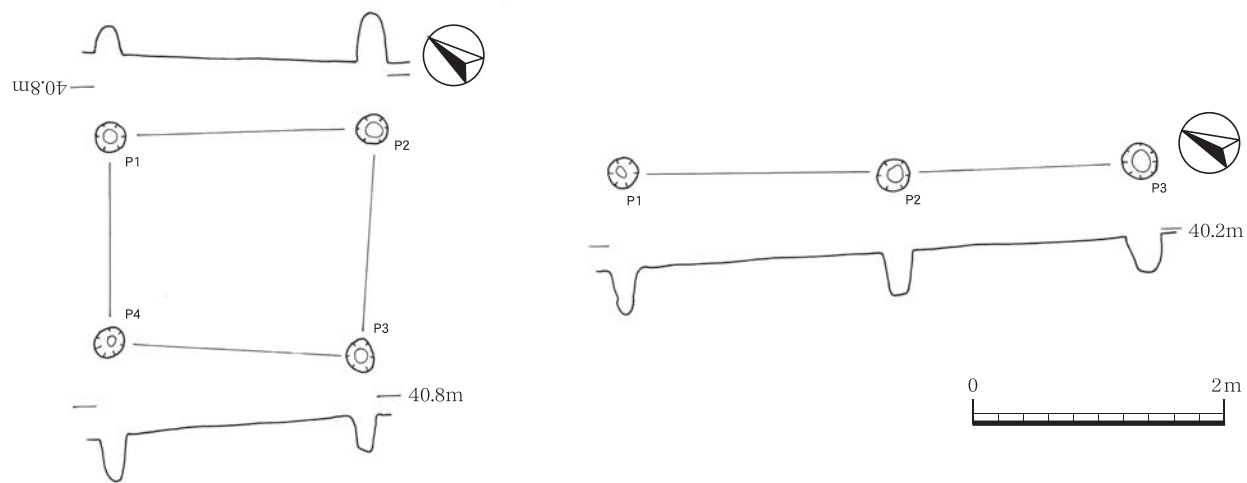
第3節 縄文時代の調査

1 遺構（第5図）

遺構は、掘立柱建物跡1棟と柱穴列が1基検出された。

掘立柱建物跡は、ほぼ正方形の形状をなす。北側に存在する市堀遺跡からも6棟出土している。

柱穴列は、直線上に3基の柱が並んで検出された。柱穴列は、市堀遺跡からも9列検出されている。



第5図 掘立柱建物跡 柱穴列

掘立柱建物跡

柱穴番号	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)
1	23	22.5	21
2	38	24	22
3	29	23	22
4	36	22.5	22

柱間距離 (cm)	
P 1 ~ P 2	208
P 2 ~ P 3	178
P 3 ~ P 4	197
P 1 ~ P 4	162

柱穴列

柱穴番号	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)
1	36	24	23
2	34	25	24
3	31	28	28

柱間距離 (cm)	
P 1 ~ P 2	215
P 2 ~ P 3	194
P 1 ~ P 3	409

2 遺物（第6・7図）

遺物は、Ⅲ層出土がほとんどであったが、1点だけ下層確認トレンチから出土している。1は縄文時代早期に該当すると思われる土器である。大きく開く口縁部を持ち、口唇部には刻目が観察される。文

様は口縁部に浅い沈線が施されている。型式名はよくわからない。2は押型文土器の胴部である。縄文時代早期に位置づけられる土器である。

3は、口縁部は発見されなかったが、胴部から底部までが検出された土器である。胴部外面に雨だれ

模様の連点文が施された後、細い沈線を施す。底部は丸底の形状をなし、底面にも施文される。深浦式土器に該当すると思われる。

4は金雲母が含まれている土器である。外面は貝殻条痕により調整され、内面は条痕による調整が行われている。型式名はよくわからない。中期から後期にかけての土器と思われる。

5・6は底部であり、同一個体の可能性も考えられる。細片のためはっきりしないが、やや上げ底の形状をなすように見える。縄文時代晩期に該当する土器ではないかと思われる。

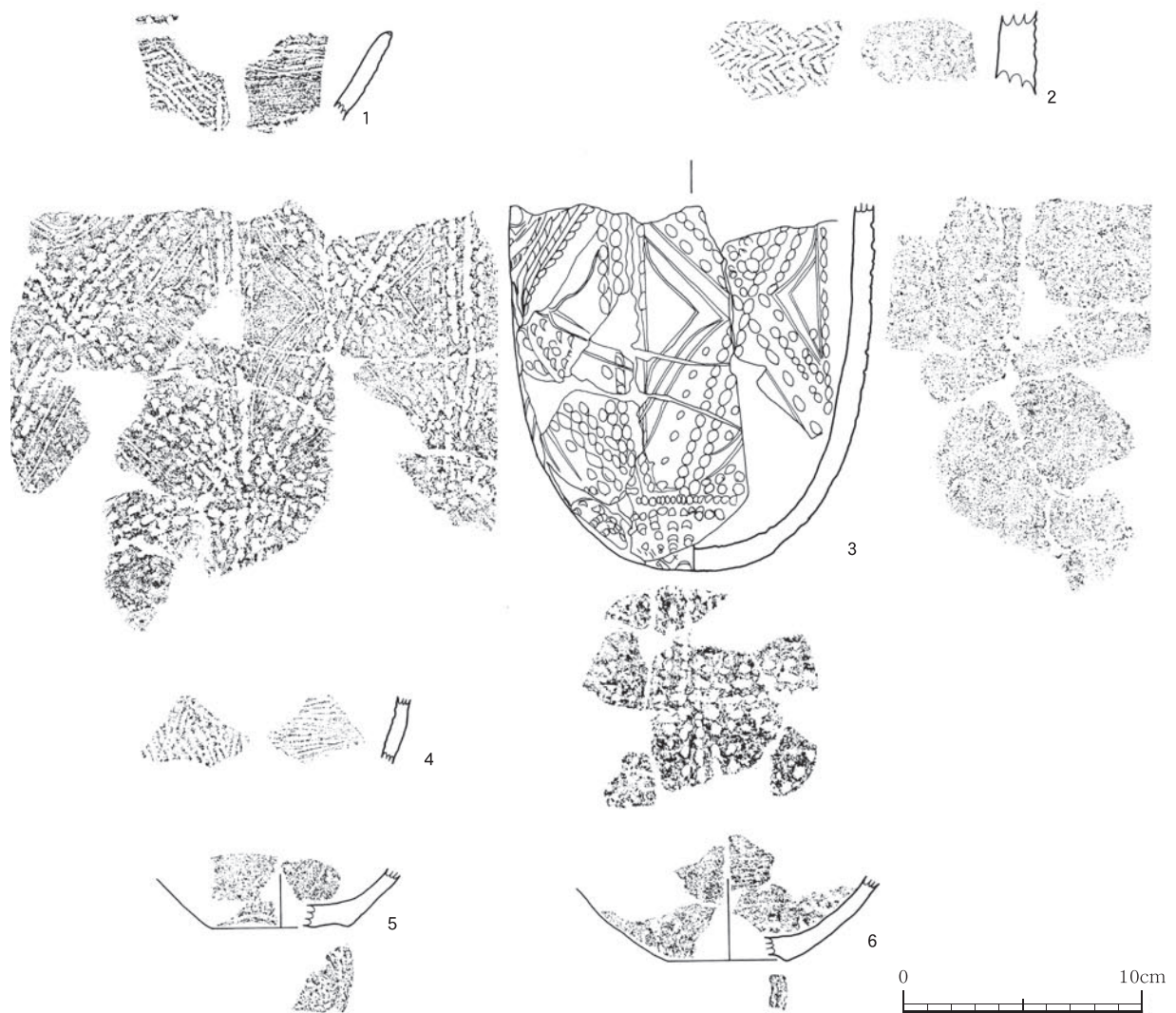
7～10は、石鏃である。素材は、黒曜石が2点、頁岩が1点、チャートが1点である。その内、黒曜

石は、肉眼観察によると上牛鼻産に類似するものが1点、北西九州系（腰岳）に類似するものが1点出土している。分類は、P187の石鏃分類表をもとに分類した。石鏃は打製で、ほとんどのものが入念な交互剥離により調整されている。

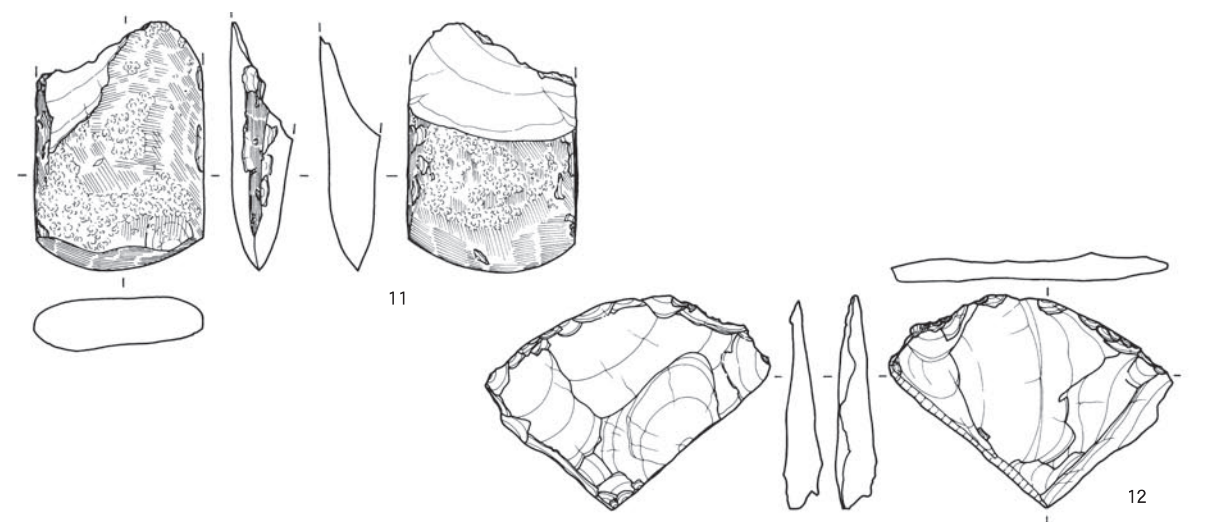
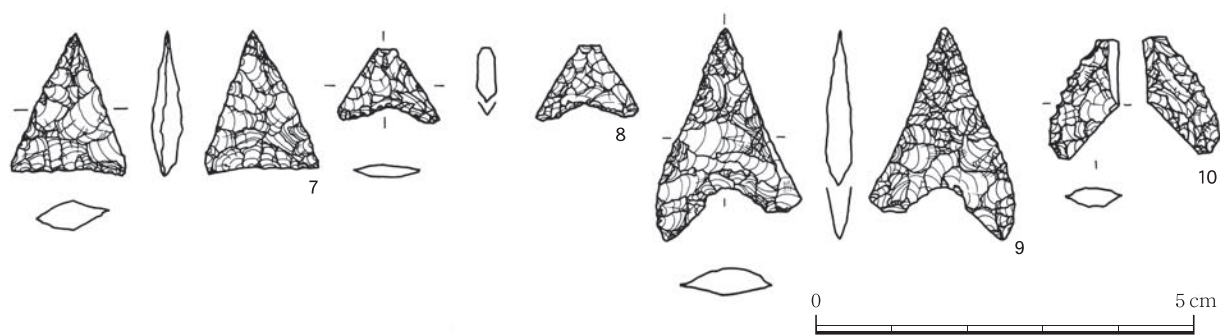
11は磨製石斧の欠損品である。刃部をはじめ全体的にきれいに磨かれている。

12は粘板岩製のスクレイパーではないかと思われる。地下に長い間おかれていたせいか鉄分の付着がみられる。

13・14は礫器である。共に頁岩製で刃部のみの整形である。



第6図 縄文時代の遺物（土器） 1



第7図 縄文時代の遺物（石器）2

遺物観察表（土器）

挿図 番号	番号	出土区	層位	部 位	色 調		胎 土				焼成	外 面	内 面	備 考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第 6 図	1	N-5	V	口縁部	褐色	明褐色	○	○	○		良	条痕	ケズリ	スス（外）
	2	—	IV	胴部	褐色	褐色	○	○	○		良	押型	ケズリ	
	3	M-4	Ⅲ	胴～底部	赤褐色	赤褐色	○	○			良	連点文	ケズリ	
	4	M-4	Ⅲ	胴部	赤褐色	黒褐色	○	○		金雲母	良	条痕	条痕	
	5	M-4	Ⅲ	底部	赤褐色	明褐色	○	○			良	ケズリ	ケズリ	
	6	M-4	Ⅲ	底部	赤褐色	褐色	○	○			良	ケズリ	ケズリ	

遺物観察表（石器）

挿図 番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備 考	
						cm	cm	cm	g	分類	破損部分
第 7 図	7	石鏃	—	III	チャート	1.9	1.6	0.4	0.76	A a a	
	8	石鏃	L-4	III	黒曜石（上牛鼻）	0.7	0.9	0.2	0.19	A a b	先端
	9	石鏃	M-5	V	黒曜石（腰岳）	2.1	1.2	0.3	1.10	A a c	基端の片方
	10	石鏃	L-4	III	頁岩	1.1	0.8	0.2	0.34	不明	
	11	磨製石斧	N-4	III	頁岩	9.5	6.7	2.4	180.00		
	12	スクレイパー	M-4	III	粘板岩	8.2	10.9	1.7	111.00		
	13	礫器	N-4	III	頁岩	12.2	12.6	3.1	595.00		
	14	礫器	N-4	III	頁岩	14.5	10.4	4.6	980.00		

第4節 小結

加治屋堀遺跡は調査面積が狭く、また、2地点は後世の開発により包含層自体が削平されるなどして残存状態の悪い遺跡であった。その中で、1地点では隣接する市堀遺跡と同様の遺構が検出された。

縄文時代晩期の掘立柱建物跡については、市堀遺跡で6基・北側の大門口遺跡では14基の掘立柱建物跡が検出されている。用途についてははっきりわからない。市堀・大門口遺跡でも触れられているが、方向性や規格性に統一もないことなどから、さほど重要な建物ではなく、簡易な建物であったと考えられる。

柱穴列にしても、その構造から簡易な施設であつたろうと思われる。

出土した土器についてもすべて1地点からの出土であった。下層確認トレンチから縄文時代早期の土器が出土している。西側に存在する中尾遺跡や西北に存在する頭無迫田遺跡では該当期の遺物が出土しているので関連を考えなければならない。

Ⅲ層は、縄文時代前期～晩期に該当する時期が包含されている層であり、Ⅲ層上面は、標高約40mのほぼ平坦な地形である。

土器に関しては、前期に該当する深浦式土器が胴部から底部まで検出された。

深浦式土器については、近年細分化の方向で研究が進められている。細分の結果、深浦式土器の該

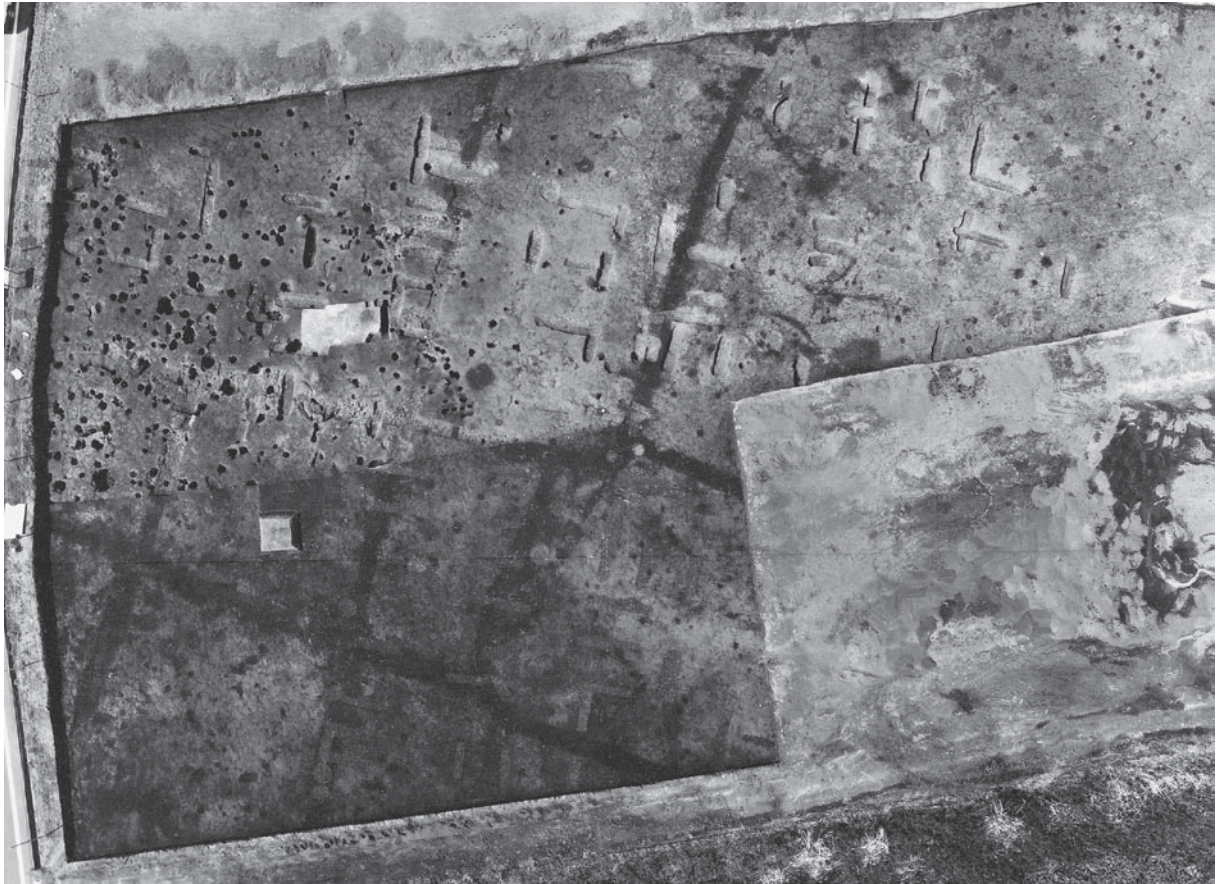
当期を前期末から中期初頭に位置づける研究者もいる。本遺跡で出土した土器はその施文の特色から、前期終末に位置づけられる「日木山式土器」に該当する可能性がある。

その他の土器については、細片のため型式名等は判別しない。4に関しては、器壁が薄く、金雲母を含んでいることから、縄文時代中期該当の春日式土器の可能性もある。5・6は縄文時代晩期後半の土器ではないかと思われる。

石器に関しては、Ⅲ層が縄文時代前期～晩期までの包含層であるため、その所属をはっきりすることはできなかった。

参考文献

- 1 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(98) 農業開発総合センター遺跡群Ⅲ「尾ヶ原遺跡」2006年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 2 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(97) 農業開発総合センター遺跡群Ⅱ「馬塚松遺跡」「市堀遺跡」「大門口遺跡」2006年2月鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 3 「人類史研究12号」2000年人類史研究会



諏訪牟田遺跡空中写真（古代～中世）



調査風景他



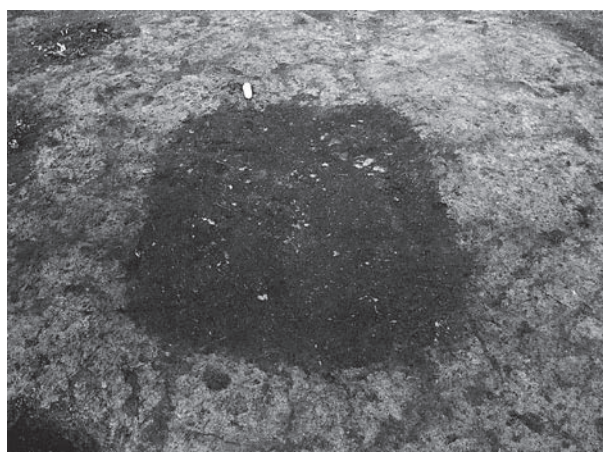
埋設土器 1 号



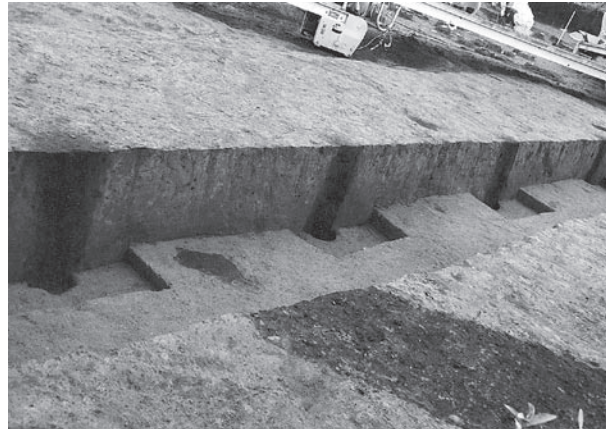
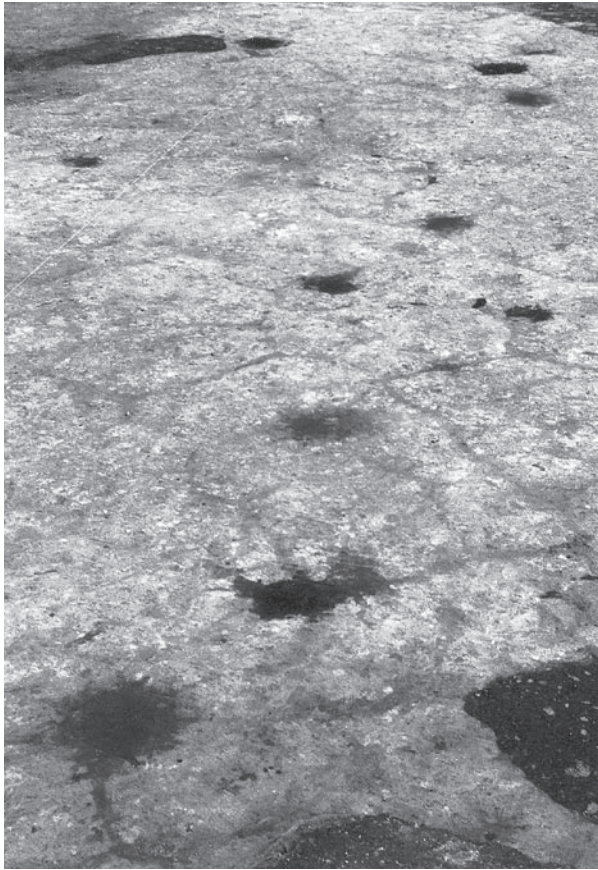
埋設土器 2 号



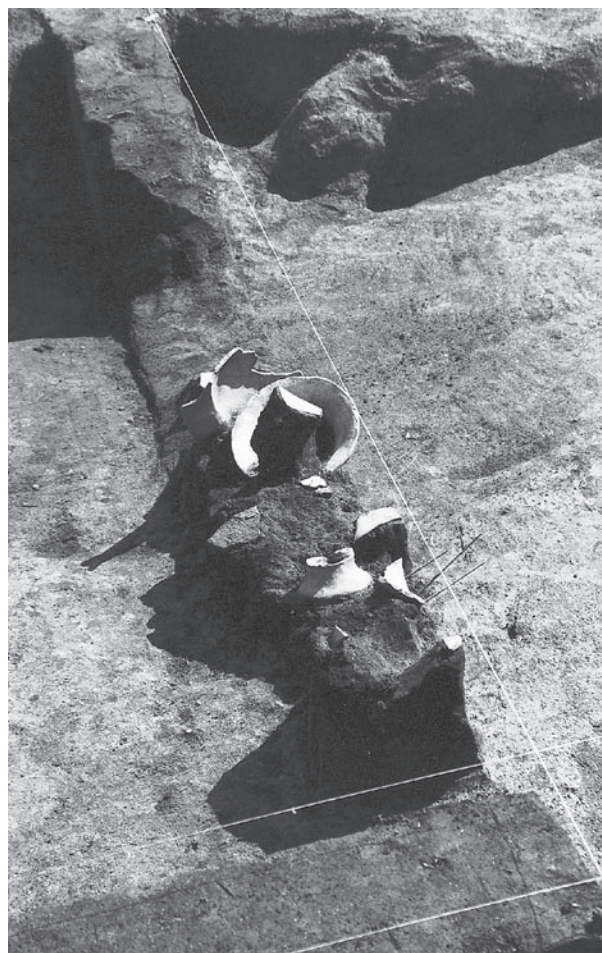
埋設土器 3 号



縄文時代晩期 掘立柱建物跡・土坑



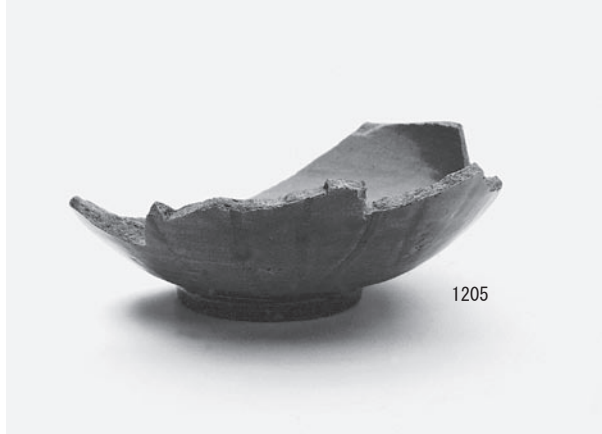
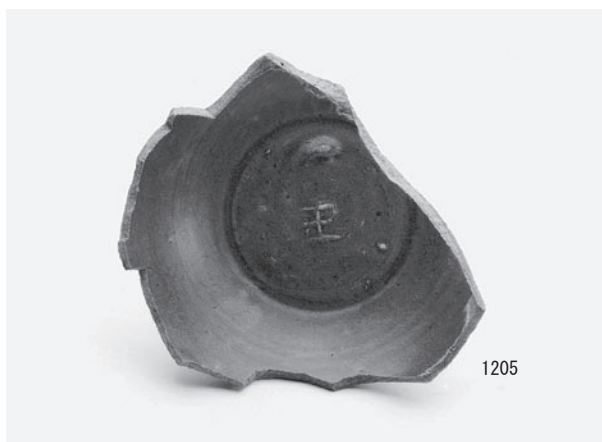
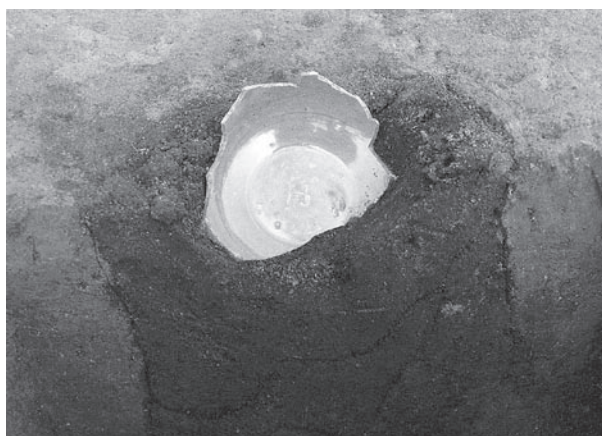
縄文時代晩期 柱穴列



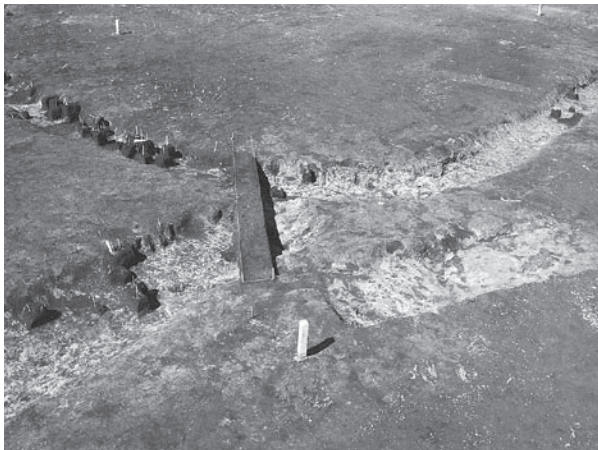
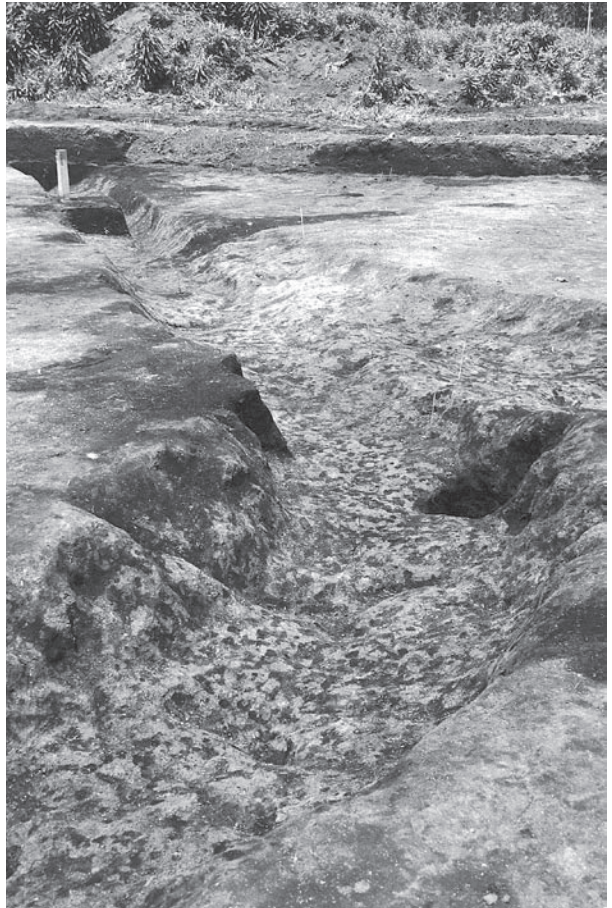
古墳時代 竪穴住居跡



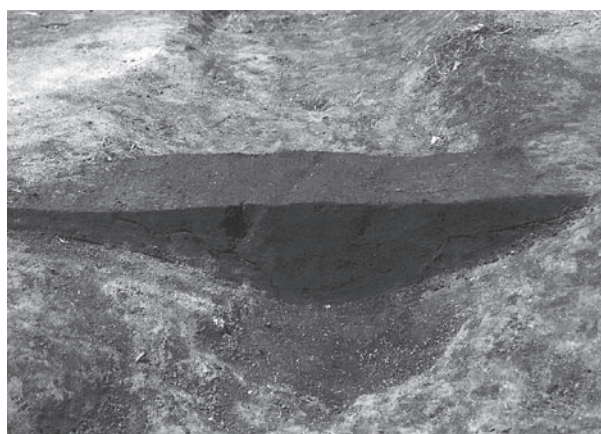
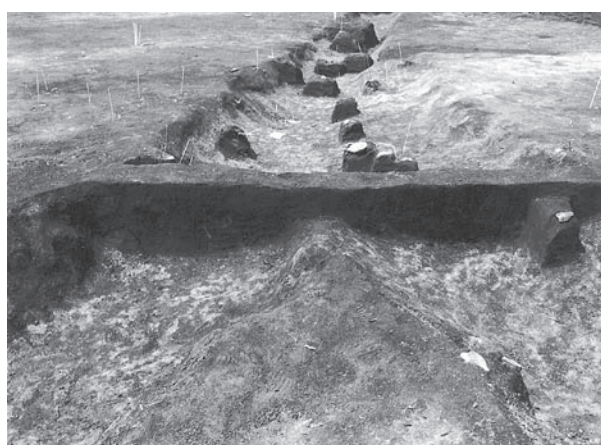
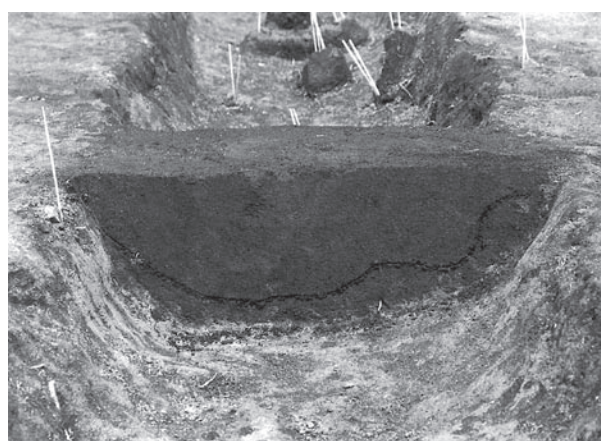
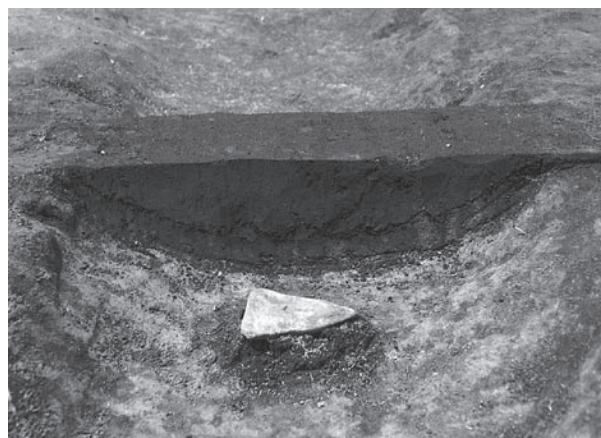
古代・中世 掘立柱建物跡



中世 柱穴内出土遺物



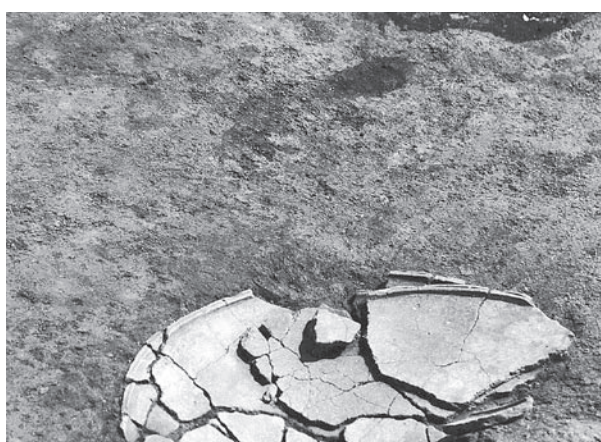
中世 溝状遺構 1～3・5



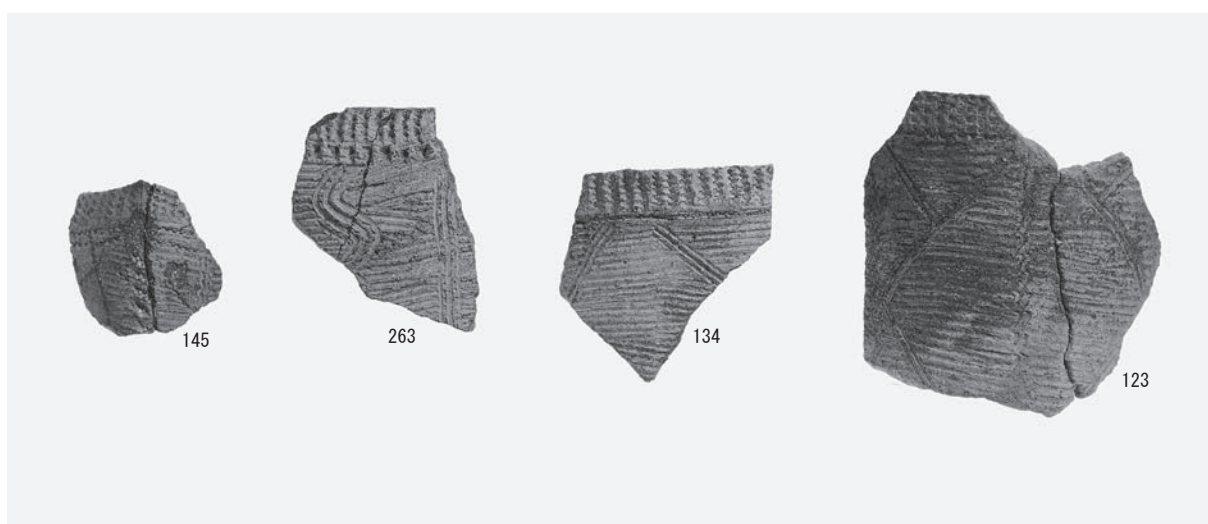
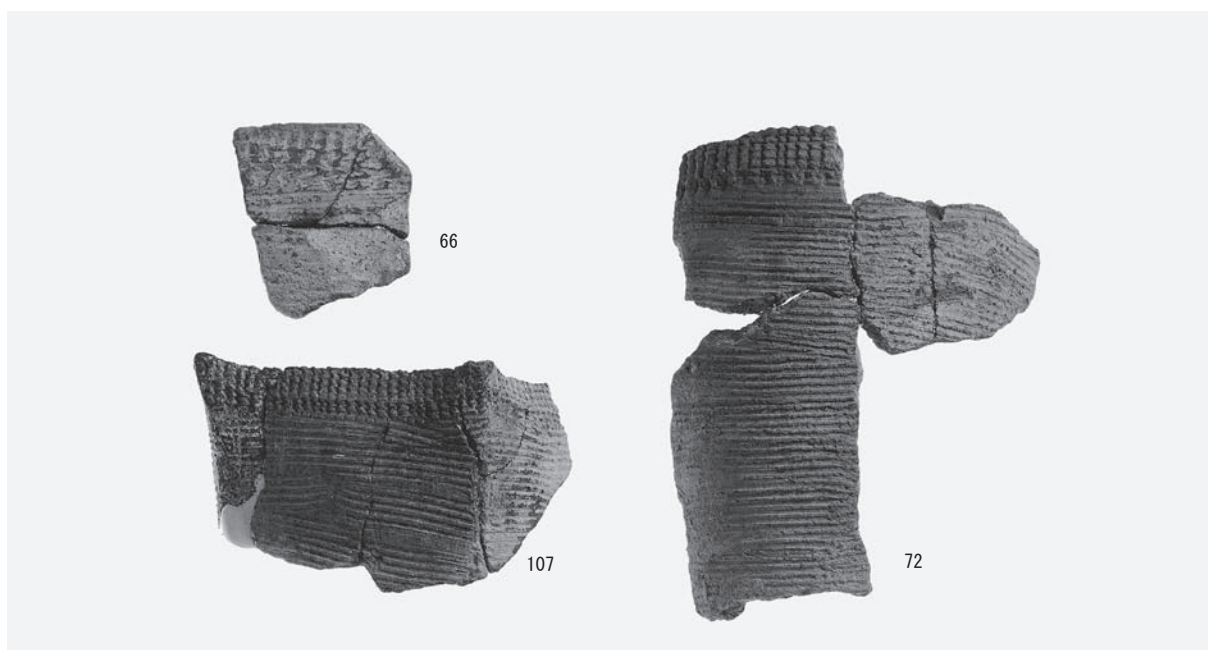
中世 溝状遺構 4



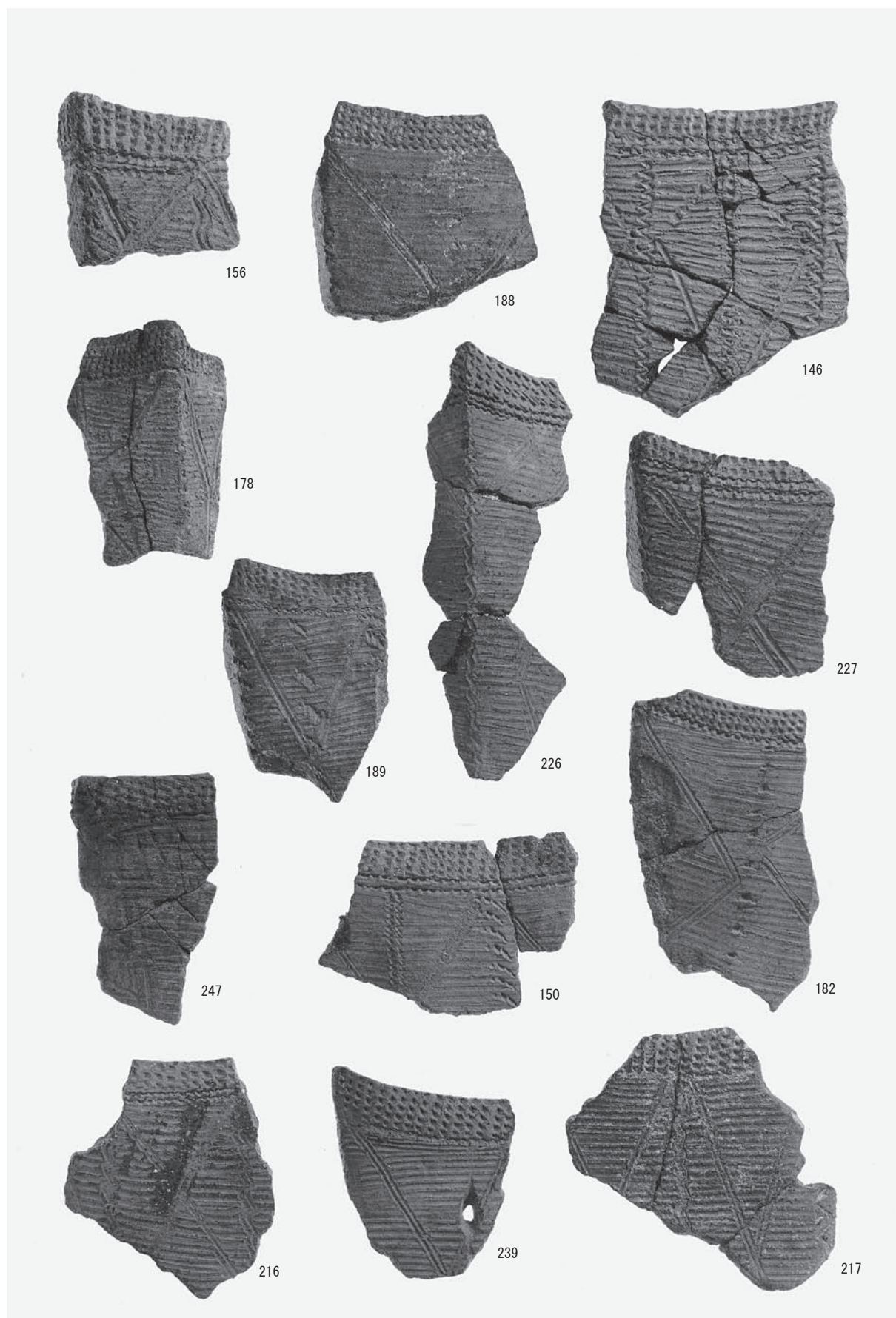
遺構完掘状況



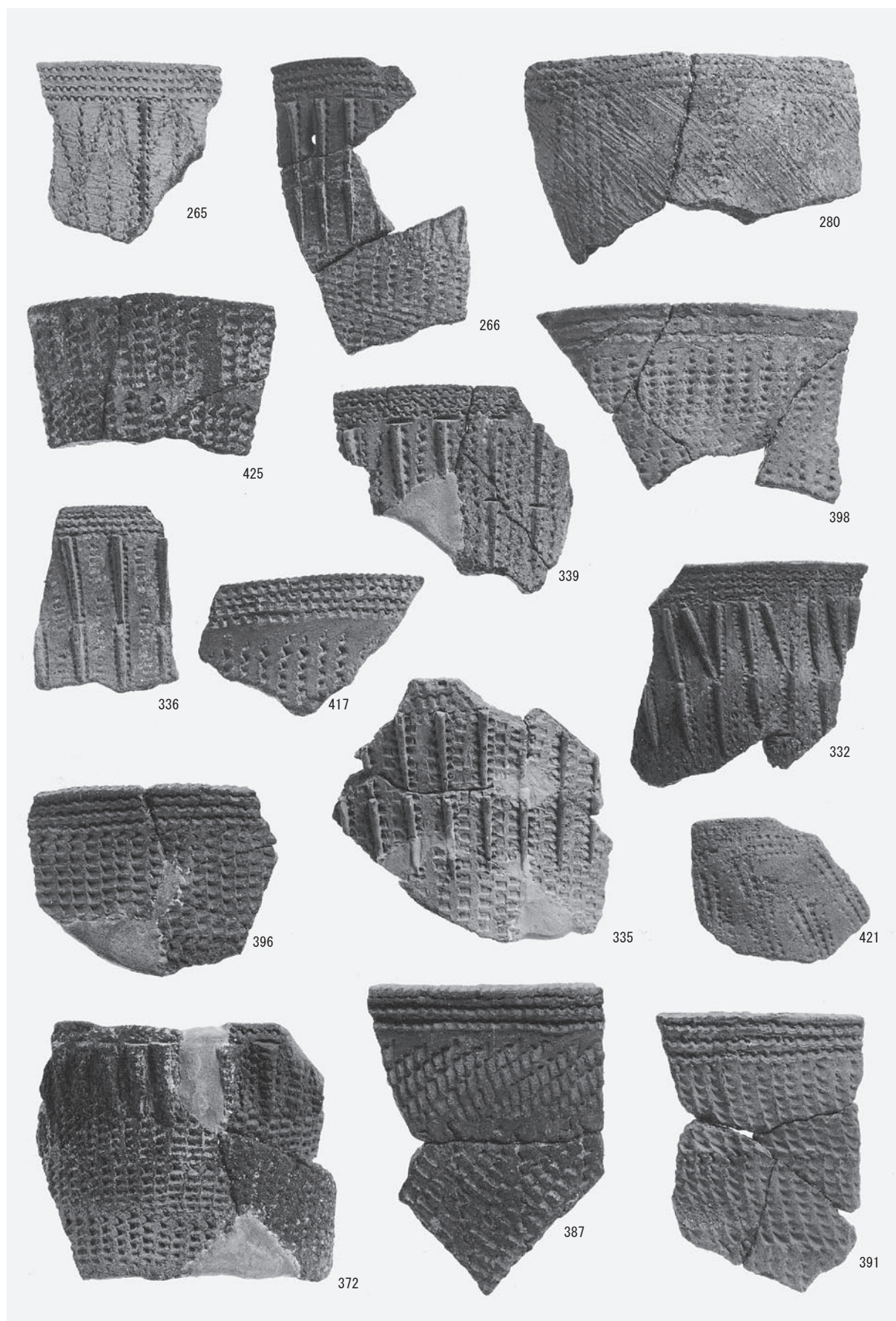
遺物出土状況



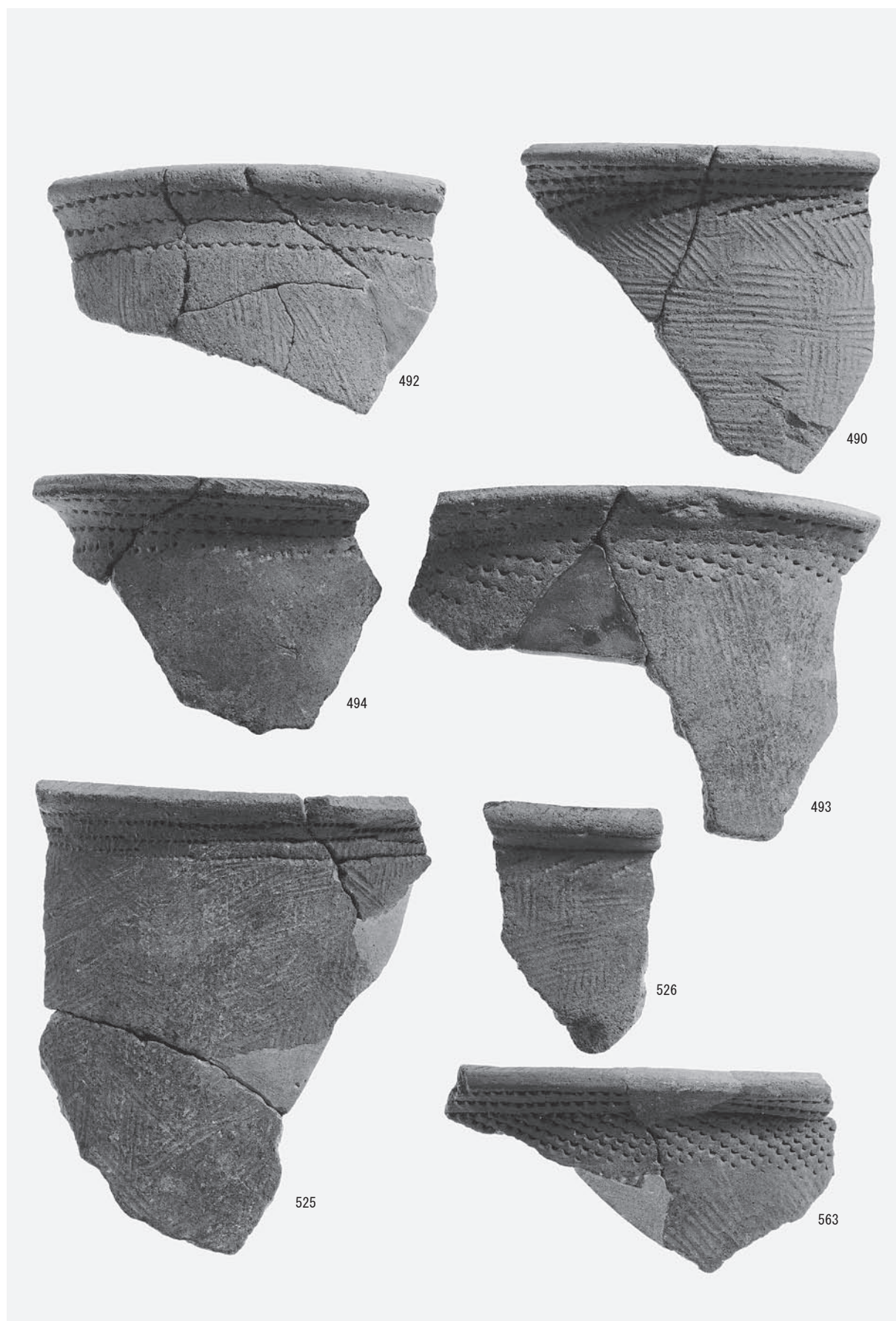
縄文時代早期Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類土器



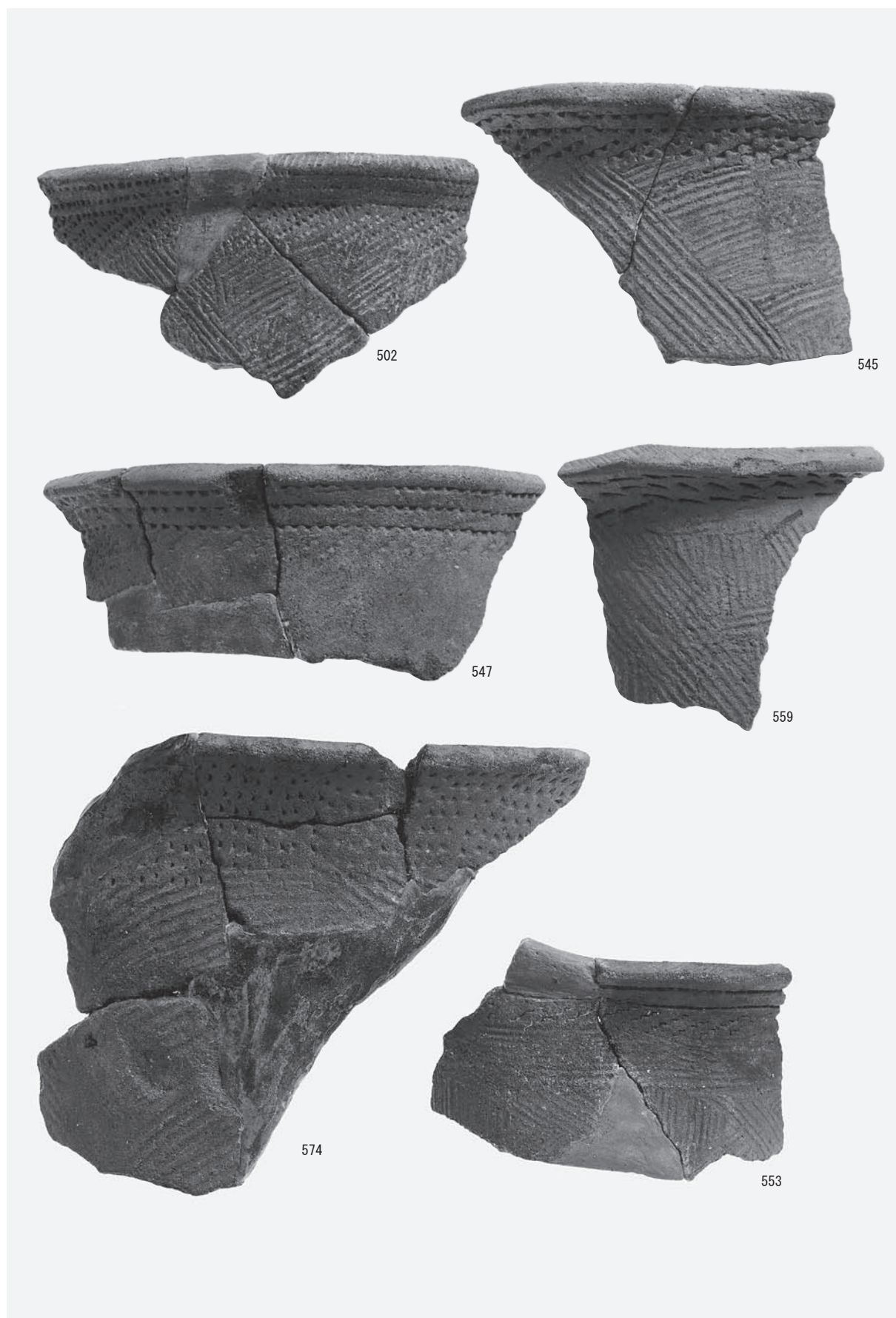
縄文時代早期Ⅲ類土器



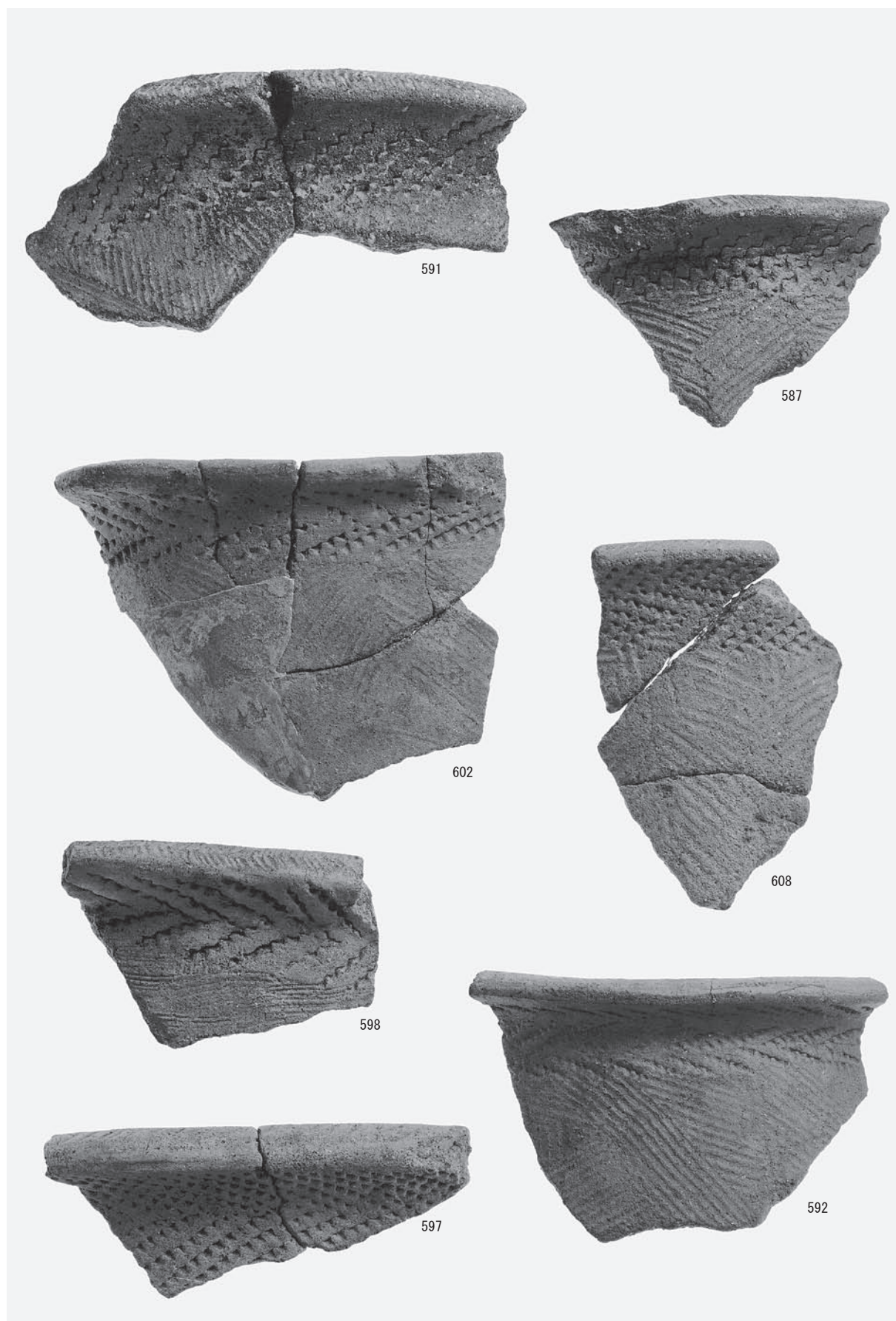
縄文時代早期Ⅳ類・Ⅴ類土器



縄文時代早期Ⅶ類土器①



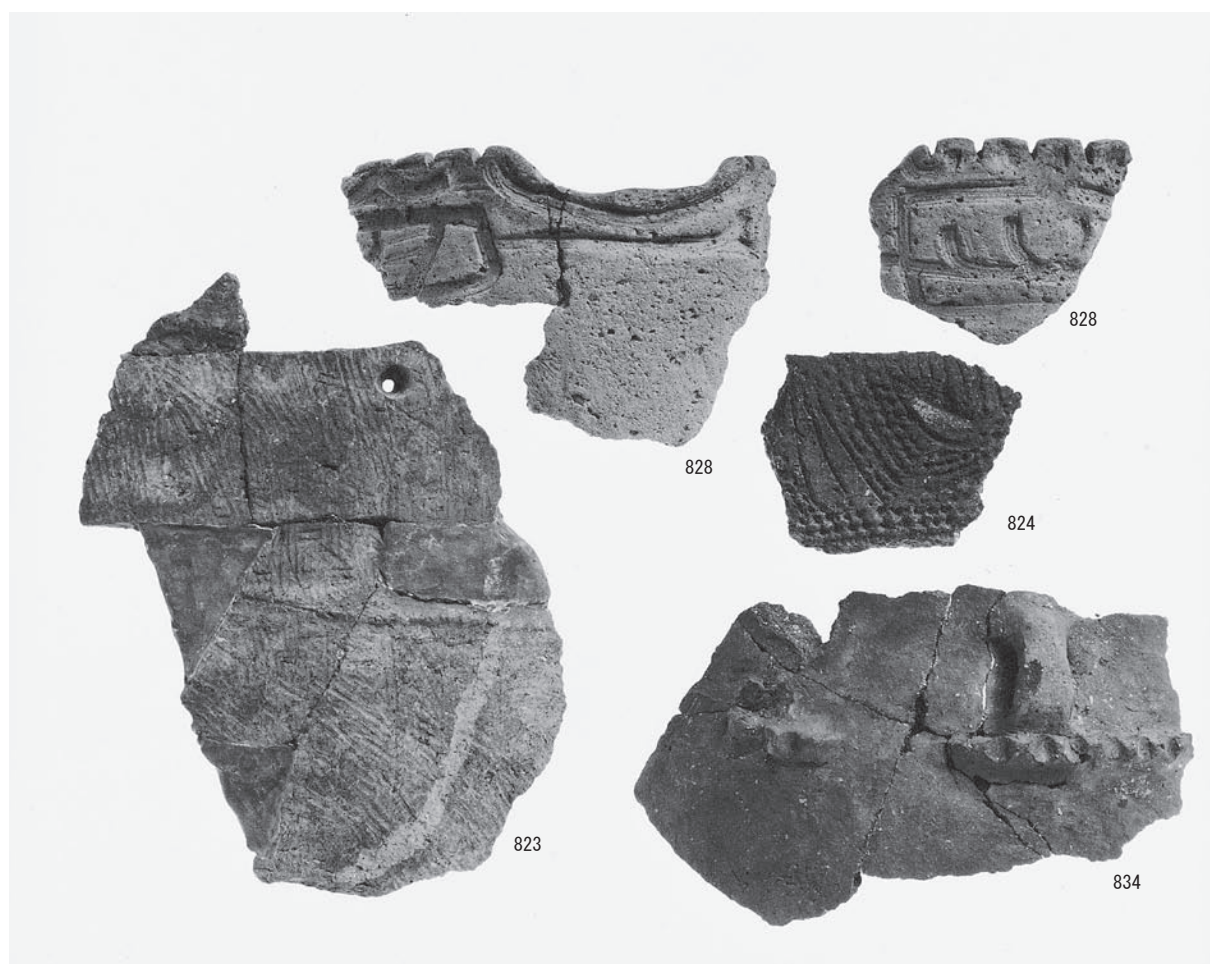
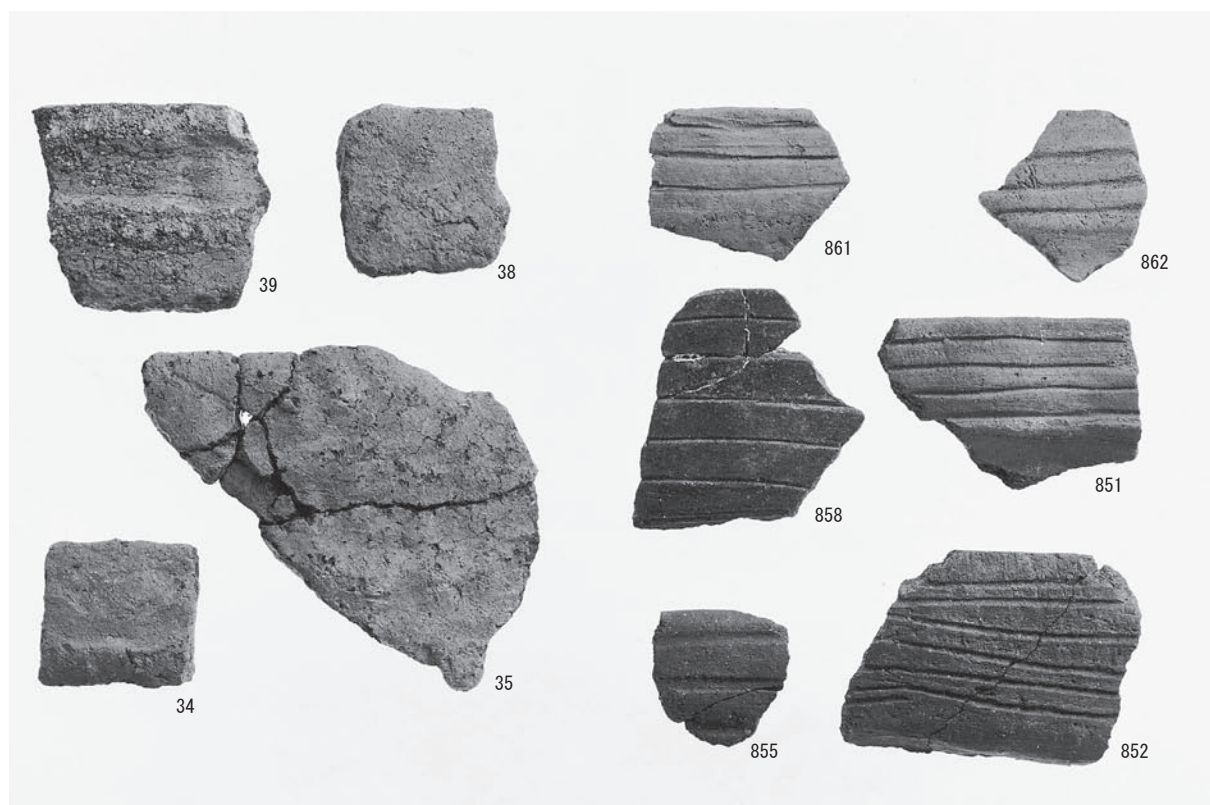
縄文時代早期Ⅷ類土器②



縄文時代早期Ⅷ類土器③



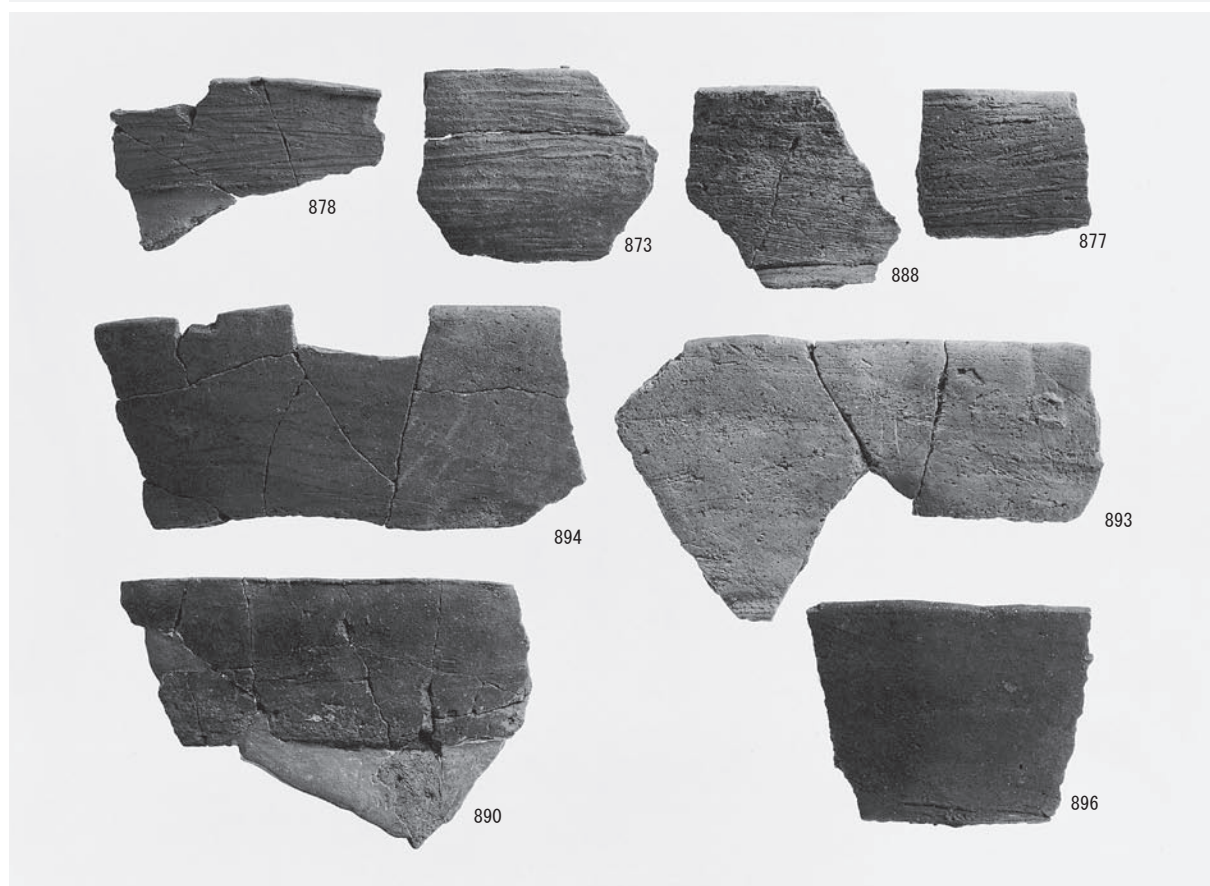
縄文時代早期Ⅷ～Ⅺ 類土器



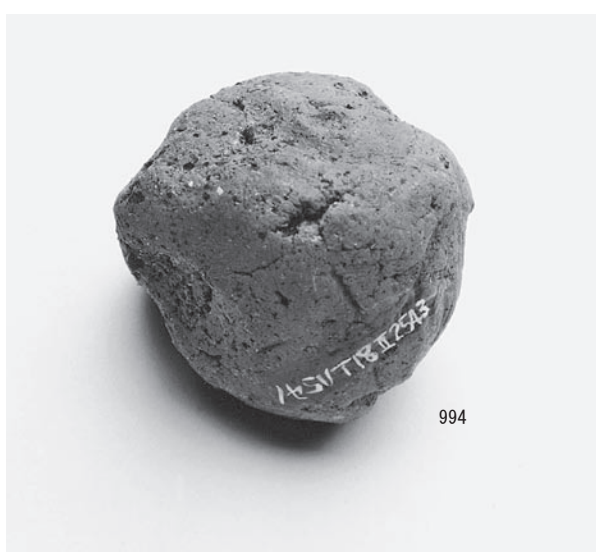
I・XIII～XV・XIX～XXI 類土器



縄文時代晩期土器 XX類



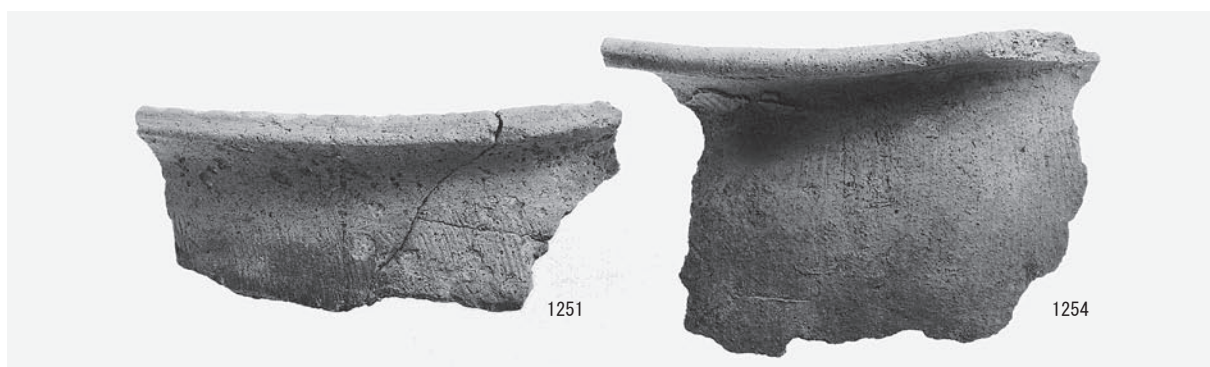
縄文時代晩期土器 XX・XXI 類



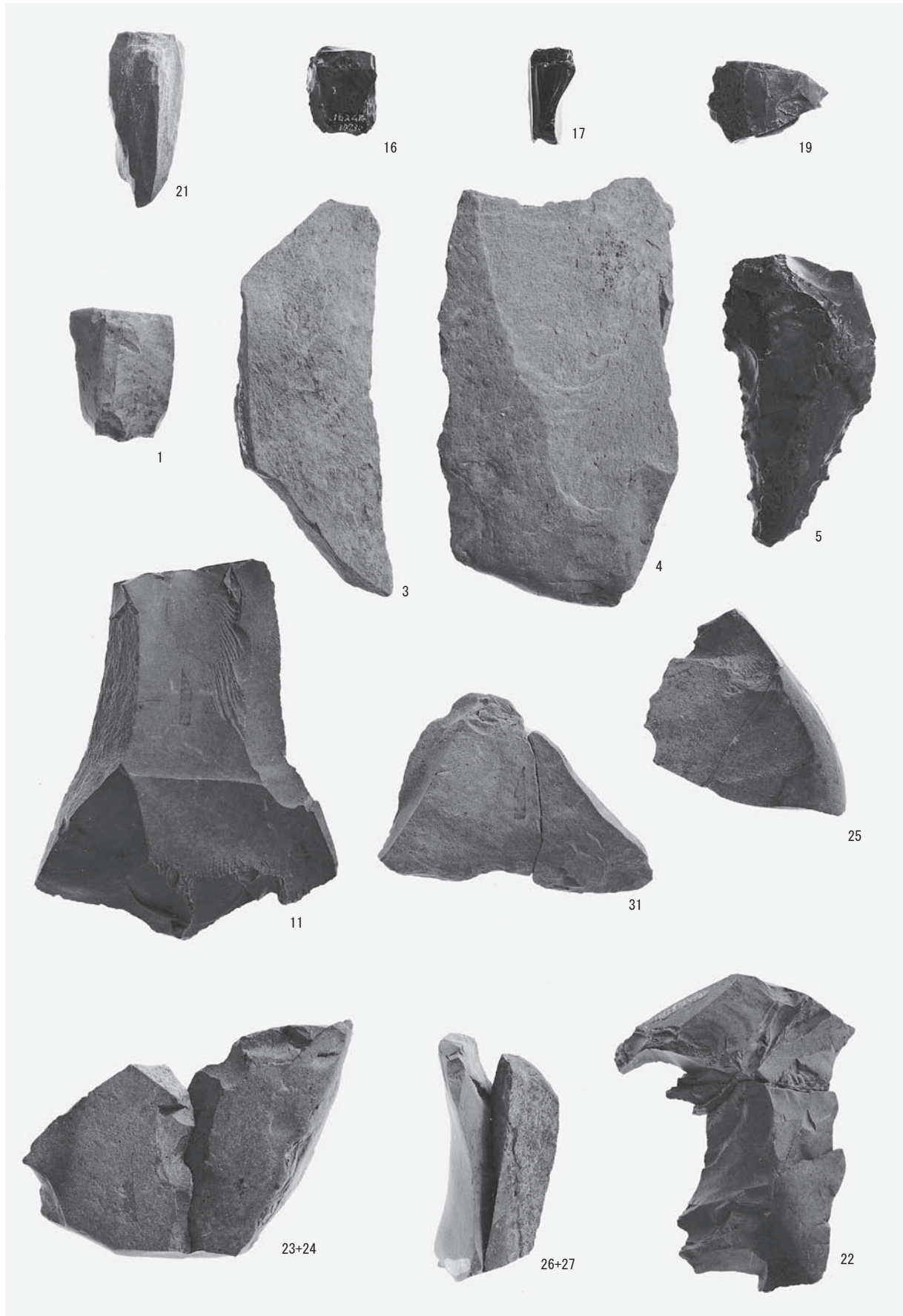
縄文時代晩期土器 XXX 類他



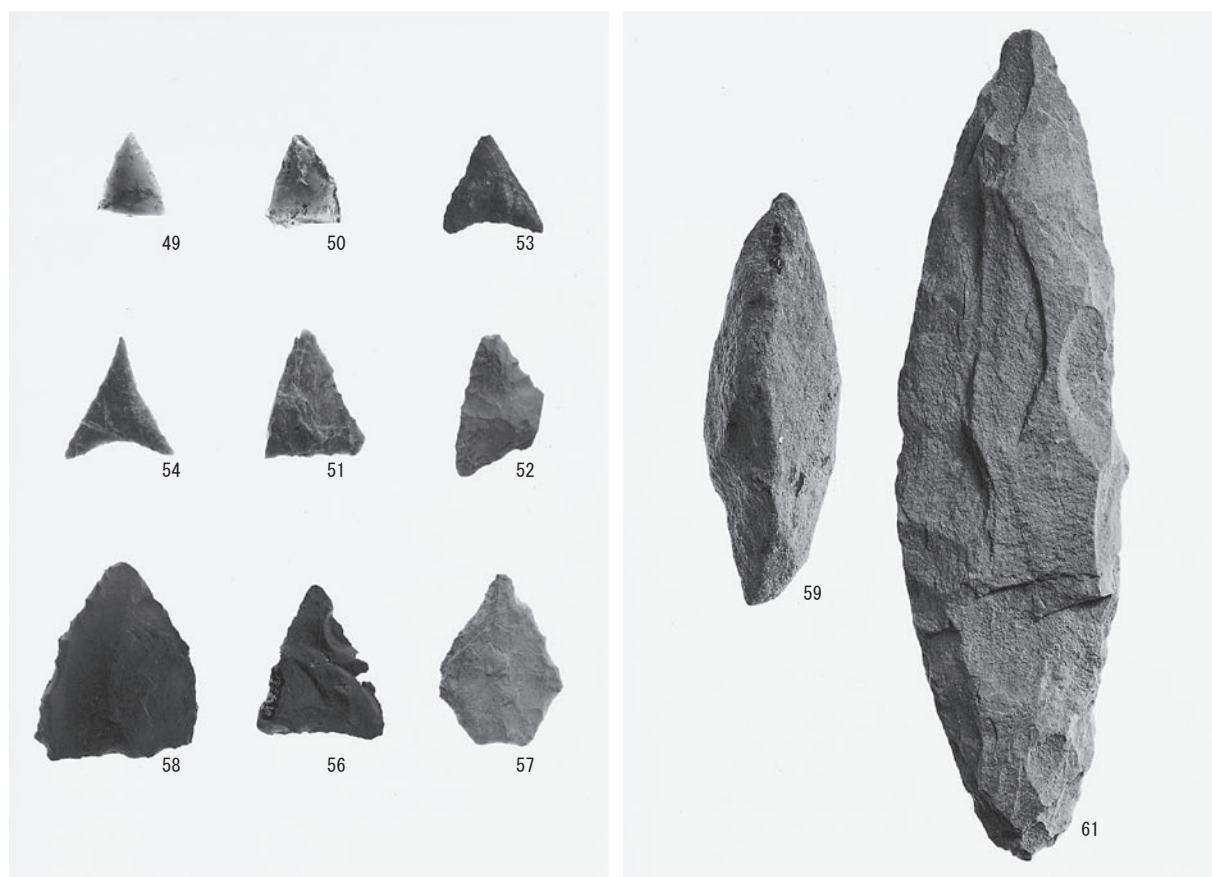
古代・中世土師器



古代・中世土師器



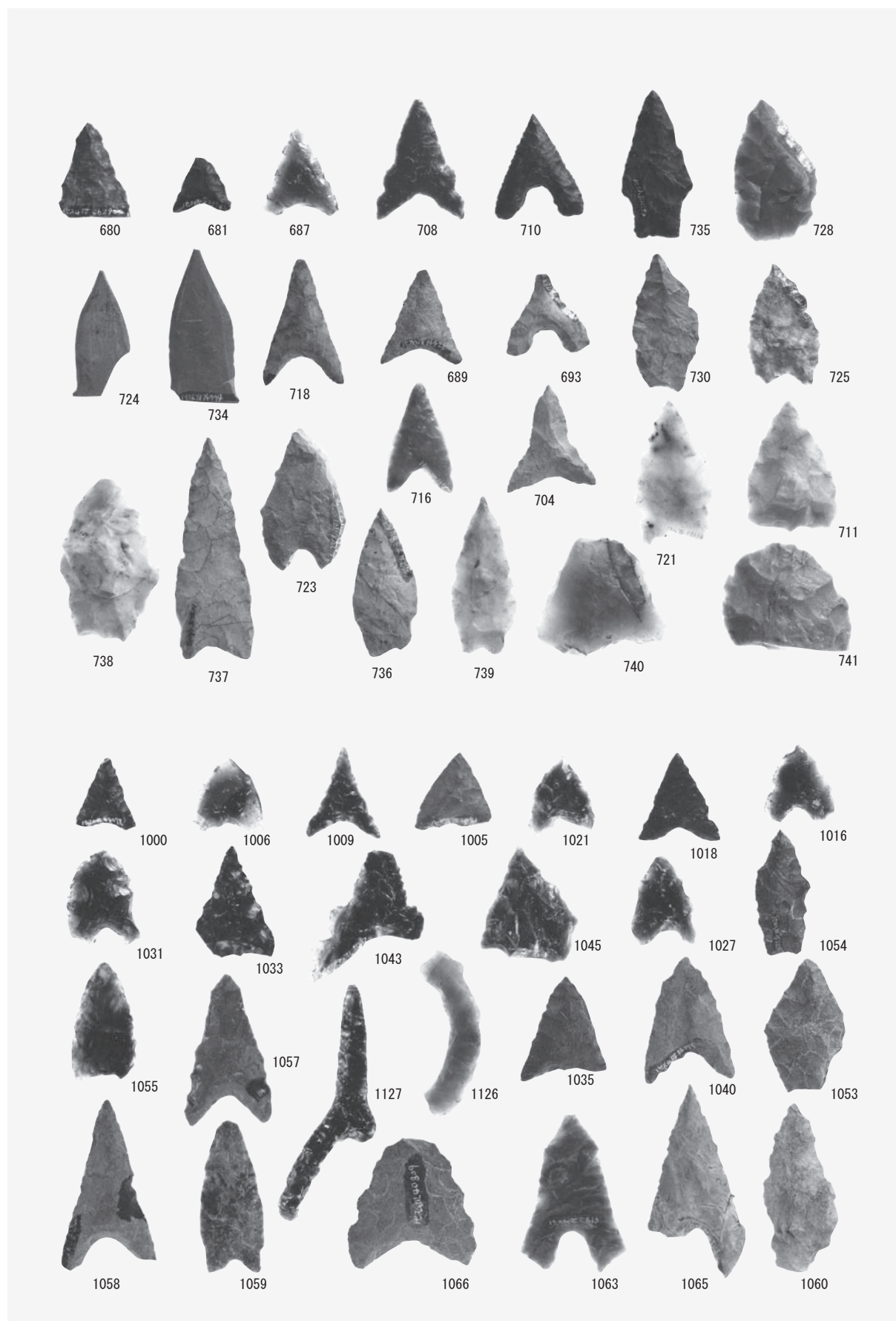
旧石器時代石器



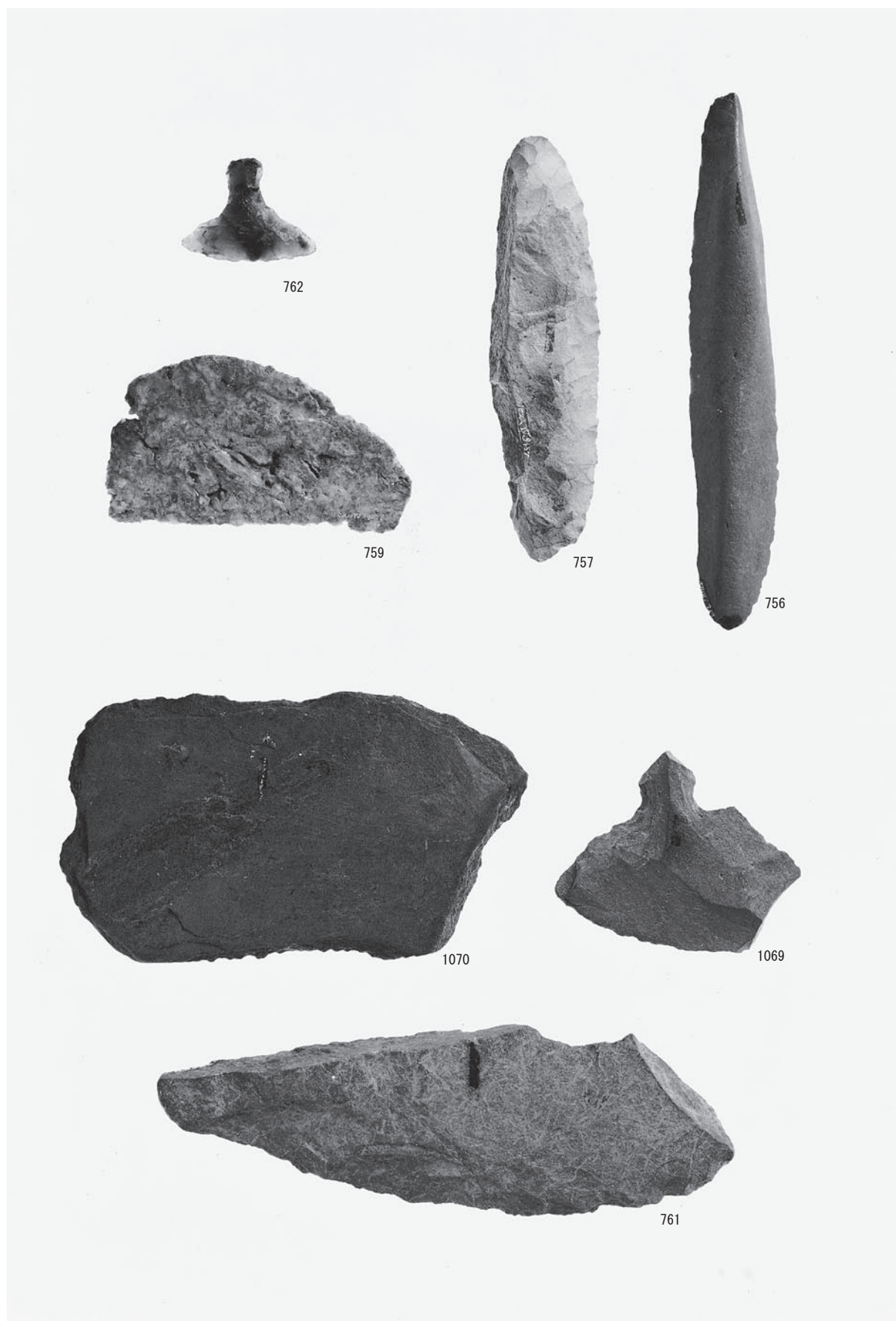
縄文時代草創期石器



IV・III層出土剥片



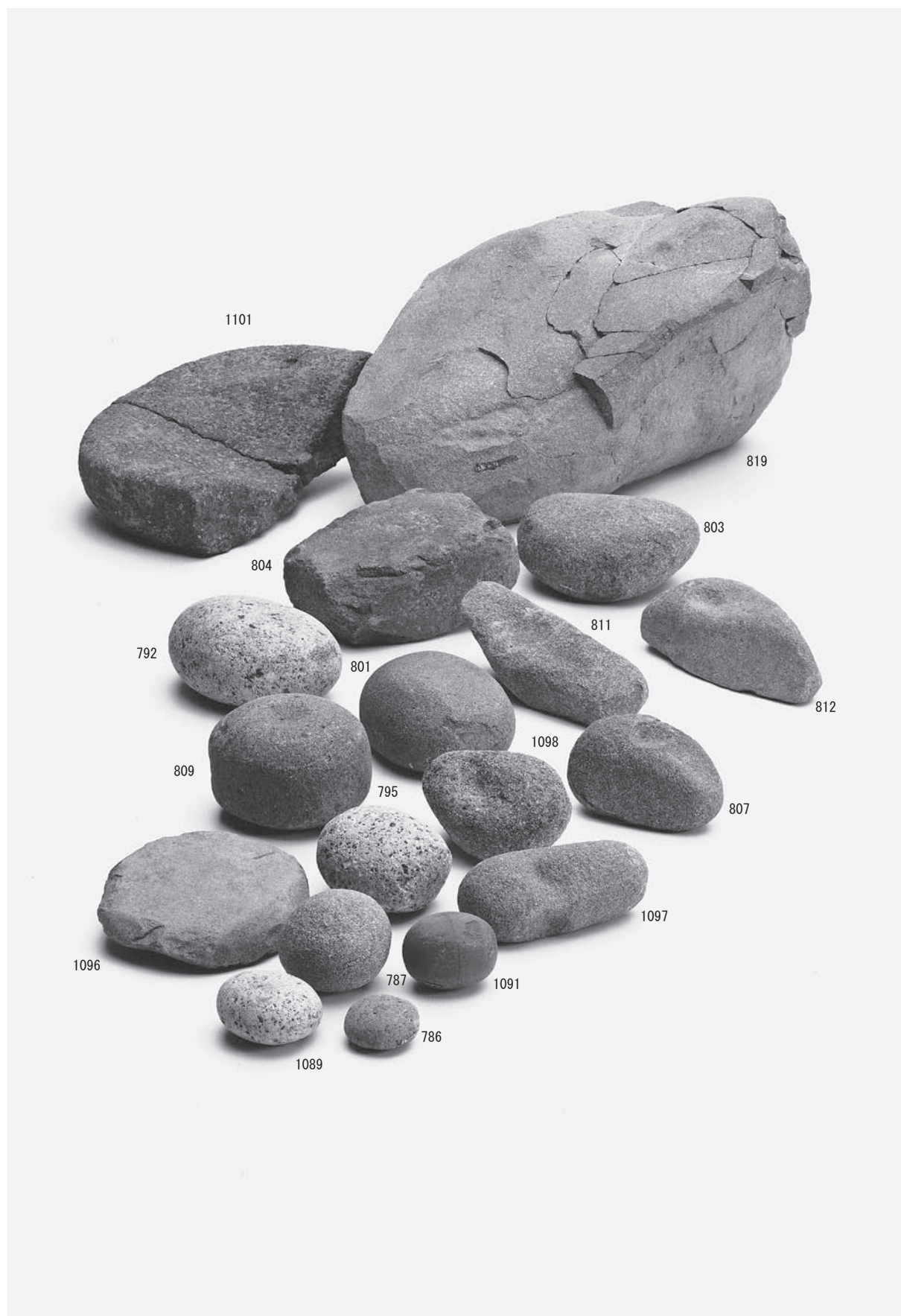
縄文時代早期・晩期石器（石鏃・異形石器）



縄文時代早期・晩期石器



縄文時代早期・晩期石器（石斧）



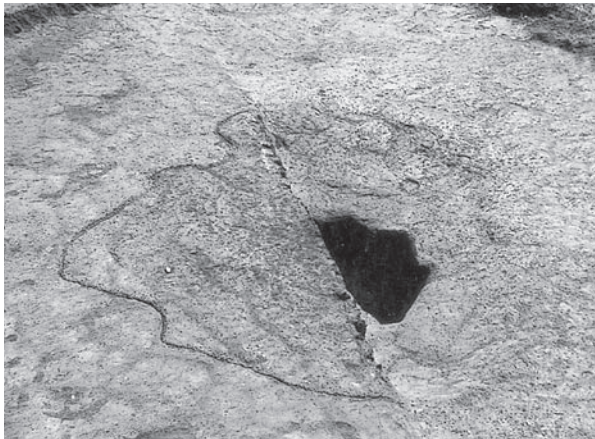
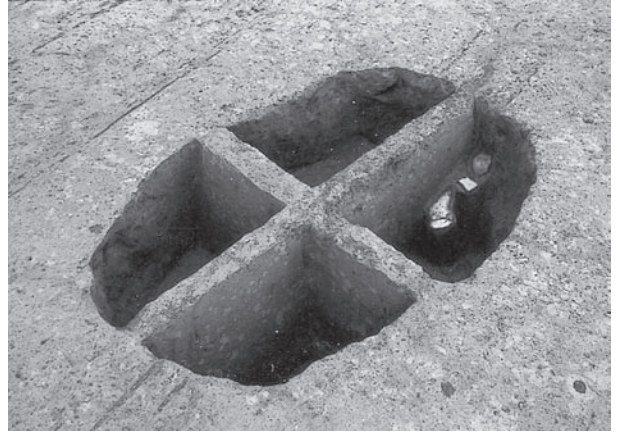
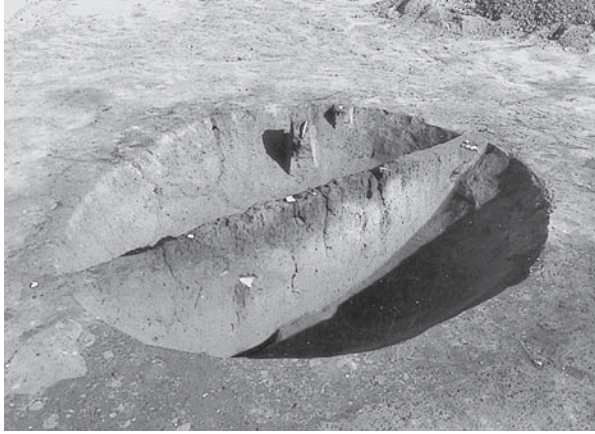
縄文時代早期・晚期石器（磨石・敲石・凹石・石皿）



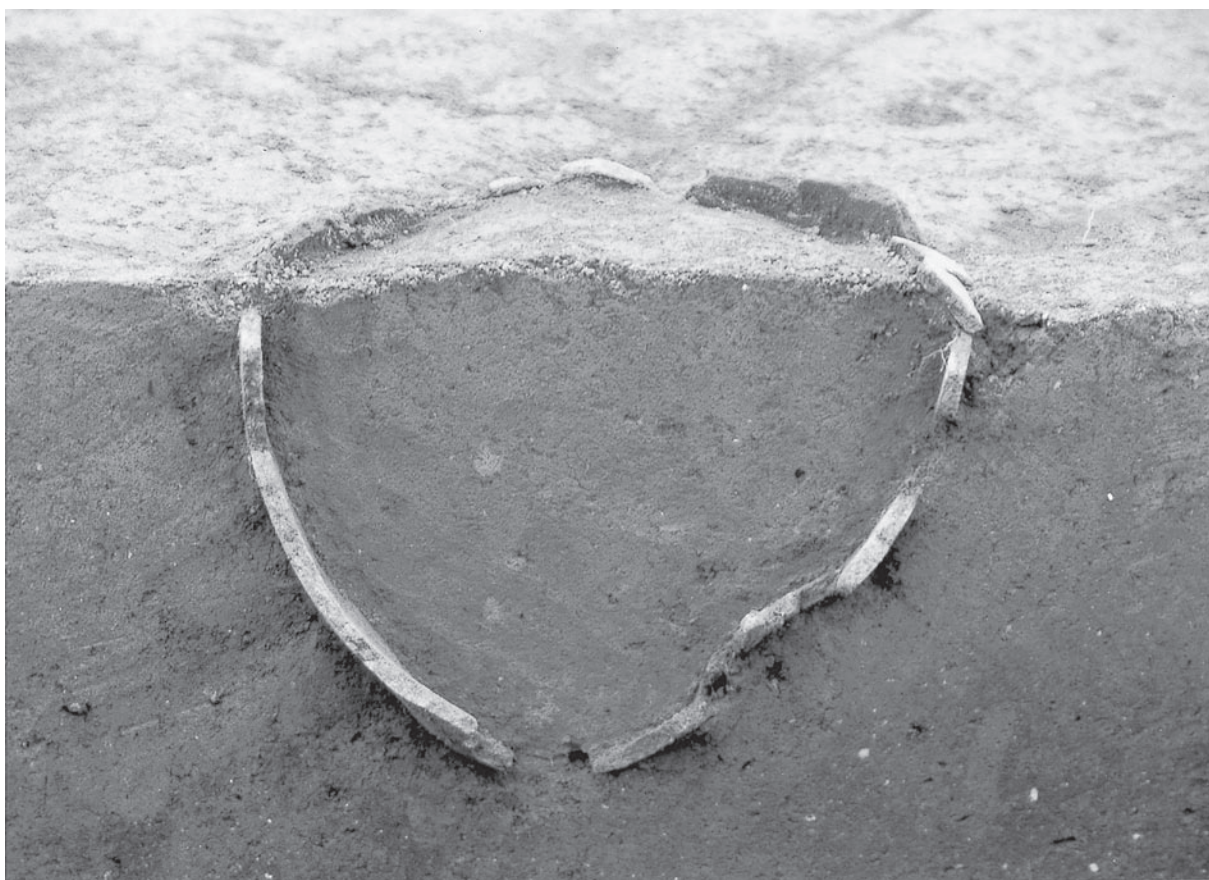
遺構検出状況（空撮）



① 1号集石 ② 縄文時代早期遺物出土状況



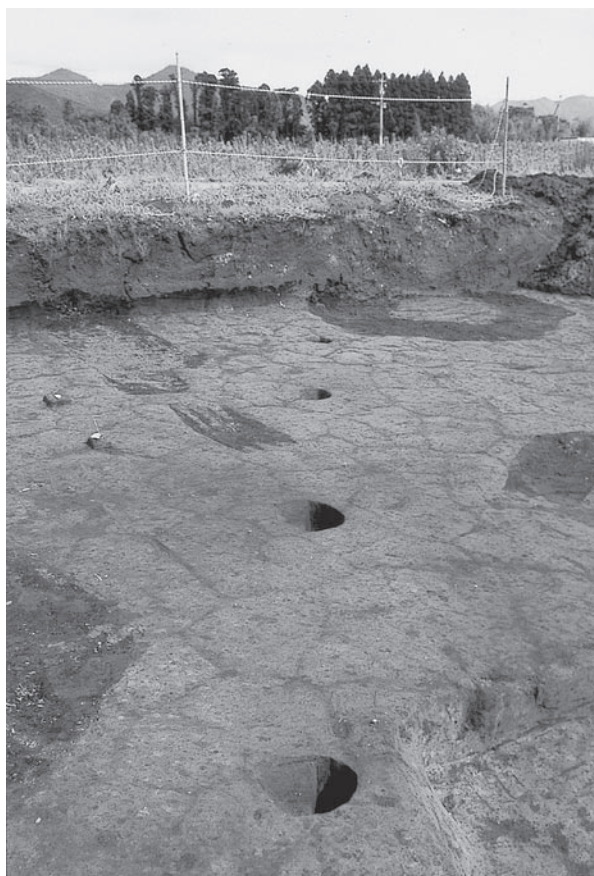
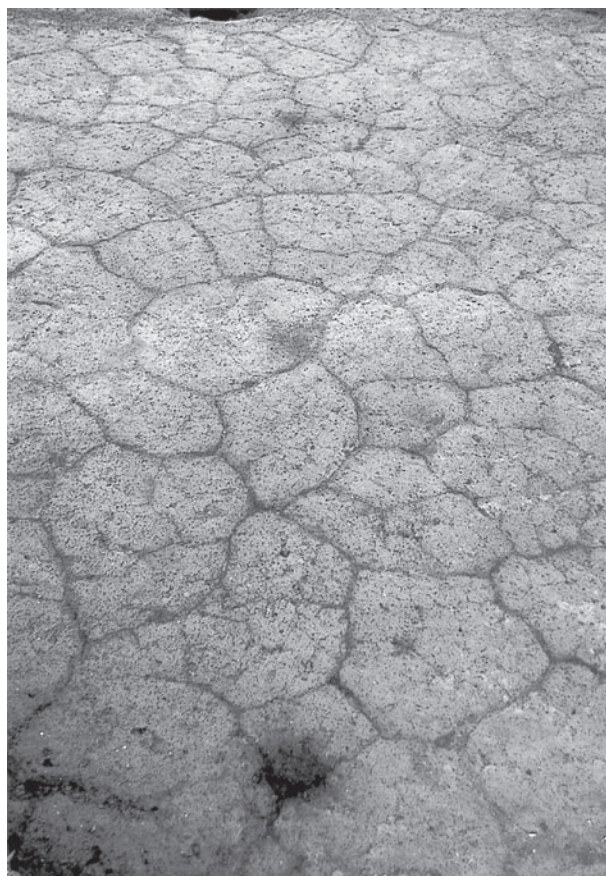
縄文時代晩期 土坑



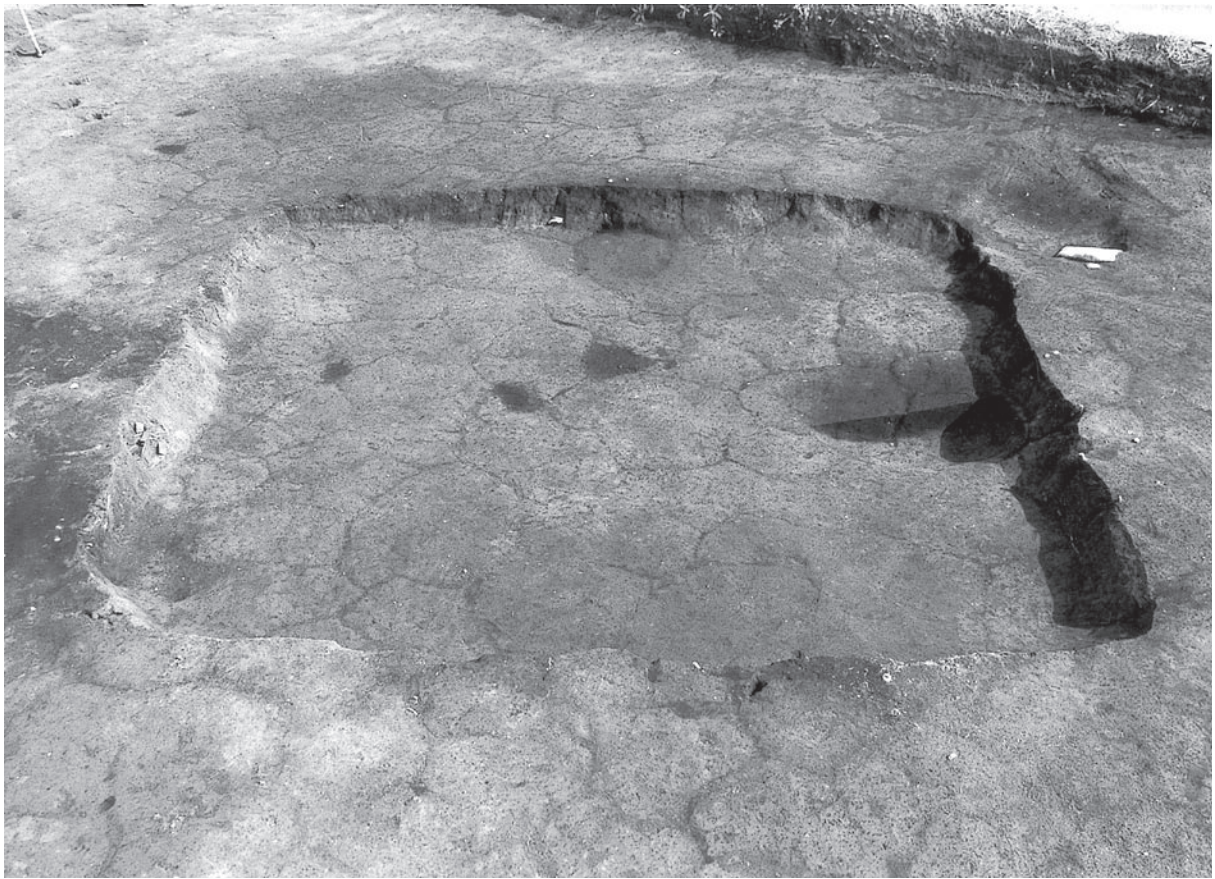
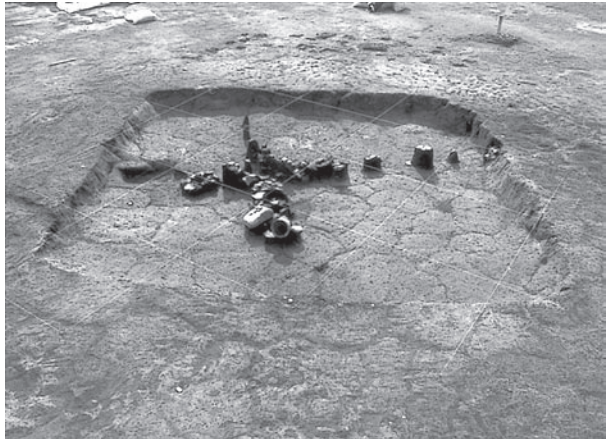
縄文時代晩期 埋設土器



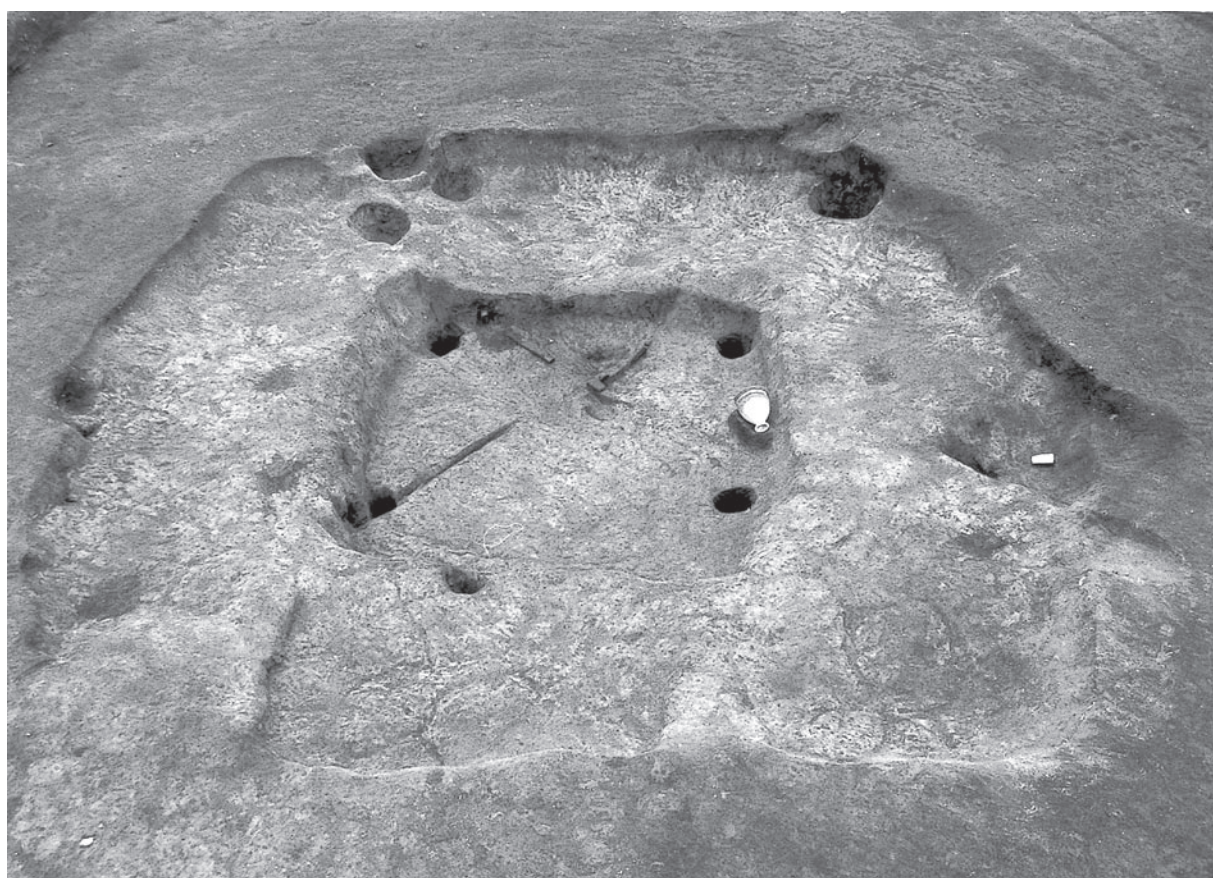
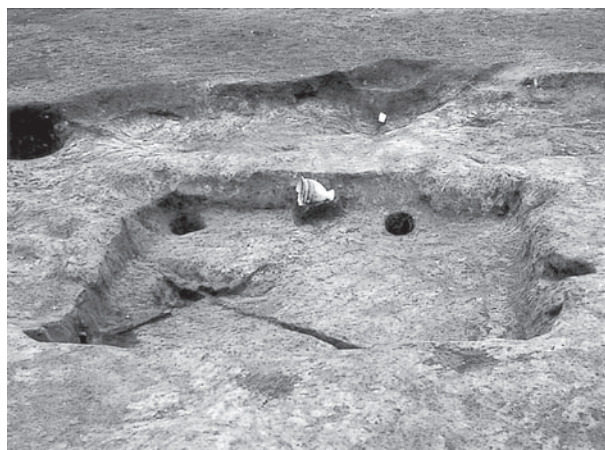
縄文時代晩期 掘立柱建物跡



縄文時代晩期 柱穴列



弥生時代 1号住居跡



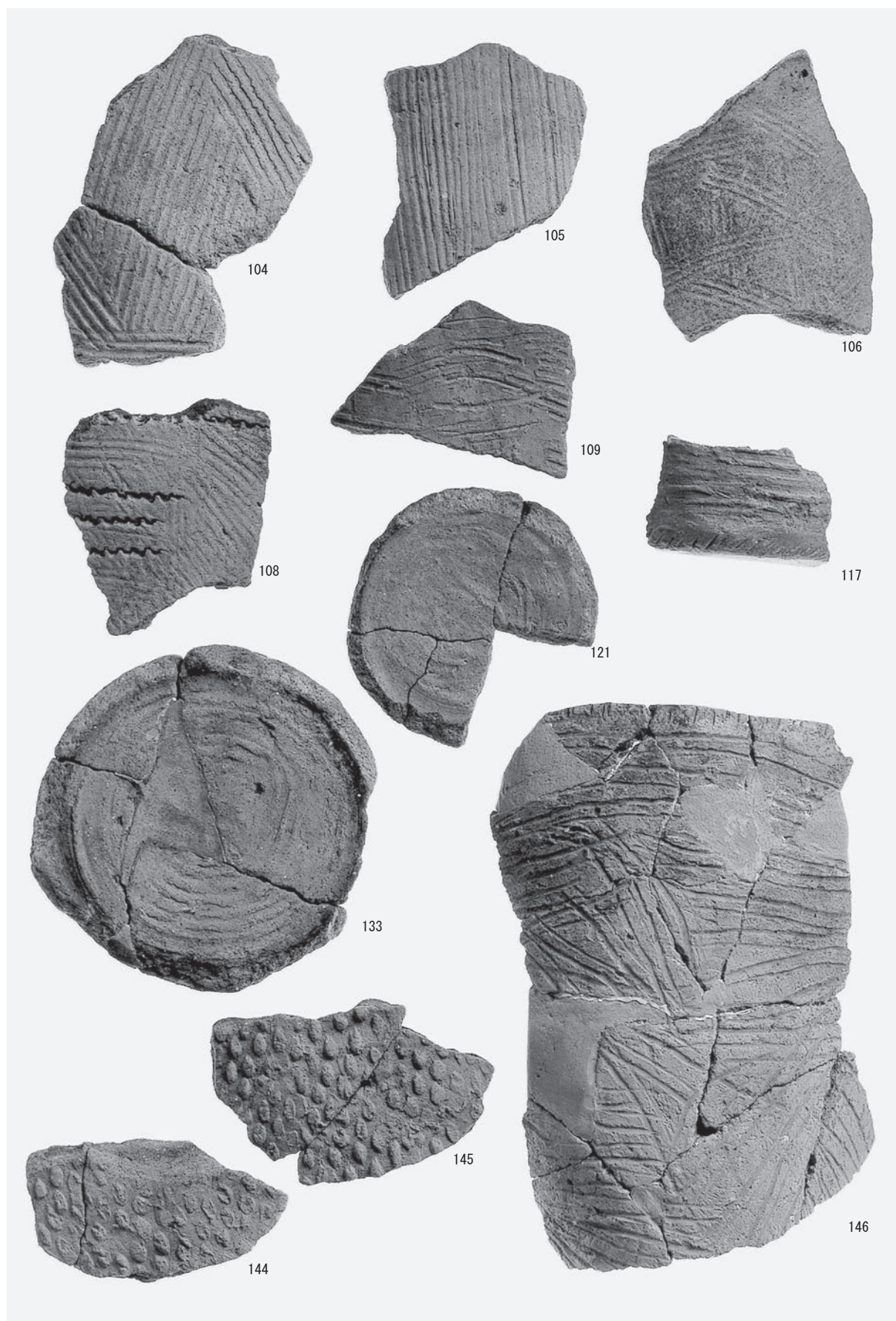
弥生時代 2号住居跡



中世 溝状遺構



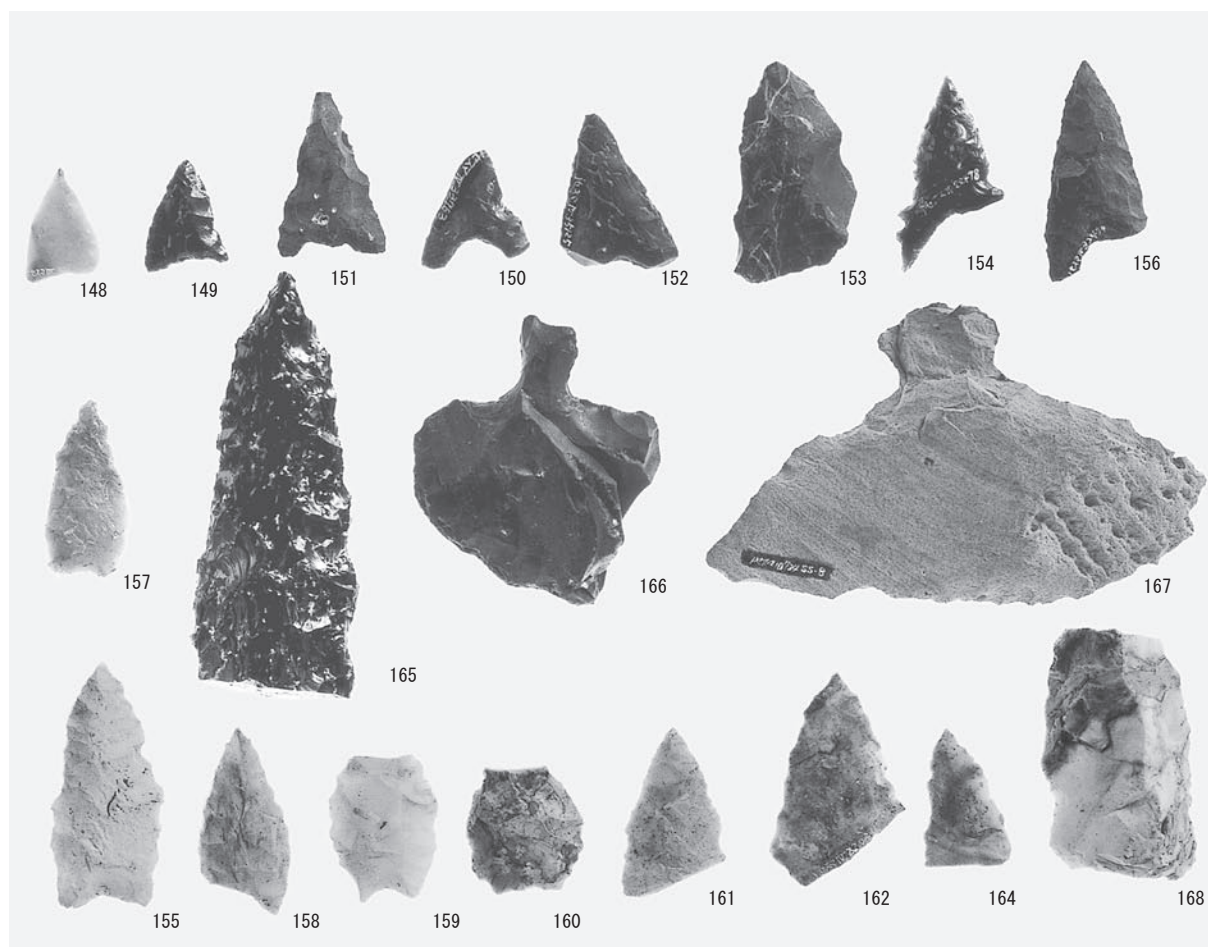
I・II・III・IV類土器



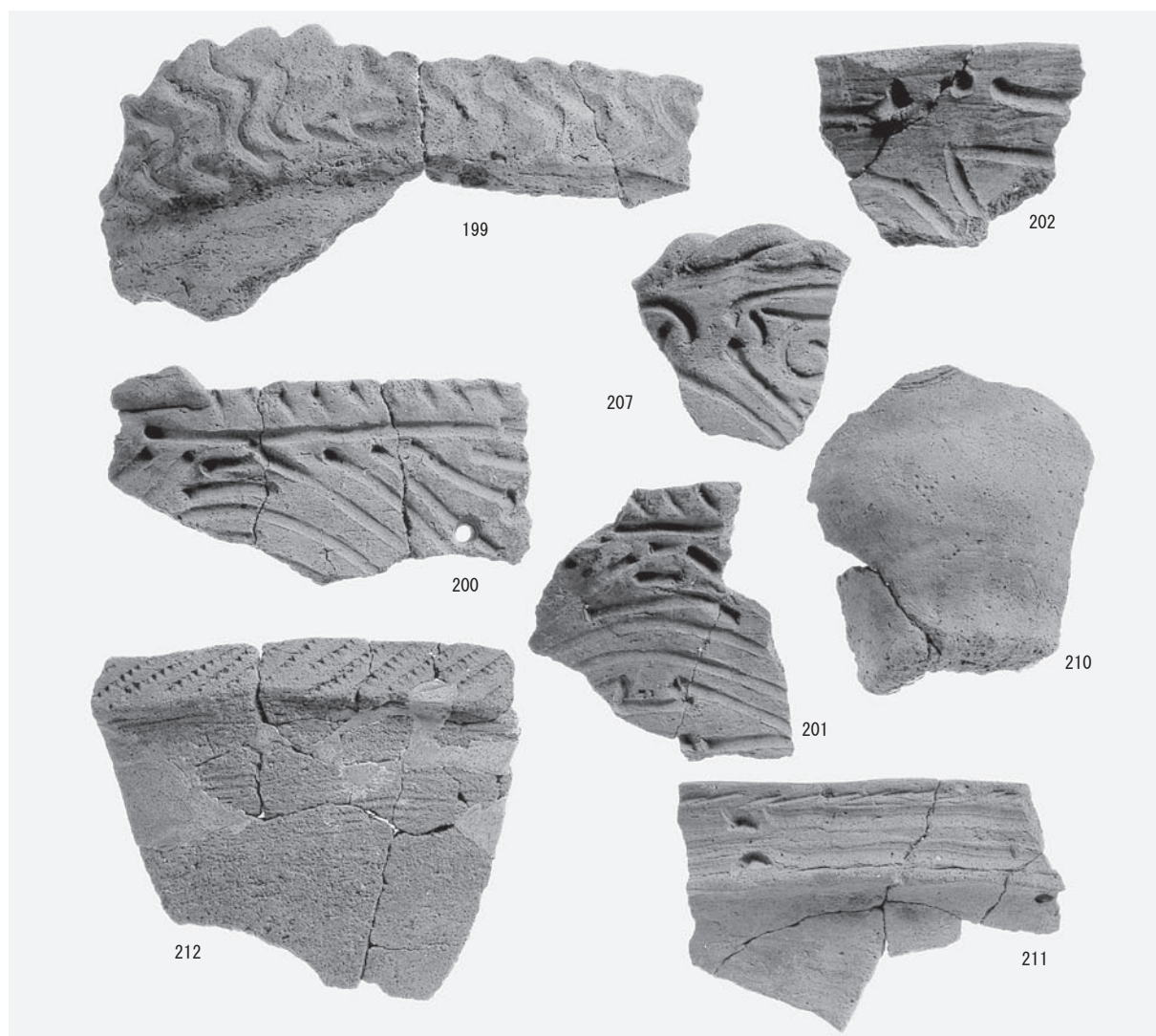
IV・V・VII・VIII類土器



Ⅳ・Ⅴ類土器



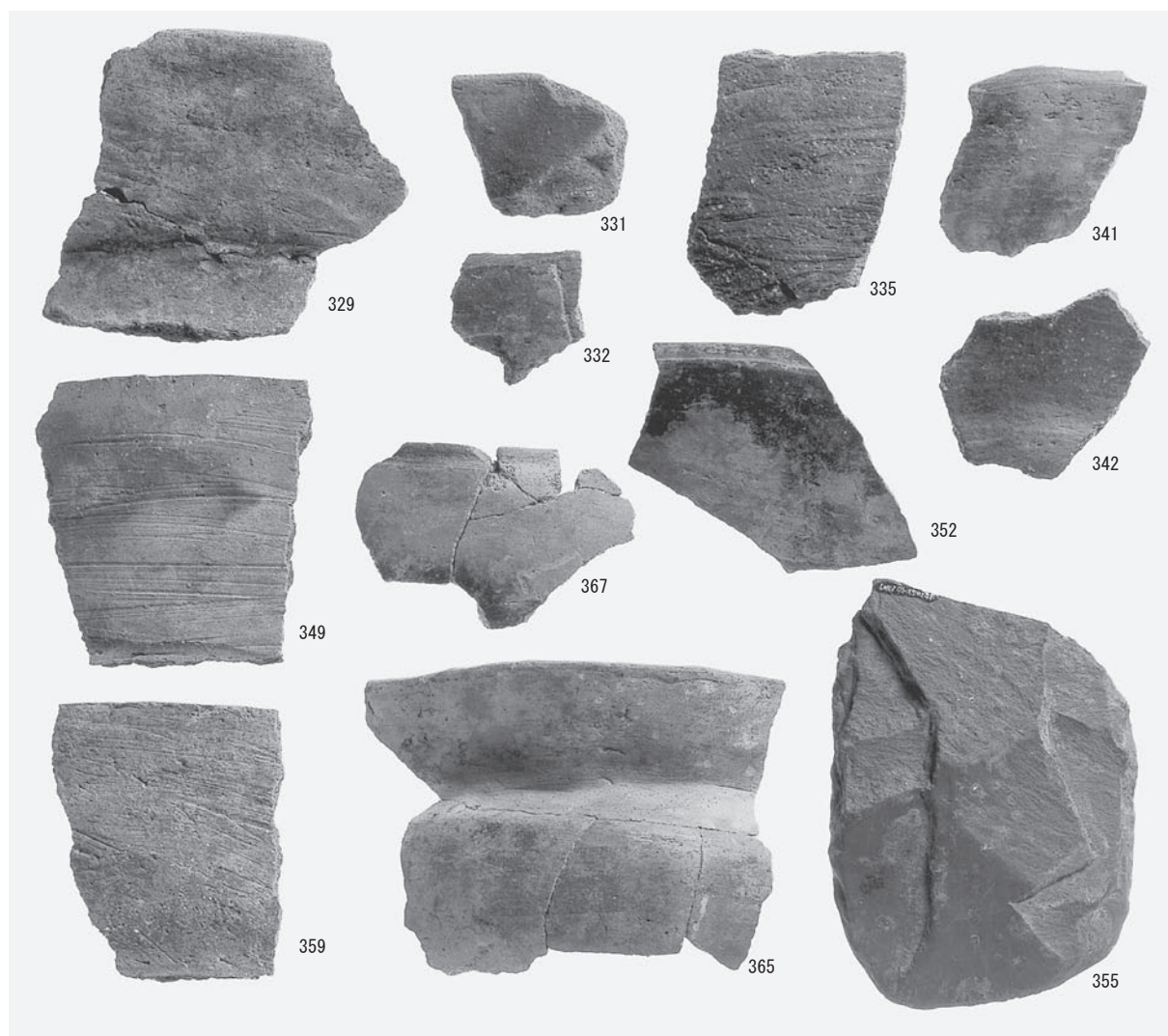
縄文時代早期石器



Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ・Ⅼ類土器



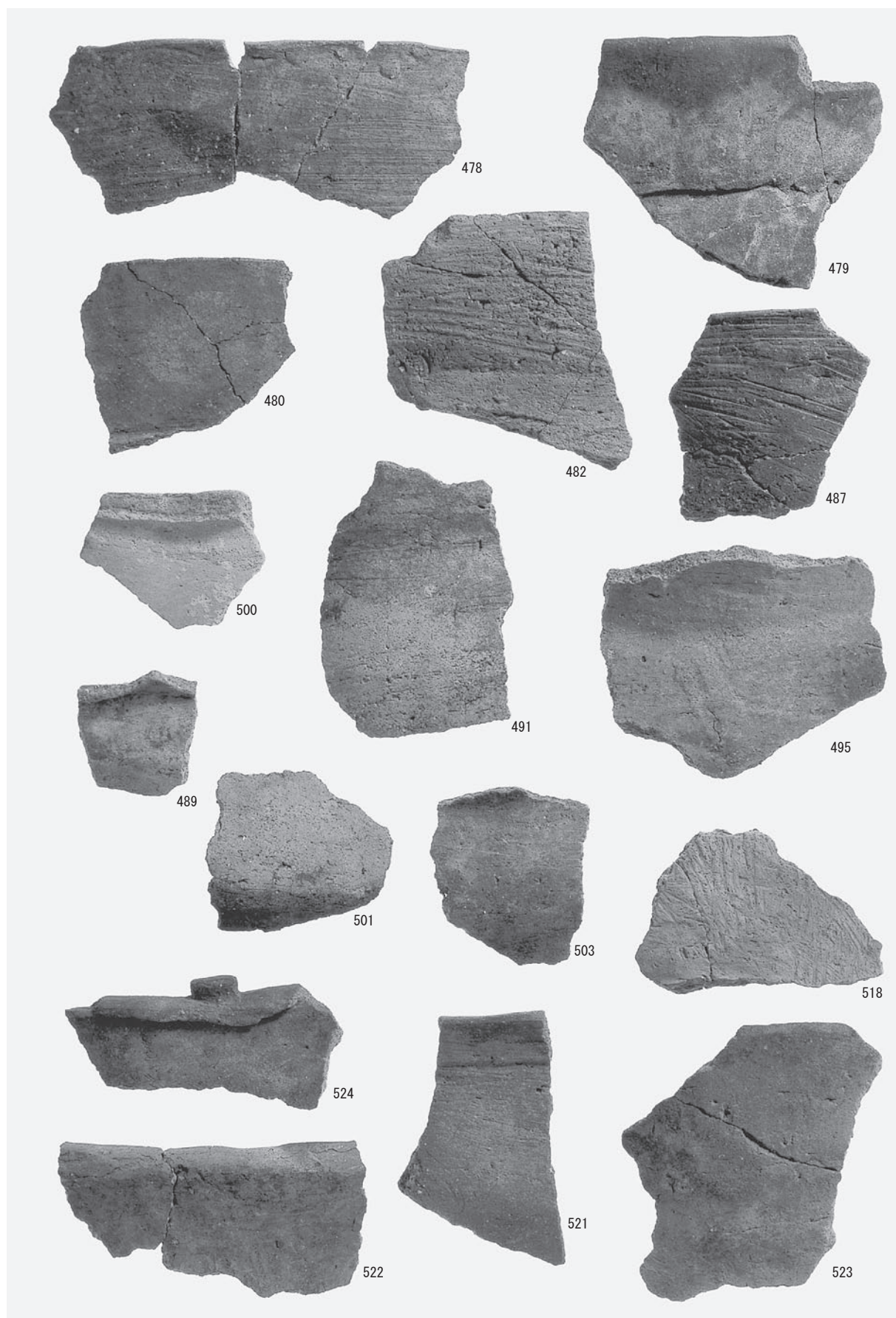
縄文時代晩期土坑出土遺物



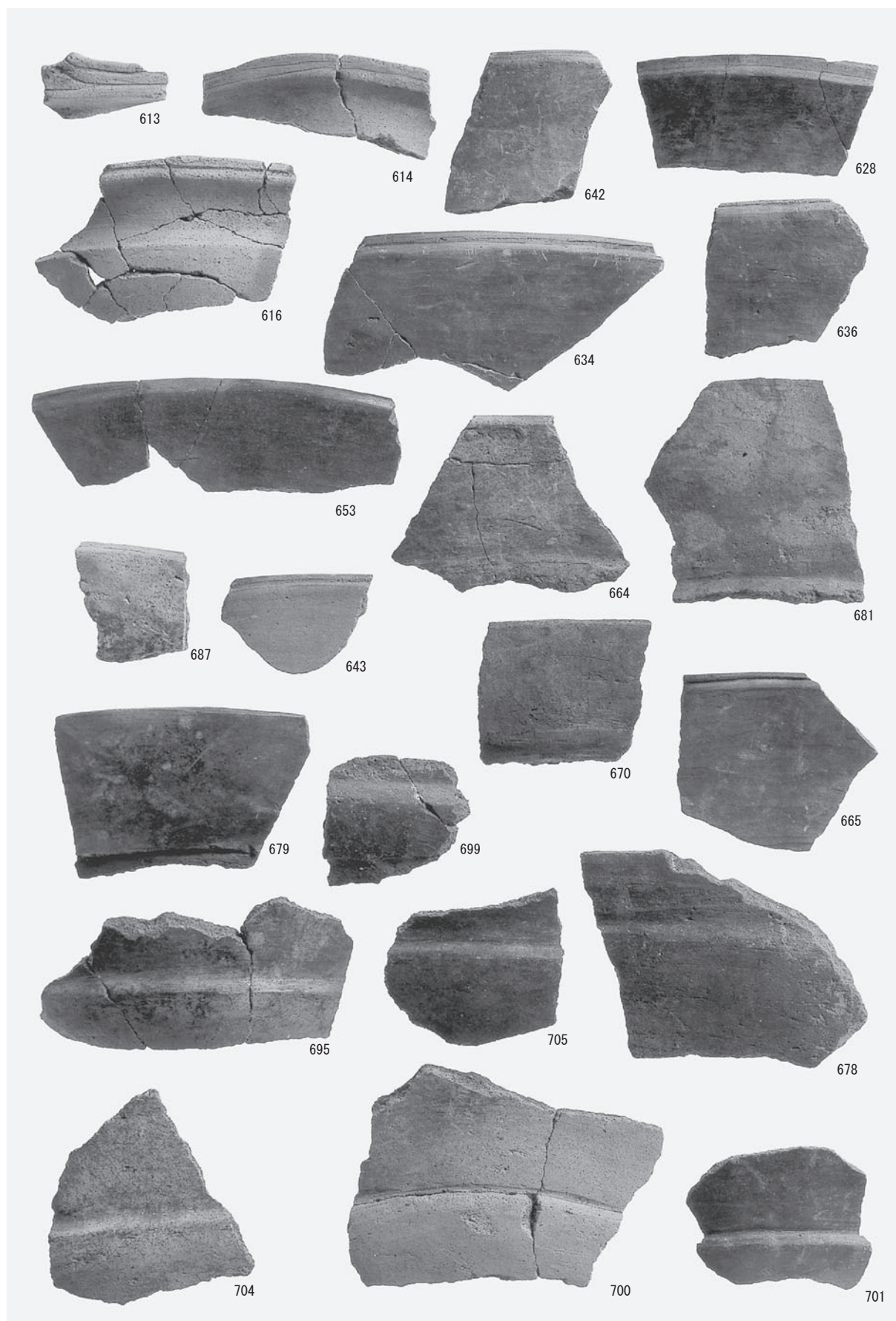
縄文時代晩期土坑出土遺物及び埋設土器



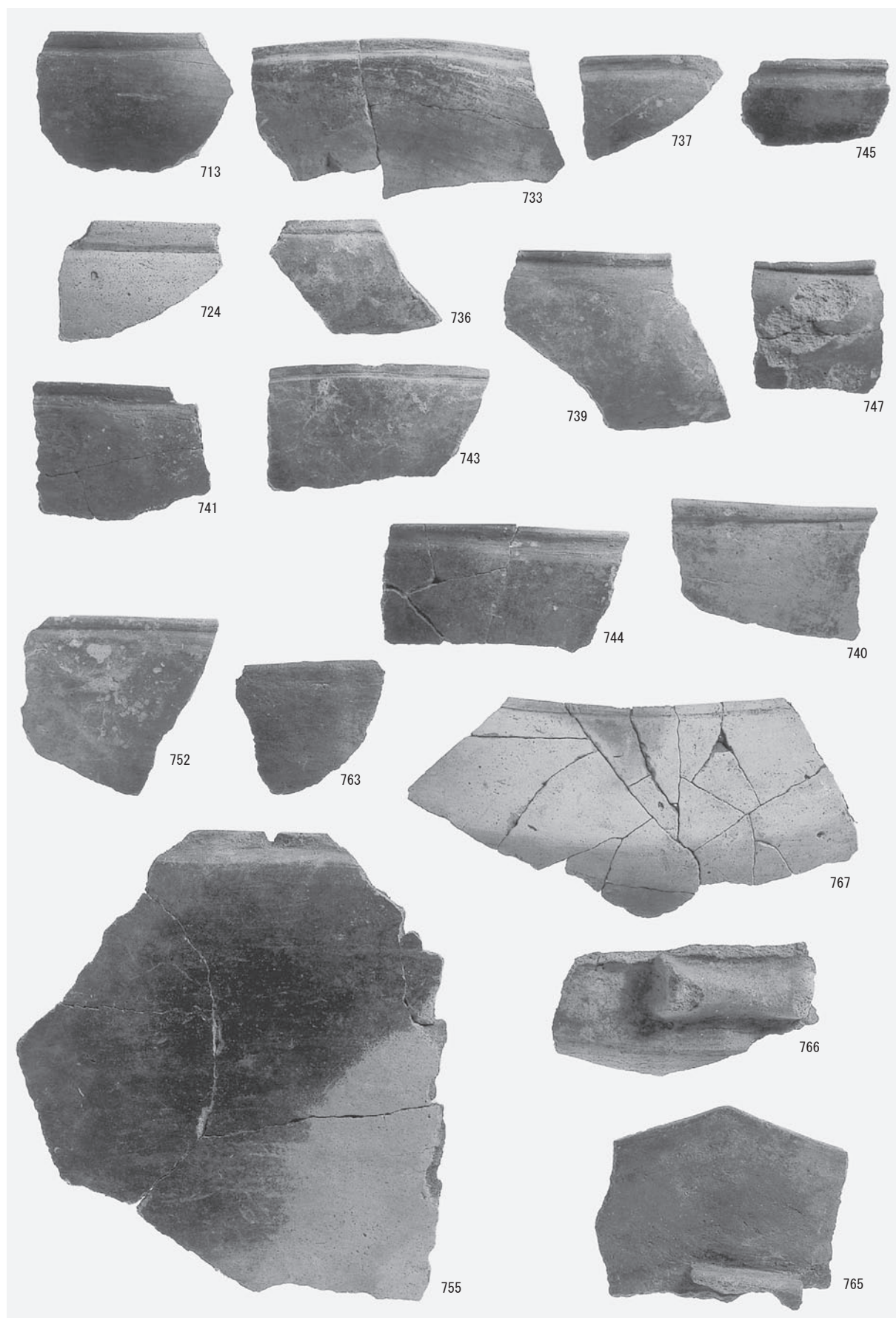
XIV類土器（深鉢形土器 1）



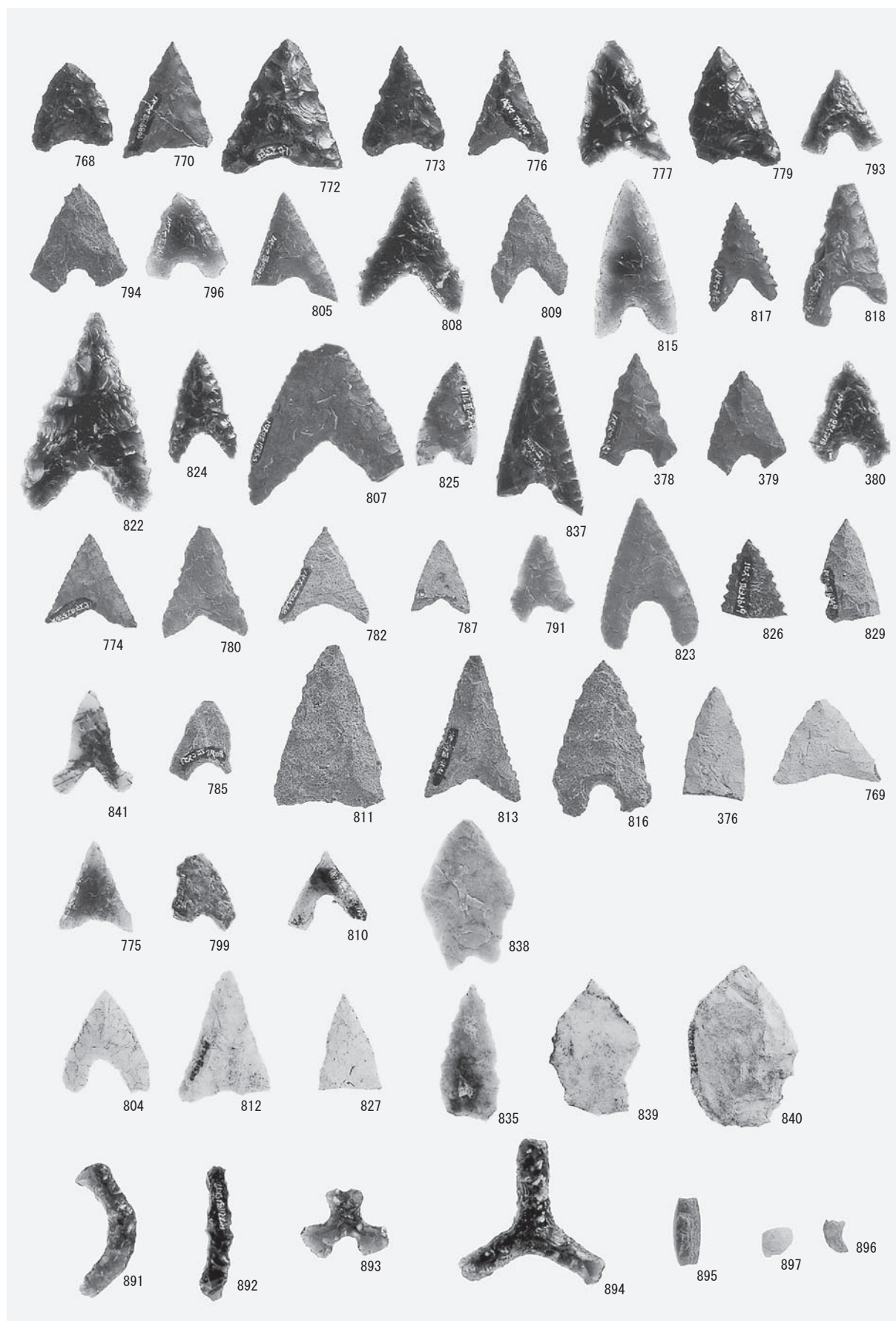
XIV類土器（深鉢形土器2）



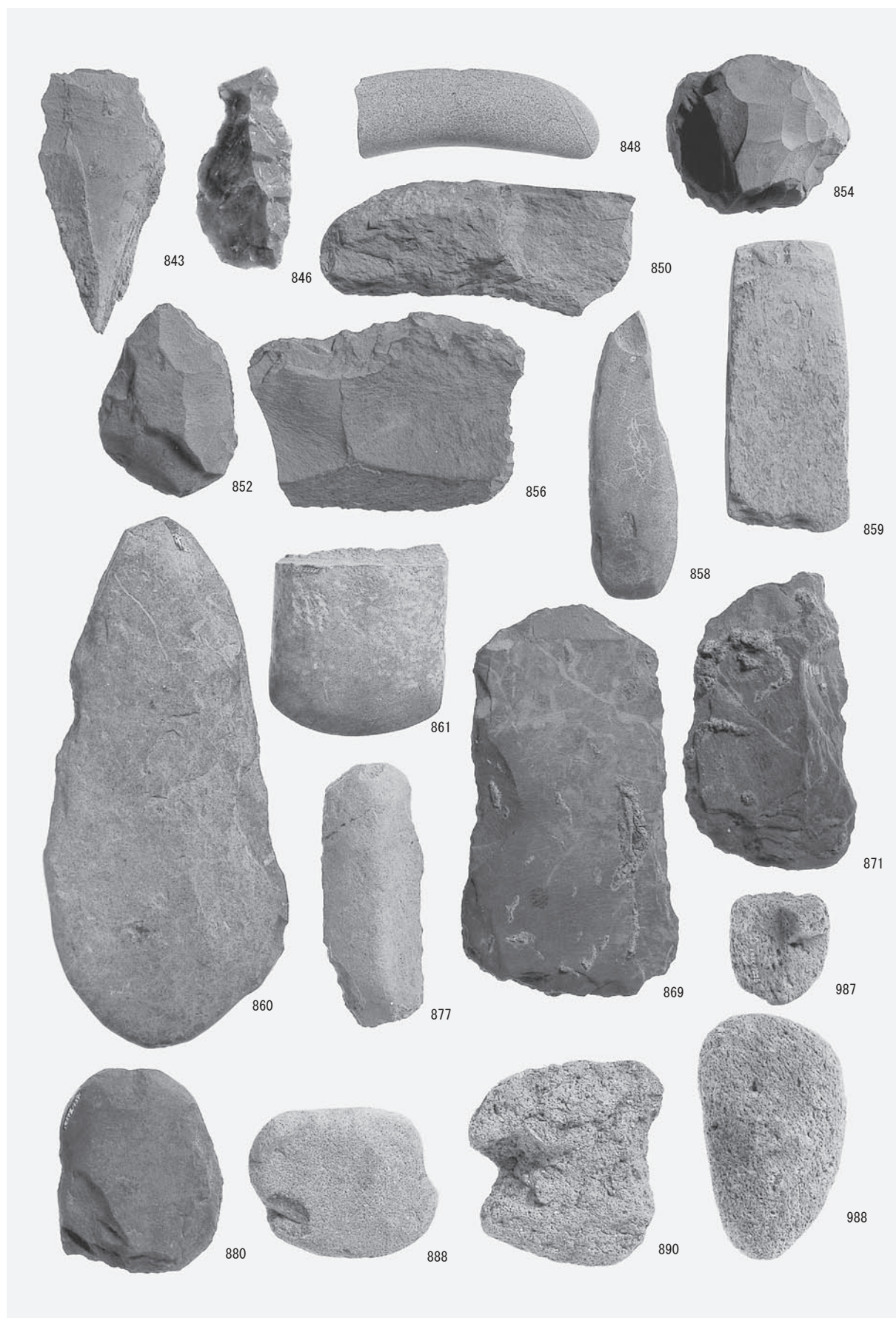
XIV類土器（浅鉢形土器 1）



XIV類土器（浅鉢形土器2）



縄文時代晩期石器 1



縄文時代晩期石器 2



縄文時代晩期石器 3



1号住居跡出土遺物



1号住居跡出土遺物



1・2号住居跡出土遺物及び包含層出土遺物

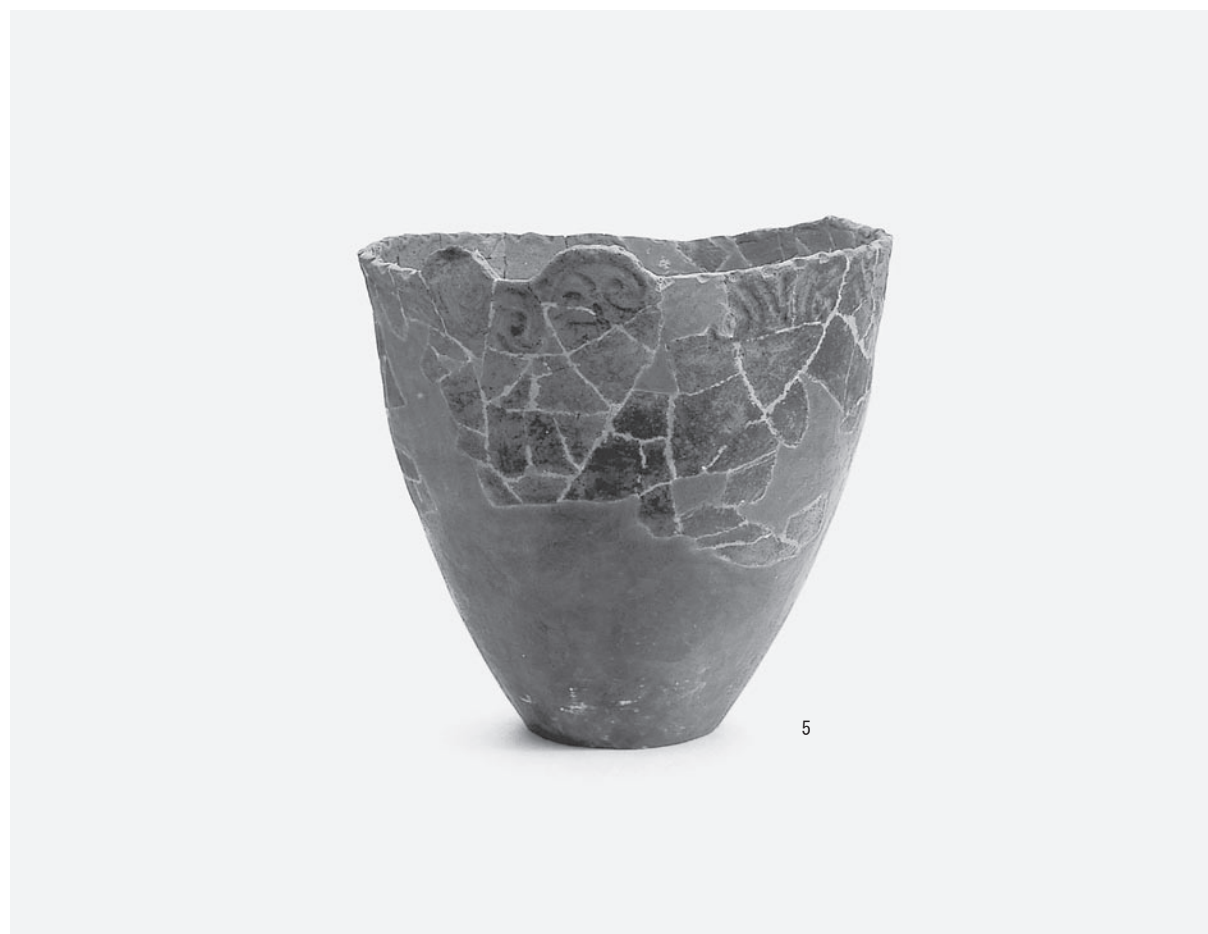


①土層断面 ②溝状遺構



①縄文時代後期土器出土状況

②埋設土器出土状況



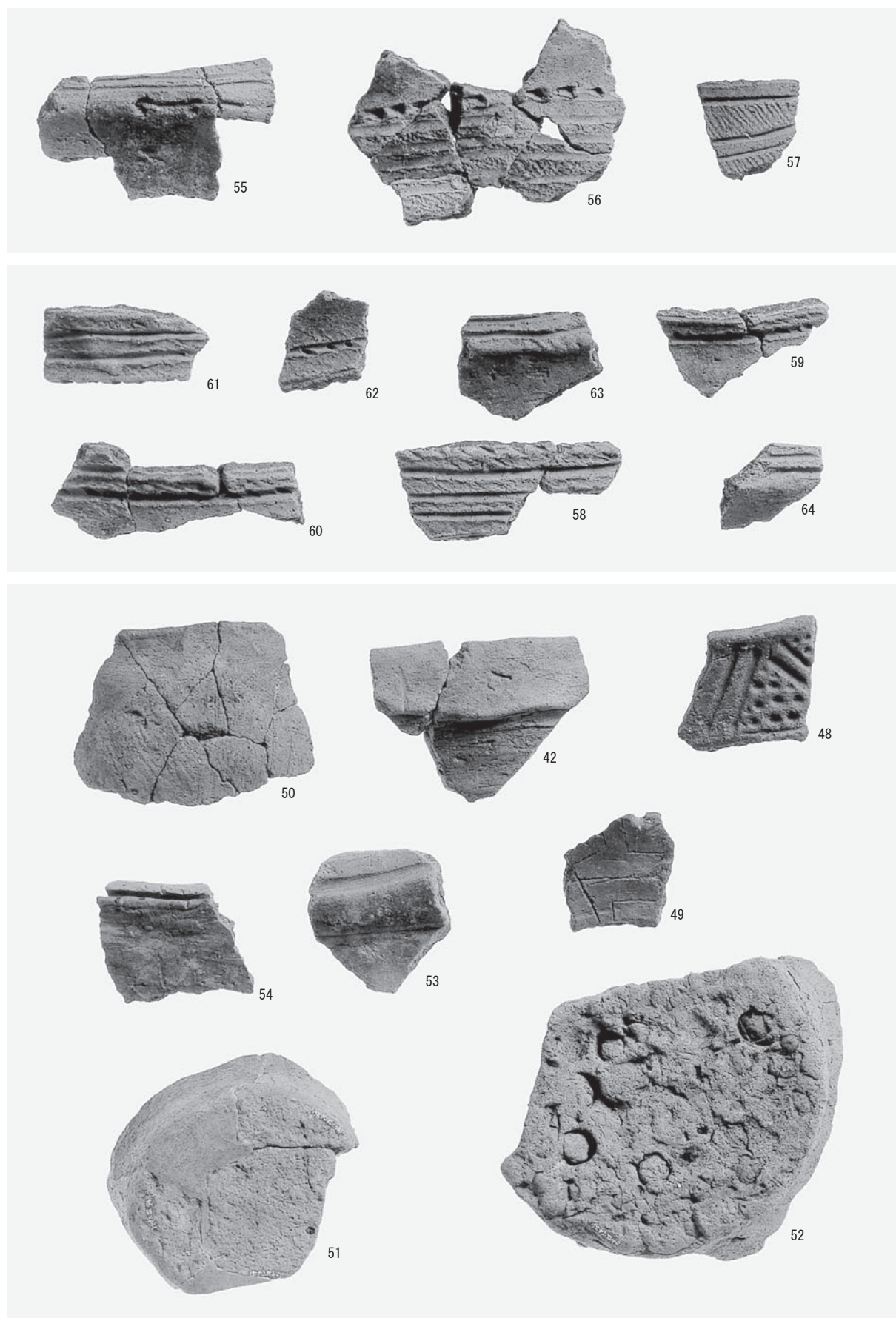
Ⅲ類土器



VI・VII類土器



Ⅶ類土器



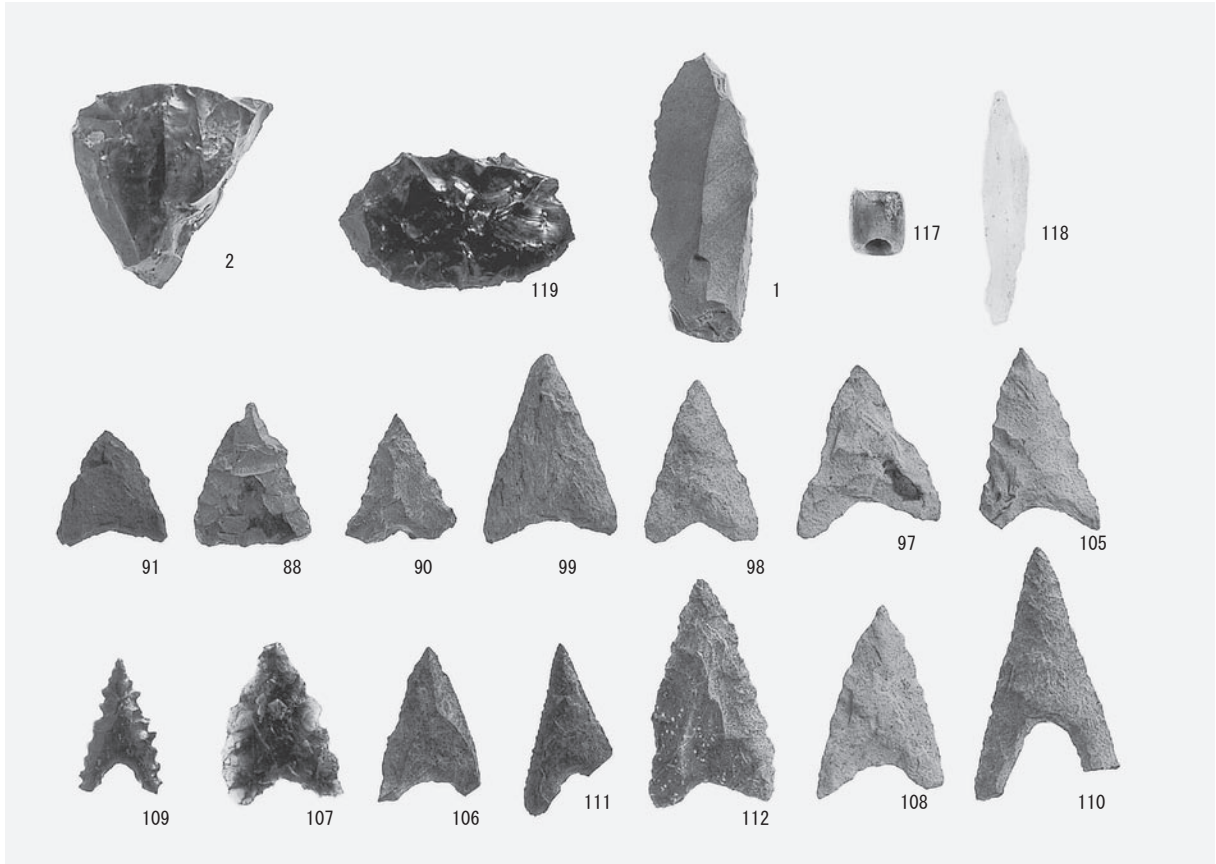
VII・VIII・IX・X類土器



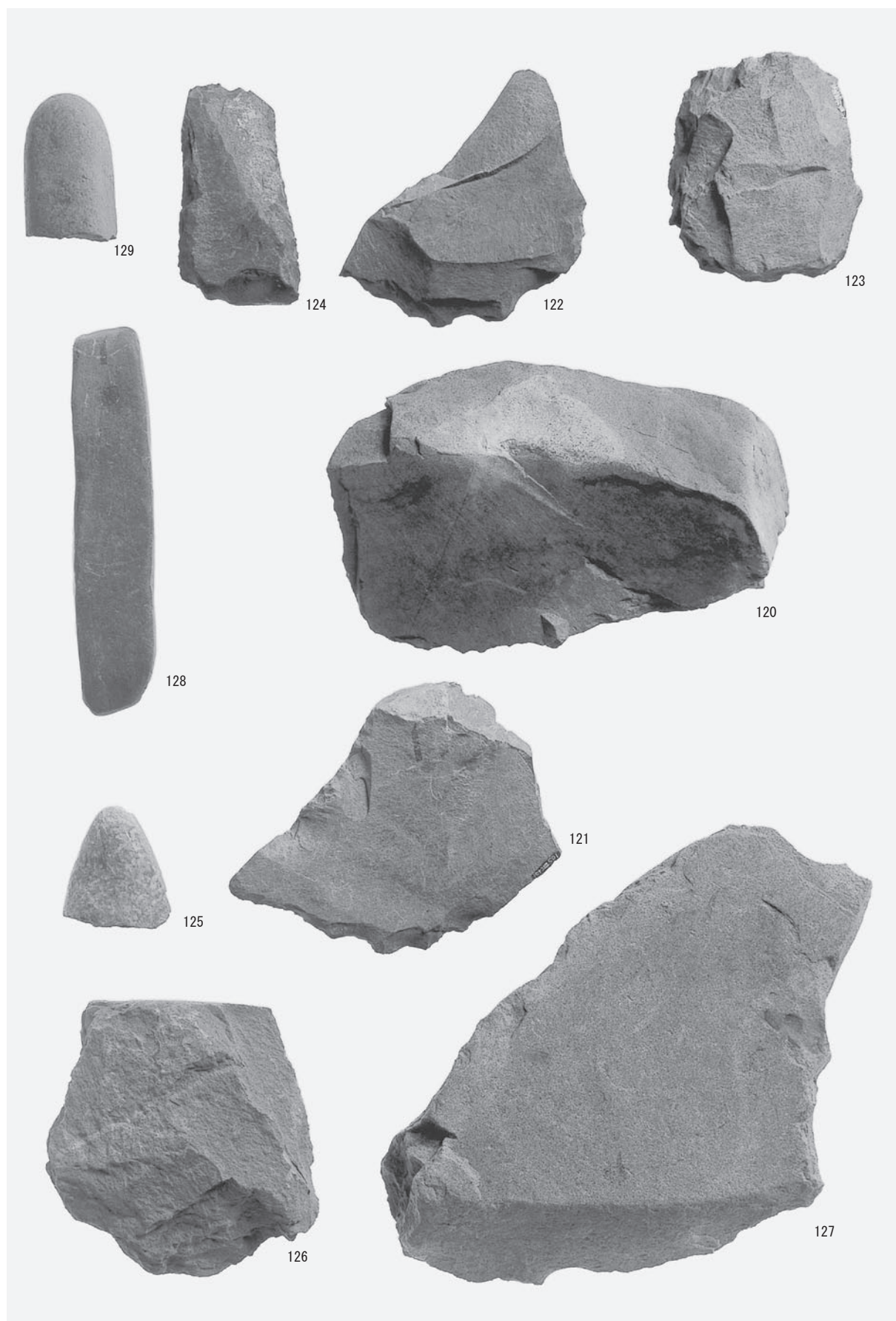
VII・XI 類土器



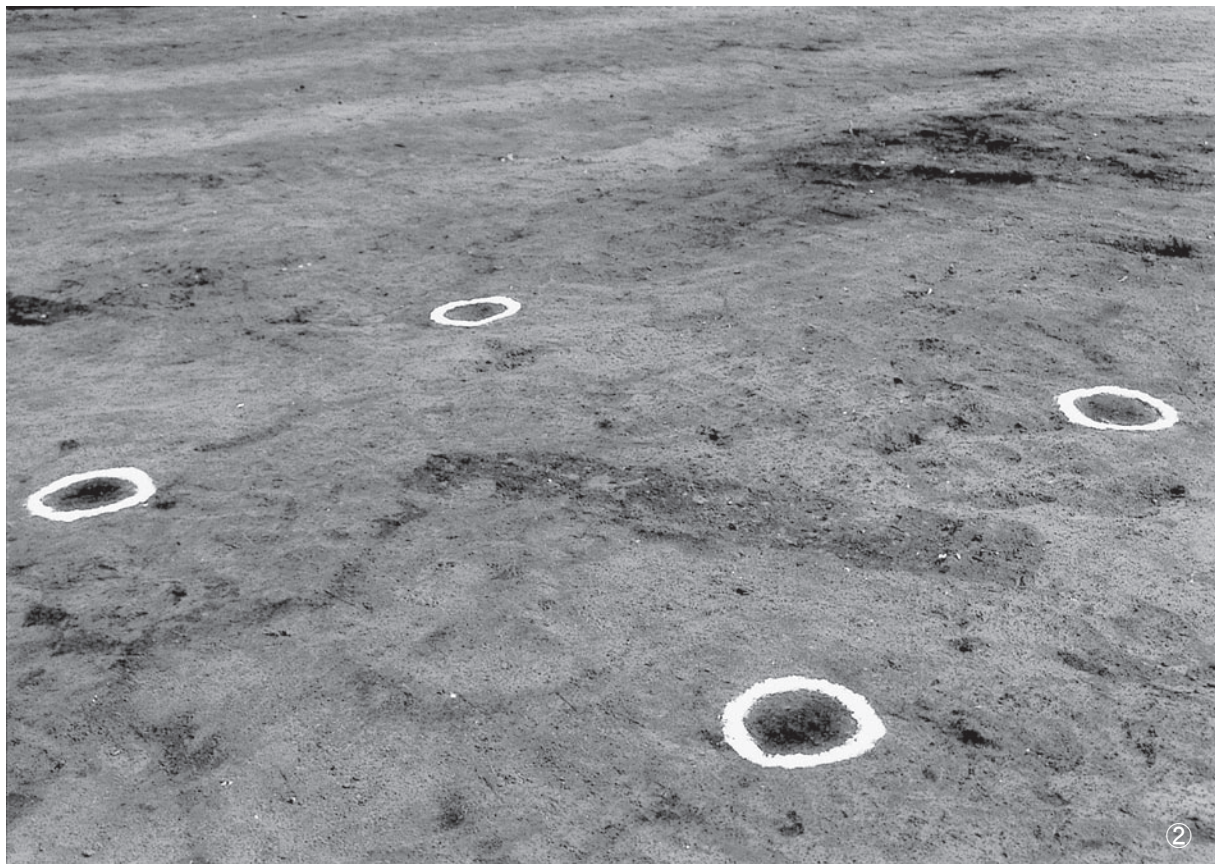
XI 類土器



旧石器，縄文時代石器



縄文時代石器



①土層断面 ②掘立柱建物跡



縄文時代出土遺物

あ と が き

農業開発総合センター建設にともなう発掘調査の報告書も、今年度で4冊目となりました。今年度は24遺跡の内、南さつま市金峰町に所在する諏訪牟田遺跡、諏訪前遺跡、南原内堀遺跡、加治屋堀遺跡の4遺跡の報告書刊行になりました。旧石器から古代・中世までの幅広い遺構・遺物を報告できたものと思います。

諏訪前遺跡の弥生時代終末期の龍「ドラゴン」を描いた土器の出土や諏訪牟田遺跡の古代・中世の集落、膨大な量の縄文時代早期・晩期の資料等手応えのある報告ができたものと思います。しかしながら、調査の成果を十分に把握しての報告ができなかったのではないかと危惧しております。

この報告書が、郷土の歴史を解明する一助を為すことが出来れば幸いです。

発掘調査に携わっていただいた南さつま市（旧加世田市・旧金峰町）、日置市（旧吹上町、日吉町）の多くの皆様、霧島市上野原遺跡にある埋蔵文化財センターにおいて、報告書刊行のために整理作業に携わっていただいた皆様に深く感謝し御礼申し上げます。

最後に、発掘調査及び整理作業において以下の方々に御指導を賜りました。末尾ではありますが御礼申し上げます。

上村俊雄（鹿児島大学教授（現国際大学教授））、河口貞徳（鹿児島県考古学会長）、清田純一（熊本県城南町教育委員会）、設楽博己（国立歴史民俗博物館助教授）、土田充吉（鹿児島大学教授）、中村明蔵（鹿児島経済大学（現国際大学）教授）、永山修一（ラ・サール学園教諭）、成尾英仁（鹿児島県立博物館学芸主事（現県立武岡台高校教諭））本田道輝（鹿児島大学助教授）、三木靖（鹿児島短期大学学長）

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（112）
農業開発総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ

農業開発総合センター遺跡群Ⅳ

すわむた 諏訪牟田遺跡	すわまえ 諏訪前遺跡
なんばらうらぼり 南原内堀遺跡	かじやぼり 加治屋堀遺跡

発行日 平成19年3月31日

発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL（0995）48-5811

印刷所 濱島印刷株式会社
〒890-0052
鹿児島県鹿児島市上之園町17-2
TEL（099）255-6121